別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項		記　入　欄							備　考
計　画　の　区　分		学部の設置							
フ　リ　ガ　ナ 設　置　者		ガッコウホウジン　リュウコクダイガク 学校法人　龍谷大学							
フ　リ　ガ　ナ 大　学　の　名　称		リュウコクダイガク 龍谷大学（Ryukoku University）							
大　学　本　部　の　位　置		京都府京都市伏見区深草塚本町67番地							
大　学　の　目　的		本学は教育基本法及び学校教育法にしたがい、浄土真宗の精神に基づく大学として、広く知識を授けるとともに、深く専門の諸学科を教授研究し、併せて有為の人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の目的		建学の精神に基づいて、情報技術と人、社会、自然との調和を重視し、幅広い教養と情報学の基礎知識・技能を修得することで、実践的な専門家として情報社会の発展に寄与し、新しい社会の創造にも積極的に携わる情報技術者を育成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次 人	人				
	情報学部 （Faculty of Informatics） 情報学科 （Department of Informatics）	4	130	3年次 3	526	学士（情報学） （Bachelor of Informatics）	工学関係	令和9年4月第1年次 令和11年4月第3年次	滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5 京都市伏見区深草塚本町67番地 京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1
	計		130	3年次 3	526				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）	○龍谷大学 ・先端理工学部 令和9年4月名称変更予定 先端理工学部→理工学部（令和8年4月届出済み） 数理・情報科学課程　〔定員減〕　(△17)　（令和9年4月） （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△1)　（令和9年4月） 知能情報メディア課程　（廃止）　(△103)　（令和7年4月報告済み） （3年次編入学定員）　(△2) ※令和9年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和11年4月学生募集停止） 電子情報通信課程　〔定員減〕　(△3)　（令和9年4月） （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△1)　（令和9年4月） 機械工学・ロボティクス課程　〔定員減〕　(△4)　（令和9年4月） （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△1)　（令和9年4月） 応用化学課程　〔定員減〕　(△3)　（令和9年4月） （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△1)　（令和9年4月） 環境科学課程　（廃止）　(△88)　（令和7年4月報告済み） （3年次編入学定員）　(△2) ※令和9年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和11年4月学生募集停止） ・環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科　(130)　（令和8年4月届出） （3年次編入学定員）　(2) ・文学部 真宗学科　（廃止）　(△145)　（令和7年12月報告済み） （3年次編入学定員）　(△6) ※令和9年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和11年4月学生募集停止） 仏教学科　〔定員増〕　(92)　（令和9年4月） （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△2)　（令和9年4月） 哲学科 （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△2)　（令和9年4月） 歴史学科　〔定員増〕　(35)　（令和9年4月） （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△5)　（令和9年4月） 日本語日本文学科 （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△1)　（令和9年4月） 英語英米文学科 （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△1)　（令和9年4月）								

同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）	・経済学部 令和9年4月名称変更予定 現代経済学科→経済学科（令和8年4月届出済み） 経済学科　〔定員増〕　(243)　（令和9年4月） （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△1)　（令和9年4月） 国際経済学科　(廃止)　(△240) （3年次編入学定員）　(△5) ※令和9年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和11年4月学生募集停止） ・経営学部 商学科　〔定員増〕　(19)　（令和9年4月） ・政策学部 政策学科　〔定員増〕　(1)　（令和9年4月） （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△2)　（令和9年4月） ・国際学部 国際文化学科 （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△5)　（令和9年4月） グローバルスタディーズ学科 （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△7)　（令和9年4月） ・農学部 生命科学科 （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△7)　（令和9年4月） 農学科　〔定員減〕　(△10)　（令和9年4月） （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△8)　（令和9年4月） 食品栄養学科 （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△3)　（令和9年4月） 食料農業システム学科　〔定員減〕　(△4)　（令和9年4月） （3年次編入学定員）　〔定員減〕　(△8)　（令和9年4月）

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	情報学部 情報学科	309科目	21科目	10科目	340科目	124単位

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新	情報学部　情報学科	人 8 （6）	人 4 （4）	人 5 （5）	人 1 （1）	人 18 （16）	人 0 0	人 235 （125）	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 （4）	4 （4）	5 （5）	1 （1）	16 （14）			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）			
	小計（a～b）	6 （4）	4 （4）	5 （5）	1 （1）	16 （14）			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	2 （2）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	2 （2）			
	計（a～d）	8 （6）	4 （4）	5 （5）	1 （1）	18 （16）			
設	環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科	9 （9）	5 （5）	4 （4）	0 （0）	18 （18）	0 （0）	245 （131）	令和8年4月届出済み
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 （8）	5 （5）	4 （4）	0 （0）	17 （17）			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）			
	小計（a～b）	8 （8）	5 （5）	4 （4）	0 （0）	17 （17）			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	1 （1）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	1 （1）			
	計（a～d）	9 （9）	5 （5）	4 （4）	0 （0）	18 （18）			
分	計	17 （15）	9 （9）	9 （9）	1 （1）	36 （34）	0 0	－ （－）	

既	文学部　仏教学科	8 (12)	5 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (16)	0 (0)	492 (492)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (12)	5 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (16)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	8 (12)	5 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (16)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	8 (12)	5 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (16)			
	文学部　哲学科	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	453 (453)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
設	文学部　歴史学科	9 (11)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (22)	0 (0)	475 (475)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (11)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (22)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　10人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	9 (11)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (22)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	9 (11)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (22)			
	文学部　日本語日本文学科	4 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (10)	0 (0)	466 (466)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	4 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
分	計（a ～ d）	4 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (10)			

既	文学部　英語英米文学科	7 (8)	1 (1)	2 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	448 (448)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (8)	1 (1)	2 (1)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	7 (8)	1 (1)	2 (1)	0 (0)	10 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	7 (8)	1 (1)	2 (1)	0 (0)	10 (10)			
	経済学部　経済学科※	26 (30)	18 (16)	7 (5)	0 (0)	51 (51)	0 (0)	540 (540)	※令和8年4月名称変更届出
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	26 (30)	18 (16)	7 (5)	0 (0)	51 (51)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　21人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	26 (30)	18 (16)	7 (5)	0 (0)	51 (51)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	26 (30)	18 (16)	7 (5)	0 (0)	51 (51)			
設	経営学部　経営学科	20 (20)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	517 (517)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	20 (20)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	27 (27)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　13人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	20 (20)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	27 (27)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	20 (20)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	27 (27)			
	経営学部　商学科	9 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	533 (533)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	9 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
分	計（a ～ d）	9 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			

既	法学部　法律学科	29 (35)	15 (11)	3 (3)	0 (0)	47 (49)	0 (0)	546 (546)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	29 (35)	15 (11)	3 (3)	0 (0)	47 (49)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 17人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	29 (35)	15 (11)	3 (3)	0 (0)	47 (49)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	29 (35)	15 (11)	3 (3)	0 (0)	47 (49)			
	社会学部　総合社会学科	24 (29)	11 (11)	5 (4)	0 (0)	40 (44)	0 (0)	461 (462)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	23 (27)	11 (11)	5 (4)	0 (0)	39 (42)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 17人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2)			
	小計（a ～ b）	24 (29)	11 (11)	5 (4)	0 (0)	40 (44)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	24 (29)	11 (11)	5 (4)	0 (0)	40 (44)			
設	政策学部　政策学科	15 (18)	12 (9)	1 (1)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	502 (503)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	15 (18)	12 (9)	1 (1)	0 (0)	28 (28)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 14人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	15 (18)	12 (9)	1 (1)	0 (0)	28 (28)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	15 (18)	12 (9)	1 (1)	0 (0)	28 (28)			
	国際学部　国際文化学科	15 (15)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	330 (330)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	15 (15)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	26 (26)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	15 (15)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	26 (26)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
分	計（a ～ d）	15 (15)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	26 (26)			

既	国際学部　グローバルスタディーズ学科	11 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	15 (14)	0 (0)	279 (280)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	11 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	15 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	11 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	15 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	11 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	15 (14)			
	農学部　生命科学科	6 (7)	4 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	3 (3)	228 (228)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (7)	4 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　7人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	6 (7)	4 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	6 (7)	4 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
設	農学部　農学科	5 (7)	7 (6)	1 (1)	0 (0)	13 (14)	4 (4)	222 (223)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (7)	7 (6)	1 (1)	0 (0)	13 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	5 (7)	7 (6)	1 (1)	0 (0)	13 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	5 (7)	7 (6)	1 (1)	0 (0)	13 (14)			
	農学部　食品栄養学科	6 (7)	4 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	8 (8)	232 (232)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (7)	4 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	6 (7)	4 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
分	計（a ～ d）	6 (7)	4 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)			

既設分	農学部　食料農業システム学科	5 (6)	6 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	222 (222)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (6)	6 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	5 (6)	6 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	5 (6)	6 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)			
	理工学部※ 数理・情報科学課程 電子情報通信課程 機械工学・ロボティクス課程 応用化学課程	29 (33)	24 (17)	7 (9)	4 (5)	64 (64)	16 (16)	180 (180)	※令和8年4月名称変更届出
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	29 (33)	24 (17)	7 (9)	4 (5)	64 (64)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　27人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	29 (33)	24 (17)	7 (9)	4 (5)	64 (64)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	29 (33)	24 (17)	7 (9)	4 (5)	64 (64)			
	心理学部　心理学科	12 (13)	8 (7)	1 (1)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	409 (410)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (13)	8 (7)	1 (1)	0 (0)	21 (21)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　11人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a ～ b）	12 (13)	8 (7)	1 (1)	0 (0)	21 (21)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a ～ d）	12 (13)	8 (7)	1 (1)	0 (0)	21 (21)			
	計	249 (284)	149 (126)	49 (47)	4 (5)	451 (462)	31 (31)	－ (－)	
合　計		266 (299)	158 (135)	58 (56)	5 (6)	487 (496)	31 (31)	－ (－)	

職　種	専　属	その他	計	大学全体
事　務　職　員	411 (411)	58 (58)	469 (469)	
技　術　職　員	30 (30)	0 (0)	30 (30)	
図　書　館　職　員	18 (18)	2 (2)	20 (20)	
そ　の　他　の　職　員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
指　導　補　助　者	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
計	459 (459)	60 (60)	519 (519)	

	区　　分	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	
校地等	校舎敷地	220,488.96㎡	154,698.6㎡	0㎡	375,187.56㎡	龍谷大学短期大学部と共用（法令上の必要面積：4,400㎡） （借用地） ○「校舎敷地／専用」内 ・面積：3,418.00㎡ 期間：永代借用 ・面積：292.87㎡ 期間：20年間 ○「その他／専用」内 ・面積：1,681.64㎡ 期間：20年間 ・面積：27,411.00 ㎡ 期間：20年間
	その他	229,654.31㎡	3,949.68㎡	0㎡	233,603.99㎡	
	合計	450,143.27㎡	158,648.28㎡	0㎡	608,791.55㎡	

校舎	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	
	174,295.46㎡ （174,295.46㎡）	83,967.82㎡ （83,967.82㎡）	5,850.35㎡ （5,850.35㎡）	264,113.63㎡ （264,113.63㎡）	龍谷大学短期大学部と共用（法令上の必要面積：4,150㎡） 龍谷大学付属平安高等学校・中学校との共用（法令上の必要面積：高等学校8,460㎡、中学校3,060㎡）

教室・教員研究室	教　室	819室	教員研究室	20室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書 冊 〔うち外国書〕	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 種 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	情報学部	28,010〔5,485〕 （27,006〔5,461〕）	36,859〔11,779〕 （36,581〔11,673〕）	26〔3〕 （26〔3〕）	6〔2〕 （6〔2〕）	123,493 （123,493）	284 （284）	大学等全体で共用分（完成年度） ・図書 2,374,263冊[うち外国書735,072冊] ・電子書籍 学部等単位での特定不能なため、大学全体の数を記載 ・学術雑誌 18,472種[うち外国書4,996種] ・電子ジャーナル 9,199種[うち外国書9,165種] ・機械・器具及び標本 学部等単位での特定不能なため，大学全体の数を記載
	計	28,010〔5,485〕 （27,006〔5,461〕）	36,859〔11,779〕 （36,581〔11,673〕）	26〔3〕 （26〔3〕）	6〔2〕 （6〔2〕）	123,493 （123,493）	284 （284）	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	3,997.06㎡	617.06㎡	23,012.82㎡	

経費見積及び維持方法の概要	経費の見積り	区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	図書費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの整備費（運用ｺｽﾄを含む）を含む。
		教員１人当り研究費等		425千円	425千円	425千円	425千円	―	―	
		共同研究費等		5,839千円	6,437千円	6,437千円	6,437千円	―	―	
		図書購入費	17,840千円	16,675千円	18,381千円	18,381千円	18,381千円	―	―	
		設備購入費	691,982千円	38,722千円	38,722千円	38,722千円	38,722千円	―	―	
	学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	1年次入学	情報学部		1,642.6千円	1,642.6千円	1,642.6千円	1,642.6千円	― 千円	― 千円	
	3年次編・転入学	情報学部		― 千円	― 千円	1,742.6千円	1,642.6千円	― 千円	― 千円	
		（本学学部出身者）		― 千円	― 千円	(1,642.6千円)	(1,642.6千円)	― 千円	― 千円	
		（本学短大出身者）		― 千円	― 千円	(1,592.6千円)	(1,592.6千円)	― 千円	― 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、寄付金、私立大学等経常費補助金、受取利息・配当金収入、雑収入　等						

既設大学等の状況	大学等の名称	龍谷大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	文学部						1.07《1.01》		（1,2年次）
	真宗学科	4	145	3年次6	592	学士(文学)	1.03《0.96》	平成4年度	京都市伏見区深草塚本町67番地
	仏教学科	4	118	3年次5	482	学士(文学)	1.14《1.08》	昭和24年度	
	哲学科	4	148	3年次4	600	学士(文学)	1.10《1.03》	昭和24年度	（3,4年次）
	臨床心理学科	4	―	―	―	学士(文学)	―	平成24年度	京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1
	歴史学科	4	267	3年次9	1,086	学士(文学)	1.07《1.03》	昭和24年度	
	日本語日本文学科	4	101	3年次2	408	学士(文学)	1.01《0.98》	平成4年度	
	英語英米文学科	4	101	3年次2	408	学士(文学)	1.01《0.97》	平成4年度	
	経済学部						1.08《1.03》		京都市伏見区深草塚本町67番地
	現代経済学科	4	360	3年次7	1,454	学士(経済学)	1.09《1.04》	平成18年度	
	国際経済学科	4	240	3年次5	970	学士(経済学)	1.05《1.00》	平成18年度	
	経営学部						1.02《0.99》		京都市伏見区深草塚本町67番地
	経営学科	4	380	3年次5	1,808	学士(経営学)	1.02《0.99》	昭和41年度	
	商学科	4	160	―	320	学士(経営学)	1.02	令和7年度	

※令和5年度より学生募集停止（臨床心理学科）

※経済学部現代経済学科と国際経済学科は入学時一括募集（600名）を行う

※令和7年度から入学定員変更（519→380）

※令和7年度開設

既設大学等の状況	法学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	法律学科	4	445	3年次 5	1,790	学士(法学)	1.06 《1.01》	昭和43年度		
	理工学部						―		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和2年度より学生募集停止（理工学部）
	数理情報学科	4	―	―	―	学士(理学)	―	平成元年度		
	電子情報学科	4	―	―	―	学士(工学)	―	平成元年度		
	機械システム工学科	4	―	―	―	学士(工学)	―	平成元年度		
	物質化学科	4	―	―	―	学士(工学)	―	平成元年度		
	情報メディア学科	4	―	―	―	学士(工学)	―	平成15年度		
	環境ソリューション工学科	4	―	―	―	学士(工学)	―	平成15年度		
	社会学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	社会学科	4	―	―	―	学士(社会学)	―	平成元年度		※令和7年度より学生募集停止（社会学科、コミュニティマネジメント学科、現代福祉学科）
	コミュニティマネジメント学科	4	―	―	―	学士(社会学)	―	平成16年度		
	現代福祉学科	4	―	―	―	学士(社会福祉学)	―	平成28年度		
	総合社会学科	4	450	―	900	学士(社会学)	1.05	令和7年度		※令和7年度開設
	国際文化学部								滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※平成27年度より学生募集停止（国際文化学部）
	国際文化学科	4	―	―	―	学士(国際文化学)	―	平成8年度		
	政策学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	政策学科	4	308	3年次 5	1,242	学士(政策学)	1.05 《1.02》	平成23年度		
	国際学部						1.03 《0.98》		京都市伏見区深草塚本町67番地	
	国際文化学科	4	372	3年次 20	1,528	学士(国際文化学)	1.01 《0.98》	平成27年度		
	グローバルスタディーズ学科	4	135	3年次 10	560	学士(グローバルスタディーズ)	1.09 《0.97》	平成27年度		
	農学部						1.02 《0.99》		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	生命科学科	4	90	3年次 8	376	学士(農学)	1.05 《1.02》	平成27年度		
	農学科	4	134	3年次 9	554	学士(農学)	0.95	平成27年度		
	食品栄養学科	4	80	3年次 4	328	学士(農学)	1.00	平成27年度		
	食料農業システム学科	4	134	3年次 9	554	学士(農学)	1.09 《1.05》	平成27年度		

既設大学等の状況	先端理工学部						1.00		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	数理・情報科学課程	4	103	3年次 2	416	学士(理学)	0.96	令和2年度		
	知能情報メディア課程	4	103	3年次 2	416	学士(工学)	1.02 《0.99》	令和2年度		
	電子情報通信課程	4	103	3年次 2	416	学士(工学)	1.01 《0.97》	令和2年度		
	機械工学・ロボティクス課程	4	113	3年次 2	456	学士(工学)	1.03 《0.98》	令和2年度		
	応用化学課程	4	103	3年次 2	416	学士(工学)	1.04 《1.01》	令和2年度		
	環境科学課程	4	88	3年次 2	386	学士(工学)	0.95	令和2年度		※令和7年度から入学定員変更（103→88）
	心理学部								（1,2年次）京都市伏見区深草塚本町67番地	※令和5年度開設
	心理学科	4	255	3年次 10	1,040	学士（心理学）	1.00	令和5年度	（3,4年次）京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
	大学等の名称	龍谷大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	修士課程									
	文学研究科						0.57		京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
	真宗学専攻	2	20	－	40	修士(文学)	0.77	昭和28年度		
	仏教学専攻	2	20	－	40	修士(文学)	0.27	昭和28年度		
	哲学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.21	昭和41年度		
	教育学専攻	2	7	－	14	修士(教育学)	0.00	平成6年度		
	臨床心理学専攻	2	－	－	－	修士(臨床心理学)	－	平成24年度		※令和7年度より学生募集停止（臨床心理学専攻）
	日本史学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	2.21	昭和41年度		
	東洋史学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.35	昭和41年度		
	日本語日本文学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.64	昭和41年度		
	英語英米文学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.28	昭和42年度		
	法学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	法律学専攻	2	25	－	50	修士(法学)	0.40	昭和47年度		
	経済学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	経済学専攻	2	30	－	60	修士(経済学)	0.26	昭和57年度		

既設大学等の状況	経営学研究科 経営学専攻	2	30	―	60	修士(経営学)	0.21	昭和57年度	京都市伏見区深草塚本町67番地	
	社会学研究科 社会学専攻	2	10	―	20	修士(社会学)	0.77 0.95	平成3年度	京都市伏見区深草塚本町67番地	
	社会福祉学専攻	2	10	―	20	修士(社会福祉学)	0.60	平成3年度		
	理工学研究科 数理情報学専攻	2	―	―	―	修士(理学)	―	平成5年度	滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和6年度より学生募集停止（理工学研究科）
	電子情報学専攻	2	―	―	―	修士(工学)	―	平成5年度		
	機械システム工学専攻	2	―	―	―	修士(工学)	―	平成5年度		
	物質化学専攻	2	―	―	―	修士(工学)	―	平成5年度		
	情報メディア学専攻	2	―	―	―	修士(工学)	―	平成19年度		
	環境ソリューション工学専攻	2	―	―	―	修士(工学)	―	平成19年度		
	実践真宗学研究科 実践真宗学専攻	3	30	―	90	修士(実践真宗学)	0.23	平成21年度	京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
	政策学研究科 政策学専攻	2	20	―	40	修士(政策学)	0.97	平成23年度	京都市伏見区深草塚本町67番地	
	農学研究科 食農科学専攻	2	30	―	60	修士(食農科学)	1.25	平成30年度	滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	国際学研究科 国際文化学専攻	2	7	―	14	修士（国際文化学）	0.86 1.00	平成31年度	京都市伏見区深草塚本町67番地	
	グローバルスタディーズ専攻	2	4	―	8	修士（グローバルスタディーズ）	1.12	平成31年度		
	言語コミュニケーション専攻	2	4	―	8	修士（言語コミュニケーション）	0.37	平成31年度		
	先端理工学研究科 先端理工学専攻	2	100	―	200	修士（理学） 修士（工学）	1.05	令和6年度	滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和6年度開設
	心理学研究科 臨床心理学専攻	2	20	―	40	修士（心理学）	1.00	令和7年度	京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	※令和7年度開設

既設大学等の状況	博士後期課程									
	文学研究科						0.88		京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
	真宗学専攻	3	5	－	15	博士(文学)	0.86	昭和30年度		
	仏教学専攻	3	5	－	15	博士(文学)	0.93	昭和30年度		
	哲学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	0.00	昭和41年度		
	教育学専攻	3	3	－	9	博士(教育学)	0.00	平成12年度		
	臨床心理学専攻	3	－	－	－	博士(臨床心理学)	－	平成24年度		※令和7年度より学生募集停止（臨床心理学専攻）
	日本史学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	2.50	昭和41年度		
	東洋史学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	1.00	昭和41年度		
	日本語日本文学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	1.16	昭和41年度		
	英語英米文学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	0.00	昭和42年度		
	法学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	法律学専攻	3	5	－	15	博士(法学)	0.46	昭和49年度		
	経済学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	経済学専攻	3	3	－	9	博士(経済学)	0.22	昭和60年度		
	経営学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	経営学専攻	3	3	－	9	博士(経営学)	0.00	昭和60年度		
	社会学研究科						0.38		京都市伏見区深草塚本町67番地	
	社会学専攻	3	3	－	9	博士(社会学)	0.22	平成3年度		
	社会福祉学専攻	3	3	－	9	博士(社会福祉学)	0.55	平成3年度		
	理工学研究科						－		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和6年度より学生募集停止（理工学研究科）
	数理情報学専攻	3	－	－	－	博士(理学)	－	平成7年度		
	電子情報学専攻	3	－	－	－	博士(工学)	－	平成7年度		
	機械システム工学専攻	3	－	－	－	博士(工学)	－	平成7年度		
	物質化学専攻	3	－	－	－	博士(工学)	－	平成7年度		
	情報メディア学専攻	3	－	－	－	博士(工学)	－	平成21年度		
	環境ソリューション工学専攻	3	－	－	－	博士(工学)	－	平成21年度		
	政策学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	政策学専攻	3	3	－	9	博士(政策学)	1.77	平成23年度		

既設大学等の状況	農学研究科 食農科学専攻	3	5	―	15	博士(食農科学)	1.33	平成30年度	滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	国際学研究科						1.00		京都市伏見区深草塚本町67番地	
	国際文化学専攻	3	2	―	6	博士（国際文化学）	1.16	平成31年度		
	グローバルスタディーズ専攻	3	2	―	6	博士（グローバルスタディーズ）	0.83	平成31年度		
	先端理工学研究科 先端理工学専攻	2	10	―	30	博士（理学） 博士（工学）	0.26	令和6年度	滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和6年度開設
	心理学研究科 臨床心理学専攻	2	6	―	12	博士（心理学）	0.83	令和7年度	京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	※令和7年度開設
	大学等の名称	龍谷大学短期大学部								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	短期大学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	※令和7年度より学生募集停止
	社会福祉学科	2	―	―	―	短期大学士（社会福祉学）	―	昭和37年度		
	こども教育学科	2	―	―	―	短期大学士（こども教育学）	―	平成23年度		

○授業計画書の作成・公表に係る取組の概要及び公表方法：
全科目の詳細なシラバスを毎年度作成し、公式サイトや学内ポータルを通じて常時公表

○GPA 等の客観的な指標の設定や運用に係る取組の概要及び公表方法：
GPA制度の算出方法および評価基準を公表し、成績通知を通じて学生本人に提示するなど、学修状況の確認・指導に活用

○大学等が主体的に実施する成績不振の学生への個別指導に係る取組の概要：
単位僅少者・GPA等の指標に基づき成績不振者を抽出し、指導教員等による定期的な面談等の個別指導を組織的に実施

附属施設の概要	名　　称：世界仏教文化研究センター 目　　的：龍谷大学の建学の精神に基づき，仏教を機軸とした国際的な研究拠点を形成し，現代世界の切実な諸課題に応え得る指針を提示することで，国際交流の推進，教育への還元と社会への貢献を目的とする。 所 在 地：京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1　西黌123研究室、白亜館2階 設立年月：平成27(2015)年4月1日 面　　積：228.56㎡
	名　　称：社会科学研究所 目　　的：社会科学における各分野の枠にとらわれず、様々な分野の研究者との共同研究を推進することで、新たな社会科学の創造と発展に寄与することを目的とする。 所 在 地：京都市伏見区深草塚本町67　紫英館2階 設立年月：昭和44（1969）年4月 面　　積：634.17㎡

附属施設の概要	名　称：科学技術共同研究センター 目　的：科学技術及びその関連分野に関する研究・開発を行い、科学技術の創造と発展に寄与し、あわせて研究成果の社会還元を図ることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　3号館3階 設　立：平成元（1989）年4月 面　積：28.35㎡	
	名　　称：国際社会文化研究所 目　　的：地域、社会、福祉、国際文化、国際共生及びその他の人文社会系に関する総合的学術研究ならびに国際的研究交流を推進し、これらの分野における学術研究の向上に寄与するとともに研究成果の社会還元をはかることを目的とする 所 在 地：京都市伏見区深草塚本町67　紫英館2階 設立年月：平成9（1997）年4月 面　　積：96.22㎡	
	名　称：食と農の総合研究所 目　的：食と農に関する農学を中心とした複合的・学際的・国際的な研究を推進する。また、地域社会との連携をも視野に入れた研究を推進し、これらの分野における学術の向上に寄与するとともに研究成果の社会還元を図ることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　4号館3階 設　立：平成27（2015）年4月 面　積：55.00㎡	
	名　　称：人間・科学・宗教総合研究センター 目　　的：本学の所有する資源を活かして、人間・科学・宗教に関連する高度な研究成果を国内外に発信し、本学が戦略的に行う研究を推進することを目的とする。 所 在 地：京都市伏見区深草塚本町67　紫英館2階 設立年月：平成13（2001）年9月 面　　積：96.22㎡	
	名　　称：龍谷ミュージアム 目　　的：仏教文化を中心とした学術資料の収集，整理，保存，調査，研究及び展示公開等の博物館活動を継続的に行うとともに，本学における教育・研究の成果を広く社会に公開することを目的とする。 所 在 地：京都市下京区西中辻通正面下ル丸屋町117 設立年月：平成23（2011）年4月 面　　積：4,166.99㎡	
	名　称：牧農場 目　的：農学部・農学研究科の教育・研究に資することを目的とする。 所在地：滋賀県大津市牧二丁目字牧 設　立：平成27（2015）年4月 規　模：27,411.00 ㎡	

（注）

1　共同学科の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

2　「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。

3「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。

4　私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

6　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

7　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A	1前	○	2			○								3	
		仏教の思想B	1後	○	2			○								3	
		歎異抄の思想Ⅰ	2前			2		○								3	
		歎異抄の思想Ⅱ	2後			2		○								3	
		仏教の世界	2前			2		○								1	メディア
		真宗教団史	2前			4		○								1	
		小計（6科目）	－	－	4	10	0	－			0	0	0	0	0	8	
	言語科目	英語総合1（A）	1前	○	1			○								11	
		英語総合1（B）	1前	○	1			○								11	
		英語総合2（A）	1後	○	1			○								11	
		英語総合2（B）	1後	○	1			○								11	
		英語総合3	2前	○	1			○								11	
		英語総合4	2後	○	1			○								11	
		英語セミナーA	1前			2		○								7	
		英語セミナーB	2前			2		○								1	
		英語セミナーC	2前			2		○								1	
		英語セミナーD	2前			2		○								2	
		英語セミナーE	2前			2		○								1	
		英語セミナーF	2前			2		○								1	
		英語セミナーG	1前			2		○								2	
		海外英語研修	1後			2		○								2	
		ドイツ語ＩA	1前			1		○								2	
		ドイツ語ＩB	1前			1		○								1	
		ドイツ語ⅡA	1後			1		○								1	
		ドイツ語ⅡB	1後			1		○								1	
		フランス語ＩA	1前			1		○								2	
		フランス語ＩB	1前			1		○								2	
		フランス語ⅡA	1後			1		○								1	
		フランス語ⅡB	1後			1		○								1	
		中国語ＩA	1前			1		○								3	
		中国語ＩB	1前			1		○								2	
		中国語ⅡA	1後			1		○								3	
		中国語ⅡB	1後			1		○								2	
		コリア語ＩA	1前			1		○								2	
		コリア語ＩB	1前			1		○								2	
		コリア語ⅡA	1後			1		○								1	
		コリア語ⅡB	1後			1		○								1	
		スペイン語ＩA	1前			1		○								1	
		スペイン語ＩB	1前			1		○								1	
		スペイン語ⅡA	1後			1		○								1	
		スペイン語ⅡB	1後			1		○								1	
		ドイツ語セミナーＩA	2前			2		○								1	
		ドイツ語セミナーＩB	2後			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	言語科目		フランス語セミナーＩＡ	2前			2		○								1	
			フランス語セミナーＩＢ	2後			2		○								1	
			中国語セミナーＩＡ	2前			2		○								2	
			中国語セミナーＩＢ	2後			2		○								2	
			コリア語セミナーＩＡ	2前			2		○								1	
			コリア語セミナーＩＢ	2後			2		○								1	
			スペイン語セミナーＩＡ	2前			2		○								1	
			スペイン語セミナーＩＢ	2後			2		○								1	
			日本語	1前			1		○								1	
			小計（45科目）	－	－	6	57	0	－			0	0	0	0	0	46	
	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1前	○		2		○								1	
			倫理学入門	1前	○		2		○								1	
			倫理学A	1前	○		2		○								1	
			倫理学B	1後			2		○								1	
			クリティカル・シンキング	1前	○		2		○								1	
			宗教学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			宗教の世界	1前	○		2		○								1	
			日本の文学	1前	○		2		○								1	
			アジアの文学A	1前	○		2		○								1	
			アジアの文学B	1前	○		2		○								1	
			西洋の文学A	1前	○		2		○								4	
			西洋の文学B	1後	○		2		○								4	
			西洋の文学C	2前			2		○								1	
			西洋の文学D	2後			2		○								1	
			言語学入門	1前	○		2		○								1	
			歴史学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			日本の歴史	1前	○		2		○								1	
			日本の文化	1前	○		2		○								1	メディア
			アジアの歴史	1前	○		2		○								1	メディア
			アジアの文化	2前			2		○								3	メディア
			西洋の歴史	1前	○		2		○								1	
			心理学入門	1前	○		2		○								1	
			心理学A	2前			2		○								1	
			心理学B	2後			2		○								1	
			教育原論A	1前	○		2		○								1	
			教育原論B	1後	○		2		○								1	
			学習・発達論A	2前			2		○								1	
			学習・発達論B	2後			2		○								1	
			グローバル・ヒストリー	2後			2		○								1	
			文化交流論	2後			2		○								1	
			小計（30科目）	－	－	0	60	0	－			0	0	0	0	0	24	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	日本国憲法	1前	○		2		○								1	
			法学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			政治学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			地理学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			経済学のすすめ	1前	○		2		○								2	
			経営学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			国際学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			文化人類学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会調査のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会統計学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			人権論A	1前	○		2		○								2	
			人権論B	1後	○		2		○								2	
			現代社会とメディア	2前			2		○								1	
			現代社会と福祉	2前			2		○								2	
			現代社会と法	2前			2		○								1	
			現代社会と労働	2前			2		○								1	
			現代社会の諸問題	2前			2		○								9	オムニバス、共同、メディア
			環境と社会	2前			2		○								1	
			平和学A	2前			2		○								1	
			ジェンダー論	2前			2		○								1	
			国際社会論	2前			2		○								1	
			地域論	2前			2		○								1	
			企業と会計	2前			2		○								1	
			社会思想史	2前			2		○								1	
			情報倫理	2前			2		○			1					1	オムニバス
			情報社会とメディア	1前			2		○			2						オムニバス
			データサイエンス・AI入門	1前			2		○			1					1	
			データサイエンス基礎	2前			2		○								1	
			AI基礎	2後			2		○								1	
			グローバル・シチズンシップA（公共性・コミュニティ）	2後			2		○								1	
			グローバル・シチズンシップB（民主主義）	2後			2		○								1	
			グローバル・シチズンシップC（平和構築）	2後			2		○								1	
			グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）	2後			2		○								1	
			教養教育ゼミナール（社会科学）	2前			2			○							1	
			社会課題発見演習	1前			2			○							2	共同
			社会課題解決演習	2前			2			○							2	共同
			小計（37科目）	－	－	0	74	0	－			3	0	0	0	0	36	
		自然科学系科目	生活の中の数学	1前	○		2		○								1	
			生活の中の統計技術	1前	○		2		○								1	
			生活の中の化学	1前	○		2		○								1	
			生活の中の物理	1前	○		2		○								1	
			生活の中の生物学	1前	○		2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	生活の中の地学	1後	○		2		○								1	
			現代の技術	1後			2		○								2	オムニバス
			生命と科学	2前	○		2		○								1	
			自然観察法	2前			2		○								6	オムニバス
			里山学	1前			2		○								1	
			植物の自然誌	1後			2		○								1	
			環境の科学	2前			2		○								1	
			人類の科学	2前			2		○								1	
			情報と人間	1後			2		○								1	
			現代社会と栄養	1前			2		○								1	
			小計（15科目）	－	－	0	30	0	－			0	0	0	0	0	21	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2前			2		○								1	
			現代社会とスポーツ	1後			2		○								1	
			スポーツ技術学A	1前	○		1				○						4	
			スポーツ技術学B	1後	○		1				○						4	
			スポーツ文化論	2前			2		○								1	
			スポーツ科学のすすめ	1前			2		○								1	
			小計（6科目）	－	－	0	10	0	－			0	0	0	0	0	7	
			教養教育科目特別講義	1前			2		○								1	
			キャリア入門	1前			2		○			1					10	オムニバス、メディア
			キャリア・ディスカバリー	2後			2		○								1	メディア
			みんなのコミュニケーションA	1前			2		○								1	
			みんなのコミュニケーションB	1前			2		○								1	
			Inclusive Communication	1前			2		○								1	
			みんなで学ぶ国際ビジネス事情	1前			2		○								1	
			英語で学ぶ日本の社会A	1前			2		○								1	
			英語で学ぶ日本の社会B	1前			2		○								1	
			仏教SDGs概論	1後			2		○								1	
			アントレプレナーシップ入門	1後			2		○								1	
			テクノロジーと事業創出	2後			2		○								1	
			ソーシャルインパクト概論	2後			2		○								1	
			協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2後			2		○								1	
			アカデミック・ライティング入門	1前			2		○								1	
			ボランティア・NPO入門	1前			2		○								11	オムニバス
			仏教美術（イコノロジー）入門A	2前			2		○								1	
			仏教美術（イコノロジー）入門B	2後			2		○								1	
			サンスクリット語仏典入門A1	2前			2		○								1	
			サンスクリット語仏典入門A2	2後			2		○								1	
			チベット語仏典入門A1	2前			2		○								1	
			チベット語仏典入門A2	2後			2		○								1	
			古典文学講読（A）A	2前			2		○								1	
			古典文学講読（A）B	2後			2		○								1	
			近代文学講読（C）A	2前			2		○								1	
			近代文学講読（C）B	2後			2		○								1	
			情報出版学講読（B）A	2前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	教養科目	脳と心	2後			2		○								1	
		仏教と心理学	2後			2		○								2	オムニバス
		経済英語Ⅰ	1後			2		○								1	
		経済英語Ⅱ	2前			2		○								1	
		経済英語Ⅲ	2後			2		○								1	
		経済社会論入門	1後			2		○								1	
		地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）	2前			4		○								1	
		地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）	2後			2		○								1	
		留学英語Ⅰ	2前			4		○								1	
		留学英語Ⅱ	2前			2		○								1	
		留学英語Ⅲ	2後			4		○								1	
		留学英語Ⅳ	2後			2		○								1	
		経営科学	3前			2		○								1	
		社会データ分析	2後			2		○								1	
		ワークルール入門	2後			2		○								1	
		消費者問題論	2前			2		○								2	共同
		比較社会政策	2後			2		○								1	
		公務員論	2後			2		○								1	
		国際ビジネス論	3前			2		○								1	
		財政学	2前			2		○								1	
		地方財政論	2後			2		○								1	
		地域レジリエンス論	2前			2		○								1	
		地域課題発見演習	2前			4			○							1	
		会話分析入門A	2前			2		○								1	
		会話分析入門B	2後			2		○								1	
		言語習得論	2後			2		○								1	
		異文化間コミュニケーション論	2前			2		○								1	
		Introduction to Sociolinguistics	2前			2		○								1	
		国際関係入門	2前			2		○								1	
		政治思想概論	2前			2		○								1	
		国際開発協力論	2前			2		○								1	
		Introduction to Cultural Anthropology	2後			2		○								1	
		文化遺産学	2後			2		○								1	
		南アジアの言語	2前			2		○								1	
		グローバリゼーションとアフリカ	2前			2		○								1	
		グローバリゼーションと東アジア	2後			2		○								1	
		グローバリゼーションと南アジア	2前			2		○								1	
		グローバリゼーションとヨーロッパ	2後			2		○								1	
		グローバリゼーションとラテンアメリカ	2前			2		○								1	
		グローバル・ガバナンス論	2後			2		○								1	
		宗教文化学入門	2前			2		○								1	
		日本語教育入門	2後			2		○								1	
		世界文学入門	2前			2		○								1	
		都市計画入門	2前			2		○								1	
		自然人類学入門	2前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
教養教育科目	教養科目	差別と排除の社会学	2後			2		○								1	
		市民社会の歴史と現在	3前			2		○								1	
		社会学の歴史と理論	3後			2		○								1	
		アートと社会	3前			2		○								1	
		宗教社会学	2後			2		○								1	
		子ども社会学	2前			2		○								1	
		社会参画技法	2後			2		○								1	
		社会起業演習A	4前			2			○							1	
		社会起業演習B	4後			2			○							1	
		音楽社会学	2前			2		○								1	
		カルチュラルスタディーズ	2後			2		○								1	
		情報社会論	2後			2		○								1	
		デジタルメディア論	2前			2		○								1	
		農業を支える植物細胞の力	2前			2		○								1	
		英語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	
		英語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
		Global Understanding in English	3前			4		○								1	メディア
		Forum	3前			2		○								1	
		自然保護論	3後			2		○								1	
		English language （RISE）	1前			12		○								1	
		Cultural Adaptation （RISE）	1前			2		○								1	
		Global PBL（RISE）	1前			2		○								1	
		Social Civic Engagement （RISE）	1前			2		○								1	
		Applied Cultural Adaptation （RISE）	1前			2		○								1	
		Advanced Global PBL （RISE）	1前			4		○								1	
		小計（97科目）	－	－	0	216	0	－			1	0	0	0	0	77	
専攻科目	学部横断科目	思考法を学ぶⅠ	1①			1		○								1	
		現代の環境課題と政策	1①			1		○								1	
		地域の環境を知る	1①			1		○								2	オムニバス
		思考法を学ぶⅡ	1②			1		○								1	
		サステナビリティ概論	1前			2		○								6	オムニバス
		環境思想入門	1前			2		○								1	
		仏教とサステナビリティ	1前			1		○								1	
		AI時代の哲学	1③			1		○								1	
		ネイチャーポジティブ経営概論	1③			1		○								6	オムニバス
		これからの社会と人権	1④			1		○								1	
		サステナビリティ経営論	1④			1		○								1	
		コミュニティオーガナイジング入門	2②			1		○								1	
		コミュニティオーガナイジング実践	2前			1		○								1	
		小計（13科目）	－	－	0	15	0	－			0	0	0	0	0	14	
	専門基礎科目	情報基礎	1前	○	2			○				1	1				共同
		微積分学	1前	○		4		○					1				
		データサイエンス入門数学・演習Ⅰ	1前	○		4			○		1						
		情報とスポーツ	1前			2		○			1						
		情報と法	1前			2		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	専門基礎科目		キャリア実習・実習指導	1前			2				○						1	
			プログラミング基礎演習	1後	○	4				○				2				
			線形代数学	1後	○		4		○				1					
			データサイエンス入門数学・演習Ⅱ	1後	○		4			○				1				
			メディア処理基礎	1後			2		○			1						
			ソフトウェア基礎	1後			2		○						1			
			情報社会と情報倫理	1後			2		○			1						
			情報と健康	1後			2		○					1				
			データサイエンス入門	2前	○	2			○					1				
			データサイエンス入門演習	2前	○	2				○		2						共同
			数理統計学	2前	○		2		○			1						
			データサイエンス数理統計学	2前	○		2		○				1					
			情報デザイン	2前			2		○			1						
			情報システム基礎	2前			2		○				1					
			情報ネットワーク基礎	2前			2		○			1						
			ハードウェア基礎	2前			2		○					1				
			情報と職業	2前			2		○								1	
			データ構造とアルゴリズム・演習	2前	○		4			○		1						
			情報セキュリティ	2後	○	2			○			1						
			情報理論	2後			2		○								1	
			離散数学	2後			2		○								1	
			物理学概論	2後			2		○					1				
			電気・電子工学概論	2後			2		○			1						
			プロジェクトリサーチ	3前			2				○		1					
			ヒューマンインタフェース	3前			2		○			1						
			デジタル・フォレンジック	3前			2		○			1						
			デジタル・フォレンジック演習	3前			2			○		1						
			スポーツバイオメカニクス	3前			2		○					1				
			インターンシップ	3前			2				○	1						
			総合演習	3後			2			○		1						
			小計（35科目）	－	－	12	70	0	－			7	3	4	1	0	3	
	専門応用科目	情報メディア専攻	画像メディア処理論	2前	○		2		○			1						
			ＣＧとアニメーション	2後	○		2		○				1					
			メディア処理演習	2後	○		4			○		1						
			実世界コンピューティング	3前	○		2		○			1						
			ＸＲ	3前	○		2		○				1					
			コンピュータビジョン	3前	○		2		○					1				
			言語メディア処理論	3後	○		2		○					1				
			音声・音響メディア処理論	3後	○		2		○			1						
			小計（8科目）	－	－	0	18	0	－			2	2	2	0	0	0	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	専門応用科目	知能情報システム専攻	システムソフトウェア	2前	○		2		○					1	1			
			データベース	2前	○		2		○					1				
			Ｃプログラミング	2後	○		2		○			1						
			ネットワークシステム演習	2後	○		4			○			1					
			オブジェクト指向プログラミング	3前	○		2		○				1					
			Ｗｅｂ技術	3前	○		2		○				1					
			人工知能	3後	○		2		○			1						
			ソフトウェア工学	3後	○		2		○				1					
			小計（8科目）	－	－	0	18	0	－			2	3	1	1	0	0	
		実践データサイエンス専攻	経営情報学	2前	○		2		○			1						
			データマイニング	2後	○		2		○				1					
			バイオデータサイエンス	2後	○		2		○			1						
			データサイエンス応用基礎・演習	2後	○		4			○		1						
			情報検索	3前	○		2		○					1				
			アントレプレナーシップ	3前	○		2		○			1						
			推薦システム	3後	○		2		○					1				
			機械学習	3後	○		2		○			1						
			小計（8科目）	－	－	0	18	0	－			3	1	2	0	0	0	
		卒業研究関係	情報基礎演習	1前	○	2				○				1				
			情報基礎セミナー	1後	○	2			○			4	4	5				オムニバス
			未来共創ラボ演習Ⅰ	2前	○	2				○		6	4	5	1			
			未来共創ラボ演習Ⅱ	2後	○	2				○		6	4	5	1			
			未来共創ラボ演習Ⅲ	3前	○	2				○		6	4	5	1			
			ラボラトリーインターンシップ	3後	○	2					○	6	4	5				
			科学技術英語	4通	○	2			○			6	4	5				
			卒業研究	4通	○	6					○	6	4	5				
			小計（8科目）	－	－	20	0	0	－			6	4	5	1	0	0	
諸課程科目			情報科教育法Ⅰ	3前				2	○								1	
			情報科教育法Ⅱ	3後				2	○								1	
			教職論	2前				2	○								1	
			学校教育社会学	2後				2	○								1	
			教育課程論	2後				2	○								1	
			特別支援教育概論	2前				2	○								1	
			道徳教育指導法	3後				2	○								1	
			総合的な学習の時間・特別活動論	3前				2	○								1	
			教育の方法と技術（ICT活用含む）	3前				2	○								1	
			生徒・進路指導論	2後				2	○								1	
			教育相談	3後				2	○								1	
			教育実習指導Ⅰ	4前				1	○								1	
			教育実習指導ⅡA	4通				4			○						2	
			教育実習指導ⅡB	4通				2			○						2	
			教職実践演習（中・高）	4後				2		○							3	
			介護等体験	3通				2			○						3	
			真宗学概論	2通				4	○								1	
			仏教学概論	2通				4	○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
諸課程科目	真宗史	1通				4	○								1	
	勤式	1通				4	○								3	隔年・オムニバス
	宗門法規	1前				2	○								1	隔年
	教化法	1通				4	○								4	隔年・オムニバス
	（本山教師）仏教史	1前				1	○								2	オムニバス
	（本山教師）宗教概説	1前				1	○								1	
	小計（24科目）	－	－	0	0	57	－			0	0	0	0	0	23	
合計（340科目）		－	－	42	596	57	－			8	4	5	1	0	235	

学位又は称号	学士（情報学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から22単位以上（必修10単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系より各2単位）を含む）、専攻科目の学部横断科目から6単位以上、専門基礎科目から44単位以上（必修12単位、選択必修10単位を含む）、専門応用科目から40単位以上（必修20単位、選択必修10単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：1年次44単位、2年次44単位、3年次48単位、4年次48単位（年間））	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス
（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A	1前	○	2			○								3	
		仏教の思想B	1後	○	2			○								3	
		歎異抄の思想Ⅰ	2前			2		○								1	
		歎異抄の思想Ⅱ	2後			2		○								1	
		小計（4科目）	－	－	4	4	0	－			0	0	0	0	0	4	
	言語科目	英語総合1（A）	1前	○	1			○								11	
		英語総合1（B）	1前	○	1			○								11	
		英語総合2（A）	1後	○	1			○								11	
		英語総合2（B）	1後	○	1			○								11	
		英語総合3	2前	○	1			○								11	
		英語総合4	2後	○	1			○								11	
		英語セミナーA	1前			2		○								2	
		英語セミナーB	2前			2		○								1	
		英語セミナーC	2前			2		○								1	
		英語セミナーD	2前			2		○								1	
		英語セミナーE	2前			2		○								1	
		英語セミナーF	2前			2		○								1	
		英語セミナーG	1前			2		○								1	
		ドイツ語ＩA	1前			1		○								2	
		ドイツ語ＩB	1前			1		○								1	
		ドイツ語ⅡA	1後			1		○								1	
		ドイツ語ⅡB	1後			1		○								1	
		フランス語ＩA	1前			1		○								2	
		フランス語ＩB	1前			1		○								2	
		フランス語ⅡA	1後			1		○								1	
		フランス語ⅡB	1後			1		○								1	
		中国語ＩA	1前			1		○								3	
		中国語ＩB	1前			1		○								2	
		中国語ⅡA	1後			1		○								3	
		中国語ⅡB	1後			1		○								2	
		コリア語ＩA	1前			1		○								2	
		コリア語ＩB	1前			1		○								2	
		コリア語ⅡA	1後			1		○								1	
		コリア語ⅡB	1後			1		○								1	
		スペイン語ＩA	1前			1		○								1	
		スペイン語ＩB	1前			1		○								1	
		スペイン語ⅡA	1後			1		○								1	
		スペイン語ⅡB	1後			1		○								1	
		ドイツ語セミナーＩA	2前			2		○								1	
		ドイツ語セミナーＩB	2後			2		○								1	
		フランス語セミナーＩA	2前			2		○								1	
		フランス語セミナーＩB	2後			2		○								1	
		中国語セミナーＩA	2前			2		○								2	
		中国語セミナーＩB	2後			2		○								2	
		コリア語セミナーＩA	2前			2		○								1	
		コリア語セミナーＩB	2後			2		○								1	
		スペイン語セミナーＩA	2前			2		○								1	
		スペイン語セミナーＩB	2後			2		○								1	
		日本語	1前			1		○								1	
		小計（44科目）	－	－	6	55	0	－			0	0	0	0	0	38	

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1前	○		2		○								1	
			倫理学入門	1前	○		2		○								1	
			倫理学A	1前	○		2		○								1	
			倫理学B	1後			2		○								1	
			クリティカル・シンキング	1前	○		2		○								1	
			宗教学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			宗教の世界	1前	○		2		○								1	
			日本の文学	1前	○		2		○								1	
			アジアの文学A	1前	○		2		○								1	
			アジアの文学B	1前	○		2		○								1	
			西洋の文学A	1前	○		2		○								1	
			西洋の文学B	1後	○		2		○								1	
			言語学入門	1前	○		2		○								1	
			歴史学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			日本の歴史	1前	○		2		○								1	
			日本の文化	1前	○		2		○								1	メディア
			アジアの歴史	1前	○		2		○								1	メディア
			アジアの文化	2前			2		○								1	メディア
			西洋の歴史	1前	○		2		○								1	
			心理学入門	1前	○		2		○								1	
			心理学A	2前			2		○								1	
			心理学B	2後			2		○								1	
			教育原論A	1前	○		2		○								1	
			教育原論B	1後	○		2		○								1	
			学習・発達論A	2前			2		○								1	
			学習・発達論B	2後			2		○								1	
			小計（26科目）	－	－	0	52	0	－			0	0	0	0	0	15	
		社会科学系科目	日本国憲法	1前	○		2		○								1	
			法学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			政治学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			地理学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			経済学のすすめ	1前	○		2		○								2	
			経営学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			国際学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			文化人類学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会調査のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会統計学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			人権論A	1前	○		2		○								2	
			人権論B	1後	○		2		○								2	
			現代社会とメディア	2前			2		○								1	
			現代社会と福祉	2前			2		○								2	
			現代社会と法	2前			2		○								1	
			現代社会と労働	2前			2		○								1	
			現代社会の諸問題	2前			2		○								1	
			環境と社会	2前			2		○								1	
			平和学A	2前			2		○								1	
			ジェンダー論	2前			2		○								1	
			国際社会論	2前			2		○								1	
			地域論	2前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	企業と会計	2前			2		○								1	
			社会思想史	2前			2		○								1	
			情報倫理	2前			2		○			1					1	オムニバス
			情報社会とメディア	1前			2		○			2						オムニバス
			データサイエンス・AI入門	1前			2		○								1	
			小計（28科目）	－	－	0	56	0	－			2	0	0	0	0	24	
		自然科学系科目	生活の中の数学	1前	○		2		○								1	
			生活の中の統計技術	1前	○		2		○								1	
			生活の中の化学	1前	○		2		○								1	
			生活の中の物理	1前	○		2		○								1	
			生活の中の生物学	1前	○		2		○								1	
			生活の中の地学	1後	○		2		○								1	
			現代の技術	1後			2		○								2	オムニバス
			生命と科学	2前	○		2		○								1	
			自然観察法	2前			2		○								6	オムニバス
			植物の自然誌	1後			2		○								1	
			環境の科学	2前			2		○								1	
			人類の科学	2前			2		○								1	
			情報と人間	1後			2		○								1	
			現代社会と栄養	1前			2		○								1	
			小計（14科目）	－	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	20	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2前			2		○								1	
			現代社会とスポーツ	1後			2		○								1	
			スポーツ技術学A	1前	○		1				○						4	
			スポーツ技術学B	1後	○		1				○						4	
			スポーツ文化論	2前			2		○								1	
			スポーツ科学のすすめ	1前			2		○								1	
			小計（6科目）	－	－	0	10	0	－			0	0	0	0	0	7	
			教養教育科目特別講義	1前			2		○								1	
			アカデミック・ライティング入門	1前			2		○								1	
			農業を支える植物細胞の力	2前			2		○								1	
			小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	3	
専攻科目	学部横断科目		思考法を学ぶⅠ	1①			1		○								1	
			現代の環境課題と政策	1①			1		○								1	
			地域の環境を知る	1①			1		○								2	オムニバス
			思考法を学ぶⅡ	1②			1		○								1	
			サステナビリティ概論	1前			2		○								6	オムニバス
			環境思想入門	1前			2		○								1	
			仏教とサステナビリティ	1前			1		○								1	
			AI時代の哲学	1③			1		○								1	
			ネイチャーポジティブ経営概論	1③			1		○								6	オムニバス
			これからの社会と人権	1④			1		○								1	
			サステナビリティ経営論	1④			1		○								1	
			コミュニティオーガナイジング入門	2②			1		○								1	
			コミュニティオーガナイジング実践	2前			1		○								1	
			小計（13科目）	－	－	0	15	0	－			0	0	0	0	0	14	

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	専門基礎科目	情報基礎	1前	○	2			○				1	1				共同
		微積分学	1前	○		4		○					1				
		データサイエンス入門数学・演習Ⅰ	1前	○		4			○		1						
		情報とスポーツ	1前			2		○			1						
		情報と法	1前			2		○			1						
		キャリア実習・実習指導	1前			2				○						1	
		プログラミング基礎演習	1後	○	4				○				2				
		線形代数学	1後	○		4		○				1					
		データサイエンス入門数学・演習Ⅱ	1後	○		4			○				1				
		メディア処理基礎	1後			2		○			1						
		ソフトウェア基礎	1後			2		○						1			
		情報社会と情報倫理	1後			2		○			1						
		情報と健康	1後			2		○					1				
		データサイエンス入門	2前	○	2			○					1				
		データサイエンス入門演習	2前	○	2				○		2						共同
		数理統計学	2前	○		2		○			1						
		データサイエンス数理統計学	2前	○		2		○				1					
		情報デザイン	2前			2		○			1						
		情報システム基礎	2前			2		○				1					
		情報ネットワーク基礎	2前			2		○			1						
		ハードウェア基礎	2前			2		○					1				
		情報と職業	2前			2		○								1	
		データ構造とアルゴリズム・演習	2前	○		4			○		1						
		情報セキュリティ	2後	○	2			○			1						
		情報理論	2後			2		○								1	
		離散数学	2後			2		○								1	
		物理学概論	2後			2		○					1				
		電気・電子工学概論	2後			2		○			1						
		プロジェクトリサーチ	3前			2				○		1					
		ヒューマンインタフェース	3前			2		○			1						
		デジタル・フォレンジック	3前			2		○			1						
		デジタル・フォレンジック演習	3前			2			○		1						
		スポーツバイオメカニクス	3前			2		○					1				
		インターンシップ	3前			2				○	1						
		総合演習	3後			2			○		1						
		小計（35科目）	－	－	12	70	0	－			7	3	4	1	0	3	

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	専門応用科目	情報メディア専攻	画像メディア処理論	2前	○		2		○			1						
			ＣＧとアニメーション	2後	○		2		○				1					
			メディア処理演習	2後	○		4			○		1						
			実世界コンピューティング	3前	○		2		○			1						
			ＸＲ	3前	○		2		○				1					
			コンピュータビジョン	3前	○		2		○					1				
			言語メディア処理論	3後	○		2		○					1				
			音声・音響メディア処理論	3後	○		2		○			1						
			小計（8科目）	－	－	0	18	0	－			2	2	2	0	0	0	
		知能情報システム専攻	システムソフトウェア	2前	○		2		○						1			
			データベース	2前	○		2		○					1				
			Ｃプログラミング	2後	○		2		○			1						
			ネットワークシステム演習	2後	○		4			○			1					
			オブジェクト指向プログラミング	3前	○		2		○				1					
			Ｗｅｂ技術	3前	○		2		○				1					
			人工知能	3後	○		2		○			1						
			ソフトウェア工学	3後	○		2		○				1					
			小計（8科目）	－	－	0	18	0	－			2	3	1	1	0	0	
		実践データサイエンス専攻	経営情報学	2前	○		2		○			1						
			データマイニング	2後	○		2		○				1					
			バイオデータサイエンス	2後	○		2		○			1						
			データサイエンス応用基礎・演習	2後	○		4			○		1						
			情報検索	3前	○		2		○					1				
			アントレプレナーシップ	3前	○		2		○			1						
			推薦システム	3後	○		2		○					1				
			機械学習	3後	○		2		○			1						
			小計（8科目）	－	－	0	18	0	－			3	1	2	0	0	0	
		卒業研究関係	情報基礎演習	1前	○	2				○				1				
			情報基礎セミナー	1後	○	2			○			4	4	5				オムニバス
			未来共創ラボ演習Ⅰ	2前	○	2				○		6	4	5	1			
			未来共創ラボ演習Ⅱ	2後	○	2				○		6	4	5	1			
			未来共創ラボ演習Ⅲ	3前	○	2				○		6	4	5	1			
			ラボラトリーインターンシップ	3後	○	2					○	6	4	5				
			科学技術英語	4通	○	2			○			6	4	5				
			卒業研究	4通	○	6					○	6	4	5				
			小計（8科目）	－	－	20	0	0	－			6	4	5	1	0	0	
諸課程科目			情報科教育法Ⅰ	3前				2	○								1	
			情報科教育法Ⅱ	3後				2	○								1	
			教職論	2前				2	○								1	
			学校教育社会学	2後				2	○								1	
			教育課程論	2後				2	○								1	
			特別支援教育概論	2前				2	○								1	
			道徳教育指導法	3後				2	○								1	
			総合的な学習の時間・特別活動論	3前				2	○								1	

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
諸課程科目	教育の方法と技術（ICT活用含む）	3前				2	○								1	
	生徒・進路指導論	2後				2	○								1	
	教育相談	3後				2	○								1	
	教育実習指導Ⅰ	4前				1	○								1	
	教育実習指導ⅡA	4通				4			○						2	
	教育実習指導ⅡB	4通				2			○						2	
	教職実践演習（中・高）	4後				2		○							3	
	介護等体験	3通				2			○						3	
	真宗学概論	2通				4	○								1	
	仏教学概論	2通				4	○								1	
	真宗史	1通				4	○								1	
	勤式	1通				4	○								3	隔年・オムニバス
	宗門法規	1前				2	○								1	隔年
	教化法	1通				4	○								4	隔年・オムニバス
	小計（22科目）	－	－	0	0	55	－			0	0	0	0	0	20	
合計（227科目）		－	－	42	350	55	－			8	4	5	1	0	142	

学位又は称号	学士（情報学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から22単位以上（必修10単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系より各2単位）を含む）、専攻科目の学部横断科目から6単位以上、専門基礎科目から44単位以上（必修12単位、選択必修10単位を含む）、専門応用科目から40単位以上（必修20単位、選択必修10単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：1年次44単位、2年次44単位、3年次48単位、4年次48単位（年間））	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

京都深草キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	「仏教の思想」科目	歎異抄の思想Ⅰ	2前			2		○								2	
		歎異抄の思想Ⅱ	2後			2		○								2	
		仏教の世界	2前			2		○								1	メディア
		真宗教団史	2前			4		○								1	
		小計（4科目）	－	－	0	10	0	－			0	0	0	0	0	4	
	言語科目	英語セミナーA	1前			2		○								5	
		英語セミナーD	2前			2		○								1	
		英語セミナーG	1前			2		○								1	
		海外英語研修	1後			2		○								2	
		小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	9	
	教養科目 人文科学系科目	アジアの文学A	1前	○		2		○								1	
		アジアの文学B	1前	○		2		○								1	
		西洋の文学A	1前	○		2		○								3	
		西洋の文学B	1後	○		2		○								3	
		西洋の文学C	2前			2		○								1	
		西洋の文学D	2後			2		○								1	
		歴史学のすすめ	1前	○		2		○								1	
		アジアの文化	2前			2		○								2	
		グローバル・ヒストリー	2後			2		○								1	
		文化交流論	2後			2		○								1	
		小計（10科目）	－	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	11	
		現代社会の諸問題	2前			2		○								8	オムニバス、共同、メディア
		データサイエンス・AI入門	1前			2		○			1					1	
		データサイエンス基礎	2前			2		○								1	
		AI基礎	2後			2		○								1	
		グローバル・シチズンシップA（公共性・コミュニティ）	2後			2		○								1	
		グローバル・シチズンシップB（民主主義）	2後			2		○								1	
		グローバル・シチズンシップC（平和構築）	2後			2		○								1	
		グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）	2後			2		○								1	
		教養教育ゼミナール（社会科学）	2前			2			○							1	
		社会課題発見演習	1前			2			○							2	共同
		社会課題解決演習	2前			2			○							2	共同
		小計（11科目）	－	－	0	22	0	－			1	0	0	0	0	15	
	教養科目 自然科学系科目	里山学	1前			2		○								1	
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	1	
		キャリア入門	1前			2		○			1					10	オムニバス、メディア
		キャリア・ディスカバリー	2後			2		○								1	メディア
		みんなのコミュニケーションA	1前			2		○								1	
		みんなのコミュニケーションB	1前			2		○								1	
		Inclusive Communication	1前			2		○								1	
		みんなで学ぶ国際ビジネス事情	1前			2		○								1	
		英語で学ぶ日本の社会A	1前			2		○								1	
		英語で学ぶ日本の社会B	1前			2		○								1	
		仏教SDGs概論	1後			2		○								1	
		アントレプレナーシップ入門	1後			2		○								1	
		テクノロジーと事業創出	2後			2		○								1	
		ソーシャルインパクト概論	2後			2		○								1	
		協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2後			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

京都深草キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	教養科目	アカデミック・ライティング入門	1前			2		○								1	
		ボランティア・NPO入門	1前			2		○								11	オムニバス
		仏教美術（イコノロジー）入門A	2前			2		○								1	
		仏教美術（イコノロジー）入門B	2後			2		○								1	
		サンスクリット語仏典入門A1	2前			2		○								1	
		サンスクリット語仏典入門A2	2後			2		○								1	
		チベット語仏典入門A1	2前			2		○								1	
		チベット語仏典入門A2	2後			2		○								1	
		古典文学講読（A）A	2前			2		○								1	
		古典文学講読（A）B	2後			2		○								1	
		近代文学講読（C）A	2前			2		○								1	
		近代文学講読（C）B	2後			2		○								1	
		情報出版学講読（B）A	2前			2		○								1	
		脳と心	2後			2		○								1	
		仏教と心理学	2後			2		○								2	オムニバス
		経済英語Ⅰ	1後			2		○								1	
		経済英語Ⅱ	2前			2		○								1	
		経済英語Ⅲ	2後			2		○								1	
		経済社会論入門	1後			2		○								1	
		地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）	2前			4		○								1	
		地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）	2後			2		○								1	
		留学英語Ⅰ	2前			4		○								1	
		留学英語Ⅱ	2前			2		○								1	
		留学英語Ⅲ	2後			4		○								1	
		留学英語Ⅳ	2後			2		○								1	
		経営科学	3前			2		○								1	
		社会データ分析	2後			2		○								1	
		ワークルール入門	2後			2		○								1	
		消費者問題論	2前			2		○								2	共同
		比較社会政策	2後			2		○								1	
		公務員論	2後			2		○								1	
		国際ビジネス論	3前			2		○								1	
		財政学	2前			2		○								1	
		地方財政論	2後			2		○								1	
		地域レジリエンス論	2前			2		○								1	
		地域課題発見演習	2前			4			○							1	
		会話分析入門A	2前			2		○								1	
		会話分析入門B	2後			2		○								1	
		言語習得論	2後			2		○								1	
		異文化間コミュニケーション論	2前			2		○								1	
		Introduction to Sociolinguistics	2前			2		○								1	
		国際関係入門	2前			2		○								1	
		政治思想概論	2前			2		○								1	
		国際開発協力論	2前			2		○								1	
		Introduction to Cultural Anthropology	2後			2		○								1	
		文化遺産学	2後			2		○								1	
		南アジアの言語	2前			2		○								1	
		グローバリゼーションとアフリカ	2前			2		○								1	
		グローバリゼーションと東アジア	2後			2		○								1	
		グローバリゼーションと南アジア	2前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

京都深草キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
教養教育科目	教養科目	グローバリゼーションとヨーロッパ	2後			2		○								1	
		グローバリゼーションとラテンアメリカ	2前			2		○								1	
		グローバル・ガバナンス論	2後			2		○								1	
		宗教文化学入門	2前			2		○								1	
		日本語教育入門	2後			2		○								1	
		世界文学入門	2前			2		○								1	
		都市計画入門	2前			2		○								1	
		自然人類学入門	2前			2		○								1	
		差別と排除の社会学	2後			2		○								1	
		市民社会の歴史と現在	3前			2		○								1	
		社会学の歴史と理論	3後			2		○								1	
		アートと社会	3前			2		○								1	
		宗教社会学	2後			2		○								1	
		子ども社会学	2前			2		○								1	
		社会参画技法	2後			2		○								1	
		社会起業演習A	4前			2			○							1	
		社会起業演習B	4後			2			○							1	
		音楽社会学	2前			2		○								1	
		カルチュラルスタディーズ	2後			2		○								1	
		情報社会論	2後			2		○								1	
		デジタルメディア論	2前			2		○								1	
		英語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	
		英語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
		Global Understanding in English	3前			4		○								1	メディア
		Forum	3前			2		○								1	
		自然保護論	3後			2		○								1	
		English language （RISE）	1前			12		○								1	
		Cultural Adaptation （RISE）	1前			2		○								1	
		Global PBL（RISE）	1前			2		○								1	
		Social Civic Engagement （RISE）	1前			2		○								1	
		Applied Cultural Adaptation （RISE）	1前			2		○								1	
		Advanced Global PBL （RISE）	1前			4		○								1	
		小計（95科目）	－	－	0	212	0	－			1	0	0	0	0	75	
合計（125科目）			－	－	0	274	0	0	0	0	1	0	0	0	0	105	

学位又は称号	学士（情報学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から22単位以上（必修10単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系より各2単位）を含む）、専攻科目の学部横断科目から6単位以上、専門基礎科目から44単位以上（必修12単位、選択必修10単位を含む）、専門応用科目から40単位以上（必修20単位、選択必修10単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：1年次44単位、2年次44単位、3年次48単位、4年次48単位（年間））	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

京都大宮キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは大宮キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
諸課程科目	（本山教師）仏教史	1前				1	○								2	オムニバス
	（本山教師）宗教概説	1前				1	○								1	
	小計（2科目）	－	－	0	0	2	－			0	0	0	0	0	3	
合計（2科目）		－	－	0	0	2	－			0	0	0	0	0	3	

学位又は称号	学士（情報学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から22単位以上（必修10単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系より各2単位）を含む）、専攻科目の学部横断科目から6単位以上、専門基礎科目から44単位以上（必修12単位、選択必修10単位を含む）、専門応用科目から40単位以上（必修20単位、選択必修10単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：1年次44単位、2年次44単位、3年次48単位、4年次48単位（年間）） 1学年の学期区分：2学期 1学期の授業期間：15週 1時限の授業の標準時間：90分	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A	1前	○	2			○								3	
		仏教の思想B	1後	○	2			○								3	
		歎異抄の思想Ⅰ	2前			2		○								3	
		歎異抄の思想Ⅱ	2後			2		○								3	
		仏教の世界	2前			2		○					1			10	オムニバス、メディア
		真宗教団史	2前			4		○								1	
		小計（6科目）	－	－	4	10	0	－			0	0	1	0	0	15	
	言語科目	英語総合1(A)	1前	○	1			○			1					10	
		英語総合1(B)	1前	○	1			○				1				10	
		英語総合2(A)	1後	○	1			○			1					10	
		英語総合2(B)	1後	○	1			○				1				10	
		英語総合3	2前	○	1			○			2	1				8	
		英語総合4	2後	○	1			○			2	1				8	
		英語セミナーA	1前			2		○								7	
		英語セミナーB	2前			2		○								1	
		英語セミナーC	2前			2		○								1	
		英語セミナーD	2前			2		○								2	
		英語セミナーE	2前			2		○			1						
		英語セミナーF	2前			2		○			1						
		英語セミナーG	1前			2		○								2	
		海外英語研修	1後			2		○								2	
		ドイツ語ＩA	1前			1		○								2	
		ドイツ語ＩB	1前			1		○								1	
		ドイツ語ⅡA	1後			1		○								1	
		ドイツ語ⅡB	1後			1		○								1	
		フランス語ＩA	1前			1		○								2	
		フランス語ＩB	1前			1		○								2	
		フランス語ⅡA	1後			1		○								1	
		フランス語ⅡB	1後			1		○								1	
		中国語ＩA	1前			1		○								3	
		中国語ＩB	1前			1		○								2	
		中国語ⅡA	1後			1		○								3	
		中国語ⅡB	1後			1		○								2	
		コリア語ＩA	1前			1		○								2	
		コリア語ＩB	1前			1		○								2	
		コリア語ⅡA	1後			1		○								1	
		コリア語ⅡB	1後			1		○								1	
		スペイン語ＩA	1前			1		○								1	
		スペイン語ＩB	1前			1		○								1	
		スペイン語ⅡA	1後			1		○								1	
		スペイン語ⅡB	1後			1		○								1	
		ドイツ語セミナーＩA	2前			2		○								1	
		ドイツ語セミナーＩB	2後			2		○								1	
		フランス語セミナーＩA	2前			2		○								1	
		フランス語セミナーＩB	2後			2		○								1	
		中国語セミナーＩA	2前			2		○								2	
		中国語セミナーＩB	2後			2		○								2	
		コリア語セミナーＩA	2前			2		○								1	
		コリア語セミナーＩB	2後			2		○								1	
		スペイン語セミナーＩA	2前			2		○								1	
		スペイン語セミナーＩB	2後			2		○								1	
		日本語	1前			1		○								1	
		小計（45科目）	－	－	6	57	0	－			2	1	0	0	0	45	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1前	○		2		○								1	
			倫理学入門	1前	○		2		○								1	
			倫理学A	1前	○		2		○								1	
			倫理学B	1後			2		○								1	
			クリティカル・シンキング	1前	○		2		○								1	
			宗教学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			宗教の世界	1前	○		2		○								1	
			日本の文学	1前	○		2		○								1	
			アジアの文学A	1前	○		2		○								1	
			アジアの文学B	1前	○		2		○								1	
			西洋の文学A	1前	○		2		○								4	
			西洋の文学B	1後	○		2		○								4	
			西洋の文学C	2前			2		○								1	
			西洋の文学D	2後			2		○								1	
			言語学入門	1前	○		2		○								1	
			歴史学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			日本の歴史	1前	○		2		○								1	
			日本の文化	1前	○		2		○								1	メディア
			アジアの歴史	1前	○		2		○								1	メディア
			アジアの文化	2前			2		○								3	メディア
			西洋の歴史	1前	○		2		○								1	
			心理学入門	1前	○		2		○								1	
			心理学A	2前			2		○								2	
			心理学B	2後			2		○								2	
			教育原論A	1前	○		2		○								1	
			教育原論B	1後	○		2		○								1	
			学習・発達論A	2前			2		○								1	
			学習・発達論B	2後			2		○								1	
			グローバル・ヒストリー	2後			2		○								1	
			文化交流論	2後			2		○								1	
			小計（30科目）	－	－	0	60	0	－			0	0	0	0	0	25	
		社会科学系科目	日本国憲法	1前	○		2		○								1	
			法学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			政治学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			地理学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			経済学のすすめ	1前	○		2		○								2	
			経営学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			国際学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			文化人類学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会調査のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会統計学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			人権論A	1前	○		2		○								2	
			人権論B	1後	○		2		○								2	
			現代社会とメディア	2前			2		○								1	メディア
			現代社会と福祉	2前			2		○								2	
			現代社会と法	2前			2		○								1	
			現代社会と労働	2前			2		○								1	
			現代社会の諸問題	2前			2		○								11	オムニバス、メディア
			環境と社会	2前			2		○								1	
			平和学A	2前			2		○								1	
			ジェンダー論	2前			2		○								1	
			国際社会論	2前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	地域論	2前			2		○								1	
			企業と会計	2前			2		○								1	
			社会思想史	2前			2		○								1	
			情報倫理	2前			2		○			1					1	オムニバス
			情報社会とメディア	1前			2		○			2						オムニバス
			データサイエンス・AI入門	1前			2		○			1					2	共同
			データサイエンス基礎	2前			2		○								1	
			AI基礎	2後			2		○								1	
			グローバル・シチズンシップA(公共性・コミュニティ)	2後			2		○								1	
			グローバル・シチズンシップB(民主主義)	2後			2		○								3	オムニバス
			グローバル・シチズンシップC(平和構築)	2後			2		○								1	
			グローバル・シチズンシップD(人間の安全保障)	2後			2		○								1	
			教養教育ゼミナール(社会科学)	2前			2			○							6	
			社会課題発見演習	1前			2			○							3	共同
			社会課題解決演習	2前			2			○							2	共同
			小計（37科目）	－	－	0	74	0	－			3	0	0	0	0	42	
		自然科学系科目	生活の中の数学	1前	○		2		○								1	
			生活の中の統計技術	1前	○		2		○					1				
			生活の中の化学	1前	○		2		○			1						
			生活の中の物理	1前	○		2		○			1						
			生活の中の生物学	1前	○		2		○								1	
			生活の中の地学	1後	○		2		○								1	
			現代の技術	1後			2		○			2						オムニバス
			生命と科学	2前	○		2		○								1	
			自然観察法	2前			2		○			3	2	1				オムニバス
			里山学	1前			2		○			2	3				7	オムニバス
			植物の自然誌	1後			2		○								1	
			環境の科学	2前			2		○								1	
			人類の科学	2前			2		○								1	
			情報と人間	1後			2		○				1					
			現代社会と栄養	1前			2		○								2	
			小計（15科目）	－	－	0	30	0	－			8	4	2	0	0	16	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2前			2		○								1	
			現代社会とスポーツ	1後			2		○								1	
			スポーツ技術学A	1前	○		1				○	1					4	
			スポーツ技術学B	1後	○		1				○	1					4	
			スポーツ文化論	2前			2		○								1	
			スポーツ科学のすすめ	1前			2		○			1					3	オムニバス
			小計（6科目）	－	－	0	10	0	－			1	0	0	0	0	9	
			教養教育科目特別講義	1前			2		○				1				7	オムニバス
			キャリア入門	1前			2		○			1					10	オムニバス、メディア
			キャリア・ディスカバリー	2後			2			○							1	
			みんなのコミュニケーションA	1前			2		○								7	
			みんなのコミュニケーションB	1前			2		○								1	
			Inclusive Communication	1前			2		○								3	
			みんなで学ぶ国際ビジネス事情	1前			2		○								1	
			英語で学ぶ日本の社会A	1前			2		○								1	
			英語で学ぶ日本の社会B	1前			2		○								1	
			仏教SDGs概論	1後			2		○			1		1			6	オムニバス
			アントレプレナーシップ入門	1後			2		○								1	
			テクノロジーと事業創出	2後			2		○								2	オムニバス
			ソーシャルインパクト概論	2後			2		○								2	オムニバス
			協創イノベーションラボ(PBL型企業連携)	2後			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
教養教育科目	教養科目	アカデミック・ライティング入門	1前			2		○								1	
		ボランティア・NPO入門	1前			2		○								13	オムニバス
		仏教美術(イコノロジー)入門A	2前			2		○								1	
		仏教美術(イコノロジー)入門B	2後			2		○								1	
		サンスクリット語仏典入門A1	2前			2		○								1	
		サンスクリット語仏典入門A2	2後			2		○								1	
		チベット語仏典入門A1	2前			2		○								1	
		チベット語仏典入門A2	2後			2		○								1	
		古典文学講読(A)A	2前			2		○								1	
		古典文学講読(A)B	2後			2		○								1	
		近代文学講読(C)A	2前			2		○								1	
		近代文学講読(C)B	2後			2		○								1	
		情報出版学講読(B)A	2前			2		○								1	
		脳と心	2後			2		○								1	
		仏教と心理学	2後			2		○								2	オムニバス
		経済英語Ⅰ	1後			2		○								1	
		経済英語Ⅱ	2前			2		○								1	
		経済英語Ⅲ	2後			2		○								1	
		経済社会論入門	1後			2		○								1	
		地域産業活性化プロジェクトⅠ(京の老舗と不易流行)	2前			4		○								1	
		地域産業活性化プロジェクトⅡ(京の老舗と不易流行)	2後			2		○								1	
		留学英語Ⅰ	2前			4		○								1	
		留学英語Ⅱ	2前			2		○								1	
		留学英語Ⅲ	2後			4		○								1	
		留学英語Ⅳ	2後			2		○								1	
		経営科学	3前			2		○								1	
		社会データ分析	2後			2		○								1	
		ワークルール入門	2後			2		○								1	
		消費者問題論	2前			2		○								1	
		比較社会政策	2後			2		○								1	
		公務員論	2後			2		○								1	
		国際ビジネス論	3前			2		○								1	
		財政学	2前			2		○								1	
		地方財政論	2後			2		○								1	
		地域レジリエンス論	2前			2		○								1	
		地域課題発見演習	2前			4			○							1	
		会話分析入門A	2前			2		○								1	
		会話分析入門B	2後			2		○								1	
		言語習得論	2後			2		○								1	
		異文化間コミュニケーション論	2前			2		○								1	
		Introduction to Sociolinguistics	2前			2		○								1	
		国際関係入門	2前			2		○								1	
		政治思想概論	2前			2		○								1	
		国際開発協力論	2前			2		○								1	
		Introduction to Cultural Anthropology	2後			2		○								1	
		文化遺産学	2後			2		○								1	
		南アジアの言語	2前			2		○								1	
		グローバリゼーションとアフリカ	2前			2		○								1	
		グローバリゼーションと東アジア	2後			2		○								1	
		グローバリゼーションと南アジア	2前			2		○								1	
		グローバリゼーションとヨーロッパ	2後			2		○								1	
		グローバリゼーションとラテンアメリカ	2前			2		○								1	
		グローバル・ガバナンス論	2後			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
教養教育科目	教養科目	宗教文化学入門	2前			2		○								1	
		日本語教育入門	2後			2		○								1	
		世界文学入門	2前			2		○								1	
		都市計画入門	2前			2		○								1	
		自然人類学入門	2前			2		○								1	
		差別と排除の社会学	2後			2		○								1	
		市民社会の歴史と現在	3前			2		○								1	
		社会学の歴史と理論	3後			2		○								1	
		アートと社会	3前			2		○								1	
		宗教社会学	2後			2		○								1	
		子ども社会学	2前			2		○								1	
		社会参画技法	2後			2		○								1	
		社会起業演習A	4前			2			○							1	
		社会起業演習B	4後			2			○							1	
		音楽社会学	2前			2		○								1	
		カルチュラルスタディーズ	2後			2		○								1	
		情報社会論	2後			2		○								1	
		デジタルメディア論	2前			2		○								1	
		農業を支える植物細胞の力	2前			2		○								1	
		英語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	
		英語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
		Global Understanding in English	3前			4		○								1	メディア
		Forum	3前			2		○								1	
		自然保護論	3後			2		○								1	
		English language (RISE)	1前			12		○								1	
		Cultural Adaptation (RISE)	1前			2		○								1	
		Global PBL (RISE)	1前			2		○								1	
		Social Civic Engagement (RISE)	1前			2		○								1	
		Applied Cultural Adaptation (RISE)	1前			2		○								1	
		Advanced Global PBL (RISE)	1前			4		○								1	
		小計（97科目）	－	－	0	216	0	－			2	1	1	0	0	94	
専攻科目	専門基礎科目	情報基礎	1①	○	2			○				1	1				共同
		フレッシャーズセミナー	1前	○		2		○			6	4	2				共同
		キャリア実習・実習指導	1前			2				○	1						
		理工学のすすめ	1後	○		2		○			3	6	2				ｵﾑﾆﾊﾞｽ・メディア
		ＡＳＥＡＮグローバルプログラム	2前			2				○	1	1					共同
		デザインシンキング	2後			2			○		1						
		グローバル人材育成プログラム	3前			2				○	1						
		プロジェクトリサーチⅠ	3前			1				○	1	2	2			1	共同
		プロジェクトリサーチⅡ	3前			2				○	1	2	2			1	共同
		先端理工キャリア実習Ⅰ	3前			1				○	1						
		先端理工インターンシップⅠ	3前			1				○	1						
		先端理工キャリア実習Ⅱ	3前			2				○	1	1					
		先端理工インターンシップⅡ	3前			2				○	1	1					
		メディア処理基礎	1②	○	2			○			1						
		ネットワーク基礎	1前	○	2			○			1						
		微分積分・演習	1前		4				○							1	
		情報システム基礎	2前	○	2			○				1					
		プログラミング基礎演習Ⅰ	1③	○	2				○			1	1				共同
		プログラミング基礎演習Ⅱ	1④	○	2				○			1	1				共同
		確率・統計	1後			2		○								1	
		ディジタル信号処理	2後	○		2		○			1						メディア
		ソフトウェア基礎	1後	○	2			○			1						

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	専門基礎科目	知的財産概論	1後			2		○								2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ハードウェア基礎	2前	○	2			○					1				
		仮想メディアシステム	2前	○		2		○				1					
		情報とセキュリティ	1前	○		2		○			1						
		線形代数・演習	2前	○	4				○			1					
		データ構造とアルゴリズム・演習	2前	○	4				○		1						
		システムソフトウェア	2前	○		2		○						1			
		情報学概論	2前	○		2		○			1						
		人間工学概論	2前	○		2		○				1					
		情報と職業	2前			2		○								1	
		情報数学基礎	1後			2		○								1	
		データベース	2前	○		2		○				1					
		小計（34科目）	－	－	28	43	0	－			11	9	6	1	0	4	
	専門応用科目	ヒューマンコンピュータインタラクション	2前	○		2		○			1						
		多様なプログラミング言語	2前	○		2		○					1				
		コンピュータビジョン	2前	○		2		○					1				
		知能情報メディア演習	2後	○	4				○		5	4	3	1			共同
		音声・音響メディア処理論	2後	○		2		○			1						
		環境としての情報技術	3前	○		2		○			1						
		ニューロとＡＩ	2後	○		2		○			1						
		言語メディア処理論	2後	○		2		○					1				
		ＣＧとＶＲ	2後	○		2		○				1					
		データインテリジェンス	2後	○		2		○								1	
		ネットワーク構成論	2後	○		2		○				1					
		実践プログラミング・演習	3①	○		2			○			1		1			共同
		科学技術計算・演習	3①	○		2			○							1	
		画像メディア処理論	3①	○		2		○			1						メディア
		ソフトウェア開発法	3前	○		2		○				1					
		応用アルゴリズム	3前	○		2		○			1						
		ネットワークシステム・演習	3後	○	4				○			1					
		知能情報メディアセミナー	3後	○	2				○		6	4	3				
		科学技術英語	4通	○	2			○			6	4	3				
		特別研究	4通	○	6					○	6	4	3				
		小計（20科目）	－	－	18	30	0	－			6	4	3	1	0	0	
	専門関連科目	アルゴリズム及び演習Ⅰ	2③			2			○		1						
		シミュレーション及び演習	2④			2			○		1						
		アルゴリズム及び演習Ⅱ	2④			2			○		1						
		微分方程式Ⅱ	2後			2			○		1						
		質点系の力学	2後			2			○		1						
		多変量解析及び演習	2後			3			○			1					
		複素解析Ⅰ	3①			1			○			1					
		位相入門Ⅰ	3①			1			○		1						
		代数入門Ⅰ	3①			1			○			1					
		幾何入門	3①			1			○			1					
		現象の数理モデルⅠ	3①			1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅰ	3①			1			○		1						
		確率モデル及び演習	3④			2			○				1				
		オブジェクト指向及び演習	3①			2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅠ	3①			1			○		1						
		機械学習Ⅰ	3①			1			○			1					
		数理・情報科学の学びと社会	3①			1			○			1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		複素解析Ⅱ	3②			1			○			1					
		位相入門Ⅱ	3②			1			○		1						

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
専攻科目	専門関連科目	代数入門Ⅱ	3②			1			○			1					
		ベクトル解析入門	3②			1			○			1					
		現象の数理モデルⅡ	3②			1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅱ	3②			1			○		1						
		グラフィックス及び演習	3②			2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅡ	3②			1			○		1						
		機械学習Ⅱ	3②			1			○			1					
		応用幾何	3③			1			○			1					
		波動現象の数理Ⅰ	3③			1			○			1					
		確率統計Ⅱ	3③			1			○				1				
		ネットワーク及び演習	3③			2			○				1	1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		言語と計算Ⅰ	3③			1			○		1						
		最適化の数理Ⅰ	3③			1			○							1	
		波動現象の数理Ⅱ	3④			1			○			1					
		確率統計Ⅲ	3④			1			○				1				
		言語と計算Ⅱ	3④			1			○		1						
		最適化の数理Ⅱ	3④			1			○							1	
		確率および統計・演習	2②			2			○		1						
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2③			2			○			1					メディア
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	2④			1			○		1						
		電子物性	3①			1		○			1						
		半導体デバイス工学	3①			1		○								1	
		光デバイス	3①			1		○				1					
		ナノエレクトロニクス工学	3①			1		○			1						
		伝送線路	3①			1		○			1						
		高周波電子回路	3①			1		○			1						
		組込みシステム	3①			1		○				1					
		統計的機械学習	3①			1		○			1						
		認知科学	3①			1		○			1						
		群知能	3①			1		○			1						
		画像情報処理	3①			1		○				1					
		データサイエンス	3①			1		○					1				
		電子材料	3②			1		○			1						
		パワーエレクトロニクス	3②			1		○			1						
		ニューラルネットワーク	3②			1		○			1						
		知能ロボット	3②			1		○				1					
		応用プログラミング・演習	3②			1			○				1				
		人工知能	3②			1		○			1						
		情報セキュリティ	3②			1		○				1					
		アナログ電子回路	3③			2		○				1					
		薄膜デバイス工学	3③			2		○			1					1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		電子工学	3③			2		○			1						
		電磁波工学	3③			1		○			1						
		符号理論	3③			2		○			1						
		情報数学	3③			1		○			1						
		計算機制御・演習	3③			1			○		1						
		計測工学	3④			1		○			1						
		回路設計・演習	3④			1			○		1						
		結晶工学	3④			2		○								1	隔年
		量子力学	3④			2		○								1	隔年
		無線通信工学	3④			2		○			1						
		ディジタル信号処理・演習	3④			2			○				1				
		ネットワーク通信システム	3④			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
専攻科目	専門関連科目	計算機アーキテクチャ	3④			1		○				1					
		材料力学基礎	2前			2		○			1						
		流体工学	2前			2		○			1						
		振動工学	2後			2		○				1					
		材料力学応用	2後			2		○			1						
		機械材料学	2④			2		○				1					
		粘性流体力学	2③			1		○					1				
		熱力学	2後			2		○			1						
		ディジタル電子制御	2後			2		○			1						
		機構学	2後			2		○					1				
		航空流体力学	2④			1		○			1						
		弾性構造力学	3前			2		○			1						
		計算力学実習	3前			2				○	1						
		機械要素	3①			1		○			1						
		機械加工学	3②			2		○			1						
		航空・宇宙工学	3①			1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		熱工学	3前			2		○					1				
		計測工学Ⅰ	3①			1		○						1			
		制御系設計論	3前			2		○				1					
		メカトロニクス	3前			2		○			1						
		ロボット実習	3①			1				○	2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		機械設計	3②			1		○			1						
		自動車工学	3②			1		○					1				
		計測工学Ⅱ	3②			1		○					1				
		バイオメカニクス	3③			1		○			1						
		材料強度学	3後			2		○			1						
		伝熱工学	3後			2		○			1						
		ロボット工学	3後			2		○				1					
		解析力学	3④			1		○			1						
		化学と社会	1前			2		○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		資源・エネルギーと環境	1後			2		○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学と安全管理	2前			2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生化学Ⅰ	2③			1		○			1						
		量子材料科学Ⅰ	2③			1		○			1						
		電気化学Ⅰ	2③			1		○				1					
		結晶学入門Ⅰ	2③			1		○					1				
		高分子化学Ⅰ	2③			1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅰ	2③			1		○			1						
		分析化学	2③			1		○				1					
		生化学Ⅱ	2④			1		○			1						
		量子材料科学Ⅱ	2④			1		○				1					
		電気化学Ⅱ	2④			1		○				1					
		結晶学入門Ⅱ	2④			1		○					1				
		高分子化学Ⅱ	2④			1		○			1						
		機器分析化学	2④			1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅱ	2④			1		○			1						
		化学工学	2後			2		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅰ	3①			1		○				1					
		循環系グリーンケミストリー	3①			1		○				1					
		半導体材料Ⅰ	3①			1		○				1					
		固体物性化学Ⅰ	3①			1		○					1				
		エネルギー変換工学Ⅰ	3①			1		○			1						
		医薬品のプロセス化学	3①			1		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
専攻科目	専門関連科目	分子集合化学	3①			1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	3①			1		○			1						
		バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	3①			1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅰ	3①			1		○			1						
		界面化学	3①			1		○			1						
		食と分子科学	3①			1		○				1					
		半導体材料Ⅱ	3②			1		○				1					
		固体物性化学Ⅱ	3②			1		○					1				
		アドバンスト電気化学	3②			1		○				1					
		エネルギー変換工学Ⅱ	3②			1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	3②			1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅱ	3②			1		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅱ	3②			1		○				1					
		バイオマテリアルⅠ	3③			1		○			1						
		構造解析学	3③			1		○					1				
		光化学Ⅰ	3③			1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅰ	3③			1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅰ	3③			1		○			1						
		高分子材料工学Ⅰ	3③			1		○			1						
		ナノマテリアル	3③			1		○			1						
		バイオマテリアルⅡ	3④			1		○			1						
		光化学Ⅱ	3④			1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅱ	3④			1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅱ	3④			1		○			1						
		高分子材料工学Ⅱ	3④			1		○			1						
		反応工学	3④			1		○			1						
		環境実習ＩＡ	1①			1				○	3	1	1				共同
		地域環境概論Ａ	1②			1		○								1	
		生物学概論	1前			2		○								1	
		環境生態工学概論	1前			2		○			5	3	3			1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地球環境概論Ａ	1③			1		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地域環境概論Ｂ	1②			1		○								1	
		地球環境概論Ｂ	1④			1		○				1					
		生態学概論Ⅰ	1③			1		○			3	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ＳＤＧｓ概論	1③			1		○								1	
		水環境科学	1②			1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		里山の生態学	1②			1		○			2	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		大気環境科学	1④			1		○			1						
		進化学	1④			1		○			1						
		生物資源利用	1③			1		○			2		1			1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態学概論Ⅱ	1④			1		○			3		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ⅰ	2①			1		○			1						
		気象学	2①			1		○								1	
		土木工学Ⅰ	2①			1		○					1				
		測量学及び演習	2①			2		○								2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境実習ⅡＡ	2②			1				○	1	1					共同
		自然の浄化機構	2①			1		○				1					
		環境社会学	2①			1		○								1	
		環境倫理学	2①			1		○								1	
		社会調査法及び演習	2①			2		○								1	
		保全生態学	2①			1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境経済学	2②			1		○								1	
		生理生態学	2③			1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
専攻科目	専門関連科目	環境調査	2①			1		○			1	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ⅱ	2②			1		○			1						
		製図学及び演習	2②			2		○								1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土木工学Ⅱ	2②			1		○					1				
		環境政策論	2②			1		○								1	
		環境移動現象論	2③			1		○			1						
		廃棄物管理学Ⅰ	2③			1		○					1			1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境微生物学	2③			1		○				1					
		環境計測学	2②			1		○			1						
		先端技術	2③			1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		燃焼工学	2④			1		○					1				
		廃棄物管理学Ⅱ	2④			1		○					1			1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		水理学	2③			1		○			1						
		データサイエンス及び演習	2④			1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土壌地質学	2②			1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境分析化学実験	2④			1				○			1			1	共同
		水域生態学	2④			1		○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		排ガス処理工学	3①			1		○			1						
		空気調和工学	3①			1		○			1						
		資源循環論	2③			1		○								1	
		水環境施設実験	3①			1				○		1					
		廃棄物・大気環境施設実験	3①			1				○	1		1				共同
		水処理工学	2④			1		○			1						
		環境毒性学	3①			1		○				1					
		地理情報学	3①			1		○								1	
		資源管理学及び演習	2④			1		○			1						
		群集生態学	3①			1		○			1						
		水道工学	3③			1		○					1				
		水処理施設設計	3③			1		○			1						
		環境アセスメントＢ	3③			1		○			1						
		下水道工学	3④			1		○					1				
		廃棄物処理施設設計	3④			1		○					1				
		数値計算法基礎及び演習	3④			1		○			1						
		環境アセスメントＡ	3④			1		○				1					
		景観生態学	3④			1		○								1	
		微生物生態学	3④			1		○			1						
		応用生態学	3④			1		○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（215科目）	－	－	0	263	0	－			34	14	9	2	0	15	
諸課程科目		情報科教育法Ⅰ	3前				2	○			1						
		情報科教育法Ⅱ	3後				2	○			1						
		教職論	2前				2	○								1	
		学校教育社会学	2後				2	○								1	
		教育課程論	2後				2	○			1						
		特別支援教育概論	2前				2	○								1	
		道徳教育指導法	3後				2	○								1	
		総合的な学習の時間・特別活動論	3前				2	○								1	
		教育の方法と技術(ICT活用含む)	3前				2	○			1						
		生徒・進路指導論	2後				2	○								1	
		教育相談	3後				2	○								1	
		教育実習指導Ⅰ	4前				1	○			1					1	共同
		教育実習指導ⅡＡ	4通				4			○	1					1	共同
		教育実習指導ⅡＢ	4通				2			○	1					1	共同
		教職実践演習(中・高)	4後				2		○		1						

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
諸課程科目	介護等体験	3通				2			○	1					1	共同
	真宗学概論	2通				4	○								1	
	仏教学概論	2通				4	○					1				
	真宗史	1通				4	○								1	
	勤式	1通				4	○								3	隔年・オムニバス
	宗門法規	1前				2	○								1	隔年
	教化法	1通				4	○								4	隔年・オムニバス
	(本山教師)仏教史	1前				1	○								2	オムニバス
	(本山教師)宗教概説	1前				1	○								1	
	博物館概論	1前				2	○								1	
	博物館資料論	1後				2	○				1				2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	博物館経営論	2前				2	○								1	
	博物館情報・メディア論	2後				2	○								1	
	博物館資料保存論	2後				2	○				1				2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	博物館展示論	2後				2	○								1	
	博物館教育論	1前				2	○								1	
	生涯学習概論	1前				2	○								1	
	博物館実習	3通				3			○		2				1	共同
	小計（33科目）	－	－	0	0	76	－			1	2	1	0	0	28	
合計（538科目）		－	－	56	793	76	－			49	18	14	3	0	267	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から28単位以上（必修12単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系科目より各2単位）を含む）、専門基礎科目から38単位以上（必修28単位を含む）、専門応用科目から40単位以上（必修18単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：1～2年次44単位（年間）、3～4年次48単位（年間））	１学年の学期区分	4学期
	１学期の授業期間	8週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A	1前	○	2			○								3	
		仏教の思想B	1後	○	2			○								3	
		歎異抄の思想Ⅰ	2前			2		○								1	
		歎異抄の思想Ⅱ	2後			2		○								1	
		小計（4科目）	－	－	4	4	0	－			0	0	0	0	0	4	
	言語科目	英語総合1(A)	1前	○	1			○			1					10	
		英語総合1(B)	1前	○	1			○				1				10	
		英語総合2(A)	1後	○	1			○			1					10	
		英語総合2(B)	1後	○	1			○				1				10	
		英語総合3	2前	○	1			○			2	1				8	
		英語総合4	2後	○	1			○			2	1				8	
		英語セミナーA	1前			2		○								2	
		英語セミナーB	2前			2		○								1	
		英語セミナーC	2前			2		○								1	
		英語セミナーD	2前			2		○								1	
		英語セミナーE	2前			2		○			1						
		英語セミナーF	2前			2		○			1						
		英語セミナーG	1前			2		○								1	
		ドイツ語ＩA	1前			1		○								2	
		ドイツ語ＩB	1前			1		○								1	
		ドイツ語ⅡA	1後			1		○								1	
		ドイツ語ⅡB	1後			1		○								1	
		フランス語ＩA	1前			1		○								2	
		フランス語ＩB	1前			1		○								2	
		フランス語ⅡA	1後			1		○								1	
		フランス語ⅡB	1後			1		○								1	
		中国語ＩA	1前			1		○								3	
		中国語ＩB	1前			1		○								2	
		中国語ⅡA	1後			1		○								3	
		中国語ⅡB	1後			1		○								2	
		コリア語ＩA	1前			1		○								2	
		コリア語ＩB	1前			1		○								2	
		コリア語ⅡA	1後			1		○								1	
		コリア語ⅡB	1後			1		○								1	
		スペイン語ＩA	1前			1		○								1	
		スペイン語ＩB	1前			1		○								1	
		スペイン語ⅡA	1後			1		○								1	
		スペイン語ⅡB	1後			1		○								1	
		ドイツ語セミナーＩA	2前			2		○								1	
		ドイツ語セミナーＩB	2後			2		○								1	
		フランス語セミナーＩA	2前			2		○								1	
		フランス語セミナーＩB	2後			2		○								1	
		中国語セミナーＩA	2前			2		○								2	
		中国語セミナーＩB	2後			2		○								2	
		コリア語セミナーＩA	2前			2		○								1	
		コリア語セミナーＩB	2後			2		○								1	
		スペイン語セミナーＩA	2前			2		○								1	
		スペイン語セミナーＩB	2後			2		○								1	
		日本語	1前			1		○								1	
		小計（44科目）	－	－	6	55	0	－			2	1	0	0	0	37	

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1前	○		2		○								1	
			倫理学入門	1前	○		2		○								1	
			倫理学A	1前	○		2		○								1	
			倫理学B	1後			2		○								1	
			クリティカル・シンキング	1前	○		2		○								1	
			宗教学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			宗教の世界	1前	○		2		○								1	
			日本の文学	1前	○		2		○								1	
			アジアの文学A	1前	○		2		○								1	
			アジアの文学B	1前	○		2		○								1	
			西洋の文学A	1前	○		2		○								1	
			西洋の文学B	1後	○		2		○								1	
			言語学入門	1前	○		2		○								1	
			歴史学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			日本の歴史	1前	○		2		○								1	
			日本の文化	1前	○		2		○								1	メディア
			アジアの歴史	1前	○		2		○								1	メディア
			アジアの文化	2前			2		○								1	メディア
			西洋の歴史	1前	○		2		○								1	
			心理学入門	1前	○		2		○								1	
			心理学A	2前			2		○								2	
			心理学B	2後			2		○								2	
			教育原論A	1前	○		2		○								1	
			教育原論B	1後	○		2		○								1	
			学習・発達論A	2前			2		○								1	
			学習・発達論B	2後			2		○								1	
			小計（26科目）	－	－	0	52	0	－			0	0	0	0	0	16	
		社会科学系科目	日本国憲法	1前	○		2		○								1	
			法学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			政治学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			地理学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			経済学のすすめ	1前	○		2		○								2	
			経営学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			国際学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			文化人類学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会調査のすすめ	1前	○		2		○								1	
			社会統計学のすすめ	1前	○		2		○								1	
			人権論A	1前	○		2		○								2	
			人権論B	1後	○		2		○								2	
			現代社会とメディア	2前			2		○								1	メディア
			現代社会と福祉	2前			2		○								2	
			現代社会と法	2前			2		○								1	
			現代社会と労働	2前			2		○								1	
			現代社会の諸問題	2前			2		○								1	
			環境と社会	2前			2		○								1	
			平和学A	2前			2		○								1	
			ジェンダー論	2前			2		○								1	
			国際社会論	2前			2		○								1	
			地域論	2前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	企業と会計	2前			2		○								1	
			社会思想史	2前			2		○								1	
			情報倫理	2前			2		○			1					1	オムニバス
			情報社会とメディア	1前			2		○			2						オムニバス
			データサイエンス・AI入門	1前			2		○								1	
			小計（28科目）	－	－	0	56	0	－			2	0	0	0	0	23	
		自然科学系科目	生活の中の数学	1前	○		2		○								1	
			生活の中の統計技術	1前	○		2		○					1				
			生活の中の化学	1前	○		2		○			1						
			生活の中の物理	1前	○		2		○			1						
			生活の中の生物学	1前	○		2		○								1	
			生活の中の地学	1後	○		2		○								1	
			現代の技術	1後			2		○			2						オムニバス
			生命と科学	2前	○		2		○								1	
			自然観察法	2前			2		○			3	2	1				オムニバス
			里山学	1前			2		○			2	3				7	オムニバス
			植物の自然誌	1後			2		○								1	
			環境の科学	2前			2		○								1	
			人類の科学	2前			2		○								1	
			情報と人間	1後			2		○				1					
			現代社会と栄養	1前			2		○								2	
			小計（15科目）	－	－	0	30	0	－			8	4	2	0	0	16	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2前			2		○								1	
			現代社会とスポーツ	1後			2		○								1	
			スポーツ技術学A	1前	○		1				○	1					4	
			スポーツ技術学B	1後	○		1				○	1					4	
			スポーツ文化論	2前			2		○								1	
			スポーツ科学のすすめ	1前			2		○			1					3	オムニバス
			小計（6科目）	－	－	0	10	0	－			1	0	0	0	0	9	
			教養教育科目特別講義	1前			2		○				1				7	オムニバス
			アカデミック・ライティング入門	1前			2		○								1	
			農業を支える植物細胞の力	2前			2		○								1	
			小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			0	1	0	0	0	9	
専攻科目	専門基礎科目		情報基礎	1①	○	2			○				1	1				共同
			フレッシャーズセミナー	1前	○		2		○			6	4	2				共同
			キャリア実習・実習指導	1前			2				○	1						
			理工学のすすめ	1後	○		2		○			3	6	2				ｵﾑﾆﾊﾞｽ・メディア
			ＡＳＥＡＮグローバルプログラム	2前			2				○	1	1					共同
			デザインシンキング	2後			2			○		1						
			グローバル人材育成プログラム	3前			2				○	1						
			プロジェクトリサーチⅠ	3前			1				○	1	2	2			1	共同
			プロジェクトリサーチⅡ	3前			2				○	1	2	2			1	共同
			先端理工キャリア実習Ⅰ	3前			1				○	1						
			先端理工インターンシップⅠ	3前			1				○	1						
			先端理工キャリア実習Ⅱ	3前			2				○	1	1					
			先端理工インターンシップⅡ	3前			2				○	1	1					
			メディア処理基礎	1②	○	2			○			1						
			ネットワーク基礎	1前	○	2			○			1						
			微分積分・演習	1前		4				○							1	
			情報システム基礎	2前	○	2			○				1					
			プログラミング基礎演習Ⅰ	1③	○	2				○			1	1				共同

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	専門基礎科目	プログラミング基礎演習Ⅱ	1④	○	2				○			1	1				共同
		確率・統計	1後			2		○								1	
		ディジタル信号処理	2後	○		2		○			1						メディア
		ソフトウェア基礎	1後	○	2			○			1						
		知的財産概論	1後			2		○								2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ハードウェア基礎	2前	○	2			○					1				
		仮想メディアシステム	2前	○		2		○				1					
		情報とセキュリティ	1前	○		2		○			1						
		線形代数・演習	2前	○	4				○			1					
		データ構造とアルゴリズム・演習	2前	○	4				○		1						
		システムソフトウェア	2前	○		2		○						1			
		情報学概論	2前	○		2		○			1						
		人間工学概論	2前	○		2		○				1					
		情報と職業	2前			2		○								1	
		情報数学基礎	1後			2		○								1	
		データベース	2前	○		2		○				1					
		小計（34科目）	－	－	28	43	0	－			11	9	6	1	0	4	
	専門応用科目	ヒューマンコンピュータインタラクション	2前	○		2		○			1						
		多様なプログラミング言語	2前	○		2		○					1				
		コンピュータビジョン	2前	○		2		○					1				
		知能情報メディア演習	2後	○	4				○		5	4	3	1			共同
		音声・音響メディア処理論	2後	○		2		○			1						
		環境としての情報技術	3前	○		2		○			1						
		ニューロとＡＩ	2後	○		2		○			1						
		言語メディア処理論	2後	○		2		○					1				
		ＣＧとＶＲ	2後	○		2		○				1					
		データインテリジェンス	2後	○		2		○								1	
		ネットワーク構成論	2後	○		2		○				1					
		実践プログラミング・演習	3①	○		2			○			1		1			共同
		科学技術計算・演習	3①	○		2			○							1	
		画像メディア処理論	3①	○		2		○			1						メディア
		ソフトウェア開発法	3前	○		2		○				1					
		応用アルゴリズム	3前	○		2		○			1						
		ネットワークシステム・演習	3後	○	4				○			1					
		知能情報メディアセミナー	3後	○	2				○		6	4	3				
		科学技術英語	4通	○	2			○			6	4	3				
		特別研究	4通	○	6					○	6	4	3				
		小計（20科目）	－	－	18	30	0	－			6	4	3	1	0	0	
	専門関連科目	アルゴリズム及び演習Ⅰ	2③			2			○		1						
		シミュレーション及び演習	2④			2			○		1						
		アルゴリズム及び演習Ⅱ	2④			2			○		1						
		微分方程式Ⅱ	2後			2			○		1						
		質点系の力学	2後			2			○		1						
		多変量解析及び演習	2後			3			○			1					
		複素解析Ⅰ	3①			1			○			1					
		位相入門Ⅰ	3①			1			○		1						
		代数入門Ⅰ	3①			1			○			1					
		幾何入門	3①			1			○			1					
		現象の数理モデルⅠ	3①			1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅰ	3①			1			○		1						
		確率モデル及び演習	3④			2			○				1				

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
専攻科目	専門関連科目	オブジェクト指向及び演習	3①			2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅠ	3①			1			○		1						
		機械学習Ⅰ	3①			1			○			1					
		数理・情報科学の学びと社会	3①			1			○			1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		複素解析Ⅱ	3②			1			○			1					
		位相入門Ⅱ	3②			1			○		1						
		代数入門Ⅱ	3②			1			○			1					
		ベクトル解析入門	3②			1			○			1					
		現象の数理モデルⅡ	3②			1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅱ	3②			1			○		1						
		グラフィックス及び演習	3②			2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅡ	3②			1			○		1						
		機械学習Ⅱ	3②			1			○			1					
		応用幾何	3③			1			○			1					
		波動現象の数理Ⅰ	3③			1			○			1					
		確率統計Ⅱ	3③			1			○				1				
		ネットワーク及び演習	3③			2			○				1	1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		言語と計算Ⅰ	3③			1			○		1						
		最適化の数理Ⅰ	3③			1			○							1	
		波動現象の数理Ⅱ	3④			1			○			1					
		確率統計Ⅲ	3④			1			○				1				
		言語と計算Ⅱ	3④			1			○		1						
		最適化の数理Ⅱ	3④			1			○							1	
		確率および統計・演習	2②			2			○		1						
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2③			2			○			1					メディア
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	2④			1			○		1						
		電子物性	3①			1		○			1						
		半導体デバイス工学	3①			1		○								1	
		光デバイス	3①			1		○				1					
		ナノエレクトロニクス工学	3①			1		○			1						
		伝送線路	3①			1		○			1						
		高周波電子回路	3①			1		○			1						
		組込みシステム	3①			1		○				1					
		統計的機械学習	3①			1		○			1						
		認知科学	3①			1		○			1						
		群知能	3①			1		○			1						
		画像情報処理	3①			1		○				1					
		データサイエンス	3①			1		○					1				
		電子材料	3②			1		○			1						
		パワーエレクトロニクス	3②			1		○			1						
		ニューラルネットワーク	3②			1		○			1						
		知能ロボット	3②			1		○				1					
		応用プログラミング・演習	3②			1			○				1				
		人工知能	3②			1		○			1						
		情報セキュリティ	3②			1		○				1					
		アナログ電子回路	3③			2		○				1					
		薄膜デバイス工学	3③			2		○			1					1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		電子工学	3③			2		○			1						
		電磁波工学	3③			1		○			1						
		符号理論	3③			2		○			1						
		情報数学	3③			1		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	専門関連科目	計算機制御・演習	3③			1			○		1						
		計測工学	3④			1		○			1						
		回路設計・演習	3④			1			○		1						
		結晶工学	3④			2		○								1	隔年
		量子力学	3④			2		○								1	隔年
		無線通信工学	3④			2		○			1						
		ディジタル信号処理・演習	3④			2			○				1				
		ネットワーク通信システム	3④			2		○								1	
		計算機アーキテクチャ	3④			1		○				1					
		材料力学基礎	2前			2		○			1						
		流体工学	2前			2		○			1						
		振動工学	2後			2		○				1					
		材料力学応用	2後			2		○			1						
		機械材料学	2④			2		○				1					
		粘性流体力学	2③			1		○					1				
		熱力学	2後			2		○			1						
		ディジタル電子制御	2後			2		○			1						
		機構学	2後			2		○					1				
		航空流体力学	2④			1		○			1						
		弾性構造力学	3前			2		○			1						
		計算力学実習	3前			2				○	1						
		機械要素	3①			1		○			1						
		機械加工学	3②			2		○			1						
		航空・宇宙工学	3①			1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		熱工学	3前			2		○					1				
		計測工学Ⅰ	3①			1		○						1			
		制御系設計論	3前			2		○				1					
		メカトロニクス	3前			2		○			1						
		ロボット実習	3①			1				○	2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		機械設計	3②			1		○			1						
		自動車工学	3②			1		○					1				
		計測工学Ⅱ	3②			1		○					1				
		バイオメカニクス	3③			1		○			1						
		材料強度学	3後			2		○			1						
		伝熱工学	3後			2		○			1						
		ロボット工学	3後			2		○				1					
		解析力学	3④			1		○			1						
		化学と社会	1前			2		○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		資源・エネルギーと環境	1後			2		○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学と安全管理	2前			2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生化学Ⅰ	2③			1		○			1						
		量子材料科学Ⅰ	2③			1		○			1						
		電気化学Ⅰ	2③			1		○				1					
		結晶学入門Ⅰ	2③			1		○					1				
		高分子化学Ⅰ	2③			1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅰ	2③			1		○			1						
		分析化学	2③			1		○				1					
		生化学Ⅱ	2④			1		○			1						
		量子材料科学Ⅱ	2④			1		○				1					
		電気化学Ⅱ	2④			1		○				1					
		結晶学入門Ⅱ	2④			1		○					1				

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専攻科目	専門関連科目	高分子化学Ⅱ	2④			1		○			1						
		機器分析化学	2④			1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅱ	2④			1		○			1						
		化学工学	2後			2		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅰ	3①			1		○				1					
		循環系グリーンケミストリー	3①			1		○				1					
		半導体材料Ⅰ	3①			1		○				1					
		固体物性化学Ⅰ	3①			1		○					1				
		エネルギー変換工学Ⅰ	3①			1		○			1						
		医薬品のプロセス化学	3①			1		○			1						
		分子集合化学	3①			1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	3①			1		○			1						
		バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	3①			1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅰ	3①			1		○			1						
		界面化学	3①			1		○			1						
		食と分子科学	3①			1		○				1					
		半導体材料Ⅱ	3②			1		○				1					
		固体物性化学Ⅱ	3②			1		○					1				
		アドバンスト電気化学	3②			1		○				1					
		エネルギー変換工学Ⅱ	3②			1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	3②			1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅱ	3②			1		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅱ	3②			1		○				1					
		バイオマテリアルⅠ	3③			1		○			1						
		構造解析学	3③			1		○					1				
		光化学Ⅰ	3③			1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅰ	3③			1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅰ	3③			1		○			1						
		高分子材料工学Ⅰ	3③			1		○			1						
		ナノマテリアル	3③			1		○			1						
		バイオマテリアルⅡ	3④			1		○			1						
		光化学Ⅱ	3④			1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅱ	3④			1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅱ	3④			1		○			1						
		高分子材料工学Ⅱ	3④			1		○			1						
		反応工学	3④			1		○			1						
		環境実習ＩＡ	1①			1				○	3	1	1			1	共同
		地域環境概論Ａ	1②			1		○								1	
		生物学概論	1前			2		○								1	
		環境生態工学概論	1前			2		○			5	3	3			1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地球環境概論Ａ	1③			1		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地域環境概論Ｂ	1②			1		○								1	
		地球環境概論Ｂ	1④			1		○				1					
		生態学概論Ⅰ	1③			1		○			3	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ＳＤＧｓ概論	1③			1		○								1	
		水環境科学	1②			1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		里山の生態学	1②			1		○			2	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		大気環境科学	1④			1		○			1						
		進化学	1④			1		○			1						
		生物資源利用	1③			1		○			2		1			1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態学概論Ⅱ	1④			1		○			3		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
専攻科目	専門関連科目	化学工学Ⅰ	2①			1		○			1						
		気象学	2①			1		○								1	
		土木工学Ⅰ	2①			1		○					1				
		測量学及び演習	2①			2		○								2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境実習ⅡＡ	2②			1				○	1	1					共同
		自然の浄化機構	2①			1		○				1					
		環境社会学	2①			1		○								1	
		環境倫理学	2①			1		○								1	
		社会調査法及び演習	2①			2		○								1	
		保全生態学	2①			1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境経済学	2②			1		○								1	
		生理生態学	2③			1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境調査	2①			1		○			1	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ⅱ	2②			1		○			1						
		製図学及び演習	2②			2		○								1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土木工学Ⅱ	2②			1		○					1				
		環境政策論	2②			1		○								1	
		環境移動現象論	2③			1		○			1						
		廃棄物管理学Ⅰ	2③			1		○					1			1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境微生物学	2③			1		○				1					
		環境計測学	2②			1		○			1						
		先端技術	2③			1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		燃焼工学	2④			1		○					1				
		廃棄物管理学Ⅱ	2④			1		○					1			1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		水理学	2③			1		○			1						
		データサイエンス及び演習	2④			1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土壌地質学	2②			1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境分析化学実験	2④			1				○			1			1	共同
		水域生態学	2④			1		○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		排ガス処理工学	3①			1		○			1						
		空気調和工学	3①			1		○			1						
		資源循環論	2③			1		○								1	
		水環境施設実験	3①			1				○		1					
		廃棄物・大気環境施設実験	3①			1				○	1		1				共同
		水処理工学	2④			1		○			1						
		環境毒性学	3①			1		○				1					
		地理情報学	3①			1		○								1	
		資源管理学及び演習	2④			1		○			1						
		群集生態学	3①			1		○			1						
		水道工学	3③			1		○					1				
		水処理施設設計	3③			1		○			1						
		環境アセスメントＢ	3③			1		○			1						
		下水道工学	3④			1		○					1				
		廃棄物処理施設設計	3④			1		○					1				
		数値計算法基礎及び演習	3④			1		○			1						
		環境アセスメントＡ	3④			1		○				1					
		景観生態学	3④			1		○								1	
		微生物生態学	3④			1		○			1						
		応用生態学	3④			1		○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（215科目）	－	－	0	263	0	－			34	14	9	2	0	15	

別記様式第２号（その２の１）

びわ湖大津キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
諸課程科目	情報科教育法Ⅰ	3前				2	○			1						
	情報科教育法Ⅱ	3後				2	○			1						
	教職論	2前				2	○								1	
	学校教育社会学	2後				2	○								1	
	教育課程論	2後				2	○			1						
	特別支援教育概論	2前				2	○								1	
	道徳教育指導法	3後				2	○								1	
	総合的な学習の時間・特別活動論	3前				2	○								1	
	教育の方法と技術(ICT活用含む)	3前				2	○			1						
	生徒・進路指導論	2後				2	○								1	
	教育相談	3後				2	○								1	
	教育実習指導Ⅰ	4前				1	○			1					1	共同
	教育実習指導ⅡA	4通				4			○	1					1	共同
諸課程科目	教育実習指導ⅡB	4通				2			○	1					1	共同
	教職実践演習(中・高)	4後				2		○		1						
	介護等体験	3通				2			○	1					1	共同
	真宗学概論	2通				4	○								1	
	仏教学概論	2通				4	○					1				
	真宗史	1通				4	○								1	
	勤式	1通				4	○								3	隔年・オムニバス
	宗門法規	1前				2	○								1	隔年
	教化法	1通				4	○								4	隔年・オムニバス
	博物館情報・メディア論	2後				2	○								1	
	博物館実習	3通				3			○		2				1	共同
	小計（24科目）	－	－	0	0	60	－			1	2	1	0	0	18	
合計（419科目）		－	－	56	549	60	－			49	18	14	3	0	146	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から28単位以上（必修12単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系科目より各2単位）を含む）、専門基礎科目から38単位以上（必修28単位を含む）、専門応用科目から40単位以上（必修18単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：1～2年次44単位（年間）、3～4年次48単位（年間））	１学年の学期区分	4学期
	１学期の授業期間	8週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

京都深草キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養教育科目	「仏教の思想」科目	歎異抄の思想Ⅰ	2前			2		○								2	
		歎異抄の思想Ⅱ	2後			2		○								2	
		仏教の世界	2前			2		○					1			10	オムニバス、メディア
		真宗教団史	2前			4		○								1	
		小計（4科目）	－	－	0	10	0	－			0	0	1	0	0	12	
	言語科目	英語セミナーA	1前			2		○								5	
		英語セミナーD	2前			2		○								1	
		英語セミナーG	1前			2		○								1	
		海外英語研修	1後			2		○								2	
		小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	9	
	教養科目 人文科学系科目	アジアの文学A	1前	○		2		○								1	
		アジアの文学B	1前	○		2		○								1	
		西洋の文学A	1前	○		2		○								3	
		西洋の文学B	1後	○		2		○								3	
		西洋の文学C	2前			2		○								1	
		西洋の文学D	2後			2		○								1	
		歴史学のすすめ	1前	○		2		○								1	
		アジアの文化	2前			2		○								2	
		グローバル・ヒストリー	2後			2		○								1	
		文化交流論	2後			2		○								1	
		小計（10科目）	－	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	11	
		現代社会の諸問題	2前			2		○								10	オムニバス、メディア
		データサイエンス・AI入門	1前			2		○			1					2	共同
		データサイエンス基礎	2前			2		○								1	
		AI基礎	2後			2		○								1	
		グローバル・シチズンシップA(公共性・コミュニティ)	2後			2		○								1	
		グローバル・シチズンシップB(民主主義)	2後			2		○								3	オムニバス
		グローバル・シチズンシップC(平和構築)	2後			2		○								1	
		グローバル・シチズンシップD(人間の安全保障)	2後			2		○								1	
		教養教育ゼミナール(社会科学)	2前			2			○							6	
		社会課題発見演習	1前			2			○							3	共同
		社会課題解決演習	2前			2			○							2	共同
		小計（11科目）	－	－	0	22	0	－			1	0	0	0	0	22	
		キャリア入門	1前			2		○			1					10	オムニバス、メディア
		キャリア・ディスカバリー	2後			2			○							1	
		みんなのコミュニケーションA	1前			2		○								7	
		みんなのコミュニケーションB	1前			2		○								1	
		Inclusive Communication	1前			2		○								3	
		みんなで学ぶ国際ビジネス事情	1前			2		○								1	
		英語で学ぶ日本の社会A	1前			2		○								1	
		英語で学ぶ日本の社会B	1前			2		○								1	
		仏教SDGs概論	1後			2		○			1		1			6	オムニバス
		アントレプレナーシップ入門	1後			2		○								1	
		テクノロジーと事業創出	2後			2		○								2	オムニバス
		ソーシャルインパクト概論	2後			2		○								2	オムニバス
		協創イノベーションラボ(PBL型企業連携)	2後			2		○								1	
		アカデミック・ライティング入門	1前			2		○								1	
		ボランティア・NPO入門	1前			2		○								13	オムニバス
		仏教美術(イコノロジー)入門A	2前			2		○								1	
		仏教美術(イコノロジー)入門B	2後			2		○								1	
		サンスクリット語仏典入門A1	2前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

京都深草キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
教養教育科目	教養科目	サンスクリット語仏典入門A2	2後			2		○								1	
		チベット語仏典入門A1	2前			2		○								1	
		チベット語仏典入門A2	2後			2		○								1	
		古典文学講読(A)A	2前			2		○								1	
		古典文学講読(A)B	2後			2		○								1	
		近代文学講読(C)A	2前			2		○								1	
		近代文学講読(C)B	2後			2		○								1	
		情報出版学講読(B)A	2前			2		○								1	
		脳と心	2後			2		○								1	
		仏教と心理学	2後			2		○								2	オムニバス
		経済英語Ⅰ	1後			2		○								1	
		経済英語Ⅱ	2前			2		○								1	
		経済英語Ⅲ	2後			2		○								1	
		経済社会論入門	1後			2		○								1	
		地域産業活性化プロジェクトⅠ(京の老舗と不易流行)	2前			4		○								1	
		地域産業活性化プロジェクトⅡ(京の老舗と不易流行)	2後			2		○								1	
		留学英語Ⅰ	2前			4		○								1	
		留学英語Ⅱ	2前			2		○								1	
		留学英語Ⅲ	2後			4		○								1	
		留学英語Ⅳ	2後			2		○								1	
		経営科学	3前			2		○								1	
		社会データ分析	2後			2		○								1	
		ワークルール入門	2後			2		○								1	
		消費者問題論	2前			2		○								1	
		比較社会政策	2後			2		○								1	
		公務員論	2後			2		○								1	
		国際ビジネス論	3前			2		○								1	
		財政学	2前			2		○								1	
		地方財政論	2後			2		○								1	
		地域レジリエンス論	2前			2		○								1	
		地域課題発見演習	2前			4			○							1	
		会話分析入門A	2前			2		○								1	
		会話分析入門B	2後			2		○								1	
		言語習得論	2後			2		○								1	
		異文化間コミュニケーション論	2前			2		○								1	
		Introduction to Sociolinguistics	2前			2		○								1	
		国際関係入門	2前			2		○								1	
		政治思想概論	2前			2		○								1	
		国際開発協力論	2前			2		○								1	
		Introduction to Cultural Anthropology	2後			2		○								1	
		文化遺産学	2後			2		○								1	
		南アジアの言語	2前			2		○								1	
		グローバリゼーションとアフリカ	2前			2		○								1	
		グローバリゼーションと東アジア	2後			2		○								1	
		グローバリゼーションと南アジア	2前			2		○								1	
		グローバリゼーションとヨーロッパ	2後			2		○								1	
		グローバリゼーションとラテンアメリカ	2前			2		○								1	
		グローバル・ガバナンス論	2後			2		○								1	
		宗教文化学入門	2前			2		○								1	
		日本語教育入門	2後			2		○								1	
		世界文学入門	2前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

京都深草キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
教養教育科目	教養科目	都市計画入門	2前			2		○								1	
		自然人類学入門	2前			2		○								1	
		差別と排除の社会学	2後			2		○								1	
		市民社会の歴史と現在	3前			2		○								1	
		社会学の歴史と理論	3後			2		○								1	
		アートと社会	3前			2		○								1	
		宗教社会学	2後			2		○								1	
		子ども社会学	2前			2		○								1	
		社会参画技法	2後			2		○								1	
		社会起業演習A	4前			2			○							1	
		社会起業演習B	4後			2			○							1	
		音楽社会学	2前			2		○								1	
		カルチュラルスタディーズ	2後			2		○								1	
		情報社会論	2後			2		○								1	
		デジタルメディア論	2前			2		○								1	
		英語コミュニケーションⅠ	2後			2		○								1	
		英語コミュニケーションⅡ	3前			2		○								1	
		Global Understanding in English	3前			4		○								1	メディア
		Forum	3前			2		○								1	
		自然保護論	3後			2		○								1	
		English language (RISE)	1前			12		○								1	
		Cultural Adaptation (RISE)	1前			2		○								1	
		Global PBL (RISE)	1前			2		○								1	
		Social Civic Engagement (RISE)	1前			2		○								1	
		Applied Cultural Adaptation (RISE)	1前			2		○								1	
		Advanced Global PBL (RISE)	1前			4		○								1	
		小計（95科目）	－	－	0	212	0	－			2	0	1	0	0	86	
	諸課程科目	博物館概論	1前				2	○								1	
		博物館資料論	1後				2	○				1				2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		博物館資料保存論	2後				2	○				1				2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		博物館教育論	1前				2	○								1	
		生涯学習概論	1前				2	○								1	
		小計（5科目）	－	－	0	0	10	－			0	1	0	0	0	6	
合計（129科目）			－	－	0	272	10	－			2	1	1	0	0	132	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から28単位以上（必修12単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系科目より各2単位）を含む）、専門基礎科目から38単位以上（必修28単位を含む）、専門応用科目から40単位以上（必修18単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：1～2年次44単位（年間）、3～4年次48単位（年間））	１学年の学期区分	4学期
	１学期の授業期間	8週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

京都大宮キャンパス

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは大宮キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部知能情報メディア課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
諸課程科目	(本山教師)仏教史	1前				1	○								2	オムニバス
	(本山教師)宗教概説	1前				1	○								1	
	博物館経営論	2前				2	○								1	
	博物館展示論	2後				2	○								1	
	小計（4科目）	－	－	0	0	6	－			0	0	0	0	0	5	
合計（4科目）		－	－	0	0	6	－			0	0	0	0	0	5	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から28単位以上（必修12単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系科目より各2単位）を含む）、専門基礎科目から38単位以上（必修28単位を含む）、専門応用科目から40単位以上（必修18単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：1～2年次44単位（年間）、3～4年次48単位（年間））	１学年の学期区分	4学期
	１学期の授業期間	8週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A	○	龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とする。また本講義では、龍谷ミュージアムの展示や視聴覚教材を活用しながら展開する。「人間と宗教」「神々と仏」「あるがままに見る眼」「いのちあるものすべてへの慈愛」「自己中心的に考える人間存在」「支えあってつながっている宇宙」「仏教の思想と龍谷大学の建学の精神」といった観点から、釈尊の生涯と思想を中心に学ぶ。	
		仏教の思想B	○	龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とする。また本講義では、龍谷ミュージアムの展示や視聴覚教材を活用しながら展開する。「鎌倉仏教の位置と特質」「真実の探求」「自己を徹底的に見つめる」「現実世界への凝視と安らぎへの願い」「あるがままで受け容れられる世界」「あらゆるものは輝いている」「親鸞の思想と龍谷大学の建学の精神」といった観点から、親鸞の生涯と思想を中心に学ぶ。	
		歎異抄の思想Ⅰ		『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎いた門弟の唯円が、親鸞の真意を伝えようとして著したとされるものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。本講義では、『歎異抄』の前半（第10条まで）に伝えられる親鸞のことばを正確に読んでいき、その真意を把握することを通して、そこに示される親鸞の思想を深く理解する。	
		歎異抄の思想Ⅱ		『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎いた門弟の唯円が、親鸞の真意を伝えようとして著したとされるものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。本講義では、『歎異抄』の後半（第11条以降）に示された、親鸞の教えに対する誤解をただす文章を通して、その中で伝えようとされている親鸞の思想を深く理解する。	
		仏教の世界		「建学の精神」を涵養するための具体的な取り組みとして、仏教を共通項としながら、現代社会を多角的に見つめる視点を提供することを目的とする。この科目では、真宗学・仏教学を基盤に据えつつ、美術史学、考古学、国語学、社会学など、異なる学問分野の手法やアプローチを取り入れることで、より深く幅広い学びを実現する。	
		真宗教団史		親鸞によって開かれた浄土真宗の教えは、その門弟や子孫によって受け継がれ、現在まで継承されている。その展開には、教団という組織の存在や、時代背景が大きく関連している。本講義では、親鸞の生涯をはじめとして、大谷廟堂の建立、第三代宗主覚如や第八代宗主蓮如の活躍などを中心に、本願寺教団がどのように誕生し、今日に至るまでいかなる発展を遂げたのかについて、時代背景を踏まえつつ考えていく。	
教養教育科目	言語科目	英語総合1(A)	○	これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる4技能の総合的向上を図る。4技能の基礎を見直し、これを補強することに重点を置く。異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。	
		英語総合1(B)	○	「英語総合１（A）」に引き続き、これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる4技能の総合的向上を図る。4技能の基礎を見直し、これを補強することに重点を置く。異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	英語総合2(A)	○	「英語総合１」での基礎力確認に積み上げる形で、さらに基礎力の向上を図ることに加え、これまでに習得した英語の知識、能力の上に、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる4技能の総合的向上を図る。異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。	
		英語総合2(B)	○	「英語総合２（A）」に引き続き、「英語総合１」での基礎力確認に積み上げる形で、さらに基礎力の向上を図ることに加え、これまでに習得した英語の知識、能力の上に、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる4技能の総合的向上を図る。異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。	
		英語総合3	○	これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、現代社会に必要とされる英語の運用能力のさらなる向上を図る。「英語総合1」「英語総合2」で培った基礎をもとに英語力をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。また、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。本講義は選択必修制のトピック別クラスとして開講され、学生は自らの関心や学習目的に応じて希望するトピックを選択する。各クラスの内容は異なるが、いずれも学生が主体的に英語を学び、英語の運用力を伸ばすことを主眼とする。	
		英語総合4	○	「英語総合3」に引き続き、これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、現代社会に必要とされる英語の運用能力のさらなる向上を図る。「英語総合1」「英語総合2」「英語総合3」で培った基礎をもとに英語力をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。また、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。本講義は選択必修制のトピック別クラスとして開講され、学生は自らの関心や学習目的に応じて希望するトピックを選択する。各クラスの内容は異なるが、いずれも学生が主体的に英語を学び、英語の運用力を伸ばすことを主眼とする。	
		英語セミナーA		TOEIC® L&Rテストの初受験を予定している学生や、スコアアップを目指す学生を対象とする。効率よくスピーディーに、かつ根拠を持って問題に解答できる力を養成するため、実践的な問題演習を行う。問題演習を通して、出題ポイントや正答にたどり着くための方法を詳しく学ぶ。TOEIC® L&Rテストで必要とされる文法力・語彙力・読解力を総合的に高めることに主眼を置く。	
		英語セミナーB		この授業では、英字新聞やニュース番組などのメディア英語を教材として扱う。ニュース英語特有の表現や語彙を学び、リスニングやリーディングを通して時事問題への理解を深める。また、要約や意見交換の活動を取り入れ、国際的な視野を養いながら、実践的な英語運用能力の向上を目指す。	
		英語セミナーC		本講義では、日常生活や大学生活で想定される場面を題材にしながら、実践的な英会話能力の向上を図る。ペアワークやグループディスカッションを中心に、発話の機会を多く設けることで、表現力と即応力を養う。また、語彙や発音にも注意を払い、自分の考えを明確に伝える力を伸ばすことを目指す。	
		英語セミナーD		本講義では、英語で物語を読む経験を積むことを主眼に置く。物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白いと思えるように授業を進める。物語への興味から、英語をより多く読もうという姿勢を身につける。	
		英語セミナーE		映画や歌などの視聴覚教材は、興味を持って楽しく英語の運用力を身につけることができるとてもよい手段である。本講義では、映画や歌を通じて、その中で使われるさまざまな表現を学び、英語らしい発音・音声を身につけ、実践的なコミュニケーション力の強化をはかる。	
		英語セミナーF		このセミナーでは、学生が英語で自身の学術的な興味を表現する方法を指導します。多くの場合、学生は自身の専門分野以外の研究テーマを理解することができません。この授業では、異なる分野や専門分野を超えて効果的にコミュニケーションを英語で取る方法を学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	英語セミナーG		本講義では、TOEFLやIELTSの演習を中心に、英語圏への留学の準備となるような総合的な英語運用能力の養成を目指す。将来、海外留学を希望する学生に対し、留学前に必要な資格試験の対策や留学後に必要な英語運用能力の向上をサポートする機会を提供する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのバランスのとれたアクティビティをグループや個人で行い、留学先で実際に英語で授業を受ける際に必要な能力、すなわち、英語で意見を述べたり、知的な質問をしたり、答えたりする力を身につけることを目標とする。	
		海外英語研修		本講義は、英語力に自信のない低年次生向けに海外の協定大学で3週間の語学研修を行い、短期間で効率よく英語力を向上させることを目指す。日本での事前研修の後、現地での少人数の英会話授業で実践的な語学力を養い、また渡航先の歴史や文化について英語で講義を受けて学ぶ。帰国後には英語でレポートを書き、研修の成果を振り返る。一連の研修を通して、言語に対する理解を深め、海外の文化や社会について主体的に考察することができるようになることで、将来の海外留学や継続的な英語学習につなげることを目標とする。	
		ドイツ語ＩＡ		ドイツ語というヨーロッパの言語を学ぶことによって、日本語や英語による表現や発想に基づくものとは異なる文化があることを実感し、ドイツ語圏の国々に対する視野を広げ理解を深めることを目標とする。本講義では、ことばの学習の第一歩である発音と日常の挨拶からはじめて、さまざまな場面におけるやり取りや自己紹介、状況の説明、さらには平易なドイツ語文の理解へと進めていく。	
		ドイツ語ＩB		文法とドイツ語による表現を学ぶ。文法の学習というと無味乾燥というイメージを持つかもしれないが、外国語をマスターするにはこれが早道であり合理的でもある。本講義では、必要最小限の文法規則を繰り返し学習することによって自分のものとしたうえで、受講生自身が、それを用いて自分の思うところをドイツ語で表現できるようになることを目指す。	
		ドイツ語ⅡA		ドイツ語を通して、ドイツ語圏および周辺諸国に目を向けられるようになるための手段、またEUの時代をむかえた新しいヨーロッパに対する理解への手がかりとして、本講義を位置付ける。本講義では内容的には「ＩＡ」を引き継ぎながらも、例えばワク構造や副文といったドイツ語らしい文の構造を学ぶことによって、日本語や英語とは異なる思考のあり方の気づきを与える。またそれと同時に、辞書をひきながらドイツ語の文章を読み解いていく能力を養う。	
		ドイツ語ⅡB		ドイツ語文を正確に読むためには最小限のしっかりした文法規則を自分のものにしなければならない。本講義では、できるだけ負担を感じることなく、文法的に正確に読み書きができ、またドイツ語で表現できるようになることを目指す。	
		フランス語ＩA		本講義は、フランス語で気軽にコミュニケーションが取れるレベルまでの習得を目指し、会話表現と初級文法を学ぶ。旅先で使える実践的な表現を学習し、平易なフランス語が理解できるレベルになることを目標とする。また、様々な視聴覚教材を利用し、フランスの文化についても解説することで、多様な広がりを持つ講義とする。	
		フランス語ＩB		本講義では、文法項目の解説についてはもちろん、さらに多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習を行うその他、多くの視聴覚教材を利用して、フランスの文化と歴史について、幅広く理解を深めていく。	
		フランス語ⅡA		「フランス語ＩA」の内容を引き継ぎ、本講義は、フランス語で気軽にコミュニケーションが取れるレベルまでの習得を目指し、会話表現と初級文法を学ぶ。旅先で使える実践的な表現を学習し、平易なフランス語が理解できるレベルになることを目標とする。また、様々な視聴覚教材を利用し、フランスの文化についても解説することで、多様な広がりを持つ講義とする。	
		フランス語ⅡB		「フランス語ＩB」に引き続き、本講義では、文法項目の解説についてはもちろん、さらに多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習を行う。その他、多くの視聴覚教材を利用して、フランスの文化と歴史について、幅広く理解を深めていく。	
		中国語ＩA		本講義は、初めて中国語を学ぶ学生を対象とし、基礎から学習する。まず、中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれているため、発音記号に相当する「ピンイン」について、徹底的に練習する。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学ぶ。	
		中国語ＩB		本講義は、初めて中国語を学ぶ学生を対象とし、基礎から学習する。中国語の発音記号である「ピンイン」の発音と表記方法、また、簡単な日常会話及び基本的な語法を学ぶ。授業では「読む・書く」に重点を置き、日常の基本的なコミュニケーション能力を養う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	中国語ⅡA		本講義は、「中国語ＩＡ」を学習した学生、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象とする。文の構造を学び、日常会話の練習も行うが、「中国語ＩＡ」に引き続き、発音の練習も続ける。中国語の基本（発音・単語・基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学ぶ。	
		中国語ⅡB		「中国語ＩＢ」に引き続き、本講義は、初めて中国語を学ぶ学生を対象とし、基礎から学習する。中国語の発音記号である「ピンイン」の発音と表記方法、また、簡単な日常会話及び基本的な語法を学ぶ。授業では「読む・書く」に重点を置き、日常の基本的なコミュニケーション能力を養う。	
		コリア語ＩＡ		本講義では、①韓国語の子音と母音を把握する。②韓国語と日本語の発音差を認識して、韓国語の文字(ハングル)を正確に発音する。③韓国語と日本語の文法差を認識して、簡単な表現や日常的な会話を行う能力を培うことを重点項目として、韓国語を学習する。	
		コリア語ＩＢ		本講義では、①日常生活で使われる基本語彙や挨拶を理解する。②韓国語で自己紹介ができ、相手の自己紹介を聞いて理解する。③文章の中で文法的機能をあらわす部分を理解することを目指し、韓国語を学習する。	
		コリア語ⅡA		本講義では、①韓国語の子音と母音を把握する。②韓国語と日本語の発音差を認識して、韓国語の文字(ハングル)を正確に発音する。③韓国語と日本語の文法差を認識して、簡単な表現や日常的な会話を行う能力を培う。④韓国語の数字の使い方を理解することを重点項目として、韓国語を学習する。	
		コリア語ⅡB		「コリア語ＩＢ」に引き続き、本講義では、①日常生活で使われる基本語彙や挨拶を理解する。②韓国語で自己紹介ができ、相手の自己紹介を聞いて理解する。③文章の中で文法的機能をあらわす部分を理解することを目指し、韓国語を学習する。	
		スペイン語ＩＡ		簡単な日常会話が可能なスペイン語力の獲得に向けて、スペイン語の初歩的な文法を学習し、基礎的な文法知識とコミュニケーション力を習得するための講義を行う。毎回スペイン語の文法を項目別に学び、練習問題を通して読解力や聴解力を磨いていく。	
		スペイン語ＩＢ		簡単な日常会話が可能なスペイン語力の獲得に向けて、スペイン語の初歩的な文法を学習し、基礎的な文法知識とコミュニケーション力を習得するための講義を行う。毎回スペイン語の文法を項目別に学び、練習問題を通して読解力や聴解力を磨いていく。本講義は、「スペイン語ＩＡ」に比べ、コミュニケーションを重視した講義とする。	
		スペイン語ⅡA		簡単な日常会話が可能なスペイン語力の獲得に向けて、「スペイン語I」で得た知識をさらに深め、より高度な文法知識とコミュニケーション力を習得するための講義を行う。毎回スペイン語の文法を項目別に学び、練習問題を通して読解力や聴解力を磨いていく。	
		スペイン語ⅡB		簡単な日常会話が可能なスペイン語力の獲得に向けて、「スペイン語I」で得た知識をさらに深め、より高度な文法知識とコミュニケーション力を習得するための講義を行う。毎回スペイン語の文法を項目別に学び、練習問題を通して読解力や聴解力を磨いていく。本講義は、「スペイン語IIA」に比べ、コミュニケーションを重視した講義とする。	
		ドイツ語セミナーＩＡ		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「読む」ことを中心に取り扱う。メルヘン、詩、エッセイ、短編小説、ジョーク／コント、メディアのアクチュアルな記事などのドイツ語テキストを素材とし、精読を通してドイツ語の原文を味わう。また、基本文法を復習しながら、さらに中級レベルの文法を学んでいく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		ドイツ語セミナーＩＢ		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「読む」「書く」ことを中心に取り扱う。メルヘン、詩、エッセイ、短編小説、ジョーク／コント、メディアのアクチュアルな記事などのドイツ語テキストを素材とし、精読を基盤とした「書く」能力の伸長を目指す。また、基本文法を復習しながら、さらに中級レベルの文法を学んでいく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	フランス語セミナーＩＡ		本講義は、主にコミュニケーション能力（「聞く」）の向上を目指す。コミュニケーションをはかるうえで重要な要素である、「聞き取ること」と「様々な表現を理解すること」を身につけることを目指す。フランス映画などの映像資料を通して、聞き取りの練習を行う。また、テキスト（映画の登場人物の台詞等）・簡単なシナリオを読み、表現の勉強を行う。見たり、聞いたり、読んだりする会話を、ロールプレイにより再現することにより口頭表現を身に付けていく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		フランス語セミナーＩＢ		本講義は、主にコミュニケーション能力（「話す」）の向上を目指す。コミュニケーションをはかるうえで重要な要素である、「聞き取ること」と「様々な表現を理解すること」を身につけた上で、自ら発話できることを目指す。フランス映画の鑑賞を通して、聞き取りの練習を行う。また、テキスト（映画の登場人物の台詞等）・簡単なシナリオを読み、表現の勉強を行う。見たり、聞いたり、読んだりする会話を、ロールプレイにより再現することにより口頭表現を身に付けていく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		中国語セミナーＩＡ		本講義は、聞き取りと口頭表現に重点を置いて、中国語でやや高度なコミュニケーションができるようになることを目指す。 また、中国の文化にも触れながら、「中国語らしい表現」にも理解を深める。発音と文法の基礎固めをしながら、会話を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		中国語セミナーＩＢ		本講義は、さらに聞き取りと口頭表現に重点を置いて、中国語でやや高度なコミュニケーションができるようになることを目指す。また、中国の文化にも触れながら、「中国語らしい表現」にも理解を深め、会話を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。これにより、中国語検定3級のレベルを習得することができ、日中言語の相違点をよく知り、自律的に時事中国語を学習することができる、また、中国の文化や社会について主体的に考察することを目指す。	
		コリア語セミナーＩＡ		本講義では、初級の文法運用と共に読み・聞き・話す・書きの総合的な文の運用能力や基礎会話を身につけることで、身近で経験できる韓国語体験や、韓国人との簡単なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。会話を中心とした授業を行い、ハングル能力検定試験の3級程度の文法表現や語彙表現を覚えることを目標とする。	
		コリア語セミナーＩＢ		本講義では、駅などの公共の場で見つけたハングル表記、韓国ドラマ・映画などで出る簡単な会話を覚える、学習した初級文法を使って場面別の会話練習を行うことにより、身近で経験できる韓国語体験や、韓国人との簡単なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。ハングル能力検定試験の4級程度の文法表現や語彙表現を覚えることを目標とする。	
		スペイン語セミナーＩＡ		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「書く」能力の向上を目指す。スペイン語の基本文法をしっかり学び、平易なスペイン語で会話する能力とメールや手紙を書く能力を身に付ける。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		スペイン語セミナーＩＢ		本講義では、運用能力（聞く・話す・読む・書く）のうち、主に「読む」能力の向上を目指す。スペイン語の基本文法をしっかり学び、300語程度で書かれたスペイン語の時事問題ニュースの読解を通して、西和辞典を使いel mundoやABCなどのスペイン語新聞を読むことができることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		日本語		本講義では、留学生が日本の大学で、学習を円滑に始められる程度の日本語能力を身につけることを目的とする。主として、1・2年生の留学生を対象として、基本的なスタディ・スキル（学習技術）を身につける。留学生のニーズに基づいた課題を用意し、それらを解決していくことで、自然と日本語能力を高めていくことを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	○	太古の昔より、人間に恵みと脅威をもたらすものとして、自然というものに人間は深い関わりと関心をもって生きてきた。なかでも自然万物の根源を、自らの生き方にリンクさせながら探求したのが、古代ギリシアの哲学者と呼ばれる人びとであった。先哲の思想を可能な限りかみくだいて紹介しながら、一人一人が自身の自然というものへの関わり、向き合い方を今一度見つめ直す手がかりを学ぶ。さらに、資本主義社会での大量消費や環境破壊がもたらす問題点や自らが大学で学ぶ意義にも視野を広げていく。	
			倫理学入門	○	体調が「よくなる」、暮らしが「よくなる」、等自分たちの生活に関わる「よさ」については、おそらく我々の誰もが歓迎し、その「よさ」を得るために努力することを当然とするであろう。一方で、「あなた自身よく生きているか」とあえて問われたならば、その問いが体調のよさや生活のよさとは違うニュアンスの「よさ」に向けられていると感じ、答えることに躊躇するであろう。「よく生きる」ということに我々はどのような意味合いを読み込んでいて、どのような立ち位置のもとで考えようとするのか。そのことを倫理思想とよばれる様々な見解にふれながら、講義参加者が自らに問うて考える。	
			倫理学A	○	現在にいたる医療技術の進歩は、さまざまな疾病を治療し、人類が長い間望んでいた健康で長生きするという夢を実現させている。医療技術の発達により、生と死は人間の意志を超えた出来事ではなく、各人が自らの意志で判断する対象になりつつある。本講義では、生命倫理の主要な理論とキーワードについて解説し、主要ないくつかのトピックをたどりながら、生命技術のあり方について取り上げる。	
			倫理学B		人間は、生命をつなぐ食料や生活を豊かにする道具の素材を、自然環境において生み出されるものから得てきた。現在も、工学や生命科学をはじめとする科学技術は、エネルギーをはじめ多くのものを自然環境から得ている。本講義では、環境に関わる基礎理論を学び、人間の福利と科学技術という点から環境をめぐるさまざまな問題を取り上げ、そのなかにある倫理的な課題について考えていく。	
			クリティカル・シンキング	○	大学での学びでは、単に講義内容を理解しておぼえるだけでなく、問題を批判的に考え、探求していくことが大切である。そのために必要となるのが、論理的・批判的な思考力「クリティカルシンキング」である。本講義では、論理的に分析する方法や、その内容を批判的に考えるための方法を学ぶ。具体的な素材を使って演習形式で訓練しながら、論理的・批判的に読み・考え・議論するためのスキルを身につける。	
			宗教学のすすめ	○	神や精霊、天使や悪魔といった超越的存在を自明視する人々が少なくなった現代社会において、伝統的な宗教組織に属する信仰者は減少の一途をたどりつつも、我々の生活の中には「宗教的な匂い」のするものがあふれている。宗教が私事化された現代社会においては、自己流にカスタマイズされた私的な信仰が増えているのである。本講義では、観光と結びついた聖地巡礼や映画作品の分析を通して私的な信仰についての考察を深め、現代人が宗教に求めているものを探ってみたい。	
			宗教の世界	○	現代日本社会において宗教について議論する際、「そもそも宗教は必要なのか」という問いが必ず投げかけられるといっても過言ではない。このような問題提起がなされること自体に、実は日本人の宗教観における特殊性がよく表れている。何らかの宗教を信仰する国々で生活する人々において宗教が必要であることは、もはや問う必要もない前提だからである。本講義では無宗教・無信仰をベースに生きる日本人にとっての宗教の必要性や問題点について考察する。その際、葬送や贖罪といった、人生における陰の側面にあえて焦点を当てる。	
			日本の文学	○	本講義では「文学」の役割を考える。なかでも照準化するのは「文学」が担う役割において、生きる幅や厚みを拡張することが重要な位置を占めるということである。具体的には、幾人かの「日本」の作家を取り上げ、それらの小説に描かれる人間関係や事象、時代に焦点を当てる。このバックグラウンドには「日本」が横たわることも視野に入れて考察していく。このようなことを通して、小説を読む経験値を高め、生きる幅を広げることにつなげていくことをめざす。	
			アジアの文学A	○	アジア各地には多様な文学作品が存在するが、わけても中国とインドの文学は、本国だけでなく周辺諸国に広く伝わった。それらの物語は現代に至るまで、時代のニーズに合わせてたびたび翻案（リライト）されてきた。その意味で、単なる文学作品ではなく、大きな「文学伝統」を形成していると言える。また、世界宗教の一つである仏教の文学もアジア全域に波及し、各国語の説話や芸能の形で親しまれている。本講義では、この三領域の代表的な作品の魅力を、やさしい日本語訳に親しみながら理解することをめざす。ただし、単に作品のあらすじや名場面をなぞるのではなく、それらの物語がアジア各地の社会・文化に及ぼした影響を多面的に把握することを重視する。アジアに広く伝播した主要な文学の内容・特色を理解し、文学がアジア各地で果たしてきた社会的・文化的役割を理解することを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	アジアの文学B	○	19世紀以降にアジアの諸国・諸地域で生まれた近現代文学を、二つの視点から考察する。第一の視点は、文学作品が、その地に暮らす人々の感性や考え方、習俗といった文化的特質を、多かれ少なかれ反映していることを踏まえ、文学作品から抜粋したテキストを味読することで、各国・各地域の文化を感じ取る。第二の視点は、これらの文学の多くが、アジアの近代化という大きな社会的変化に呼応する形で書かれ、人々に受容されてきたということを踏まえ、地域ごとに異なる近代化のプロセスにも目を向け、「なぜこの時、この作品が生まれたか」を考察する。この二つの視点を意識して読むことで、アジアの近現代文学が、現実の文化・社会と様々に関わりつつ発展してきたことの理解を深める。授業で取り上げる近現代アジアの主要な文学作品について、その内容・特色を理解し、授業で取り上げる諸作品と、各国・各地域の文化的特質や近代化の過程との関わりを理解することを目指す。	
			西洋の文学A	○	西洋の文学創作の歴史とその受容に関する歴史の概説、及び特に近代以降の文学作品が駆使するレトリックや技巧の紹介を通じて、個人の世界認識と文学の関係や、社会理解のための文学の貢献、創作と倫理の関わりについての考察を深めることを促す。さらには広く西洋の歴史と文化一般に関する諸問題への理解を、文学史上重要と思われるいくつかの文学作品を題材として深めていく。また、芸術諸分野の中における文学の特異性についても、具体例を引きつつ考察する機会を与える。	
			西洋の文学B	○	本講義では、具体的にいくつかの文学作品をとりあげ、そこにあらわれる諸表象への考察を通じて、西洋文化のさまざまな側面について着目と理解を促す。同時に、文学作品を成立させるための前提や作品にあらわれる技巧、作品の成立した背景などを広く紹介し、人間の知的活動の優れたあらわれの一つである文学という行為を通じて、倫理的な諸問題についても考える。作品は邦訳を用いて読み進め、主に原文が英・独・仏3カ国語で書かれたものを中心に、周辺諸国の作品も近現代に重点を置いて取り扱う。	
			西洋の文学C		植民地時代から現代にいたるアメリカ文学の歴史を学ぶ。18世紀後半に成立したアメリカ合衆国の建国の理念を文学者たちが如何に受け止めたか、理想に基づいた「共和国アメリカ」の変遷と実態が文学作品の中に如何に描かれているかを、代表的な作品を通して考え、「アメリカ文学とは何か」をその歴史の特殊性と社会構成の多様性から概観する。またいかにして文学解釈がおこなわれてきたかという文学理論・批評史にも触れる。国民文学の誕生とアメリカン・ルネッサンス、リアリズムの作家（トウェイン/ジェイムズ/ハウエルズ）などを取り上げる。	
			西洋の文学D		植民地時代から現代にいたるアメリカ文学の歴史を学ぶ。18世紀後半に成立したアメリカ合衆国の建国の理念を文学者たちが如何に受け止めたか、理想に基づいた「共和国アメリカ」の変遷と実態が文学作品の中に如何に描かれているかを、代表的な作品を通して考え、「アメリカ文学とは何か」をその歴史の特殊性と社会構成の多様性から概観する。またいかにして文学解釈がおこなわれてきたかという文学理論・批評史にも触れる。ナチュラリズム、モダニズム、プロレタリア文学などを取り上げる。	
			言語学入門	○	本講義では、英語と日本語の統語現象を考察し、そこに潜む法則性を明らかにする。統語現象とは、語が結合して句・節・文を構成する有様のことを指す。「文法は覚えるもの」と考えている人が多いが、統語現象をつかさどる法則を明らかにすることで、文法を"理解する"ことができる場合も多く存在する。特に不定詞・動名詞・分詞とthere構文を扱う。また、講義で学んだことを正確な英文解釈に活かすことも目指す。	
			歴史学のすすめ	○	本講義では、教養としての歴史学を学ぶ意義について理解を深める。歴史学は過去の事象を暗記する科目ではなく、過去の事象相互の有機的なつながりを解明し、人間や社会についての考察を深めるための学問分野である。そうした歴史学の意義と方法論を学習する。歴史学の基本的なアプローチについて学び、それにより歴史学の参考文献を収集・読解が可能となり、そうして得られた知見を学術的に記述する技能を習得する。	
			日本の歴史	○	多くの人が知る日本の歴史は学校で教わるところが大きいが、教科書は「通史」としての文脈が存在し、単元が分野別に細分化されている。実際、歴史の見方は多様であり、視点を変えることで見え方が異なってくる。また、歴史は政治・社会・文化のように厳密な区別はなくそれぞれが作用し合っている。本講義では、様々な視点や話題から日本の歴史にアプローチするとともに、文字の史料やモノの資料などを通して歴史の理解を深める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	日本の文化	○	龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学である。この京都は、古都・学問の都・国際都市・観光都市・学研都市・歴史都市・宗教都市などと形容され、小説や映画の舞台としても有名である。全国には小京都と呼ばれる都市は少なくなく、全世界にも京都の国際姉妹都市・国際友好都市は少なくない。人はなぜ、京都に憧れ惹かれるのか、京都の魅力を伝えながら考察する。	
			アジアの歴史	○	本講義では、主に中央アジアの歴史をあつかう。この地域では遊牧民やオアシスの民が国家を樹立して共生し独自の文化を構築していた。しかし、現在の義務教育や高等学校で学ぶ世界史では、これらの歴史を学ぶ機会は非常に少ないといえよう。中央アジアにおいて生まれた文化を理解することによって、多方面から歴史を考えることを学ぶ。	
			アジアの文化		本講義では、中国史の一部であるにもかかわらず、日本人にも馴染み深い三国志を題材に、「書かれる形式」によって、如何に内容が変容してゆくか、を追う。例えば、「教科書」「歴史書」「小説」「詩」……これらすべてある意味で「形式」である。また、身近なところで言えば、同じ作品であっても、単行本であるか文庫本であるかで「形式」が異なるということも可能である。そして、「形式」と「内容」は深く結びついている。本講義では、そのことを体感し、「書かれる形式」と「内容」の関係について、自分なりの見解を持つようになることを目指す。	
			西洋の歴史	○	西洋の歴史、すなわちヨーロッパとアメリカの歴史を眺め、その個性と特徴を学ぶ。本講義では、歴史を通じて私たちとは異なる「他者」たる西洋について理解を深め、他の文化への感性をみがくことを目指す。西洋は現代世界の枠組みや基本的ルールを生み出しもした。それは、どのようなもので、なぜ世界に広まったのかを考えることで、現代世界の成り立ちを知り、21世紀の国際社会の一員にふさわしい知識を身に着けることも目的とする。	
			心理学入門	○	心理学は「心」のメカニズムを解明しようとする学問だが、その対象は非常に幅広く、また「心」という直接目に見えないものを扱おうとする点で誤解も多い。本講義では、学問としての心理学がどのようなテーマを扱っているのかについて、私たちの日常的な活動に関連づけながら学ぶ。特に、人の生涯を通した発達過程を重点的に取り上げ、私たちの心にどのような変化が生じるのかを学ぶ。	
			心理学A		本講義では、人が成長する中で、人の心はどのように捉えられているのか、自分の経験をふりかえりながら、人の心の理解はどのように変化するのかについて考える。 「心理学Ａ」では、主に乳幼児期の発達を取り上げる。	
			心理学B		本講義では、人が成長する中で、人の心はどのように捉えられているのか、自分の経験をふりかえりながら、人の心の理解はどのように変化するのかについて考える。 「心理学Ｂ」では、主に幼児期から老年期を取り上げる。	
			教育原論A	○	教育をめぐる動向がさまざまな変貌をとげ、教育をめぐるさまざまな言説が競合しているなかで、あらためて教育について考える。子どもが「育つ」ときには、どんな風景がそこに広がっているのか。子どもが「学ぶ」学校とは、どのような場所なのか。そして、教育の思想は社会のあり方をどのように説明し、教育の歴史はどのように展開してきたのか。こうした問いを立てつつ、本講義では、教育の歴史や思想および今日的な状況を、子ども・学校・社会の三つの大きなテーマに配分して解説し、学んでいく。	
			教育原論B	○	本講義では、学校が制度的に整備されてきた歴史的な背景や子どもを表象する仕方の変容、そして、家庭が教育の場所として機能し、家族が教育する役割を担ってきた歴史を説明する。さらに、近代以降、教育学が学問として成立してきた歴史をたどり、最後に、大人と子ども、教師と生徒、あるいは友人や恋人との関わりなど、さまざまに彩られる人間関係の諸相から教育を読み解いていく。	
			学習・発達論A		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方について講義を行う。学習・発達論Aでは特に幼児、児童及び生徒の心身の発達過程に重点を置き、ピアジェの認知発達理論、エリクソンの心理社会的発達理論を基礎に、胎生期から青年期までの発達を扱う。また、それぞれの発達段階の特徴を踏まえた上で、学校生活に代表される集団生活や学習の過程について講義するとともに、就学以前に生じる発達に関わる問題についても扱う。発達に関する基礎概念やこれまでの発達心理学を支えてきた理論や各論に至る背景、乳幼児から児童期の終わりまでの上昇過程の変化、青年期における自我同一性の獲得、乳幼児期から幼児期に生じる発達に関わる問題、これらを踏まえた幼児、児童、生徒の学習過程や動機づけについて理解することを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	学習・発達論B		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方について講義をする。学習・発達論Bでは特に幼児、児童及び生徒の学習の過程に重点を置き、学習のしくみや記憶の特徴、メタ認知、学習方略、動機づけなどと共に、授業の過程や学級集団の特徴、教育評価や教育統計について講義を行う。教育心理学の基礎的事実や法則など基本となる内容を教育実践と関連づけて理解すること、教育心理学の新しい話題や知識について理解すること、教育実践に生きる知識、技能、理論について理解することを目指す。	
			グローバル・ヒストリー		20世紀終盤以降に加速的に進展したグローバリゼーションは、過去を眺める視点にも大きな影響を与えている。そのなかで、従来の北米・ヨーロッパを中心に据えた歴史観を再検討し、人・モノ・資本・アイデアなどの交流と関係性を地球規模で捉えなおすグローバル・ヒストリーが新たな潮流のひとつとなっている。また、グローバル・ヒストリーの台頭は、国家や地域を超えた視点から、歴史的な社会・文化的行為を考える機会を提供している。本講義は、これら歴史学の新たな潮流と成果を反映させ、グローバリゼーションを歴史的文脈のなかで探求することを目的とする。また、アメリカおよびイギリスにおける歴史観の変化を事例として、歴史を解釈するパラダイムの変化とその要因を考察する。	
			文化交流論		本講義は、日本やアジア、欧米、イスラーム世界などの豊かで多様な文化や芸術が、世界的にいかに交流し、相互に影響を受けて発展してきたかを考察する入門的講義である。人類は歴史を通じて多様な文化を人種や宗教を超えて世界各地で発展させてきており、その相互交流の理解は、グローバル化された世界を考える上でとても重要なことである。講義では特に、学生にとって身近な日本文化や芸術の具体例をとりあげ、それがいかにアジアや欧米文化との相互影響のもとに成立してきたかを理解し、多文化交流の実態を捉える手掛りとする。	
		社会科学系科目	日本国憲法	○	近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。	
			法学のすすめ	○	わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといってよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといっても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。	
			政治学のすすめ	○	政治学の基本的な見方について講義する。日々私たちが見聞する断片的な情報から現実の政治を理解するためには、その本質的な特徴と歴史社会的な背景を把握しておくことが重要である。本講義では、政治学にはじめて接する人を想定して、身近なトピックをとりあげながら、その基本的な見方と応用のしかたを解説し、政治学の見方に関する基本的知識を得るとともに、現実の政治現象に関する理解力・洞察力・判断力を身につける。	
			社会学のすすめ	○	本講義では、人が生まれてから体験する社会的経験について、社会学が、どのような解釈・分析（社会的な出来事を考察する視点は、複数存在する）を行うのか、そのエッセンスを紹介していく。社会のさまざまな現象をひもといていくことによって、講義に参加する人たちが、自分と社会への関わりについて、自分なりのテーマを考えることを目的とする。	
			地理学のすすめ	○	地理学は、地表で展開されるさまざまな空間現象について、その地域差（あるいは共通性）に着目しながら追究して行く学問分野であるが、本講義では産業や人口分布といった人文現象のなかでも経済・社会を読み解くための基本的事項を中心に扱う。本講義の受講を通して、日常接するさまざまな地理的現象について、地理学的な見方や考え方ができるようになることを期待する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	経済学のすすめ	○	本講義では、経済学の古典で論じられていることを参照しながら、経済における古くて新しい議論や現代の世界そして日本における経済問題について、受講生に考察してもらうことを行っていくこととする。さらにこの作業を通して、「資本主義」と呼ばれる近代社会の経済システムの登場と展開について、及び「古典派経済学者」をはじめとする「資本主義」の法則性と問題点を追究した人々の思考についても、理解してもらうことを目指す。	
			経営学のすすめ	○	環境変化が激しい昨今、地域創生と観光の双方に一種のイノベーションを起こした取り組みが多数あり、話題となっている。環境変化に適応しながら課題解決に新たな切り口を提示することで、地域創生と観光に必要なイノベーションを創造し、次々にビジネスを展開する動きも出てきた。地域創生や観光との関連から経営を見ていくと、定住人口以外の交流人口や関係人口を増やす性質のものがあり、その結果として地域の魅力、すなわち定住人口の増加に繋がり、地域創生を進めることにつながる。本講義では、地域創生を軸にしながら取り巻く環境が変わる中で適応しながらビジネスを進めていくケースを学修する。	
			国際学のすすめ	○	さまざまなモノ、情報、文化、人が容易に、頻繁に国境を越えて移動する時代に私たちは生きている。そこには私たちの生活を良くするものだけでなく、環境汚染や感染症のような問題も含まれている。いまや日常生活の多くの部分がグローバルな（地球規模の）つながりの中にあり、私たちは個人としても集団としても、世界の動向から影響を受けざるをえない。どのような分野で働き活躍するのであれ、今や国際的な知識や感性は必須である。本講義では、国際社会で生じているさまざまな社会現象、国境を越えて取り組むべき社会問題について幅広く学ぶ。それを通して、一つの国ではなく一つの世界をよりよくするためにどうするべきかと考える、国際的な広い視点を身につけていく。	
			文化人類学のすすめ	○	文化人類学とは、異文化を、もう少し正確にいえば、異文化の「視点」を学ぶ学問である。自身と異なる文化・社会を学ぶことから、翻って、自身の文化・社会を学ぶことへとつながる道を示す学問である。 本講義では、文化人類学の基礎的な理論や方法論について、文化人類学の調査研究の成果である民族誌を取り上げながら紹介していく。また、インドをひとつの事例として、異文化を学び、異文化から学ぶことについて、考えていく。そこにおいては、社会・文化の実際の様相をヴィヴィッドに把握するため、映像・画像を積極的に使用し、視聴覚に効果的に訴えて理解の深化を図る。本講義を、自身とは異なる、また自身の「視点」のあり方を捉え直す機会としたい。	
			社会調査のすすめ	○	本講義では、社会の実態や人々の意識を知るための社会調査の考え方や手法、社会調査はどのような考え方で設計されていくのか、社会調査の手法によって社会のどのような側面が見えてくるようになるのかという、社会調査の基本的な考え方を学ぶ。講義は、社会調査の概要、社会調査の手法、社会調査の設計、の３つの構成で進行する。社会調査の概要では社会調査の目的・倫理・歴史を、社会調査の手法では調査方法の種類とそれぞれの方法が持つ長所と問題点について、社会調査の設計では実際の統計的調査の企画～実施までの流れを学習する。	
			社会統計学のすすめ	○	本講義は、基本的な統計学の考え方を学んでもらうことを目指す。そのために、確率の考え方から学ぶ。統計学ではどうしても「数字」を扱うことになるが、統計学イコール数学ではない。本講義で基本的な統計学の考え方を身につけ、将来大きな力となる統計的なものの見方について学ぶ。	
			人権論A	○	学校を卒業すると同時に就職する。しばらくして結婚をし、家族を形成する。こうした「標準的」かつ「理想的」なライフコースがいかにして成立したのか。本講義ではこうした問題意識のもと、特に、「標準的」とされるライフコースの今日的な揺らぎと、そもそも「標準的」なライフコースを歩まなかった（歩むことができなかった）人々について考える。	
			人権論B	○	わたしたちが普段、なにげなく暮らしているこの日常生活のなかには、人権をめぐるさまざまな問題が潜んでいる。こうした問題について、学校、労働、就活、身体、セクシュアリティ、外国にルーツを持つ人々、障害など、身近な事象を取り上げることで、その問題の内実について具体的に考えていく。	
			現代社会とメディア		マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	現代社会と福祉		学生生活を過ごす中で「福祉」を身近に感じることは少ない。しかし、実は私たちの身近なところに福祉の課題や福祉サービスが存在している。本講義では、現代社会にとって身近なメディア（インターネット、小説、コミックス、映画、ドラマ、ドキュメンタリーなど）の中で表現されている福祉を題材に、様々な福祉課題や福祉サービスを講義を通して深めていく。	
			現代社会と法		日本国憲法が保障した平等は、法的な身分制度を否定しただけではなく、社会的な階層関係をも破壊した。その結果、一方で、身分制度から解放された国民の活力は高度経済成長と均質な社会を実現したが、他方で、平等意識に基づく無節操な自己主張ははどめを失い無秩序と混乱をもたらした。いずれにしても、日本の社会は憲法制定時からあまりにも変わってしまい、いまや憲法制定者が予想もしなかった利益や自由が人権の名の下に主張されている。そこで本講義では、人権の歴史と憲法訴訟理論とを前提として、昭和の歴史の中に人権に関する最高裁判所の重要な判決を位置づけたうえで、新しい人権を取り上げる。	
			現代社会と労働		現在の日本では、ブラック企業、ワーキング・プア、過労死・過労自殺、ハラスメントなどが社会的な問題となっている。また、何らかの事情で働けなくなること、働きつづけることが困難になることがあった場合、社会保障や社会福祉によって生活を保障されるはずであるが、こぼれ落ちている実態がある。本講義では、日本の現状を具体的な事件などから明らかにしながら、ディーセントな労働と生活とは何か、それを実現するにはどうすればいいのかを考える。	
			現代社会の諸問題		「社会」は、個人個人の具体的な相互作用の中でリアリティを獲得していくものである。本講義では、日常生活での集団同士あるいは個々人の社会関係や相互作用を分析するいくつかのキーワードを紹介し、私たちの社会のリアリティを考えていく。主に家族・教育・自意識をテーマとし、社会科学が実践的に分析してきた事例をとりあげながら、人間の成長や社会発展の課題を考察する。 （31　奥野　恒久／15回） 日常生活での集団同士あるいは個々人の社会関係や相互作用を分析するいくつかのキーワードを紹介し、私たちの社会のリアリティを考察する。 （オムニバス方式／全15回） （24　今井　敦／1回） 龍谷大学所蔵コレクションと東アジア（世界最古の地図とモンゴル帝国）について講義を行う。 （40　櫻井　次郎／1回） 中国の環境問題の歴史的・政治的・経済的背景とその行方について講義を行う。 （74　細川　孝／1回） 教育と労働に関する日韓の比較について講義を行う。 （76　松島　泰勝／3回）　※1回分は共同 安重根という人物について講義を行う。 （85　八幡　耕一／1回） 東アジアをめぐる国際関係について講義を行う。 （111 妻木　進吾／2回） ヘイトスピーチ問題について講義を行う。 （113 中田　裕子／7回）　※1回分は共同 本講義のイントロダクションをはじめ、安重根、20世紀初頭の東アジア、東アジアの未来について講義を行う。	オムニバス方式 共同（一部）
			環境と社会		本講義では、社会科学的な視点から「環境問題」考える。実際の環境問題の様々な事例を取り上げながら、環境問題の複雑性と人間と自然環境の関係を学ぶ。また、フィールドワークの基礎についても触れていく。	
			平和学A		平和が何を意味するのか？－戦争の無い状態か、戦争の心配のない状態か、差別やいじめのない安心して生活できる状態か。本当に「日本」は平和なのか。その平和は誰にとっての平和なのか。本講義では、具体的な事象を通して、現代の世界における平和について、興味を持てるように様々な側面から「平和」について考察する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	ジェンダー論		ジェンダー論的視点から現代社会を見つめなおす。人間の「性」に関わる事柄は、しばしば「当り前」で、「自然」なものと思われているかもしれないが、男らしさや女らしさ、性別による役割分業などは、社会によってつくられたものである。ジェンダー論はこのように社会的につくられた「性」の諸問題を問うものである。本講義ではその基礎的態度を得ることを目的とし、基本的な用語・概念を解説することと共に、現代社会における「性」にかかわる具体的な主題を取り上げ、検討する。ジェンダーの基本概念を理解し説明すること、また、ジェンダーの視点から現代社会の様々な課題に気付き、それらを自らの生と関係付けて考えることができるようになることを目標とする。	
			国際社会論		国際関係論の枠組みを用いて、日本を取り巻く国際環境に日本がどのような態度で望むべきかという、日本外交の課題について考える。あわせて、私たち一人ひとりが国際関係と向き合うときの視座というものについても注目する。 本講義では、とりわけ、日本政府が「安全保障環境の変化」として南西諸島にミサイル部隊を配備し、台湾有事は日本有事であるとして急速な軍事化を推し進めようとしている状況に焦点を当てて、現実の国際関係を批判的に捉える目を養うことを主眼とする。最新の国際状況を見ていく時に、感情的に物事を判断するのではなく、国際関係論の枠組みを用いて情勢を客観的に分析できるようになることを目指す。	
			地域論		本講義では、地域の居住者の属性、さまざまな産業の立地などに関する統計データと、それにもとづいて作成した統計地図を主な手掛かりとして、「地域」を俯瞰的に見つめ、その地域内や周辺地域との空間的関係に注目することを通して、われわれが生活している地域について考え、またそこで起きているさまざまな現象について理解する力を養うことを目的とする。統計地図を手掛かりとしながら地域について考える（またその力を養う）ため、それに必要な統計調査についての基礎知識、統計データの初歩的な分析法、地図の原理、統計地図の作成法や読図法、またそれらを活用しながら地域について理解するための地理学的な理論や地域分析の枠組みなどについて学習する。	
			企業と会計		企業の経営成績や財政状態を知るために利用できるものとして、企業が作成・公表する財務諸表がある。財務諸表を利用することで、企業が儲かっているのかどうか、倒産する危険性はないのかどうか、といったことを分析することができる。ただし、財務諸表を分析するためには、簿記や会計に関するそれなりの知識や技術が必要となる。本講義では、財務諸表を分析するために最低限必要な会計の知識を学ぶほか、実際の企業の財務諸表を利用して、財務諸表の基本的な分析方法について学ぶ。	
			社会思想史		本講義では、社会思想の歴史から諸個人のあいだのつながりや個人と集団の結びつき、自然と社会の関係の変容に焦点を当て、モダニティを批判的に考察する。社会思想の歴史を通じて、先人たちがどのように社会を構想してきたのか、そして私たちはどのように今後の社会のあり方を構想することができるのかを知る手がかりを探る。	
			情報倫理		（概要）情報化に伴う社会の変化により、倫理や規範の問題についても、これまでの議論の枠組みとは異なる視点からの再検討が必要になっていると考えられる。本講義では、こうした課題を法制・関連IT技術・個人の心理面の3テーマから整理し、情報倫理の問題を多面的に検討していく。 （オムニバス方式／全15回） （4　野村　竜也／11回） インターネットにおける行動と心理の他、コンピュータウイルス、セキュリティ対策、ネットワークサービスと開発者倫理等について講義する。 （177　芝原　努）／4回） 企業、自治体における情報セキュリティコンサルティングや情報セキュリティ監査の業務を行う実務家教員から、情報関連法律や現行法の問題点および今後の動向について講義を行う。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	情報社会とメディア		（概要）本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。 （オムニバス方式／全15回） （1　池田　聖／8回） アナログとデジタル、インターネットとモバイル通信、Webと SNS、ネットセキュリティ、仮想通貨とブロックチェーン、偽情報の拡散と対策等を講義する。 （4　野村　竜也／7回） AIと教育・仕事、AIに対する批判的考察等を講義する。	オムニバス方式
			データサイエンス・AI入門		本講義では、データを扱う分野としてのデータサイエンス・AIの基礎的なことを学習し、将来、機械学習などを学習するための準備を行うとともに、社会でビッグデータの処理結果に基づく判断が求められた際に、困らないようにすることを授業目的とする。 データ思考の基礎的な知識・技能を有し、実際の簡単な統計データなどを適切にグラフ化し、それから判断することができること、また、データを扱う上での個人情報などの取り扱い方に関して、注意すべき点を説明できることを到達目標とする。	
			データサイエンス基礎		龍谷大学「データサイエンス・AIリテラシープログラム」の内容を補完的・発展的に学修し、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AIを活用し課題解決につなげる基礎能力を修得し、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得することを目標とする。数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）モデルカリキュラム」に基づき、同カリキュラムの「データサイエンス基礎」及び「データエンジニアリング基礎」を中心に学修する。	
			AI基礎		龍谷大学「データサイエンス・AIリテラシープログラム」の内容を補完的・発展的に学修し、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AIを活用し課題解決につなげる基礎能力を修得し、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得することを目標とします。数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）モデルカリキュラム」に基づき、同カリキュラムの「AI基礎」を中心に学修する。	
			グローバル・シチズンシップA(公共性・コミュニティ)		本講義は、「市民であること＝市民性（シチズンシップ）」の意味と、それを涵養する必要性について考え、理解するための「入口」となる講義として位置づける。したがって、それらの知識をどのように実際の社会に適用しひとりの市民として「公共」に寄与していくのか、について考える上での土台となる知識・考え方を養う。その上で、個人が所属するコミュニティについて、その概念や機能、生活空間や地域自治との関連を具体的な事例を取り上げつつ検討し、地域社会やコミュニティが抱える課題や今後の展望について学ぶ。	
			グローバル・シチズンシップB(民主主義)		価値観が多様化した現代社会において、民主主義を理念的、実践的に深化させることは必須の課題である。私たちは、民主主義社会を運営する構成員として、民主主義の理念と実践方法を『生きたもの』として修得することが求められている。とはいえ、民主主義といわれても、多数決、選挙、デモ、熟議などなど、イメージするものはさまざまであろう。本講義では、さまざまな民主主義のあり方について、グローバル、ローカル、また制度、非制度の両方の視点から理論的、実践的に学んでいく。そのうえで、現代を生きる私たちが目指すべき民主主義の具体的な実践のあり方について考える。	
			グローバル・シチズンシップC(平和構築)		本講義では、グローバルな紛争のメカニズムや、平和構築の本質的課題に愚直に向き合う。そして、私たちのローカルな日常生活とのつながり、個々のうちにある平和への思いや課題を見出すことを試みる。「遠くの悲しみ」、「異質な他者」に向き合う人＝ピースビルダーの活動を理解することに重点を置く。感染症の長期的な影響や多発する災害を背景とした私たちを取り巻く環境の変化も視野に入れ、とくに混迷を極めているミャンマーの情勢を踏まえつつ、ケーススタディを通して理論的枠組みを学んでいく。将来のキャリアデザインを豊かにするため、平和構築に関わる際の基本的な発想とスキルの習得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	グローバル・シチズンシップD(人間の安全保障)		本講義では、人間の安全保障の概念を学び、現代社会を見る目を養う。人間の安全保障概念の形成と発展の歴史を学ぶ。そして、人間の安全保障概念が登場してきた背景、概念を支える理論的基礎を学ぶ。第二次世界大戦後の開発思想と国連を中心とした開発戦略の変遷をたどりながら、人間の安全保障とは何か、その背後にある理論的・思想的基礎とはどのようなものか、について検討する。現代正義論からグローバル・シチズンシップとアイデンティティについての考察をおこなう。人間の安全保障から現代社会を見ることで、私たちの暮らす日常を見直す手懸かりを探る。覚える知識を授ける講義ではなく、考える機会を提供する講義を目指す。	
			教養教育ゼミナール（社会科学）		本講義は、多様な社会的事象や課題を対象とし、資料の調査・分析、理論的・実証的な考察や討論を通じて、社会科学における学問的視点と方法論を学修する。学問的根拠に基づく批判的思考力と表現力を涵養するとともに、多角的な視点から社会を検討する力を養い、大学教育において共通して求められる基礎的な学修態度を培う。	
			社会課題発見演習		本講義では、学修者が自らの「学びの課題」を主体的に発見し、その「学びの課題」を探究していく、「テーマを持った学び」の羅針盤となるスタートアップ科目である。 個人ワークやグループワークを繰り返しながら、現在のわたしたちの社会における具体的な社会課題を社会科学的なアプローチから発見する方法を身につける。社会課題の実態の多面的な把握、それを生起させている背景・要因・メカニズムの把握を試み、その成果を他者に伝える方法を実践的に身につける。	共同
			社会課題解決演習		本講義は、学修者が社会課題の解決に取り組むことから学修者の知的躍動を引き起こし、学修者を「テーマを持った学び」に誘う演習科目である。現在のわたしたちの社会における具体的な社会課題を取り上げ、社会科学的にアプローチする。ペアワークやグループワークを繰り返しながら、取り上げる社会課題の実態の多面的な把握、それを生起させている背景・要因・メカニズムの把握を試み、その上でその解決のための方法を具体的に模索し提言にまとめる。また、その成果を他者に伝える方法を実践的に身につける。	共同
		自然科学系科目	生活の中の数学	○	本講義では、高校までで学ばなかったような数学のいろいろな新しいアイデアについて、数学が作られてきた動機に戻って、直観のはたらく現実世界を舞台として解説する。数学の各分野独特の考え方や方法論の一端を感じることで、物事を柔軟に考える能力を養う。	
			生活の中の統計技術	○	本講義では、①統計とはいかなるものであり、どのようなプロセスで作成されているのかを理解することから出発し、②各種の統計数値やそれを用いた分析結果に惑わされないようするにはどうしたらよいのか、③統計を活用する際にはどのような点に留意せねばならないのか、について簡単な数値例を用いながら学ぶ。	
			生活の中の化学	○	私たちが現代社会で生活していく上で、化学物質の使用や化学反応は日常いたるところで見られる。本講義では、実際の化学製品や生活に密着した身近なところで見られる化学に関する事象について、化学の知識が乏しくてもわかるよう平易に解説し、理解を促進させる。	
			生活の中の物理	○	身の回りの科学技術に限っても、その進歩は著しく、ますます高度になるとともに複雑になり、その仕組みを理解して使うことは難しくなっている。それ故に、その基本的な仕組みを知って正しく使うのみならず、人類の将来に貢献する科学技術の推進のさせ方がより強く求められている。本講義では、誰もが恩恵に浴している科学技術に使われている物理的仕組みを、身の回りの物理現象に注目して理解することを目的とする。	
			生活の中の生物学	○	本講義では、生物学に関連する情報を理解するための基礎知識を身に付けること、研究事例を通して科学的な思考力を身につけることを目的として、私たちにとって身近な生物学に関するトピックスに関して学ぶ。特に、生物の体の構造やしくみ、進化のメカニズム、植物の生活史戦略などを中心に扱う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	生活の中の地学	○	自然科学の基礎知識を理解する科目として、地学分野の興味在る話題を選び講義を行う。私達をとりまく宇宙・地球・生態系、そしてそれらを構成する物質や情報が自然科学的な観点からどのように理解されているかを解説する。特に自然災害に関する内容を重視し、地震・火山・気象に関する防災情報の活用について事例を用いて具体的に紹介し、自然と人間の生活との関わりに触れながら、私達をとりまく環境を理解するための論理・知識・方法論について概観できるようにする。	
			現代の技術		（概要）現代社会を縁の下で支えている先端技術の現状と課題について理解を深め、今後のあるべき姿および方向性を考える。 （オムニバス方式／全15回） （30　小川　圭二／8回） ものづくり技術、輸送技術、コンピュータ技術、ロボット技術などを取り上げ、これらの分野における基礎的知識、技術の現状および今後の課題等を学ぶ。 （96　糟野 潤／7回） 先進技術の発祥と進化を、日本が開発してきた液晶や有機EL等を中心にその機能発現の原理と実際の製品・応用例などを踏まえて学ぶ。また、最近のバイオミメティクスやバイオテクノロジーについて、これからの社会の変化を見据えて学ぶ。	オムニバス方式
			生命と科学	○	生体の中に含まれる様々な化学物質は、生命活動において重要な役割を果たしている。私たちはそれら生体物質の構造と機能を理解し生活の向上のために巧みに利用しており、物質生産や医療など様々な分野で生体に由来する材料が利用されている。一方で、こうした分子生物学の進歩はクローン技術など生命倫理に関わる問題も引き起こしている。本講義では、生体内で活躍している分子のすがたを解説し、それらと私たちの生活との関わりについて考察する。	
			自然観察法		（概要）びわ湖大津キャンパスの近くには比較的豊かな自然環境が残されている。本講義では、びわ湖大津キャンパス周辺で観察できる植物や動物を主な題材として、身近な自然を観察するポイントを学習し、実際に野外観察を行い、記録、考察、分析を行う。 （オムニバス／全15回） （79　丸山　敦／1回） 動物の観察や実験を通して生活史・生態・行動様式・認知などを理解する方法を学ぶ。 （81　三木　健／2回） 主に水域の小さな生物の観察や定量化を通して、生物集団における多様性について理解する方法を学ぶ。 （84　山中　裕樹／1回） 主に魚類や甲殻類といった大型水生生物について、観察の基本となる形態計測を通して生活史などとの関係性について理解する方法を学ぶ。 （99　岸本　圭子／6回） 主に陸上の小型動物の観察を通して、動物の生活史・生態・行動様式などを理解し、動物の営みについて考察を深める。 （119　横田　岳人／4回） 初回ガイダンスでの野外における観察の手法や記録、分析法の講義の他、地形図の見方と野外での観察記録などの講義とともに、樹木の観察や植物と動物の関係などを考察する。 （156　鎌倉　真依／1回） 樹木の解剖学的観察と生理的応答の測定を通して、森林生態系で起こっている様々な反応や物質循環についての理解を深める。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	里山学		本講義では、人と自然が共生してきた日本の里山の歴史と文化を学ぶ。里山は、単なる森林ではなく、農業や林業といった人間の営みを通じて育まれてきた、生物多様性に富んだ二次的な自然環境である。気候変動や生物多様性の危機が叫ばれる現代において、里山が持つ多面的な価値（生態系サービス、文化的価値など）を理解することは重要である。具体的な事例を通して、里山の管理・保全の現状や、持続可能な地域社会のあり方を考察する。里山から、人と自然の新しい関係を築くための知恵を学ぶことを目的とする。	
			植物の自然誌		本講義では、私たちにとって身近な植物を題材に、形態のとらえ方、分類のしくみ、形態と生態の関係、食用をはじめとする人間生活との関係など多様な視点で学習する。	
			環境の科学		人類が抱える地球規模の環境問題、そしてローカルな琵琶湖の環境問題の現状と課題やその解決アプローチについて、「環境科学」の視点から学ぶ。地球規模の環境問題、琵琶湖の環境問題についての基礎知識を身につけるだけでなく、環境問題を自分のこととして考え、解決するための実践力を身につける。	
			人類の科学		本講義では、まず人類が誕生し、どのように生業を変化させ、多様化させていったのかについて学ぶ。その後、現代における世界各地の狩猟採集社会における人々の生業や社会の成り立ちの理解を通じて、高度産業社会に生きる我々の生き方について再考する。また霊長類と人間の比較を通じて、人間性なるものの理解を深める。	
			情報と人間		我々の生活には、スマートフォンやゲーム機を始め、あらゆる所でコンピュータを利用している。それらは「情報」をやり取りしているが、その「情報」とはどういうものかを科学・技術的な側面から学習する。また、生成AIを始めとする人工知能が身近になってきている。ソフトウエア・ハードウエアの両面から現在の人工知能とロボットについて学習し、今後の「人間」との関わりについて理解することを目標とする。	
			現代社会と栄養		従属栄養生物であるヒトは様々な生き物（動植物、微生物）を食物として摂取するが、食物には生命の維持に不可欠な栄養素がバランス良く含まれなければならない。日本の食が豊かになった一方、健康な食生活を実践できている人はどのくらいいるであろうか。食を巡る様々な問題が社会を騒がす現代、食と栄養に関する基本的知識を持つことは、健康な生活を確保する大切な一歩である。本講義では、健康で豊かな食生活を送るために、我々が何を知らなければならないのか、広い視野に立って身近な問題から考える。	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ		テクノロジーの急速な発展は人類に多大な恩恵をもたらした一方で、運動不足などによる生活習慣病などの発生率上昇の一因となっている。本講義は、現代社会における健康とスポーツ・運動の役割をスポーツ科学の観点から、①現代社会におけるスポーツ・運動と健康、②スポーツ・運動と身体的な健康、③スポーツ・運動と心の精神的健康、④食生活とスポーツといった切り口から考察する。	
			現代社会とスポーツ		現代社会におけるスポーツの社会的・文化的な役割について、スポーツ固有の魅力や楽しみ方、スポーツと地域社会の関わりなどを踏まえながら考えていく。また、スポーツのメディア化・ビジネス化・グローバル化という３つの視点から、現代スポーツのあり方を批判的に検討し、これからのスポーツと社会との関係について考察する。	
			スポーツ技術学A	○	現代人の身体運動は交通手段の発達等によって低下している。スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つ他、生活習慣病の予防にもなるが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、日常生活での運動の習慣化が求められている。本講義では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、①～③を展開する。…①面白さを認識する。②スポーツ技術を系統的に獲得する。③自己の体力を分析し、改善策を探る。 ※「A」と「B」では、競技科目が異なる。	
			スポーツ技術学B	○	現代人の身体運動は交通手段の発達等によって低下している。スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つ他、生活習慣病の予防にもなるが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、日常生活での運動の習慣化が求められている。本講義では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、①～③を展開する。…①面白さを認識する。②スポーツ技術を系統的に獲得する。③自己の体力を分析し、改善策を探る。 ※「A」と「B」では、競技科目が異なる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	スポーツ科学系科目	スポーツ文化論		なぜ、スポーツにルールがあるのか。また、スポーツのルールがどのような役割を果たし、どんな要素で成っているのか。 スポーツにルールが存在する意味と役割、スポーツにおけるルールの機能や構造、社会におけるスポーツとルールの関係について、法学の助けを借りつつ社会科学的な論理を考察する。	
			スポーツ科学のすすめ		スポーツ科学とは、身体運動やスポーツに関わるさまざまな現象を科学的に研究し、理解し、応用する学問分野である。自然科学的な研究によって解明された知見は、アスリートのパフォーマンス向上や発育発達期から高齢者までの健康的なライフスタイルの推進など幅広い分野で役立てられている。また、スポーツには「する」だけでなく「みる」「ささえる」など多様な関わり方がある。もともとは余暇の娯楽だったスポーツは、現在ではさまざまな意味や価値をもつようになり、人文科学・社会科学的な研究の対象ともなっている。 本講義では、スポーツの自然科学・人文科学・社会科学の各領域の研究成果や課題にふれることを通してスポーツに対する学問的関心を呼び起こし、それぞれの関心に応じたスポーツ科学の研究課題を構想するための知識と態度を養う。	
			教養教育科目特別講義		人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目・スポーツ科学系科目の教養教育科目において、単年開講される科目。講義内容に関しては、科目毎に異なる。 （例）「教養教育科目特別講義（スポーツ技術学演習：バドミントン）」 実技と演習の要素を兼ね備え、スポーツを科学的に分析し、実践・応用できる能力や人間の発達、可能性について考察できる素養を身につけられるよう、展開する。本科目においては、集団的・組織的に活動していくことが必要となり、他者との共同作業を行うことを通して、コミュニケーション能力も身につける。	
			キャリア入門		キャリア形成に関連する現代社会における諸課題や、それらを取り巻く状況を、労働、人権、法律、DX、グローバルなどの様々な視点から学び、社会および自己への理解を深める。また、社会への理解を深めるとともに自身のキャリアを考え、キャリアプランニング（人生設計）を実践できる力を醸成する。さらに、低年次生向けキャリア教育プログラムや3年次生以上向けのインターンシップへの参加の動機づけのひとつとなる科目として位置付ける。　講義はオンラインで実施する。京都深草およびびわ湖大津の両キャンパスの学生が同時に受講する。 （オムニバス方式/全15回） （6　藤田　和弘／1回） 働くことをDXの視点から考える （25　上山　美香／1回） 働くことを発展途上国の視点で考える （27　大石　尚子／1回） 働くことをソーシャルイノベーションの視点から考える （37　小正　浩徳／1回） 働くことを心理学の視点から考える （53　武井　寛／1回） 働くことを労働法の視点から考える （67　野呂　靖／1回） 建学の精神とキャリア（自校史・仏教SDGs） （88　渡辺　めぐみ／1回） みんなのためのジェンダー平等とワークライフバランス （89　秋庭　太／1回） キャリア形成と業界研究 （98　河合　沙織／1回） 働くことをグローバルの視点から考える （112　中川　千草／1回） 働くことをアフリカ社会の視点から考える （118　眞鍋　邦大/5回） キャリアの描き方、卒業生のキャリアから学ぶ（活躍する若手社会人から）、キャリア形成とアセスメント、卒業生のキャリアから学ぶ（第一線で活躍する社会人から）、ビジョンを描く/目標と行動/社会人の心得	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	キャリア・ディスカバリー		これからの学生生活や進路に向き合う中で、自分のキャリアについて前向きに考え、これまでの学びや経験を振り返る。業界・企業・職種などの研究を通じて社会とのつながりを見つめ直し、自分らしいキャリアを模索する。キャリア入門・キャリア実習・実習指導で得た知識や経験を活かし、多様な仲間と協力して社会課題に取り組むことで、大学での学びを社会でどう生かすかを実践的に学ぶ。	
		みんなのコミュニケーションA		本授業では、受講者の母語や文化の多様性を理解し、留学生と日本籍学生が協働作業を通じて異文化理解と尊重の姿勢を育てる。受講者誰もが平等であり、お互いの意見を傾聴することが大前提である。文化背景や考え方が異なる受講者同士が「自分のことば」を使って交流し、互いに認め合い理解していく作業を繰り返す。自分の言葉で意見を交わし、考え方の違いに気づき、その理由を共有する。日本語による学術的なコミュニケーション活動に主体的に参加し、プレゼンテーションやグループワークの技能を高める。多文化環境での仲介者として行動し、自分の考えを他者に伝える力を養う。	
		みんなのコミュニケーションB		本授業では、言語や文化的背景の異なる学習者同士が、意味のある交流（meaningful interaction）を通じて多様な価値観や考え方を共有・理解し、互いの違いを受け入れながら自己の視点を再解釈し、新たな価値観を創造する学習体験を実践する。こうした経験を通じて、グローバル社会に必要とされる柔軟な視点、協働力、積極的な行動力を養う。授業は、日本人学生と交換留学生が共に学ぶ国際共修スタイルであり、プロジェクト型学習（PBL）を中心に構成されている。講義は日本語を基本とするが、グループワークでは翻訳アプリなどの言語資源の活用も認められており、言語の違いを越えて積極的にコミュニケーションを図る姿勢が求められる。学生は、異文化間の対話を通じて寛容さを育み、課題遂行力やプレゼンテーション能力などの実践的なスキルを高める。	
		Inclusive Communication		（英文）This course promotes intercultural understanding through collaborative learning between Japanese and international students. Using project-based learning (PBL), students engage in meaningful interaction to explore diverse values and perspectives. Classes are primarily conducted in English, but students are encouraged to use translation tools and other language resources during group work. Through cross-cultural collaboration, students develop communication skills, tolerance, and practical abilities such as teamwork and presentation. （和訳）本授業は、日本人学生と交換留学生が協働し、異文化理解を深めることを目的としたプロジェクト型学習（PBL）である。学生は意味ある交流を通じて多様な価値観を共有し、自己の視点を広げる。授業は英語を基本とするが、翻訳ツールなどの言語資源も活用可能である。グループワークを通じて、コミュニケーション力、寛容さ、プレゼンテーション力などの実践的スキルを養う。	
		みんなで学ぶ国際ビジネス事情		本授業は、龍谷大学生と留学生が共に学ぶ国際共修スタイルであり、プロジェクト型学習（PBL:Project-based Learning）の形態で実施する。生まれ育った環境・文化・価値観が異なる留学生と共に、身近な課題の解決につながる企画・提案の作成に取り組み、その過程を通じて、国際的なビジネスをする上で有用となる異文化理解力やコミュニケーション力を涵養すると同時に、他者との協働を通じて新たな社会的価値を創造・提案する意義、難しさ、楽しさ、奥深さを学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	英語で学ぶ日本の社会A		（英文）This course introduces key issues in postwar Japanese society, focusing on topics such as social class, gender, ethnicity, labor, education, family, immigration, and media. Students will critically examine stereotypes, explore Japan's global role, and understand how demographic and structural patterns shape social issues. The course also fosters independent learning, group collaboration, and the ability to summarize and present key ideas from readings. （和訳）本講義では、戦後日本社会における主要な課題を取り上げ、社会階層、ジェンダー、民族、労働、教育、家族、移民、メディアなどのテーマを通じて、日本の国際的な役割や社会問題の背景を理解する。学生は、ステレオタイプ化された日本観を批判的に検討し、人口構造や社会的枠組みが社会問題にどのような影響を与えているかを考察する。講義では、文献を通じて得られる知識をもとに、独立した学習姿勢を育み、グループでの協働作業を通じて多様な視点を共有する。また、プレゼンテーション能力の向上も目指し、現代日本社会に対する理解を深めるとともに、批判的思考力と実践的なコミュニケーション力を養う。	
		英語で学ぶ日本の社会B		（英文）This course explores the concepts of sustainability and resilience in the context of the Japanese economy and business sector. Using an evidence-based approach, students will examine data related to the challenges and opportunities facing Japan, including ageing and declining population, employment and income, GDP, fiscal debt, social security, climate change, natural disasters, environment, technology, energy and analyze how these issues impact the economy and society in general. （和訳）本講義では、日本の経済およびビジネス分野における持続可能性とレジリエンスの概念を理論的・実証的に探究する。学生は、人口減少と高齢化、雇用・所得、国内総生産（GDP）、財政赤字、社会保障、気候変動、自然災害、環境問題、技術革新、エネルギー政策といった日本が直面する主要な課題と機会に関する統計データや実証研究を参照しながら、それらが経済および社会全体に与える影響を多角的に分析する。これにより、現代日本の持続可能な発展に向けた課題認識と政策的対応について、批判的かつ構造的な理解を深めることを目的とする。	
		仏教SDGs概論		本講義では、仏教思想と持続可能な開発目標（SDGs）の関連性を探究する。SDGsの理念である「誰一人取り残さない」と、龍谷大学が掲げる「自省利他」の行動哲学を基盤に、持続可能な社会の実現に向けた学びを深めることを目的とする。社会変革の実践者を講師として招き、現場の知見や経験を共有することで、理論と実践の双方から理解を広げる。学生は、仏教思想とSDGsの関わりを理解するとともに、自省利他の精神を踏まえて行動計画を立てる力を養う。また、多様な担い手との対話を通じて協働する力や広い視野を培い、自身の専門分野においてSDGs達成に貢献する方法を考案・実行する能力を身につける。講義はレクチャーとゲストによる連続講義形式で行い、学生同士の意見交換や対話を重視する。	
		アントレプレナーシップ入門		本講義では、アントレプレナーシップの概念、歴史、理論を体系的に学び、起業家としてのマインドを養うことを目的とする。新たな価値を創造し、社会にインパクトを与えるために必要な知識・スキル・姿勢を身につけることを重視する。学生は、基本的な理論や歴史を理解するとともに、起業家の思考法や行動様式、リーダーシップを学び、新規事業のアイデア創出やビジネスモデル構築、資金調達、マーケティングなどの実践的知識を習得する。また、失敗を恐れず挑戦する姿勢や問題解決能力、コミュニケーション能力を磨き、将来の活動に活かす力を培う。講義はレクチャーを基盤としつつ、ゲストスピーカーによる講演、ケーススタディ、グループワーク、ディスカッションを組み合わせ、実践的かつ多角的な学びを提供する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	テクノロジーと事業創出		本講義では、急速に進化するテクノロジーがもたらすビジネスチャンスを理解し、新たな事業を創出するための知識とスキルを習得する。AI、IoT、ブロックチェーンなどの最新技術の基礎を学ぶとともに、それらを活用したビジネスモデルや事業戦略の策定方法を体系的に修得することを目的とする。学生は、最新テクノロジーの動向とその社会的・経済的影響を理解したうえで、新規事業のアイデア発想、ビジネスモデル構築、事業計画策定の能力を養う。また、プロトタイピングや実証実験を通じてアイデアを具現化する実践力を磨き、課題解決力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高める。講義はレクチャーに加え、ゲストスピーカーによる講演、ケーススタディ、グループワーク、ディスカッション、ハンズオン形式の演習を組み合わせ、実践的で多角的な学びを提供する。	
		ソーシャルインパクト概論		本講義では、社会課題の解決を目的とするソーシャルビジネスの基礎を学び、その理論的枠組みから実践的手法までを体系的に理解することを目指す。ソーシャルビジネスの概念、歴史、理論を学ぶとともに、国内外の多様な事例を分析し、その成功要因や直面する課題を把握する。さらに、ビジネスモデルの構築、資金調達の方法、社会的インパクト評価といった実践に不可欠な知識を修得し、社会的事業の計画・実施・評価に関するスキルを養う。講義はレクチャーを基盤としつつ、ゲストスピーカーによる講演、ケーススタディ、グループワーク、ディスカッションを組み合わせ、理論と実践を往還する学びを提供することで、受講者が将来の社会的事業に主体的に取り組む力を培う。	
		協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）		本講義では、急速に進化するテクノロジーが生み出す新たなビジネスチャンスを理解し、事業創出に必要な知識とスキルを習得することを目的とする。AI、IoT、ブロックチェーンなどの最新技術の基礎を学び、それらを応用したビジネスモデルの設計や事業戦略の立案方法を体系的に修得する。学生は、技術動向とその社会的・経済的影響を把握するとともに、新規事業のアイデア発想、モデル構築、計画策定能力を磨く。さらに、プロトタイピングや実証実験を通じてアイデアを具体化する力を養い、課題解決力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高める。講義はレクチャーを基盤としつつ、ゲストスピーカーの講演、ケーススタディ、グループワーク、ディスカッション、ハンズオン演習を組み合わせ、理論と実践を往還する学びを提供する。	
		アカデミック・ライティング入門		大学で課される学術的文章、とくに論証型レポートに対応できるアカデミック・ライティングの基本的な能力を身につけることが目標である。目標を達成するために、テーマや問いの設定、情報収集、引用の方法など、各回で扱う事柄を設定して講義をおこなう。各講義内容の理解を深めるために扱う事柄に応じたワークを取り入れ、受講生どうしが意見交換をすることから多様な考え方のプロセスを学んでいく。さらに、授業外学習として、ライティングサポートセンターと連携し、受講生がセンターのチューターからアドバイスを受けて改善する機会を設ける。大学での学術的文章を的確に作成できるようになるだけでなく、その後に必要とされる考え方にも寄与することを配慮する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	ボランティア・NPO入門		（概要）本学の「建学の精神」をふまえて、ボランティアやNPO・NGOなど市民活動の基本的な内容を理解し、社会の中で市民活動が持つ意味を学ぶ。具体的には、ボランティア・NPOの主な活動分野である国際協力、災害復興、環境保全、まちづくり、観光、こども、社会福祉、スポーツなどの専門家が、それぞれの現状や課題についてわかりやすく講義する。 　また、本学ボランティア・NPO活動センターの活動内容を紹介し、「ボランティア活動を通じた自分自身の学びと成長」について考える。 （オムニバス方式／全15回） （26　打本　弘祐／1回） 建学の精神とボランティア（「建学の精神」と仏教者の社会活動（ビハーラ）） （67　野呂　靖／5回） ①イントロダクション（狙いや進め方、ボランティア・NPO活動センターの紹介）、②ボランティアとは（ボランティアに関する基本的な考え方と最新の動向）、③自殺対策とボランティア（自殺対策・心のケアの領域におけるボランティアの現状と課題）、④まとめ（学生、ボランティア・NPO活動センターによる活動内容報告） （70　深尾　昌峰／1回） NPO／NGOとは（NPO/NGOに関する基本的な考え方と最新の動向） （77　松永　敬子／1回） スポーツとボランティア（スポーツボランティアの意義と取組事例） （85　八幡　耕一／1回） 観光とボランティア（観光分野におけるボランティアの現在・未来） （90　石原　凌河／1回） 自然災害とボランティア（能登半島地震などの災害ボランティア活動） （91　井上　芳恵／1回） まちづくりとボランティア（学生による地域活性化の取り組みと地域コミュニティ支援） （109　谷垣　岳人／1回） 環境保全とボランティア（森林・里山保全活動の事例、自然と人間、都市と農村の共生） （114　中根　智子／1回） 国際協力とボランティア（国際協力の分野で大学生など若者が参加できるボランティア活動） （118　眞鍋　邦大／1回） 農村地域でのボランティア（ボランティアによる農村の活性化） （238　村田　智美／1回） 地域福祉とボランティア（住民参加による地域共生社会づくり）	オムニバス方式
		仏教美術（イコノロジー）入門A		「仏教美術」は、仏教の思想や崇拝対象などを「かたち」にしたものである。その「かたち」の特徴や性格に対して、経典や仏教思想、仏教世界観、仏教信仰などと関連づけ、さらには歴史性や地域性も視野に入れて講義を行う。本講座では、インドで誕生した仏教美術誕生の前後をふまえて、美術資料から釈迦の生涯などを概観し、「仏教美術のはじまり」を講義する。こうした講義の一環として、龍谷ミュージアムの見学も行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	仏教美術（イコノロジー）入門B		「仏教美術」は、仏教の思想や崇拝対象などを、「かたち」にしたものである。その「かたち」の特徴や性格に対して、経典や仏教思想、仏教世界観、仏教信仰などと関係づけ、さらには歴史性や地域性も視野に入れて講義を行う。本講座（後期）では、インドで誕生した仏教美術を概観したうえで、東アジア（中国、日本）へと展開する最初期の仏教美術を中心に講義する。こうした講義の一環として、龍谷ミュージアムの見学も行う可能性もある。	
		サンスクリット語仏典入門A1		古代インドの言語であるサンスクリット語。この言語は「インド・ヨーロッパ語族」という語族に属し、英語、ドイツ語、イタリア語、フランス語、スペイン語、ロシア語といった世界のさまざまな言語と共通のルーツを持ちます。古代インドにおいては、宗教、哲学、政治、文学、叙事詩、法典、戯曲などのさまざまな書物に用いられた文章語・公用語でありました。つまり、古代インドを深く理解するためには、サンスクリット語の知識が前提となります。仏教においても、ある時期からサンスクリット語が使用されるようになり、数多くの仏典がこの言語で伝えられてきました。そのため、インド仏教を理解するためには、サンスクリット語の習得が必須となります。また漢訳やチベット語訳の仏典を読解する場合でも、サンスクリット語の知識が必要になってきます。本講義では、サンスクリット語の初等文法を習得し、特にサンスクリット語仏典を読解することを目指します。	
		サンスクリット語仏典入門A2		古代インドの言語であるサンスクリット語。この言語は「インド・ヨーロッパ語族」という語族に属し、英語、ドイツ語、イタリア語、フランス語、スペイン語、ロシア語といった世界のさまざまな言語と共通のルーツを持ちます。古代インドにおいては、宗教、哲学、政治、文学、叙事詩、法典、戯曲などのさまざまな書物に用いられた文章語・公用語でありました。つまり、古代インドを深く理解するためには、サンスクリット語の知識が前提となります。仏教においても、ある時期からサンスクリット語が使用されるようになり、数多くの仏典がこの言語で伝えられてきました。そのため、インド仏教を理解するためには、サンスクリット語の習得が必須となります。また漢訳やチベット語訳の仏典を読解する場合でも、サンスクリット語の知識が必要になってきます。本講義では、サンスクリット語仏典入門Ａ１の復習を行い、Ａ１の発展として、サンスクリット語の文法を習得しつつ、特にサンスクリット語仏典を読解することを目指します。	
		チベット語仏典入門A1		サンスクリット原典が散逸してしまった経典をはじめとする種々の仏教文献は、『チベット大蔵経』にチベット語訳として数多く収録されている。仏教研究においてはそれらの文献は看過することのできない貴重な資料である。経典などチベット語に翻訳された文献を解読するために、古典チベット語の文法の基礎事項について講義する。まずチベット仏教・文化及びチベット語文献についてその概要を説明する。その後チベット語で用いている文字の書き方、読み方とともに各種の文法事項について解説する。これはチベット語に翻訳された仏典などを解読することにつながるものである。なお、この講義は外国語を用いるために、フィールドワーク、個人発表やグループディスカッションなどはない。ただし、講義中に学んだ文法事項の理解を深めるために課題を出し、次回の講義の冒頭に復習を兼ねて答え合わせをすることがある。	
		チベット語仏典入門A2		サンスクリット原典が散逸してしまった経典をはじめとする種々の仏教文献は、『チベット大蔵経』にチベット語訳として数多く収録されている。仏教研究においてはそれらの文献は看過することのできない貴重な資料である。本講義では、古典チベット語の文法の基礎事項を総括する。受講者はチベット文を文法通り和訳するために、文法書・辞書などを使用し、適正な訳語を選ぶ方法について説明する。講義中に習得した古典チベット語の文法の知識を活用しながら、引き続き『般若心経』、『維摩経』(抜粋)、『阿弥陀経』(抜粋)、「無著と弥勒の出会い」(抜粋)を順読み進めていく。また、経典を翻訳するに当たって経典の全体像を分かるように概要を解説する。なお、この講義は外国語を用いるために、フィールドワーク、グループディスカッションなどはない。ただし、受講者の和訳文を講義内に紹介していただくことがある。	
		古典文学講読（A）A		『源氏物語』を現行巻序に従って読み進めていく（本講義では「桐壺」巻から「賢木」巻までを読む）。そのことを通して、古典文学、特に物語文学を読解するために必要な力を養う。いくつかの主要な場面を取り上げ、それらについて従来どのような視点から研究がなされてきたかを紹介しながら講義を進めていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	古典文学講読（A）B		『源氏物語』を現行巻序に従って読み進めていく（本講義では「花散里」巻から「朝顔」巻までを読む）。そのことを通して、古典文学、特に平安時代の物語文学を読解するために必要な力を養う。いくつかの主要な場面を取り上げ、それらについて従来どのような視点から研究がなされてきたかを紹介しながら講義を進めていく。	
		近代文学講読（C）A		本授業では、一人称に注目して小説を考えていきます。私たちはふだん自分目線で自分や他者を語ります。客観的に語ろうと試みることがあるものの、「私」以外にはなり得ないものです。そのような営為を視野に入れて、具体的にいくつかの小説を検討していきます。前期は特に一人称の単数形に注目します。	
		近代文学講読（C）B		本授業では、一人称に注目して小説を考えていきます。私たちはふだん自分目線で自分や他者を語ります。客観的に語ろうと試みることがあるものの、「私」以外にはなり得ないものです。そのような営為を視野に入れて、具体的にいくつかの小説を検討していきます。後期は特に一人称の複数形に注目します。	
		情報出版学講読（B）A		古くから仏教唱導のために語られ書かれてきた仏教説話は、時代の経過とともに次第に話の怪異性に注目が集まるようになり、近世出版文化の興隆に伴い「怪談」として消費されるようになる。本講義では近世怪異小説のはじまりと位置づけられている仮名草子『奇異雑談集』を中心として、仏教説話の歴史や受容の様相、唱導から怪異小説へと変容していく過程について講義する。	
		脳と心		"Decade of the Brain" が唱えられたのは、1990年であった。そして近年の脳科学の発展に伴い、「脳」と「心」のつながりへの関心が高まり、「心」の座が「脳」にあるとの考えが共有される中で、従来とは異なる切り口から「心」を捉えようとする研究も広がりをみせてきている。本講義は、「脳」と「心」の関係についてどのようなアプローチが心理学や隣接領域において行われているかについて、トピック的な事項も含め多面的に紹介し解説することを通して、「心」について考える際の新たな視点の獲得を主たる目的とする。	
		仏教と心理学		（概要）仏教と対人コミュニケーションについて理解を深めるための講義を行う。 （オムニバス方式／全15回） （19　吾勝　常行／8回） 自己実現を目的とした心理カウンセリングが、仏教の知見とどのように融合し、対人場面で活用されているかを検討するとともに、地域支援という観点から対人コミュニケーションの社会性について理解を深めることを目的とする。 （67　野呂　靖／7回） 自己と他者がどのように関係しあい、また自己がどのように他者との関わりのなかで形成されるかというコミュニケーションの問題について、仏教の基本的な関係理論（縁起・空）を踏まえつつ、東アジアに展開した宗教・哲学思想における対人コミュニケーション理論について理解を深めることを目的とする。	オムニバス方式
		経済英語Ⅰ		主に日本で発行されている英字新聞（デイリー・ヨミウリ、ジャパン・タイムスなど）を素材に、様々な社会問題にかかわる記事を読み進める中で、英字新聞に独特の見出しや書き出しなどを学ぶと同時に、社会・経済に関する基本的な語彙を学ぶ。経済政策や国際貿易などの経済記事に限らず、受講者の関心を踏まえ幅広い記事を読む。	
		経済英語Ⅱ		講義を通して、経済に関わる語彙や表現を増やして英語のスキル（聞く、読む、書く、話す）を向上させ、コミュニケーション能力を強化する。 ・購読: 簡単な経済関連誌の内容を理解する。簡単な経済文書やデータ（グラフ、図表、レポート）を読み、解釈し、問題に答える。 ・課題：簡単な英作文。 ・会話: 英字新聞の記事について自分の意見を簡単に述べる。 ・視聴: 視聴覚教材を用い、特に経済専門用語について理解し活用できるようにする。	
		経済英語Ⅲ		経済学の重要概念を英語動画等のデジタル・コンテンツを利用して習得する。メモを取りながらリスニングを繰り返す練習を通して、徐々に英語の音声に慣れていく。そして、コミュニケーションのための英語を練習することにより、内容への理解力を高めていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	経済社会論入門		経済学と法・政治、そして哲学の間にはある基礎的な関係が想定されてきた。これらの関係はわたしたちの日常生活からはあまりに当たり前である一方、経済学を専門的に勉強するようになると、かえって見落としてしまいがちになる。そこで、専門的に経済学を勉強するようになる前に組織的に理解しておこう、というのが本講義の目的である。 この目的のために、現在「社会科学の統合」や「学問横断的」を旗標として掲げている公共哲学の知恵を借り、これらを元にしながら、経済学的に必要な補足を加えつつ、本講義を進めていく。	
		地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）		「プロジェクト型」の本授業は、座学中心の通常講義とは大きく異なる。受講生が主体的に考え行動する「実践」「参加」が基本になる。これまで学んだ経済学の知識や概念も使いながら、現実の経済社会を担う企業の実態を分析する。それを踏まえ、本授業の目的は、文献研究、講義、フィールドワーク（現場調査）などを通じて、100年以上続く「老舗」の本質を理解するとともに、その課題を発見し、具体的な対応策を提示することである。そして、最終的にはそれらを一般向けの書籍としてまとめることにある。	
		地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）		「プロジェクト型」の本授業は、座学中心の通常講義とは大きく異なる。受講生が主体的に考え行動する「実践」「参加」が基本になる。これまで学んだ経済学の知識や概念も使いながら、現実の経済社会を担う企業の実態を分析する。それを踏まえ、本授業の目的は、文献研究、講義、フィールドワーク（現場調査）などを通じて、100年以上続く「老舗」の本質を理解するとともに、その課題を発見し、具体的な対応策を提示することである。そして、最終的にはそれらを一般向けの書籍としてまとめることにある。	
		留学英語Ⅰ		本講義は、ビジネスや経済の語彙を増やしたい学生を対象とし、文化的、社会的、ビジネスの状況に対処する力を養うことを目的としている。グループまたは独立してリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングに取り組む。講義を通して、学生自身のキャリアや留学など、ビジネス英語を使用するにあたり、十分な自信を持つ機会となる。	
		留学英語Ⅱ		本講義では、「なぜ英語を勉強するのか」など日本の大学生が直面する重要な問題や、「民主主義における個人の責任」、「パートナーの選択」などトピックを取扱い、語彙、リスニング、リーディング、スピーキングの練習に取り組む。生徒が英語圏で活躍できるよう英語の知識を活性化することを目的とし、表現力、質問力、十分に裏付けのある答えを出す力を発達することができる。	
		留学英語Ⅲ		本講義は、ビジネスや経済の語彙を増やしたい学生を対象とし、文化的、社会的、ビジネスの状況に対処する力を養うことを目的としている。グループまたは独立してリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングに取り組む。講義を通して、学生自身のキャリアや留学など、ビジネス英語を使用するにあたり、十分な自信を持つ機会となる。	
		留学英語Ⅳ		本講義は、学生が自らの意見を表明し、知的な質問をしたり答えたりする能力を開発できるように設計されたハイレベルのコースである。これらのスキルは英語圏、特に欧米の大学で高く評価されているが、日本人学生には不足していることがよくある。本講義を通して、生徒の意見を表明し、時事問題について質問し、答える能力を養う。	
		経営科学		私たちは日常生活や企業活動の中で多様な選択を求められている。意思決定とは複数の候補から最適な解を導くプロセスであり、勘や経験だけでなく、データに基づく科学的・定量的な手法を用いることで、より客観的な判断が可能となる。特にビッグデータ時代において、統計は必須のスキルである。この授業では、データ収集や分析の基礎を学び、数字やデータの読み方を理解したうえで統計手法を身につける。 本科目は、何らかの課題に対する選択のために、データに基づいて導き出された結論や予測値も選択肢の一つとして検討できるような知識や技能を習得する科目として位置づける。	
		社会データ分析		社会の諸課題の発見・探求・把握、社会の諸課題の解決策の模索など、社会的リアリティに実証的に迫るためには、既存統計データの2次分析など、既存のデータの活用は欠かせない。本科目では、統計データを読み解くことを通して、現代日本社会が抱える諸問題・諸現実をより深く理解し、課題を発見し、解決策を模索する方法について、具体的な事例、具体的なデータの分析を通して実践的に学ぶ。その際、時系列的な比較、国際比較という視点の有効性についても押さえた上で、実践する方法を学んでいく。本科目は、実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求する科目として位置づける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	ワークルール入門		企業はわたしたちの生活に必要な財やサービスを生み出すとともに、働く（そして、賃金を得る）場所を提供している。このような意味で、企業はわたしたちの生活にとって不可欠な存在である。本科目では、とりわけ雇用・労働の問題に焦点をあてて、「ワーク・ルール」（＝働く際に知っておくべき法律等）を学んでいきたい。それは、学生時代に経験することが多いアルバイトにとっても必要な知識である。 本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	
		消費者問題論		企業・経営の活動は、消費者（ないしは顧客）に対して財やサービスを提供する。したがって、学生も当事者（消費者）であるという観点も必要となる。学生も日常的に企業によって提供される財やサービスを購入しているからだ。本科目では、将来も見すえて、学生時代から消費者としての権利と責任を学んでいく。実際に学生がさまざまなトラブルに巻き込まれている事態も生じており、消費者教育は、大学においても課題となっている。本科目は、専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深める科目として位置づける。	共同
		比較社会政策		社会政策は、市民の生活に関わる様々な公共政策を含むかなり広いものであり、具体的な制度・政策でいえば、労働政策と社会保障制度が中心になる。まず、本講義では、福祉国家というマクロな視点から各国の社会政策（労働政策と社会保障制度）の特徴や多様性を解説する。そのうえで、他の先進国との比較の視点から、日本の雇用と社会保障（医療、年金、住宅、社会サービス）の特徴と課題ついて説明する。	
		公務員論		本講義は、転換期にある地方自治体の職員である地方公務員に焦点を当て、地方自治の重要性が高まる中で、その中核を担う地方公務員に対する期待や地方公務員が果たすべき役割について検討する。地域の振興、活性化のまとめ役として地域をリードするのが地方自治体、そして、そこで働く地方公務員である。ただ、グローバル化や東京一極集中が進み、財政事情が厳しさを増すなど、地方自治体を巡る社会経済情勢が大きく変化する中で、地方自治体も転換期を迎え、地方公務員にも新たな役割が期待されている。本講義では、まず導入として、地方自治体の仕組みや地方自治体職員の役割について説明する。その後、具体的な事例として京都市役所を取り上げ、転換期にある地方自治体が、今日直面している課題をどのように解決しようとしているのか、政策の立案、実施という観点から整理、分析する。	
		国際ビジネス論		今日、グローバル化が進行し企業の活動もどんどん国際化している。 国際ビジネス、特に国際マーケティングは、企業活動が国境を超えるとき、企業がいかなる困難に直面し、どうやってそれを乗り越えていくのかということを考えてきた学問である。 国際ビジネス、国際マーケティングの考え方は、企業活動だけでなく、皆さん自身が多様化、グローバル化した社会を生きていくうえで大きな助けとなるであろう。本講義では、国際ビジネス、国際マーケティングの基本的な概念について学んでいく。	
		財政学		今まさに起きている社会問題を解決するために学ぶべき学問である「財政学」（本講義）では、「市民の学問」「経世家の学問」としての財政学を学んでもらい、この傷ついた世界の再生の公共政策を考える基礎力を身につけてもらいたいと考えている。財政学とは、国や地方自治体などの公共部門の経済活動（財政現象）を対象とした学問である。財政学の方法論は、経済学、政治学、社会学などの研究成果を摂取しながら発展してきた。そのため、財政学は、総合的社会科学を目指して発展してきた学問であるとも言える。現代国家の財政は、租税を強制的に徴収する一方で、様々な公共財を供給している。そうした財政活動により、私たちのくらしや社会の存立の基盤は支えられており、その動向は私たちの暮らしや社会に大きな影響を与えている。本講義では、現代の公共政策を考える上で、必須の素養である財政学的考え方を修得することを目標にする。	
		地方財政論		本講義は、市場経済の中で政府が果たす役割を考察する財政学・公共経済学分野の科目である。「財政学」で学んだ内容をさらに発展的に学んでいく。わが国の経済は、1990年代以降長期にわたる経済の低迷、格差の拡大、少子高齢化、政府債務の累増といった様々な問題を抱えている。こうした課題に対して、政府が本来果たすべき役割は、決して小さくはない。特に地方自治体には、地域住民のさまざまなニーズに応えるべく、創意工夫をこらした財政運営を行うことが求められている。では実際に、日本の地方自治体は、そのような期待される役割を現実に果たすことができているのであろうか。今後、我々の暮らす経済・社会をより良いものとするためには、地方自治体にはどのような取り組みが求められるのであろうか。本講義では、こうした問題を考えていく上で必要となる地方財政論の理論やわが国の財政運営の歴史的経緯や現状について理解を深めていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	地域レジリエンス論		自然災害等の危機によって、かけがえのない命が脅かされるだけでなく、日常生活や社会システムにも大きく影響を与える。被害を完全には防ぐことはできないが、被害を極力減らすとともに、危機に対してしなやかで迅速に回復するための地域社会をつくりあげること、すなわちレジリエントな地域社会を構築することが重要な政策課題の一つとなっている。本講義では、危機事象として主に自然災害に焦点を当て、被災後の地域社会の様相と支援方策の現状について講述する。これを踏まえて、計画・社会・組織・人材の観点からレジリエントな地域社会のあり方について検討し、地域レジリエンスの基礎的な知識と考え方について修得する。本講義の学びが実社会で活かされていることを理解してもらうように、今年度は2024年に発生した令和6年能登半島地震の被災事例について多く取り上げる。	
		地域課題発見演習		大学近隣の様々な団体と連携して地域環境保全の現状と課題を学ぶ、地域連携科目として開講する。地域課題とその解決方針を考えるために、実践活動に取り組む。本講義のテーマは「深草からはじまる サステナブルな暮らし」である。サステナブル（持続可能）な暮らしとは、自然を損なうことなく豊かにし、経済的にも成り立つ形で、自分の生活だけでなく社会全体がよくなるような暮らし方を指している。龍谷大学が立地する深草地域の自然や文化を活かしたサステナブルな暮らしのあり方を考え、実践する活動に取り組む。具体的には、深草地域で環境保全に取り組んできた地域住民・行政機関や、深草地域産の農産物販売・提供を行う企業等への聞き取り調査等を通じて、地域の現状や課題を把握したうえで必要な取り組みを検討し、様々な団体との連携によって実践する。	
		会話分析入門A		文の意味は、その文に含まれる単語の意味を寄せ集めたものではない。その文が実際に用いられる状況の中から必要な含意が汲み取られてはじめて、生きた意味、全体としての文の意味となる。含意が相手に伝わらなければコミュニケーションは失敗に終わる。本科目では、小学校や中学校の教科書で使用されている会話表現に焦点を絞り、どのような含意をどのように推論するかを音声や文法の観点から考察する。授業言語は日本語、資料は英語。	
		会話分析入門B		文の意味は、実際に用いられる状況の中から必要な含意が汲み取られてはじめて、生きた意味、全体としての文の意味となる。含意が相手に伝わらなければコミュニケーションは失敗に終わる。本科目では、中学校や高等学校の教科書で使用されている会話表現に焦点を絞り、日本語母語話者独特の英語の発音や文法の特徴について学び、その指導法について考察する。授業言語は日本語、資料は英語。	
		言語習得論		（英文）This course provides information about theory and practice in the field of second language acquisition. In particular, we will learn and discuss together the process and ramifications of how a person acquires and comes to use a second language, other than a first language. （和訳）本科目は、第二言語習得の分野における理論と実践に関する情報を提供します。特に、第一言語以外の第二言語を習得し、使用する過程とその影響について、一緒に学び、議論していきます。本科目の第二言語とは英語を指します。	
		異文化間コミュニケーション論		グローバル化が進展した社会においては、とりわけ、異文化間におけるコミュニケーションが多様なレベルにおいて発生する。本科目では、具体的な事例をもとに、異文化間のコミュニケーションで起こりうる様々な問題とその原因、解決方法を考察するとともに、多文化共生社会において必要な基礎知識を身につけることを目的とする。本科目は、日本語で実施するが、英語の教材も必要に応じて適宜使用する。	
		Introduction to Sociolinguistics		本科目では、私たちの言語活動が人種、民族、階級、性別、地域や年齢といった、社会的属性からどのような影響を受けるかを考察する。また、英語に焦点を当て、社会言語学研究における重要なトピック（方言、他言語主義、ダイグロシア、コード切り替え、言語景観研究、言語選択、言語政策や教育、言語消滅、言語変化など）を紹介する。講義の主な教授言語は英語。資料(スライドなど）の大半は英語及び日本語のものを使用する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	国際関係入門		（英文）The aim of the course is to provide students with opportunities to think about the connection between our everyday life and several global issues.The course is divided into two sections. First, dominant theories of International Relations such as Liberal Internationalism, Realism and Marxism will be introduced, applied, and its applicability examined. We will also explore important global issues such as nationalism, security, WTO, coffee trade. （和訳）本科目では、学生が日常の生活と複数のグローバルな問題とのつながりについて考える機会を提供する。コースは2つのセクションに分かれている。まず、リベラル国際主義、現実主義、マルクス主義など、国際関係論の主要な理論を紹介する。また、ナショナリズム、安全保障、WTO、コーヒー貿易など、重要なグローバルな問題も探求する。	
		政治思想概論		本科目では、国際関係理論と深く関係している政治思想をとりあげる。現代世界は不確実性と予測不可能性に満ち溢れている。ロシアによるウクライナ侵攻はもちろん、東アジア国際秩序の不安定化、止まらない温暖化、持てる国と持たざる国との格差拡大、人種差別やジェンダー不平等など、いまの世界にはあまりにも多くの問題があり、私たちはただその前で呆然と佇むしかないような印象さえ与える。本科目では、これらの問題に通底するものとは何なのか、それを解決するためにどのような思想的転回が必要なのかという点に絞って議論を進めていく。	
		国際開発協力論		現在地球はさまざまな課題を抱えている。本科目では、190 以上ある世界の国々が共通して直面する様々な問題を考察し、どのような解決方法が可能かを探りたい。例えば、貧困、環境破壊、人口増加、ジェンダーなど地球規模の課題は多く、これらの課題は相互に結びついてもいる。また、2015年に採択された持続可能な開発目標（SDGs）は、2030年を達成期限としている。しかし、この目標達成は容易ではない。近代工業社会を実現することにより豊かさを獲得してきたこれまでのやり方は、昨今のコロナ禍でますます抜本的な見直しを迫られている。つまり資本主義経済の限界をどう克服することができるかが問われている。これら諸問題への解答は、国連機関（UNDP）職員ならびに日本政府委託調査など担当者の経験をふまえ、理論的側面のみでなく実際の取り組みを考えつつ、現在の「開発学」ならびに「協力学」の道案内となる手がかりを得たい。	
		Introduction to Cultural Anthropology		（英文）This is an introductory course in cultural anthropology. The course begins an overview of anthropology, including the evolution of humans from pre-history, and a historical introduction to the field of cultural anthropology and the term culture, as they developed in the 1800s in Europe and the U.S. One focus is on the how anthropological research, and in particular fieldwork, was developed over the last 100 years. （和訳）本科目は、文化人類学の入門科目である。人類の進化から始まる人類学の概説、19世紀のヨーロッパとアメリカで発展した文化人類学の分野と「文化」という概念の歴史的背景について解説する。特に、過去100年間にわたり人類学の研究、特に現地調査がどのように発展してきたかに焦点を当てる。	
		文化遺産学		人類の長い歴史を物語る文化遺産は、グローバル化が進む現代社会において文化の多様性を理解するための重要な鍵でもある。文化遺産が危機に直面する要因には、紛争、自然災害、開発事業による環境破壊、社会構造の変化などがある。本科目では、文化遺産を取り巻く多様な問題と遺産保護に向けた政府機関や国際機関、民間等の取り組みを取り上げ、文化遺産の保存と地域社会の持続性について考察する。また、コロニアリズムの清算としての文化財の返還請求問題や先住民族の資料を扱う民族博物館と倫理の問題についても議論を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	南アジアの言語		南アジアは大国インドをはじめ周辺各国においても多様な言語や文字が使用される。言語は民族のアイデンティティともなり、歴史や文化を豊かに育む一方で、しばしば民族間の対立を引き起こす場合もある。本科目では、南アジアにおける言語が使用される歴史的経緯や社会問題、文化的土壌を概観した上で、インドの公用語ヒンディー語の会話基礎を映画を活用しながら学ぶ。本科目を通して受講者は、南アジアの言語の多様性と言語が育んできた世界観を、ヒンディー語を学びながらより深く言語文化を理解する。また、インド映画やアニメなどを用いながら、ヒンディー語をめぐる文化を理解する。使用言語は日本語を、資料は日本語および英語を用いる。	
		グローバリゼーションとアフリカ		サハラ以南のアフリカは、これまでは貧困にあえぐ人々が暮らすというイメージが強かったが、21世紀に入り経済成長がめざましい大陸として認識し始められた。本科目では、アフリカの過去と未来、そして日本や世界との繋がりを幾つかの側面から考察する。とりわけ、豊かなアフリカの資源をめぐるグローバルなせめぎ合いについて考える。国連機関（UNDP）職員ならびに日本政府委託調査など担当者の経験をふまえ、アフリカをめぐる、欧米や中国・インドの動向が、日本にいる我々にどう関係しているのかを見ていく。それによって、野生動物、紛争、貧困といったステレオタイプから脱却し、アフリカ人の生活実感に迫っていく。受講生は、この授業によって「地球の反対側から世界を見る」ことの意義を学び取ることができる。	
		グローバリゼーションと東アジア		（英文）This course explores how the idea of "international relations" has been introduced, digested, and practiced in the region known today as "East Asia," and how they affect us. The discipline of International Relations (IR), in particular, still tends to focus its analysis of global affairs on interstate relations. However, this lecture challenges such state-centrism and focuses on perspectives that have been overlooked or distorted by it. It is therefore designed for participants who wish to critically engage with international relations in East Asia, which has experienced violence and discrimination through a series of wars, conflicts, and colonization. （和訳）本科目では、現在「東アジア」と呼ばれる地域において、「国際関係」という概念がどのように導入され、理解され、実践されてきたか、そしてそれが私たちに与える影響について探求する。国際関係論（IR）という学問分野は、特にグローバルな問題の分析において、国家間の関係に焦点を当てる傾向がある。しかし、本科目では、そうした国家中心主義に挑み、それによって見落とされたり歪曲されたりしてきた視点に焦点を当てる。したがって、戦争、紛争、植民地化を通じて暴力と差別を経験してきた東アジアの国際関係に批判的に取り組みたい参加者向けに設計されている。	
		グローバリゼーションと南アジア		南アジア地域は経済的に目覚ましい成長や富裕層および中間層の旺盛な消費が注目をあつめる一方で、政情不安や著しい貧富の格差、深刻なジェンダー不平等や宗教間対立なども取り沙汰されている。本科目では、現代のグローバリゼーションの中で南アジア地域に暮らす人々は、具体的にどのような変化に直面しているのかを深める。「悠久の大地」も「カオスな活気」も「驚異の経済成長」も、どれも南アジア地域を捉えた側面だが、実際にはそれだけではない。グローバリゼーションの波の中で南アジア地域に生まれている新しい繁栄と痛みを授業で一緒に掘り下げる。	
		グローバリゼーションとヨーロッパ		本科目では、グローバリゼーションの時代におけるヨーロッパを、地域概念的な視座を導入として、ヨーロッパ内部で起きている変化に着目しながら考察する。近代以降、ヨーロッパの概念は大きく変化してきたが、20世紀終盤以降の冷戦の終焉～グローバル化の進展という変化の中で、さらに大きな揺らぎを経験している。EUの拡大やその危機的な現状、旧社会主義圏の東ヨーロッパにおける変化、ロシアとの関係などへの考察をもとに、グローバル化の時代におけるヨーロッパの流動化・多様化・排外主義の拡大などを分析する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	グローバリゼーションとラテンアメリカ		本科目では、歴史的・政治的な背景を踏まえながら、グローバル化の時代におけるラテンアメリカ地域を考察する。特にこの地域がはらむ諸問題を地球規模の変化や課題と関連させて分析する。グローバル化の時代における発展・変化・民主化などを鍵概念にさまざまなレヴェルの地域内・地域外のネットワークに着目することで、上記テーマへの接近を試みる。担当者は、在ブラジル日本国大使館での専門調査員としての勤務経験を有し、その経験を活かしてブラジルの政治・経済・産業について解説する。とりわけ、現代のブラジルが直面する課題を明らかにすること、ラテンアメリカ地域および国際関係のなかでのブラジルの位置づけを認識することを通じて、受講生が「地域」に着目してグローバリゼーションを考える機会を提供する。	
		グローバル・ガバナンス論		（英文）This foundation course aims to provide basic knowledge and concept about global-governance with actual events of the day. What is the global-governance? Beginning students may assume that it would be similar to what governments do within the confines of each country. But it is not. By understanding the international system, the students will know why international issues are difficult to resolve.To understand global governance, this course focuses on international affairs we often see in news. Knowing what is actually happening in the world is indispensable not merely for understanding, but also for critical thinking. （和訳）本科目は、現在の実際の出来事を通じて、グローバル・ガバナンスに関する基本的な知識と概念を提供することを目的としている。グローバル・ガバナンスとは何か？初心者は、各国の政府が国内で行うことと類似していると考えてしまうかもしれない。しかし、そうではない。国際システムを理解することで、国際問題がなぜ解決が難しいのかを理解できるようになる。グローバル・ガバナンスを理解するために本科目では、ニュースでよく取り上げられる国際問題に焦点を当てる。世界で行われている実際の状況を理解することは、単に理解するためだけでなく、批判的思考のためにも不可欠である。	
		宗教文化学入門		世界各地に存在する多様な宗教。宗教とは何だろうか。何を契機に宗教は誕生したのか？人間はそこに何を求めるのか？本科目では、Richard HollowayのA Little History of Religion (Little Histories)を用いながら、世界の様々な宗教の誕生と変容の様相を重点的に紹介する。なお、Neil MacgregorのA History of the World in 100 objectsから時々１作品を取り上げ、内容理解を行う。本科目によって受講者は宗教文化を多角的に分析し、その表象について語ることができる。使用言語・資料ともに日本語・英語を用いる。	
		日本語教育入門		本科目は、学生の進路の一つとして考えられる日本語教育に関する入門授業である。日本語の教え方の技術にとどまらず、その意義や目的・世界貢献等についても学びとろうとするものである。日本語を教えるためには、まず何よりも教師自身が日本語の模範的な使い手でなくてはならず、また日本語教育は日々、異文化との接触を重ねて鍛錬されるものであることを念頭において、進める。	
		世界文学入門		ゲーテが「世界文学（Weltliterature）」という構想を立ててから二百年近く経った今日でも、世界各国では多様な文学作品が誕生し、私たちに「考える種」をまき続けている。本科目では、できるかぎり幅広い国と時代から作品を選び、世界の文学を学んでいく。各回一篇の短篇作品を実際に読んだうえで、その物語内容を分析していく。本科目は小説家として活動する教員が、小説の生成過程や各国の文学・文壇事情等について解説を行う。	
		都市計画入門		本科目では、現在の日本のまちをつくるしくみ（都市計画）について基本的なことを学修する。また、イギリスにはじまった近代都市計画の歴史について、さらに現在の日本の都市計画制度と現在の日本の都市の現状と今後の在り方について学修する。講義は細かい部分の正確さより、都市計画全体を大まかに理解することを優先してすすめる。	
		自然人類学入門		本科目では、ヒトを霊長類の一種としてとらえ、サルや類人猿の生態・社会・行動をヒトのそれらと比較して、ヒトに特有な社会や文化を相対化する自然人類学の視点を身につけることを目標とする。私たちはおうおうにして、根拠なくヒトとサルを全く違う生き物であると考えたり、またあるときは、同じ生き物であると見なしたりする。本科目では、こうしたヒトについての思い込みにさまざまな角度からメスを入れ、異文化の人々を理解する人類学の視点を身につけることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	差別と排除の社会学		本講義では、「差別」という現象について、基本となる理論や考え方をおさえたうえで、具体的にインドの「不可触民」問題を取り上げ、さまざまな側面から考察することを通して、「差別」という問題をともに考えていく。日本では、「スクール・カースト」に代表されるように、「カースト」は差別的状況の代名詞のようにも語られる。インドにおける「不可触民」問題は、その最たる姿として扱われるが、これらの問題には、インド社会独自の文脈に基づく個別性と、より一般化して捉えられる普遍性とがある。本講義では、こうした個別性と普遍性の両面を視野に収めつつ、「差別」という現象を、受講生が自分自身の問いとして考えていくきっかけとしたい。すなわち、遠いと思われるインドの差別問題を、日本における身近な状況と地続きのものとして捉え、考える手がかりを提供する。	
		市民社会の歴史と現在		近代化の核心である二重革命（市民革命と産業革命）は、1850年前後に東アジアに到達した。封建社会であった日本にとって、この二重革命を遂行し、市民社会を確立することは問題含みの課題となった。朝鮮半島の支配権を巡って争われた日清戦争と日露戦争、満州事変に始まり太平洋戦争（大東亜戦争）の敗戦で終わる15年戦争、連合国による占領、戦後民主主義を経てもこの問題は、解消することはなかった。その結果、現代日本の市民社会は危機的状況に陥っている。この危機の源泉と現代における深刻化を理解することが、持続可能な未来の日本の市民社会を形成するために不可欠となる。近・現代日本の市民社会にとっての課題を理解し、持続可能な未来社会を創造するための市民的教養を身につけることを目的とする。	
		社会学の歴史と理論		社会学は、近代市民社会の反省の学として生まれた。社会学の成立は、中世ヨーロッパを支配したキリスト教的な神の秩序から離脱した近代市民社会の誕生と不可分の関係にある。社会学という知は、ルネサンスにおける人文主義の復興、自然科学の成立、社会科学としての経済学などの成立を不可欠の前提として形成されてくる。社会学は、経済学や法学などと較べ、社会諸科学の中で比較的新しい学問であるといわれる。この新しい学問としての社会学がいかにして生じ、専門科学として確立していったのかを講義する。	
		アートと社会		人類史の中において、芸術の発生は、文字や貨幣の出現よりも古い。いわば人間の存在と芸術は、不可分な結びつきを持っている。実用的な技術と異なる技である芸術は、所与の現実を超えでた人間の想像力によって形成されたものである。社会的存在でもある人間が生み出した芸術は、社会的儀礼である呪術や、宗教儀礼、資本主義的な商品として用いられ、人々の間で流通してきた。このような特質を持つ芸術と社会とのかかわりとその意義について論じる。	
		宗教社会学		宗教に関する具体的な対象・テーマについて社会学理論に基づいてとらえる。現代社会に生じている諸現象を理解するためには、宗教についての理解を深めることが不可欠であることを確認し、学生自身が現代社会における宗教と社会とのかかわりについて一定の自分自身の見解を持てるようになることを目標とする。学生自身の主体的思考を促すため、毎回、簡単なレポートを提出する。さらに集大成として3000字程度のレポートを書くことで講義内容について学生自身が深く考える機会を持つ。基本は講義形式で授業を行うが、全15回のうち5回程度、グループディスカッション（アクティブ・ラーニング）を取り入れる。	
		子ども社会学		本授業では、現代社会における育児と教育の諸問題を取り上げ、社会学の視点から多角的に検討する。特に、子どもの貧困が教育機会や進路選択にもたらす影響と業績主義的社会の弊害、ジェンダーの視点からみた日本の子育ての課題、子どもの視点からみた学校と社会の問題点などを理解することを目指す。また、子どもと学校教育の関係性について歴史的な視点から検討したうえで、望ましい教育・社会システムの在り方について考察する。これらの学びを通じて、教育問題を社会構造や歴史的文脈の中で捉える視座を養い、多角的な視点から現代社会の「子ども」を論じるための知識とスキルを体得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	社会参画技法		望ましい未来をたぐり寄せていくために、「アマチュアの市民」には何ができるだろうか。既存の社会に適応するだけではなく、よりよい社会を創造していくための参画技法を獲得することが本科目の目的である。社会参画技法を市民が修得することで市民の参加／熟議は促進され、民主主義の成熟化に資することになる。 技法は技能（スキル）と心法（マインド）からなる。そこで本科目では、まず政治参加／社会参加の多様な手法と、その手法を使いこなす技能への理解を形成していく。同時に、参画手法を方向づける価値観や態度について考えていく。そして、一人ひとりが自らの問題意識に基づいた社会参画実践を検討することを目指していく。 一連の過程を通じて、個人的課題と公共的課題との結びつきを見出す想像力と、批判的分析知と創造的実践知との結びつきを創り出す構想力が発揮されることを期待する。	
		社会起業演習A		革新的な事業手法を用いて社会問題を解決するソーシャルビジネスへの関心は高まり続け、既に公共経営において大きな存在感を示すに至っている。このソーシャルビジネスを創出する「社会起業家精神（social entrepreneurship）」の涵養が本科目の目的である。社会起業演習Aでは、受講生が自らの問題意識に基づいてソーシャルビジネスのプランニングを進め、事業計画書を作成していく。その過程で社会起業家としてのものの見方や考え方を錬磨していくこととなる。社会起業家精神の発揮はソーシャルビジネスの実践にとどまるものではない。問題を孕みつつ安定している現状を維持する慣習／均衡を打破し、既存の延長線上にはない新たな事業取組を開発／提起し、よりよい未来を実現していく営みは、政府セクターや市場セクターにおいても必要とされている。社会起業を視野に入れている学生のみならず、チェンジメーカーとなることを目指す学生を対象とする。	
		社会起業演習B		革新的な事業手法を用いて社会問題を解決するソーシャルビジネスへの関心は高まり続け、既に公共経営において大きな存在感を示すに至っている。このソーシャルビジネスを創出する「社会起業家精神（social entrepreneurship）」の涵養が本科目の目的である。社会起業演習Bでは、社会起業演習Aで受講生が作成したソーシャルビジネスの事業計画書に基づく試行実践とその検証に取り組む。その過程で社会起業家としての態度と動き方を鍛錬していくこととなる。社会起業家精神の発揮はソーシャルビジネスの実践にとどまるものではない。問題を孕みつつ安定している現状を維持する慣習／均衡を打破し、既存の延長線上にはない新たな事業取組を開発／提起し、よりよい未来を実現していく営みは、政府セクターや市場セクターにおいても必要とされている。社会起業を視野に入れている学生のみならず、チェンジメーカーとなることを目指す学生を対象とする。	
		音楽社会学		私たちの日常には音楽が溢れている。これまで音楽は社会を変革する力になったり、社会の変容が音楽に衝撃を与えたりもしてきた。クラシック音楽であれポピュラー音楽であれ民族音楽であれ、どの時代のどんな音楽も社会との関わりなしには存在しえない。音楽社会学とは、「社会との関わりのなかで、音楽について考え、さまざまな視点から分析する」ことでこそ立ち上がる学問である。 本講義では、近代から現代にかけてのクラシック音楽を中心に講義を行う。この講義は、次の3つの段階で構成されている。①個々の音楽作品と関連する文献の考察・分析、②音楽作品の成立した政治・社会・文化状況の理解、③音楽作品から導きだされる音楽社会学理論の考察。①を土台とし、②と③について理解と考察を深めることで、現象と理論を往還しながら音楽について考える力を養う。	
		カルチュラルスタディーズ		私たちの日常には音楽が溢れている。これまで音楽は社会を変革する力になったり、社会の変容が音楽に衝撃を与えたりもしてきた。クラシック音楽であれポピュラー音楽であれ民族音楽であれ、どの時代のどんな音楽も社会との関わりなしには存在しえない。音楽社会学とは、「社会との関わりのなかで、音楽について考え、さまざまな視点から分析する」ことでこそ立ち上がる学問である。 本講義では、近代から現代にかけてのポピュラー音楽を中心に講義を行う。この講義は、次の3つの段階で構成されている。①個々の音楽作品と関連する文献の考察・分析、②音楽作品の成立した政治・社会・文化状況の理解、③音楽作品から導きだされる音楽社会学理論の考察。①を土台とし、②と③について理解と考察を深めることで、現象と理論を往還しながら音楽について考える力を養う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	情報社会論		情報社会学（infosocionomics）の学問ディシプリンに基づき、「情報化」という観点から現代社会の実相と構造を理解する科目である。 〔到達目標〕 ①現代社会のありようを「情報化」という社会現象に関連付けながら総合的に捉えることができるようになる ②インターネットやコンピューター、人工知能などの技術革新の現状について一般的な知識を持てるようになる ③情報社会学の学術的基礎に基づき、情報化が国家および資本との相互作用の下で生じる自己組織化的な現象であることを理解し、説明できるようになる 〔授業方式〕 情報社会において顕著に表れている社会現象（例えば生成AIの登場、フェイクニュースの跋扈など）を素材とし、アクティブラーニングによって学ぶ。	
		デジタルメディア論		デジタルメディアに関する基礎的知識を得るとともに、情報社会学（infosocionomics）、社会情報学（socio-informatics）、情報工学、データサイエンスなどの関連諸学問に関する一般的な知識を得ることを目指す科目である。 〔到達目標〕 ①コンピューター、インターネット、データベース、人工知能、ブロックチェーンなどデジタルメディアの基本的な仕組みを理解し、アナログメディアからの歴史的展開プロセスを説明できるようになる。 ②デジタルメディアと現代社会の変容との関係を理解し、説明できるようになる。 ③社会課題の解決に向けてデジタルメディアの活用方策を展望できるようになる。 〔授業方式〕教室における講義を主体としつつ、オンライン講義も活用する。	
		農業を支える植物細胞の力		植物は、光合成をはじめ物質生産や環境適応力など、動物にはない能力を持っている。植物の持つこれらのユニークな特性は、植物細胞の働きがもとになっている。本講義ではこのような植物の能力について、細胞を構成する細胞小器官の働きへの理解を促したうえで、光合成、窒素同化、環境応答など、植物特有の現象を講述する。さらに、バイオテクノロジーによる植物資源の利用や、近年注目されているバイオエコノミーについて解説する。	
		英語コミュニケーションⅠ		（英文）In this class students will research and talk about current events and cultural trends. After the teacher has introduced a topic, students will research and prepare presentations and discussions about them. （和訳）本講義では、学生は時事問題や文化的傾向について調査し、ディスカッションを行う。教員が話題を紹介した後、学生はそれに関するプレゼンテーションやディスカッションに向けて準備していく。	
		英語コミュニケーションⅡ		（英文）In this lecture, in order to proactively improve English proficiency, we will thoroughly analyze the grammatical structure, semantic relationships, cultural background, etc. of the language we learn in class, and improve our overall English proficiency. （和訳）本講義では、 積極的に英語能力を向上させるために、 授業で学ぶ言語の文法構造、意味関係、文化的背景などを徹底的に分析し、総合的な英語力を向上させていく。	
		Global Understanding in English		この同時双方型オンライン授業は、Zoomビデオ会議により、授業時間中海外大学の学生と英語での小グループやペアーディスカッションを行い、異文化・国際コミュニケーションや理解を目指す実践的な授業である。ディスカッション時に取り上げるテーマは、教育や大学生活・家族や習慣・伝統文化・ツーリズム・働くことやキャリア・人生の意義や宗教・その他、時事問題、参加者が関心を持つトピックス、などである。ディスカッション活動の他に、講義によるグローバル化と異文化・国際コミュニケーション及び理解に関する情報や研究を参考にする。	
		Forum		本講義では、現代のグローバル社会が直面している課題、温暖化問題や、生物多様性の保全、臓器移植、人工授精等を取り上げつつ、英語のヒヤリング、議論、発表能力の向上を目指す。なお、ゲストスピーカーとして、社会活動家、外交官、企業家も招く予定である。講義の内容（英語）を理解し、質問する能力を高める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然保護論		人間は自然を利用しなければ生きて行けない。自然の利用の仕方を間違えると自然は劣化する。また、人間の影響でバランスが崩れた自然は自ら劣化してしまうこともある。その結果、人間が困ることも生じる。自然保護は、このような自然と人間の基本的な関係から生じる問題を防ぐために、近代になって急速に発達した考え方である。現在、野生動物による様々な被害が大きな社会問題となっている一方で、絶滅の恐れのある動物の種類も減少せず、保護しなければならない野生動物も少なくない。これらの問題は、自然保護の問題を理解するのに適した課題である。そこには、単なる自然と人間との関係だけでなく、人と人との関係も大きく関係する。そのような複雑な内容を含む自然保護をどう論じるのか、そのために必要な情報や社会的背景を通して解説する。 自然保護を論じる時の、自然科学的知識・情報が果たす役割と社会的背景・実態を把握することの役割について、また、日本において自然保護、とくに野生動物の保全のために採られている法制度について、更には、自然保護思想の基板となる様々な環境思想、自然観および動物観について理解することを到達目標とする。	
		English language（RISE）		本講義では、コミュニケーション、文化、コミュニティに焦点を当て、ハワイの文化に触れながら英語を集中的に学ぶ機会を提供する。授業は文法、リスニング、総合スキル、口頭表現の4コースで構成されており、到着時に5つのプレースメントテストを受け、英語力に応じたレベルに振り分けられる。教室内外の活動を通じて、学生は毎日各コースを受講し、言語スキルの向上と異文化理解を図る。これにより、英語力の強化とともに、グローバルな視野を持ったコミュニケーション能力を養う。	
		Cultural Adaptation（RISE）		本講義は、対面授業とオンライン授業の両方を含むハイブリッド形式で実施される。課題には、コミュニケーションセッション、リスニング理解、学術的な読解、自身を振り返るビデオ課題が含まれる。また、異文化適応や歴史的・文化的な問題についても取り上げる。受講者は、日本出発前からZoomによる交流を開始し、現地での対面学習を経て、プログラム終了後にもZoomを通じた交流を行う。このように、渡航前・渡航中・渡航後の各段階を通じて、ハワイにおける社会と文化について包括的に学ぶことができる。	
		Global PBL（RISE）		本講義は、段階的かつ多地点にわたる学習活動を通じて、グローバルなプロジェクト課題への理解を深めることを目的としている。学生は出発前に文化観察や目標設定を行い、国際的な環境への準備を進める。オンラインでの協働作業では、異なる文化的背景を持つ参加者との対話を通じて、多様な視点を取り入れながら課題に取り組む。さらに、対面でのミーティングや現地視察を通じて、理論的な知識を実践に応用し、地域社会に貢献するプロジェクト活動を展開する。これらの経験を通じて、学生は国際的な課題に対する理解を深めるとともに、実践的な問題解決能力やコミュニケーション力を養うことを目指す。	
		Social Civic Engagement（RISE）		本講義は、地域社会との関係性を理解し、サービス・ラーニングを通じて地域の一員としての意識を育てることを目的としている。授業は、講義、協働活動、個別課題で構成されており、学生は活動後に振り返りを行う。プロジェクト時間では、学生が主体的に活動を計画・実施し、地域社会に積極的に関与する。授業内では体験を共有し、次の行動計画に向けたディスカッションを行う。その過程で段階的かつ多地点にわたる学習活動を通じて、グローバルなプロジェクト課題への理解を深めることを目的としている。	
		Applied Cultural Adaptation（RISE）		本講義では、ハワイの学習環境における文化適応と、それが個人や集団に与える影響について探求する。授業は対面とオンラインの両形式で行われ、課題にはコミュニケーションセッション、リスニング理解、アカデミックリーディング、自己省察的ライティングおよびビデオ課題が含まれ、言語運用能力と自己理解を深める構成となっている。さらに、文化適応、言語、歴史的・文化的課題についても学び、異文化環境における柔軟な対応力と批判的思考力を養う。	
		Advanced Global PBL（RISE）		本講義では、学生が学生間や指導者、グローバルパートナーとオンラインで協働し、異文化間コミュニケーションや問題解決能力を高める。授業はオンラインと対面の両形式で構成されており、対面でのミーティングや現地視察を通じて、理論的な知識を実践に応用し、地域社会に貢献するプロジェクトに取り組む。視察では、文化的・社会的・経済的要因への理解を深め、多角的な視点を養う。最終的に、学生はプロジェクトの成果をオンラインで発表し、国際的な経験を振り返りながら統合することで、グローバルな課題への対応力を身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部横断科目	思考法を学ぶⅠ		本講義では、物事を筋道立てて考えるための基本を学ぶ。情報を整理する方法を身につけるため、まず事実と意見の違いをはっきりさせる。さらに、論理的な思考力を養うために、「帰納法」や「演繹法」といった基本的な推論方法を学ぶ。これらに加えて、クリティカルシンキングも紹介し、世の中の情報を鵜呑みにせず、自分で正しく判断する力を養うとともに、課題を解決するための考え方を身につけることを目指す。	
		現代の環境課題と政策		本講義では、現代社会が直面する主要な環境課題（気候変動、生物多様性の損失、資源の枯渇など）について、その科学的根拠と社会的影響を学ぶ。これらの課題に対する国際的な政策や国内の法規制、さらには企業や市民社会の取り組みを幅広く概観する。また、政策の策定や実施プロセスにおける政治、経済、倫理的側面を多角的に分析する。具体的な事例として、再生可能エネルギーの導入政策や循環型経済への移行、環境税や排出量取引制度などを取り上げる。これらの学習を通して、環境課題の複雑さを理解し、持続可能な社会を築くための実践的な解決策を考察する力を養う。	
		地域の環境を知る		（概要）地域の自然地形により地域の環境の基盤が規定され、動物や植物が生態系を構成し、さらにそれらの生物反応が環境に影響することで、地域には複雑で総合的な環境が形成されている。本講義では琵琶湖淀川水系に含まれる地域を中心に、水域と陸域の環境について、流域の地理的条件と水域・陸域の利用形態やその変化が生態系へどのような影響を及ぼして地域環境が形成されているかを解説する。また、それらの自然環境に対する農業や都市化などの人間活動の関与が地域の景観や生態系にどのような影響を及ぼしているかについても取り上げ、自然と人間活動が相互に関係し合う中で形成される地域環境について総合的に学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） （84 山中　裕樹／6回） 琵琶湖淀川水系の地形地質の成り立ちを紹介し、基盤となる地域環境とそこに成立する生物群との関係性について解説する。また、ヒトと地域の自然環境との関わりが形作ってきた景観について紹介する。 （99 岸本　圭子／2回） 本講義で扱う内容のうち、人間活動が関与して形成された地域環境の成り立ちと、そこに生息する生物の営みを解説する。	オムニバス方式
		思考法を学ぶⅡ		本講義では、「思考法を学ぶⅠ」で学んだ内容を活かして、より複雑な問題の解決手法を学ぶ。物事を大きなまとまりで捉えるシステム思考や、人々の気持ちを深く理解して新しいアイデアを生み出すデザイン思考、目標を達成するための最適な計画を立てる戦略的思考など、実践的な考え方を学ぶ。これらの思考法を組み合わせることで、答えが一つではない、現代の様々な問題に対して、柔軟で新しい解決策を考え出す力を養う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部横断科目	サステナビリティ概論		（概要）本講義は、環境問題の現状を認識し、経済と社会のwell-beingを達成するための総合的なサステナビリティの理念を身につけることを目標とする。そのために、工学・生態学・経済学の視点から、水や大気、土壌といった環境問題の現状と技術的対策、自然生態系が持つ持続可能性の原理、資源の持続的な利用法、そして、市場の仕組みが環境に与える影響と対応のための税や規制、さらに新しいビジネスモデルといった社会全体でサステナビリティを具現化するための考え方を実例を交えながら解説する。 （オムニバス方式／全15回） （32 金森　絵里／2回） 市場の仕組みが環境に与える影響や、それに対応するための税や規制などの経済的手段について解説する。 （83 山口　美知子／2回） 公的セクターや市民コミュニティ財団の具体事例から、自然環境をベースとして地域経営を考える視点の必要性について解説する。 （84 山中　裕樹／2回） 水域の生態系サービスについて、その機能の発現メカニズムと保全のための課題について生態学の視点から解説する。 （100 越川　博元／5回） 公害に代表される地域が限定される環境問題から地球規模の環境問題について、水事情、大気汚染 、土壌汚染、廃棄物、放射線を代表に解説する。 （119 横田　岳人／3回） 自然生態系の持続可能性とはどういう意味なのかについて、森林を中心とした陸域生態系を題材に解説する。 （208 並木　州太朗／1回） 持続可能な地域・まちづくりの事例を紹介し、それらと関連する概念や理論について解説する。	オムニバス方式
		環境思想入門		現代の環境思想を多角的に取り上げて解説する。具体的には、コモンズと地域社会（J.リフキン）、プラネタリー・バウンダリー（J.ロックストローム）、熟議民主主義（J.ドライゼク）、気候正義（D.ロセル&C.ザイデル）、ガイア（B.ラトゥール）、アース・デモクラシー（V.シヴァ）、気候経済学（W.ノードハウス）、人新世（P.クルッツェン）、「里」という思想（内山節）などを順番に取り上げる。そして、地球温暖化時代とはどのような時代なのか、私たちはいかなる苦境に立たされているのか、希望はどこにあるのかについて、各思想家の考え方を学びながら、学生が自身の考えを深めることを目指す。	
		仏教とサステナビリティ		本講義では、仏教の思想や教えが現代社会の喫緊の課題であるサステナビリティにどのように貢献しうるかを考える。仏教の根幹にある「縁起」や「慈悲」といった概念を学び、それらが環境問題や社会的不平等といった問題と深く関わっていることを考察する。具体的な事例として、仏教の教えに基づいた循環型社会の構築や、持続可能な消費行動、心の豊かさと物質的な豊かさのバランスなどを取り上げる。仏教の視点から、私たちが自然や他者と共生し、持続可能な未来を築くための倫理、知識、方法論について概観することを目的とする。学生一人ひとりが、仏教思想を通して現代の社会課題を主体的に捉えることを目指す。	
		AI時代の哲学		現代社会は、AI（人工知能）の発展と普及により、大きな変革期を迎えている。本講義では、AIがもたらす倫理的、社会的、存在論的な課題を哲学的に探求する。まず、AIの概念、その歴史的背景、および主要な哲学理論を学ぶ。次に、AIと人間との関係性、意識と創造性、労働と社会構造の変化、情報の真偽やプライバシーなど、具体的な事例を取り上げながら多角的に考察する。過去から現代に至るまでの思想史を紐解き、AI時代における「人間らしさ」とは何か、「より良い社会」とは何かを、学生一人ひとりが主体的に考え、議論できることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部横断科目	ネイチャーポジティブ経営概論		（概要）この講義では、企業が自然を守り、豊かにするためのネイチャーポジティブという考え方を学ぶ。地域の自然の危機は、企業の経営リスクであると同時に、新たな事業の機会でもある。原材料の調達から生産、製品開発まで、企業活動の各段階で地域の自然を考慮に入れる具体的な方法を探求する。国内外の事例を通し、地域の自然を回復させることが、企業の持続的な成長につながることを概観する。 （オムニバス方式／全8回） （32 金森　絵里／2回） 環境と経済を両立させるための環境会計やサステナブルファイナンスについて、企業活動に焦点を当てて概説する。 （34 北村　暢康／2回） 「"水と生きる"企業のネイチャーポジティブ経営の実際」と題して、担当教員が現在も企業に所属するビジネスパーソンとして、企業現場でサステナビリティ経営を推進した実務経験をもとに構成した授業を通じて、受講する学生が、企業におけるネイチャーポジティブ経営の重要性を理解するとともに、学生自身の将来の進路検討のモノサシづくりに役立てる。 （83 山口　美知子／1回） 地域の環境問題の本質を理解し、自然環境を棄損せず、地域社会の人と自然の関係性を再構築している実践例について解説する。 （92 岩見　麻子／1回） 地域資源に着目して、具体的な地域経営の事例を紹介する。地域資源の活用・保全のための取り組みや関係主体の巻き込み、産官学民の連携のあり方について考える。 （105 白石　智宙／1回） 人間の生存にとって不可欠であるエネルギーを生産する企業活動は自然環境を破壊し、生物多様性の損失を招いてきた。この回ではエネルギーの分野において、いかにエネルギーの生産とネイチャーポジティブの実現を両立させるのか、その取り組みについて学ぶ。 （208 並木　州太朗／1回） 企業が環境的社会的インパクトの創出に取り組むための国際的な枠組みや、国内における業界ごとの取り組みについて学ぶとともに、企業にとっての環境リスクを特定するマテリアリティ概念について理解する。	オムニバス方式
		これからの社会と人権		現代社会は、AIやグローバル化の進展、気候変動など、新たな課題が次々と生まれている。本講義では、このような変化する社会の中で、「人権」がどのように捉えられ、守られるべきかを考える。まず、人権の基本的な概念と歴史的背景を学び、現代社会における多様な人権問題（ジェンダー、貧困、環境、情報など）を多角的に考察する。国際的な視点も取り入れながら、私たちが直面する具体的な課題を通して、人権を尊重し、より公正な社会を築くための論理、知識、方法論を身につけることを目指す。学生一人ひとりが、自らの生活と社会との関わりの中で、人権意識を育むことを目標とする。	
		サステナビリティ経営論		今や全球的課題であるサステナビリティ。この課題を、組織の種類の如何を問わず、その経営・運営にどう織り込み、解決を図っていくかが、時代の必須要件となっている。中でも企業は、その存在意義から拠って立つ「サステナビリティ経営」をどう志向していくかが問われている。果たしてその背景は？さらには、企業にとってサステナビリティ経営はどのような意義・意味合いがあり、それを具体的に実行するにはどのように進めているのか？本科目は、担当教員が現在も消費財メーカーに務めるビジネスパーソンとして、企業現場でサステナビリティ経営を推進した実務経験をもとに組み立てた授業を通じて、受講学生がサステナビリティ経営を自分事に理解するとともに、その視座・視点を以て、自らの進路を検討できる科目となるよう、双方向のコミュニケーションを以て授業を組み立てていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	学部横断科目	コミュニティオーガナイジング入門		本講義では、地域社会の問題を、そこに住む人たちが協力して解決していくコミュニティオーガナイジングの手法を学ぶ。まず、人と人との関係を築くリレーションシップビルディング、多数が関心を持つ問題を見つけ出すイシュー選択、そして具体的な行動計画を立てるアクションプランニング、これらのステップを理解する。また、様々な実例を見ながら、人々の意見を引き出したり、話し合いをスムーズに進めたりする技術を身につける。これらを通して、地域を元気にするための基本的な知識と、考え方を学ぶことを目的とする。	
		コミュニティオーガナイジング実践		「コミュニティオーガナイジング入門」で学んだことを実際の地域で活かすため、高齢者の孤立問題、子育て支援、商店街の活性化などテーマを設定し、地域で生じている課題の解決に取り組む。地域への聞き取りや話し合いなどを通し、座学だけでは学べない、想定外の事態に対応する力や、多様な人々と協力する力を養うことを目的とする。	
	専門基礎科目	情報基礎	○	本講義の目標は、ノートPC等のデバイスを単にアプリを使うだけでなく「道具」として主体的に活用できるスキルを習得することである。そのため、オフィスソフトの操作法習得に始まり、OSやソフトウェアのインストール、利用目的に合わせた環境設定を自ら実践する。さらに、自ら構築した環境上で簡単なプログラム作成にも挑戦し、PCを生産的なツールとして使いこなす基礎を固める。本講義を通じ、PCを自在に活用するための技術的基盤を築く。	共同
		微積分学	○	理工系の教養として、微積分学は重要なもののひとつであり、この講義では、実数と数列、関数(1変数)、積分(1変数)、関数(多変数)、微分(多変数)、積分(多変数)、級数、微分方程式などについて学んだ上で、情報学における数学の応用として、エントロピーやエントロピー符号化などについて触れる。高校の数学では、1変数関数についての微積分を学習したが、この講義では、それらを復習した上で、多変数関数についての微積分について学習する。	
		データサイエンス入門数学・演習Ⅰ	○	データサイエンスは、統計学や情報学の分野を基礎としているため、データサイエンスと数学は切っても切り離せない関係にある。この演習では、データサイエンスに必要となる基礎的な解析学を扱う。具体的には、関数、微分、積分、偏微分、重積分などの解析学について、基礎的な内容を講義と演習により学習する。各種の数学テクニックが、どのような特徴を持つか、データサイエンスとの関連性についても学習する。また、ツールとしての数学に興味を持ってもらえるように授業展開する。	
		情報とスポーツ		本講義では、現代スポーツ分野において急速に進展している情報技術の活用について基礎から学ぶ。具体的には、ウェアラブル機器による生体情報の計測・解析、映像解析技術を用いた動作分析、AIによる戦術分析やパフォーマンス予測などの技術について学ぶ。また、スポーツデータの統計処理やビッグデータ解析の手法を通して、競技力向上や傷害予防、チーム戦略立案への情報技術の実践的応用を理解する。さらに、VR・ARを活用したトレーニング支援システムなどの最新デジタル応用技術についても触れる。情報とスポーツの融合により、スポーツ分野におけるICT活用のみならず、健康・ウェルビーイングにもつながる新たな価値創造の可能性を探求していくことを目標とする。	
		情報と法		情報社会におけるデジタル情報の扱いと、それに関わる主要な法律・制度を技術者向けに分かりやすく学ぶ。名誉毀損やプライバシー侵害、著作権（海賊版・生成AIを含む）、個人情報保護法、不正アクセス禁止法、電子署名・電子契約など、実務で直面しやすい重要テーマを中心に取り上げる。また、情報漏洩や内部不正といった現場で起こりうる問題、企業における契約知識、ISMSなど情報セキュリティ管理の基礎も扱い、安全で適切な情報システム運用に必要な法的判断力と倫理観を養うことを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	キャリア実習・実習指導		「キャリア実習・実習指導」は、龍谷大学独自の教育プログラムである「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」における社会現場での実体験をとおして、大学における学びの意義を認識し、学生の自立とキャリア形成を支援する科目である。講義においては、普段は関わることが少ない他学部・学科の学生との交流により、多様な価値観にふれることができる。また、プログラムに積極的に取り組むことで課題発見力や主体性、発信力や傾聴力といった社会で求められる様々な能力を身に付けることができる。	
		プログラミング基礎演習	○	本講義では、プログラミングの基礎について学ぶことを目的とする。情報機器やデータを活用するには、プログラミング言語の基礎やアルゴリズムの基本的な考え方を習得する必要がある。自らの手でプログラムを作成することで、曖昧な要求を具体的な命令の集まりとして書き下し、プログラミングにおいて必要な知識を身につける。具体的には、変数や条件分岐、繰り返し、関数、簡単なデータ構造、ファイル入出力、オブジェクト指向プログラミングの入門などを学ぶ。	
		線形代数学	○	数学が関係する全ての情報系科目の基礎である線形空間と線形変換の理論について、基本的概念の理解を徹底し、演習によって計算力をつける。平面および空間におけるベクトルを題材に線形代数学における基本用語・概念として、行列・行列式・逆行列とその演算方法についての定義と基本的性質について講義し、その計算方法と応用についても演習と並行して学んでいく。また、微積分学・統計学・信号処理などにおいて重要な固有値、正規直交系についても学修する。	
		データサイエンス入門数学・演習Ⅱ	○	本講義では、「データサイエンス入門数学・演習Ⅰ」で扱った関数、微分、積分、偏微分、重積分などに続き、データサイエンスの基盤となる線形代数の基礎を座学と演習を組み合わせて段階的に学習する。ベクトル・行列の演算にはじまり、ベクトル空間、行列式、固有値・固有ベクトルに加え、行列の分解・多変量解析手法などを段階的に理解しやすく学ぶ。	
		メディア処理基礎		我々は様々なメディアを介して情報を取得し、発信している。静止画や動画、音声などに加えて、AR（Augmented Reality）やVR（Virtual Reality）などに代表される複合的なインタラクティブメディアについて基礎的な知識・技術を学び、ゲーム制作がイメージできる一連の基礎的な演習により、メディア処理とそのプログラミングに対する興味を醸成する。	
		ソフトウェア基礎		この科目では、ソフトウェアに関する基礎的な技術を学習する。まず、情報システムにおけるソフトウェアの位置付けや果たしている役割について学ぶ。また、ソフトウェアが動作する仕組みについて学習する。特に、データの表現方法や、データを処理するための演算方法について学ぶ。さらに、プログラミング言語を用いてソフトウェアを作成し、それを動作させる方法を学習する。これらは、本科目に続くソフトウェアに関する科目の履修に重要な技術や知識であり、ソフトウェア技術者として求められるものでもある。	
		情報社会と情報倫理		技術の発展が著しい現代情報社会に対し、倫理や規範の問題についても、これまでの議論の枠組みとは異なる視点からの再検討が必要になっていると考えられる。本講義は、インターネットとAIの高度化と普及を背景に、インフラからサービスにいたるまで急速に変わりつつある社会において、我々はどのように対峙していくべきかを考えるために、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、倫理的に判断する力を身につけることをねらいとする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	情報と健康		現代社会において、医療や健康管理における情報の重要性はますます高まっている。本科目では、健康と情報技術の関わりを身近な視点から学ぶ。日常生活に存在する健康データ（運動量、睡眠、食習慣など）や社会における情報の役割を理解し、データが人々の生活や医療の質向上にどのように役立つかを考察する。さらに、自らの生活や社会における「情報と健康」の関わりを理解し、ヘルスデータを適切に扱うためのリテラシーと倫理意識を養うことを目的とする。	
		データサイエンス入門	○	本講義では、データサイエンスの基礎概念と社会的意義を理解し、AI時代におけるデータの利活用の在り方を学ぶ。データやAIが社会・産業・生活にどのような変革をもたらしているかを概説し、データ活用の実例を通してその価値と課題を考え、さらには、データとAIの利活用に伴う倫理・法制度・プライバシー・公平性などの社会的留意点を学び、責任あるデータ活用の姿勢を身につけることを目的とする。	
		データサイエンス入門演習	○	「データサイエンス入門」の講義のデータ基礎の内容のうち、データの可視化とデータ予測を扱う。具体的には、時系列グラフ、棒グラフ、積み上げ棒グラフ、円グラフ、散布図などの特徴について説明した後、実際のデータに対して、BIツールを用いてそれらのグラフによる可視化を行う。つぎに、実際の時系列データに対して決定木などを用いて、説明変数から目的変数を予測することを行う。演習で用いるデータとしては、例えば、店舗の売上などの時系列データとその日の天気や気温などの付加データを用いて、身近なデータサイエンスの例となるように配慮する.	共同
		数理統計学	○	数理統計学とは、数値データとして表された情報を集めて、分類や分析を行いそのデータの特徴づけを行う学問である。今日、コンピュータの発達により、巨大なデータを処理することが日常的になっており、数理統計学の重要性は高まってきている。数値データに信頼度などの適当なパラメータを与えると、統計処理はコンピュータで簡単に行うことができる。しかしながら、その結論の妥当性などは最終的には人間の判断が必要となってくる。その判断を行うためには確率の基本的な考え方が必要となる。本講義の目標は、工学や自然科学を学ぶ上で重要となる数理統計学の基本を学び、基本的な計算ができることを目指す。特に、確率の考え方がどのように数理統計学に用いられているかを理解することは重要である。	
		データサイエンス数理統計学	○	本講義は、データサイエンスを実践する上で必須となる「数理統計学」の理論的基盤を習得することを目的とする。データ分析や機械学習モデルの背後にある確率的な考え方を理解するため、確率変数と確率分布の基礎から始め、統計的推測の柱である「推定」と「仮説検定」の理論と手法について体系的に講義する。統計的仮説検定の枠組み、すなわち帰無仮説の棄却とp値の概念を導入し、t検定やカイ二乗検定などの具体的な検定手法を修得する。これにより、データから統計的に有意な知見を導出する能力を養う。	
		情報デザイン		私たちの身の回りには情報が溢れている。また、PCやスマートフォンなどの入出力部分のみならず、地図、看板、標識、QRコード決済など、情報を受け取るあるいは渡すやり方も多様である。この講義では、まずデザインとは何か、情報とは何か、そして情報デザインとは何かを説明する。次に情報デザインの歴史を説明したのちに、情報デザインの手法について、具体例を交えながら詳細に説明する。また、世の中の情報デザインの事例を紹介しつつ、情報デザインが私たちの生活において、いかに重要であるかを説明する。	
		情報システム基礎		コンピュータとネットワークを基本とする情報システムが浸透しつつある現代において、その基本的な理解と全体的な視野を持つことを目標とする。本講義では、コンピュータシステムの基礎としてのネットワークからハードウェア制御、ＯＳ、ソフトウェア、メディア処理からさらにヒューマンインタフェース・デザインに渡って概説する。また、情報システムの応用分野としての家電、自動車、公共システムなど、AI時代の情報システムの動向についても触れる。情報システムの構成概略を把握し、情報システムの社会での実際、役割について理解することを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	情報ネットワーク基礎		本講義は、現代の情報システムを支えるネットワーク技術の基礎的知識を体系的に身につけることを目的とする。 そのために、情報ネットワークの基礎技術として、インターネットの構造と仕組みを中心に学ぶ。インターネット通信の階層構造や各階層の原理を理解し、TCP/IPプロトコル群などを基盤とする通信の仕組みと主要なプロトコルについて学修する。また、これらの仕組みに関連するネットワークセキュリティの基礎についても理解を深める。	
		ハードウェア基礎		コンピュータは社会基盤や個人の生活を支えるために必要不可欠なものである。コンピュータの定義は、時代の変遷とともに変わった。メインフレームとよばれた大型のコンピュータはスーパーコンピュータへ進化し、パーソナルコンピュータの用途の多くはモバイルデバイスに引き継がれている。こうした変化、そしてこれからの変化に対応するため、この講義では電子回路の基礎について解説する。画像・映像メディア、音声・音響メディア、言語メディアの処理に必要なアナログやデジタルの電子回路について、実用的で重要な基礎的テーマを選択して講義する。	
		情報と職業		本講義は、進展著しい情報化社会において働く環境が大きく変化する中、働く者の自覚や変化に柔軟に対応できる情報活用能力を高める教育の必要性が理解できることを目的としている。情報化の進展が社会を発展させ生活を充実させているが、同時に社会に及ぼす影響や課題も生じている。この現状を認識するとともに、情報化の進展が職業や教育に与える影響について考察する。	
		データ構造とアルゴリズム・演習	○	計算機による効率的な問題解決には、データの表現方法（データ構造）と処理手順（アルゴリズム）の設計・選択が不可欠である。本授業は、講義と演習を一体的に実施し、計算機を用いた問題解決の基礎を修得することを目的とする。講義では、基本的なデータ構造および代表的なアルゴリズムについて、その設計技法や計算量などの基本概念を学ぶ。演習では、講義で学んだ内容を基に、具体的な課題をプログラミング言語によって実装する。プログラムの作成・実行・デバッグという実践的な過程を通じて、理論的知識の理解を深める。これにより、問題の特性を分析し、適切なデータ構造とアルゴリズムを適用して効率的なプログラムを構築するための基礎的な知識と技能を身につける。	
		情報セキュリティ	○	情報システムに対する多様な脅威を、具体的な事例を交えながら理解し、暗号・認証・ネットワーク・アプリケーションなどの基盤技術に加えて、ログ監視や脆弱性管理といった実務で重要となる運用面の知識を体系的に学ぶ。さらに、バックアップや情報漏洩対策、セキュリティマネジメントなど組織的な取り組みも扱うことで、情報セキュリティ人材として必要な基礎的な知識を幅広く習得する。加えて、演習を通じてインシデント対応の流れを体験し、安全なシステム運用に求められる総合的な実践力を身につける。	
		情報理論		本講義では、情報理論の基本概念を通じて、情報の本質とその表現・伝達・圧縮・保護の原理を学ぶ。なぜその理論が必要とされるのか、現代社会や情報技術にどのように応用されているのかといった学問的魅力に焦点を当てる。データ通信、符号化、誤り訂正、圧縮、暗号などの実例を取り上げ、学生が理論と実世界を結びつけて理解できるようにする。	
		離散数学		本講義では、情報科学・情報技術の基盤となる離散数学の基本概念を学ぶ。アルゴリズム・データ構造・論理回路・ネットワークなど情報分野の多くの仕組みを支える理論とその応用先を理解することを目的とする。集合・論理・写像・グラフ・順列・組合せ・再帰的構造・ブール代数、オートマトンなどの主要テーマを扱い、なぜそうなるのかという直観的理解と、どのような分野でこれらの概念の理解が役立つのかという応用分野に対する知識を重視する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	物理学概論		理工系の教養として、力学、電磁気学、統計物理、量子物理、相対性理論などは重要であり、この講義ではそれらの入門的な内容を扱う。基礎的な学習をした上で、情報系の技術者の知識として必要となる半導体の物理などについても触れる。本講義は、微積分学や線形代数学などの知識を前提としていることから、それらの内容を事前に学習しておく必要がある。なお、授業展開として、基礎的な概念を述べた上で、それに関する例題を説明し、演習問題に取り組んでもらう。	
		電気・電子工学概論		本講義では、現代の電気・電子・情報技術の基礎となる原理を体系的に学び、身の回りの電気機器や通信システムがどのように動作しているのかを理解することを目的とする。電界や磁界の概念、電流と電圧の関係、回路の性質、半導体素子や電子回路の働きなど、電気電子工学の根幹をなすテーマを幅広く扱う。数式よりも物理的な意味やエネルギーの流れに重点を置き、初めて電気を学ぶ学生でも理解できるよう丁寧に解説する。授業では、SPICE 系回路シミュレータを活用し、電圧や電流、信号波形の変化を視覚的に観察することで、理論を実際の現象として体感的に理解する。これにより、抽象的な回路解析を動的な現象として捉え、実際の電子機器やエネルギーシステムの動作原理との結びつきを学ぶ。電気電子工学が、エネルギー利用、情報通信、環境技術など多様な分野で果たす役割を理解し、工学的思考の基盤を形成することを目指す。	
		プロジェクトリサーチ		本科目は、学生の主体性と課題解決能力を養うことを目的とした、研究実践型の科目である。学生は個人または少人数のグループを組み、アドバイザー教員と相談しながら、自らの発想に基づき研究テーマを設定する。続く調査・研究手法の検討、実験の実施、結果の分析に至るまで、研究プロセス全体を一貫して自主的に遂行することが求められる。最終的に、その一連の成果を研究報告書として集大成させるとともに、成果報告会での口頭発表を通じ、研究成果を論理的に発信するスキルも養う。	
		ヒューマンインタフェース		ヒューマンインタフェースという言葉は、コンピュータに代表される機械（対話型システム）とそのユーザである人間との接点を指す。ヒューマンインタフェースの良し悪しはその対話型システムの成否を左右する。一方、“良い”ヒューマンインタフェースを持つシステムを構築するためには、正しい手法と大きなコストを必要とする。本講義では、良い（使いやすい）ヒューマンインタフェースを実現するために必要となる、人間とコンピュータの特性、ユーザインタフェースの設計法、分析法、評価法を理解し修得する。また、応用例を知ることによって、ヒューマンインタフェースの価値を認める。	
		デジタル・フォレンジック		デジタル・フォレンジックの基礎理論と実務に必要な概念を体系的に学ぶ。デジタル証拠の種類と証拠保全の考え方、ストレージやファイルシステム、削除データの仕組みなど基盤技術を理解するとともに、各領域におけるフォレンジック手法を座学中心で取り上げる。また、タイムライン分析、内部不正調査、インシデント対応との関係性など、実務で重要となる視点についても扱う。最終的には、デジタル証拠の読み解き方や調査プロセス全体の流れを把握し、後続の演習科目で応用できる基礎的な知識を修得することを目的とする。	
		デジタル・フォレンジック演習		デジタル・フォレンジックにおける証拠保全から解析、報告書作成までの一連の実務プロセスを、実習を通じて体系的に学ぶ。デスクトップPCの分解やハードディスクの取り出し、複製装置や解析ソフトを用いたイメージ取得など、物理・論理双方の証拠保全手法を体験する。また、NTFSファイルシステムの構造理解、削除ファイル調査、Windowsの主要アーティファクト解析を行い、実際の不正調査に近い総合演習にも取り組む。最終的に、調査結果を根拠に基づいて整理し、簡易報告書としてまとめる力を養うことを目的とする。	
		スポーツバイオメカニクス		スポーツの優劣は動きかたで決まることから、パフォーマンス向上には"どのように動いていたか"を知ることが不可欠である。そこで本講義では、スポーツを対象に身体運動が生じる学問的背景に触れながら、運動計測ならびに取得した情報の応用に必要な数学・力学・統計学の理論について説明する。スポーツを題材に学際的な理解を深め、幅広い専門知識を身に着けることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目		インターンシップ		学修を通じて培ってきた知識を背景として、学外の企業・研究所等の現場における実務を体験する。研究・開発・製造現場等の仕事を通じて大学における勉学の意義を知り、将来の学修に役立てることおよび社会的訓練と人格の向上に資することを目的としている。学外実習は約２週間実施され、実習終了後に報告書の提出、報告会での発表が必要である。	
			総合演習		これまでに、学んだネットワーク、情報システム、情報セキュリティ、データサイエンスの知識などを総合的な活用するテーマについて取り組む。具体的には、例えば、個人病院を想定して、ルータの設定、Linuxサーバのシステム構築、レセプトシステムとそのクライアント、そして、グループウェアを導入し、システムとして稼働するようにすることを目標に、ガンチャートの作成、作業手順書の作成などを行う。また、別の具体例としては、機械学習を用いた工業製品の不良品検出システムの構築を、最初に、企業の技術者の方から指導を受けて、取り組み、最終報告で、企業の技術者の方へのプレゼンテーションを行う。このような演習を行うことで、さまざまな情報技術が実際にどのように使われているか、そして、どのように統合されてつかわれているかを体験する。	
	専門応用科目	情報メディア専攻	画像メディア処理論	○	画像メディア処理の基本原理と最新の応用技術を体系的に取り扱う。まず、画像の標本化・量子化といった画像情報の基礎から、圧縮（JPEGなど）、画質改善（フィルタリング）といった基盤技術を説明する。次に、2値画像処理、画像のエッジやコーナのような特徴抽出を通じて、画像認識のための前処理と解析手法を解説する。さらに、動画中の動きの抽出、そして画像認識の中心となるパターン認識の基礎に加え、畳み込みニューラルネットワークの概要についても触れる。画像処理の全体像を把握し、未来の技術開発に貢献できる知識と技能を養うことを目標とする。	
			ＣＧとアニメーション	○	３次元コンピュータグラフィックス（ＣＧ）とアニメーションの原理と仕組みを学修する。具体的には、３次元空間の扱い方、３次元オブジェクトの作成方法、３次元から２次元への幾何学変換などの理論について説明する。さらに、ソフトウェアによるCGコンテンツの制作技法、CGデータのメディア処理、プログラミング言語によるアプリケーションの実装方法を学ぶ。また、モーションキャプチャによる人体動作の計測、コンピュータと人間相互の情報・メディア・知識のインタラクション、バーチャルリアリティ（VR）などについても触れる。	
			メディア処理演習	○	本演習では、デジタルメディアの主要な形式である画像、音声、自然言語の処理技術と、それらを統合する機械学習の応用を実践的に学ぶことを目的とする。授業前半では、画像処理の基礎である畳み込み、フィルタリング、モルフォロジー、エッジ・コーナー検出を学ぶ。また、機械学習の中核的な要素技術である畳み込みニューラルネットワークによる画像分類手法を習得する。そして、コンピュータビジョンの要素技術であるパノラマ、物体追跡、3次元再構成を学ぶ。授業の後半では、言語処理の要素技術である形態素解析、Transformer、BERT、および音声認識の基礎を学ぶ。最後に、これらを組み合わせたマルチモーダル処理に取り組む。本演習を通じて、メディア情報の分析、活用、システム構築の基礎力を養うことを目標とする。	
			実世界コンピューティング	○	実世界コンピューティングとは、現実世界の人・モノ・環境を複数のセンサでとらえ、計算機が各センサ情報を共有・統合して理解し、ディスプレイやアクチュエータなどで現実世界にフィードバックするまでを一体として扱う分野である。本講義では、日常生活で接する身近なセンサ、ディスプレイ、アクチュエータの動作原理を定性的に理解することを目標に、それらを組み合わせた情報処理・統合技術を概説する。各技術の長所短所を比較し、ユースケースに応じた構成を説明できることを最終目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門応用科目	情報メディア専攻	ＸＲ	○	バーチャルリアリティ（VR）は、コンピュータで生成した情報により人間を現実世界から隔離し、多様な体験を提供する技術である一方、拡張現実感（AR）は、現実世界にコンピュータ生成の情報を重ね合わせて表示させることで、実世界に溶け込む技術である。これらを総称してXRと呼ぶ。VRとARには類似点も多いが、応用面では本質的に異なる場合が多く、本講義ではこれらの技術について体系的に学習する。XRは人間の複数の感覚を活用する技術であるため、まず人間の各種感覚や認知、行動について学ぶ。さらに、XRを構成する要素技術として、画像処理、トラッキングやモデリング、CGレンダリング、ヒューマンコンピュータインタラクション、入出力デバイスなどについても広く学修する。最後に、最新の応用事例や研究動向について理解を深める。	
			コンピュータビジョン	○	コンピュータビジョンの目的は、計算機上で視覚機能を実現し、画像や動画などのデータからシーンや対象に関する有用な情報を取り出すことである。コンピュータビジョンは技術の進歩が速く、次々と目を引く新しい手法が登場する一方で、それらの土台となる画像処理、特徴抽出、画像認識、幾何学的変換、3次元復元に関する基礎知識の習得は必要不可欠である。そこで、本講義では、コンピュータビジョンの基本的な技術について学ぶとともに、最近の研究でどのような問題に取り組まれているかについて幅広く学ぶ。具体的には、計算機上での画像の表現方法、特徴検出の方法、画像認識技術、画像の幾何学的変換、画像から3次元空間に関する情報を得る方法などについて説明する。	
			言語メディア処理論	○	言語は知的活動の根幹である。言語を用いることで、豊かなコミュニケーションも、論理的な思考も、さまざまな知見の記録も可能になる。インターネットの発達とともに爆発的に増加した電子テキストを活用して、コンピュータに言語について学習させ、知識を獲得することができるようになってきた。人間の知的活動を支援する自然言語処理応用システムが今後ますます高度化し、社会に浸透していくであろう。そこでこの講義では、まず言語の性質について解説し、言語リソース、言語の解析方法、そしてニューラルネットワークによる自然言語処理の仕組みについて説明する。	
			音声・音響メディア処理論	○	音の発生から知覚、応用技術まで、音に関わる現象を幅広く系統的に取り扱う。前半では、音波の物理的性質を講述し、人間の聴覚について掘り下げ、物理現象と人間の感覚を結びつけることを重視する。後半では、騒音対策の原理、コンサートホールやスタジオの建築音響、音声コミュニケーションの基礎、そしてマイクロフォンやスピーカーといった電気音響技術の基本について解説する。本講義を通じて、日常を取り巻く音の現象を科学的に理解し、音響技術がどのように社会や生活に応用されているかを知ることを到達目標とする。	
		知能情報システム専攻	システムソフトウェア	○	本科目では、システムソフトウェアの基本的な役割や動作について学習する。システムソフトウェアとは、アプリケーションソフトウェアを動作させるために必要な、オペレーティングシステムやミドルウェアと呼ばれるソフトウェアである。システムソフトウェアが、どのようにハードウェアの管理や制御を行い、計算機資源としてアプリケーションソフトウェアに提供しているかを学ぶ。CPU、メモリ、周辺機器などを管理する手法について学び、情報システムの動作に対する理解を深める。	
			データベース	○	データベースは、大量の情報を体系的に蓄積・管理し、必要なデータを効率的に検索・更新・活用するための仕組みである。本講義では、データベースの基本概念から設計・操作・応用までを体系的に学ぶ。前半では、SQLの基本文法（CREATE、INSERT、DELETE、UPDATE、SELECTなど）を中心に、結合・副問合せ・ビューなどの実践的な操作方法を学ぶ。中盤では、関係データモデルや正規化を通じて、整合性のあるデータ構造を設計する方法を理解する。後半では、トランザクション管理やインデックス構造、データベースプログラミングを扱い、安全で高効率なデータ処理を実現する仕組みを学ぶ。これにより、現実の情報システムで求められる基礎的なデータベース運用能力を身につけることを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門応用科目	知能情報システム専攻	Cプログラミング	○	本講義は、コンピュータの動作原理を踏まえたプログラミングの基礎を理解することを目的とする。Python等による基礎的なプログラミング経験を前提に、C言語を用いた構造化プログラミングを学ぶ。C言語の文法、データ型、関数、配列、構造体、ポインタなどの基本概念を理解し、メモリ操作を含むプログラムの設計と実装を通して、計算機資源を意識したコーディングの考え方を身につける。これにより、プログラムの動作を低レベルから理解し、今後の情報処理やシステム開発学習の基礎となる能力を養う。	
			ネットワークシステム演習	○	本演習は、インターネットの基礎技術に基づき、ルータ及びスイッチ上での実装方法の習得、グループワークによるネットワーク設計及び設定手順書の作成の基礎的なスキルを身に着けることを目的としている。小規模なオフィスのネットワーク構築」といった設計課題に対し、必要な技術（TCP/IPやVLANなど）を理解し、チームで協力してネットワークの設計図を描き、ルータやスイッチにコマンドで設定を投入し、その作業内容を正確な手順書として文書化する能力を身につける。	
			オブジェクト指向プログラミング	○	Python等による基礎的なプログラミングの経験を前提に、オブジェクト指向プログラミングについて学ぶ。情報システムの設計に重要な考え方であるオブジェクト指向について学習し、データを軸にする設計の技術を理解する。また、オブジェクト指向に基づいたプログラムの作成方法についても習得する。特に、Java言語を用いて実際にプログラムを作成し、オブジェクト、クラス、カプセル化、継承などの概念についての理解を深める。	
			Web技術	○	我々はWebを通じて、世界中の多様な情報に日常的にアクセスしている。本講義では、このWebを支える基礎技術とその仕組みについて体系的に解説する。具体的には、Webの基本的な記述言語であるHTML、ユーザ要求に応じて処理を行うCGI、ブラウザ上で動作するプログラミング言語であるJavaScript、さまざまな用途で利用されるデータ構造であるXMLを取り上げる。本講義を通して、Webを理解し、活用・開発するための技術的基盤を身につけることを目的とする。	
			人工知能	○	人工知能（AI）についての全般的な概要を踏まえた上で、古典的な問題解決法から最新の機械学習法までを系統的に学ぶことを目的とする。特に、深層学習をはじめとする人工神経回路網を中心とした機械学習の理論と具体的応用形態について重点的に学習する。また、根本の問題である「知能とは何か」についても、科学哲学的視点から考察を行い、人間とAIがどのように社会の中で共生していくべきかという問題について継続的に考え判断する能力を身につけることもねらいとする。	
			ソフトウェア工学	○	ソフトウェア工学とは高品質なソフトウェアを限られた時間内に一定の費用で開発するための技術である。本講義では、 ソフトウェア開発プロセスと要求分析、設計、コーディング、テスト、保守の各ライフサイクルに関するさまざまな技法・技術について講義する。さらに、オブジェクト指向設計・プログラミングにおける原理・原則・技法についても解説する。また、自ら実践できることを目標にソフトウェアの分析・設計演習も実施する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門応用科目	実践データサイエンス専攻	経営情報学	○	現代の企業経営において情報技術は不可欠な要素となっている。本講義では、経営戦略と情報システムの関係性を理解し、データに基づく意思決定手法を学ぶ。特にバイオテクノロジー企業やヘルスケア産業における情報システムの活用、スポーツビジネスにおけるデータ分析の実践例を交えながら、経営情報システムの設計・運用・評価について学習する。さらに、デジタルトランスフォーメーション、ビジネスインテリジェンス、サプライチェーンマネジメント、顧客関係管理などの実務的なテーマを扱い、情報技術を活用した組織の競争優位性の構築方法を探究する。	
			データマイニング	○	データマイニングは、様々な分野で有用な知識を大量のデータの中から効率良く発見する手法である。本講義では、統計学、データ、パターン、情報工学、意思決定支援の5つのキーワードに基づいてデータマイニングの基本と仕組みについて解説する。統計学の基礎とデータの扱い方は、データマイニングにおいて必須の知識である。有用なパターンを発見することは、データマイニングに期待される効果の1つである。情報工学は、大量のデータを効率良く扱うために必要なコンピュータ技術である。意思決定支援は、データマイニングの目的の1つである。	
			バイオデータサイエンス	○	生命科学研究において大量のデータが生成される現代、データサイエンスの手法は必須となっている。本講義では、ゲノム解析、プロテオミクス、メタボロミクスなどのオミクスデータの取得・処理・解析手法を学ぶ。統計学、機械学習、バイオインフォマティクスの基礎から、実際の生物学的データへの応用まで幅広く扱う。また、スポーツ医学における遺伝子多型解析や、個別化医療に向けたデータ統合解析、創薬研究におけるAI活用など、最先端のバイオデータサイエンスの応用例を紹介する。PythonやRなどのプログラミング言語を用いた実践的なデータ解析演習も含む。	
			データサイエンス応用基礎・演習	○	本演習では、「データサイエンス入門」の発展的な内容を扱う。データ駆動社会におけるデータ分析の進め方、データの可視化、データ分析などのデータサイエンスに関わる内容を学んだ後、データの収集と加工、ITセキュリティなどのデータエンジニアリングに関わる内容を学び、その後、AIと社会、機械学習の基礎、深層学習の基礎、生成AIなどのAIに関わる内容について学ぶ。この授業により、データエンジニアリングの基礎的な手法と、データサイエンスの基礎的な手法を学ぶことにより、データ駆動社会での一連のデータ分析手法を身につけることを目標とする。	
			情報検索	○	必要な情報を探すことは、人間の知的活動の根源である。この講義では、大量のデータの中から目的の情報を効率的に探し出す情報検索について解説する。まず、情報検索システムについて説明し、そして、情報検索の基礎である、転置インデックス、語の重要度の計算、汎用言語モデルの活用、情報検索の評価尺度について説明し、さらに、ページランクとウェブ検索について説明する。次に、ユーザの自然な文による質問に対して答えを返す質問応答について説明する。まず、大規模なコーパスを知識源としてどのような質問にも答えるオープンドメインの質問応答システムについて説明し、そして、与えられた文章を読んで答える機械読解について説明する。最後に、人間と自然に対話することができる対話システムについても説明する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門応用科目	実践データサイエンス専攻	アントレプレナーシップ	○	イノベーションを創出し、新たな価値を社会に提供する起業家精神と実践的スキルを学ぶ。特にバイオテクノロジー、ヘルステック、スポーツテックなどの先端技術分野における起業の機会と課題を理解する。ビジネスモデルの構築、市場分析、資金調達、知的財産戦略、チームビルディングなど、スタートアップに必要な実務的知識を体系的に習得する。実際の起業家による講演やケーススタディを通じて、学際・融合領域におけるイノベーション創出のプロセスを学び、研究成果の社会実装や技術移転の方法論を理解する。グループワークを通じてビジネスプランの作成も行う。	
			推薦システム	○	推薦システムは、ユーザの過去の行動履歴を基に嗜好を学習し、個々の興味・関心に合ったアイテムを自動的に提示する技術である。本講義では、推薦システムの基本的な概念から主要な手法までを体系的に学ぶ。内容ベース推薦では、アイテムの特徴量とユーザの嗜好ベクトルに基づく近傍ベース方式（類似度計算、k近傍法、次元削減）およびモデルベース方式（ルールベース分類器、単純ベイズ分類器、決定木）を扱う。協調ベース推薦では、ユーザ間・アイテム間の関係性を利用した協調フィルタリングを近傍ベースとモデルベースの両側面から学ぶ。さらに、推薦システムの評価指標として、正確性や多様性、発見性などの観点からその性能を理解する。	
			機械学習	○	人工知能の中核技術である機械学習を、基礎から応用までを体系的に学ぶ。データの前処理から、線形モデル、決定木、そして現代の人工知能を支える畳み込みニューラルネットワークやリカレントニューラルネットワークに至るまで、主要なアルゴリズムの原理を解説する。さらに、教師あり学習、教師なし学習、そして強化学習の多様な手法について講述する。最後に、モデルの評価、過学習への対処、そして最新の倫理的課題や運用についても触れ、実践的な応用力を養う。機械学習を実務や研究で活用するための知識と技術基盤の確立を目指す。	
		卒業研究関係	情報基礎演習	○	本講義では、情報活用力と創造的な表現力を育成することを目的として、プログラミングから発表・分析までの一連のプロセスを体験的に学ぶ。前半では、視覚的プログラミング言語などを用いたプログラミング体験を通して、アルゴリズムや論理的思考を学び、オリジナルの作品を企画・設計・開発する。中盤では、成果を効果的に伝えるためのアウトプット技法として、技術文書やプレゼン資料、ポスター、デモ資料の作成方法を習得し、デモ発表の準備を行う。後半では、デモ発表会を実施して相互評価を行い、アンケートデータを表計算ソフトで集計・分析する。さらに、生成AIの仕組みや活用上の留意点を学び、現代の情報社会で必要となるAIリテラシーを身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門応用科目	卒業研究関係	情報基礎セミナー	○	（概要） 学生の情報学に対する幅広い興味・関心ならびに学ぶ目的意識を醸成するために、社会における情報学の関わり、役立ち方について、具体例を交えながら講義する。さらに、各専門分野に関する最先端の研究事例について、研究を進める背景や動機、研究意義を含めて講述し、知識探求の面白さを伝える。 （オムニバス方式／全15回） （1　池田　聖／1回） 三次元世界を認識するコンピュータビジョンと人の視覚機能を扱うヒューマンビジョンの関連と基礎研究の事例を紹介し、両分野が重要となる拡張現実感やバーチャルリアリティなどの応用研究の事例を紹介する。 （3　菅谷　至寛／1回） 画像認識やセンサ情報処理、機械学習などの技術を活用した知能情報システムの研究事例を紹介し、それらが社会の課題解決や人の生活支援にどのように役立つかを解説する。最新の研究動向や研究室での取り組みを交え、情報学の可能性と学ぶ意義を理解させる。 （4　野村　竜也／1回） ロボット・AIと人が対話する際の様々な心理現象および社会的課題について概説し、それらを研究するための心理学的手法について解説を行う。特に、対話の際の心理現象に関連する人間の特性（ジェンダーや年齢等）の影響、文化の影響について代表的な研究例を紹介する。 （6　藤田　和弘／1回） 統計的な信号処理を基礎とした画像処理、機械学習を基礎とした画像識別をベースとした、実際的な画像処理や画像識別について講義する。具体的な焦点ずれ劣化画像の復元、工業製品の不良品検出などについて触れる。 （7　曽我　麻佐子／1回） 3DCGとアニメーションに関する基礎原理について解説し、特にアートや教育の分野における情報システムの応用事例を紹介する。最新の国内外における研究動向や研究室での取り組みも紹介し、情報学を学ぶ意義と必要となる技術・知識について理解を深める。 （8　藤本　雄一郎／1回） 拡張現実感、バーチャルリアリティ、ヒューマンコンピュータインタラクションに関する研究事例、応用事例を紹介し、これらが実社会の人の活動をどのようにサポートしているのか、また、これからサポートし得るのかを解説する。また、これらの技術が他の情報技術の組み合わせによって構築されていること、それらがどのように密接に関係しあっているのかについて学ぶ。 （9　山本　哲男／1回） 現代のソフトウェア開発が直面する特有の難しさ（複雑性や変化への対応）と、その対応策に着目し、いかにして高品質なソフトウェアを、限られた時間（納期）と費用（コスト）の中で効率的に開発するか、その原理と実践的手法について講義する。 （10　吉見　毅彦／1回） 人間が普段使っている言葉を適切に扱えるコンピュータを開発する研究分野である自然言語処理について解説する。機械翻訳や生成AI、文書分類などの様々な応用システムを紹介し、各システムが社会にもたらすメリットと同時にデメリットについても触れる。 （11　植田　祥明／1回） 画像処理、画像認識、色彩工学等に関連する技術がどのように応用されているかを紹介し、その基盤となる基礎知識や、研究事例についても述べる。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門応用科目	卒業研究関係	情報基礎セミナー	○	（12　奥　健太／1回） 本講義では、日常生活の中で広く利用されている推薦システムの仕組みを紹介する。映画や音楽、商品などの推薦に用いられるアルゴリズムの基本的な考え方を解説し、ユーザの嗜好データからどのようにして個人に合った情報が提示されるのかを学ぶ。 （13　景行　崇文／3回） スポーツを対象とするバイオメカニクスならびに統計学的な研究を紹介しながら、実空間における事象を時空間的あるいは力学的な情報として計測し、解釈するために必要な基礎原理について概説する。あわせて、スポーツ分野における情報の活用事例も紹介し、情報学を学ぶ意義や必要となる知識への理解が深まることを目指す。 （14　高原　まどか／1回） 情報技術を活用した人びとの健康促進のための取り組みについて紹介する。また、ウェアラブルデバイスやスマートフォン、環境センサから取得されるデータを活用した生体情報の計測・推定・介入に関する手法も解説し、これらの最新の取り組みや研究事例を通じて、人びとの健康意識の向上や健康支援、学習効率向上への応用可能性について考察する。 （15　渡邉　靖彦／1回） インターネットの発達とともに爆発的に増加した電子テキストを活用して、私たちが日常用いている言語についてコンピュータに学習させることができるようになってきた。そこで、自然言語処理の仕組みやその応用システムについて説明する。	オムニバス方式
			未来共創ラボ演習Ⅰ	○	未来共創ラボ演習は、受講者が研究室に実際に入り、進行中の研究テーマの一部を先輩・教員と協働して担う実践型演習である。講義室内の課題演習や教員の個別指導にとどまらず、専門知識をもつ上級生との対話・メンタリングを通じて、どのような研究課題が存在するのか、研究を実施する上で必要となる知識はどの授業科目に対応するのか、講義や演習で学ぶ理論や技術が現場でどのように役立つか、を体験として理解する。複数の研究室を体験することで異なる分野を横断的に把握し、学生間および学生教員間のつながりを形成する。 未来共創ラボ演習Ⅰは、情報学に関する多様な研究テーマや問題領域を知り、大学の研究活動の雰囲気を体験的に理解することを目的とする。研究室に実際に入り、先輩や教員が進める研究の一端を見学・補助することで、研究の進め方や学問としての情報学の広がりを把握する。専門分野を定める前段階として、自身の関心領域を探索し、今後の学修計画を考える基盤を形成する。	
			未来共創ラボ演習Ⅱ	○	未来共創ラボ演習は、受講者が研究室に実際に入り、進行中の研究テーマの一部を先輩・教員と協働して担う実践型演習である。講義室内の課題演習や教員の個別指導にとどまらず、専門知識をもつ上級生との対話・メンタリングを通じて、どのような研究課題が存在するのか、研究を実施する上で必要となる知識はどの授業科目に対応するのか、講義や演習で学ぶ理論や技術が現場でどのように役立つか、を体験として理解する。複数の研究室を体験することで異なる分野を横断的に把握し、学生間および学生教員間のつながりを形成する。 未来共創ラボ演習Ⅱは、講義で得た基礎的知識をもとに、研究テーマの一部を自らの手で遂行する段階に進む演習である。データの収集や処理、試作、実験など、研究活動の具体的プロセスを体験し、課題解決に必要な思考力と技術的実践力を培う。研究室内での協働を通じて、研究を進めるうえでの役割分担や報告・議論の方法を学び、専門的探究の初歩を体得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門応用科目	卒業研究関係	未来共創ラボ演習Ⅲ	○	未来共創ラボ演習は、受講者が研究室に実際に入り、進行中の研究テーマの一部を先輩・教員と協働して担う実践型演習である。講義室内の課題演習や教員の個別指導にとどまらず、専門知識をもつ上級生との対話・メンタリングを通じて、どのような研究課題が存在するのか、研究を実施する上で必要となる知識はどの授業科目に対応するのか、講義や演習で学ぶ理論や技術が現場でどのように役立つか、を体験として理解する。複数の研究室を体験することで異なる分野を横断的に把握し、学生間および学生教員間のつながりを形成する。 未来共創ラボ演習Ⅲは、研究室内での活動経験をもとに、より高い主体性と協働性をもって行動できる力を身に着ける。進行中の研究テーマに実質的に関与し、データ解析や成果整理などを通じて研究成果の発信をも意識できる感覚を身に着ける。また、研究室内の学生との協働を通じて、研究環境を円滑に維持するためのコミュニケーション力を養う。	
			ラボラトリーインターンシップ	○	4年次で行う卒業研究に備えるために、希望する研究テーマに関連性の高い研究室に入り、当該分野の専門知識の修得、関連研究の把握、研究のための基本スキルを熟成させるとともに、必要に応じて実際の研究課題の一部に取り組む。希望テーマと研究室のテーマに応じて、調査、検討、プレゼンテーション、議論等を交えながら進めていく。本科目を通して、卒業研究を実施するために必要な基本知識、スキルや他のメンバーとの日頃のコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。	
			科学技術英語	○	科学技術の分野では、今や多くの情報が英語により伝達されている。このため、英語による情報収集と発信は卒業研究を行なう上でも大変重要である。そこでこの科目では、科学技術英語を対象に英語の読解力、英語による情報発信能力等を高めることを目的として、卒業研究の担当教員が授業を行う。具体的な進め方は担当教員によって、専門書や科学技術文献の読解、関連文献の調査やその発表、研究概要の英作文、英語によるプレゼンテーションやディスカッション等様々な形態で行われるが、いずれも学んだことが研究活動で活かされることをめざし、専門分野を意識した実践的な内容で行われる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門応用科目	卒業研究関係	卒業研究	○	（概要） ３年次までに修得した知識や能力を基礎として、配属先研究室において特定のテーマについて研究を行なう。卒業研究に取り組むことによって、課題を自主的に企画・設定する能力、課題の解決策を考案する能力、研究成果を発信・説明する能力を養う。途中で進捗状況を中間報告したうえで、最終的には研究成果を卒業研究論文としてまとめ、さらに卒業研究発表会において口頭で発表する必要がある。研究は、担当教員による個別指導の下で行なう。担当教員（配属先研究室）の決定方法については、研究室配属説明会において説明がある。 （1　池田　聖） 拡張現実感、バーチャルリアリティ、コンピュータビジョン、視覚情報処理に関する研究活動をとおして、情報学部生としての基礎知識を補強するとともに、メディア情報処理に関する専門的な研究課題に対する問題解決能力を養う。 （2　澁谷　雄） 人と情報機器のインタラクション、あるいは情報機器を介した人と人とのインタラクションに関する研究を実施する。具体的な研究テーマは、個別に相談して決める。 （3　菅谷　至寛） 画像認識やセンサ情報処理技術を基盤とし、それらを活用した知能情報システムの構築に関する研究指導を行う。機械学習やデータ解析の手法を用い、実世界の問題解決に役立つシステムの実現を目指す。課題設定から実装、評価、卒業論文執筆、発表までを個別に指導する。 （4　野村　竜也） 人間と技術の関わりに関する問題意識を高め、現状においてどのような社会的課題が存在するかを検討した上で、その問題を心理実験や質問紙調査および取得データに対する多変量解析を用いた分析によって明らかにしていく。研究テーマの選択は学生自身が主体的に行い、それに対して具体的分析方法を担当教員と共に模索する。具体的な研究テーマとしては、ロボット・AI・ICTが個人と社会に与える影響という大まかなものから選択する。 （5　畑中　裕司） 画像情報処理領域および画像・映像による情報知覚の研究指導を行う。 （6　藤田　和弘） 画像の劣化過程に対して数学的なモデルを仮定し、統計的信号処理手法を用い、劣化画像の鮮明化に関する画像処理アルゴリズムの研究指導を行う。また、機械学習手法、特に特徴量に対するランダムフォレストやディープラーニング手法を用いて、画像の認識および識別に関する研究指導を行う。 （7　曽我　麻佐子） ３次元コンピュータグラフィックス、人体モーション、インタフェース等の分野について、各学生の興味に合わせてテーマを設定する。課題設定から実装、評価、卒業論文執筆、発表までを個別に指導する。定期的に進捗状況の確認を行い、研究の実践および指導を行う。 （8　藤本　雄一郎） 拡張現実感、バーチャルリアリティ、ヒューマンコンピュータインタラクション等を主軸とした、一連の研究活動を行う。その中で、従来の研究や技術サービスを調査し課題を設定する能力、課題を細分化する能力、細分化された課題を解決していく発想力、技術・システムを開発する実装力、作成した技術・システムを評価する実験設計力、結果のデータ分析力、対外的に成果を発表する力を養っていく。 （9　山本　哲男） ソフトウェア工学分野におけるソフトウェア開発プロセス、品質保証、テスト技法、設計論、プログラミング、リポジトリマイニングなどといった広範な領域から、指導教員と相談の上で研究テーマを選定し、研究指導を実施する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	専門応用科目	卒業研究関係	卒業研究	○	（10　吉見　毅彦） 各学生の興味と自然言語処理とを関連づけた研究を学生が次の手順(1)～(8)に沿って進められるように研究指導を行う．(1)長期目標(理想像)の検討．(2)理想像に対する関連研究の成果(現状の到達点)の調査．(3)理想像と現状の差(残された課題)の整理．(4)短期目標(残された課題のうち本研究で取り組む課題)の設定．(5)関連研究を発展させる手法の提案．(6)実験による提案手法の検証．(7)実験結果に対する考察．(8)卒業論文の執筆． （11　植田　祥明） 画像処理、画像認識、色彩工学等に関連する分野から課題を設定し、研究指導を行う。既存技術の調査、問題設定の見極め、提案アルゴリズムの開発、評価、論文執筆やプレゼンテーションに関する指導を通して、課題解決のプロセスにおける総合的な力を養う。 （12　奥　健太） 推薦システムを軸とした研究指導を行う。映画やゲーム、コミック、観光情報など、対象ドメインを設定したうえで「○○推薦システム」という主題で研究テーマを設定する。フロントエンドからバックエンドまで、推薦システムを実際に設計・開発し、評価する。それらを成果としてまとめ卒業論文として執筆し、発表する。 （13　景行　崇文） バイオメカニクスや統計学を基盤としながら、スポーツを対象として時空間的ならびに力学的に事象を測定し解釈する研究活動を通して、情報学部生としての基礎能力を養うとともに、スポーツの競技場面で情報を有効活用するための知見の創出を目指す。課題設定から実験、論文執筆、発表までを個別に指導する。 （14　高原　まどか） 医療・健康に関わるデータを対象に課題を設定し、分析・検証を通して解決を試みる力と、研究活動を通じて、自律的に研究を進める力、データを読み解く力、そして健康データを扱う上での倫理的な視点を身につけることを目的とする。対象となるデータは、ウェアラブル機器の生体情報、生活習慣データ、心理アンケートなど多様であり、学生はその中から興味に応じたテーマを選択する。最終的に、研究成果を報告書としてまとめるとともに、口頭発表により、研究内容をわかりやすく伝える表現力と発信力を高めることを目標とする。 （15　渡邉　靖彦） 自然言語処理やデータ解析などを活用し、実世界の問題解決に役立つ知能情報システムの作成に関する研究指導を行う。研究テーマの選択は学生自身が主体的に行い、データ収集、調査、実装、評価、卒業論文執筆、発表までを個別に指導する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
諸課程科目	情報科教育法Ⅰ		情報教育の在り方について論じ、教科「情報」の新設や改訂の経緯と趣旨について述べる。次に、情報教育の中での教科「情報」の果たす役割や位置付けを明確にし。教科「情報」の目標及び科目編成やその指導法などを取り上げ、情報科教育に関わる方法論を中心に講義する。	
	情報科教育法Ⅱ		教科「情報」の授業内容について考察する。特に、その展開については、問題解決を考慮した内容展開、実習の有効的活用、情報手段の活用、理解定着・自己学習力育成の実習について考察し、情報科教育に関わる内容論を中心に講義する。	
	教職論		学校をめぐる様々な課題や今日の教育改革の中で求められている「教師像」について考察し、教職の意義、教師の役割・職務内容などへの理解を深め、「教師とは何か」、「教職とは何か」を考える。教師としての個人的力量や学校組織・社会とのつながりのなかで教育活動に取り組んでいる教師という仕事を実態に即してとらえることにより、学生自らが望ましい教師像を描き、教職への意欲を高めていくことを支援する。	
	学校教育社会学		学校教育の構造・機能・意味を社会学的に読み解くことを講義の到達目標とする。学校文化・組織の社会学、及び教育問題を社会学の観点から、らせん形に講義内容を編成することで上述の目標を達成することができるようにしたい。具体的には、「学校教育とは何か」「現代社会と教育」「学校文化・組織」「いじめ問題」「不登校問題」「教師の多忙」等のテーマを取り扱う。また、あわせて諸外国の事情や対応についても学んでいく。	
	教育課程論		すべての教育活動には目的があり、その目的を遂行するには、綿密な計画が必要となる。学校における教育活動の計画（全体）が、教育課程であるといえる。本科目では、教育課程について生徒の視点ではなく、教師（指導者）の視点で捉えて解説する。学校現場における教育課程の重要性について認識し、様々な教育問題への興味・関心を深める。学校現場の状況及び国の政策について学ぶことにより、今後の教育が目指していくべき方向性について考える。	
	特別支援教育概論		インクルーシブ教育を進めるために必要な基本的原理や制度、子どもの発達や障害種別による支援等について、具体的な事例や教育実践を通じて学び合う。特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒一人ひとりが持つねがいや要求を理解し、彼らの意欲を引き出し、自信と喜びを伴う能力と人格の統一的発達を目指す教育指導・支援のあり方について考察する。実践事例を基にした受講生によるグループ討論や支援計画づくり等の演習を適宜行い、特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の立場に立った特別支援教育の担い手としての自覚を養う。	
	道徳教育指導法		道徳の時間を指導する教員としての力量を付けることを大きなねらいとし、「道徳の時間」における指導の方法、資料の発掘と活用、ねらいの絞り方、授業展開の工夫等について、できるだけ教育現場での実践を教材にしながら講義を進める。同時に実際に「道徳の時間」の指導案を作成し、授業をおこなうことで、実践的な指導力を付ける。	
	総合的な学習の時間・特別活動論		特別活動ならびに総合的な学習の時間は各教科教育や道徳教育、家庭・地域や関係機関と相互に関連して営まれている。本講義では、特別活動ならびに総合的な学習の意義を理解し、指導計画の作成や指導の在り方を学ぶ。具体的には、特別活動における現状と課題について考察し、学級活動・生徒会活動・学校行事の特質を理解し、教育課程全体で取り組む指導の在り方を理解する。また、総合的な学習については、総合的な学習で培う資質・能力を理解し、実践する上での留意点や探求型の学習指導法を学び、総合的な学習の時間のあり方について考察する。	
	教育の方法と技術（ICT活用含む）		学校教育は、板書を中心とした従来型の授業が中心であるが、視聴覚メディアを活用した授業も各地で実施されている。この講義では、まず授業の設定方法について概観した後、視聴覚メディアを活用した教育方法について講義する。講義では、「授業の設計方法について概観し指導案を作成する」「各種メディアやICT機器の特性について考察し授業での活用方法について学ぶ」「教育におけるメディア・リテラシーの重要性について学ぶ」「プレゼンテーション理論・技法について学び教育への応用を考える」「教育現場で著作権に配慮することの重要性について学ぶ」を取り上げる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
諸課程科目	生徒・進路指導論		本講義では、まず生徒指導・進路指導の本質的な意義や原理を説明した上で、様々な具体的な問題事象を取り上げ、その原因・背景・対処について実証的な考察を加える。そして、生徒指導を行う上で教員が個人として、また組織の一員としてどのような資質や能力が必要であり、どのような役割が求められ、どのような法令の知識が必要かについて、教育実践に結びつくように講義を行う。	
	教育相談		学校現場では保護者対応や不登校、いじめなど心の問題を1つの要因とする様々な事象が発生している。スクールカウンセラーが学校に配置されるようになった今日、教師自身も心理学カウンセリング的素養が必要である。なぜなら現在の児童・生徒や保護者に対する教育には、教師の人間性に豊かさや、柔軟な姿勢、援助法を身につけておかなければ、学校で起こる様々な問題に対応できない。本講義では、教育活動における心理的・カウンセリング的な基礎的態度と具体的な対応のあり方について理解を深めていきたい。	
	教育実習指導Ⅰ		教育実習は、教職課程の総仕上げとしての位置付けを持つ。実習生にとっては、生涯忘れ得ぬ感動を得る機会である。同時に、実習校及び実習校の生徒にとっても絶対に有意義なものでなければならない。そのために実習生は、教師として必要な最低限の見識と能力を備えている必要がある。3年次までに修得した教職課程に関連する科目を基盤として、教師として必要な責任の自覚を促し、教育実習に関する実務的内容を教授するのが目的である。	
	教育実習指導ⅡＡ		「高等学校での教育実習」に参加することが中心となり、「高等学校での3週間実習」が原則である。教育実習は、教師としての在り方を実践的に学ぶ場である。たとえ教育実習生とはいえ、教壇に立つ以上は指導者としての責任が求められるので、常に学問的に探求する姿勢を貫きながら、同時に生徒の発達の援助者としての真摯な取組を期待する。なお、実習前に直前指導、実習後に事後指導として個人面談を行う。	
	教育実習指導ⅡＢ		「高等学校での教育実習」に参加することが中心となり、「高等学校での2週間の実習」が原則である。教育実習は、教師としての在り方を実践的に学ぶ場である。たとえ教育実習生とはいえ、教壇に立つ以上は指導者としての責任が求められるので、常に学問的に探求する姿勢を貫きながら、同時に生徒の発達の援助者としての真摯な取組を期待したい。なお、実習前に直前指導、実習後に事後指導として個人面談を行う。	
	教職実践演習（中・高）		本講義は、教職課程科目の履修や教職課程外での様々な活用を通じて身に付けた資質能力が、教員としての最小限必要な資質能力として有機的に統合・形成されたかについて最終的に確認することを目的とする。この意味で、全学年を通じた総仕上げとしての位置付けを持つ。テーマとしては、本科目の趣旨を踏まえ、教員として求められる①使命感や責任、教育的愛情等に関する事項②社会性や対人関係能力に関する事項③生徒理解や学校経営等に関する事項④教育内容等の指導力に関する事項の4つを中心に展開する。	
	介護等体験		障がい者や高齢者等に対する介護、介助、これらの人々との交流等を行うことは、人として生きる権利を尊重しつつ、社会の一員として生活することを自覚できる人間形成をめざす教育に携わろうとする教職希望者にとって、欠かすことのできない社会的体験である。「介護等体験」では、特別支援（盲・聾・養護）学校や社会福祉施設での多様な体験の中でボランティア意識をより高めるとともに、その後の広範な社会的活動の実践に繋げる。	
	真宗学概論		浄土真宗の開祖である親鸞の思想を中心に、真宗の基本的知識を学ぶ。親鸞思想が、仏教の思想的潮流の中でいかなる位置にあるのかを確認しながら、親鸞思想の基礎的内容を体系的に講義し、本願寺派の教師資格に求められる真宗教義の基本構造についての理解を深める。	
	仏教学概論		仏教を体系的に理解することを目標に、釈尊の生涯が意味するところを説明し、仏教が「真理の宗教」とされる理由・仏教が説く縁起の思想について講義する。原始仏教から部派仏教、そして大乗仏教へと講義し、インドから中国仏教・日本仏教へと展開する過程で仏教が宗派仏教として広まった内容を解説する。本講義を通して私たち個々人にとっての仏教とは何なのか、さらに現代における仏教の意義を考察することをめざす。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
諸課程科目	真宗史		親鸞が開いた浄土真宗の教団は、今日、御同朋御同行のみ教えに生きる者の同朋教団であると公称されている。では、御同朋御同行のみ教えとは、いかなる教えなのか。それは、どのようにして開顕され、また他の諸宗派とどのように違っていたのか。さらには、親鸞の開いた教団がその後、国家および民衆との関係においてどのように展開していったのか。浄土真宗の成立と変容の歴史について学び、親鸞における信心の社会性の意義と今日的実践課題を共に明らかにする。	
	勤式		（概要）浄土真宗本願寺派僧侶として、寺院活動を進める上での必須の一つが勤式である。本講義では、寺院における日常勤行・法要儀式の荘厳・作法等、及び住職として必要な基本姿勢を身につけることを重点的に学修する。 （オムニバス方式／全30回） （199　寺本　聖史／9回） 葬儀規範や葬場勤行の指導を行うほか、本願寺の報恩講を教授する。 （209　楢本　昌広／9回） 勤式を学ぶ心得と年間講義概要のガイダンスの講義、基本作法（合掌礼拝等）の指導の他、荘厳、正信偈の出拠・歴史、読誦の説明を行う。 （240　桃園　裕成／12回） 基本作法（合掌礼拝等）の指導のほか、御文章（聖人・流・末代無智・信心獲得）についての講義、音楽理論・本願寺派の声明や読経作法の指導を行う。	隔年 オムニバス方式
	宗門法規		本科目は、浄土真宗本願寺派教師の資格取得に必要な単位として開設されているが、必ずしも寺院関係者に限定されることなく、幅広く受講される状況にある。このため、浄土真宗本願寺派（西本願寺）という宗教団体は、どのような目的を持っているのか、また、どのような組織で、どのような活動を展開しているのかという点を中心に、宗教法人法及び浄土真宗本願寺派の定める規則（宗門法規）等をもとに学修する。	隔年
	教化法		（概要）宗教においては、その教えを正確に他の人々に伝え、教化伝道していくことの重要性があることはいうまでもない。特に、浄土真宗は、聞法が中心であり、それ故に布教伝道が重要視されている。本科目では、その布教伝道の理論を浄土真宗の法義に基づき、考察していく。現在の布教現場にあたっては、一体何が問題であり課題であるのか、このような布教伝道の現代的課題を考慮しながら、理論面と共に実践的側面の習得を目指す。 （オムニバス方式／全30回） （154　加藤　真悟／5回） 主に教化伝道の理論及び実践について担当する。教化伝道の理論では、生きる意味や仏教の目的、社会における宗教の役割に焦点をあてて講義する。 （201　中川　大城／7回） 主に宗門の教化伝道について担当する。同朋運動や門信徒会運動、宗門の組織教化など、浄土真宗の聞法について講義を進める。 （234　宮部　雅文／3回） 主に教化伝道の理論及び実践について担当する。教化伝道の実践では、法話布教の作法や法話原稿の作成方法などを指導する。 （252　和氣　秀剛／15回） 主に教化伝道の理論と実践について担当する。浄土真宗の教化伝道について、浄土真宗の教義に焦点をあてて講義を進める。	隔年 オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部 情報学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
諸課程科目	（本山教師）仏教史		（概要）本科目では、本願寺派教師資格課程科目である「仏教史」について、主としてインド仏教から日本仏教への歴史的展開を講義する。具体的には釈尊滅後の仏典結集、大乗仏教への展開、南アジア、東アジア（中国・朝鮮半島・日本）への仏教伝来、大蔵経の成立等に関する基礎的な内容を取り扱う。 （オムニバス方式／全8回） （67　野呂　靖／3回） 主に日本における仏教の歴史的展開を中心に、仏教伝来以降の各時代区分における歴史的事象をトピックにあげ、取り扱う。 （94　内田　准心／5回） 主にインド・中国における仏教の歴史的展開を中心に釈尊滅後の仏典結集、大乗仏教の展開、インドから中国への仏教東漸のあゆみについて取り扱う。	オムニバス方式
	（本山教師）宗教概説		本講義では、本願寺派教師資格課程科目である「宗教概説」として位置付けられている。主に、浄土真宗・親鸞教義・親鸞教学の豊かな学びに資するべく、世界の諸宗教について講義する。具体的には、原始宗教・民族宗教・世界宗教のカテゴリーに分類し、その特徴等を概観しつつ、個々の宗教の基本的な内容を紹介する。	

（基本計画書・補足資料）

令和8年4月現在

学校法人龍谷大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和8(2026)年度			
学部・学科等	入学定員	編入学定員	収容定員
龍谷大学			
文学部			
真宗学科	145	3年次 6	592
仏教学科	118	3年次 5	482
哲学科	148	3年次 4	600
歴史学科	267	3年次 9	1,086
日本語日本文学科	101	3年次 2	408
英語英米文学科	101	3年次 2	408
経済学部			
現代経済学科	360	3年次 7	1,454
国際経済学科	240	3年次 5	970
経営学部			
経営学科	380	3年次 3	1,526
商学科	160	3年次 2	644
法学部			
法律学科	445	3年次 5	1,790
社会学部			
総合社会学科	450	3年次 10	1,820
政策学部			
政策学科	308	3年次 5	1,242
国際学部			
国際文化学科	372	3年次 20	1,528
グローバルスタディーズ学科	135	3年次 10	560
農学部			
生命科学科	90	3年次 8	376
農学科	134	3年次 9	554
食品栄養学科	80	3年次 4	328
食料農業システム学科	134	3年次 9	554
先端理工学部			
数理・情報科学課程	103	3年次 2	416
知能情報メディア課程	103	3年次 2	416
電子情報通信課程	103	3年次 2	416
機械工学・ロボティクス課程	113	3年次 2	456
応用化学課程	103	3年次 2	416
環境科学課程	88	3年次 2	356
心理学部			
心理学科	255	3年次 10	1,040
龍谷大学　合計	**5,036**	**147**	**20,438**

令和9(2027)年度				
学部・学科等	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
龍谷大学				
文学部				
	0	3年次 0	0	令和9年4月学生募集停止
仏教学科	210	3年次 3	846	定員変更（92） 3年次編入学定員の変更（△2）
哲学科	148	3年次 2	596	3年次編入学定員の変更（△2）
歴史学科	302	3年次 4	1,216	定員変更（35） 3年次編入学定員の変更（△5）
日本語日本文学科	101	3年次 1	406	3年次編入学定員の変更（△1）
英語英米文学科	101	3年次 1	406	3年次編入学定員の変更（△1）
経済学部				
経済学科	603	3年次 6	2,424	名称変更、定員変更（243） 3年次編入学定員の変更(△1)
	0	3年次 0	0	令和9年4月学生募集停止
経営学部				
経営学科	380	3年次 3	1,526	
商学科	179	3年次 2	720	定員変更（19）
法学部				
法律学科	445	3年次 5	1,790	
社会学部				
総合社会学科	450	3年次 10	1,820	
政策学部				
政策学科	309	3年次 3	1,242	定員変更（1） 3年次編入学定員の変更（△2）
国際学部				
国際文化学科	372	3年次 15	1,518	3年次編入学定員の変更（△5）
グローバルスタディーズ学科	135	3年次 3	546	3年次編入学定員の変更（△7）
農学部				
生命科学科	90	3年次 1	362	3年次編入学定員の変更（△7）
農学科	124	3年次 1	498	定員変更（△10） 3年次編入学定員の変更（△8）
食品栄養学科	80	3年次 1	322	3年次編入学定員の変更（△3）
食料農業システム学科	130	3年次 1	522	定員変更（△4） 3年次編入学定員の変更（△8）
理工学部				名称変更
数理・情報科学課程	86	3年次 1	346	定員変更（△17） 3年次編入学定員の変更（△1）
	0	3年次 0	0	令和9年4月学生募集停止
電子情報通信課程	100	3年次 1	402	定員変更（△3） 3年次編入学定員の変更（△1）
機械工学・ロボティクス課程	109	3年次 1	438	定員変更（△4） 3年次編入学定員の変更（△1）
応用化学課程	100	3年次 1	402	定員変更（△3） 3年次編入学定員の変更（△1）
	0	3年次 0	0	令和9年4月学生募集停止
心理学部				
心理学科	255	3年次 10	1,040	
情報学部				学部の設置（届出）
情報学科	130	3年次 3	526	
環境サステナビリティ学部				学部の設置（届出）
環境サステナビリティ学科	130	3年次 2	524	
龍谷大学　合計	**5,069**	**81**	**20,438**	

令和8(2026)年度			
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
龍谷大学大学院			
文学研究科			
真宗学専攻(M)	20	－	40
仏教学専攻(M)	20	－	40
哲学専攻(M)	7	－	14
教育学専攻(M)	7	－	14
日本史学専攻(M)	7	－	14
東洋史学専攻(M)	7	－	14
日本語日本文学専攻(M)	7	－	14
英語英米文学専攻(M)	7	－	14
法学研究科			
法律学専攻(M)	25	－	50
経済学研究科			
経済学専攻(M)	30	－	60
経営学研究科			
経営学専攻(M)	30	－	60
社会学研究科			
社会学専攻(M)	10	－	20
社会福祉学専攻(M)	10	－	20
国際学研究科			
国際文化学専攻(M)	7	－	14
グローバルスタディーズ専攻(M)	4	－	8
言語コミュニケーション専攻(M)	4	－	8
実践真宗学研究科			
実践真宗学専攻(M)	30	－	90
政策学研究科			
政策学専攻(M)	20	－	40
農学研究科			
食農科学専攻(M)	30	－	60
先端理工学研究科			
先端理工学専攻 (M)	100	－	200
心理学研究科			
臨床心理学専攻 (M)	20	－	40

令和9(2027)年度				
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
龍谷大学大学院				
文学研究科				
真宗学専攻(M)	20	－	40	
仏教学専攻(M)	20	－	40	
哲学専攻(M)	7	－	14	
教育学専攻(M)	7	－	14	
日本史学専攻(M)	7	－	14	
東洋史学専攻(M)	7	－	14	
日本語日本文学専攻(M)	7	－	14	
英語英米文学専攻(M)	7	－	14	
法学研究科				
法律学専攻(M)	25	－	50	
経済学研究科				
経済学専攻(M)	30	－	60	
経営学研究科				
経営学専攻(M)	30	－	60	
社会学研究科				
社会学専攻(M)	10	－	20	
社会福祉学専攻(M)	10	－	20	
国際学研究科				
国際文化学専攻(M)	7	－	14	
グローバルスタディーズ専攻(M)	4	－	8	
言語コミュニケーション専攻(M)	4	－	8	
実践真宗学研究科				
実践真宗学専攻(M)	30	－	90	
政策学研究科				
政策学専攻(M)	20	－	40	
農学研究科				
食農科学専攻(M)	30	－	60	
先端理工学研究科				
先端理工学専攻 (M)	100	－	200	
心理学研究科				
臨床心理学専攻 (M)	20	－	40	

令和8(2026)年度			
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
文学研究科			
真宗学専攻(D)	5	ー	15
仏教学専攻(D)	5	ー	15
哲学専攻(D)	2	ー	6
教育学専攻(D)	3	ー	9
日本史学専攻(D)	2	ー	6
東洋史学専攻(D)	2	ー	6
日本語日本文学専攻(D)	2	ー	6
英語英米文学専攻(D)	2	ー	6
法学研究科			
法律学専攻(D)	5	ー	15
経済学研究科			
経済学専攻(D)	3	ー	9
経営学研究科			
経営学専攻(D)	3	ー	9
社会学研究科			
社会学専攻(D)	3	ー	9
社会福祉学専攻(D)	3	ー	9
国際学研究科			
国際文化学専攻(D)	2	ー	6
グローバルスタディーズ専攻(D)	2	ー	6
政策学研究科			
政策学専攻(D)	3	ー	9
農学研究科			
食農科学専攻(D)	5	ー	15
先端理工学研究科			
先端理工学専攻 (D)	10	ー	30
心理学研究科			
臨床心理学専攻 (D)	6	ー	18
龍谷大学大学院 合計	**470**	**ー**	**1,038**

令和9(2027)年度				
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
文学研究科				
真宗学専攻(D)	5	ー	15	
仏教学専攻(D)	5	ー	15	
哲学専攻(D)	2	ー	6	
教育学専攻(D)	3	ー	9	
日本史学専攻(D)	2	ー	6	
東洋史学専攻(D)	2	ー	6	
日本語日本文学専攻(D)	2	ー	6	
英語英米文学専攻(D)	2	ー	6	
法学研究科				
法律学専攻(D)	5	ー	15	
経済学研究科				
経済学専攻(D)	3	ー	9	
経営学研究科				
経営学専攻(D)	3	ー	9	
社会学研究科				
社会学専攻(D)	3	ー	9	
社会福祉学専攻(D)	3	ー	9	
国際学研究科				
国際文化学専攻(D)	2	ー	6	
グローバルスタディーズ専攻(D)	2	ー	6	
政策学研究科				
政策学専攻(D)	3	ー	9	
農学研究科				
食農科学専攻(D)	5	ー	15	
先端理工学研究科				
先端理工学専攻 (D)	10	ー	30	
心理学研究科				
臨床心理学専攻 (D)	6	ー	18	
龍谷大学大学院 合計	**470**	**ー**	**1,038**	

京都府・滋賀県内における位置関係図

龍谷大学　京都大宮キャンパス※1

京都市下京区七条通大宮東入
大工町 125 番地の 1

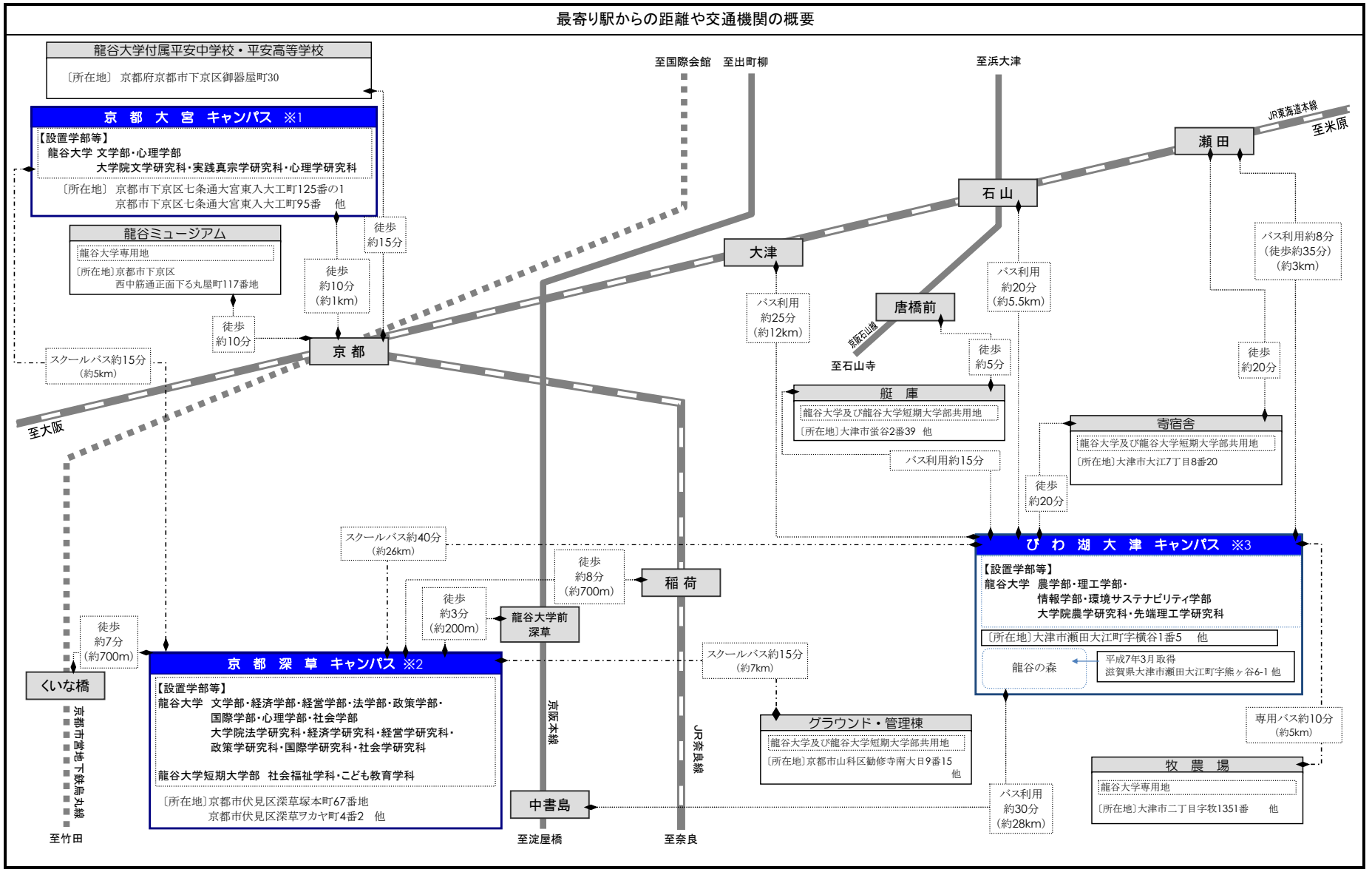
龍谷大学　京都深草キャンパス※2

京都市伏見区深草塚本町 67 番地

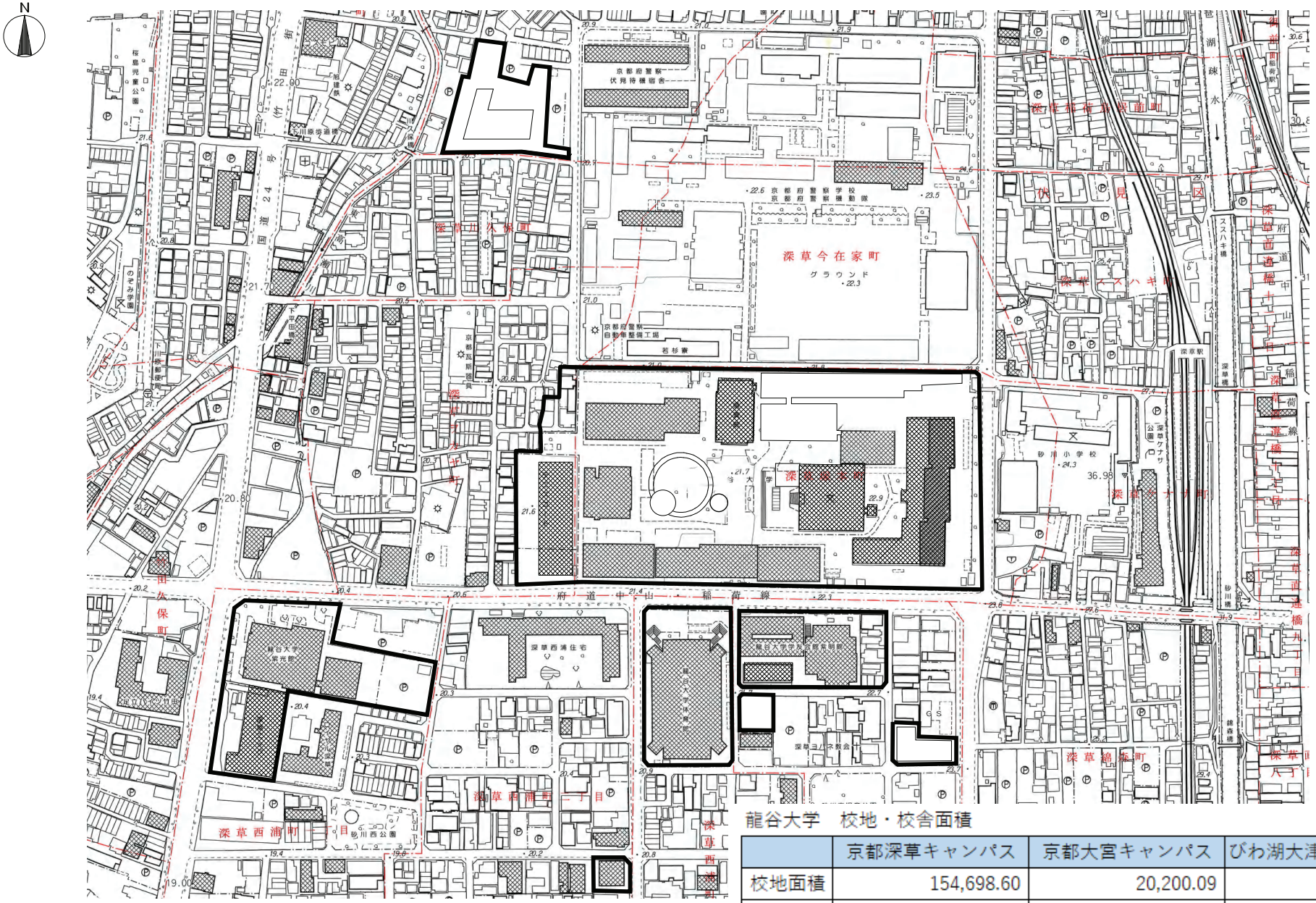
龍谷大学　びわ湖大津キャンパス※3

滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1 番 5

※1　2027 年度からキャンパス名称を変更。2026 年度までは大宮キャンパス
※2　2027 年度からキャンパス名称を変更。2026 年度までは深草キャンパス
※3　2027 年度からキャンパス名称を変更。2026 年度までは瀬田キャンパス



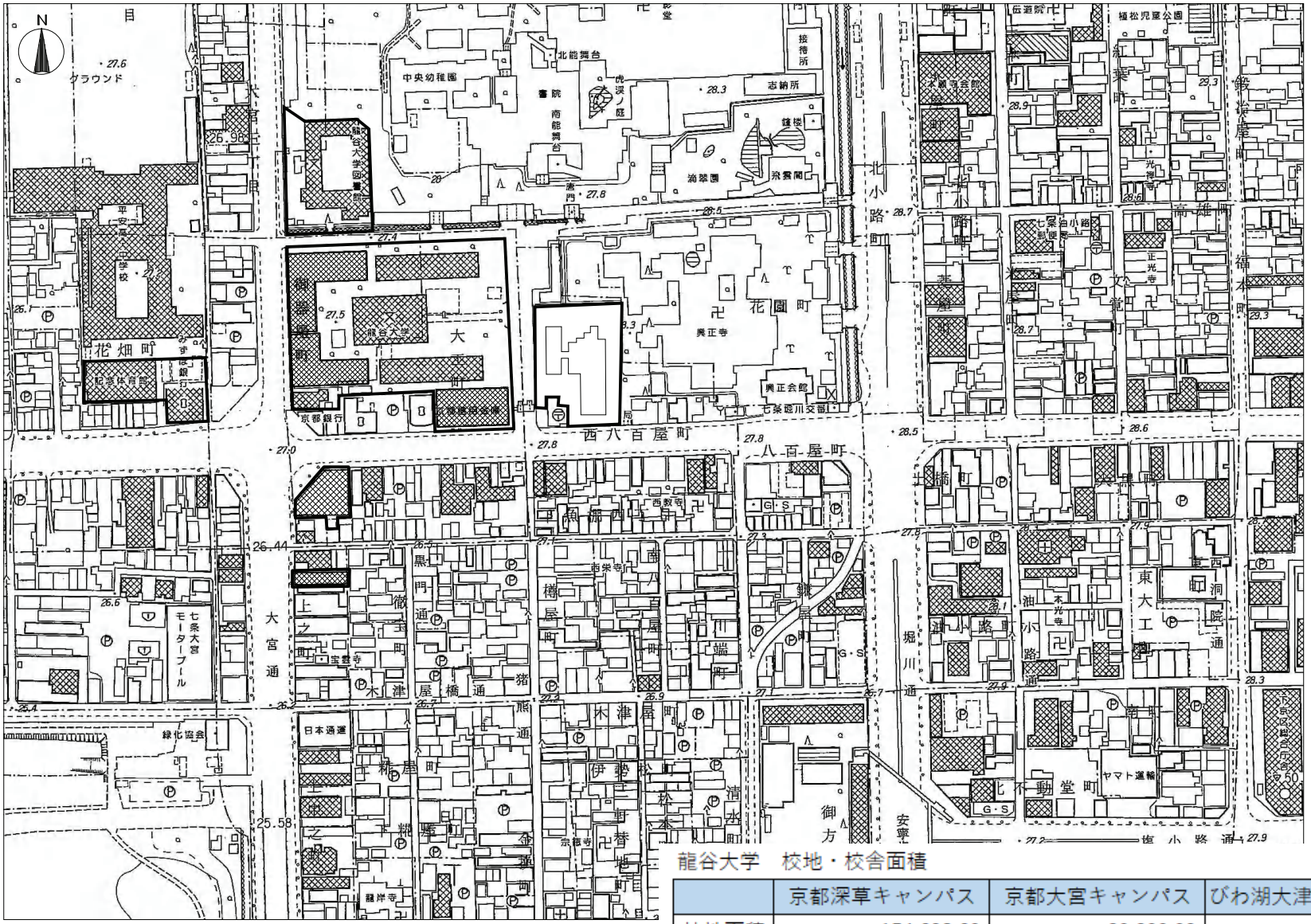
※1 2027年度からキャンパス名称を変更、2026年度までは大宮キャンパス。 ※2 2027年度からキャンパス名称を変更、2026年度までは深草キャンパス。 ※3 2027年度からキャンパス名称を変更、2026年度までは瀬田キャンパス。



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	京都深草キャンパス	京都大宮キャンパス	びわ湖大津キャンパス
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,436.44	33,852.90	95,824.29

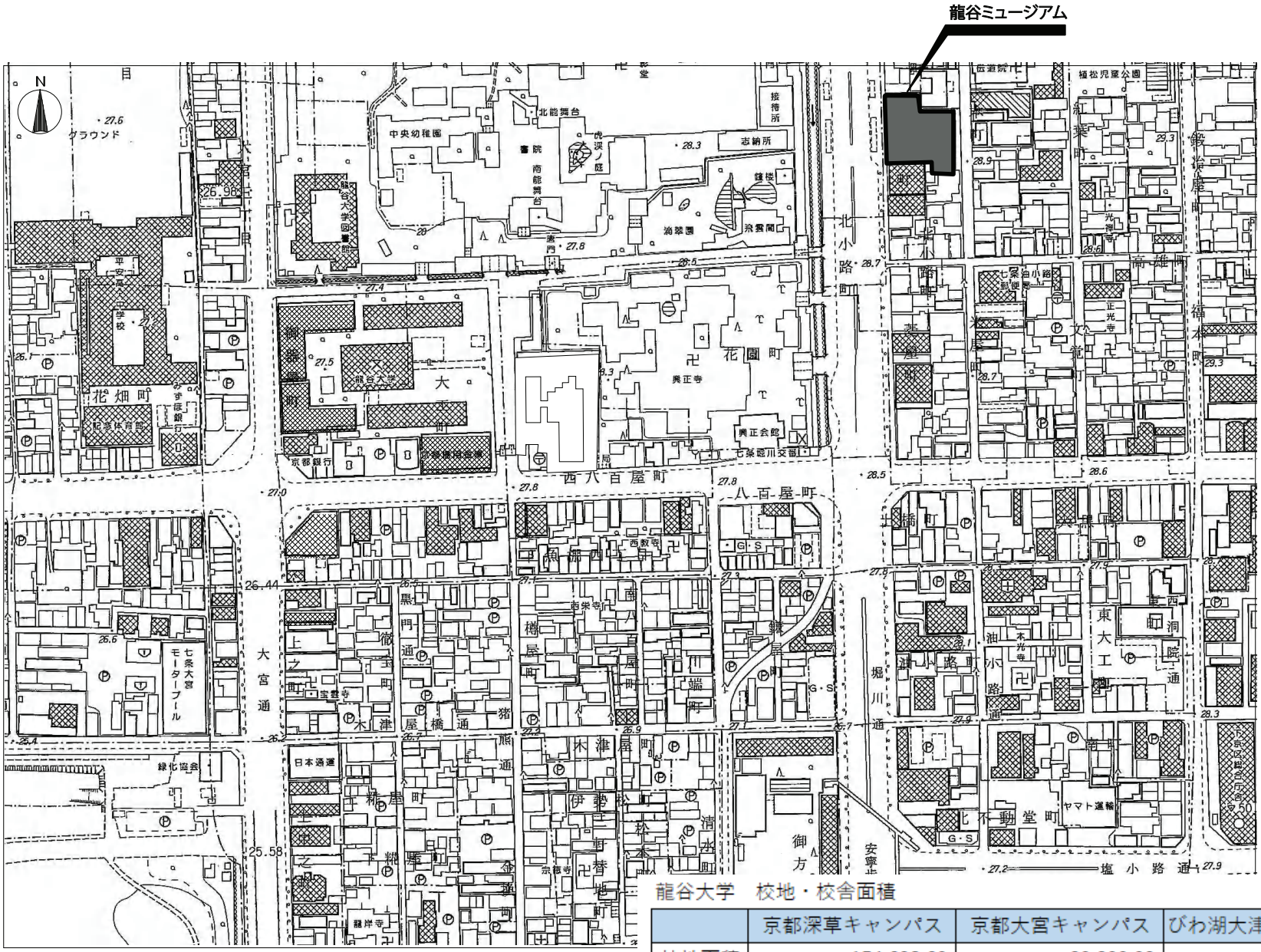
設計名称	学校法人　龍谷大学　深草学舎　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	
				図面番号	



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	京都深草キャンパス	京都大宮キャンパス	びわ湖大津キャンパス
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,436.44	33,852.90	95,824.29

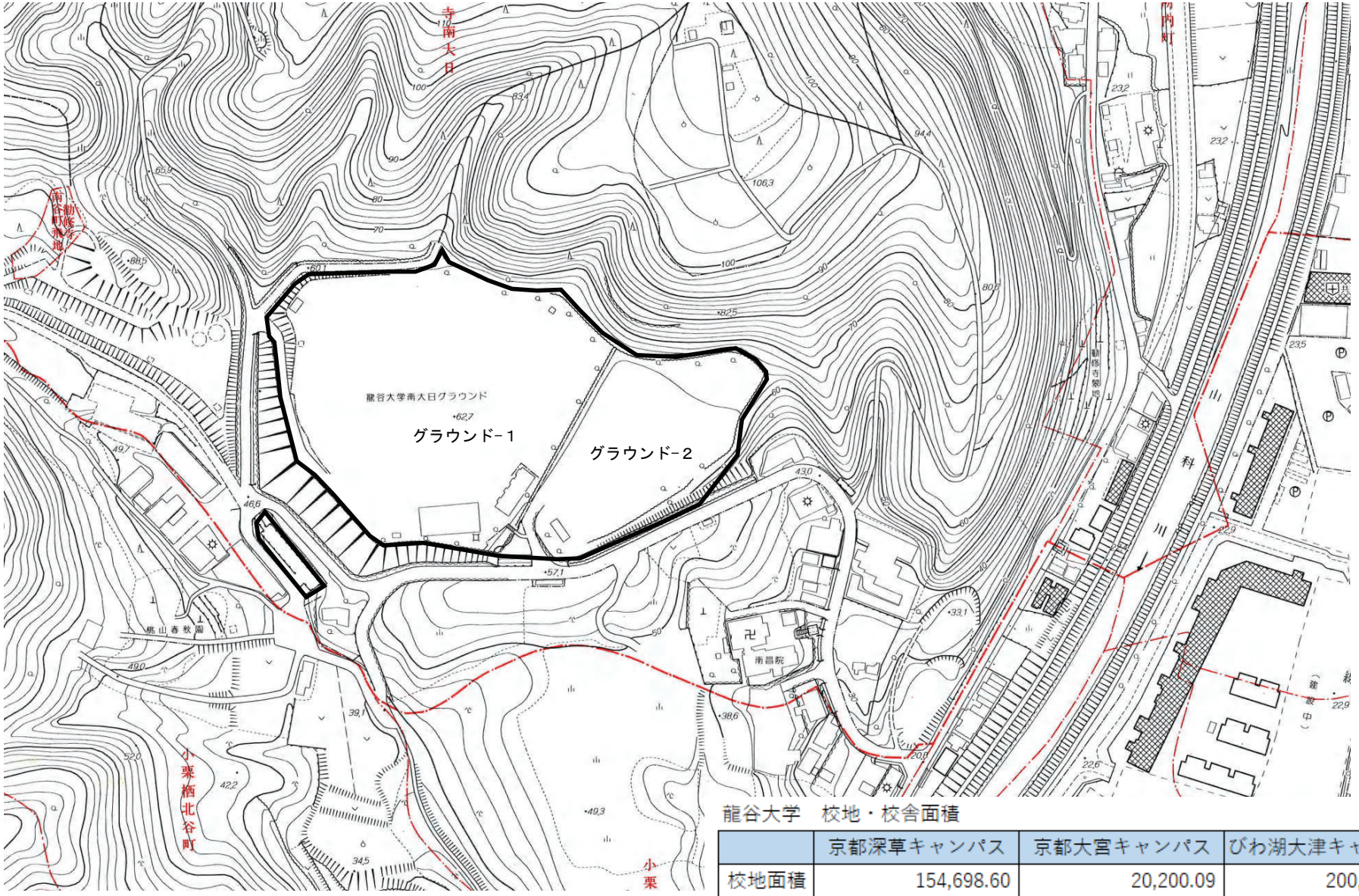
設計名称	学校法人　龍谷大学　大宮学舎　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	図面番号



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	京都深草キャンパス	京都大宮キャンパス	びわ湖大津キャンパス
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,436.44	33,852.90	95,824.29

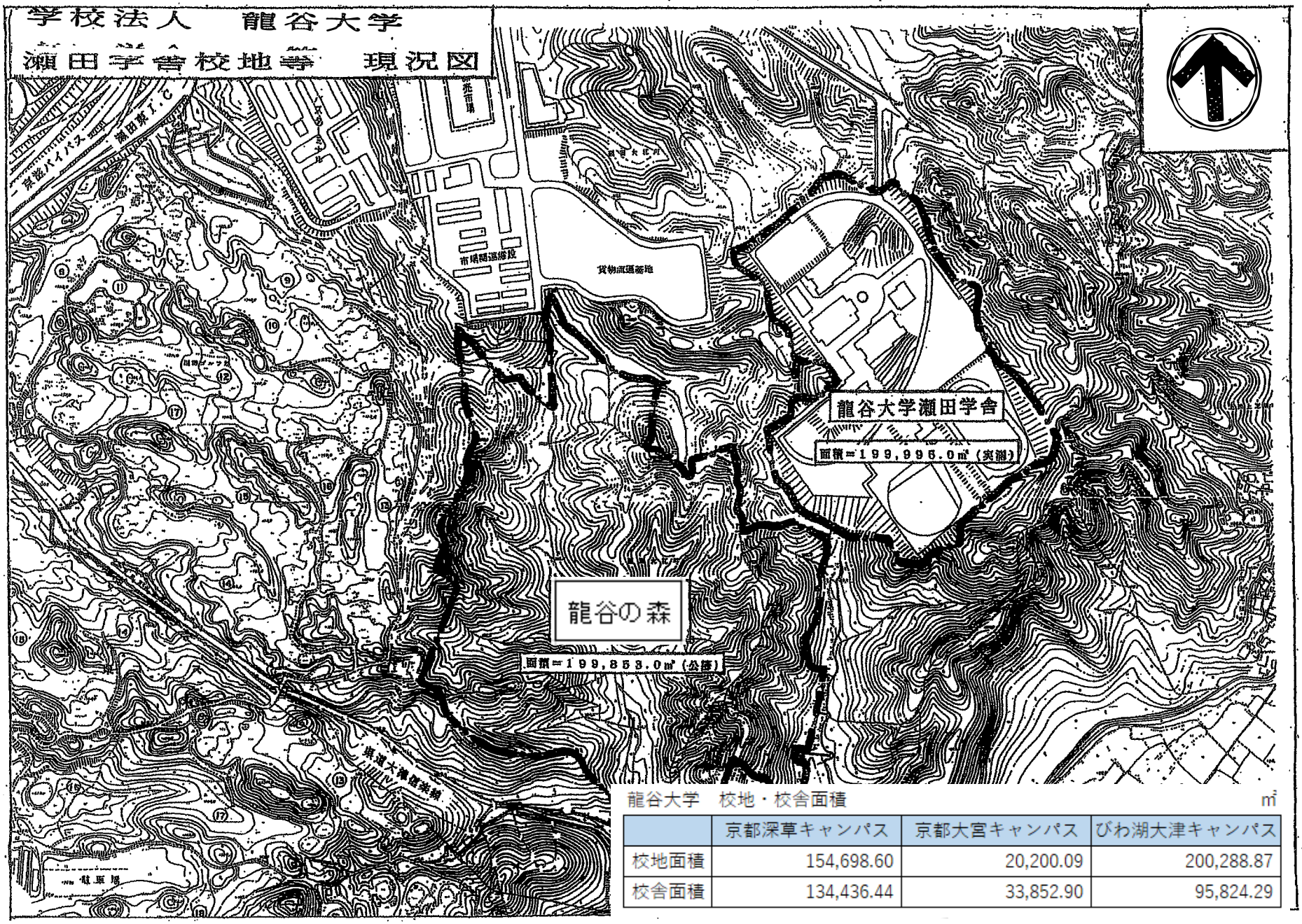
設計名称	学校法人　龍谷大学　大宮学舎　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称 付近見取図 縮　尺	図面番号



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	京都深草キャンパス	京都大宮キャンパス	びわ湖大津キャンパス
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,436.44	33,852.90	95,824.29

設計名称	学校法人　龍谷大学　南大日校地（運動場）校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称 付近見取図 縮　尺	図面番号

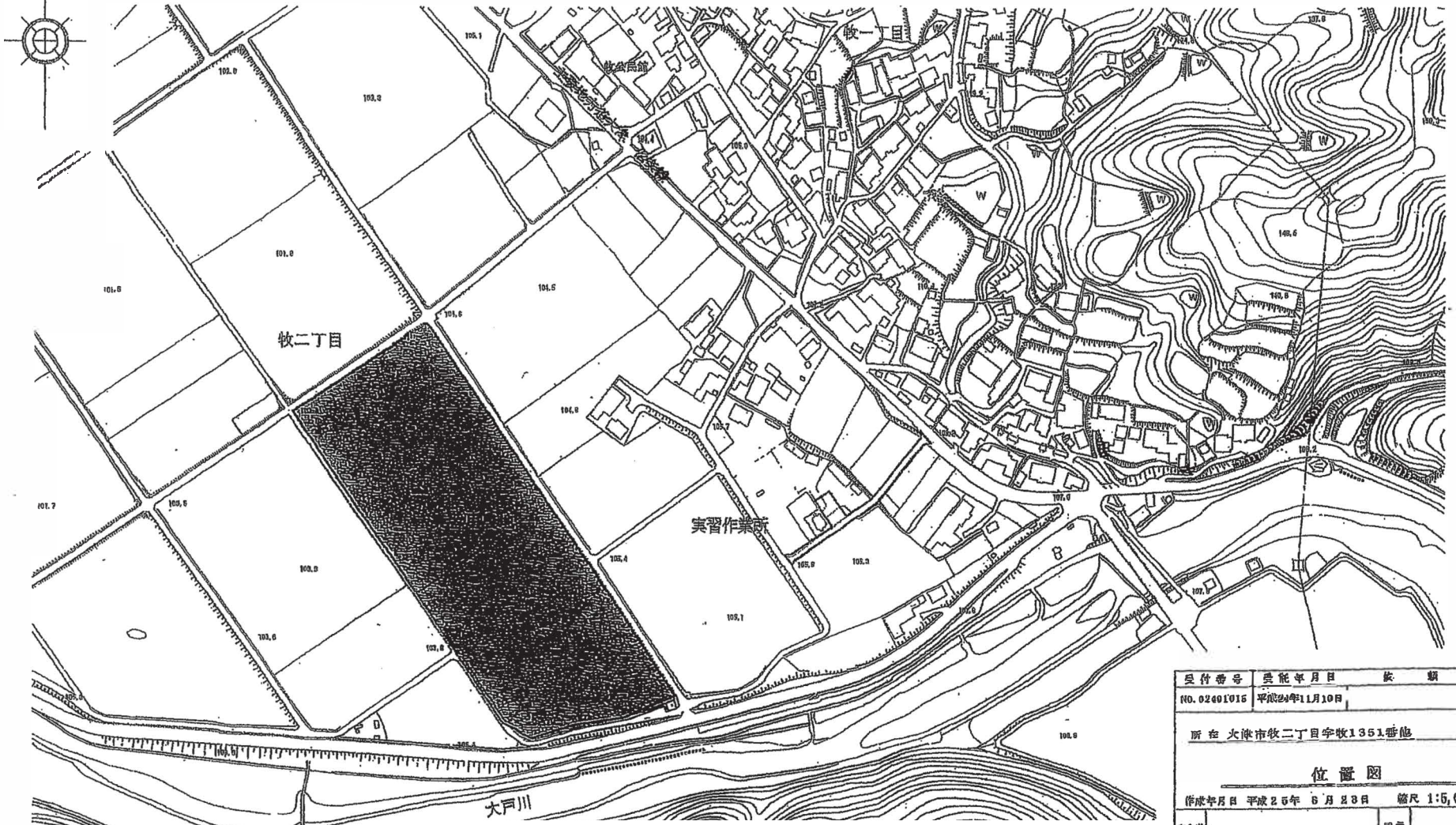


龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	京都深草キャンパス	京都大宮キャンパス	びわ湖大津キャンパス
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,436.44	33,852.90	95,824.29

位置図

所在：大津市牧二丁目字牧１３５１番他



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	京都深草キャンパス	京都大宮キャンパス	びわ湖大津キャンパス
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,436.44	33,852.90	95,824.29

受付番号	受付年月日	依頼者
NO. 02401015	平成24年11月10日	様

所在 大津市牧二丁目字牧1351番他

位置図

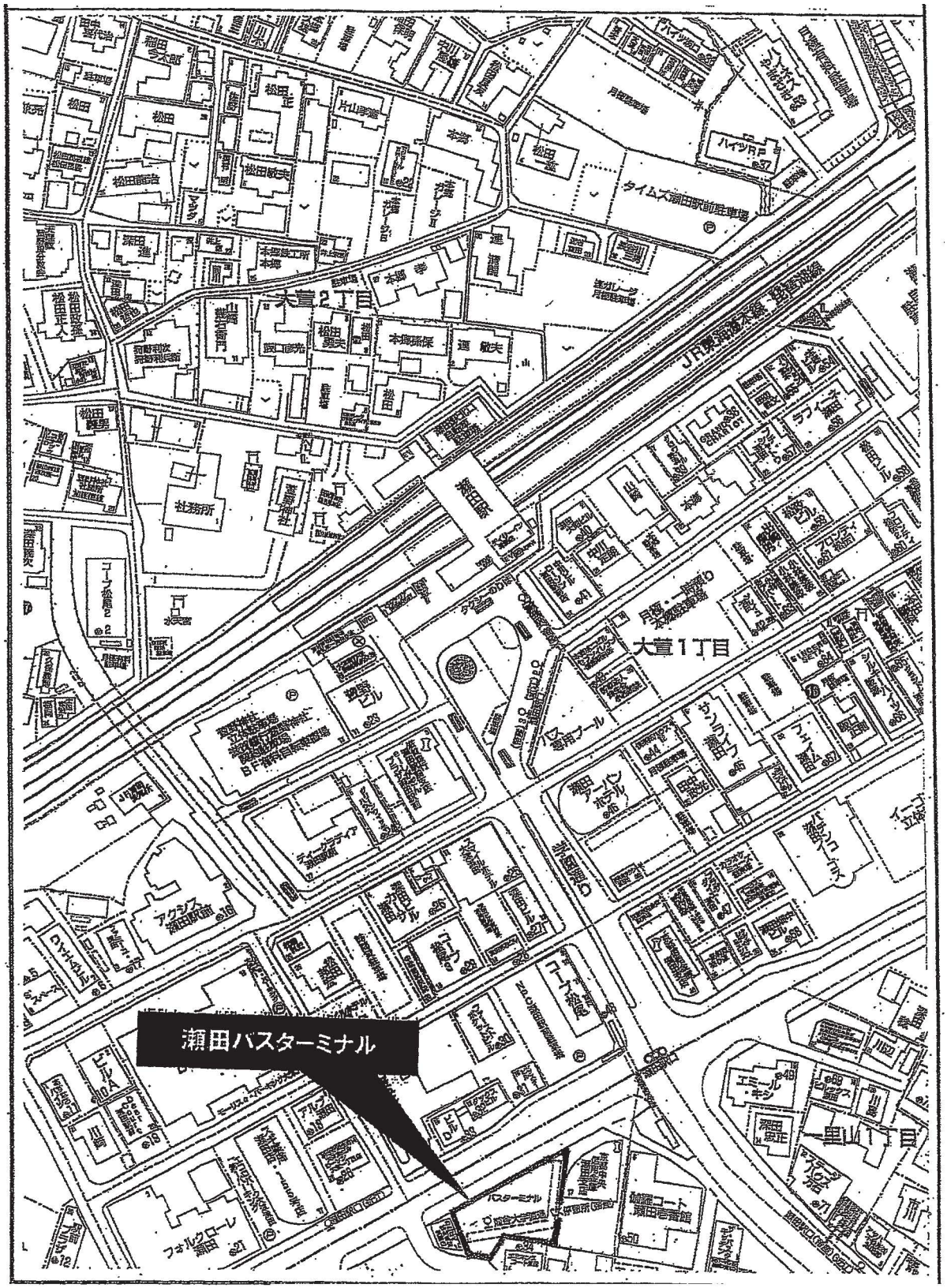
作成年月日 平成２５年 ６月２８日　縮尺 1:5,000

立会者	説示

株式会社 エスト
〒520-0806 京都府大津市打出浜10番地の1
TEL. (077) 521-6660
FAX. (077) 522-8660
土地家屋調査士 蒲田元義
登録第406号
測量・土地家屋調査士事務所
測量コンサルタント 堀江 郁夫

図面	現況	検算	照合	検収	担当技師

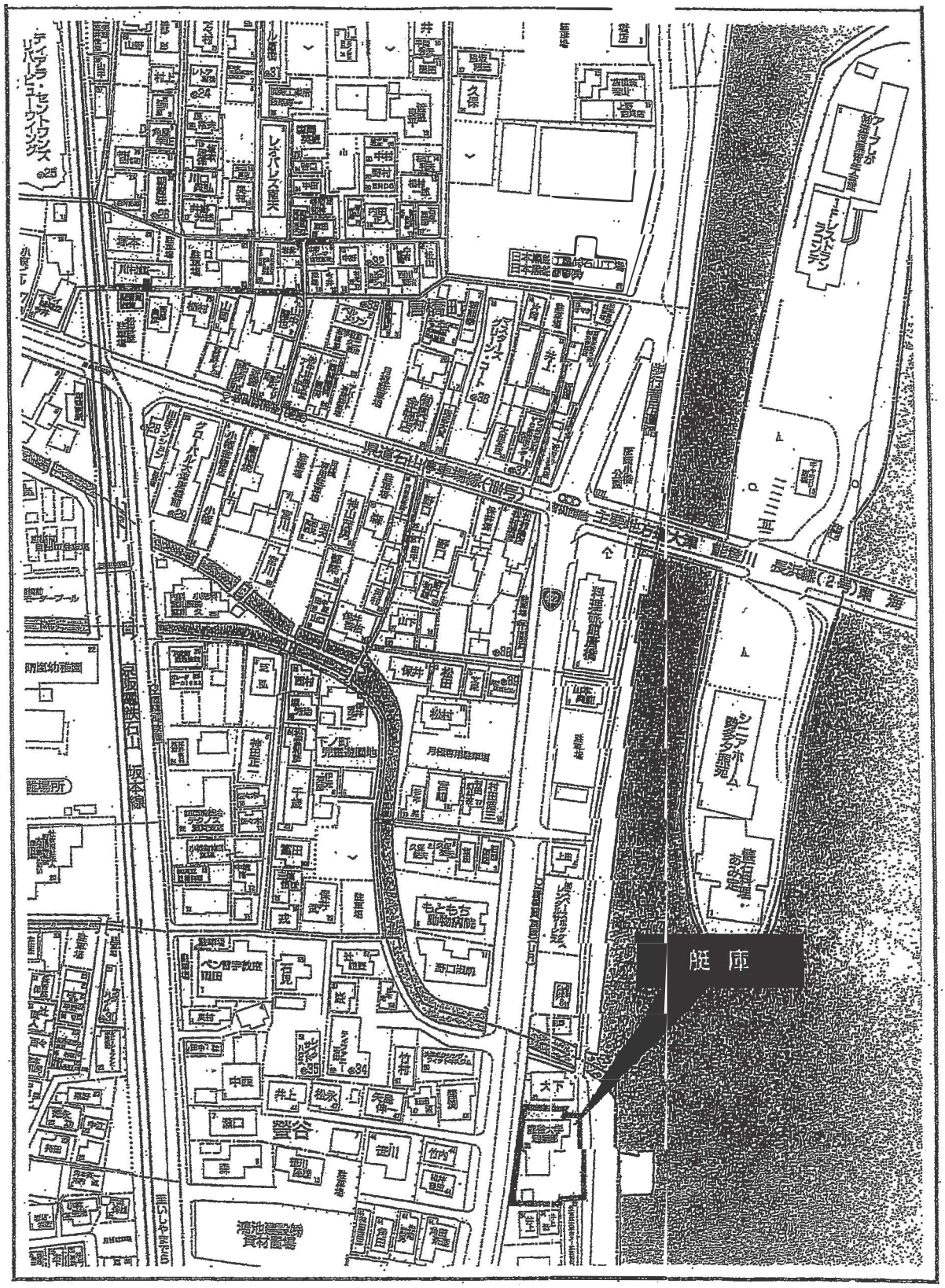
瀬田バスターミナル近隣図



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	京都深草キャンパス	京都大宮キャンパス	びわ湖大津キャンパス
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,436.44	33,852.90	95,824.29

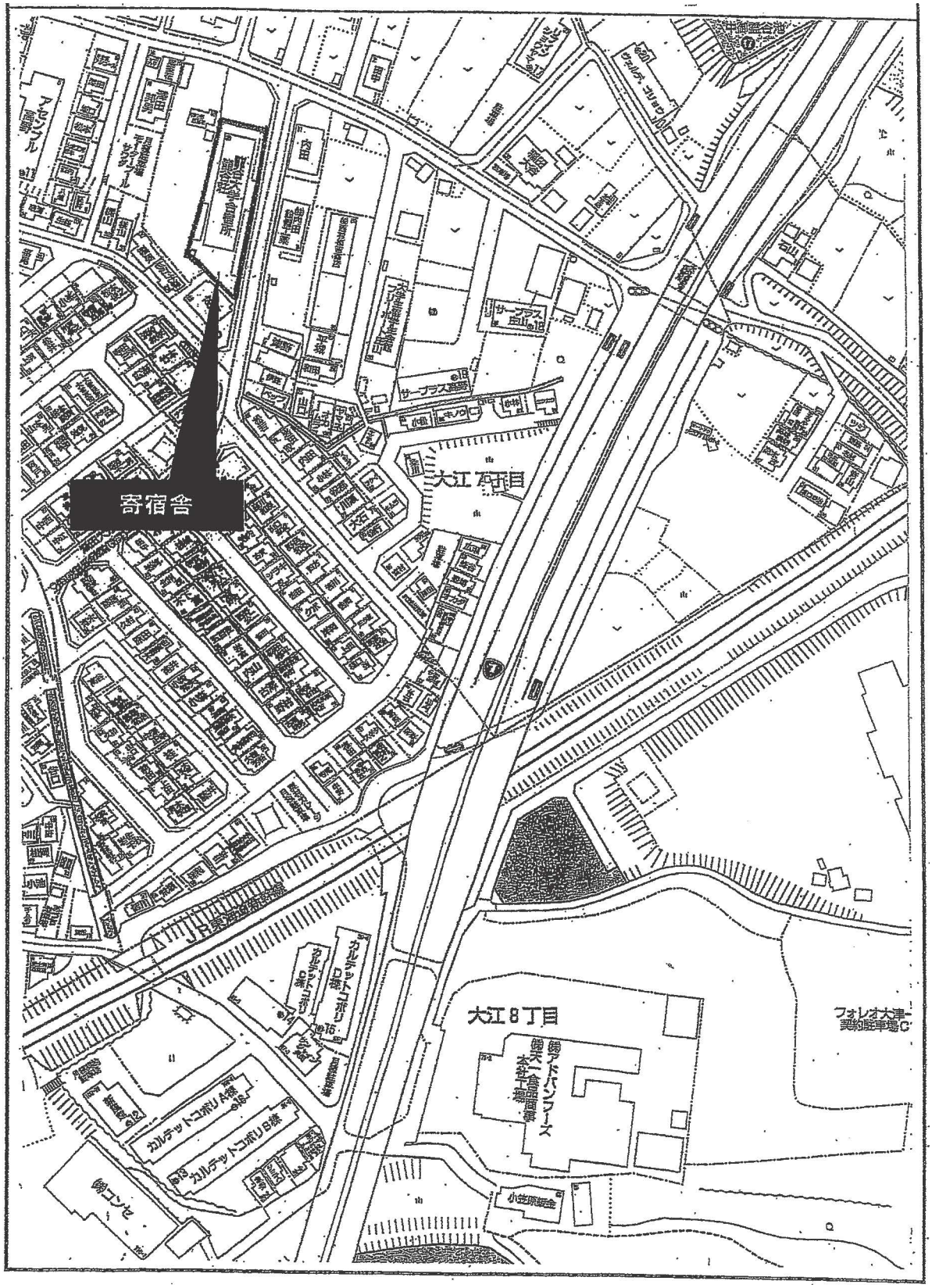
艇庫近隣図



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	京都深草キャンパス	京都大宮キャンパス	びわ湖大津キャンパス
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,436.44	33,852.90	95,824.29

寄宿舎［龍谷荘(瀬田)］近隣図



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	京都深草キャンパス	京都大宮キャンパス	びわ湖大津キャンパス
校地面積	154,698.60	20,200.09	200,288.87
校舎面積	134,436.44	33,852.90	95,824.29

○龍谷大学学則

昭和24年２月21日

設置認可

第１章　総則

第１条　本学は教育基本法及び学校教育法にしたがい,浄土真宗の精神に基づく大学として,広く知識を授けるとともに,深く専門の諸学科を教授研究し,併せて有為の人材を養成することを目的とする。

第１条の２　本学は教育研究の向上をはかり,前条の目的を達成するため,自らの点検・評価を行う。

２　前項の目的を達成するため,点検の項目,実施体制は別に定める。

第２条　本学に次の学部を置き,各学部にはそれぞれに掲げる学科,課程及び専攻を置く。

学部	学科・課程	専攻
文学部	仏教学科	
	哲学科	哲学専攻
		教育学専攻
	歴史学科	日本史学専攻
		東洋史学専攻
		仏教史学専攻
		文化遺産学専攻
	日本語日本文学科	
	英語英米文学科	
経済学部	経済学科	
経営学部	経営学科	
	商学科	
法学部	法律学科	
社会学部	総合社会学科	
政策学部	政策学科	
国際学部	国際文化学科	
	グローバルスタディーズ学科	
農学部	生命科学科	
	農学科	

	食品栄養学科	
	食料農業システム学科	
理工学部	数理・情報科学課程	
	電子情報通信課程	
	機械工学・ロボティクス課程	
	応用化学課程	
心理学部	心理学科	
情報学部	情報学科	
環境サステナビリティ学部	環境サステナビリティ学科	

第２条の２　各学部の教育理念・目的は，次のとおりとする。

学部名	教育理念・目的
文学部	建学の精神に基づいて，人文学の知的体系の研究・教授を通じ，現代社会の複雑な変化や諸問題に，自己を見失うことなく積極的・主体的に対応しつつ，社会に貢献できる教養及び専門性を備えた人間を育成することを目的とする。
経済学部	建学の精神に基づいて，経済学が培ってきた基礎的理論や社会の経済的諸現象を論理的に分析する能力を修得し，さらに国際的・地域的な多様性を理解して，課題の発見と解決に努める人間を育成することを目的とする。
経営学部	建学の精神に基づいて，経営学の理論を修得させることに加えて，実践的かつ実学的素養を身につけさせることを教育理念とする。また，激しい時代の変化に対応でき，社会から信頼される経営人を育成することを目的とする。
法学部	建学の精神に基づいて，日本国憲法の理念を基礎に，法学と政治学の教育・研究を通じて，広い教養と専門的な知識をもって主体的に行動し，鋭い人権感覚と正義感のもとに自ら発見した問題を社会と連携して解決できる，自立的な市民を育成することを目的とする。
社会学部	建学の精神に基づいて，多様な価値観が錯綜する現代において，人が営む共同体である「社会」のあり方を学び，人と人，

	人と組織や社会との関わり方やそこで発生する諸問題の分析・解決の視点と手法を身につけた人間を育成することを目的とする。
政策学部	建学の精神に基づいて，共生の哲学を基礎に，政策学の教育と研究を通じて広い教養と専門的な知識を身につけ，社会の持続可能な発展のために主体的に行動するとともに，自ら発見した問題を社会と連携して解決できる，公共性を深く理解し，高い市民性を持つ自立的な人材を育成することを目的とする。
国際学部	建学の精神に基づいて，異文化への理解と敬意を深めるとともに，自文化についての発信力を養い，グローバル化が加速する時代において，柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた人間を育成することを目的とする。
農学部	建学の精神に基づいて，人類が直面する「食」と「農」に関する国内外の諸問題に対して真摯に向き合い，農学の立場から正しい判断ができる力を備えた，持続可能な社会の実現に貢献しうる人の育成を目的とする。
理工学部	建学の精神に基づいて，自然・社会と科学との調和を重視し，幅広い教養と理工学の各専門分野における基礎知識・技能を身に着け，持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った技術者・研究者を育成することを目的とする。
心理学部	建学の精神に基づいて，現代社会が抱える諸課題に対し，心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ，主体的かつ実践的に対応できる人間を育成することを目的とする。
情報学部	建学の精神に基づいて、情報技術と人、社会、自然との調和を重視し、幅広い教養と情報学の基礎知識・技能を修得することで、実践的な専門家として情報社会の発展に寄与し、新しい社会の創造にも積極的に携わる情報技術者を育成する

	ことを目的とする。
環境サステナビリティ学部	建学の精神に基づいて、サステナビリティをめぐる幅広い知識を身につけるとともに、都市環境工学、生物多様性科学及び経済学・経営学に係る専門知、並びにそれらを統合した視点を獲得し、持続可能な社会の創造に向けて、実践的に課題解決に向き合える環境人材を育成することを目的とする。

第３条　本学に大学院を置く。大学院の学則は別にこれを定める。

第４条　本学学部の収容定員は，次のとおりとする。

学部・学科・課程・専攻			入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	仏教学科		210名	3名	846名
	哲学科	哲学専攻	74名	1名	298名
		教育学専攻	74名	1名	298名
	歴史学科	日本史学専攻	81名	1名	326名
		東洋史学専攻	91名	1名	366名
		仏教史学専攻	65名	1名	262名
		文化遺産学専攻	65名	1名	262名
	日本語日本文学科		101名	1名	406名
	英語英米文学科		101名	1名	406名
	小計		862名	11名	3,470名
経済学部	経済学科		603名	6名	2,424名
経営学部		経営学科	380名	3名	1,526名
		商学科	179名	2名	720名
		小計	559名	5名	2,246名
法学部		法律学科	445名	5名	1,790名
社会	総合社会学科		450名	10名	1,820名

学部				
政策学部	政策学科	309名	3名	1,242名
国際学部	国際文化学科	372名	15名	1,518名
	グローバルスタディーズ学科	135名	3名	546名
	小計	507名	18名	2,064名
農学部	生命科学科	90名	1名	362名
	農学科	124名	1名	498名
	食品栄養学科	80名	1名	322名
	食料農業システム学科	130名	1名	522名
	小計	424名	4名	1,704名
理工学部	数理・情報科学課程	86名	1名	346名
	電子情報通信課程	100名	1名	402名
	機械工学・ロボティクス課程	109名	1名	438名
	応用化学課程	100名	1名	402名
	小計	395名	4名	1,588名
心理学部	心理学科	255名	10名	1,040名
情報学部	情報学科	130名	3名	526名
環境サステナビリティ学部	環境サステナビリティ学科	130名	2名	524名
合計		5,069名	81名	20,438名

第５条　本学学部の修業年限は４年とし，８年を超えて在学することはできない。

第６条　本学学部に４年以上在学し，所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し，学長は各学部教授会の議を経て卒業を認定する。ただし，学長は，所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については，３年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては別にこれを定める。

２　学長は，前項により卒業の認定を受けた者に対し，卒業証書及び本学学位規程に定める学士の学位を授与する。

３　卒業認定の時期は，学年末とする。ただし，学長が特別の事情があると認める者に対し

ては，学期の末とすることができる。

第７条　削除

第２章　通則

第１節　学年・学期・休業日

第８条　学年は，４月１日に始まり翌年３月31日に終る。

第９条　学年を原則として次の２学期に分ける。

第１学期　４月１日から９月30日まで

第２学期　10月１日から翌年３月31日まで

第10条　休業日は，次のとおりとする。

(1)　日曜日

(2)　「国民の祝日に関する法律」に規定する休日

(3)　創立記念日（５月21日）

(4)　春期休業，夏期休業及び冬期休業（当該年度の学年暦において定める。）

２　前項の休業日については，事情により変更することがあり，授業を行うことができる。

３　臨時の休業については，学長がそのつど定める。

第２節　学籍の取得，喪失，異動

第11条　入学は，毎学年の始めとする。ただし，特別の事情のある場合は，学期の始めとすることができる。

第12条　次の各号の１に該当する者は，学部第１学年に入学することができる。ただし，必要と認めたときは，高等学校卒業程度の選抜試験を行う。

(1)　高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

(2)　通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）

(3)　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずるもので文部科学大臣の指定した者

(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5)　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6)　文部科学大臣の指定した者

(7)　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(8)　本学において，個別の入学資格審査により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，18歳に達した者

第13条　本学の第３年次及び第２年次に転入学又は編入学を希望する者については，選考の上これを許可することがある。

２　第３年次に入学できる者は，次の各号の１に該当する者とする。

(1)　大学に２年以上在学した者

(2)　短期大学を卒業した者

(3)　高等専門学校を卒業した者

３　第２年次に入学できる者は，次の各号の１に該当する者とする。

(1)　大学に１年以上在学した者

(2)　短期大学を卒業した者

(3)　高等専門学校を卒業した者

第14条　第19条の規定により本学を中途退学をした者が，再び入学を願出たときは，その事情を調査のうえ，入学を許可することがある。

第14条の２　第20条第１項第１号により除籍された者が，再び入学を願出たときは，その事情を調査のうえ，入学を許可することがある。

第14条の３　前３条の規定により入学した者の在学すべき年数及び在学し得る年数については，第６条及び第５条の規定にかかわらず教授会が定める。

第15条　入学志願者は，所定の書式にしたがい入学願書及び所定の書類を提出しなければならない。

第16条　入学の許可を得た者は，所定の入学誓書，保証書及び住民票記載事項証明書を指定の期日までに提出しなければならない。

第17条　保証人は１名とする。

２　保証人は,その学生の在学中にかかる一切の事件について責任を負わなければならない。

３　保証人が死亡したとき又はその資格を失ったときは,新たに保証人を定めて保証書を提出しなければならない。

４　保証人が転居等をしたときは，ただちにその旨を届けなければならない。

第18条　学生が疾病又はその他の事由により，３月以上修学を中止しようとするときは，学長の許可を得て１学期間又は１学年間休学することができる。

２　休学中の者が引き続き休学を希望するときは，休学期間の延長をすることができる。

３　休学期間は連続して２年，通算して４年を超えることはできない。

４　休学期間は在学期間に算入しない。

第18条の２　休学した者が復学しようとするときは，所定の様式により，学長に願出なければならない。

第18条の３　削除

第18条の４　本学理工学部において，第３年次及び第２年次に転課程を希望する者については，理工学部教授会の議を経て，これを許可することがある。

２　第３年次に転課程できる者は，理工学部に２年以上在学した者とする。

３　第２年次に転課程できる者は，理工学部に１年以上在学した者とする。

第19条　疾病又はその他の事由で退学しようとするときは，保証人と連署して願出なければならない。

第19条の２　外国の大学又は短期大学等で学修することを志願する者は，学長の許可を得て留学することができる。

第20条　学生が次の各号の１に該当するときは，これを除籍する。

(1)　定められた期間内に学費を納入しない者

(2)　第５条に定める期間に修了できない者

(3)　第18条に定める休学期間を終えても復学できない者

２　前項に規定するほか，死亡したときも除籍する。

第３節　受験料，学費（入学金・授業料・実験実習料・実習料・留学実習料）及びその他納付金

第21条　入学試験の受験料・併願審査料は，別に定める。

第22条　学費は，次のとおりとする。

（単位　円）

	金額												備考
	文学部（歴史学科文化遺産学専攻を除	文学部歴史学科文化遺産学	政策学部	社会学部	国際学部国際文化学科	国際学部グローバルスタデ	農学部生命科学科農学	農学部食品栄養学科	農学部食料農業システム	理工学部数理	理工学部電子	心理学部	

	く。） 経済学部経営学部法学部	専攻				ィーズ学科	科		学科	・情報科学課程	情報通信課程機械工学・ロボティクス課程応用化学課程情報学部環境サ		

											ステナビリティ学部		
入学金	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	編入学生及び転入学生の入学金は,160,000円を減免する。ただし,本学出身者（短期大学部出身者含む）が本学へ編入学する場合又は本学の学生が転学部,転学科,転課程及び転専攻する場合は,入学金全額を免除する。再入学生の入学金は,全額免除とする。
授業料	1,121,000	1,156,900	1,121,000	1,157,000	1,176,000	1,291,000	1,419,000	1,439,000	1,259,000	1,449,000	1,499,000	1,267,000	入学初年度（1年次）の授業料は260,000円を減免する。本学短期大学部出身者が本学へ編入学する場合は,編入初年度及び

													2年度目（3年次・4年次）の授業料をそれぞれ50,000円減免する。
実験実習料	—	—	—	—	—	—	143,600	193,600	35,900	143,600	143,600	—	
実習料	—	—	15,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
留学実習料	—	—	—	—	—	200,000	—	—	—	—	—	—	

２　前項のほか，教職課程及び教育実習等実習を履修する者の履修料及び実習費については，学費等納入規程に定めるところによる。

第22条の２　学年の中途で退学する者は，当該学期分の学費は納入しなければならない。

２　停学期間においても，学費は納入しなければならない。

第22条の３　休学者の学費は，当該学期の休学在籍料を納入しなければならない。休学在籍料は，年額100,000円とする。

第22条の４　本節に規定するほか，受験料，学費及びその他の納付金については別に定める学費等納入規程による。

第４節　懲戒

第23条　学生が本学の秩序を乱し，その他学生の本分に反した場合，その内容，軽重等を考慮し，別に定める学生懲戒規程により，次の懲戒を加える。

(1)　戒告

(2)　停学

(3)　退学

第24条　削除

第３章　教育課程

第１節　通則

第25条　文学部，経済学部，経営学部，法学部，社会学部，政策学部，国際学部，農学部，理工学部，心理学部，情報学部及び環境サステナビリティ学部の教育課程における授業科

目は，専攻科目と教養教育科目とし，学修方法によりそれぞれ必修科目，選択必修科目，選択科目に区分する。

２　前項に規定するほか，経済学部，経営学部，法学部，社会学部及び政策学部の教育課程に，専攻科目として学部共通コース科目を置く。

３　前２項に規定するほか，各学部において，教育上必要があるときは寄付講座科目等を設けることができる。

４　第54条に規定する外国人留学生のために，前３項に規定する授業科目の他に，日本語科目を置く。

第25条の２　授業は，講義，演習，実験，実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

２　前項の授業は，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　第34条の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち，前項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

第26条　各授業科目の単位数を定めるにあたっては，１単位の授業科目につき45時間の学修を必要とする内容をもつものとして構成し，次の基準によって計算する。

(1)　講義及び演習については，15時間から30時間までの範囲で教授会が定める時間の授業をもって１単位とする。

(2)　実験，実習及び実技については，30時間から45時間までの範囲で教授会が定める時間の授業をもって１単位とする。

(3)　１つの授業科目について，講義，演習，実験，実習又は実技のうち２以上の方法の併用により行う場合については，その組み合わせに応じ，前２号に規定する基準を考慮して教授会が定める時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず，卒業論文，卒業研究，特別研究等の授業科目については，これらの学修の成果を評価して単位を認定することが適切と教授会が認める場合には，これらに必要な学修等を考慮して，単位数を定めることができる。

第26条の２　各授業科目の授業は，原則として15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし，教育上必要があり，かつ，十分な教育効果をあげることができると教授会が認める場合は，この限りでない。

第27条　授業科目を履修し，その試験に合格した者には所定の単位を与える。

第28条　試験は100点を満点とし，60点以上を合格とする。

第29条　本学において教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を修得しなければならない。

２　本学各学部において取得できる教育職員免許状の種類は，次のとおりとする。

学部	学科・課程	教科	免許状の種類
文学部	仏教学科	宗教	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	哲学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
	歴史学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
	日本語日本文学科	国語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	英語英米文学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
経営学部	経営学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
		商業	
	商学科	商業	
法学部	法律学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
社会学部	総合社会学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
政策学部	政策学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
国際学部	国際文化学科	英語	中学校教諭一種免許状

			高等学校教諭一種免許状
	グローバルスタディーズ学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
農学部	生命科学科	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		農業	高等学校教諭一種免許状
	農学科	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		農業	高等学校教諭一種免許状
	食品栄養学科	栄養教諭一種免許状	
	食料農業システム学科	農業	高等学校教諭一種免許状
理工学部	数理・情報科学課程	数学	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		情報	高等学校教諭一種免許状
	電子情報通信課程	工業	高等学校教諭一種免許状
	機械工学･ロボティクス課程	工業	高等学校教諭一種免許状
	応用化学課程	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
心理学部	心理学科	公民	高等学校教諭一種免許状
情報学部	情報学科	情報	高等学校教諭一種免許状
環境サステナビリティ学部	環境サステナビリティ学科	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状

第29条の２　削除

第２節　開設科目

第30条　本学各学部で開設する授業科目及び単位数は，別表１のとおりとする。

第30条の２　経済学部，経営学部，法学部，社会学部及び政策学部において，学部共通コース科目として開設する授業科目及び単位数は，別表２のとおりとする。

第31条　本学において，日本語及び日本事情に関する科目として開設する授業科目及び単位数は，別表３のとおりとする。

第32条　本学において，教育職員免許状取得に関する科目として開設する授業科目は，別

表４のとおりとする。

２　削除

第33条　文学部，国際学部，農学部及び環境サステナビリティ学部において，博物館学芸員資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表６のとおりとする。

第33条の２　本学において，本願寺派教師資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表７のとおりとする。

第33条の３　削除

第33条の４　削除

第33条の５　削除

第33条の６　本学において，図書館司書資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表10のとおりとする。

第33条の７　本学において，学校図書館司書教諭資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表11のとおりとする。

第33条の８　農学部食品栄養学科において，栄養士資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表12のとおりとする。

第33条の９　農学部食品栄養学科において，管理栄養士受験資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表13のとおりとする。

第33条の10　農学部食品栄養学科において，食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表14のとおりとする。

第33条の11　社会学部総合社会学科において，社会福祉士受験資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表15のとおりとする。

第33条の12　社会学部総合社会学科において，精神保健福祉士受験資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表16のとおりとする。

第33条の13　心理学部において，公認心理師受験資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表17のとおりとする。

第３節　履修方法

第34条　本学各学部において，卒業の認定を受けるために必要な単位数は以下のとおりとする。

(1)　文学部

仏教学科　124単位以上

哲学科　124単位以上

歴史学科　124単位以上

日本語日本文学科　124単位以上

英語英米文学科　124単位以上

(2)　経済学部

経済学科　124単位以上

(3)　経営学部

経営学科　125単位以上

商学科　125単位以上

(4)　法学部

法律学科　124単位以上

(5)　社会学部

総合社会学科　124単位以上

(6)　政策学部

政策学科　124単位以上

(7)　国際学部

国際文化学科　124単位以上

グローバルスタディーズ学科　124単位以上

(8)　農学部

生命科学科　124単位以上

農学科　124単位以上

食品栄養学科　124単位以上

食料農業システム学科　124単位以上

(9)　理工学部

数理・情報科学課程　124単位以上

電子情報通信課程　124単位以上

機械工学・ロボティクス課程　124単位以上

応用化学課程　124単位以上

(10)　心理学部

心理学科　124単位以上

(11)　情報学部

情報学科　124単位以上

(12)　環境サステナビリティ学部

環境サステナビリティ学科　124単位以上

２　授業科目等の学修にあたっては,各学部教授会が定める教育課程に従い,履修すること。

３　履修しようとする授業科目については必ず履修登録をしなければならない。

４　国際学部グローバルスタディーズ学科については,本条第１項第７号に定める単位数に加え，別に定める英語運用能力測定テストの基準スコアを取得しなければならない。

第35条　開設科目について，学生の専攻との関係で，教授会が教育上有益であると認めるときは，当該授業科目の区分以外の区分に係る授業科目として履修させることがある。

第36条　教授会が教育上有益と認めるときは，他学部専攻科目を，当該学部専攻科目として履修させることができる。

２　教授会が必要と認めるときは,前項の規定とは別に他の学科･課程･専攻の専攻科目を,当該学科・課程・専攻の専攻科目として履修させることができる。

第37条　教授会が教育上有益と認めるときは，学生に他大学の授業を履修させることができる。

２　前項の規定により履修した授業科目について修得した単位については,教授会の議に基づき，第38条第２項の規定により認定した単位数と合わせて60単位を限度として認定する。

３　前項の規定は，第19条の２により学生が外国の大学等に留学する場合に準用する。

第38条　教授会が教育上有益と認めるときは，学生が入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）を本学において修得したものとして認定することができる。

２　前項の単位認定は，編入学の場合を除き，前条第１項及び第３項により認定した単位と合わせて60単位を限度として認定する。

３　前２項の既修得単位の取扱いについては，別に定める。

第39条　第13条の規定により編入学した者が，編入学の条件となった学校において修得した単位は，本学において修得したものとして認定することができる。

２　前項の規定において，認定すべき授業科目，単位数等必要な事項はそのつど教授会が個別に定める。

第40条　本節に規定するほか授業科目の配当年次等，履修すべき科目等履修に必要な事項は，各学部履修要項で定める。

第41条　削除

第42条　削除

第43条　削除

第44条　削除

第45条　削除

第46条　削除

第47条　削除

第48条　削除

第49条　削除

第50条　削除

第51条　削除

第52条　削除

第53条　削除

第４章　外国人留学生・科目等履修生等

第54条　外国人で，大学において教育を受ける目的をもって入国し，本学に入学を志願する者があるときは，選考のうえ，外国人留学生として入学を許可することができる。

第55条　削除

第56条　本学以外の機関等の長で，その職員等を本学に派遣して特定の事項について研修又は研究させることを希望する者のある時は,受託研修員又は受託研究員として入学を許可することがある。

第56条の２　本学において，特定の事項について研究することを志願する者があるときは,学術研究生として入学を許可することがある。

第57条　削除

第58条　削除

第58条の２　一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは，科目等履修生として履修を許可することがある。

２　科目等履修生に対し，学則第27条の規定を準用し単位を認定する。

第59条　他の大学の学生で，本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは,当該他大学との協議に基づき,科目等特別履修生として履修を許可することがある。

第60条　外国人留学生，受託研修員，受託研究員，学術研究生，科目等履修生及び科目等特別履修生については，別に定める。

第５章　公開講座

第61条　教授会で必要と認めたときは公開講座を開設する。ただし，公開講座規程は別にこれを定める。

第６章　職員組織

第62条　本学に学長，事務局長，副学長，学部長及び総務局長を置く。

２　学長は，校務をつかさどり，所属職員を統督する。

第62条の２　本学に専任の教育職員（教授，准教授，講師，助教及び助手），事務職員（事務員，医務員，技能員，守衛及び用務員）及び学医を置く。

２　事務組織に関する規程は別に定める。

第７章　教授会・評議会・事務協議機関

第63条　教授会は各学部に置き，専任の教授，准教授，講師，助教，助手をもって組織する。ただし，教授会の議により構成員を変更することができる。

第64条　教授会は次の各号を審議決定する。ただし，全学的に決定を要する事項を除く。

(1)　学生の入学，卒業及び課程の修了

(2)　学位の授与

(3)　前２号に掲げるもののほか，教育研究に関する重要な事項で，教授会の審議決定が必要なものとして学長が定めるもの

２　前項第３号に基づく事項は，次のとおりとする。

(1)　教育職員の人事に関する事項

(2)　学部長及び評議員の選考に関する事項

(3)　研究及び教授に関する事項

(4)　教育課程の編成，履修の方法及び試験に関する事項

(5)　学業評価に関する事項

(6)　学生の退学，休学，復学及び留学に関する事項

(7)　学生の補導厚生に関する事項

(8)　学部内諸規程の制定改廃に関する事項

(9)　学位称号に関する事項

(10)　その他学部における重要な事項

３　教授会は，前２項に規定するもののほか，学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項並びに学長から諮問された事項について，審議決定することができる。

第65条　評議会は，学長，事務局長，副学長，総務局長，学部長，学長室長，各学部の教授会から選出された者各２名及び事務職員の中から選出された者10名をもって構成する。

第66条　前条に規定する役職者以外の評議員の任期は２年とする。ただし，重任を妨げない。

第67条　評議会は，次の各号の事項を審議決定する。

(1)　学則（教育・研究にかかる事項）の変更に関する事項

(2)　大学の規則及び規程の制定改廃に関する事項

(3)　名誉教授の承認に関する事項

(4)　その他部局長会が審議を必要と判断した事項

第68条　評議会は，次の各号について，理事会の審議に先立ち，部局長会からの求めに基づき，意見交換や情報共有を行い，課題解決等のために協議を行うこととする。

(1)　学則（教育・研究にかかる事項を除く。）の変更に関する事項

(2)　予算・決算に関する事項

(3)　学部，学科，課程その他重要な施設の設置廃止に関する事項

(4)　その他部局長会が協議を必要と判断した事項

２　部局長会は，評議会において協議された内容及び主たる意見等を整理し，その取扱いを確認した上で，速やかに常任理事会に報告しなければならない。

第69条　事務協議機関は，事務遂行に必要な事項について協議する。

第８章　付属施設

第70条　本学に次の付属施設を置く。

(1)　図書館

(2)　世界仏教文化研究センター

(3)　社会科学研究所，科学技術共同研究センター，国際社会文化研究所，食と農の総合研究所

(4)　人間・科学・宗教総合研究センター

(5)　イノベーション推進センター

(6)　価値創造推進センター

(7)　龍谷ミュージアム

(8)　診療所

２　前項付属施設に関する規程は別に定める。

付　則

第71条　省略

付　則（昭和50年９月26日第４条改正）

この学則は，昭和51年度の入学生から適用する。

付　則（昭和51年２月23日第19条，第20条改正）

この学則は，昭和51年２月23日から施行する。

付　則（昭和51年３月24日第22条改正）

この学則は，昭和51年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和49年度以前の入学者及び昭和50年度並びに昭和51年度の編入学者，転入学者には適用しない。

付　則（昭和51年３月９日第10条，第22条，第30条，第31条改正，第19条の２，第54条新設）

この学則は，昭和52年４月１日から施行する。

付　則（昭和53年３月24日第22条改正）

この学則は，昭和53年４月１日から施行する。

付　則（昭和54年２月９日第２節，第13条，第22条，第26条，第30条，第33条，第34条，第37条，第38条，第41条，第42条，第65条，第68条改正）

第１条　この学則は，昭和54年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和54年度以降の入学者から適用する。

付　則（昭和55年４月１日第12条，第３節，第21条，第22条，第26条の２改正）

第１条　この学則は，昭和55年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和49年度以前の入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和56年４月１日第12条，第18条，第22条，第37条，第41条改正，第18条の２新設）

第１条　この学則は，昭和56年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和49年度以前の入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和57年４月１日第16条，第22条，第29条，第33条，第34条，第37条，第41条，第42条改正）

第１条　この学則は，昭和57年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定中昭和49年度以前入学者の授業料及び昭和56年度以前入学者の施設費については，なお従前の規定を適用する。

２　第33条，第34条，第41条及び第42条の改正規定は，昭和56年度以前の入学者については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和58年４月１日第４条，第18条，第22条，第22条の３，第27条，第30条，第33条，第34条，第37条，第38条，第41条，第42条改正，第27条の２新設）

この学則は，昭和58年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和49年度以前入学生については，なお従前の規定を適用し，第30条第１項第３号及び第４号（宗教教育学，教育方法学を除く。），第33条第１項第３号，第34条第３号，第37条第１項第３号及び第４号，第38条第３号，第41条第１項第３号，第42条第３号の改正規定は，昭和57年度以前入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和59年４月１日第18条，第22条，第30条，第33条，第34条改正）

この学則は，昭和59年４月１日から施行する。ただし，第30条第１項第４号，同号オの（ア），第33条第１項第４号，第34条第４号の改正規定は，昭和58年度以前入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和60年４月１日第２条，第22条第１項，第41条第１項第４号，第42条第４号，第57条，第59条，第60条，第65条，第68条改正，第54条第２項追加）

第１条　この学則は，昭和60年４月１日から施行する。ただし，第２条第２項は，留学生別科設置認可の日（昭和59年12月20日）から適用する。

第２条　第41条第１項第４号及び第42条第４号の改正規定は，昭和58年度以後の入学者から適用する。

付　則（昭和60年６月27日第21条，第30条，第31条，第33条，第34条，第35条，第37条，第38条，第39条，第41条，第42条及び第43条改正）

第１条　この学則の第21条は，昭和60年６月27日から施行する。

第２条　この学則の第30条第１項第１号，第31条，第33条第１項第１号，第34条第１号，第35条，第37条第１項第１号，第38条第１号，第39条，第41条第１項第１号，第42条第１号及び第43条は，昭和61年４月１日より施行する。ただし，昭和60年度以前の入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和61年３月26日第22条，第30条，第33条，第34条，第37条，第38条，第41条，第42条，第65条及び第68条改正）

第１条　この学則は，昭和61年４月１日から施行する。

第２条　第４条の規定にかかわらず昭和61年度から昭和74年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
文学部	仏教学科	真宗学専攻	90人
		仏教学〃	90
	哲学科	哲学〃	50

		教育学〃	50
	史学科	国史学〃	50
		東洋史学〃	50
		仏教史学〃	50
	文学科	国文学〃	50
		英文学〃	50
	社会学科	社会学〃	60
		社会福祉学〃	60
	小計		650
経済学部経済学科			500
経営学部経営学科			500
法学部法律学科			500
合計			2,150

2　前項の規定については，前条の規定にかかわらず期間付入学定員関係学則の変更が，文部大臣により認可された日（昭和60年12月25日）から施行する。

第３条　第30条第１項第３号，第33条第１項第３号，第34条第１項，第34条第３号，第37条第１項第３号第４号，第38条第１項，第38条第３号，第41条第１項第３号，第42条第１項及び第42条第３号の改正規定は，昭和61年度入学生から適用する。

付　則（昭和61年７月31日第22条第１項改正）

第１条　この学則は，昭和61年７月31日から施行し，昭和62年度入学生から適用する。

第２条　昭和61年度以前の入学者については，なお従前の規定による。ただし，昭和62年度以降の授業料については，この改正規定を適用する。

付　則（昭和63年４月１日全部改正）

1　この学則は，昭和63年４月１日から施行する。

2　昭和62年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が決めるところにより，この学則に定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（抄）（平成元年４月１日第２条，第４条，第７条，第２章第３節，第22条，第３章，第29条，第31条～第34条，第４章，第56条，第60条，第62条，第63条，第70条，別表１～別表３，別表５～別表８，別表11改正，別表９，別表10新設）

1　この学則は，平成元年４月１日から施行する。

2　昭和63年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が決めるところにより，この学則に定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第４条の規定にかかわらず平成元年度から平成11年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
文学部	仏教学科	真宗学専攻	90名
		仏教学〃	90名
	哲学科	哲学〃	50名
		教育学〃	50名
	史学科	国史学〃	50名
		東洋史学〃	50名
		仏教史学〃	50名
	文学科	国文学〃	50名
		英文学〃	50名
	小計		530名
経済学部		経済学科	470名
経営学部		経営学科	470名
法学部		法律学科	480名
理工学部		数理情報学科	100名
		電子情報学科	80名
		機械システム工学科	80名
		物質化学科	80名
		小計	340名
社会学部		社会学科	120名
		社会福祉学科	80名
		小計	200名
合計			2,490名

付　則（平成２年３月27日第22条第１項，第29条，第32条，別表５～別表８，別表11改正，第29条の２，別表13新設）

1　この学則は，平成２年４月１日から施行する。

付　則（平成３年３月25日第22条，第29条第２項，別表１―１，別表２―１，別表３―１，別表４，別表５～別表８，別表10～別表11，別表13改正）

1　この学則は，平成３年４月１日から施行する。

2　平成２年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が決めるところにより，この学則に定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第４条の規定にかかわらず平成３年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
文学部	仏教学科	真宗学専攻	120名
		仏教学〃	120名
	哲学科	哲学〃	90名
		教育学〃	90名
	史学科	国史学〃	80名
		東洋史学〃	80名
		仏教史学〃	80名
	文学科	国文学〃	100名
		英文学〃	100名
	小計		860名
経済学部		経済学科	600名
経営学部		経営学科	600名
法学部		法律学科	600名
理工学部		数理情報学科	115名
		電子情報学科	90名
		機械システム工学科	90名
		物質化学科	90名
		小計	385名
社会学部		社会学科	220名
		社会福祉学科	120名

	小計	340名
合計		3,385名

付　則（平成４年３月21日第２条第１項，第４条，第６条第１項，第６条第２項，第22条，第29条第２項，第34条第１項第１号，第65条，第70条第１項，別表４～別表８改正，第１条の２新設，第７条削除）

１　この学則は，平成４年４月１日から施行する。ただし，第６条第２項については，平成３年７月１日から施行する。

２　平成３年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が決めるところにより，この学則に定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第６条第２項の規定は，学校教育法第68条の２第１項の改正により平成３年度以前の卒業生についても適用する。

４　第４条の規定にかかわらず平成４年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
文学部	真宗学科		120名
	仏教学科		120名
	哲学科	哲学専攻	90名
		教育学専攻	90名
	史学科	国史学専攻	80名
		東洋史学専攻	80名
		仏教史学専攻	80名
	日本語日本文学科		100名
	英語英米文学科		100名
	小計		860名
経済学部		経済学科	600名
経営学部		経営学科	600名
法学部		法律学科	450名
		政治学科	150名
		小計	600名

理工学部	数理情報学科	115名
	電子情報学科	90名
	機械システム工学科	90名
	物質化学科	90名
	小計	385名
社会学部	社会学科	220名
	社会福祉学科	120名
	小計	340名
合計		3,385名

付　則（平成４年５月25日第21条改正）

この学則は，平成４年５月25日から施行する。

付　則（平成５年３月25日第４条，第９条，第10条第２項，第21条，第22条，第25条第１項，第25条第２項，第26条，第26条の２，第30条～第36条，第38条第２項，第４章，第59条，第60条，別表１―１～別表13改正，第58条の２新設，第34条第３項追加）

１　この学則は，平成５年４月１日から施行する。

２　平成４年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成６年３月24日第22条第１項，第22条の３，第60条，第62条，第７章，第65条，第67条，第69条，別表１～別表８改正，第33条の２，第62条の２，別表11新設，第58条削除）

１　この学則は，平成６年４月１日から施行する。

２　第62条及び第65条の副学長に関する規定は，学校法人龍谷大学寄附行為の変更が文部大臣により認可された日（平成６年５月12日）から施行する。

３　平成５年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成７年３月27日第22条第１項，第22条の３，第25条第３項，第31条，別表１～別表７改正）

１　この学則は，平成７年４月１日から施行する。

2　平成６年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成８年３月25日第２条第１項，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第30条～第33条の２，第34条第１項第１号及び同項第４号，第65条，別表１～別表５改正，別表７，別表８，別表11繰下・改正，別表９，別表10繰下，別表７新設，第34条第１項第７号追加）

1　この学則は，平成８年４月１日から施行する。

2　平成７年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第４条の規定にかかわらず平成８年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

	学部・学科等		入学定員
文学部	真宗学科		111名
	仏教学科		111名
	哲学科	哲学専攻	87名
		教育学専攻	87名
	史学科	国史学専攻	77名
		東洋史学専攻	77名
		仏教史学専攻	77名
	日本語日本文学科		96名
	英語英米文学科		97名
	小計		820名
経済学部		経済学科	560名
経営学部		経営学科	560名
法学部		法律学科	425名
		政治学科	135名
		小計	560名
理工学部		数理情報学科	115名

	電子情報学科	90名
	機械システム工学科	90名
	物質化学科	90名
	小計	385名
社会学部	社会学科	220名
	社会福祉学科	120名
	小計	340名
国際文化学部	国際文化学科	360名
合計		3,585名

付　則（平成９年３月25日第４条，第17条第１項，第22条第１項，第29条第２項，第33条，第34条第１項第１号～第３号，別表１～別表４，別表９，別表11，別表12改正，第２条の２，第36条の２新設，第68条削除）

１　この学則は，平成９年４月１日から施行する。

２　平成８年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第４条の規定にかかわらず平成９年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科・専攻			入学定員	編入学定員	入学定員
			昼間・昼間主コース		夜間主コース
文学部	真宗学科		111名		60名
	仏教学科		111名		60名
	哲学科	哲学専攻	87名		15名
		教育学専攻	87名		15名
	史学科	国史学専攻	77名		15名
		東洋史学専攻	77名		15名
		仏教史学専攻	77名		15名
	日本語日本文学科		96名		20名
	英語英米文学科		97名		20名
	小計		820名		235名

経済学部		経済学科	560名		100名
経営学部		経営学科	560名		100名
法学部	法律学科		425名		
	政治学科		135名		
	小計		560名		
理工学部	数理情報学科		115名		
	電子情報学科		90名		
	機械システム工学科		90名		
	物質化学科		90名		
	小計		385名		
社会学部	社会学科		220名		
	社会福祉学科		120名		
	小計		340名		
国際文化学部		国際文化学科	360名	50名	
合計			3,585名	50名	435名

付　則（平成10年３月26日第２条第１項，第４条，第22条第１項，第29条第２項，第34条第１項第６号，別表５，別表６，別表９，別表10改正）

１　この学則は平成10年４月１日から施行する。

２　平成９年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第４条の規定にかかわらず平成10年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科・専攻			入学定員	編入学定員	入学定員
			昼間・昼間主コース		夜間主コース
文学部	真宗学科		111名		60名
	仏教学科		111名		60名
	哲学科	哲学専攻	87名		15名
		教育学専攻	87名		15名
	史学	国史学専攻	77名		15名

	科	東洋史学専攻	77名		15名
		仏教史学専攻	77名		15名
	日本語日本文学科		96名		20名
	英語英米文学科		97名		20名
	小計		820名		235名
経済学部		経済学科	560名		100名
経営学部		経営学科	560名		100名
法学部		法律学科	425名		
		政治学科	135名		
		小計	560名		
理工学部	数理情報学科		115名		
	電子情報学科		90名		
	機械システム工学科		90名		
	物質化学科		90名		
	小計		385名		
社会学部	社会学科		220名	30名	
	地域福祉学科		140名	30名	
	臨床福祉学科		130名	30名	
	小計		490名	90名	
国際文化学部		国際文化学科	360名	50名	
計			3,735名	140名	435名

付　則（平成11年３月25日第22条第１項，別表２，別表４，別表５改正，第33条の３，別表13新設）

１　この学則は平成11年４月１日から施行する。

２　平成10年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成12年３月23日第６条第１項，第22条第１項，第34条第１項第６号，第37条第１項，第37条第２項，第38条第２項，別表３～別表７，別表９，別表10改正）

１　この学則は，平成12年４月１日から施行する。

２　平成11年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するとき

は，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第６条の改正規定は，短期大学，高等専門学校及び専修学校専門課程からの編入学者には適用しない。また，再入学者及び転入学者で，平成12年３月31日以前の期間が，本学の修業年限に通算される者には適用しない。

4　第37条第２項及び第38条第２項の改正規定は，教授会が認めた場合に限って，平成11年度以前の入学生に対しても適用できるものとする。

5　第４条の規定にかかわらず平成12年度から平成16年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科・専攻			昼間・昼間主コース						夜間主コース
			入学定員					編入学定員	入学定員
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度		
文学部	真宗学科		111名	91名	91名	91名	91名		60名
	仏教学科		111名	91名	91名	91名	91名		60名
	哲学科	哲学専攻	87名	72名	72名	57名	57名		15名
		教育学専攻	87名	72名	72名	57名	57名		15名
	史学科	国史学専攻	77名	62名	62名	52名	52名		15名
		東洋史学専攻	77名	62名	62名	52名	52名		15名
		仏教史学専攻	77名	62名	62名	52名	52名		15名
	日本語日本文学科		96名	86名	86名	61名	61名		20名
	英語英米文学科		97名	87名	87名	62名	62名		20名
	小計		820名	685名	685名	575名	575名		235名
経済学部		経済学科	500名	500名	445名	445名	445名		100名
経営学部		経営学科	500名	500名	445名	445名	445名		100名
法学部		法律学科	380名	380名	340名	340名	340名		
		政治学科	120名	120名	110名	110名	110名		
		小計	500名	500名	450名	450名	450名		
理工	数理情報学科		115名	115名	115名	115名	107名		
	電子情報学科		90名	90名	90名	90名	85名		

学部	機械システム工学科	90名	90名	90名	90名	85名		
	物質化学科	90名	90名	90名	90名	85名		
	小計	385名	385名	385名	385名	362名		
社会学部	社会学科	220名	220名	220名	220名	155名	30名	
	地域福祉学科	140名	140名	140名	140名	120名	30名	
	臨床福祉学科	130名	130名	130名	130名	115名	30名	
	小計	490名	490名	490名	490名	390名	90名	
国際文化学部	国際文化学科	360名	360名	360名	360名	360名	50名	
合計		3,555名	3,420名	3,260名	3,150名	3,027名	140名	435名

付　則（平成13年３月23日第２条の２第１項及び同条第２項，第４条，第12条第３号～第６号，第13条第１項及び同条第２項，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第34条第１項第３号，第36条第１項及び同条第２項，第36条の２，第70条第１項第１号，別表１～別表７，別表９，別表10，別表12改正，第33条の４，別表14新設，第13条第３項追加）

１　この学則は，平成13年４月１日から施行する。

２　平成12年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　経営学部夜間主コース在学生の学費については，第22条夜間主コースを適用する。

４　第29条第２項の理工学部数理情報学科，電子情報学科の高等学校一種免許状「情報」については，平成12年度入学生から適用する。

５　第４条の規定にかかわらず平成13年度から平成16年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科・専攻		昼間・昼間主コース					夜間主コース
		入学定員				編入学定員	入学定員
		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度		
文学	真宗学科	91名	91名	91名	91名		60名
	仏教学科	91名	91名	91名	91名		60名

部	哲学科	哲学専攻	72名	57名	57名	57名		15名
		教育学専攻	72名	57名	57名	57名		15名
	史学科	国史学専攻	62名	52名	52名	52名		15名
		東洋史学専攻	62名	52名	52名	52名		15名
		仏教史学専攻	62名	52名	52名	52名		15名
	日本語日本文学科		86名	61名	61名	61名		20名
	英語英米文学科		87名	62名	62名	62名		20名
	小計		685名	575名	575名	575名		235名
経済学部		経済学科	445名	445名	445名	445名		100名
経営学部		経営学科	445名	445名	445名	445名		
法学部		法律学科	340名	340名	340名	340名		
		政治学科	110名	110名	110名	110名		
		小計	450名	450名	450名	450名		
理工学部	数理情報学科		115名	115名	115名	107名		
	電子情報学科		90名	90名	90名	85名		
	機械システム工学科		90名	90名	90名	85名		
	物質化学科		90名	90名	90名	85名		
	小計		385名	385名	385名	362名		
社会学部	社会学科		220名	220名	220名	155名	30名	
	地域福祉学科		140名	140名	140名	120名	30名	
	臨床福祉学科		130名	130名	130名	115名	30名	
	小計		490名	490名	490名	390名	90名	
国際文化学部		国際文化学科	360名	360名	360名	360名	50名	
合計			3,260名	3,150名	3,150名	3,027名	140名	335名

付　則（平成14年３月25日第22条第１項，第25条第１項，第38条第１項及び同条第２項，第70条第１項第４号及び同条同項第５号，別表１，別表３～別表７，別表９改正，第70条第１項第３号追加，第33条の３，別表13削除）

１　この学則は，平成14年４月１日から施行する。ただし，第70条第１項の改正規定は，

人間・科学・宗教総合研究センター規程の施行日（平成13年９月27日）から適用する。

２　平成13年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　文学部夜間主コース生（平成13年度以前の入学者）及び経営学部夜間主コース在学生の学費については，第22条夜間主コース（経済学部）を適用する。

４　別表５（第30条関係）(2)の改正規定については，平成13年度入学生から適用する。

５　別表９（第32条関係）(5)の改正規定については，平成13年度入学生から適用する。

６　前項の規定にかかわらず平成14年４月１日現在理工学部に在籍する者が旧教育職員免許法によって教育職員免許状を取得する場合は，以下の表を適用する。

	授業科目	単位数
教職に関する科目	教育原論	4
	発達と教育	4
	教育制度論	2
	教育情報技術演習	1
	教育情報処理基礎講座	1
	数学科教育法	4
	工業科教育法	4
	理科教育法	4
	道徳教育の研究	2
	教育指導論Ⅰ	2
	教育指導論Ⅱ	2
	教育実践研究Ⅰ	1
	教育実践研究Ⅱ	2
	教育実践研究Ⅲ	2
	教育社会学	4
	同和教育論	2
教科に関する科目	職業指導	4

付　則（平成15年３月26日第２条第１項，第２条の２第１項及び同条第２項，第４条，第22条第１項及び同条第３項，第25条第１項，第29条第２項，第34条第１項第

２号，同条同項第４号及び同条同項第５号，第36条の２，別表２～別表７，別表９，別表12改正，第33条の５，別表15新設，第22条第２項追加）

１　この学則は，平成15年４月１日から施行する。

２　平成14年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　経済学部夜間主コース及び経営学部夜間主コースについては，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

４　第22条の規定にかかわらず，平成14年度以前入学生の学費については，次のとおりとする。ただし，文学部社会人特別コース入学試験による入学生については，この限りではない。

①昼間・昼間主コース生

文学部夜間主コース生（平成14年度の入学者）

（単位：円）

	文学部 経済学部 経営学部 法学部 国際文化学部	理工学部	社会学部
入学金	200,000	200,000	200,000
授業料	731,000	949,000	731,000
実験実習料	―	143,600	35,900
施設費	200,000	280,000	200,000

②文学部夜間主コース生（平成13年度以前の入学者）

経済学部・経営学部の夜間主コース在学生

（単位：円）

入学金	50,000
授業料	657,000
施設費	180,000

５　第22条の規定にかかわらず，第２年次，第３年次又は第４年次に入学（編入学，転入学，再入学）する場合は，前項の規定を適用する。ただし，文学部夜間主コース（文学部社会人特別コース入学試験による入学生は除く）については，第２年次の場合は前項第１

号を，第３年次，第４年次の場合は前項第２号を適用させる。

６　第34条第１項第４号の改正規定については，平成13年度入学生から適用させる。

７　第４条の規定にかかわらず平成15年度から平成16年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科・専攻			昼間・昼間主コース			夜間主コース
			入学定員		編入学定員	
			平成15年度	平成16年度		入学定員
文学部	真宗学科		91名	91名		60名
	仏教学科		91名	91名		60名
	哲学科	哲学専攻	57名	57名		15名
		教育学専攻	57名	57名		15名
	史学科	国史学専攻	52名	52名		15名
		東洋史学専攻	52名	52名		15名
		仏教史学専攻	52名	52名		15名
	日本語日本文学科		61名	61名		20名
	英語英米文学科		62名	62名		20名
	小計		575名	575名		235名
経済学部		経済学科	445名	445名		
経営学部		経営学科	445名	445名		
法学部		法律学科	340名	340名		
		政治学科	110名	110名		
		小計	450名	450名		
理工学部	数理情報学科		100名	100名		
	電子情報学科		80名	80名		
	機械システム工学科		80名	80名		
	物質化学科		80名	80名		
	情報メディア学科		80名	80名		
	環境ソリューション工学科		80名	80名		
	小計		500名	500名		

社	社会学科		220名	155名	30名	
会	地域福祉学科		140名	120名	30名	
学	臨床福祉学科		130名	115名	30名	
部	小計		490名	390名	90名	
国際文化学部		国際文化学科	360名	360名	50名	
合計			3,265名	3,165名	140名	235名

付　則（平成16年３月12日第２条第１項，第４条，第12条第１号，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第34条第１項第６号，別表１～別表７，別表９改正）

1　この学則は平成16年４月１日から施行する。

2　平成15年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第22条の規定にかかわらず，平成14年度以前入学生の学費については，次のとおりとする。ただし，文学部社会人特別コース入学試験による入学生については，この限りではない。

①　昼間・昼間主コース生

文学部夜間主コース生（平成14年度の入学者）

（単位：円）

	文学部 経済学部 経営学部 法学部 国際文化学部	理工学部	社会学部
入学金	200,000	200,000	200,000
授業料	731,000	949,000	731,000
実験実習料	―	143,600	35,900
施設費	200,000	280,000	200,000

②　文学部夜間主コース生（平成13年度以前の入学者）

経済学部・経営学部の夜間主コース在学生

（単位：円）

入学金	50,000

授業料	657,000
施設費	180,000

4　第22条の規定にかかわらず，第３年次又は第４年次に入学（編入学，転入学，再入学）する場合は，前項の規定を適用する。ただし，文学部夜間主コース（文学部社会人特別コース入学試験による入学生は除く）については，第３年次の場合は前項第１号を，第４年次の場合は前項第２号を適用する。

5　前項の規定にかかわらず，再入学の場合，本学出身者（短期大学部出身者含む）が本学へ編入学する場合又は本学の学生が転学部，転学科及び転専攻する場合は，入学金全額を免除する。

付　則（平成17年３月25日第22条第２項，第22条の３，第65条，別表１，別表３～別表６，別表９改正）

1　この学則は平成17年４月１日から施行する。

2　平成16年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第22条の規定にかかわらず，平成14年度以前入学生の学費については，次のとおりとする。ただし，文学部社会人特別コース学生については，この限りではない。

①昼間・昼間主コース生

文学部夜間主コース生（平成14年度の入学者）

（単位：円）

	文学部 経済学部 経営学部 法学部 国際文化学部	理工学部	社会学部
授業料	731,000	949,000	731,000
実験実習料	—	143,600	35,900
施設費	200,000	280,000	200,000

②文学部夜間主コース生（平成13年度以前の入学者）

経済学部・経営学部の夜間主コース在学生

（単位：円）

授業料	657,000

施設費	180,000

4　第22条の規定にかかわらず，第４年次に再入学する場合は，前項の規定を運用する。ただし，文学部社会人特別コース学生はこの限りではない。

付　則（平成18年３月27日第２条第１項，第４条，第12条第６号～第８号，第29条第２項，第34条，別表１～別表７，別表９改正，第33条の６及び第33条の７新設，第12条第５号，別表16，別表17追加）

1　この学則は平成18年４月１日から施行する。

2　平成17年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　経済学部経済学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規程を適用する。

付　則（平成18年12月21日第62条の２第１項，第63条改正）

この学則は，平成19年４月１日から施行する。

付　則（平成19年３月27日第４条，第22条第１項及び同条第２項，第４節，第23条，第25条第１項，第29条第１項及び同条第２項，第33条，第33条の４，第34条第１項第１号，別表１～別表７，別表９，別表11，別表12改正，第23条第１号～第３号追加，第２条の２，第24条，第36条の２削除）

1　この学則は平成19年４月１日から施行する。

2　平成18年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　文学部昼間主コース及び夜間主コースについては，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（平成20年３月26日第４条，第25条，別表１～別表７，別表９改正，第２条の２新設，第３条第２項追加，第２条第２項削除）

1　この学則は平成20年４月１日から施行する。

2　平成19年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成21年３月26日第26条第１項第１号及び同条同項第２号，同条第２項，第34条第１項第３号，別表１～別表４，別表６，別表７改正，第26条第１項第３号追加）

1　この学則は平成21年４月１日から施行する。

2　平成20年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第34条第１項第３号の改正規定については，平成20年度入学生から適用する。

付　則（平成22年３月24日第２条の２第１項，第25条第２項及び同条第３項，第30条，第31条～第33条の２，第33条の４～第33条の７，第70条第１項第５号，別表１改正，別表８，別表11，別表12，別表14～17繰上，別表９，別表10繰上・改正，第30条の２，別表２新設，第25条第２項，第70条第１項第５号追加，別表２～別表７，別表13削除）

1　この学則は平成22年４月１日から施行する。

2　平成21年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成22年４月28日第21条改正）

この学則は平成22年５月20日から施行する。

付　則（平成23年３月28日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項及び同条第３項，第22条の３，第25条第１項及び同条第２項，第29条第２項，第30条の２，第34条第１項第４号，第65条，別表１～別表５，別表７改正，第34条第１項第８号追加，第22条第２項削除）

1　この学則は平成23年４月１日から施行する。

2　平成22年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　文学部社会人特別コースについては，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

4　文学部社会人特別コースの在学生の学費等については，次のとおりとする。

（単位：円）

授業料	施設費	休学在籍料
365,500	100,000	100,000

5　法学部政治学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規程を適用する。

付　則（平成24年３月26日第２条，第４条，第29条第２項，第34条第１項第１号，別表１，別表４，別表６，別表８，別表10改正，第29条の２，第32条第２項，別表５削除）

1　この学則は平成24年４月１日から施行する。

2　平成23年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　文学部史学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

4　経済学部については，変更後の規定にかかわらず，平成24年度の教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（平成25年３月25日第22条第１項，別表１，別表２改正）

1　この学則は，平成25年４月１日から施行する。

2　平成24年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第22条中の施設費にかかる改正規定については，平成25年度の編入学生から適用する。

付　則（平成25年５月27日第26条の２改正）

この学則は平成25年５月27日から施行し，平成25年４月１日から適用する。

付　則（平成26年３月28日第６条第１項，第34条第１項第５号，別表１，別表２改正）

1　この学則は平成26年４月１日から施行する。

2　平成25年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成26年３月28日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第33条の４，別表１，別表４，別表７改正，第33条の８，第33条の９，別表12，別表13新設，第34条第９号及び同条第10号追加）

この学則は，平成27年４月１日から施行する。

付　則（平成26年12月15日別表１改正）

この学則は，平成27年４月１日から施行する。

付　則（平成26年12月15日第２条，第４条，第29条第２項，第34条第１項第６号，別表１，別表４改正）

この学則は平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年３月25日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第33条の４，第34条第１項，第64条第１項，第70条第１項，別表１，別表２，別表４，別表７改正，第33条の10，別表14新設，第62条第２項，

第64条第２項及び同条第３項追加）

1　この学則は平成27年４月１日から施行する。

2　平成26年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　国際文化学部については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（平成27年３月25日別表１，別表４改正，第33条の５，別表９削除）

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年３月25日別表１改正）

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年３月25日別表１改正）

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年４月20日第21条改正）

この学則は，制定日（平成27年４月20日）から施行する。

付　則（平成27年４月20日第４条改正）

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年12月10日第４条改正）

この学則は，平成29年４月１日から施行する。

付　則（平成28年３月23日第２条の２，第65条改正，付則（平成27年３月25日）旧第２項繰下，第33条の11，第33条の12，別表15，別表16新設，付則（平成27年３月25日）第２項追加）

1　この学則は，制定日（平成28年３月23日）から施行し，平成27年４月１日から適用する。

2　第33条の11の改正規定については，平成21年度以降の入学生及び編入学生から適用する。

3　第33条の12の改正規定については，平成24年度以降の入学生及び編入学生から適用する。

付　則（平成28年３月23日第２条，第２条の２，第４条，第２章第３節，第22条第１項，第22条の４，第29条第２項，第33条の11，第33条の12，第34条第１項第６号，別表１，別表４，別表15，別表16改正）

1　この学則は，平成28年４月１日から施行する。

2　平成27年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　平成27年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成29年３月22日第65条，別表１，別表２改正）

1　この学則は，平成29年４月１日から施行する。

2　平成28年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　平成28年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成30年３月22日第22条第２項，第25条第１項，第70条第１項第３号，別表１，別表２，別表４改正，第33条の13，別表17新設）

1　この学則は，平成30年４月１日から施行する。

2　平成29年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　平成29年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成30年３月22日第29条第２項，別表４改正）

この学則は平成31年４月１日から施行する。

付　則（平成30年12月20日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第33条の４，第34条第１項，第36条第１項及び同条第２項，第67条第１項第３号，別表１，別表４，別表７改正）

1　この学則は，平成32年４月１日から施行する。

2　理工学部数理情報学科，電子情報学科，機械システム工学科，物質化学科，情報メディア学科，環境ソリューション工学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（平成31年３月20日別表１，別表２，別表14改正，第34条第４項追加）

1　この学則は，平成31年４月１日から施行する。ただし，別表１政策学部開設科目（第30条関係）第１号中，特別講座に係る改正規定は，平成23年度入学生から適用する。

2　平成30年度以前の入学生については，前項ただし書きを除き，なお従前の規定による。

3　平成30年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成31年３月20日別表４改正）

この学則は平成31年４月１日から施行する。

付　則（平成31年３月20日第22条第１項改正）

1　この学則は，平成31年４月１日から施行する。

2　平成30年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

付　則（平成31年３月20日第４条改正）

この学則は，平成32年４月１日から施行する。

付　則（平成31年３月20日別表１，別表４改正，第13条の２新設）

この学則は，平成32年４月１日から施行する。

付　則（令和元年５月23日第４条改正）

この学則は，令和２年４月１日から施行する。

付　則（令和元年７月26日第22条第１項改正）

この学則は，令和２年４月１日から施行し，令和２年度入学生から適用する。

付　則（令和２年３月19日第２条の２，第29条第２項，第33条，別表１，別表２，別表４，別表６，別表15，別表16改正，第33条の14，別表18新設，別表５削除）

1　この学則は，令和２年４月１日から施行する。

2　令和元年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和元年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和３年３月16日別表１，別表２，別表７，別表15，別表16改正，第25条の２新設）

1　この学則は，令和３年４月１日から施行する。

2　令和２年度以前の入学生については，第25条の２の改正規定を除き，なお従前の規定による。

3　令和２年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和３年３月16日第４条改正）

この学則は，令和４年４月１日から施行する。

付　則（令和３年12月20日第33条，別表１改正，第33条の４，別表８削除）

1　この学則は，令和４年４月１日から施行する。

2　令和３年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和３年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和４年３月15日第29条第２項，第34条第４項，別表１，別表２，別表４改正，第18条の４新設，第13条の２削除）

1　この学則は，令和４年４月１日から施行する。

2　令和３年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和３年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和４年３月15日第２条，第４条，第22条第１項，第29条第２項，第34条第１項第８号，別表１改正）

1　この学則は，令和５年４月１日から施行する。

2　農学部植物生命科学科及び資源生物科学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（令和３年12月20日第２条及び第２条の２，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第33条の13，別表１，別表４，別表７，別表17改正，第34条第１項第10号追加）

1　この学則は，令和５年４月１日から施行する。

2　令和４年度以前の入学生については，なお従前の規程による。

3　文学部臨床心理学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（令和４年７月14日別表１改正）

1　この学則は，制定日（令和４年７月14日）から施行し，令和４年４月１日から適用する。

2　改正規定にかかわらず，令和３年度以前に修得した科目の名称は，なお従前の規定による。

付　則（令和５年３月22日第10条第１項第４号，第22条の３，第65条，別表１，別表２，別表４改正，第10条第１項第５号及び同項第６号，第18条の３削除）

1　この学則は，令和５年４月１日から施行する。

2　令和４年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和４年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和６年３月27日第３節，第22条第１項，第22条の３，別表１，別表２，別表４改正）

1　この学則は，令和６年４月１日から施行する。

2　令和５年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和５年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

4　第22条の３の改正規定は，令和５年度以前の入学生についても適用する。

付　則（令和６年３月27日第２条，第４条，第22条第１項，第25条第２項，第29条第２項，第30条の２，第33条の11及び第33条の12，第34条第１項第３号，同項第５号及び同項第９号，別表１，別表２，別表４，別表７，別表15，別表16改正，第33条の14，別表18削除）

1　この学則は，令和７年４月１日から施行する。

2　令和６年度以前の入学生については，なお従前の規程による。

3　令和６年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

4　社会学部社会学科，社会学部コミュニティマネジメント学科，社会学部現代福祉学科及び先端理工学部環境生態工学課程については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（令和７年３月21日第22条第１項，別表１，別表２，別表４改正）

1　この学則は，令和７年４月１日から施行する。

2　令和６年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和６年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和８年３月16日第３条，第15条，第22条第１項，第65条，第67条，第68条，第70条第１項，別表１，別表２，別表４，別表15，別表16改正）

1　この学則は，令和８年４月１日から施行する。

2　令和７年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和７年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

4　前３項の規定にかかわらず，別表15及び別表16の改正規定については，令和７年４月１日から適用し，令和６年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

付　則（令和８年３月16日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第33条，第34条第１項第１号，同項第２号及び同項第９号，

別表１，別表４，別表７改正，第34条第１項第11号及び同項第12号追加）

１　この学則は，令和９年４月１日から施行する。

２　令和８年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

３　令和８年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

４　文学部真宗学科，経済学部現代経済学科，国際経済学科，先端理工学部数理・情報科学課程，知能情報メディア課程，電子情報通信課程，機械工学・ロボティクス課程，応用化学課程，環境科学課程については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

別表１

文学部開設科目（第30条関係）

(1)　教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
仏教の世界	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA	2
英語セミナーB	2
英語セミナーC	2
英語セミナーD	2
英語セミナーE	2
英語セミナーF	2
英語セミナーG	2

英語セミナーH	2
英語セミナーI	2
英語セミナーJ	2
英語セミナーK	2
Culture through English 1	2
Current Topics through English 1	2
Culture through English 2	2
Current Topics through English 2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
ドイツ語セミナーⅠA	2

ドイツ語セミナーＩB	2	
ドイツ語セミナーＩC	2	
ドイツ語セミナーＩD	2	
ドイツ語セミナーⅡA	2	
ドイツ語セミナーⅡB	2	
ドイツ語セミナーⅡC	2	
ドイツ語セミナーⅡD	2	
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2	
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2	
フランス語セミナーＩA	2	
フランス語セミナーＩB	2	
フランス語セミナーＩC	2	
フランス語セミナーＩD	2	
フランス語セミナーⅡA	2	
フランス語セミナーⅡB	2	
フランス語セミナーⅡC	2	
フランス語セミナーⅡD	2	
フランス語コミュニケーションⅠ	2	
フランス語コミュニケーションⅡ	2	
中国語セミナーＩA	2	
中国語セミナーＩB	2	
中国語セミナーＩC	2	
中国語セミナーＩD	2	
中国語セミナーⅡA	2	
中国語セミナーⅡB	2	
中国語セミナーⅡC	2	
中国語セミナーⅡD	2	
中国語コミュニケーションⅠ	2	
中国語コミュニケーションⅡ	2	
スペイン語セミナーＩA	2	
スペイン語セミナーＩB	2	

スペイン語セミナーＩC	2	
スペイン語セミナーＩD	2	
スペイン語セミナーⅡA	2	
スペイン語セミナーⅡB	2	
スペイン語セミナーⅡC	2	
スペイン語セミナーⅡD	2	
スペイン語コミュニケーションⅠ	2	
スペイン語コミュニケーションⅡ	2	
コリア語セミナーＩA	2	
コリア語セミナーＩB	2	
コリア語セミナーＩC	2	
コリア語セミナーＩD	2	
コリア語セミナーⅡA	2	
コリア語セミナーⅡB	2	
コリア語セミナーⅡC	2	
コリア語セミナーⅡD	2	
コリア語コミュニケーションⅠ	2	
コリア語コミュニケーションⅡ	2	
ポルトガル語Ⅰ	2	
ポルトガル語Ⅱ	2	
ポルトガル語ⅢA	2	
ポルトガル語ⅢB	2	
ロシア語Ⅰ	2	
ロシア語Ⅱ	2	
ロシア語ⅢA	2	
ロシア語ⅢB	2	
ラテン語Ⅰ	2	
ラテン語Ⅱ	2	
ギリシア語Ⅰ	2	
ギリシア語Ⅱ	2	
ペルシア語Ⅰ	2	

ペルシア語Ⅱ	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
アジアの思想A	2
アジアの思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学のすすめ	2

歴史学	2
日本の歴史A	2
日本の歴史B	2
日本の思想	2
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
アジア交流史	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学入門	4
心理学A	2
心理学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学A	2
教育学B	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
教養教育ゼミナール（人文科学）	4
大学論	2
グローバル・ヒストリー	2
文化交流論	2
日本国憲法	2

法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
現代社会の諸問題	2
地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
グローバル・シチズンシップA（公共性・コミュニティ）	2
グローバル・シチズンシップB（民主主義）	2
グローバル・シチズンシップC（平和構築）	2
グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）	2
データサイエンス・AI入門	2
データサイエンス基礎	2
AI基礎	2

教養教育ゼミナール（社会科学）	2
社会課題発見演習	2
社会課題解決演習	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4
数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2
自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2
平和学B	2
里山学	2
生物科学のすすめ	4
生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4

生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
教養教育ゼミナール（自然科学）	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
スポーツ科学のすすめ	2
教養教育ゼミナール（スポーツ科学）	2
キャリア入門	2
キャリア・ディスカバリー	2
みんなのコミュニケーションA	2
みんなのコミュニケーションB	2
Inclusive Communication	2
みんなで学ぶ国際ビジネス事情	2
英語で学ぶ日本の社会A	2

英語で学ぶ日本の社会B	2	
仏教SDGs概論	2	
アントレプレナーシップ入門	2	
テクノロジーと事業創出	2	
ソーシャルインパクト概論	2	
協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2	
アカデミック・ライティング入門	2	
ボランティア・NPO入門	2	
脳と心	2	
仏教と心理学	2	
経済英語Ⅰ	2	
経済英語Ⅱ	2	
経済英語Ⅲ	2	
経済社会論入門	2	
地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）	4	
地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）	2	
留学英語Ⅰ	4	
留学英語Ⅱ	2	
留学英語Ⅲ	4	
留学英語Ⅳ	2	
経営科学	2	
社会データ分析	2	
ワークルール入門	2	
消費者問題論	2	
比較社会政策	2	
公務員論	2	
国際ビジネス論	2	
財政学	2	
地方財政論	2	
地域レジリエンス論	2	
地域課題発見演習	4	

会話分析入門A	2	
会話分析入門B	2	
言語習得論	2	
異文化間コミュニケーション論	2	
Introduction to Sociolinguistics	2	
国際関係入門	2	
政治思想概論	2	
国際開発協力論	2	
Introduction to Cultural Anthropology	2	
文化遺産学	2	
南アジアの言語	2	
グローバリゼーションとアフリカ	2	
グローバリゼーションと東アジア	2	
グローバリゼーションと南アジア	2	
グローバリゼーションとヨーロッパ	2	
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2	
グローバル・ガバナンス論	2	
宗教文化学入門	2	
日本語教育入門	2	
世界文学入門	2	
都市計画入門	2	
自然人類学入門	2	
理工学のすすめ	2	
差別と排除の社会学	2	
市民社会の歴史と現在	2	
社会学の歴史と理論	2	
アートと社会	2	
宗教社会学	2	
子ども社会学	2	
社会参画技法	2	
社会起業演習A	2	

社会起業演習B	2
音楽社会学	2
カルチュラルスタディーズ	2
情報社会論	2
デジタルメディア論	2
農業を支える植物細胞の力	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Global Understanding in English	4
Forum	2
自然保護論	2
教養教育科目特別講義	4
特別講座	12
放送大学科目	4
English language(RISE)	12
Cultural Adaptation(RISE)	2
Global PBL(RISE)	2
Social Civic Engagement(RISE)	2
Applied Cultural Adaptation(RISE)	2
Advanced Global PBL(RISE)	4

(2) 専攻科目

① 仏教学科

授業科目	単位数
仏教学概論A1	2
仏教学概論A2	2
仏教学概論B1	2
仏教学概論B2	2
仏教聖典学概論A	2
仏教聖典学概論B	2
仏教文化学概論A	2
仏教文化学概論B	2

インド哲学概論A	2
インド哲学概論B	2
インド仏教教学史A	2
インド仏教教学史B	2
中国仏教教学史A	2
中国仏教教学史B	2
日本仏教教学史A	2
日本仏教教学史B	2
仏教学特殊講義A1	2
仏教学特殊講義A2	2
仏教学特殊講義B1	2
仏教学特殊講義B2	2
仏教学特殊講義C1	2
仏教学特殊講義C2	2
仏教学特殊講義D1	2
仏教学特殊講義D2	2
仏教学特殊講義E1	2
仏教学特殊講義E2	2
仏教学特殊講義F1	2
仏教学特殊講義F2	2
仏教学特殊講義G1	2
仏教学特殊講義G2	2
仏教学特殊講義H1	2
仏教学特殊講義H2	2
仏教学特殊講義I1	2
仏教学特殊講義I2	2
仏教学特殊講義J1	2
仏教学特殊講義J2	2
仏教学基礎演習A	2
仏教学基礎演習B	2
仏教学基礎演習C	2

仏教学基礎演習D	2
仏教漢文入門A	2
仏教漢文入門B	2
仏教学講読A1	2
仏教学講読A2	2
仏教学講読B1	2
仏教学講読B2	2
仏教学講読C1	2
仏教学講読C2	2
仏教学講読D1	2
仏教学講読D2	2
仏教学講読E1	2
仏教学講読E2	2
仏教学講読F1	2
仏教学講読F2	2
仏教学講読G1	2
仏教学講読G2	2
仏教学講読H1	2
仏教学講読H2	2
仏教学講読I1	2
仏教学講読I2	2
仏教学演習ＩA	2
仏教学演習ＩB	2
仏教学演習ⅡA	2
仏教学演習ⅡB	2
卒業論文	4
インドの仏教と文化A	2
インドの仏教と文化B	2
仏教と異思想A	2
仏教と異思想B	2
現代アジアの仏教と社会A	2

現代アジアの仏教と社会B	2
サンスクリット語仏典入門A1	2
サンスクリット語仏典入門A2	2
サンスクリット語仏典入門B1	2
サンスクリット語仏典入門B2	2
パーリ語仏典入門A	2
パーリ語仏典入門B	2
チベット語仏典入門A1	2
チベット語仏典入門A2	2
チベット語仏典入門B1	2
チベット語仏典入門B2	2
仏典情報研究論A	2
仏典情報研究論B	2
仏教美術入門A	2
仏教美術入門B	2
仏教文化入門	2
現代仏教入門	2
仏教と日本の文化A	4
仏教と日本の文化B	2
仏教と日本の文化C	2
仏教と日本の文化D	2
仏教漢文の世界A	2
仏教漢文の世界B	2
古都の仏教	2
世界の仏教	2
仏教と人生の課題	2
哲学概論	2
宗教学概説A	2
宗教学概説B	2
宗教史A	2
宗教史B	2

キリスト教神学	2
キャリア形成論	2
放送大学科目	30
特別講座	30

② 哲学科

専攻	授業科目	単位数
哲学	哲学概論	2
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	哲学特殊講義(A)A	2
	哲学特殊講義(A)B	2
	哲学特殊講義(B)A	2
	哲学特殊講義(B)B	2
	哲学特殊講義(C)A	2
	哲学特殊講義(C)B	2
	哲学特殊講義(D)A	2
	哲学特殊講義(D)B	2
	哲学特殊講義(E)A	2
	哲学特殊講義(E)B	2
	哲学基礎演習ⅠA	2
	哲学基礎演習ⅠB	2
	哲学基礎演習ⅡA	2
	哲学基礎演習ⅡB	2
	哲学講読A1	2
	哲学講読A2	2
	哲学講読B1	2
	哲学講読B2	2
	哲学講読C1	2
	哲学講読C2	2

	哲学講読D1	2
	哲学講読D2	2
	哲学講読E1	2
	哲学講読E2	2
	哲学講読F1	2
	哲学講読F2	2
	哲学講読G1	2
	哲学講読G2	2
	哲学講読H1	2
	哲学講読H2	2
	哲学講読I1	2
	哲学講読I2	2
	哲学講読J1	2
	哲学講読J2	2
	哲学演習ＩA	2
	哲学演習ＩB	2
	哲学演習ⅡA	2
	哲学演習ⅡB	2
	卒業論文	4
	古代哲学史	2
	中世哲学史	2
	近世哲学史A	2
	近世哲学史B	2
	現代哲学史	2
	科学哲学	2
	社会哲学	2
	現代倫理学特論	2
	美学概説	2
	キリスト教神学	2
	聖書研究	2

	論理学特論	2
	形而上学特論	2
	現代哲学特論	2
	社会学概説	4
	日本史A	2
	日本史B	2
	東洋史A	2
	東洋史B	2
	西洋史	4
	社会事業概説	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	地理学（地誌）	4
	法学概論	4
	政治学原理	4
	経済原論	4
	心理学概論	2
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30
教育学	教育学概論	2
	教育制度論	2
	教育史（西洋）	2
	教育哲学	2
	教育史（日本）	2
	教育とジェンダー	2
	教育心理学	2
	特別支援教育論	2
	教育社会学概論	2
	教育学特殊講義(A)A	2

	教育学特殊講義(A)B	2
	教育学特殊講義(B)A	2
	教育学特殊講義(B)B	2
	教育学特殊講義(C)A	2
	教育学特殊講義(C)B	2
	教育学特殊講義(D)A	2
	教育学特殊講義(D)B	2
	教育学特殊講義(E)A	2
	教育学特殊講義(E)B	2
	教育学特殊講義(F)A	2
	教育学特殊講義(F)B	2
	教育学特殊講義(G)A	2
	教育学特殊講義(G)B	2
	教育学特殊講義(H)A	2
	教育学特殊講義(H)B	2
	教育学特殊講義(I)A	2
	教育学特殊講義(I)B	2
	教育学特殊講義(J)A	2
	教育学特殊講義(J)B	2
	教育学特殊講義(K)A	2
	教育学特殊講義(K)B	2
	教育学基礎演習ＩA	2
	教育学基礎演習ＩB	2
	教育学基礎演習ⅡA	2
	教育学基礎演習ⅡB	2
	教育学講読A1	2
	教育学講読A2	2
	教育学講読B1	2
	教育学講読B2	2
	教育学講読C1	2

	教育学講読C2	2
	教育学講読D1	2
	教育学講読D2	2
	教育学演習ＩA	2
	教育学演習ＩB	2
	教育心理学演習ＩA	2
	教育心理学演習ＩB	2
	教育学演習ⅡA	2
	教育学演習ⅡB	2
	教育心理学演習ⅡA	2
	教育心理学演習ⅡB	2
	卒業論文	4
	人間科学概論	2
	社会教育概論	4
	生涯学習概論	2
	社会教育論	2
	比較教育学	2
	異文化間教育学	2
	教育行政学A	2
	教育行政学B	2
	社会教育計画	4
	社会教育特講Ⅰ	4
	社会教育特講Ⅱ	4
	社会教育特講Ⅲ	4
	教育心理学研究法	2
	矯正教育論Ⅰ	2
	矯正教育論Ⅱ	2
	学習心理学	2
	発達心理学	2
	認知心理学	2

	心理学史	2
	現代社会論	4
	環境教育学	2
	共生教育学	2
	教育メディア論	2
	社会調査統計法	2
	幼児教育学	2
	経済原論	4
	法学概論	4
	政治学原理	4
	教育情報処理演習	2
	地理学（地誌）	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	日本史A	2
	日本史B	2
	東洋史A	2
	東洋史B	2
	西洋史	4
	社会学概説	4
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	社会事業概説	4
	文化人類学概論	4
	キリスト教神学	2
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30

③　歴史学科

専攻	授業科目	単位数
日本史学	史学概論A	2
	史学概論B	2
	史学概論C	2
	史学概論D	2
	史学概論E	2
	日本史概説ⅠA	2
	日本史概説ⅠB	2
	日本史概説ⅡA	2
	日本史概説ⅡB	2
	日本宗教史A	2
	日本宗教史B	2
	日本史学特殊講義(A)A	2
	日本史学特殊講義(A)B	2
	日本史学特殊講義(B)A	2
	日本史学特殊講義(B)B	2
	日本史学特殊講義(C)A	2
	日本史学特殊講義(C)B	2
	日本史学特殊講義(D)A	2
	日本史学特殊講義(D)B	2
	日本史学特殊講義(E)A	2
	日本史学特殊講義(E)B	2
	日本史学特殊講義(F)A	2
	日本史学特殊講義(F)B	2
	日本史学特殊講義(G)A	2
	日本史学特殊講義(G)B	2
	日本史学特殊講義(H)A	2
	日本史学特殊講義(H)B	2
	日本史学特殊講義(I)A	2
	日本史学特殊講義(I)B	2

	日本史学特殊講義(J)A	2
	日本史学特殊講義(J)B	2
	日本史学特殊講義(K)A	2
	日本史学特殊講義(K)B	2
	日本史学講読A1	2
	日本史学講読A2	2
	日本史学講読B1	2
	日本史学講読B2	2
	日本史学講読C1	2
	日本史学講読C2	2
	日本史学講読D1	2
	日本史学講読D2	2
	日本史学講読E1	2
	日本史学講読E2	2
	日本史学講読F1	2
	日本史学講読F2	2
	日本史学講読G1	2
	日本史学講読G2	2
	日本史学講読H1	2
	日本史学講読H2	2
	日本史学基礎演習ⅠA	2
	日本史学基礎演習ⅠB	2
	日本史学基礎演習ⅡA	2
	日本史学基礎演習ⅡB	2
	日本史学演習Ⅰ	4
	日本史学演習Ⅱ	4
	卒業論文	4
	日本文化史Ⅰ	2
	日本文化史Ⅱ	2
	人文地理学	4

	自然地理学	4
	地理学（地誌）	4
	歴史地理学	4
	考古学（日本）A	2
	考古学（日本）B	2
	民俗学（日本）A	2
	民俗学（日本）B	2
	美術史（日本）A	2
	美術史（日本）B	2
	史料学（日本）A	2
	史料学（日本）B	2
	古文書学A	2
	古文書学B	2
	古文書学入門A	2
	古文書学入門B	2
	社会事業史	4
	西洋史	4
	法学概論	4
	政治学原理	4
	経済原論	4
	東洋史A	2
	東洋史B	2
	社会学概説	4
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30
東洋史学	史学概論A	2

	史学概論B	2
	史学概論C	2
	史学概論D	2
	史学概論E	2
	東洋史概説Ⅰ	4
	東洋史概説Ⅱ	4
	インド仏教史A	2
	インド仏教史B	2
	西域仏教史A	2
	西域仏教史B	2
	中国仏教史A	2
	中国仏教史B	2
	東洋史学特殊講義(A)A	2
	東洋史学特殊講義(A)B	2
	東洋史学特殊講義(B)A	2
	東洋史学特殊講義(B)B	2
	東洋史学特殊講義(C)A	2
	東洋史学特殊講義(C)B	2
	東洋史学特殊講義(D)A	2
	東洋史学特殊講義(D)B	2
	東洋史学特殊講義(E)A	2
	東洋史学特殊講義(E)B	2
	東洋史学特殊講義(F)A	2
	東洋史学特殊講義(F)B	2
	東洋史学特殊講義(G)A	2
	東洋史学特殊講義(G)B	2
	東洋史学特殊講義(H)A	2
	東洋史学特殊講義(H)B	2
	東洋史学講読(A)	4
	東洋史学講読(B)	4

	東洋史学講読(C)A	2
	東洋史学講読(C)B	2
	東洋史学講読(D)A	2
	東洋史学講読(D)B	2
	東洋史学講読(E)A	2
	東洋史学講読(E)B	2
	東洋史学講読(H)	4
	東洋史学講読(I)A	2
	東洋史学講読(I)B	2
	東洋史学文献読解入門A	2
	東洋史学文献読解入門B	2
	東洋史学基礎演習Ⅰ	4
	東洋史学基礎演習Ⅱ	4
	東洋史学演習Ⅰ	4
	東洋史学演習Ⅱ	4
	卒業論文	4
	西洋史	4
	中国文化史Ⅰ	2
	中国文化史Ⅱ	2
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	考古学（アジア）A	2
	考古学（アジア）B	2
	民俗学（アジア）A	2
	民俗学（アジア）B	2
	美術史（アジア）A	2
	美術史（アジア）B	2
	史料学（アジア）A	2
	史料学（アジア）B	2
	文化人類学概論	4

	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	地理学（地誌）	4
	日本史A	2
	日本史B	2
	法学概論	4
	政治学原理	4
	社会学概説	4
	経済原論	4
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30
仏教史学	史学概論A	2
	史学概論B	2
	史学概論C	2
	史学概論D	2
	史学概論E	2
	仏教史概説A1	2
	仏教史概説A2	2
	仏教史概説B1	2
	仏教史概説B2	2
	仏教史学入門A	2
	仏教史学入門B	2
	仏教文化史概論A	2
	仏教文化史概論B	2
	インド仏教史A	2
	インド仏教史B	2
	西域仏教史A	2
	西域仏教史B	2

	中国仏教史A	2
	中国仏教史B	2
	日本仏教史A1	2
	日本仏教史A2	2
	日本仏教史B1	2
	日本仏教史B2	2
	仏教美術史A	2
	仏教美術史B	2
	仏教史学特殊講義A1	2
	仏教史学特殊講義A2	2
	仏教史学特殊講義B1	2
	仏教史学特殊講義B2	2
	仏教史学特殊講義C1	2
	仏教史学特殊講義C2	2
	仏教史学特殊講義D1	2
	仏教史学特殊講義D2	2
	仏教史学特殊講義E1	2
	仏教史学特殊講義E2	2
	仏教史学特殊講義F1	2
	仏教史学特殊講義F2	2
	仏教史学特殊講義G1	2
	仏教史学特殊講義G2	2
	仏教史学特殊講義H1	2
	仏教史学特殊講義H2	2
	仏教史学特殊講義I1	2
	仏教史学特殊講義I2	2
	仏教史学講読A1	2
	仏教史学講読A2	2
	仏教史学講読B1	2
	仏教史学講読B2	2

	仏教史学講読C1	2
	仏教史学講読C2	2
	仏教史学講読D1	2
	仏教史学講読D2	2
	仏教史学講読E1	2
	仏教史学講読E2	2
	仏教史学講読F1	2
	仏教史学講読F2	2
	仏教史学講読G1	2
	仏教史学講読G2	2
	仏教史学講読H1	2
	仏教史学講読H2	2
	仏教史学基礎演習ＩA	2
	仏教史学基礎演習ＩB	2
	仏教史学基礎演習ⅡA	2
	仏教史学基礎演習ⅡB	2
	仏教史学演習ＩA	2
	仏教史学演習ＩB	2
	仏教史学演習ⅡA	2
	仏教史学演習ⅡB	2
	卒業論文	4
	西洋史	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	地理学（地誌）	4
	真宗史A	2
	真宗史B	2
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2

	日本史A	2
	日本史B	2
	東洋史A	2
	東洋史B	2
	法学概論	4
	政治学原理	4
	社会学概説	4
	経済原論	4
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30
文化遺産学	文化遺産学基礎演習A	2
	文化遺産学基礎演習B	2
	文化遺産学基礎演習C	2
	文化遺産学基礎演習D	2
	文化遺産学演習ⅠA	2
	文化遺産学演習ⅠB	2
	文化遺産学演習ⅡA	2
	文化遺産学演習ⅡB	2
	卒業論文	4
	文化遺産学概論A	2
	文化遺産学概論B	2
	文化遺産学概説A	2
	文化遺産学概説B	2
	文化財実習A	1
	文化財実習B	1
	日本史概説ⅠA	2
	日本史概説ⅠB	2
	日本史概説ⅡA	2
	日本史概説ⅡB	2

	東洋史概説Ⅰ	4
	東洋史概説Ⅱ	4
	仏教史概説A1	2
	仏教史概説A2	2
	仏教史概説B1	2
	仏教史概説B2	2
	史学概論A	2
	史学概論B	2
	史学概論C	2
	史学概論D	2
	史学概論E	2
	文化財科学実習A	1
	文化財科学実習B	1
	考古学実習A	1
	考古学実習B	1
	文献史学特殊講義A	2
	文献史学特殊講義B	2
	考古学特殊講義A	2
	考古学特殊講義B	2
	美術史特殊講義A	2
	美術史特殊講義B	2
	文化財科学特殊講義A	2
	文化財科学特殊講義B	2
	無形文化遺産学特殊講義A	2
	無形文化遺産学特殊講義B	2
	古文書学講読A	2
	古文書学講読B	2
	日本考古学講読A	2
	日本考古学講読B	2
	文化財科学講読A	2

	文化財科学講読B	2
	美術史講読A	2
	美術史講読B	2
	無形文化遺産学講読A	2
	無形文化遺産学講読B	2
	建築史概論	2
	工芸文化概論	2
	博物館概論	2
	生涯学習概論	2
	博物館経営論	2
	博物館資料論	2
	博物館資料保存論	2
	博物館展示論	2
	博物館情報・メディア論	2
	西洋史	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	歴史地理学	4
	地理学（地誌）	4
	社会学概説	4
	経済原論	4
	法学概論	4
	政治学原理	4
	哲学概論	2
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	8
	特別講座	30

④　日本語日本文学科

授業科目	単位数
日本文学概論A	2
日本文学概論B	2
日本語学概論A	2
日本語学概論B	2
日本文学史（古典）A	2
日本文学史（古典）B	2
日本文学史（近代）A	2
日本文学史（近代）B	2
情報出版学概論A	2
情報出版学概論B	2
古典文学特殊講義(A)A	2
古典文学特殊講義(A)B	2
古典文学特殊講義(B)A	2
古典文学特殊講義(B)B	2
古典文学特殊講義(C)A	2
古典文学特殊講義(C)B	2
古典文学特殊講義(D)A	2
古典文学特殊講義(D)B	2
古典文学特殊講義(E)A	2
古典文学特殊講義(E)B	2
古典文学特殊講義(F)A	2
古典文学特殊講義(F)B	2
近代文学特殊講義(A)A	2
近代文学特殊講義(A)B	2
近代文学特殊講義(B)A	2
近代文学特殊講義(B)B	2
近代文学特殊講義(C)A	2
近代文学特殊講義(C)B	2
情報出版学特殊講義(A)A	2

情報出版学特殊講義(A)B	2
情報出版学特殊講義(B)A	2
情報出版学特殊講義(B)B	2
情報出版学特殊講義(C)A	2
情報出版学特殊講義(C)B	2
情報出版学特殊講義(D)A	2
情報出版学特殊講義(D)B	2
日本語学特殊講義(A)A	2
日本語学特殊講義(A)B	2
日本語学特殊講義(B)A	2
日本語学特殊講義(B)B	2
日本語学特殊講義(C)A	2
日本語学特殊講義(C)B	2
日本語学特殊講義(D)A	2
日本語学特殊講義(D)B	2
古典文学講読(A)A	2
古典文学講読(A)B	2
古典文学講読(B)A	2
古典文学講読(B)B	2
古典文学講読(C)A	2
古典文学講読(C)B	2
古典文学講読(D)A	2
古典文学講読(D)B	2
近代文学講読(A)A	2
近代文学講読(A)B	2
近代文学講読(B)A	2
近代文学講読(B)B	2
近代文学講読(C)A	2
近代文学講読(C)B	2
情報出版学講読(A)A	2
情報出版学講読(A)B	2

情報出版学講読(B)A	2
情報出版学講読(B)B	2
情報出版学講読(C)A	2
情報出版学講読(C)B	2
日本語学講読(A)A	2
日本語学講読(A)B	2
日本語学講読(B)A	2
日本語学講読(B)B	2
日本語日本文学基礎演習A	2
日本語日本文学基礎演習B	2
日本語日本文学基礎演習C	2
日本語日本文学基礎演習D	2
古典文学演習ＩA	2
古典文学演習ＩB	2
近代文学演習ＩA	2
近代文学演習ＩB	2
情報出版学演習ＩA	2
情報出版学演習ＩB	2
日本語学演習ＩA	2
日本語学演習ＩB	2
古典文学演習Ⅱ	4
近代文学演習Ⅱ	4
情報出版学演習Ⅱ	4
日本語学演習Ⅱ	4
卒業論文	4
中国文学ＩA	2
中国文学ＩB	2
中国文学ⅡA	2
中国文学ⅡB	2
中国文学史A	2
中国文学史B	2

仏教文学A	2
仏教文学B	2
書道（書写を含む）A	2
書道（書写を含む）B	2
メディア論A	2
メディア論B	2
日本語教授法Ⅰ	2
日本語教授法Ⅱ	2
言語習得（発達）論A	2
言語習得（発達）論B	2
情報処理法Ⅰ	2
情報処理法Ⅱ	2
画像映像処理法Ⅰ	2
画像映像処理法Ⅱ	2
日本語教育概論A	2
日本語教育概論B	2
キャリア形成論	2
放送大学科目	30
特別講座	30

⑤　英語英米文学科

授業科目	単位数
英語圏文学概論A	2
英語圏文学概論B	2
英語学概論A	2
英語学概論B	2
英米文化概論A	2
英米文化概論B	2
英米文学特殊講義(A)A	2
英米文学特殊講義(A)B	2
英米文学特殊講義(B)A	2
英米文学特殊講義(B)B	2

英米文学特殊講義(C)A	2
英米文学特殊講義(C)B	2
英米文学特殊講義(D)A	2
英米文学特殊講義(D)B	2
英語学特殊講義(A)A	2
英語学特殊講義(A)B	2
英米文化特殊講義(A)A	2
英米文化特殊講義(A)B	2
英米文化特殊講義(B)A	2
英米文化特殊講義(B)B	2
英語英米文学基礎演習A	2
英語英米文学基礎演習B	2
英語英米文学基礎演習C	2
英語英米文学基礎演習D	2
English Listening A	1
English Listening B	1
English Academic Writing　ＩA	1
English Academic Writing　ＩB	1
英米文学講読(A)A	2
英米文学講読(A)B	2
英米文学講読(B)A	2
英米文学講読(B)B	2
英米文学講読(C)A	2
英米文学講読(C)B	2
英米文学講読(D)A	2
英米文学講読(D)B	2
英米文学講読(E)A	2
英米文学講読(E)B	2
英語学講読(A)A	2
英語学講読(A)B	2
英語学講読(B)A	2

英語学講読(B)B	2
英米文化講読(A)A	2
英米文化講読(A)B	2
英米文化講読(B)A	2
英米文化講読(B)B	2
英文学演習ＩA	2
英文学演習ＩB	2
米文学演習ＩA	2
米文学演習ＩB	2
英語学演習ＩA	2
英語学演習ＩB	2
英米文化演習ＩA	2
英米文化演習ＩB	2
英文学演習ⅡA	2
英文学演習ⅡB	2
米文学演習ⅡA	2
米文学演習ⅡB	2
英語学演習ⅡA	2
英語学演習ⅡB	2
英米文化演習ⅡA	2
英米文化演習ⅡB	2
卒業論文	4
英文学史A	2
英文学史B	2
米文学史A	2
米文学史B	2
英語発達史A	2
英語発達史B	2
英国文化史A	2
英国文化史B	2
米国文化史A	2

米国文化史B	2
言語学概論A	2
言語学概論B	2
英語音声学A	2
英語音声学B	2
Oral Communication IA	1
Oral Communication IB	1
Oral Communication ⅡA	1
Oral Communication ⅡB	1
Oral Communication ⅢA	1
Oral Communication ⅢB	1
English Academic Writing ⅡA	1
English Academic Writing ⅡB	1
英語圏文化論A	2
英語圏文化論B	2
イングリッシュ・レクチャーⅠ	2
イングリッシュ・レクチャーⅡ	2
国際文化交流研修	8
海外研修	4
English Language(RISE)	10
Global PBL(RISE)	2
Social Civic Engagement(RISE)	2
Applied Cultural Adaptation(RISE)	2
Advanced Global PBL(RISE)	4
キャリア形成論	2
放送大学科目	30
特別講座	30

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

経済学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
仏教の世界	2
真宗教団史	4
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA	2
英語セミナーB	2
英語セミナーC	2
英語セミナーD	2
英語セミナーE	2
英語セミナーF	2
英語セミナーG	2
英語セミナーH	2
英語セミナーI	2
英語セミナーJ	2
英語セミナーK	2
Culture through English 1	2
Current Topics through English 1	2
Culture through English 2	2
Current Topics through English 2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2

ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2

フランス語セミナーＩC	2
フランス語セミナーＩD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーＩA	2
中国語セミナーＩB	2
中国語セミナーＩC	2
中国語セミナーＩD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーＩA	2
スペイン語セミナーＩB	2
スペイン語セミナーＩC	2
スペイン語セミナーＩD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーＩA	2
コリア語セミナーＩB	2
コリア語セミナーＩC	2

コリア語セミナーＩＤ	2	
コリア語セミナーⅡA	2	
コリア語セミナーⅡB	2	
コリア語セミナーⅡC	2	
コリア語セミナーⅡD	2	
コリア語コミュニケーションⅠ	2	
コリア語コミュニケーションⅡ	2	
ポルトガル語Ⅰ	2	
ポルトガル語Ⅱ	2	
ポルトガル語ⅢA	2	
ポルトガル語ⅢB	2	
ロシア語Ⅰ	2	
ロシア語Ⅱ	2	
ロシア語ⅢA	2	
ロシア語ⅢB	2	
ラテン語Ⅰ	2	
ラテン語Ⅱ	2	
ギリシア語Ⅰ	2	
ギリシア語Ⅱ	2	
ペルシア語Ⅰ	2	
ペルシア語Ⅱ	2	
トルコ語Ⅰ	2	
トルコ語Ⅱ	2	
アラビア語Ⅰ	2	
アラビア語Ⅱ	2	
哲学入門	2	
哲学A	2	
哲学B	2	
倫理学入門	2	
倫理学A	2	
倫理学B	2	

クリティカル・シンキング	2	
論理学	2	
宗教学入門	4	
宗教の世界A	2	
宗教の世界B	2	
アジアの思想A	2	
アジアの思想B	2	
芸術の世界A	2	
芸術の世界B	2	
日本の文学A	4	
日本の文学B	4	
日本の文学C	2	
アジアの文学A	2	
アジアの文学B	2	
西洋の文学A	2	
西洋の文学B	2	
西洋の文学C	2	
西洋の文学D	2	
文章表現法A	2	
文章表現法B	2	
言語と文化	2	
歴史学のすすめ	2	
歴史学	2	
日本の歴史A	2	
日本の歴史B	2	
日本の思想	2	
アジアの歴史A	4	
アジアの歴史B	4	
アジアの文化	2	
アジア交流史	2	
西洋の歴史A	4	

西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学入門	4
心理学A	2
心理学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学A	2
教育学B	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
教養教育ゼミナール（人文科学）	4
大学論	2
グローバル・ヒストリー	2
文化交流論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2

人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
現代社会の諸問題	2
地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
グローバル・シチズンシップA（公共性・コミュニティ）	2
グローバル・シチズンシップB（民主主義）	2
グローバル・シチズンシップC（平和構築）	2
グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）	2
データサイエンス・AI入門	2
データサイエンス基礎	2
AI基礎	2
教養教育ゼミナール（社会科学）	2
社会課題発見演習	2
社会課題解決演習	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4
数理統計学	4
数理と計算	2

数学の世界	4	
数理と論証	2	
宇宙の科学Ⅰ	4	
宇宙の科学Ⅱ	2	
地球科学のすすめ	2	
地球科学	2	
物理科学の世界	4	
時間と空間の科学	2	
エネルギー入門	2	
自然科学史Ⅰ	2	
自然科学史Ⅱ	2	
科学論	2	
技術論	2	
平和学B	2	
里山学	2	
生物科学のすすめ	4	
生命科学のすすめ	2	
生命科学	2	
生態学のすすめ	4	
人類学のすすめ	4	
日本の自然	4	
生命誌	2	
植物の自然誌	2	
動物の自然誌	2	
民族の自然誌	2	
人類進化学	2	
人間の生物学Ⅰ	2	
人間の生物学Ⅱ	2	
自然誌実習	4	
野外観察法	2	
環境学	4	

情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
教養教育ゼミナール（自然科学）	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
スポーツ科学のすすめ	2
教養教育ゼミナール（スポーツ科学）	2
キャリア入門	2
キャリア・ディスカバリー	2
みんなのコミュニケーションA	2
みんなのコミュニケーションB	2
Inclusive Communication	2
みんなで学ぶ国際ビジネス事情	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
仏教SDGs概論	2
アントレプレナーシップ入門	2
テクノロジーと事業創出	2
ソーシャルインパクト概論	2
協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2
アカデミック・ライティング入門	2
ボランティア・NPO入門	2
仏教美術入門A	2
仏教美術入門B	2

サンスクリット語仏典入門A1	2
サンスクリット語仏典入門A2	2
チベット語仏典入門A1	2
チベット語仏典入門A2	2
古典文学講読(A)A	2
古典文学講読(A)B	2
近代文学講読(C)A	2
近代文学講読(C)B	2
情報出版学講読(B)A	2
脳と心	2
仏教と心理学	2
経営科学	2
社会データ分析	2
ワークルール入門	2
消費者問題論	2
比較社会政策	2
公務員論	2
地域レジリエンス論	2
地域課題発見演習	4
会話分析入門A	2
会話分析入門B	2
言語習得論	2
異文化間コミュニケーション論	2
Introduction to Sociolinguistics	2
国際関係入門	2
政治思想概論	2
国際開発協力論	2
Introduction to Cultural Anthropology	2
文化遺産学	2
南アジアの言語	2
グローバリゼーションとアフリカ	2

グローバリゼーションと東アジア	2
グローバリゼーションと南アジア	2
グローバリゼーションとヨーロッパ	2
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2
グローバル・ガバナンス論	2
宗教文化学入門	2
日本語教育入門	2
世界文学入門	2
都市計画入門	2
自然人類学入門	2
理工学のすすめ	2
差別と排除の社会学	2
市民社会の歴史と現在	2
社会学の歴史と理論	2
アートと社会	2
宗教社会学	2
子ども社会学	2
社会参画技法	2
社会起業演習A	2
社会起業演習B	2
音楽社会学	2
カルチュラルスタディーズ	2
情報社会論	2
デジタルメディア論	2
農業を支える植物細胞の力	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Global Understanding in English	4
Forum	2
自然保護論	2
教養教育科目特別講義	4

特別講座	4
放送大学科目	4
English language(RISE)	12
Cultural Adaptation(RISE)	2
Social Civic Engagement(RISE)	2
Applied Cultural Adaptation(RISE)	2

(2) 専攻科目

① 経済学科

授業科目	単位数
現代と経済	2
ミクロ経済学入門Ⅰ	2
ミクロ経済学入門Ⅱ	2
マクロ経済学入門Ⅰ	2
マクロ経済学入門Ⅱ	2
統計学入門	2
経済社会論入門	2
経済数学A	2
経済数学B	2
日本経済論A	2
日本経済論B	2
経済史A	2
経済史B	2
統計学Ⅰ	2
統計学Ⅱ	2
ミクロ経済学A	2
ミクロ経済学B	2
マクロ経済学A	2
マクロ経済学B	2
社会経済学A	2
財政学A	2
金融論A	2

経済政策A	2	
国際経済学A	2	
経済学史A	2	
国際政治経済学A	2	
ゲーム理論A	2	
ファイナンス理論A	2	
労働経済学A	2	
中小企業論	2	
環境経済学A	2	
公共経済学A	2	
計量経済学A	2	
データサイエンス入門A	2	
開発経済学A	2	
地域経済論A	2	
国際協力論A	2	
入門演習	2	
基礎演習Ⅰ	2	
基礎演習Ⅱ	2	
社会経済学B	2	
財政学B	2	
金融論B	2	
経済政策B	2	
国際経済学B	2	
経済学史B	2	
国際政治経済学B	2	
ゲーム理論B	2	
経済成長と循環	2	
不確実性と情報の経済学	2	
行動経済学	2	
産業組織論A	2	
産業組織論B	2	

ファイナンス理論B	2	
企業金融論A	2	
企業金融論B	2	
労働経済学B	2	
ホスピタリティ・ビジネス論	2	
地域産業論A	2	
地域産業論B	2	
観光経済論	2	
サービス経済論A	2	
サービス経済論B	2	
地域産業活性化プロジェクトⅠ	4	
地域産業活性化プロジェクトⅡ	2	
環境経済学B	2	
総合政策論A	2	
総合政策論B	2	
公共経済学B	2	
社会政策A	2	
社会政策B	2	
租税論	2	
都市経済学	2	
NPO論	2	
医療経済学	2	
生活福祉論A	2	
生活福祉論B	2	
地方財政論A	2	
地方財政論B	2	
経済統計学A	2	
経済統計学B	2	
計量経済学B	2	
応用計量経済学A	2	
応用計量経済学B	2	

データサイエンス入門B	2	
データサイエンス	2	
データ分析と問題解決	2	
情報システム論A	2	
情報システム論B	2	
国際貿易政策	2	
比較経済論A	2	
比較経済論B	2	
国際金融論A	2	
国際金融論B	2	
国際ビジネス論	2	
中国経済論A	2	
中国経済論B	2	
ヨーロッパ経済論A	2	
ヨーロッパ経済論B	2	
アメリカ経済論A	2	
アメリカ経済論B	2	
開発経済学B	2	
地域経済論B	2	
国際協力論B	2	
食・農・資源の経済論A	2	
食・農・資源の経済論B	2	
アジア経済論A	2	
アジア経済論B	2	
アジア経済史A	2	
アジア経済史B	2	
日本経済史A	2	
日本経済史B	2	
経済地理学A	2	
経済地理学B	2	
ヨーロッパ経済史A	2	

ヨーロッパ経済史B	2
グローバル経済史A	2
グローバル経済史B	2
経済思想史	2
ファイナンシャル・プランニング入門Ⅰ	2
ファイナンシャル・プランニング入門Ⅱ	2
演習Ⅰ	2
演習Ⅱ	2
演習Ⅲ	2
演習Ⅳ（卒業研究含む）	6
海外フィールド実習A	2
海外フィールド実習B	2
経済英語Ⅰ	2
経済英語Ⅱ	2
経済英語Ⅲ	2
留学英語Ⅰ	4
留学英語Ⅱ	2
留学英語Ⅲ	4
留学英語Ⅳ	2
Business　Communication Ⅰ	2
Business　Communication Ⅱ	2
経済学の技法Ⅰ	2
経済学の技法Ⅱ	2
情報と経済	2
社会調査の技法	2
フィールドワークの技法	2
簿記論Ⅰ	2
簿記論Ⅱ	2
経営学総論	4
財務会計入門	2
財務会計論	2

商学総論	4	
中級商業簿記	2	
上級商業簿記	2	
工業簿記	2	
原価計算論	2	
政治学原理	4	
民法	2	
経済法	2	
行政法A	2	
行政法B	2	
憲法A	2	
憲法B	2	
労働法	2	
商法	2	
キャリア形成論Ⅰ	2	
キャリア形成論Ⅱ	2	
特別講義A	2	
特別講義B	2	
特別講義C	2	
特別講義D	2	
特別講義E	2	
特別講義F	2	
特別講義G	2	
特別講義H	2	
特別講義I	2	
特別講義J	4	
特別講義K	4	
特別講義L	4	
特別講義M	2	
特別講義N	2	
特別講義O	2	

特別講義P	2
特別講義Q	2
特別講義R	2
特別講義S	2
放送大学科目	8
特別講座	24
Global PBL(RISE)	2
Advanced Global PBL(RISE)	4

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

経営学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
仏教の世界	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA	2
英語セミナーB	2
英語セミナーC	2
英語セミナーD	2
英語セミナーE	2
英語セミナーF	2
英語セミナーG	2

英語セミナーH	2
英語セミナーI	2
英語セミナーJ	2
英語セミナーK	2
Culture through English 1	2
Current Topics through English 1	2
Culture through English 2	2
Current Topics through English 2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
ドイツ語セミナーⅠA	2

ドイツ語セミナーＩB	2
ドイツ語セミナーＩC	2
ドイツ語セミナーＩD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーＩA	2
フランス語セミナーＩB	2
フランス語セミナーＩC	2
フランス語セミナーＩD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーＩA	2
中国語セミナーＩB	2
中国語セミナーＩC	2
中国語セミナーＩD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーＩA	2
スペイン語セミナーＩB	2

スペイン語セミナーＩC	2
スペイン語セミナーＩD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーＩA	2
コリア語セミナーＩB	2
コリア語セミナーＩC	2
コリア語セミナーＩD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
ラテン語Ⅰ	2
ラテン語Ⅱ	2
ギリシア語Ⅰ	2
ギリシア語Ⅱ	2
ペルシア語Ⅰ	2

ペルシア語Ⅱ	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
アジアの思想A	2
アジアの思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学のすすめ	2

歴史学	2
日本の歴史A	2
日本の歴史B	2
日本の思想	2
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
アジア交流史	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学入門	4
心理学A	2
心理学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学A	2
教育学B	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
教養教育ゼミナール（人文科学）	4
大学論	2
グローバル・ヒストリー	2
文化交流論	2
日本国憲法	2

法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
現代社会の諸問題	2
地域論	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
グローバル・シチズンシップA（公共性・コミュニティ）	2
グローバル・シチズンシップB（民主主義）	2
グローバル・シチズンシップC（平和構築）	2
グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）	2
データサイエンス・AI入門	2
データサイエンス基礎	2
AI基礎	2
教養教育ゼミナール（社会科学）	2
社会課題発見演習	2

社会課題解決演習	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4
数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2
自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2
平和学B	2
里山学	2
生物科学のすすめ	4
生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2

動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
教養教育ゼミナール（自然科学）	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
スポーツ科学のすすめ	2
教養教育ゼミナール（スポーツ科学）	2
キャリア入門	2
キャリア・ディスカバリー	2
みんなのコミュニケーションA	2
みんなのコミュニケーションB	2
Inclusive Communication	2
みんなで学ぶ国際ビジネス事情	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
仏教SDGs概論	2

アントレプレナーシップ入門	2	
テクノロジーと事業創出	2	
ソーシャルインパクト概論	2	
協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2	
アカデミック・ライティング入門	2	
ボランティア・NPO入門	2	
仏教美術入門A	2	
仏教美術入門B	2	
サンスクリット語仏典入門A1	2	
サンスクリット語仏典入門A2	2	
チベット語仏典入門A1	2	
チベット語仏典入門A2	2	
古典文学講読(A)A	2	
古典文学講読(A)B	2	
近代文学講読(C)A	2	
近代文学講読(C)B	2	
情報出版学講読(B)A	2	
脳と心	2	
仏教と心理学	2	
経済英語Ⅰ	2	
経済英語Ⅱ	2	
経済英語Ⅲ	2	
経済社会論入門	2	
地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）	4	
地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）	2	
留学英語Ⅰ	4	
留学英語Ⅱ	2	
留学英語Ⅲ	4	
留学英語Ⅳ	2	
経営科学	2	
社会データ分析	2	

ワークルール入門	2
消費者問題論	2
比較社会政策	2
公務員論	2
国際ビジネス論	2
財政学	2
地方財政論	2
地域レジリエンス論	2
地域課題発見演習	4
会話分析入門A	2
会話分析入門B	2
言語習得論	2
異文化間コミュニケーション論	2
Introduction to Sociolinguistics	2
国際関係入門	2
政治思想概論	2
国際開発協力論	2
Introduction to Cultural Anthropology	2
文化遺産学	2
南アジアの言語	2
グローバリゼーションとアフリカ	2
グローバリゼーションと東アジア	2
グローバリゼーションと南アジア	2
グローバリゼーションとヨーロッパ	2
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2
グローバル・ガバナンス論	2
宗教文化学入門	2
日本語教育入門	2
世界文学入門	2
都市計画入門	2
自然人類学入門	2

理工学のすすめ	2
差別と排除の社会学	2
市民社会の歴史と現在	2
社会学の歴史と理論	2
アートと社会	2
宗教社会学	2
子ども社会学	2
社会参画技法	2
社会起業演習A	2
社会起業演習B	2
音楽社会学	2
カルチュラルスタディーズ	2
情報社会論	2
デジタルメディア論	2
農業を支える植物細胞の力	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Global Understanding in English	4
Forum	2
自然保護論	2
教養教育科目特別講義	2
English language(RISE)	12
Cultural Adaptation(RISE)	2
Global PBL(RISE)	2
Social Civic Engagement(RISE)	2
Applied Cultural Adaptation(RISE)	2
Advanced Global PBL(RISE)	4

(2)　専攻科目

①　経営学科

授業科目	単位数
ゼミ探求	2

基礎演習	4
特別基礎演習	4
演習Ⅰ	4
特別演習Ⅰ	4
演習Ⅱ	8
管理者体験演習	2
簿記入門	2
経営学基礎論	2
企業と社会	2
国際経営入門	2
入門ファイナンス	2
経営情報学Ⅰ	2
経営管理論	2
経営組織論	2
経営戦略論	2
人的資源管理論	2
経営思想を知る	2
観光経営論	2
生産管理論	2
中国ビジネス論	2
企業統治論	2
経営意思決定論	2
国際経営戦略論	2
組織行動論	2
社会的企業論	2
産業技術論	2
産業技術史	2
企業倫理論	2
イノベーションマネジメント論	2
組織学習論	2
経営学原理	2

国際比較経営論	2
企業文明論	2
競争的ビジネスリーダー交流プログラムA	6
競争的ビジネスリーダー交流プログラムB	4
初級商業簿記	2
中級商業簿記	2
上級商業簿記	2
財務会計入門	2
財務会計論	2
連結会計論	2
キャッシュフロー会計論	2
国際財務報告論	2
工業簿記	2
原価計算論	2
管理会計論	2
会計監査論	2
財務諸表分析入門	2
財務諸表分析	2
コーポレートファイナンス入門	2
コーポレートファイナンス	2
企業評価論	2
法人税法	2
所得税法	2
経営情報学Ⅱ	2
経営情報システム論	2
経営情報活用論	2
経営科学	2
経営データ分析Ⅰ	2
経営データ分析Ⅱ	2
経営データ分析Ⅲ	2
ビジネスプログラミング	2

プログラミングⅠ	2
プログラミングⅡ	2
特講・グローバルリスクマネジメント	2
協定特別演習Ⅰ	4
協定特別演習Ⅱ	4
協定特別演習Ⅲ	2
協定特別演習Ⅳ	2
実践ビジネス論IA	2
実践ビジネス論IB	2
実践ビジネス論ⅡA	2
実践ビジネス論ⅡB	2
実践ビジネス論ⅢA	2
実践ビジネス論ⅢB	2
企業システム論	2
マーケティング論	2
グローバルビジネス	2
ビジネスヒストリーA	2
経営立地論	2
社会データ分析	2
ビジネスヒストリーB	2
グローバルマーケティング	2
アジア企業経営論	2
経済原論	2
政治学原理	4
職業指導	4
情報リテラシー	1
スポーツと経済	2
スポーツマネジメント論	2
スポーツ政策論	2
スポーツマーケティング論	2
Global Understanding and Communication	4

統計学	4
ファイナンス理論	4
アジア経済論A	2
アジア経済論B	2
中国経済論A	2
中国経済論B	2
国際金融論	4
商法	2
民法	2
会社法	2
労働法	2
経済法	2
アジア政治論	2
京都市の産業と産業政策	2
上級外国語A（ドイツ）	2
上級外国語B（ドイツ）	2
上級外国語C（ドイツ）	2
上級外国語D（ドイツ）	2
上級外国語A（フランス）	2
上級外国語B（フランス）	2
上級外国語C（フランス）	2
上級外国語D（フランス）	2
上級外国語A（中国）	2
上級外国語B（中国）	2
上級外国語C（中国）	2
上級外国語D（中国）	2
上級外国語A（スペイン）	2
上級外国語B（スペイン）	2
上級外国語C（スペイン）	2
上級外国語D（スペイン）	2
上級外国語A（コリア）	2

上級外国語B（コリア）	2
上級外国語C（コリア）	2
上級外国語D（コリア）	2
キャリア実習・実習指導	2
キャリア実習・実習指導（大学コンソーシアム京都）	4
特別講座	12

② 商学科

授業科目	単位数
情報リテラシー	1
社会調査入門	2
ベーシックアカウンティングⅠ	2
ベーシックマーケティング	2
ビジネスケーススタディA	2
ビジネスケーススタディB	2
プロジェクト入門	2
キャリア&ライフマネジメント	2
社会調査実践	2
フレッシャーズゼミ	2
アカデミックスキルズA	2
アカデミックスキルズB	2
ベーシックアカウンティングⅡ	2
流通システム論	2
ビジネスヒストリー入門	2
グローバルビジネスの基礎	2
ワークルール入門	2
プロジェクト実践	4
マーケティングリサーチ	2
コンテンツビジネス実践Ⅰ	2
起業家行動論	2
企業システム論	2
マーケティング論	2

消費者問題論	2
グローバルビジネス	2
ビジネスヒストリーA	2
経営立地論	2
ローカルビジネスのフロンティア	4
コンテンツビジネス実践Ⅱ	4
デザインマネジメント実践	4
社会データ分析	2
地域企業論	2
京都企業論	2
事業システム論	2
グローバルストラテジー	2
ソーシャルマーケティング	2
商品開発論	2
ビジネスヒストリーB	2
コンテンツビジネス論	2
食農ビジネスのフロンティア	4
地域と企業	4
京都企業の現場	2
デジタルマーケティング	2
空間データ分析	2
ケースで学ぶアカウンティング	2
ソーシャルビジネス論	2
グローバルマーケティング	2
ロジスティクス	2
中小企業経営論	2
地域資源論	2
ビジネスイノベーション	2
ケースで学ぶローカルファイナンス	2
アジア企業経営論	2
ケースで学ぶビジネスヒストリー	2

文献講読A	2	
文献講読B	2	
演習Ⅰ	4	
演習Ⅱ（演習研究含む）	6	
経営学基礎論	2	
経営情報学Ⅰ	2	
簿記入門	2	
経営管理論	2	
経営情報学Ⅱ	2	
経営データ分析Ⅰ	2	
経営データ分析Ⅱ	2	
経営情報活用論	2	
初級商業簿記	2	
財務諸表分析入門	2	
経営意思決定論	2	
経営情報システム論	2	
中級商業簿記	2	
財務会計入門	2	
工業簿記	2	
プログラミングⅠ	2	
財務会計論	2	
プログラミングⅡ	2	
スポーツと経済	2	
スポーツマネジメント論	2	
スポーツ政策論	2	
スポーツマーケティング論	2	
Global Understanding and Communication	4	
統計学	4	
ファイナンス理論	4	
アジア経済論A	2	
アジア経済論B	2	

中国経済論A	2
中国経済論B	2
国際金融論	4
商法	2
民法	2
会社法	2
労働法	2
経済法	2
中国政治論	2
アジア政治論	2
京都市の産業と産業政策	2
上級外国語A（ドイツ）	2
上級外国語B（ドイツ）	2
上級外国語C（ドイツ）	2
上級外国語D（ドイツ）	2
上級外国語A（フランス）	2
上級外国語B（フランス）	2
上級外国語C（フランス）	2
上級外国語D（フランス）	2
上級外国語A（中国）	2
上級外国語B（中国）	2
上級外国語C（中国）	2
上級外国語D（中国）	2
上級外国語A（スペイン）	2
上級外国語B（スペイン）	2
上級外国語C（スペイン）	2
上級外国語D（スペイン）	2
上級外国語A（コリア）	2
上級外国語B（コリア）	2
上級外国語C（コリア）	2
上級外国語D（コリア）	2

職業指導	4
キャリア実習・実習指導	2
キャリア実習・実習指導（大学コンソーシアム京都）	4

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

法学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
仏教の世界	2
真宗教団史	4
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA	2
英語セミナーB	2
英語セミナーC	2
英語セミナーD	2
英語セミナーE	2
英語セミナーF	2
英語セミナーG	2
英語セミナーH	2
英語セミナーI	2
英語セミナーJ	2
英語セミナーK	2

Culture through English 1	2
Current Topics through English 1	2
Culture through English 2	2
Current Topics through English 2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2

ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠC	2
フランス語セミナーⅠD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠC	2
中国語セミナーⅠD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーⅠA	2
スペイン語セミナーⅠB	2
スペイン語セミナーⅠC	2
スペイン語セミナーⅠD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2

スペイン語セミナーⅡC	2	
スペイン語セミナーⅡD	2	
スペイン語コミュニケーションⅠ	2	
スペイン語コミュニケーションⅡ	2	
コリア語セミナーⅠA	2	
コリア語セミナーⅠB	2	
コリア語セミナーⅠC	2	
コリア語セミナーⅠD	2	
コリア語セミナーⅡA	2	
コリア語セミナーⅡB	2	
コリア語セミナーⅡC	2	
コリア語セミナーⅡD	2	
コリア語コミュニケーションⅠ	2	
コリア語コミュニケーションⅡ	2	
ポルトガル語Ⅰ	2	
ポルトガル語Ⅱ	2	
ポルトガル語ⅢA	2	
ポルトガル語ⅢB	2	
ロシア語Ⅰ	2	
ロシア語Ⅱ	2	
ロシア語ⅢA	2	
ロシア語ⅢB	2	
ラテン語Ⅰ	2	
ラテン語Ⅱ	2	
ギリシア語Ⅰ	2	
ギリシア語Ⅱ	2	
ペルシア語Ⅰ	2	
ペルシア語Ⅱ	2	
トルコ語Ⅰ	2	
トルコ語Ⅱ	2	
アラビア語Ⅰ	2	

アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
アジアの思想A	2
アジアの思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
西洋の文学C	2
西洋の文学D	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学のすすめ	2
歴史学	2
日本の歴史A	2

日本の歴史B	2
日本の思想	2
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
アジア交流史	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学入門	4
心理学A	2
心理学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学A	2
教育学B	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
教養教育ゼミナール（人文科学）	4
大学論	2
グローバル・ヒストリー	2
文化交流論	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2

経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会と福祉	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
現代社会の諸問題	2
地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
グローバル・シチズンシップA（公共性・コミュニティ）	2
グローバル・シチズンシップB（民主主義）	2
グローバル・シチズンシップC（平和構築）	2
グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）	2
データサイエンス・AI入門	2
データサイエンス基礎	2
AI基礎	2
教養教育ゼミナール（社会科学）	2
社会課題発見演習	2
社会課題解決演習	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4

行列と行列式	4
数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2
自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2
平和学B	2
里山学	2
生物科学のすすめ	4
生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2

自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
教養教育ゼミナール（自然科学）	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
スポーツ科学のすすめ	2
教養教育ゼミナール（スポーツ科学）	2
キャリア入門	2
キャリア・ディスカバリー	2
みんなのコミュニケーションA	2
みんなのコミュニケーションB	2
Inclusive Communication	2
みんなで学ぶ国際ビジネス事情	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
仏教SDGs概論	2
アントレプレナーシップ入門	2
テクノロジーと事業創出	2
ソーシャルインパクト概論	2
協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2
アカデミック・ライティング入門	2

ボランティア・NPO入門	2
仏教美術入門A	2
仏教美術入門B	2
サンスクリット語仏典入門A1	2
サンスクリット語仏典入門A2	2
チベット語仏典入門A1	2
チベット語仏典入門A2	2
古典文学講読(A)A	2
古典文学講読(A)B	2
近代文学講読(C)A	2
近代文学講読(C)B	2
情報出版学講読(B)A	2
脳と心	2
仏教と心理学	2
経済英語Ⅰ	2
経済英語Ⅱ	2
経済英語Ⅲ	2
経済社会論入門	2
地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）	4
地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）	2
留学英語Ⅰ	4
留学英語Ⅱ	2
留学英語Ⅲ	4
留学英語Ⅳ	2
経営科学	2
社会データ分析	2
ワークルール入門	2
消費者問題論	2
比較社会政策	2
国際ビジネス論	2
地域レジリエンス論	2

地域課題発見演習	4
会話分析入門A	2
会話分析入門B	2
言語習得論	2
異文化間コミュニケーション論	2
Introduction to Sociolinguistics	2
国際関係入門	2
政治思想概論	2
国際開発協力論	2
Introduction to Cultural Anthropology	2
文化遺産学	2
南アジアの言語	2
グローバリゼーションとアフリカ	2
グローバリゼーションと東アジア	2
グローバリゼーションと南アジア	2
グローバリゼーションとヨーロッパ	2
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2
グローバル・ガバナンス論	2
宗教文化学入門	2
日本語教育入門	2
世界文学入門	2
都市計画入門	2
自然人類学入門	2
理工学のすすめ	2
差別と排除の社会学	2
市民社会の歴史と現在	2
社会学の歴史と理論	2
アートと社会	2
宗教社会学	2
子ども社会学	2
社会参画技法	2

社会起業演習A	2
社会起業演習B	2
音楽社会学	2
カルチュラルスタディーズ	2
情報社会論	2
デジタルメディア論	2
農業を支える植物細胞の力	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Global Understanding in English	4
自然保護論	2
教養教育科目特別講義	4
特別講座	4
English language(RISE)	12
Cultural Adaptation(RISE)	2
Social Civic Engagement(RISE)	2
Applied Cultural Adaptation(RISE)	2

(2) 専攻科目

授業科目	単位数
裁判と人権	2
法哲学Ⅰ	2
法哲学Ⅱ	2
法社会学A	2
法社会学B	2
日本法制史A	2
日本法制史B	2
西洋法制史A	2
西洋法制史B	2
日本裁判制度史	2
法思想史A	2
法思想史B	2

外国法Ⅰ	2	
外国法Ⅱ	2	
生命倫理と法	2	
憲法ⅠA	2	
憲法ⅠB	2	
憲法ⅡA	2	
憲法ⅡB	2	
憲法Ⅲ	2	
行政法ⅠA	2	
行政法ⅠB	2	
行政法Ⅱ	2	
行政法Ⅲ	2	
地方自治法	2	
税法	2	
労働と法	2	
労働法ⅠA	2	
労働法ⅠB	2	
労働法Ⅱ	2	
社会保障法A	2	
社会保障法B	2	
環境と法	2	
宗教と法	2	
刑事法入門	2	
刑法ⅠA	2	
刑法ⅠB	2	
刑法ⅡA	2	
刑法ⅡB	2	
刑事政策	2	
刑事訴訟法ⅠA	2	
刑事訴訟法ⅠB	2	
刑事訴訟法Ⅱ	2	

少年法	2	
法と人間科学	2	
国際法Ⅰ	2	
国際法Ⅱ	2	
国際法Ⅲ	2	
国際法Ⅳ	2	
国際法Ⅴ	2	
民法（入門・総則Ⅰ）	2	
民法（総則Ⅱ）	2	
民法（物権Ⅰ）	2	
民法（物権Ⅱ）	2	
民法（債権Ⅰ）	2	
民法（債権Ⅱ）	2	
民法（債権Ⅲ）	2	
民法（親族）	2	
民法（相続）	2	
消費者法	2	
民事訴訟法ⅠA	2	
民事訴訟法ⅠB	2	
民事執行・保全法	2	
倒産法	2	
知的財産法	2	
不動産登記法	2	
商法ⅠA	2	
商法ⅠB	2	
商法Ⅱ	2	
商法Ⅲ	2	
商法Ⅳ	2	
経済法	2	
金融商品取引法	2	
国際取引法	2	

国際私法	4	
企業法務入門	2	
法律実務論A	2	
法律実務論B	4	
キャリアデザイン	2	
司法実務特別講義	2	
法律事務実務Ⅰ	2	
法律事務実務Ⅱ	2	
法律事務実務Ⅲ	2	
法律事務実務Ⅳ	2	
特別講義A	2	
特別講義B	2	
特別講義C	2	
特別講義D	2	
特別講義E	2	
特別講義F	2	
特別講義G	2	
特別講義H	2	
現代社会と政治	2	
現代世界の政治	2	
比較政治論	2	
政治学原論	2	
現代政治論	2	
政治思想史A	2	
政治思想史B	2	
日本政治史A	2	
日本政治史B	2	
西洋政治史A	2	
西洋政治史B	2	
マスコミ論Ⅰ	2	
マスコミ論Ⅱ	2	

行政学	2
公務員論	2
非営利非政府組織論	2
地方自治論	2
政策過程論	2
都市政策論	2
財政と公共政策	2
外交史	2
アメリカ政治論	2
ヨーロッパ政治論	2
中東政治論	2
国際政治論A	2
国際政治論B	2
アフリカ政治論	2
開発援助論	2
アジア政治論	2
企業のCSR　実践演習	2
環境政策論Ⅰ	2
地球環境政策論	2
スポーツ法学	2
スポーツ政策論	2
地域スポーツ論	2
国際関係論Ⅰ	2
国際ジャーナリズム論	2
ヨーロッパ研究A	2
ヨーロッパ研究B	2
ヨーロッパ研究C	2
ヨーロッパ研究D	2
東アジア研究A	2
東アジア研究B	2
東南アジア研究A	2

東南アジア研究B	2
北米研究A	2
北米研究B	2
中南米研究A	2
中南米研究B	2
法政応用英語入門A	2
法政応用英語入門B	2
法政応用英語発展A	2
法政応用英語発展B	2
外国文献研究A	2
外国文献研究B	2
Forum	2
Intercultural Discussion	2
Debate and Discussion	2
Public Speaking	2
Global PBL(RISE)	2
Advanced Global PBL(RISE)	4
基礎演習	2
法政入門演習	2
法政基本演習A	2
法政基本演習B	2
法政実践演習A	2
法政実践演習B	2
法政発展演習Ⅰ	2
法政発展演習Ⅱ	2
法政発展演習Ⅲ	2
法政発展演習Ⅳ	2
司法特修セミナーA	2
司法特修セミナーB	2
司法特修セミナーC	2
司法特修セミナーD	2

司法特修セミナーE	2
司法特修セミナーF	2
司法特修セミナーG	2
司法特修セミナーH	2
行政公務特修セミナーA	2
行政公務特修セミナーB	2
行政公務特修セミナーC	2
行政公務特修セミナーD	2
法政アクティブリサーチ	4
学生内外研修A	2
学生内外研修B	2
学生内外研修C	2
演習Ⅰ	4
演習Ⅱ	4
卒業研究	2
経済原論	4
社会政策A	2
社会政策B	2
地域経済論	4
経済史	4
公共経済学	4
日本経済論	4
地方財政論	4
金融論	4
アジア経済論A	2
アジア経済論B	2
国際経済学	4
国際協力論	4
日本経済史A	2
日本経済史B	2
ヨーロッパ経済史	4

政策立案論	4
国際NGO論	4
経営学総論	4
財務会計入門	2
財務会計論	2
経営学原理	2
経営組織論	2
コーポレートファイナンス入門	2
グローバルビジネス	2
ビジネスヒストリーA	2
簿記論Ⅰ	2
簿記論Ⅱ	2
入門ファイナンス	2
ビジネスヒストリーB	2
統計・数学入門	2
矯正概論	4
更生保護概論	4
成人矯正処遇	2
保護観察処遇	2
矯正教育学	4
矯正社会学	4
犯罪心理学	4
矯正医学	2
犯罪学	2
被害者学	4
青少年問題	2
アディクション論	2
Ryukoku Criminologyin English	2
日本史概説	4
外国史概説	4
倫理学概論	4

心理学概論	4
放送大学科目	8
特別講座	12

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

社会学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
仏教の世界	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA	2
英語セミナーB	2
英語セミナーC	2
英語セミナーD	2
英語セミナーE	2
英語セミナーF	2
英語セミナーG	2
英語セミナーH	2
英語セミナーI	2
英語セミナーJ	2
英語セミナーK	2
Culture through English 1	2

Current Topics through English 1	2
Culture through English 2	2
Current Topics through English 2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2

ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠC	2
フランス語セミナーⅠD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠC	2
中国語セミナーⅠD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーⅠA	2
スペイン語セミナーⅠB	2
スペイン語セミナーⅠC	2
スペイン語セミナーⅠD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2

スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠC	2
コリア語セミナーⅠD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
ラテン語Ⅰ	2
ラテン語Ⅱ	2
ギリシア語Ⅰ	2
ギリシア語Ⅱ	2
ペルシア語Ⅰ	2
ペルシア語Ⅱ	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2

哲学入門	2	
哲学A	2	
哲学B	2	
倫理学入門	2	
倫理学A	2	
倫理学B	2	
クリティカル・シンキング	2	
論理学	2	
宗教学入門	4	
宗教の世界A	2	
宗教の世界B	2	
アジアの思想A	2	
アジアの思想B	2	
芸術の世界A	2	
芸術の世界B	2	
日本の文学A	4	
日本の文学B	4	
日本の文学C	2	
アジアの文学A	2	
アジアの文学B	2	
西洋の文学A	2	
西洋の文学B	2	
文章表現法A	2	
文章表現法B	2	
言語と文化	2	
歴史学のすすめ	2	
歴史学	2	
日本の歴史A	2	
日本の歴史B	2	
日本の思想	2	
アジアの歴史A	4	

アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
アジア交流史	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学入門	4
心理学A	2
心理学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学A	2
教育学B	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
教養教育ゼミナール（人文科学）	4
大学論	2
グローバル・ヒストリー	2
文化交流論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2

国際学のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と法	2
現代社会と労働	2
現代社会の諸問題	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
地域論	2
企業と会計	2
社会思想史	2
グローバル・シチズンシップA（公共性・コミュニティ）	2
グローバル・シチズンシップB（民主主義）	2
グローバル・シチズンシップC（平和構築）	2
グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）	2
データサイエンス・AI入門	2
データサイエンス基礎	2
AI基礎	2
教養教育ゼミナール（社会科学）	2
社会課題発見演習	2
社会課題解決演習	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4
数理統計学	4

数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2
自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2
平和学B	2
里山学	2
生物科学のすすめ	4
生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2

環境学	4	
情報科学入門	2	
情報科学Ⅰ	2	
情報科学Ⅱ	2	
情報科学実習	4	
教養教育ゼミナール（自然科学）	2	
健康とスポーツ	2	
現代社会とスポーツ	2	
スポーツ技術学演習	2	
人間とスポーツ	2	
スポーツと人権・平和	2	
スポーツ文化史	2	
スポーツ科学最前線	2	
スポーツ科学のすすめ	2	
教養教育ゼミナール（スポーツ科学）	2	
キャリア入門	2	
キャリア・ディスカバリー	2	
みんなのコミュニケーションA	2	
みんなのコミュニケーションB	2	
Inclusive Communication	2	
みんなで学ぶ国際ビジネス事情	2	
英語で学ぶ日本の社会A	2	
英語で学ぶ日本の社会B	2	
仏教SDGs概論	2	
アントレプレナーシップ入門	2	
テクノロジーと事業創出	2	
ソーシャルインパクト概論	2	
協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2	
アカデミック・ライティング入門	2	
ボランティア・NPO入門	2	
仏教美術入門A	2	

仏教美術入門B	2
サンスクリット語仏典入門A1	2
サンスクリット語仏典入門A2	2
チベット語仏典入門A1	2
チベット語仏典入門A2	2
古典文学講読(A)A	2
古典文学講読(A)B	2
近代文学講読(C)A	2
近代文学講読(C)B	2
情報出版学講読(B)A	2
脳と心	2
仏教と心理学	2
経済英語Ⅰ	2
経済英語Ⅱ	2
経済英語Ⅲ	2
経済社会論入門	2
地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）	4
地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）	2
留学英語Ⅰ	4
留学英語Ⅱ	2
留学英語Ⅲ	4
留学英語Ⅳ	2
経営科学	2
社会データ分析	2
ワークルール入門	2
消費者問題論	2
比較社会政策	2
公務員論	2
国際ビジネス論	2
財政学	2
地方財政論	2

地域レジリエンス論	2
地域課題発見演習	4
会話分析入門A	2
会話分析入門B	2
言語習得論	2
異文化間コミュニケーション論	2
Introduction to Sociolinguistics	2
国際関係入門	2
政治思想概論	2
国際開発協力論	2
Introduction to Cultural Anthropology	2
文化遺産学	2
南アジアの言語	2
グローバリゼーションとアフリカ	2
グローバリゼーションと東アジア	2
グローバリゼーションと南アジア	2
グローバリゼーションとヨーロッパ	2
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2
グローバル・ガバナンス論	2
宗教文化学入門	2
日本語教育入門	2
世界文学入門	2
都市計画入門	2
自然人類学入門	2
理工学のすすめ	2
農業を支える植物細胞の力	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Global Understanding in English	4
Forum	2
自然保護論	2

教養教育科目特別講義	2
English language(RISE)	12
Cultural Adaptation(RISE)	2
Global PBL(RISE)	2
Social Civic Engagement(RISE)	2
Applied Cultural Adaptation(RISE)	2
Advanced Global PBL(RISE)	4

(2)　専攻科目

授業科目	単位数
基礎ゼミナールA	2
基礎ゼミナールB	2
社会学への招待	2
社会学概論	2
社会福祉学への招待	2
社会イノベーション実践論	2
共感とコミュニケーション	2
社会調査入門	2
社会統計学Ⅰ	2
ICTリテラシー実習A	1
ICTリテラシー実習B	1
公共社会学Ⅰ	2
公共社会学Ⅱ	2
社会学の歴史と理論	2
社会福祉原論	4
文化人類学	2
多様性の社会学	2
グローバルヒストリー	2
質的調査法	2
量的調査法	2
ソーシャルワークの基盤と専門職	2
社会参画技法	2

ICTリテラシー技法	2	
逸脱と犯罪の社会学	2	
ジェンダーと家族の社会学	2	
教育社会学	2	
階層と格差の社会学	2	
地域発展論	2	
政治経済学	2	
市民社会の歴史と現在	2	
環境社会学	2	
歴史と記憶の社会学	2	
差別と排除の社会学	2	
宗教社会学	2	
宗教学概論	4	
人文地理学	4	
社会探究実習	4	
観光社会学	2	
グローバリゼーションの社会学	2	
集団とネットワークの社会学	2	
地域社会学	2	
子ども社会学	2	
都市社会学	2	
情報社会論	2	
アートと社会	2	
音楽社会学	2	
文化と表象の社会学	2	
国際文化論	2	
カルチュラルスタディーズ	2	
ポピュラーカルチャー論	2	
文化とメディア	2	
メディア論	2	
メディア産業論	2	

社会問題とメディア	2
リスクコミュニケーション論	2
メディアの社会学	2
ジャーナリズム論	2
ジャーナリズム倫理	2
共生のジャーナリズム	2
人権とメディア	2
デジタルメディア論	2
ネット映像技法	2
アジアのメディア	2
防災とメディア	2
調査報道論	2
メディア史	2
メディアの技術史	2
コピーライティング論	2
ドキュメンタリー理論	2
ドキュメンタリー実践Ⅰ	2
ドキュメンタリー実践Ⅱ	2
映画論	2
メディアコンテンツ技法Ⅰ	2
メディアコンテンツ技法Ⅱ	4
文章表現の技術（基礎）	2
文章表現の技術（発展）	2
メディア・リテラシー	2
ジャーナリズムの作文技術	2
インタビュー技法	2
広報コミュニケーション論	2
広告と社会	2
ラジオ番組制作	2
映像制作演習	2
健康とライフスタイル	2

健康と病の社会学	2
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2
精神医学と精神医療	4
精神保健福祉制度論	2
精神保健福祉の原理	4
精神障害リハビリテーション論	2
現代生活と保健衛生	2
レクリエーション実技	1
アウトドアスポーツ演習A	2
アウトドアスポーツ演習B	2
クラブ活動演習	2
レクリエーション運営	2
地域とスポーツ	2
レクリエーション演習	2
スポーツ社会学	2
スポーツとビジネス	2
スポーツと身体	2
障害者スポーツ論	2
健康心理学	2
ヒューマンパフォーマンス心理学	2
スポーツ史	2
スポーツと文化	2
スポーツ組織と運営	2
コーチング論	2
スポーツメディア論	2
スポーツ政策論	2
刑事司法と福祉	2
高齢者福祉論	2
障害者福祉論	2
社会福祉調査の基礎	2

多文化共生論	2
貧困に対する支援	2
社会的企業論	2
社会保障論	4
医学概論	2
心理学と心理的支援	2
保健医療と福祉	2
地域福祉論	4
国際福祉論	2
福祉とケアの社会学	2
障害学	2
ボランティア・NPO論	2
児童福祉論	2
ソーシャルワークの理論と方法	4
喪失とグリーフケア	2
権利擁護を支える法制度	2
インクルーシブ教育（生涯学習支援基礎A）	2
インクルーシブ教育（生涯学習支援基礎B）	2
インクルーシブ教育（ダンス・ムーブメント療法A）	2
インクルーシブ教育（ダンス・ムーブメント療法B）	2
インクルーシブ教育（音楽療法A）	2
インクルーシブ教育（音楽療法B）	2
海外フィールドワーク	2
社会共生演習A	2
社会共生演習B	2
ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	4
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2
社会共生実習A	2

社会共生実習B	2
ソーシャルワーク実習Ⅰ	6
精神保健福祉援助実習	6
社会統計学Ⅱ	2
多変量解析	2
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	4
ソーシャルワーク演習Ⅱ	4
ソーシャルワーク演習Ⅲ	4
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2
ソーシャルワーク実習Ⅱ	2
福祉サービスの組織と経営	2
精神保健福祉援助技術論	4
精神保健福祉援助演習Ⅰ	2
精神保健福祉援助演習Ⅱ	4
日本史概説	4
外国史概説	4
自然地理学	4
地理学（地誌）	4
経済原論	4
哲学概論	4
法学概論	4
政治学概論	4
キャリアデザイン論	2
キャリアプランニング論	2
プロジェクトマネジメント論	2
労働と暮らしの社会政策	2
労働法	2
プレゼンテーション技法	2
ファシリテーション技法	2
キャリア実習	2

特別講座（大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラム）	4
社会起業演習A	2
社会起業演習B	2
矯正・保護入門	2
矯正概論A	2
矯正概論B	2
矯正教育学A	2
矯正教育学B	2
矯正社会学A	2
矯正社会学B	2
犯罪心理学A	2
犯罪心理学B	2
成人矯正処遇	2
更生保護概論A	2
更生保護概論B	2
保護観察処遇	2
青少年問題	2
犯罪学	2
卒業論文演習A	2
卒業論文演習B	2
卒業論文	4

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

政策学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
仏教の世界	2

真宗教団史	4
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA	2
英語セミナーB	2
英語セミナーC	2
英語セミナーD	2
英語セミナーE	2
英語セミナーF	2
英語セミナーG	2
英語セミナーH	2
英語セミナーI	2
英語セミナーJ	2
英語セミナーK	2
Culture through English 1	2
Current Topics through English 1	2
Culture through English 2	2
Current Topics through English 2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1

フランス語ⅢB	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠC	2
フランス語セミナーⅠD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2

フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠC	2
中国語セミナーⅠD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーⅠA	2
スペイン語セミナーⅠB	2
スペイン語セミナーⅠC	2
スペイン語セミナーⅠD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠC	2
コリア語セミナーⅠD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2

コリア語コミュニケーションⅡ	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
ラテン語Ⅰ	2
ラテン語Ⅱ	2
ギリシア語Ⅰ	2
ギリシア語Ⅱ	2
ペルシア語Ⅰ	2
ペルシア語Ⅱ	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
アジアの思想A	2

アジアの思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
西洋の文学C	2
西洋の文学D	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学のすすめ	2
歴史学	2
日本の歴史A	2
日本の歴史B	2
日本の思想	2
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
アジア交流史	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学入門	4
心理学A	2

心理学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学A	2
教育学B	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
教養教育ゼミナール（人文科学）	4
大学論	2
グローバル・ヒストリー	2
文化交流論	2
法学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2

現代社会の諸問題	2
地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
データサイエンス・AI入門	2
データサイエンス基礎	2
AI基礎	2
教養教育ゼミナール（社会科学）	2
社会課題発見演習	2
社会課題解決演習	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4
数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2
自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2

平和学B	2
里山学	2
生物科学のすすめ	4
生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
教養教育ゼミナール（自然科学）	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
スポーツ科学のすすめ	2

教養教育ゼミナール（スポーツ科学）	2
キャリア入門	2
キャリア・ディスカバリー	2
みんなのコミュニケーションA	2
みんなのコミュニケーションB	2
Inclusive Communication	2
みんなで学ぶ国際ビジネス事情	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
仏教SDGs概論	2
アントレプレナーシップ入門	2
テクノロジーと事業創出	2
ソーシャルインパクト概論	2
協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2
アカデミック・ライティング入門	2
ボランティア・NPO入門	2
仏教美術入門A	2
仏教美術入門B	2
サンスクリット語仏典入門A1	2
サンスクリット語仏典入門A2	2
チベット語仏典入門A1	2
チベット語仏典入門A2	2
古典文学講読(A)A	2
古典文学講読(A)B	2
近代文学講読(C)A	2
近代文学講読(C)B	2
情報出版学講読(B)A	2
脳と心	2
仏教と心理学	2
経済英語Ⅰ	2
経済英語Ⅱ	2

経済英語Ⅲ	2
経済社会論入門	2
地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）	4
地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）	2
留学英語Ⅰ	4
留学英語Ⅱ	2
留学英語Ⅲ	4
留学英語Ⅳ	2
経営科学	2
社会データ分析	2
ワークルール入門	2
会話分析入門A	2
会話分析入門B	2
言語習得論	2
異文化間コミュニケーション論	2
Introduction to Sociolinguistics	2
国際関係入門	2
政治思想概論	2
国際開発協力論	2
Introduction to Cultural Anthropology	2
文化遺産学	2
南アジアの言語	2
グローバリゼーションとアフリカ	2
グローバリゼーションと東アジア	2
グローバリゼーションと南アジア	2
グローバリゼーションとヨーロッパ	2
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2
グローバル・ガバナンス論	2
宗教文化学入門	2
日本語教育入門	2
世界文学入門	2

都市計画入門	2
自然人類学入門	2
理工学のすすめ	2
差別と排除の社会学	2
市民社会の歴史と現在	2
社会学の歴史と理論	2
アートと社会	2
宗教社会学	2
子ども社会学	2
社会参画技法	2
社会起業演習A	2
社会起業演習B	2
音楽社会学	2
カルチュラルスタディーズ	2
情報社会論	2
デジタルメディア論	2
農業を支える植物細胞の力	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Global Understanding in English	4
Forum	2
自然保護論	2
教養教育科目特別講義	4
特別講座	6
English language (RISE)	12
Cultural Adaptation(RISE)	2
Social Civic Engagement(RISE)	2
Applied Cultural Adaptation(RISE)	2

(2)　専攻科目

授業科目	単位数
基礎演習Ⅰ	2

基礎演習Ⅱ	2
コミュニケーション・ワークショップ演習	2
演習Ⅰ	6
演習Ⅱ（卒業研究含む）	4
キャリア・コミュニケーション演習	2
グローカル戦略実践演習	2
企業のCSR実践演習	2
政策学研究発展演習Ⅰ	4
政策学研究発展演習Ⅱ	4
政策学研究発展演習Ⅲ	4
政策学研究発展演習Ⅳ	4
政策学研究発展演習Ⅴ	4
政策実践・探究演習ⅠA（国内）	4
政策実践・探究演習ⅠA（海外）	4
政策実践・探究演習ⅡA（国内）	4
政策実践・探究演習ⅡA（海外）	4
政策実践・探究演習ⅠB（国内）	4
政策実践・探究演習ⅠB（海外）	4
政策実践・探究演習ⅡB（国内）	4
政策実践・探究演習ⅡB（海外）	4
地域課題発見演習	4
政策学を学ぶ	2
現代社会の市民性を学ぶ	2
持続可能性と共生を学ぶ	2
情報処理を学ぶ	2
グローバル・シチズンシップ・エデュケーションA	2
グローバル・シチズンシップ・エデュケーションB	2
グローバル・シチズンシップ・エデュケーションC	2
グローバル・シチズンシップ・エデュケーションD	2
政策学入門（政治学）	2
政策学入門（経済学）	2

政策学入門（法律学）	2
行政学	2
政策学のための統計・数学	2
地方自治論	2
憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2
環境経済学	2
地域経済学	2
財政学	2
国際政治学	2
経済学A（ミクロ経済学）	2
経済学B（マクロ経済学）	2
地域・都市政策総論	2
環境政策総論	2
地域公共人材総論	2
地域ガバナンス論	2
地方自治法	2
都市計画論	2
政策コミュニケーション論	2
価値創造論	2
地場産業論	2
文章技法の基礎を学ぶ	2
開発援助論	2
地方財政論	2
地域経済政策	2
都市再生政策	2
健康政策	2
文化・観光政策	2
コミュニティメディア政策	2
景観・まちなみ保存政策	2
比較地域政策論	2

アジアの地域・都市政策	2
欧州の環境政策	2
アジアの環境政策	2
科学技術政策	2
政策史	2
非営利非政府組織論	2
国際法	2
キャリアデザインのための企業研究	2
政策学のための文章技法	2
環境社会政策論	2
環境法政策	2
国際政治史	2
グローカル・コミュニケーション英語A	2
グローカル・コミュニケーション英語B	2
政策総合英語A	2
政策総合英語B	2
政策評価論	2
地域コミュニティ政策	2
比較社会政策	2
欧州の地域・都市政策	2
北米・中南米の地域・都市政策	2
交通運輸政策	2
保全生態学	2
環境社会学	2
政策過程論	2
公務員論	2
公共政策学	2
行政法	2
農村地域再生政策	2
環境エネルギー政策	2
社会的企業論	2

国際ビジネス論	2
地球環境政策論	2
言語政策	2
地域レジリエンス論	2
アジア政治論	2
刑事政策	2
民法入門	2
ヨーロッパ政治論	2
環境のための国際法	2
行政争訟法	2
労働法入門	2
国家補償法	2
環境と法	2
コンテンツビジネス実践Ⅰ	2
コンテンツビジネス実践Ⅱ	4
コンテンツビジネス論	2
初級商業簿記	2
矯正概論	4
更生保護概論	4
成人矯正処遇	2
保護観察処遇	2
矯正教育学	4
矯正社会学	4
犯罪心理学	4
矯正医学	2
犯罪学	2
被害者学	4
矯正・保護入門	2
青少年問題	2
Global PBL(RISE)	2
Advanced Global PBL(RISE)	4

キャリア実習・実習指導	2
留学生入門演習	2
地域公共人材特別講座	12
特別講座	12
放送大学科目	8

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

国際学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
仏教の世界	2
真宗教団史	4
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
アジアの思想A	2
アジアの思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2

日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
西洋の文学C	2
西洋の文学D	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学のすすめ	2
歴史学	2
日本の歴史A	2
日本の歴史B	2
日本の思想	2
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
アジア交流史	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学入門	4
心理学A	2
心理学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2

教育学A	2
教育学B	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
教養教育ゼミナール（人文科学）	4
大学論	2
グローバル・ヒストリー	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
現代社会の諸問題	2

地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
グローバル・シチズンシップA（公共性・コミュニティ）	2
グローバル・シチズンシップB（民主主義）	2
グローバル・シチズンシップC（平和構築）	2
グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）	2
データサイエンス・AI入門	2
データサイエンス基礎	2
AI基礎	2
教養教育ゼミナール（社会科学）	2
社会課題発見演習	2
社会課題解決演習	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4
数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2

自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2
平和学B	2
里山学	2
生物科学のすすめ	4
生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
教養教育ゼミナール（自然科学）	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2

スポーツ文化史	2	
スポーツ科学最前線	2	
スポーツ科学のすすめ	2	
教養教育ゼミナール（スポーツ科学）	2	
キャリア入門	2	
キャリア・ディスカバリー	2	
みんなのコミュニケーションA	2	
みんなのコミュニケーションB	2	
Inclusive Communication	2	
みんなで学ぶ国際ビジネス事情	2	
英語で学ぶ日本の社会A	2	
英語で学ぶ日本の社会B	2	
仏教SDGs概論	2	
アントレプレナーシップ入門	2	
テクノロジーと事業創出	2	
ソーシャルインパクト概論	2	
協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2	
アカデミック・ライティング入門	2	
ボランティア・NPO入門	2	
仏教美術入門A	2	
仏教美術入門B	2	
サンスクリット語仏典入門A1	2	
サンスクリット語仏典入門A2	2	
チベット語仏典入門A1	2	
チベット語仏典入門A2	2	
古典文学講読(A)A	2	
古典文学講読(A)B	2	
近代文学講読(C)A	2	
近代文学講読(C)B	2	
情報出版学講読(B)A	2	
脳と心	2	

仏教と心理学	2	
経済英語Ⅰ	2	
経済英語Ⅱ	2	
経済英語Ⅲ	2	
経済社会論入門	2	
地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）	4	
地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）	2	
留学英語Ⅰ	4	
留学英語Ⅱ	2	
留学英語Ⅲ	4	
留学英語Ⅳ	2	
経営科学	2	
社会データ分析	2	
ワークルール入門	2	
消費者問題論	2	
比較社会政策	2	
公務員論	2	
国際ビジネス論	2	
財政学	2	
地方財政論	2	
地域レジリエンス論	2	
地域課題発見演習	4	
言語習得論	2	
政治思想概論	2	
国際開発協力論	2	
文化遺産学	2	
南アジアの言語	2	
グローバル・ガバナンス論	2	
宗教文化学入門	2	
日本語教育入門	2	
世界文学入門	2	

都市計画入門	2
理工学のすすめ	2
差別と排除の社会学	2
市民社会の歴史と現在	2
社会学の歴史と理論	2
アートと社会	2
宗教社会学	2
子ども社会学	2
社会参画技法	2
社会起業演習A	2
社会起業演習B	2
音楽社会学	2
カルチュラルスタディーズ	2
情報社会論	2
デジタルメディア論	2
農業を支える植物細胞の力	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Global Understanding in English	4
Forum	2
自然保護論	2
海外英語研修	2
教養教育科目特別講義	4

(2)　専攻科目

①　国際文化学科

授業科目	単位数
English Communication　I　—Speaking	1
English Communication　I　—Writing	1
English Communication　I　—Reading	1
English Communication　I　—Seminar A	2
English Communication　I　—Seminar B	2

English Communication Ⅱ —Speaking	1
English Communication Ⅱ —Writing	1
English Communication Ⅱ —Reading	1
English Communication Ⅱ —Seminar A	2
English Communication Ⅱ —Seminar B	2
English Communication Ⅲ —Speaking	1
English Communication Ⅲ —Writing	1
English Communication Ⅲ —Reading	1
English Communication Ⅳ —Speaking	1
English Communication Ⅳ —Writing	1
English Communication Ⅳ —Reading	1
フランス語Ⅰ	3
フランス語Ⅱ	3
フランス語Ⅲ	3
フランス語Ⅳ	3
中国語Ⅰ	3
中国語Ⅱ	3
中国語Ⅲ	3
中国語Ⅳ	3
コリア語Ⅰ	3
コリア語Ⅱ	3
コリア語Ⅲ	3
コリア語Ⅳ	3
日本語Ⅰ	3
日本語Ⅱ	3
日本語Ⅲ	3
日本語Ⅳ	3
日本語セミナーA	2
日本語セミナーB	2
日本語セミナーC	2
日本語セミナーD	2

語学研修A（英語）	2
語学研修B（英語）	4
語学研修A（フランス語）	2
語学研修B（フランス語）	4
語学研修A（中国語）	2
語学研修B（中国語）	4
語学研修A（コリア語）	2
語学研修B（コリア語）	4
English Language (RISE)	12
リサーチセミナーⅠ	2
リサーチセミナーⅡ	2
調査分析の基礎A	2
調査分析の基礎B	2
キャリアデザイン入門	2
東西文化交流入門	2
宗教学概論	2
自然人類学入門	2
環境共生論入門	2
都市計画入門	2
社会心理学	2
言語論A	2
宗教の世界史	2
東アジアの地域交流	2
社会学入門	2
文化人類学入門	2
映像文化入門	2
大衆文化入門	2
比較演劇入門	2
世界文学入門	2
比較文化入門	2
国際政治入門	2

観光学入門	2
日本語教育入門	2
国際文化学特別講義A	2
キャリア実習・実習指導	2
English Workshop A	2
English Workshop B	2
English Workshop C	2
English Workshop D	2
上級英語A	2
上級英語B	2
Advanced English A	2
Advanced English B	2
Advanced English C	2
Advanced English D	2
英語外書講読A	2
英語外書講読B	2
Exploring Cultures	2
フランス語セミナーⅠ	4
フランス語セミナーⅡ	4
フランス語セミナーⅢ	4
中国語セミナーⅠ	4
中国語セミナーⅡ	4
中国語セミナーⅢ	4
コリア語セミナーⅠ	4
コリア語セミナーⅡ	4
コリア語セミナーⅢ	4
日本語セミナーE	2
日本語セミナーF	2
日本語セミナーG	2
日本語セミナーH	2
ペルシア語セミナーⅠ	2

ペルシア語セミナーⅡ	2	
トルコ語セミナーⅠ	2	
トルコ語セミナーⅡ	2	
アラビア語セミナーⅠ	2	
アラビア語セミナーⅡ	2	
アラビア語セミナーⅢ	2	
スペイン語セミナーⅠ	2	
スペイン語セミナーⅡ	2	
ドイツ語セミナーⅠ	2	
ドイツ語セミナーⅡ	2	
ロシア語セミナーⅠ	2	
ロシア語セミナーⅡ	2	
ロシア語セミナーⅢ	2	
ロシア語セミナーⅣ	2	
ポルトガル語セミナーⅠ	2	
ポルトガル語セミナーⅡ	2	
ポルトガル語セミナーⅢ	2	
ポルトガル語セミナーⅣ	2	
実践フランス語A	2	
実践フランス語B	2	
実践フランス語C	2	
実践フランス語D	2	
実践中国語A	2	
実践中国語B	2	
実践中国語C	2	
実践中国語D	2	
実践コリア語A	2	
実践コリア語B	2	
実践コリア語C	2	
実践コリア語D	2	
比較宗教論A（仏教）	2	

比較宗教論B（キリスト教）	2	
比較宗教論C（イスラーム）	2	
現代社会と宗教A	2	
現代社会と宗教B	2	
宗教と共生社会	2	
宗教と民俗文化	2	
宗教と芸術	2	
国際関係と宗教	2	
宗教文化の交流	2	
アジアの宗教文化	2	
中央アジアの文化	2	
イスラームの歴史と文化	2	
世界の宗教と日本	2	
日本の宗教思想	2	
比較宗教思想	2	
日本語論文表現A	2	
日本語論文表現B	2	
日本語から見た歴史と文化	2	
日本語教育実践	2	
京ことばと京文化	2	
音声学概論	2	
比較言語学	2	
日本の言語文化	2	
日本の近現代と国際関係	2	
日本の経済と社会	2	
アジアの文化遺産	2	
東アジアの古代文化	2	
東北アジアの地域文化	2	
東西文化交渉論	2	
国際経済と日本	2	
オセアニアと日本	2	

世界と日本の民俗	2
都市計画	2
都市と住まい	2
住環境計画	2
環境人類学	2
環境保全論	2
北米の文化と社会A	2
北米の文化と社会B	2
NGO/NPO論	2
自然と文化	2
Race and Ethnicity入門	2
日本の思想	2
マイグレーション研究A（多文化共生社会）	2
マイグレーション研究B（社会統合論）	2
マイグレーション研究C（国際労働移動）	2
グローバル社会学	2
社会調査法	2
TVCMと社会	2
映像文化論	2
比較文化史	2
アメリカ映画論	2
表象文化論	2
アジアの大衆文化	2
北米メディア論	2
国際比較文化論	2
現代ジャーナリズム論	2
情報化とプロパガンダ	2
情報文化論	2
情報技術と未来社会	2
芸術表現特殊講義A	2
芸術表現特殊講義B	2

芸術表現特殊講義C	2	
芸術表現特殊講義D	2	
芸術表現特殊講義E	2	
芸術表現特殊講義F	2	
芸術表現法A	2	
芸術表現法B	2	
芸術表現法C	2	
グローバル・アートA	2	
グローバル・アートB	2	
グローバル・アートC	2	
グローバル・アートD	2	
グローバル・アートE	2	
グローバル・アートF	2	
グローバル・アートG	2	
アート・マネジメントA	2	
アート・マネジメントB	2	
観光社会論	2	
国際観光論	2	
ホスピタリティ論	2	
観光心理学	2	
観光文化論A	2	
観光文化論B	2	
京都観光学A	2	
京都観光学B	2	
文化・観光政策	2	
旅行の法律	2	
旅行の契約	2	
国内旅行の実務	2	
海外旅行の実務	2	
リサーチセミナーⅢ	2	
海外研修（異文化交流）	2	

専門演習A	2
専門演習B	2
卒論演習A	3
卒論演習B	3
国際文化Study Project A	2
国際文化Study Project B	2
国際文化Study Project C	2
国際文化Study Project D	2
グローバル時代のキャリアデザイン	2
国際文化学特別講義B	2
会話分析入門A	2
会話分析入門B	2
心理言語学	2
応用言語学	2
Contemporary Literature	2
国際関係入門	2
Introdiction to Sociolinguistics	2
Introduction to Cultural Anthropology	2
グローバリゼーションとアフリカ	2
グローバリゼーションと東アジア	2
グローバリゼーションと南アジア	2
グローバリゼーションとヨーロッパ	2
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2
国際政治経済学	2
異文化間コミュニケーション論	2
言語教育政策論	2
英語教育特殊研究	2
Career English	2
Critical Reading	2
Study Abroad Project A	6
Study Abroad Project B	6

Cultural Adaptation (RISE)	2
Global PBL (RISE)	2
Social Civic Engagement (RISE)	2
Applied Cultural Adaptation (RISE)	2
Advanced Global PBL (RISE)	4

② グローバルスタディーズ学科

授業科目	単位数
英語(Reading) I	2
英語(Writing) I	2
英語（Oral Communication） I	2
英語(Reading) II	2
英語(Writing) II	2
英語（Oral Communication） II	2
Business English through TOEIC（Basic A）	2
Business English through TOEIC（Basic B）	2
Academic English through IELTS（Basic A）	2
Academic English through IELTS（Basic B）	2
Business English through TOEIC（Advanced A）	2
Business English through TOEIC（Advanced B）	2
Academic English through IELTS（Advanced A）	2
Academic English through IELTS（Advanced B）	2
Career English	2
リサーチ方法論A	2
リサーチ方法論B	2
ITリテラシーA	2
ITリテラシーB	2
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズB	2
グローバルスタディーズC	2
グローバルスタディーズD	2
宗教学概論	2

会話分析入門A	2
会話分析入門B	2
言語習得論	2
異文化間コミュニケーション論	2
Contemporary Literature	2
Discussion ＆ Debate	2
Advanced Writing Strategies	2
Critical Reading	2
Introduction to Sociolinguistics	2
心理言語学	2
応用言語学	2
言語教育政策論	2
通訳・翻訳研究A	2
通訳・翻訳研究B	2
English for Global Studies	2
Global Englishes and Communication	2
英語教育特殊研究	2
国際関係入門	2
政治思想概論	2
国際開発協力論	2
グローバル・ヒストリー入門	2
Introduction to Cultural Anthropology	2
Globalization of Education	2
Postcolonialism	2
Sustainability Studies	2
ナショナリズム研究	2
国際政治経済学	2
多国籍企業論	2
安全保障論	2
文化遺産学	2
国際人権論	2

グローバリゼーションとエシックス	2
グローバル市民社会論	2
南アジアの言語	2
グローバリゼーションとアフリカ	2
グローバリゼーションと東アジア	2
グローバリゼーションと南アジア	2
グローバリゼーションとヨーロッパ	2
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2
グローバル・ガバナンス論	2
宗教文化学入門	2
グローバル・キャリア入門	2
キャリア実習・実習指導	2
実践フランス語A	2
実践フランス語B	2
実践中国語A	2
実践中国語B	2
実践コリア語A	2
実践コリア語B	2
ペルシア語セミナーⅠ	2
ペルシア語セミナーⅡ	2
トルコ語セミナーⅠ	2
トルコ語セミナーⅡ	2
アラビア語セミナーⅠ	2
アラビア語セミナーⅡ	2
アラビア語セミナーⅢ	2
スペイン語セミナーⅠ	2
スペイン語セミナーⅡ	2
ドイツ語セミナーⅠ	2
ドイツ語セミナーⅡ	2
自然人類学入門	2
社会心理学	2

宗教の世界史	2
社会学入門	2
文化人類学入門	2
映像文化入門	2
大衆文化入門	2
世界文学入門	2
比較文化入門	2
English Workshop A	2
English Workshop B	2
English Workshop C	2
English Workshop D	2
上級英語A	2
上級英語B	2
Advanced English A	2
Advanced English B	2
Advanced English C	2
Advanced English D	2
東西文化交渉論	2
宗教文化の交流	2
宗教と共生社会	2
環境人類学	2
環境保全論	2
国際関係と宗教	2
NGO／NPO論	2
国際政治入門	2
都市計画	2
比較宗教思想	2
英語外書講読A	2
英語外書講読B	2
比較言語学	2
Exploring Culture	2

日本の経済と社会	2
マイグレーション研究C（国際労働移動）	2
国際経済と日本	2
Race and Ethnicity入門	2
オセアニアと日本	2
マイグレーション研究A（多文化共生社会）	2
観光学入門	2
観光社会論	2
国際観光論	2
ホスピタリティ論	2
観光心理学	2
観光文化論A	2
観光文化論B	2
グローバル化とキャリア形成	2
海外キャリア実践Ⅰ	2
海外キャリア実践Ⅱ	4
Study Abroad Project A	6
Study Abroad Project B	6
海外研修	4
プロジェクト演習	2
演習Ⅰ	2
演習Ⅱ	2
演習Ⅲ	2
演習Ⅳ	2
卒業論文	4

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

農学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2

仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
仏教の世界	2
真宗教団史	4
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA	2
英語セミナーB	2
英語セミナーC	2
英語セミナーD	2
英語セミナーE	2
英語セミナーF	2
英語セミナーG	2
海外英語研修	2
ドイツ語ⅠA	1
ドイツ語ⅠB	1
ドイツ語ⅡA	1
ドイツ語ⅡB	1
フランス語ⅠA	1
フランス語ⅠB	1
フランス語ⅡA	1
フランス語ⅡB	1
中国語ⅠA	1
中国語ⅠB	1
中国語ⅡA	1
中国語ⅡB	1

コリア語ＩA	1
コリア語ＩB	1
コリア語ⅡA	1
コリア語ⅡB	1
スペイン語ＩA	1
スペイン語ＩB	1
スペイン語ⅡA	1
スペイン語ⅡB	1
ドイツ語セミナーＩA	2
ドイツ語セミナーＩB	2
フランス語セミナーＩA	2
フランス語セミナーＩB	2
中国語セミナーＩA	2
中国語セミナーＩB	2
コリア語セミナーＩA	2
コリア語セミナーＩB	2
スペイン語セミナーＩA	2
スペイン語セミナーＩB	2
哲学入門	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
宗教学のすすめ	2
宗教の世界	2
日本の文学	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
西洋の文学C	2

西洋の文学D	2
言語学入門	2
歴史学のすすめ	2
日本の歴史	2
日本の文化	2
アジアの歴史	2
アジアの文化	2
西洋の歴史	2
心理学入門	2
心理学A	2
心理学B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
グローバル・ヒストリー	2
文化交流論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2

現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
現代社会と労働	2
現代社会の諸問題	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
地域論	2
企業と会計	2
社会思想史	2
情報倫理	2
情報社会とメディア	2
データサイエンス・AI入門	2
データサイエンス基礎	2
AI基礎	2
グローバル・シチズンシップA（公共性・コミュニティ）	2
グローバル・シチズンシップB（民主主義）	2
グローバル・シチズンシップC（平和構築）	2
グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）	2
教養教育ゼミナール（社会科学）	2
社会課題発見演習	2
社会課題解決演習	2
生活の中の数学	2
生活の中の統計技術	2
生活の中の化学	2
生活の中の物理	2
生活の中の生物学	2
生活の中の地学	2
現代の技術	2
生命と科学	2

自然観察法	2
里山学	2
環境の科学	2
人類の科学	2
情報と人間	2
現代社会と栄養	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学A	1
スポーツ技術学B	1
スポーツ文化論	2
スポーツ科学のすすめ	2
教養教育科目特別講義	8
キャリア入門	2
キャリア・ディスカバリー	2
みんなのコミュニケーションA	2
みんなのコミュニケーションB	2
Inclusive Communication	2
みんなで学ぶ国際ビジネス事情	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
仏教SDGs概論	2
アントレプレナーシップ入門	2
テクノロジーと事業創出	2
ソーシャルインパクト概論	2
協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2
アカデミック・ライティング入門	2
ボランティア・NPO入門	2
仏教美術入門A	2
仏教美術入門B	2
サンスクリット語仏典入門A1	2

サンスクリット語仏典入門A2	2
チベット語仏典入門A1	2
チベット語仏典入門A2	2
古典文学講読(A)A	2
古典文学講読(A)B	2
近代文学講読(C)A	2
近代文学講読(C)B	2
情報出版学講読(B)A	2
脳と心	2
仏教と心理学	2
経済英語Ⅰ	2
経済英語Ⅱ	2
経済英語Ⅲ	2
経済社会論入門	2
地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）	4
地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）	2
留学英語Ⅰ	4
留学英語Ⅱ	2
留学英語Ⅲ	4
留学英語Ⅳ	2
経営科学	2
社会データ分析	2
ワークルール入門	2
消費者問題論	2
比較社会政策	2
公務員論	2
国際ビジネス論	2
財政学	2
地方財政論	2
地域レジリエンス論	2
地域課題発見演習	4

会話分析入門A	2	
会話分析入門B	2	
言語習得論	2	
異文化間コミュニケーション論	2	
Introduction to Sociolinguistics	2	
国際関係入門	2	
政治思想概論	2	
国際開発協力論	2	
Introduction to Cultural Anthropology	2	
文化遺産学	2	
南アジアの言語	2	
グローバリゼーションとアフリカ	2	
グローバリゼーションと東アジア	2	
グローバリゼーションと南アジア	2	
グローバリゼーションとヨーロッパ	2	
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2	
グローバル・ガバナンス論	2	
宗教文化学入門	2	
日本語教育入門	2	
世界文学入門	2	
都市計画入門	2	
自然人類学入門	2	
理工学のすすめ	2	
差別と排除の社会学	2	
市民社会の歴史と現在	2	
社会学の歴史と理論	2	
アートと社会	2	
宗教社会学	2	
子ども社会学	2	
社会参画技法	2	
社会起業演習A	2	

社会起業演習B	2
音楽社会学	2
カルチュラルスタディーズ	2
情報社会論	2
デジタルメディア論	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Global Understanding in English	4
Forum	2
自然保護論	2
English language (RISE)	12
Cultural Adaptation (RISE)	2
Global PBL (RISE)	2
Social Civic Engagement (RISE)	2
Applied Cultural Adaptation (RISE)	2
Advanced Global PBL (RISE)	4

(2) 専攻科目

① 生命科学科

授業科目	単位数
農学概論	2
食と農の倫理	2
食の循環実習Ⅰ	2
食の循環実習Ⅱ	2
農業を支える植物細胞の力	2
有機化学	2
分析化学	2
社会福祉論	2
食品の安全と法律	2
食と嗜好の科学	2
食の文化論	2
暮らしの中の食品学	2

身体のしくみと栄養	2
調理のサイエンス	2
日本・京滋の食料と農業	2
欧米の食料と農業	2
アジア・アフリカの食料と農業	2
日本の歴史と農業	2
世界の歴史と農業	2
科学史・農学史入門	2
くらしと経済	2
会社と農家のしくみ	2
事例に学ぶ食品マーケティング	2
大学の学びとキャリア	2
キャリア形成論	2
情報教育論	2
地学概論	2
物理学概論	2
化学概論	2
生物物理学	2
地学実験	2
物理学実験	1
生物物理学実習	1
入門ゼミ	2
基礎演習Ⅰ	2
基礎演習Ⅱ	2
生物学基礎	2
遺伝学Ⅰ	2
植物育種学	2
植物生理・生化学Ⅰ	2
作物学Ⅰ	2
収穫後生理学	2
植物病理学Ⅰ	2

身近な植物	2
森林生態学	2
雑草学Ⅰ	2
飢饉・救荒論	2
昆虫学Ⅰ	2
虫と農業	2
土壌学Ⅰ	2
微生物学Ⅰ	2
生物統計学	2
農業気象学	2
畜産学概論	2
水産学概論	2
農業環境工学	2
基礎生物学実習	2
基礎化学実習	2
遺伝学Ⅱ	2
分子育種学Ⅰ	2
分子育種学Ⅱ	2
園芸学基礎	2
果樹園芸学	2
分子生物学	2
植物生理・生化学Ⅱ	2
ゲノム情報学Ⅰ	2
ゲノム情報学Ⅱ	2
ゲノム工学	2
植物資源学	2
植物栄養学Ⅰ	2
植物―微生物相互作用学	2
線虫学Ⅰ	2
線虫学Ⅱ	2
農薬学	2

昆虫学Ⅱ	2
微生物学Ⅱ	2
生命科学実習A	2
生命科学実習B	2
農学部キャリア実習A	2
農学部キャリア実習B	1
海外農業体験実習A	2
海外農業体験実習B	2
農学部特別実習A	2
農学部特別実習B	2
農学部特別実習C	1
農学部特別講義	2
総合演習Ⅰ	2
総合演習Ⅱ	2
総合演習Ⅲ	2
特別研究	6

② 農学科

授業科目	単位数
農学概論	2
食と農の倫理	2
食の循環実習Ⅰ	2
食の循環実習Ⅱ	2
農業を支える植物細胞の力	2
有機化学	2
分析化学	2
社会福祉論	2
食品の安全と法律	2
食と嗜好の科学	2
食の文化論	2
暮らしの中の食品学	2
身体のしくみと栄養	2

調理のサイエンス	2
日本・京滋の食料と農業	2
欧米の食料と農業	2
アジア・アフリカの食料と農業	2
日本の歴史と農業	2
世界の歴史と農業	2
科学史・農学史入門	2
くらしと経済	2
会社と農家のしくみ	2
事例に学ぶ食品マーケティング	2
大学の学びとキャリア	2
キャリア形成論	2
情報教育論	2
地学概論	2
物理学概論	2
化学概論	2
生物物理学	2
地学実験	2
物理学実験	1
生物物理学実習	1
入門ゼミ	2
基礎演習Ⅰ	2
基礎演習Ⅱ	2
生物学基礎	2
遺伝学Ⅰ	2
植物育種学	2
植物生理・生化学Ⅰ	2
作物学Ⅰ	2
収穫後生理学	2
植物病理学Ⅰ	2
身近な植物	2

森林生態学	2
雑草学Ⅰ	2
飢饉・救荒論	2
虫と農業	2
土壌学Ⅰ	2
発酵醸造学	2
生物統計学	2
農業気象学	2
畜産学概論	2
水産学概論	2
農業環境工学	2
基礎生物学実習	2
基礎化学実習	2
植物資源学	2
花卉園芸学	2
分子育種学Ⅰ	2
分子育種学Ⅱ	2
作物学Ⅱ	2
園芸学基礎	2
野菜園芸学	2
果樹園芸学	2
雑草学Ⅱ	2
植物栄養学Ⅰ	2
植物栄養学Ⅱ	2
土壌学Ⅱ	2
応用昆虫学	2
植物病理学Ⅱ	2
線虫学Ⅰ	2
線虫学Ⅱ	2
農薬学	2
農場実習	2

農学専門実験	2
農学部キャリア実習A	2
農学部キャリア実習B	1
海外農業体験実習A	2
海外農業体験実習B	2
農学部特別実習A	2
農学部特別実習B	2
農学部特別実習C	1
農学部特別講義	2
総合演習Ⅰ	2
総合演習Ⅱ	2
総合演習Ⅲ	2
特別研究	6

③　食品栄養学科

授業科目	単位数
農学概論	2
食と農の倫理	2
食の循環実習Ⅰ	2
食の循環実習Ⅱ	2
社会福祉論	2
食品の安全と法律	2
食と嗜好の科学	2
食の文化論	2
収穫後生理学	2
植物病理学Ⅰ	2
身近な植物	2
森林生態学	2
雑草学Ⅰ	2
飢饉・救荒論	2
昆虫学Ⅰ	2
虫と農業	2

土壌学Ⅰ	2
微生物学Ⅰ	2
生物統計学	2
農業気象学	2
畜産学概論	2
水産学概論	2
農業環境工学	2
農業を支える植物細胞の力	2
分子から見た生命	2
遺伝の考え方	2
園芸作物の科学	2
植物栽培の考え方	2
生活を支える微生物の力	2
日本・京滋の食料と農業	2
欧米の食料と農業	2
アジア・アフリカの食料と農業	2
日本の歴史と農業	2
世界の歴史と農業	2
科学史・農学史入門	2
くらしと経済	2
会社と農家のしくみ	2
事例に学ぶ食品マーケティング	2
大学の学びとキャリア	2
キャリア形成論	2
情報教育論	2
地学概論	2
物理学概論	2
化学概論	2
生物物理学	2
生物物理学実習	1
入門ゼミ	2

管理栄養士基礎演習	2
科学英語	2
健康管理概論	2
公衆衛生学Ⅰ	2
公衆衛生学Ⅱ	2
生化学	2
分子栄養学	2
解剖生理学	2
運動生理学	2
臨床医学概論	2
臨床病態学	2
微生物学	2
食品化学	2
食品学	2
食品機能・加工論	2
食品衛生学	2
調理学	2
有機化学	2
分析化学	2
基礎生物化学	2
生化学実験	1
解剖生理学実験	1
栄養生理学実験	1
微生物学実験	1
食品学実験Ⅰ	1
食品学実験Ⅱ	1
食品加工学実習	1
食品衛生学実験	1
調理学実習Ⅰ	1
調理学実習Ⅱ	1
基礎栄養学	2

応用栄養学	2	
ライフステージ栄養学	2	
栄養評価論	2	
スポーツ栄養学	2	
栄養教育論Ⅰ	2	
栄養教育論Ⅱ	2	
栄養カウンセリング論	2	
学校栄養指導論	2	
学校栄養実践論	2	
臨床栄養学Ⅰ	2	
臨床栄養学Ⅱ	2	
臨床栄養学Ⅲ	2	
臨床栄養管理学	2	
臨床栄養実践論	2	
公衆栄養学	2	
公衆栄養活動論	2	
栄養疫学	2	
給食経営管理論Ⅰ	2	
給食経営管理論Ⅱ	2	
管理栄養士総合演習	2	
臨地実習指導	1	
基礎栄養学実習	1	
応用栄養学実習	1	
栄養教育論実習	1	
臨床栄養学実習Ⅰ	1	
臨床栄養学実習Ⅱ	1	
公衆栄養学実習	1	
給食経営管理実習Ⅰ	1	
給食経営管理実習Ⅱ	1	
給食経営管理実習（校外）	1	
臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）	1	

臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	1
臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	2
特別臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）	1
特別臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	1
特別臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	1
農学部キャリア実習A	2
農学部キャリア実習B	1
海外農業体験実習A	2
海外農業体験実習B	2
農学部特別実習A	2
農学部特別実習B	2
農学部特別実習C	1
農学部特別講義	2
総合演習Ⅰ	2
総合演習Ⅱ	2
総合演習Ⅲ	2
特別研究	6

④　食料農業システム学科

授業科目	単位数
農学概論	2
食と農の倫理	2
食の循環実習Ⅰ	2
食の循環実習Ⅱ	2
収穫後生理学	2
植物病理学Ⅰ	2
身近な植物	2
森林生態学	2
雑草学Ⅰ	2
飢饉・救荒論	2
昆虫学Ⅰ	2
虫と農業	2

土壌学Ⅰ	2	
微生物学Ⅰ	2	
農業気象学	2	
畜産学概論	2	
水産学概論	2	
農業環境工学	2	
農業を支える植物細胞の力	2	
分子から見た生命	2	
遺伝の考え方	2	
園芸作物の科学	2	
植物栽培の考え方	2	
生活を支える微生物の力	2	
社会福祉論	2	
食品の安全と法律	2	
食と嗜好の科学	2	
食の文化論	2	
暮らしの中の食品学	2	
身体のしくみと栄養	2	
調理のサイエンス	2	
大学の学びとキャリア	2	
キャリア形成論	2	
情報教育論	2	
入門ゼミ	2	
SDGsと食料農業システム概論	2	
基礎演習	2	
くらしと経済	2	
会社と農家のしくみ	2	
事例に学ぶ食品マーケティング	2	
ミクロ経済学	2	
マクロ経済学	2	
数学基礎	2	

統計処理実習	2
基礎統計学	2
基礎経営学	2
基礎会計学	2
基礎社会学	2
食料・農業経済学	2
日本・京滋の食料と農業	2
欧米の食料と農業	2
アジア・アフリカの食料と農業	2
日本の歴史と農業	2
世界の歴史と農業	2
科学史・農学史入門	2
農業政策論	2
地域農業経済論	2
環境経済学	2
熱帯農業論	2
国際食料需給論	2
国際農村発展論	2
国際協力論	2
アグリフードビジネス論	2
農企業経営論	2
フードビジネスマーケティング論	2
フードビジネスファイナンス論	2
農業組織団体論	2
農業法律学	2
食料流通システム論	2
食と農の安全安心論	2
農村社会学	2
食料環境社会学	2
ソーシャルキャピタル論	2
地域マネジメント論	2

比較食文化論	2
比較地域文化論	2
現代社会と食	2
食料農業システム実習A	2
食料農業システム実習B	2
食料農業システム実習C	2
食料農業システム実習D	2
食料農業システム実習E	2
食料農業システム実習F	2
農学部キャリア実習A	2
農学部キャリア実習B	1
海外農業体験実習A	2
海外農業体験実習B	2
農学部特別実習A	2
農学部特別実習B	2
農学部特別実習C	1
農学部特別講義	2
総合演習Ⅰ	2
総合演習Ⅱ	2
総合演習Ⅲ	2
総合演習Ⅳ	2
特別研究	6

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

理工学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2

仏教の世界	2	
真宗教団史	4	
英語総合1(A)	1	
英語総合1(B)	1	
英語総合2(A)	1	
英語総合2(B)	1	
英語総合3	1	
英語総合4	1	
英語セミナーA	2	
英語セミナーB	2	
英語セミナーC	2	
英語セミナーD	2	
英語セミナーE	2	
英語セミナーF	2	
英語セミナーG	2	
海外英語研修	2	
ドイツ語ⅠA	1	
ドイツ語ⅠB	1	
ドイツ語ⅡA	1	
ドイツ語ⅡB	1	
フランス語ⅠA	1	
フランス語ⅠB	1	
フランス語ⅡA	1	
フランス語ⅡB	1	
中国語ⅠA	1	
中国語ⅠB	1	
中国語ⅡA	1	
中国語ⅡB	1	
コリア語ⅠA	1	
コリア語ⅠB	1	
コリア語ⅡA	1	

コリア語ⅡB	1
スペイン語ⅠA	1
スペイン語ⅠB	1
スペイン語ⅡA	1
スペイン語ⅡB	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
スペイン語セミナーⅠA	2
スペイン語セミナーⅠB	2
哲学入門	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
宗教学のすすめ	2
宗教の世界	2
日本の文学	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
西洋の文学C	2
西洋の文学D	2
言語学入門	2
歴史学のすすめ	2

日本の歴史	2
日本の文化	2
アジアの歴史	2
アジアの文化	2
西洋の歴史	2
心理学入門	2
心理学A	2
心理学B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
グローバル・ヒストリー	2
文化交流論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
現代社会と労働	2

現代社会の諸問題	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
地域論	2
企業と会計	2
社会思想史	2
情報倫理	2
情報社会とメディア	2
データサイエンス・AI入門	2
データサイエンス基礎	2
AI基礎	2
グローバル・シチズンシップA（公共性・コミュニティ）	2
グローバル・シチズンシップB（民主主義）	2
グローバル・シチズンシップC（平和構築）	2
グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）	2
教養教育ゼミナール（社会科学）	2
社会課題発見演習	2
社会課題解決演習	2
生活の中の数学	2
生活の中の統計技術	2
生活の中の化学	2
生活の中の物理	2
生活の中の生物学	2
生活の中の地学	2
現代の技術	2
生命と科学	2
自然観察法	2
里山学	2
植物の自然誌	2

環境の科学	2
人類の科学	2
情報と人間	2
現代社会と栄養	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学A	1
スポーツ技術学B	1
スポーツ文化論	2
スポーツ科学のすすめ	2
教養教育科目特別講義	2
キャリア入門	2
キャリア・ディスカバリー	2
みんなのコミュニケーションA	2
みんなのコミュニケーションB	2
Inclusive Communication	2
みんなで学ぶ国際ビジネス事情	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
仏教SDGs概論	2
アントレプレナーシップ入門	2
テクノロジーと事業創出	2
ソーシャルインパクト概論	2
協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2
アカデミック・ライティング入門	2
ボランティア・NPO入門	2
仏教美術入門A	2
仏教美術入門B	2
サンスクリット語仏典入門A1	2
サンスクリット語仏典入門A2	2
チベット語仏典入門A1	2

チベット語仏典入門A2	2
古典文学講読(A)A	2
古典文学講読(A)B	2
近代文学講読(C)A	2
近代文学講読(C)B	2
情報出版学講読(B)A	2
脳と心	2
仏教と心理学	2
経済英語Ⅰ	2
経済英語Ⅱ	2
経済英語Ⅲ	2
経済社会論入門	2
地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）	4
地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）	2
留学英語Ⅰ	4
留学英語Ⅱ	2
留学英語Ⅲ	4
留学英語Ⅳ	2
経営科学	2
社会データ分析	2
ワークルール入門	2
消費者問題論	2
比較社会政策	2
公務員論	2
国際ビジネス論	2
財政学	2
地方財政論	2
地域レジリエンス論	2
地域課題発見演習	4
会話分析入門A	2
会話分析入門B	2

言語習得論	2
異文化間コミュニケーション論	2
Introduction to Sociolinguistics	2
国際関係入門	2
政治思想概論	2
国際開発協力論	2
Introduction to Cultural Anthropology	2
文化遺産学	2
南アジアの言語	2
グローバリゼーションとアフリカ	2
グローバリゼーションと東アジア	2
グローバリゼーションと南アジア	2
グローバリゼーションとヨーロッパ	2
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2
グローバル・ガバナンス論	2
宗教文化学入門	2
日本語教育入門	2
世界文学入門	2
都市計画入門	2
自然人類学入門	2
差別と排除の社会学	2
市民社会の歴史と現在	2
社会学の歴史と理論	2
アートと社会	2
宗教社会学	2
子ども社会学	2
社会参画技法	2
社会起業演習A	2
社会起業演習B	2
音楽社会学	2
カルチュラルスタディーズ	2

情報社会論	2
デジタルメディア論	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Global Understanding in English	4
Forum	2
自然保護論	2
English language (RISE)	12
Cultural Adaptation (RISE)	2
Global PBL (RISE)	2
Social Civic Engagement (RISE)	2
Applied Cultural Adaptation (RISE)	2
Advanced Global PBL (RISE)	4

(2)　専攻科目

①　数理・情報科学課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
キャリア実習・実習指導	2
理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2
先端理工キャリア実習Ⅰ	1
先端理工インターンシップⅠ	1
先端理工キャリア実習Ⅱ	2
先端理工インターンシップⅡ	2
プログラミング及び実習Ⅰ	1
数理情報基礎演習A	2

微積分及び演習Ⅰ	3
線形代数及び演習Ⅰ	3
数理情報基礎演習B	2
情報と職業	2
微積分及び演習Ⅱ	3
線形代数及び演習Ⅱ	3
データ分析	2
プログラミング及び実習Ⅱ	2
情報処理システムⅠ	2
微分方程式Ⅰ	2
物理と微分方程式及び演習	3
確率統計Ⅰ	2
数値計算法及び演習	3
プログラミング及び実習Ⅲ	3
情報処理システムⅡ	2
プロジェクト演習	2
フーリエ解析及び演習	2
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2
シミュレーション及び演習	2
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2
微分方程式Ⅱ	2
集合と論理	2
質点系の力学	2
多変量解析及び演習	3
数理・情報科学の学びと社会	1
数理情報演習	1
複素解析Ⅰ	1
位相入門Ⅰ	1
代数入門Ⅰ	1
幾何入門	1
現象の数理モデルⅠ	1

拡散現象の数理Ⅰ	1
機械学習Ⅰ	1
オブジェクト指向及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅠ	1
複素解析Ⅱ	1
位相入門Ⅱ	1
代数入門Ⅱ	1
ベクトル解析入門	1
現象の数理モデルⅡ	1
拡散現象の数理Ⅱ	1
機械学習Ⅱ	1
グラフィックス及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅡ	1
応用幾何	1
波動現象の数理Ⅰ	1
確率統計Ⅱ	1
ネットワーク及び演習	2
言語と計算Ⅰ	1
最適化の数理Ⅰ	1
確率モデル及び演習	2
波動現象の数理Ⅱ	1
確率統計Ⅲ	1
言語と計算Ⅱ	1
最適化の数理Ⅱ	1
セミナーⅠ	4
セミナーⅡ	2
特別研究Ⅰ	2
特別研究Ⅱ	6
確率および統計・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1

電子物性	1
半導体デバイス工学	1
光デバイス	1
ナノエレクトロニクス工学	1
伝送線路	1
高周波電子回路	1
組込みシステム	1
統計的機械学習	1
認知科学	1
群知能	1
画像情報処理	1
データサイエンス	1
電子材料	1
パワーエレクトロニクス	1
ニューラルネットワーク	1
知能ロボット	1
応用プログラミング・演習	1
人工知能	1
情報セキュリティ	1
アナログ電子回路	2
薄膜デバイス工学	2
電子工学	2
電磁波工学	1
符号理論	2
情報数学	1
計算機制御・演習	1
計測工学	1
回路設計・演習	1
結晶工学	2
量子力学	2
無線通信工学	2

ディジタル信号処理・演習	2	
ネットワーク通信システム	2	
計算機アーキテクチャ	1	
材料力学基礎	2	
流体工学	2	
振動工学	2	
材料力学応用	2	
機械材料学	2	
粘性流体力学	1	
熱力学	2	
ディジタル電子制御	2	
機構学	2	
航空流体力学	1	
弾性構造力学	2	
計算力学実習	2	
機械要素	1	
機械加工学	2	
航空・宇宙工学	1	
熱工学	2	
計測工学Ⅰ	1	
制御系設計論	2	
メカトロニクス	2	
ロボット実習	1	
機械設計	1	
自動車工学	1	
計測工学Ⅱ	1	
バイオメカニクス	1	
材料強度学	2	
伝熱工学	2	
ロボット工学	2	
解析力学	1	

化学と社会	2	
資源・エネルギーと環境	2	
化学と安全管理	2	
生化学Ⅰ	1	
量子材料科学Ⅰ	1	
電気化学Ⅰ	1	
結晶学入門Ⅰ	1	
高分子化学Ⅰ	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1	
分析化学	1	
生化学Ⅱ	1	
量子材料科学Ⅱ	1	
電気化学Ⅱ	1	
結晶学入門Ⅱ	1	
高分子化学Ⅱ	1	
機器分析化学	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1	
化学工学	2	
アドバンスト環境化学Ⅰ	1	
循環系グリーンケミストリー	1	
半導体材料Ⅰ	1	
固体物性化学Ⅰ	1	
エネルギー変換工学Ⅰ	1	
医薬品のプロセス化学	1	
分子集合化学	1	
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1	
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1	
セラミックス材料工学Ⅰ	1	
界面化学	1	
食と分子科学	1	
半導体材料Ⅱ	1	

固体物性化学Ⅱ	1
アドバンスト電気化学	1
エネルギー変換工学Ⅱ	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1
セラミックス材料工学Ⅱ	1
アドバンスト環境化学Ⅱ	1
バイオマテリアルⅠ	1
構造解析学	1
光化学Ⅰ	1
逆合成解析化学Ⅰ	1
高分子構造材料物性Ⅰ	1
高分子材料工学Ⅰ	1
ナノマテリアル	1
バイオマテリアルⅡ	1
光化学Ⅱ	1
逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1
高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1

② 電子情報通信課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
キャリア実習・実習指導	2
理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2
先端理工キャリア実習Ⅰ	1

先端理工インターンシップⅠ	1
先端理工キャリア実習Ⅱ	2
先端理工インターンシップⅡ	2
基礎数学Ⅰ・演習	2
情報通信基礎	2
計算機実習Ⅰ	1
基礎数学Ⅱ・演習	2
理数基礎Ⅰ・演習	2
基礎セミナー	2
線形代数学Ⅰ・演習	2
微分積分学Ⅰ・演習	2
電気回路基礎・演習	2
電子回路基礎・演習	1
微分積分学Ⅱ・演習	2
計算機実習Ⅱ	1
理数基礎Ⅱ・演習	2
線形代数学Ⅱ・演習	2
プログラミング法Ⅰ・演習	2
計算機システム基礎	2
ベクトル解析Ⅰ・演習	2
確率および統計・演習	2
物理・演習	1
プログラミング法Ⅱ・演習	1
ディジタル論理	2
電子情報通信実験Ⅰ	2
電気回路応用・演習	1
電磁気学基礎・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2
ベクトル解析Ⅱ・演習	1
フーリエ解析	1
電子回路応用・演習	1

電磁気学応用・演習	1	
通信工学基礎	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1	
微分方程式とフーリエ変換	1	
電子情報通信実験Ⅱ	2	
特別講義	2	
職業指導	4	
電子物性	1	
半導体デバイス工学	1	
統計的機械学習	1	
認知科学	1	
光デバイス	1	
ナノエレクトロニクス工学	1	
高周波電子回路	1	
伝送線路	1	
組込みシステム	1	
群知能	1	
画像情報処理	1	
データサイエンス	1	
電子材料	1	
知能ロボット	1	
人工知能	1	
情報セキュリティ	1	
ニューラルネットワーク	1	
パワーエレクトロニクス	1	
応用プログラミング・演習	1	
情報数学	1	
薄膜デバイス工学	2	
電子工学	2	
電磁波工学	1	
符号理論	2	

アナログ電子回路	2
計算機制御・演習	1
ディジタル信号処理・演習	2
計測工学	1
ネットワーク通信システム	2
回路設計・演習	1
結晶工学	2
量子力学	2
無線通信工学	2
計算機アーキテクチャ	1
専門基礎研究	2
応用セミナー	2
科学技術英語	2
特別研究	6
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2
シミュレーション及び演習	2
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2
微分方程式Ⅱ	2
質点系の力学	2
多変量解析及び演習	3
複素解析Ⅰ	1
位相入門Ⅰ	1
代数入門Ⅰ	1
幾何入門	1
現象の数理モデルⅠ	1
拡散現象の数理Ⅰ	1
確率モデル及び演習	2
オブジェクト指向及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅠ	1
機械学習Ⅰ	1
数理・情報科学の学びと社会	1

複素解析Ⅱ	1
位相入門Ⅱ	1
代数入門Ⅱ	1
ベクトル解析入門	1
現象の数理モデルⅡ	1
拡散現象の数理Ⅱ	1
グラフィックス及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅡ	1
機械学習Ⅱ	1
応用幾何	1
波動現象の数理Ⅰ	1
確率統計Ⅱ	1
ネットワーク及び演習	2
言語と計算Ⅰ	1
最適化の数理Ⅰ	1
波動現象の数理Ⅱ	1
確率統計Ⅲ	1
言語と計算Ⅱ	1
最適化の数理Ⅱ	1
材料力学基礎	2
流体工学	2
振動工学	2
材料力学応用	2
機械材料学	2
粘性流体力学	1
熱力学	2
ディジタル電子制御	2
機構学	2
航空流体力学	1
弾性構造力学	2
計算力学実習	2

機械要素	1	
機械加工学	2	
航空・宇宙工学	1	
熱工学	2	
計測工学Ⅰ	1	
制御系設計論	2	
メカトロニクス	2	
ロボット実習	1	
機械設計	1	
自動車工学	1	
計測工学Ⅱ	1	
バイオメカニクス	1	
材料強度学	2	
伝熱工学	2	
ロボット工学	2	
解析力学	1	
化学と社会	2	
資源・エネルギーと環境	2	
化学と安全管理	2	
生化学Ⅰ	1	
量子材料科学Ⅰ	1	
電気化学Ⅰ	1	
結晶学入門Ⅰ	1	
高分子化学Ⅰ	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1	
分析化学	1	
生化学Ⅱ	1	
量子材料科学Ⅱ	1	
電気化学Ⅱ	1	
結晶学入門Ⅱ	1	
高分子化学Ⅱ	1	

機器分析化学	1
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1
化学工学	2
アドバンスト環境化学Ⅰ	1
循環系グリーンケミストリー	1
半導体材料Ⅰ	1
固体物性化学Ⅰ	1
エネルギー変換工学Ⅰ	1
医薬品のプロセス化学	1
分子集合化学	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1
セラミックス材料工学Ⅰ	1
界面化学	1
食と分子科学	1
半導体材料Ⅱ	1
固体物性化学Ⅱ	1
アドバンスト電気化学	1
エネルギー変換工学Ⅱ	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1
セラミックス材料工学Ⅱ	1
アドバンスト環境化学Ⅱ	1
バイオマテリアルⅠ	1
構造解析学	1
光化学Ⅰ	1
逆合成解析化学Ⅰ	1
高分子構造材料物性Ⅰ	1
高分子材料工学Ⅰ	1
ナノマテリアル	1
バイオマテリアルⅡ	1
光化学Ⅱ	1

逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1
高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1

③　機械工学・ロボティクス課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
キャリア実習・実習指導	2
理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2
先端理工キャリア実習Ⅰ	1
先端理工インターンシップⅠ	1
先端理工キャリア実習Ⅱ	2
先端理工インターンシップⅡ	2
微分積分	1
基礎力学Ⅰ	1
微分方程式	1
基礎力学Ⅱ	1
機械工学・ロボティクス入門	1
数学・物理学演習Ⅰ	1
偏微分	1
線形代数Ⅰ	1
力学Ⅰ	1
重積分	1
線形代数Ⅱ	1
力学Ⅱ	1

数学・物理学演習Ⅱ	1	
物理実験	2	
職業指導	4	
確率・統計Ⅰ	1	
フーリエ変換	1	
電磁気学	2	
機械力学	2	
材料力学基礎	2	
流体工学	2	
アナログ電子制御	2	
確率・統計Ⅱ	1	
ラプラス変換	1	
計算機プログラミング実習	2	
機械製図Ⅰ	2	
ベクトル解析	1	
振動工学	2	
材料力学応用	2	
粘性流体力学	1	
熱力学	2	
ディジタル電子制御	2	
制御工学	2	
機構学	2	
機械材料学	2	
複素解析	1	
航空流体力学	1	
計算機応用実習	2	
機械工学基礎実験	2	
機械製図Ⅱ	2	
計測工学Ⅰ	1	
弾性構造力学	2	
航空・宇宙工学	1	

熱工学	2	
制御系設計論	2	
計算力学実習	2	
機械工学・ロボティクス実験	1	
機械要素	1	
メカトロニクス	2	
先進材料工学	2	
機械加工学	2	
材料力学実習	1	
ロボット実習	1	
熱・流体実習	1	
計測工学Ⅱ	1	
自動車工学	1	
機械設計	1	
材料力学・機械力学演習	1	
電子・制御演習	1	
バイオメカニクス	1	
材料強度学	2	
伝熱工学	2	
システム工学	2	
ロボット工学	2	
熱・流体演習	1	
解析力学	1	
設計製図	2	
セミナー	2	
科学技術英語	2	
特別研究	6	
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2	
シミュレーション及び演習	2	
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2	
微分方程式Ⅱ	2	

質点系の力学	2	
多変量解析及び演習	3	
複素解析Ⅰ	1	
位相入門Ⅰ	1	
代数入門Ⅰ	1	
幾何入門	1	
現象の数理モデルⅠ	1	
拡散現象の数理Ⅰ	1	
確率モデル及び演習	2	
オブジェクト指向及び演習	2	
データ構造とアルゴリズムⅠ	1	
機械学習Ⅰ	1	
数理・情報科学の学びと社会	1	
複素解析Ⅱ	1	
位相入門Ⅱ	1	
代数入門Ⅱ	1	
ベクトル解析入門	1	
現象の数理モデルⅡ	1	
拡散現象の数理Ⅱ	1	
グラフィックス及び演習	2	
データ構造とアルゴリズムⅡ	1	
機械学習Ⅱ	1	
応用幾何	1	
波動現象の数理Ⅰ	1	
確率統計Ⅱ	1	
ネットワーク及び演習	2	
言語と計算Ⅰ	1	
最適化の数理Ⅰ	1	
波動現象の数理Ⅱ	1	
確率統計Ⅲ	1	
言語と計算Ⅱ	1	

最適化の数理Ⅱ	1
確率および統計・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1
電子物性	1
半導体デバイス工学	1
光デバイス	1
ナノエレクトロニクス工学	1
伝送線路	1
高周波電子回路	1
組込みシステム	1
統計的機械学習	1
認知科学	1
群知能	1
画像情報処理	1
データサイエンス	1
電子材料	1
パワーエレクトロニクス	1
ニューラルネットワーク	1
知能ロボット	1
応用プログラミング・演習	1
人工知能	1
情報セキュリティ	1
アナログ電子回路	2
薄膜デバイス工学	2
電子工学	2
電磁波工学	1
符号理論	2
情報数学	1
計算機制御・演習	1
計測工学	1

回路設計・演習	1	
結晶工学	2	
量子力学	2	
無線通信工学	2	
ディジタル信号処理・演習	2	
ネットワーク通信システム	2	
計算機アーキテクチャ	1	
化学と社会	2	
資源・エネルギーと環境	2	
化学と安全管理	2	
生化学Ⅰ	1	
量子材料科学Ⅰ	1	
電気化学Ⅰ	1	
結晶学入門Ⅰ	1	
高分子化学Ⅰ	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1	
分析化学	1	
生化学Ⅱ	1	
量子材料科学Ⅱ	1	
電気化学Ⅱ	1	
結晶学入門Ⅱ	1	
高分子化学Ⅱ	1	
機器分析化学	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1	
化学工学	2	
アドバンスト環境化学Ⅰ	1	
循環系グリーンケミストリー	1	
半導体材料Ⅰ	1	
固体物性化学Ⅰ	1	
エネルギー変換工学Ⅰ	1	
医薬品のプロセス化学	1	

分子集合化学	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1
セラミックス材料工学Ⅰ	1
界面化学	1
食と分子科学	1
半導体材料Ⅱ	1
固体物性化学Ⅱ	1
アドバンスト電気化学	1
エネルギー変換工学Ⅱ	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1
セラミックス材料工学Ⅱ	1
アドバンスト環境化学Ⅱ	1
バイオマテリアルⅠ	1
構造解析学	1
光化学Ⅰ	1
逆合成解析化学Ⅰ	1
高分子構造材料物性Ⅰ	1
高分子材料工学Ⅰ	1
ナノマテリアル	1
バイオマテリアルⅡ	1
光化学Ⅱ	1
逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1
高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1

④　応用化学課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
キャリア実習・実習指導	2

理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2
先端理工キャリア実習Ⅰ	1
先端理工インターンシップⅠ	1
先端理工キャリア実習Ⅱ	2
先端理工インターンシップⅡ	2
化学と社会	2
数学の基礎	2
化学の基礎	2
プロジェクト演習Ⅰ	2
資源・エネルギーと環境	2
物理の基礎	2
化学基礎実験	2
物理化学Ⅰ	2
有機化学Ⅰ	2
無機化学Ⅰ	2
物理基礎実験	2
物理化学実験	1
機器分析化学実験	1
物理化学Ⅱ	2
有機化学Ⅱ	2
無機化学Ⅱ	2
化学と安全管理	2
化学と情報処理	2
地学概論	2
生物学概論	2
プロジェクト演習Ⅱ	2

物理化学Ⅲ	2
地学実験	2
生物学実験	2
化学の英語	2
化学合成実験	2
アドバンスト数学Ⅰ	1
アドバンスト物理Ⅰ	1
アドバンスト数学Ⅱ	1
アドバンスト物理Ⅱ	1
アドバンスト数学Ⅲ	1
アドバンスト物理Ⅲ	1
分析化学	1
量子材料科学Ⅰ	1
電気化学Ⅰ	1
生化学Ⅰ	1
結晶学入門Ⅰ	1
高分子化学Ⅰ	1
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1
アドバンスト数学Ⅳ	1
アドバンスト物理Ⅳ	1
機器分析化学	1
量子材料科学Ⅱ	1
電気化学Ⅱ	1
生化学Ⅱ	1
結晶学入門Ⅱ	1
高分子化学Ⅱ	1
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1
化学工学	2
半導体材料Ⅰ	1
固体物性化学Ⅰ	1
エネルギー変換工学Ⅰ	1

医薬品のプロセス化学	1
分子集合化学	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1
セラミックス材料工学Ⅰ	1
界面化学	1
アドバンスト環境化学Ⅰ	1
循環系グリーンケミストリー	1
食と分子科学	1
アドバンスト物質科学合成実験	2
半導体材料Ⅱ	1
固体物性化学Ⅱ	1
アドバンスト電気化学	1
エネルギー変換工学Ⅱ	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1
セラミックス材料工学Ⅱ	1
アドバンスト環境化学Ⅱ	1
構造解析学	1
バイオマテリアルⅠ	1
光化学Ⅰ	1
逆合成解析化学Ⅰ	1
高分子構造材料物性Ⅰ	1
高分子材料工学Ⅰ	1
ナノマテリアル	1
バイオマテリアルⅡ	1
光化学Ⅱ	1
逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1
高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1
研究デザイン演習	2

科学技術英語	2
英語セミナー	2
特別研究	10
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2
シミュレーション及び演習	2
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2
微分方程式Ⅱ	2
質点系の力学	2
多変量解析及び演習	3
複素解析Ⅰ	1
位相入門Ⅰ	1
代数入門Ⅰ	1
幾何入門	1
現象の数理モデルⅠ	1
拡散現象の数理Ⅰ	1
確率モデル及び演習	2
オブジェクト指向及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅠ	1
機械学習Ⅰ	1
数理・情報科学の学びと社会	1
複素解析Ⅱ	1
位相入門Ⅱ	1
代数入門Ⅱ	1
ベクトル解析入門	1
現象の数理モデルⅡ	1
拡散現象の数理Ⅱ	1
グラフィックス及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅡ	1
機械学習Ⅱ	1
応用幾何	1
波動現象の数理Ⅰ	1

確率統計Ⅱ	1
ネットワーク及び演習	2
言語と計算Ⅰ	1
最適化の数理Ⅰ	1
波動現象の数理Ⅱ	1
確率統計Ⅲ	1
言語と計算Ⅱ	1
最適化の数理Ⅱ	1
確率および統計・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1
電子物性	1
半導体デバイス工学	1
光デバイス	1
ナノエレクトロニクス工学	1
伝送線路	1
高周波電子回路	1
組込みシステム	1
統計的機械学習	1
認知科学	1
群知能	1
画像情報処理	1
データサイエンス	1
電子材料	1
パワーエレクトロニクス	1
ニューラルネットワーク	1
知能ロボット	1
応用プログラミング・演習	1
人工知能	1
情報セキュリティ	1
アナログ電子回路	2

薄膜デバイス工学	2
電子工学	2
電磁波工学	1
符号理論	2
情報数学	1
計算機制御・演習	1
計測工学	1
回路設計・演習	1
結晶工学	2
量子力学	2
無線通信工学	2
ディジタル信号処理・演習	2
ネットワーク通信システム	2
計算機アーキテクチャ	1
材料力学基礎	2
流体工学	2
振動工学	2
材料力学応用	2
機械材料学	2
粘性流体力学	1
熱力学	2
ディジタル電子制御	2
機構学	2
航空流体力学	1
弾性構造力学	2
計算力学実習	2
機械要素	1
機械加工学	2
航空・宇宙工学	1
熱工学	2
計測工学 I	1

制御系設計論	2
メカトロニクス	2
ロボット実習	1
機械設計	1
自動車工学	1
計測工学Ⅱ	1
バイオメカニクス	1
材料強度学	2
伝熱工学	2
ロボット工学	2
解析力学	1

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

心理学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
仏教の世界	2
真宗教団史	4
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA	2
英語セミナーB	2
英語セミナーC	2

英語セミナーD	2
英語セミナーE	2
英語セミナーF	2
英語セミナーG	2
英語セミナーH	2
英語セミナーI	2
英語セミナーJ	2
英語セミナーK	2
Culture through English 1	2
Current Topics through English 1	2
Culture through English 2	2
Current Topics through English 2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
コリア語Ⅰ	2

コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
ドイツ語セミナーＩA	2
ドイツ語セミナーＩB	2
ドイツ語セミナーＩC	2
ドイツ語セミナーＩD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーＩA	2
フランス語セミナーＩB	2
フランス語セミナーＩC	2
フランス語セミナーＩD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーＩA	2
中国語セミナーＩB	2
中国語セミナーＩC	2
中国語セミナーＩD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2

中国語コミュニケーションⅠ	2	
中国語コミュニケーションⅡ	2	
スペイン語セミナーⅠA	2	
スペイン語セミナーⅠB	2	
スペイン語セミナーⅠC	2	
スペイン語セミナーⅠD	2	
スペイン語セミナーⅡA	2	
スペイン語セミナーⅡB	2	
スペイン語セミナーⅡC	2	
スペイン語セミナーⅡD	2	
スペイン語コミュニケーションⅠ	2	
スペイン語コミュニケーションⅡ	2	
コリア語セミナーⅠA	2	
コリア語セミナーⅠB	2	
コリア語セミナーⅠC	2	
コリア語セミナーⅠD	2	
コリア語セミナーⅡA	2	
コリア語セミナーⅡB	2	
コリア語セミナーⅡC	2	
コリア語セミナーⅡD	2	
コリア語コミュニケーションⅠ	2	
コリア語コミュニケーションⅡ	2	
ポルトガル語Ⅰ	2	
ポルトガル語Ⅱ	2	
ポルトガル語ⅢA	2	
ポルトガル語ⅢB	2	
ロシア語Ⅰ	2	
ロシア語Ⅱ	2	
ロシア語ⅢA	2	
ロシア語ⅢB	2	
ラテン語Ⅰ	2	

ラテン語Ⅱ	2
ギリシア語Ⅰ	2
ギリシア語Ⅱ	2
ペルシア語Ⅰ	2
ペルシア語Ⅱ	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
アジアの思想A	2
アジアの思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2

西洋の文学C	2
西洋の文学D	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学のすすめ	2
歴史学	2
日本の歴史A	2
日本の歴史B	2
日本の思想	2
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
アジア交流史	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学A	2
教育学B	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
教養教育ゼミナール（人文科学）	4
大学論	2

グローバル・ヒストリー	2
文化交流論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
現代社会の諸問題	2
地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
グローバル・シチズンシップA（公共性・コミュニティ）	2
グローバル・シチズンシップB（民主主義）	2
グローバル・シチズンシップC（平和構築）	2
グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）	2

データサイエンス・AI入門	2	
データサイエンス基礎	2	
AI基礎	2	
教養教育ゼミナール（社会科学）	2	
社会課題発見演習	2	
社会課題解決演習	2	
数学入門	2	
数学への旅	2	
確率・統計入門	2	
微分と積分	4	
行列と行列式	4	
数理統計学	4	
数理と計算	2	
数学の世界	4	
数理と論証	2	
宇宙の科学Ⅰ	4	
宇宙の科学Ⅱ	2	
地球科学のすすめ	2	
地球科学	2	
物理科学の世界	4	
時間と空間の科学	2	
エネルギー入門	2	
自然科学史Ⅰ	2	
自然科学史Ⅱ	2	
科学論	2	
技術論	2	
平和学B	2	
里山学	2	
生物科学のすすめ	4	
生命科学のすすめ	2	
生命科学	2	

生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
教養教育ゼミナール（自然科学）	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
スポーツ科学のすすめ	2
教養教育ゼミナール（スポーツ科学）	2
キャリア入門	2
キャリア・ディスカバリー	2
みんなのコミュニケーションA	2
みんなのコミュニケーションB	2

Inclusive Communication	2
みんなで学ぶ国際ビジネス事情	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
仏教SDGs概論	2
アントレプレナーシップ入門	2
テクノロジーと事業創出	2
ソーシャルインパクト概論	2
協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2
アカデミック・ライティング入門	2
ボランティア・NPO入門	2
仏教美術入門A	2
仏教美術入門B	2
サンスクリット語仏典入門A1	2
サンスクリット語仏典入門A2	2
チベット語仏典入門A1	2
チベット語仏典入門A2	2
古典文学講読(A)A	2
古典文学講読(A)B	2
近代文学講読(C)A	2
近代文学講読(C)B	2
情報出版学講読(B)A	2
経済英語Ⅰ	2
経済英語Ⅱ	2
経済英語Ⅲ	2
経済社会論入門	2
地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）	4
地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）	2
留学英語Ⅰ	4
留学英語Ⅱ	2
留学英語Ⅲ	4

留学英語Ⅳ	2	
経営科学	2	
社会データ分析	2	
ワークルール入門	2	
消費者問題論	2	
比較社会政策	2	
公務員論	2	
国際ビジネス論	2	
財政学	2	
地方財政論	2	
地域レジリエンス論	2	
地域課題発見演習	4	
会話分析入門A	2	
会話分析入門B	2	
言語習得論	2	
異文化間コミュニケーション論	2	
Introduction to Sociolinguistics	2	
国際関係入門	2	
政治思想概論	2	
国際開発協力論	2	
Introduction to Cultural Anthropology	2	
文化遺産学	2	
南アジアの言語	2	
グローバリゼーションとアフリカ	2	
グローバリゼーションと東アジア	2	
グローバリゼーションと南アジア	2	
グローバリゼーションとヨーロッパ	2	
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2	
グローバル・ガバナンス論	2	
宗教文化学入門	2	
日本語教育入門	2	

世界文学入門	2
都市計画入門	2
自然人類学入門	2
クラウドコンピューティング演習	2
理工学のすすめ	2
差別と排除の社会学	2
市民社会の歴史と現在	2
社会学の歴史と理論	2
アートと社会	2
宗教社会学	2
子ども社会学	2
社会参画技法	2
社会起業演習A	2
社会起業演習B	2
音楽社会学	2
カルチュラルスタディーズ	2
情報社会論	2
デジタルメディア論	2
農業を支える植物細胞の力	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Global Understanding in English	4
Forum	2
自然保護論	2
教養教育科目特別講義	2
English language(RISE)	12
Cultural Adaptation (RISE)	2
Global PBL(RISE)	2
Social Civic Engagement (RISE)	2
Applied Cultural Adaptation (RISE)	2
Advanced Global PBL(RISE)	4

(2)　専攻科目

授業科目	単位数
フレッシャーズゼミ	2
心理学基礎演習A	2
心理学基礎演習B	2
心理学基礎演習C	2
心理学概論	2
発達心理学	2
臨床心理学概論	2
心理学的支援法	2
心理学研究法概論	2
心理学統計法概論	2
心理的アセスメントⅠ	2
生涯発達と関係支援	2
心理学とデータサイエンス	2
キャリアと心理	2
キャリアデザイン論	2
人体の構造と機能及び疾病	2
心理学実験	1
神経・生理心理学	2
障害者・障害児心理学	2
福祉心理学	2
健康・医療心理学	2
教育・学校心理学	2
脳と心	2
乳幼児の発達	2
児童思春期精神医学	2
子どもの心理療法	2
高齢者の心理と福祉	2
仏教と心理学	2
コミュニティとシステム支援	2

ストレスマネジメント	2
チーム医療	2
チーム学校とシステム論	2
心理学の職業的展開	2
仕事と社会人Ⅰ	2
心理学プロジェクト社会連携演習	2
生涯発達臨床心理学	2
ライフサイクルとカウンセリング	2
家族療法とシステムズアプローチ	2
目からウロコのコミュニケーション学	2
心理学演習	2
卒業研究	4
知覚・認知心理学	2
精神疾患とその治療	2
感情・人格心理学	2
心理関係行政論	2
司法・犯罪心理学	2
産業・組織心理学	2
学習・言語心理学	2
社会・集団・家族心理学	2
量的心理学研究	2
質的心理学研究	2
生理学データと現場心理学（基礎）	2
臨床催眠学	2
生理学データと現場心理学（応用）	2
子育てとソーシャルサポート	2
音楽療法	2
ダンスセラピー	2
乳幼児の理解と支援実習	2
教育と心理支援	2
発達障害のアセスメント	2

心理的アセスメントII	2
不登校・いじめとスクールカウンセリング	2
青年心理と友人関係	2
思春期とジェンダー心理学	2
大人の発達障害	2
思春期の子ども理解と支援実習 I	2
中年期の危機とうつ	2
コミュニティ・アプローチ	2
愛着障害と親子関係	2
保育の心理学	2
障害児支援と療育	2
学童期の遊びと対人関係	2
発達障害と応用行動分析	2
思春期の子ども理解と支援実習 II	2
フォーカシングと体験過程療法	2
ひきこもりと精神的健康	2
認知行動療法	2
エンカウンターグループと回想法	2
ビハーラカウンセリング	2
死生観教育と心理療法	2
認知症の心と家族支援	2
高齢者の理解と支援実習	2
人格心理学と精神力動論	2
医療におけるシステムズアプローチ	2
緩和ケアとこころの治癒力	2
家族療法とコミュニケーション・アプローチ	2
学校システムにおける精神疾患と家族	2
不登校の解決と協働	2
発達障がいと家族	2
ひきこもりと家族支援	2
虐待と家族支援	2

ポジティブ心理学	2
コーチング心理学	2
コンサルテーション・リエゾン精神医学	2
構造派家族療法	2
保護者支援とチーム学校	2
コンサルテーション演習	2
特別支援とシステムズアプローチ	2
ブリーフセラピーとソリューション	2
非行と家族支援	2
オープン・ダイアローグ演習	2
キャリアカウンセリング	2
スポーツ心理学	2
スポーツ・メンタルリハーサル	2
マインドフルネス・ヨーガ	2
事例演習アドバンスI	2
事例演習アドバンスII	2
仕事と社会人Ⅱ	2
法学概論	4
政治学原理	4
経済原論	4
社会学概説	4
キャリア実習・実習指導	2
学外コンソーシアム実習	2
心理情報処理演習	2
心理情報処理応用演習	2
English Language (RISE)	10
Global PBL (RISE)	2
Social Civic Engagement (RISE)	2
Applied Cultural Adaptation (RISE)	2
Advanced Global PBL (RISE)	4

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他

の授業科目を設けることができる。

情報学部開設科目（第30条関係）

(1)　教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
仏教の世界	2
真宗教団史	4
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA	2
英語セミナーB	2
英語セミナーC	2
英語セミナーD	2
英語セミナーE	2
英語セミナーF	2
英語セミナーG	2
海外英語研修	2
ドイツ語ⅠA	1
ドイツ語ⅠB	1
ドイツ語ⅡA	1
ドイツ語ⅡB	1
フランス語ⅠA	1
フランス語ⅠB	1
フランス語ⅡA	1

フランス語ⅡB	1
中国語ⅠA	1
中国語ⅠB	1
中国語ⅡA	1
中国語ⅡB	1
コリア語ⅠA	1
コリア語ⅠB	1
コリア語ⅡA	1
コリア語ⅡB	1
スペイン語ⅠA	1
スペイン語ⅠB	1
スペイン語ⅡA	1
スペイン語ⅡB	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
スペイン語セミナーⅠA	2
スペイン語セミナーⅠB	2
哲学入門	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
宗教学のすすめ	2
宗教の世界	2
日本の文学	2

アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
西洋の文学C	2
西洋の文学D	2
言語学入門	2
歴史学のすすめ	2
日本の歴史	2
日本の文化	2
アジアの歴史	2
アジアの文化	2
西洋の歴史	2
心理学入門	2
心理学A	2
心理学B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
グローバル・ヒストリー	2
文化交流論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2

社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
現代社会と労働	2
現代社会の諸問題	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
地域論	2
企業と会計	2
社会思想史	2
情報倫理	2
情報社会とメディア	2
データサイエンス・AI入門	2
データサイエンス基礎	2
AI基礎	2
グローバル・シチズンシップA（公共性・コミュニティ）	2
グローバル・シチズンシップB（民主主義）	2
グローバル・シチズンシップC（平和構築）	2
グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）	2
教養教育ゼミナール（社会科学）	2
社会課題発見演習	2
社会課題解決演習	2
生活の中の数学	2
生活の中の統計技術	2
生活の中の化学	2

生活の中の物理	2
生活の中の生物学	2
生活の中の地学	2
現代の技術	2
生命と科学	2
自然観察法	2
里山学	2
植物の自然誌	2
環境の科学	2
人類の科学	2
情報と人間	2
現代社会と栄養	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学A	1
スポーツ技術学B	1
スポーツ文化論	2
スポーツ科学のすすめ	2
教養教育科目特別講義	2
キャリア入門	2
キャリア・ディスカバリー	2
みんなのコミュニケーションA	2
みんなのコミュニケーションB	2
Inclusive Communication	2
みんなで学ぶ国際ビジネス事情	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
仏教SDGs概論	2
アントレプレナーシップ入門	2
テクノロジーと事業創出	2
ソーシャルインパクト概論	2

協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2	
アカデミック・ライティング入門	2	
ボランティア・NPO入門	2	
仏教美術（イコノロジー）入門A	2	
仏教美術（イコノロジー）入門B	2	
サンスクリット語仏典入門A1	2	
サンスクリット語仏典入門A2	2	
チベット語仏典入門A1	2	
チベット語仏典入門A2	2	
古典文学講読(A)A	2	
古典文学講読(A)B	2	
近代文学講読(C)A	2	
近代文学講読(C)B	2	
情報出版学講読(B)A	2	
脳と心	2	
仏教と心理学	2	
経済英語Ⅰ	2	
経済英語Ⅱ	2	
経済英語Ⅲ	2	
経済社会論入門	2	
地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）	4	
地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）	2	
留学英語Ⅰ	4	
留学英語Ⅱ	2	
留学英語Ⅲ	4	
留学英語Ⅳ	2	
経営科学	2	
社会データ分析	2	
ワークルール入門	2	
消費者問題論	2	
比較社会政策	2	

公務員論	2	
国際ビジネス論	2	
財政学	2	
地方財政論	2	
地域レジリエンス論	2	
地域課題発見演習	4	
会話分析入門A	2	
会話分析入門B	2	
言語習得論	2	
異文化間コミュニケーション論	2	
Introduction to Sociolinguistics	2	
国際関係入門	2	
政治思想概論	2	
国際開発協力論	2	
Introduction to Cultural Anthropology	2	
文化遺産学	2	
南アジアの言語	2	
グローバリゼーションとアフリカ	2	
グローバリゼーションと東アジア	2	
グローバリゼーションと南アジア	2	
グローバリゼーションとヨーロッパ	2	
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2	
グローバル・ガバナンス論	2	
宗教文化学入門	2	
日本語教育入門	2	
世界文学入門	2	
都市計画入門	2	
自然人類学入門	2	
差別と排除の社会学	2	
市民社会の歴史と現在	2	
社会学の歴史と理論	2	

アートと社会	2
宗教社会学	2
子ども社会学	2
社会参画技法	2
社会起業演習A	2
社会起業演習B	2
音楽社会学	2
カルチュラルスタディーズ	2
情報社会論	2
デジタルメディア論	2
農業を支える植物細胞の力	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Global Understanding in English	4
Forum	2
自然保護論	2
English language (RISE)	12
Cultural Adaptation (RISE)	2
Global PBL (RISE)	2
Social Civic Engagement (RISE)	2
Applied Cultural Adaptation (RISE)	2
Advanced Global PBL (RISE)	4

(2)　専攻科目

授業科目	単位数
思考法を学ぶⅠ	1
現代の環境課題と政策	1
地域の環境を知る	1
思考法を学ぶⅡ	1
サステナビリティ概論	2
環境思想入門	2
仏教とサステナビリティ	1

AI時代の哲学	1
ネイチャーポジティブ経営概論	1
これからの社会と人権	1
サステナビリティ経営論	1
コミュニティオーガナイジング入門	1
コミュニティオーガナイジング実践	1
情報基礎	2
微積分学	4
データサイエンス入門数学・演習Ⅰ	4
情報とスポーツ	2
情報と法	2
キャリア実習・実習指導	2
プログラミング基礎演習	4
線形代数学	4
データサイエンス入門数学・演習Ⅱ	4
メディア処理基礎	2
ソフトウェア基礎	2
情報社会と情報倫理	2
情報と健康	2
データサイエンス入門	2
データサイエンス入門演習	2
数理統計学	2
データサイエンス数理統計学	2
情報デザイン	2
情報システム基礎	2
情報ネットワーク基礎	2
ハードウェア基礎	2
情報と職業	2
データ構造とアルゴリズム・演習	4
情報セキュリティ	2
情報理論	2

離散数学	2
物理学概論	2
電気・電子工学概論	2
プロジェクトリサーチ	2
ヒューマンインタフェース	2
デジタル・フォレンジック	2
デジタル・フォレンジック演習	2
スポーツバイオメカニクス	2
インターンシップ	2
総合演習	2
画像メディア処理論	2
CGとアニメーション	2
メディア処理演習	4
実世界コンピューティング	2
XR	2
コンピュータビジョン	2
言語メディア処理論	2
音声・音響メディア処理論	2
システムソフトウェア	2
データベース	2
Cプログラミング	2
ネットワークシステム演習	4
オブジェクト指向プログラミング	2
Web技術	2
人工知能	2
ソフトウェア工学	2
経営情報学	2
データマイニング	2
バイオデータサイエンス	2
データサイエンス応用基礎・演習	4
情報検索	2

アントレプレナーシップ	2
推薦システム	2
機械学習	2
情報基礎演習	2
情報基礎セミナー	2
未来共創ラボ演習Ⅰ	2
未来共創ラボ演習Ⅱ	2
未来共創ラボ演習Ⅲ	2
ラボラトリーインターンシップ	2
科学技術英語	2
卒業研究	6

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

環境サステナビリティ学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
仏教の世界	2
真宗教団史	4
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA	2
英語セミナーB	2
英語セミナーC	2

英語セミナーD	2	
英語セミナーE	2	
英語セミナーF	2	
英語セミナーG	2	
海外英語研修	2	
ドイツ語ＩA	1	
ドイツ語ＩB	1	
ドイツ語ⅡA	1	
ドイツ語ⅡB	1	
フランス語ＩA	1	
フランス語ＩB	1	
フランス語ⅡA	1	
フランス語ⅡB	1	
中国語ＩA	1	
中国語ＩB	1	
中国語ⅡA	1	
中国語ⅡB	1	
コリア語ＩA	1	
コリア語ＩB	1	
コリア語ⅡA	1	
コリア語ⅡB	1	
スペイン語ＩA	1	
スペイン語ＩB	1	
スペイン語ⅡA	1	
スペイン語ⅡB	1	
ドイツ語セミナーＩA	2	
ドイツ語セミナーＩB	2	
フランス語セミナーＩA	2	
フランス語セミナーＩB	2	
中国語セミナーＩA	2	
中国語セミナーＩB	2	

コリア語セミナーＩA	2
コリア語セミナーＩB	2
スペイン語セミナーＩA	2
スペイン語セミナーＩB	2
哲学入門	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
宗教学のすすめ	2
宗教の世界	2
日本の文学	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
西洋の文学C	2
西洋の文学D	2
言語学入門	2
歴史学のすすめ	2
日本の歴史	2
日本の文化	2
アジアの歴史	2
アジアの文化	2
西洋の歴史	2
心理学入門	2
心理学A	2
心理学B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2

学習・発達論B	2
グローバル・ヒストリー	2
文化交流論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
現代社会と労働	2
現代社会の諸問題	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
地域論	2
企業と会計	2
社会思想史	2
情報倫理	2
情報社会とメディア	2
データサイエンス・AI入門	2

データサイエンス基礎	2
AI基礎	2
グローバル・シチズンシップA（公共性・コミュニティ）	2
グローバル・シチズンシップB（民主主義）	2
グローバル・シチズンシップC（平和構築）	2
グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）	2
教養教育ゼミナール（社会科学）	2
社会課題発見演習	2
社会課題解決演習	2
生活の中の数学	2
生活の中の統計技術	2
生活の中の化学	2
生活の中の物理	2
生活の中の生物学	2
生活の中の地学	2
現代の技術	2
生命と科学	2
自然観察法	2
里山学	2
植物の自然誌	2
環境の科学	2
人類の科学	2
情報と人間	2
現代社会と栄養	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学A	1
スポーツ技術学B	1
スポーツ文化論	2
スポーツ科学のすすめ	2
教養教育科目特別講義	2

キャリア入門	2	
キャリア・ディスカバリー	2	
みんなのコミュニケーションA	2	
みんなのコミュニケーションB	2	
Inclusive Communication	2	
みんなで学ぶ国際ビジネス事情	2	
英語で学ぶ日本の社会A	2	
英語で学ぶ日本の社会B	2	
仏教SDGs概論	2	
アントレプレナーシップ入門	2	
テクノロジーと事業創出	2	
ソーシャルインパクト概論	2	
協創イノベーションラボ（PBL型企業連携）	2	
アカデミック・ライティング入門	2	
ボランティア・NPO入門	2	
仏教美術（イコノロジー）入門A	2	
仏教美術（イコノロジー）入門B	2	
サンスクリット語仏典入門A1	2	
サンスクリット語仏典入門A2	2	
チベット語仏典入門A1	2	
チベット語仏典入門A2	2	
古典文学講読(A)A	2	
古典文学講読(A)B	2	
近代文学講読(C)A	2	
近代文学講読(C)B	2	
情報出版学講読(B)A	2	
脳と心	2	
仏教と心理学	2	
経済英語Ⅰ	2	
経済英語Ⅱ	2	
経済英語Ⅲ	2	

経済社会論入門	2
地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行）	4
地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）	2
留学英語Ⅰ	4
留学英語Ⅱ	2
留学英語Ⅲ	4
留学英語Ⅳ	2
経営科学	2
社会データ分析	2
ワークルール入門	2
消費者問題論	2
比較社会政策	2
公務員論	2
国際ビジネス論	2
財政学	2
地方財政論	2
地域レジリエンス論	2
地域課題発見演習	4
会話分析入門A	2
会話分析入門B	2
言語習得論	2
異文化間コミュニケーション論	2
Introduction to Sociolinguistics	2
国際関係入門	2
政治思想概論	2
国際開発協力論	2
Introduction to Cultural Anthropology	2
文化遺産学	2
南アジアの言語	2
グローバリゼーションとアフリカ	2
グローバリゼーションと東アジア	2

グローバリゼーションと南アジア	2
グローバリゼーションとヨーロッパ	2
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2
グローバル・ガバナンス論	2
宗教文化学入門	2
日本語教育入門	2
世界文学入門	2
都市計画入門	2
自然人類学入門	2
差別と排除の社会学	2
市民社会の歴史と現在	2
社会学の歴史と理論	2
アートと社会	2
宗教社会学	2
子ども社会学	2
社会参画技法	2
社会起業演習A	2
社会起業演習B	2
音楽社会学	2
カルチュラルスタディーズ	2
情報社会論	2
デジタルメディア論	2
農業を支える植物細胞の力	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Global Understanding in English	4
Forum	2
自然保護論	2
English language (RISE)	12
Cultural Adaptation (RISE)	2
Global PBL (RISE)	2

Social Civic Engagement (RISE)	2
Applied Cultural Adaptation (RISE)	2
Advanced Global PBL (RISE)	4

(2) 専攻科目

授業科目	単位数
思考法を学ぶⅠ	1
思考法を学ぶⅡ	1
環境思想入門	2
AI時代の哲学	1
これからの社会と人権	1
仏教とサステナビリティ	1
情報とスポーツ	2
情報と健康	2
情報デザイン	2
コミュニティオーガナイジング入門	1
コミュニティオーガナイジング実践	1
生物学概論	2
地学概論	2
地学実験	2
数学概論	2
化学概論	2
物理学概論	2
生物学実験	2
物理実験	2
化学実験	2
キャリア実習・実習指導	2
現代の環境課題と政策	1
地域の環境を知る	1
コンピュータリテラシ入門	1
サイエンティフィックレポート入門	1
水環境を知る	1

生態学概論Ⅰ	1
ネイチャーベースドから考える	1
サステナビリティ概論	2
ネイチャーポジティブ経営概論	1
生態学概論Ⅱ	1
生態学基礎実習	1
流域から学ぶ	1
NGO活動論	1
マクロ経済学	1
廃棄物の行方	1
サステナビリティ経営論	1
都市工学実習	1
市民社会論	1
地域デザイン概論	1
社会システムを学ぶ	1
ミクロ経済学	1
サステナビリティ各論	2
資源の持続的利用	1
グリーンでのキャリア形成	1
環境会計	1
自然の浄化機構	1
リサイクル工学基礎	1
大気と環境	1
流域水利用システム	1
生態系観測実習A	1
アカウンティング基礎	1
コミュニティファンド論	1
コミュニティマネジメント	1
環境経済学	1
環境プロトコル	1
環境工学ビジネス概論	1

生態系観測実習B	1	
生物多様性保全学	1	
環境データサイエンス基礎	1	
EBPM概論	1	
地域経済学	1	
資源循環システム	1	
土壌環境学	1	
気象予報	1	
自然環境を測る	1	
環境データサイエンス実践	1	
水域生態学	1	
陸域生態学	1	
環境DNA分析入門	1	
廃棄物と化学	1	
毒性学基礎	1	
物質収支解析及び演習	1	
事業構想実習Ⅰ	1	
事業構想実習Ⅱ	1	
マーケティング基礎	1	
サステナブルファイナンス論	1	
経済分析入門	1	
経営管理論	1	
シェアリングエコノミー	1	
EBPM実践	1	
LCA概論	1	
環境監査と開示	1	
サプライチェーンと環境調達	1	
サステナブル経営戦略	1	
地域経営研究	1	
地域情報学	1	
生理生態学	1	

環境DNA分析実践	1
環境情報の空間解析入門	1
環境モデリング基礎	1
自然環境アセスメント	1
生態系生態学	1
環境微生物学	1
水理学	1
水文学	1
燃焼工学	1
大気環境工学	1
環境アセスメント	1
熱の伝播と物質の分離	1
水の資源・エネルギー利用	1
水処理工学	1
水処理施設設計・実験	1
廃棄物処理施設設計・実験	1
環境分析化学実験	1
自然環境の修復と創出	1
琵琶湖プロジェクト	1
オンサイト　エクスカーション	2
オンサイト　ソリューション	2
特別研究I	6
特別研究IIA	1
特別研究IIB	1
メンター実践	1

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

別表２　学部共通コース開設科目（第30条の２関係）

(1)　国際関係コース科目

授業科目	単位数
国際関係論 I	2

地域研究入門	2	
中国語セミナーＩA	2	
中国語セミナーＩB	2	
中国語セミナーＩC	2	
中国語セミナーＩD	2	
中国語セミナーⅡA	2	
中国語セミナーⅡB	2	
中国語セミナーⅡC	2	
中国語セミナーⅡD	2	
ドイツ語セミナーＩA	2	
ドイツ語セミナーＩB	2	
ドイツ語セミナーＩC	2	
ドイツ語セミナーＩD	2	
ドイツ語セミナーⅡA	2	
ドイツ語セミナーⅡB	2	
ドイツ語セミナーⅡC	2	
ドイツ語セミナーⅡD	2	
フランス語セミナーＩA	2	
フランス語セミナーＩB	2	
フランス語セミナーＩC	2	
フランス語セミナーＩD	2	
フランス語セミナーⅡA	2	
フランス語セミナーⅡB	2	
フランス語セミナーⅡC	2	
フランス語セミナーⅡD	2	
スペイン語セミナーＩA	2	
スペイン語セミナーＩB	2	
スペイン語セミナーＩC	2	
スペイン語セミナーＩD	2	
スペイン語セミナーⅡA	2	
スペイン語セミナーⅡB	2	

スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠC	2
コリア語セミナーⅠD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
英語セミナーD	2
英語セミナーG	2
英語セミナーH	2
英語セミナーJ	2
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2
Intercultural Discussion	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2

フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
ヨーロッパ研究A	2
ヨーロッパ研究B	2
ヨーロッパ研究C	2
ヨーロッパ研究D	2
東アジア研究A	2
東アジア研究B	2
東南アジア研究A	2
東南アジア研究B	2
北米研究A	2
北米研究B	2
中南米研究A	2
中南米研究B	2
グローバル・サウス研究A	2
グローバル・サウス研究B	2
異文化研究A	2
異文化研究B	2
多文化映像論A	2
多文化映像論B	2
国際関係論Ⅱ	2
現代国際関係史	2
国際ジャーナリズム論	2
グローバル経済史A	2
グローバル経済史B	2
国際金融論A	2
国際金融論B	2
国際協力論A	2
国際協力論B	2

アジア経済史A	2	
アジア経済史B	2	
ヨーロッパ経済史A	2	
ヨーロッパ経済史B	2	
地域経済論A	2	
地域経済論B	2	
アジア経済論A	2	
アジア経済論B	2	
比較経済論A	2	
比較経済論B	2	
開発経済学A	2	
開発経済学B	2	
ヨーロッパ経済論A	2	
ヨーロッパ経済論B	2	
食・農・資源の経済論A	2	
食・農・資源の経済論B	2	
日本経済史A	2	
日本経済史B	2	
経済地理学A	2	
経済地理学B	2	
経済思想史	2	
社会調査の技法	2	
フィールドワークの技法	2	
グローバルビジネス	2	
多国籍企業論	2	
国際経営戦略論	2	
ビジネスヒストリーA	2	
社会データ分析	2	
アジア企業経営論	2	
国際法Ⅰ	2	
国際法Ⅱ	2	

国際法Ⅲ	2	
国際法Ⅳ	2	
国際法Ⅴ	2	
国際私法	4	
国際政治論A	2	
国際政治論B	2	
アフリカ政治論	2	
国際取引法	2	
開発援助論	2	
中東政治論	2	
アジア政治論	2	
アメリカ政治論	2	
ヨーロッパ政治論	2	
文化・観光政策	2	
比較地域政策論	2	
アジアの地域・都市政策	2	
欧州の地域・都市政策	2	
北米・中南米の地域・都市政策	2	
政治経済学	2	
グローバリゼーションの社会学	2	
国際文化論	2	
多文化共生論	2	
国際福祉論	2	
地域発展論	2	
アジアのメディア	2	
特別演習Ⅰ	4	
特別演習Ⅱ	4	
特別演習Ⅲ	4	
演習Ⅰ	2	
演習Ⅰ	4	
演習Ⅰ	6	

演習Ⅱ	2
演習Ⅱ	4
演習Ⅱ（演習研究含む）	6
演習Ⅱ（卒業研究含む）	4
演習Ⅲ	2
演習Ⅳ（卒業研究含む）	6
卒業研究	2
学部共通特別講義A	2
学部共通特別講義B	2
学部共通特別講義C	2

(2) 英語コミュニケーションコース科目

授業科目	単位数
Oral Communication ⅠA	4
Oral Communication ⅠB	4
Oral Communication ⅡA	4
Oral Communication ⅡB	4
Writing Ⅰ	2
Writing Ⅱ	2
米国文化Ⅰ	2
英国文化Ⅰ	2
英国文化Ⅱ	2
米国文化Ⅱ	2
English in the World	2
文化比較	2
Intensive Reading	2
Reading Fluency	2
Communicative Grammar Ⅰ	2
英米事情	2
Business Writing	2
Critical Essay	2
Process Writing	2

Public Speaking	2
Debate and Discussion	2
Dynamics of Expression	2
Communicative Grammar Ⅱ	2
Intercultural Discussion	2
Global Understanding in English	4
海外研修	4
英語資格試験セミナー	2
Forum	2
Seminar Ⅰ	2
Seminar Ⅱ	2
卒業研究	4
学部共通特別講義Ⅰ	4
学部共通特別講義Ⅱ	4
学部共通特別講義Ⅲ	2
学部共通特別講義Ⅳ	2
学部共通特別講義Ⅴ	2

(3) スポーツサイエンスコース科目

授業科目	単位数
身体運動の生理学	2
身体運動の機能解剖学	2
身体運動の制御と学習	2
現代スポーツ論	2
近代スポーツ史	2
スポーツマネジメント論	2
スポーツ心理学	2
スポーツ社会学	2
スポーツ栄養学	2
スポーツと経済	2
エクササイズテクニック	2
スポーツメディア論	2

スポーツ医学	2
スポーツ統計学	2
スポーツ政策論	2
健康スポーツ論	2
体力学	2
スポーツトレーニング論	2
フィットネスプログラミング論	2
スポーツメンタルトレーニング論	2
スポーツマーケティング論	2
スポーツ法学	2
バイオメカニクス	2
地域スポーツ論	2
スポーツ文化論	2
フィットネスプログラミング演習	2
特別演習Ⅰ	4
特別演習Ⅱ	4
特別演習Ⅲ	4
スポーツサイエンスコース特別講義（水泳）	2
スポーツサイエンスコース特別講義（スポーツビジネス）	2
アウトドアスポーツ演習A	2
アウトドアスポーツ演習B	2
キャリア入門（スポーツサイエンスコース）	2
スポーツキャリア実習	2

(4)　環境サイエンスコース科目

授業科目	単位数
環境学A	2
環境学B	2
環境と倫理	2
環境と経済	2
環境社会学	2
環境と法	2

環境管理論Ⅰ	2	
環境政策論Ⅰ	2	
コンピュータシステム論	4	
環境地理学	2	
生物と環境	2	
生態学と社会	2	
地球と環境	2	
自然保護論	2	
化学物質と環境	2	
食と環境	2	
情報処理概論	2	
環境地理情報	2	
複雑系の科学	2	
環境史	2	
環境アセスメント論	2	
環境教育実践	2	
地域環境論	2	
気候と気象	2	
生物共棲論	2	
流域生態論	2	
環境フィールドワークA	4	
環境フィールドワークB	2	
環境フィールドワークC	2	
環境実践研究	2	
環境管理論Ⅱ	2	
開発経済学A	2	
開発経済学B	2	
都市経済論	2	
産業技術論	2	
国際環境法	2	
環境政策論Ⅱ	2	

持続可能な発展概論	2
景観・まちなみ保存政策	2
環境エネルギー政策	2
演習Ⅰ	2
演習Ⅱ	2
演習Ⅲ	2
演習Ⅳ	2
卒業研究	4
学部共通特別講義A	2
学部共通特別講義B	2
学部共通特別講義C	4

以上別表２に掲げる授業科目のほか，経済学部，経営学部，法学部，政策学部及び社会学部教授会が教育上必要と認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

別表３　日本語科目及び日本事情に関する科目（第31条関係）

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
日本語		1	

別表４　教育職員免許状取得に関する科目（第32条関係）

(1)　文学部

	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育学概論	4
	教育心理学	2
	特別支援教育論	2
教科及び教科の指導法に関する科目	国語科教育法A	2
	国語科教育法B	2
	国語科教育法Ⅰ	2
	国語科教育法Ⅱ	2
	英語科教育法A	2
	英語科教育法B	2
	英語科教育法Ⅰ	2

	英語科教育法Ⅱ	2
	宗教科教育法A	2
	宗教科教育法B	2
	宗教科教育法Ⅰ	2
	宗教科教育法Ⅱ	2
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2
	体育実技	1

(2) 経済学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	法学概論	4
	倫理学概論	4
	心理学概論	4
	国際法Ⅰ	2
	国際法Ⅲ	2
	国際政治論A	2
	国際政治論B	2
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2

(3) 経営学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	商業科教育法Ⅰ	2
	商業科教育法Ⅱ	2
	法学概論	4
	日本政治史A	2
	日本政治史B	2
	日本経済史A	2
	日本経済史B	2
	日本法制史A	2
	日本法制史B	2
	西洋法制史A	2

	西洋法制史B	2
	西洋政治史A	2
	西洋政治史B	2
	ヨーロッパ経済史	4
	グローバル経済史A	2
	グローバル経済史B	2
	アジア経済史	4
	経済地理学A	2
	経済地理学B	2
	倫理学概論	4
	心理学概論	4
	国際政治論A	2
	国際政治論B	2
	国際法Ⅰ	2
	国際法Ⅲ	2
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2

(4) 法学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	日本経済史A	2
	日本経済史B	2
	ヨーロッパ経済史	4
	ビジネスヒストリーA	2
	ビジネスヒストリーB	2
	倫理学概論	4
	心理学概論	4
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2

(5) 削除

(6) 政策学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	倫理学概論	4
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2
	体育実技	1

(7) 国際学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	英語科教育法A	2
	英語科教育法B	2
	英語科教育法Ⅰ	2
	英語科教育法Ⅱ	2
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2
	体育実技	1

(8) 農学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	農業科教育法Ⅰ	2
	農業科教育法Ⅱ	2
	職業指導	2
道徳，総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導，教育相談等に関する科目	生徒指導論（栄養教諭）	2
教育実践に関する科目	栄養教育実習指導Ⅰ	1
	栄養教育実習指導Ⅱ	1
	教職実践演習（栄養教諭）	2

(9) 理工学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	数学科教育法A	2
	数学科教育法B	2
	数学科教育法Ⅰ	2

	数学科教育法Ⅱ	2
	工業科教育法Ⅰ	2
	工業科教育法Ⅱ	2

(10) 心理学部

	授業科目	単位数
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2
	体育実技	1

(11) 共通開設科目

	授業科目	単位数	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2	文・経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2	文・経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
	社会科・公民科教育法Ⅰ	2	文・経済・経営・法・社会・政策・心理学部共通開設
	社会科・公民科教育法Ⅱ	2	文・経済・経営・法・社会・政策・心理学部共通開設
	理科教育法A	2	農・理工・環境サステナビリティ学部共通開設
	理科教育法B	2	農・理工・環境サステナビリティ学部共通開設
	理科教育法Ⅰ	2	農・理工・環境サステナビリティ学部共通開設
	理科教育法Ⅱ	2	農・理工・環境サステナビリティ学部共通開設
	情報科教育法Ⅰ	2	理工・情報学部共通開設
	情報科教育法Ⅱ	2	理工・情報学部共通開設
	日本史概説	4	経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
	外国史概説	4	経済・経営・法・社会・政策学

			部共通開設
	人文地理学	4	経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
	自然地理学	4	経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
	地理学（地誌）	4	経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論A	2	全学共通開設
	教育原論B	2	全学共通開設
	教職論	2	全学共通開設
	学校教育社会学	2	全学共通開設
	教育社会学	2	経済・経営・法・社会・政策・国際・心理学部共通開設
	教育課程論	2	全学共通開設
	学習・発達論A	2	全学共通開設
	学習・発達論B	2	全学共通開設
	特別支援教育概論	2	全学共通開設
道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳教育指導法	2	全学共通開設
	総合的な学習の時間・特別活動論	2	全学共通開設
	教育の方法と技術（ICT活用含む)	2	全学共通開設
	生徒・進路指導論	2	全学共通開設
	教育相談	2	全学共通開設
教育実践に関する科目	教育実習指導Ⅰ	1	全学共通開設
	教育実習指導ⅡA	4	全学共通開設
	教育実習指導ⅡB	2	全学共通開設
	教職実践演習（中・高）	2	全学共通開設

(12) その他

授業科目	単位数

介護等体験	2

別表５　削除

別表６　博物館学芸員資格取得に関する科目（第33条関係）

	授業科目	単位数
博物館学芸員に関する科目	生涯学習概論	2
	博物館概論	2
	博物館経営論	2
	博物館資料論	2
	博物館資料保存論	2
	博物館展示論	2
	博物館教育論	2
	博物館情報・メディア論	2
	博物館実習	3

別表７　本願寺派教師資格に関する科目（第33条の２関係）

(1)　文学部

	授業科目	単位数
	勤式	4
	宗門法規	2
	教化法	4

(2)　経済学部

経営学部

法学部

社会学部

政策学部

国際学部

心理学部

	授業科目	単位数
	真宗学概論	4
	仏教学概論	4
	真宗教団史	4

	勤式	4
	宗門法規	2
	教化法	4

(3)　農学部

理工学部

情報学部

環境サステナビリティ学部

	授業科目	単位数
	真宗学概論	4
	仏教学概論	4
	真宗史	4
	勤式	4
	宗門法規	2
	教化法	4

(4)　共通開設科目

	授業科目	単位数	備考
	（本山教師）仏教史	1	全学共通開設
	（本山教師）宗教概説	1	全学共通開設

別表８　削除

別表９　削除

別表10　図書館司書資格取得に関する科目（第33条の６関係）

	授業科目	単位数
図書館司書に関する科目	生涯学習概論	2
	図書館情報学概論	2
	図書館制度・経営論	2
	図書館サービス概論	2
	情報サービス論	2
	情報サービス実習A	1
	情報サービス実習B	1
	図書館情報資源概論	2

	図書館情報資源特論	2
	情報資源組織論	2
	情報資源組織実習A	1
	情報資源組織実習B	1
	児童サービス論	2
	図書・図書館史	2
	図書館基礎特論	2
	図書館サービス特論	2
	図書館情報技術論	2
	図書館実習	1
	図書館施設論	2
	図書館総合演習	2

別表11　学校図書館司書教諭資格取得に関する科目（第33条の７関係）

	授業科目	単位数
学校図書館司書教諭に関する科目	学校経営と学校図書館	2
	学校図書館メディアの構成	2
	学習指導と学校図書館	2
	読書と豊かな人間性	2
	情報メディアの活用	2

別表12　栄養士資格取得に関する科目（第33条の８関係）

	授業科目	単位数
栄養士に関する科目	健康管理概論	2
	公衆衛生学Ⅰ	2
	生化学	2
	生化学実験	1
	解剖生理学	2
	解剖生理学実験	1
	運動生理学	2
	微生物学	2
	食品化学	2

	食品学	2
	食品学実験Ⅰ	1
	食品学実験Ⅱ	1
	食品衛生学	2
	食品衛生学実験	1
	基礎栄養学	2
	基礎栄養学実習	1
	応用栄養学	2
	応用栄養学実習	1
	ライフステージ栄養学	2
	臨床栄養学Ⅰ	2
	臨床栄養学実習Ⅰ	1
	公衆栄養学	2
	公衆栄養学実習	1
	栄養教育論Ⅰ	2
	栄養教育論Ⅱ	2
	栄養教育論実習	1
	給食経営管理論Ⅰ	2
	給食経営管理実習Ⅰ	1
	給食経営管理実習（校外）	1
	調理学	2
	調理学実習Ⅰ	1
	調理学実習Ⅱ	1

別表13　管理栄養士受験資格取得に関する科目（第33条の９関係）

	授業科目	単位数
管理栄養士に関する科目	健康管理概論	2
	公衆衛生学Ⅰ	2
	公衆衛生学Ⅱ	2
	生化学	2
	生化学実験	1

	分子栄養学	2
	解剖生理学	2
	解剖生理学実験	1
	運動生理学	2
	栄養生理学実験	1
	臨床医学概論	2
	臨床病態学	2
	微生物学	2
	微生物学実験	1
	食品化学	2
	食品学	2
	食品学実験Ⅰ	1
	食品学実験Ⅱ	1
	食品加工学実習	1
	食品衛生学	2
	食品衛生学実験	1
	調理学	2
	調理学実習Ⅰ	1
	調理学実習Ⅱ	1
	基礎栄養学	2
	基礎栄養学実習	1
	応用栄養学	2
	応用栄養学実習	1
	ライフステージ栄養学	2
	栄養評価論	2
	栄養教育論Ⅰ	2
	栄養教育論Ⅱ	2
	栄養教育論実習	1
	栄養カウンセリング論	2
	臨床栄養学Ⅰ	2

	臨床栄養学Ⅱ	2
	臨床栄養学Ⅲ	2
	臨床栄養学実習Ⅰ	1
	臨床栄養学実習Ⅱ	1
	臨床栄養管理学	2
	公衆栄養学	2
	公衆栄養学実習	1
	公衆栄養活動論	2
	給食経営管理論Ⅰ	2
	給食経営管理論Ⅱ	2
	給食経営管理実習Ⅰ	1
	給食経営管理実習Ⅱ	1
	管理栄養士総合演習	2
	給食経営管理実習（校外）	1
	臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）	1
	臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	1
	臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	2

別表14　食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格取得に関する科目（第33条の10関係）

	授業科目	単位数
食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する科目	分析化学	2
	有機化学	2
	生化学	2
	食品化学	2
	解剖生理学	2
	微生物学	2
	食品衛生学	2
	公衆衛生学Ⅰ	2
	公衆衛生学Ⅱ	2
	健康管理概論	2
	栄養疫学	2

	食品学	2
	食品機能・加工論	2
	基礎栄養学	2
	応用栄養学	2
	分子栄養学	2
	臨床病態学	2
	臨床医学概論	2
	公衆栄養学	2
	給食経営管理論Ⅰ	2

別表15　社会福祉士受験資格取得に関する科目（第33条の11関係）

	授業科目	単位数
社会福祉士に関する科目	医学概論	2
	心理学と心理的支援	2
	社会学概論	2
	社会福祉原論	4
	社会福祉調査の基礎	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2
	ソーシャルワークの理論と方法	4
	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	4
	地域福祉論	4
	福祉サービスの組織と経営	2
	社会保障論	4
	高齢者福祉論	2
	障害者福祉論	2
	児童福祉論	2
	貧困に対する支援	2
	保健医療と福祉	2
	権利擁護を支える法制度	2
	刑事司法と福祉	2

	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	4
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	4
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	6
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	2

以上の表に掲げる実習演習科目の時間数及び履修方法については，別に定める。

別表16　精神保健福祉士受験資格取得に関する科目（第33条の12関係）

	授業科目	単位数
精神保健福祉士に関する科目	医学概論	2
	心理学と心理的支援	2
	社会学概論	2
	社会福祉原論	4
	地域福祉論	4
	社会保障論	4
	権利擁護を支える法制度	2
	障害者福祉論	2
	刑事司法と福祉	2
	社会福祉調査の基礎	2
	精神医学と精神医療	4
	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職	2
	精神保健福祉の原理	4
	ソーシャルワークの理論と方法	4
	精神保健福祉援助技術論	4
	精神障害リハビリテーション論	2
	精神保健福祉制度論	2

	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	4
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2
	精神保健福祉援助実習	6

以上の表に掲げる実習演習科目の時間数及び履修方法については，別に定める。

別表17　公認心理師受験資格取得に関する科目（第33条の13関係）

	授業科目	単位数
公認心理師に関する科目	公認心理師の職責	2
	心理演習	2
	心理実習A	2
	心理実習B	2

以上の表に掲げる実習科目の時間数及び履修方法については，別に定める。

情報学部教授会規程

制定　令和８年３月 18 日

第１条　教授会は次の事項（学則第 64 条）について審議決定する。ただし全学的に決定を要する事項は除く。
（１）教育職員，教育（研究）補佐員の人事に関する事項
（２）学部長，評議員の選考に関する事項
（３）研究及び教授に関する事項
（４）教育課程の編成，履修の方法及び試験に関する事項
（５）学業評価に関する事項
（６）学生の入学，退学，休学，復学，留学及び卒業，その他学生の身分に関する事項
（７）学生の補導厚生に関する事項
（８）学部内諸規則の制定改廃に関する事項
（９）称号に関する事項
（10）その他学部における重要な事項

２　教授会は，前項に規定する審議事項の一部について，情報学部に常置する代議員会である主任会議並びに専門委員会である教務委員会，研究委員会，学生生活委員会，キャリア委員会及び入試・高大連携委員会に審議付託し，その議決をもって教授会の議決とみなすことができるものとする。

第２条　教授会は情報学部所属の専任の教授，准教授，講師をもって構成する。ただし，専任実務家教員は除く。
２　引続き３ヶ月以上教授会に出席できない者は，教授会の議を経て，その期間教授会の構成員の員数から除外することができる。

第３条　学部長は，必要あると認めたときは，前条に定める構成員以外の職員を教授会に出席させ報告又は意見を求めることができる。ただし表決には加えない。

第４条　教授会は，学部長がこれを招集し，その議長となる。
２　やむをえない事由のため，学部長が欠席する場合は，予め学部長の指名した者が議長となりその職務を代行する。

第５条　学部長は，教授会構成員の３分の１以上の者から要求のあった場合には，会議を招集しなければならない。

第６条　教授会は構成員の３分の２以上の出席がなければ開くことができない。

第７条　教授会の議決は，出席者の過半数の同意によらなければならない。

第８条　教育職員の人事に関する事項は別に定める。

第９条　本人の不利益に属する人事事項は，第６条に規定する教授会において　審議し，その議決は，出席者の５分の４以上の同意によらなければならない。

第 10 条　第８条，第９条の人事の審議には，教育職員選考基準等人事に関する諸規則を参照しなければならない。

第 11 条　第８条，第９条の人事に関する事項を議する場合は，議長は当該者の退席を求めることができる。

第 12 条　学部長は，次に掲げる事項については，教授会の意向を聞かなければならない。
（１）　予算の新規要求
（２）　予算の執行に関する事項
（３）　その他学部長が必要と認めた事項

第 13 条　学部長は，教授会の事務を処理するため，指名する事務職員を出席させることができる。

第 14 条　議事録は，学部長が保管し，学部専任構成員の要求があるときはこれを呈示しなければならない。

第 15 条　学部長を補佐するため，学科主任，また学部に各１名の教務主任，研究主任，学生生活主任及びキャリア主任をおくことができる。

第 16 条　情報学部に，教務委員会，研究委員会，学生生活委員会，キャリア委員会及び入試・高大連携委員会を常置する。

第 17 条　この規程を変更する場合は，教授会構成員の４分の３以上の同意を得なければならない。

付則
この規程は，令和９年４月１日から施行する。

龍谷大学 情報学部
設置の趣旨等を記載した書類

― 目次 ―

1　設置の趣旨及び必要性 2

2　学部・学科等の特色 7

3　学部・学科等の名称及び学位の名称 8

4　教育課程の編成の考え方及び特色 9

5　教育方法、履修指導方法及び卒業要件 16

6　多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画 20

7　編入学定員を設定する場合の具体的計画 22

8　企業実習や海外語学研修等の学外実習の具体的計画 22

9　取得可能な資格 24

10　入学者選抜の概要 24

11　教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色 28

12　研究の実施についての考え方、体制、取組 30

13　施設、設備等の整備計画 31

14　２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画 32

15　管理運営 33

16　自己点検・評価 33

17　情報の公表 35

18　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等 40

19　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 43

１　設置の趣旨及び必要性

１－１　龍谷大学及び学部等の沿革

龍谷大学の歴史は、1639（寛永 16）年に西本願寺に設けられた教育機関「学寮」に遡る。爾来、浄土真宗の精神を建学の精神として、人間性豊かで深い学識と教養を備え、社会の発展向上に貢献する人材を養成することを目的において発展を遂げてきた。

現在は、文学部、経済学部、経営学部、法学部、理工学部（2027 年度から学部名称を変更。2026 年度までは先端理工学部）、社会学部、国際学部、政策学部、農学部、心理学部の 10 学部及び 11 研究科を擁する総合大学となっている。

本学は、1989（平成元）年に仏教系大学として、はじめて理工学部（数理情報学科、電子情報学科、機械システム工学科、物質化学科の 4 学科体制）を開設し、2003（平成 15）年には、情報メディア学科及び環境ソリューション工学科を設置した。さらに、2020（令和 2）年には、理工学部を改組し、課程制を導入して、数理・情報科学課程、知能情報メディア課程、電子情報通信課程、機械工学・ロボティクス課程、応用化学課程、環境生態工学課程（2025 年度に環境科学課程に名称変更）の 6 課程から構成される先端理工学部を設置した。このように社会からのニーズに応えるべく、積極的な教学改革を行ってきた。

１－２　龍谷大学情報学部の設置の趣旨及び必要性

情報技術の急速な進展は、日常生活から産業のあり方に至るまで、社会のさまざまな側面に大きな影響を与えている。特に、人工知能（AI）、IoT、ビッグデータ解析、クラウドコンピューティングといった分野は、医療、製造、金融、流通、公共サービスなど、さまざまな産業分野で不可欠な技術基盤として深く浸透しており、今や社会のインフラの一部となりつつある。その結果、デジタル社会の中で情報学の知識と技術は、一部の専門職に限らず、あらゆる分野において基礎的かつ必須のスキルと認識されるようになってきている。

こうした状況を踏まえ、日本政府も情報技術の人材育成を重要視している。政府の「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画」では Society5.0 を掲げ、「サイバー空間とフィジカル空間の融合による新たな価値創出」が目標とされている。この実現には、AI やデータサイエンスを駆使して社会的価値を創出できる人材の育成が不可欠である。また、経済産業省の調査によれば、2030（令和 12）年には IT 人材の不足が最大約 79 万人に達する見込みで、特に高度な情報技術やデータサイエンス分野の人材不足が深刻な課題とされている。DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展に伴い、企業は情報技術者やデータサイエンティストを必要としているが、十分な人材が確保できない状況が続いている。この人材不足は日本の産業競争力に影響を与え、デジタル技術を活用した新しい価値の創造や革新を妨げる要因ともなり得る。そのため、教育機関における情報学分野の充実が社会的に強く求められており、企業ニーズに対応できる人材を育成することは、持続可能な経済成長と産業の競争力向上にとって重要な鍵となっている。

さらに、情報技術は環境保全やエネルギー効率化、医療や福祉の支援など、グローバルな

課題の解決にも貢献する可能性を秘めている。これらの分野でのデータ活用による予測や管理の高度化は、持続可能な社会の構築に寄与すると期待されている。情報技術はビジネスや経済成長を支えるだけでなく、より良い社会の基盤として広く認識されている。

このような情報学教育の社会的要請を受けて、先端理工学部知能情報メディア課程を基礎として、令和 9（2027）年度に「情報学部」（入学定員 130 名）を設置することを計画した。

１－３　情報学部において養成する人材像

教育理念・目的、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）との相関は、資料 1 のとおりである。資料 1 に示しているとおり、学力の 3 要素を方針の策定の枠組みとして使用しており、方針間の整合性がとれるよう設定している。

（１）情報学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、情報技術と人、社会、自然との調和を重視し、幅広い教養と情報学の基礎知識・技能を修得することで、実践的な専門家として情報社会の発展に寄与し、新しい社会の創造にも積極的に携わる情報技術者を育成することを目的とする。

（２）情報学部の卒業認定・学位授与の方針［学士（情報学）］（ディプロマ・ポリシー）

情報学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生に保証する基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方針を次に掲げる。

［学生に保証する基本的な資質・能力］

（注）○：教養教育科目により保証する資質・能力　●：専攻科目により保証する資質・能力

①：建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解している。 ●情報倫理に関する高度な理解と意識を持ち、情報技術を安全かつ責任ある方法で活用できる。
②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●情報学の基盤となる自然科学の基礎的な知識を身につけている。 ●情報学分野における十分な専門知識を持ち、それらを活用して問題解決ができる。

③:(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解できる。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現できる。 ●論理的思考力と問題解決能力を備え、情報技術を駆使して複雑な課題を分析し効果的な解決策を導き出すことができる。 ●既存の枠にとらわれない創造性と革新性を発揮し、独創的な情報システムやビジネスモデルを創造することができる。 ●目標達成に向け解決すべき課題と制約を分析し、長期的な視点に立って必要な学修計画を立て課題解決に取り組むことができる。
④:主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●自らの知識・技術を評価し、必要な学びを継続するとともに、最新の技術動向を積極的に習得できる。 ●柔軟性と高いコミュニケーション能力を持ち、異なる価値観や専門性を持つ人々と協働し、目標達成に向けて効果的に取り組むことができる。

[学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法]

・学部に 4 年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得したものに対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
・卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位を必要とする。

(3) 情報学部の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

情報学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学修環境の向上・学修支援体制を整備する。

[情報学部の教育内容]

(注)○:教養教育科目にかかる教育内容　●:専攻科目にかかる教育内容

建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の「仏教の思想」科目(「仏教の思想A」・「仏教の思想B」)を全学必修科目として開講する。

	●建学の精神に基づき、情報倫理に関する高度な理解と意識を醸成するために、「情報セキュリティ」を必修科目として、「情報社会と情報倫理」を選択科目として開講する。
知識・技能の修得	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等）を開講する。 ●情報学の基盤となる自然科学の基礎的な知識を身につけるために「物理学概論」等の自然科学系科目を設置するとともに、「微積分学」/「データサイエンス入門数学・演習Ⅰ」、「線形代数学」/「データサイエンス入門数学・演習Ⅱ」、「数理統計学」/「データサイエンス数理統計学」などの数学系科目を選択必修科目として設置する。 ●情報学分野の幅広い基礎知識を身につけるために、「情報基礎」、「情報システム基礎」、「情報ネットワーク基礎」、「電気・電子工学概論」などの専門基礎科目を設置し、専攻ごとの高度な専門知識と問題解決力を身につけるために、各専攻別の講義科目及び演習科目を専門応用科目として設置する。
「思考力・判断力・表現力」の発展・向上	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等）を開講する。 ●論理的思考力と問題解決能力を備え、情報技術を駆使して複雑な課題を分析し効果的な解決策を導き出す力を身につけるために、「プログラミング基礎演習」、「データサイエンス入門演習」、「データ構造とアルゴリズム・演習」などのプログラミングを含む演習科目を開講する。 ●既存の枠にとらわれない創造性と革新性を発揮し、独創的な情報システムやビジネスモデルを創造する能力を身につけるため

	に、PBL科目として「総合演習」を開講する。 ●目標達成に向け解決すべき課題と制約を分析し、長期的な視点に立って必要な学修計画を立て課題解決に取り組むことができる力を身につけるために、「卒業研究」を行う。
「主体性・多様性・協働性」の発展・向上	●自らの知識・技術を評価し、最新の技術動向を積極的に習得するために、英語で書かれた文献の購読や執筆などを行う「科学技術英語」を設置する。 ●柔軟性と高いコミュニケーション能力を持ち、異なる価値観や専門性を持つ人々と協働する力を身につけるために、「未来共創ラボ演習Ⅰ」、「未来共創ラボ演習Ⅱ」、「未来共創ラボ演習Ⅲ」、「プロジェクトリサーチ」、「インターンシップ」を設置する。

（４）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

情報学部では、建学の精神に基づいて、情報技術と人、社会、自然との調和を重視し、幅広い教養と情報学の基礎知識・技能を修得することで、実践的な専門家として情報社会の発展に寄与し、新しい社会の創造にも積極的に携わる情報技術者を育成することを目的としている。

そのために、情報学部で教育を受けるうえで基本となる高校での教科を幅広く勉学しており、次のような知識・思考力・態度を有する学生を求める。

知識・技能の修得	・専門分野を学ぶのに必要な知識・能力を備え、大学生活を通して成長しようとする意欲を有する人
「思考力・判断力・表現力」の発展・向上	・既成概念にとらわれず、課題を発見・解決に挑戦し、情報社会の変化に意欲的に取り組むことができる人
「主体性・多様性・協働性」の発展・向上	・専門分野に強い関心を持ち、協働を通して学びを深め、多様な考え方を尊重できる人 ・情報学への強い関心と意欲を持ち、粘り強く学び続け、コミュニケーションを大切にできる人 ・主体的に学び、情報収集・分析を行い、論理的に思考し、課題解決に取り組む態度を有する人

１－４　組織として研究対象とする中心的な学問分野

情報学部情報学科の教育理念・目的を達成するために、主に文字メディア・画像メディア・音声メディアの処理、VR・AR・MR などの仮想メディアを含む情報メディア分野、ネット

ワークや IoT に関する知識を基盤とした情報システム分野、そして Society5.0 におけるデータ思考の基礎となるデータの扱い、データの可視化、データの予測による価値創造を行うデータサイエンス分野を中心的な学問分野とする。

２　学部・学科等の特色

２－１　教育の特色

情報学部情報学科は、情報技術の基礎から応用に至るまでを幅広く学ぶことが特徴であり、学生が学びをイメージしやすく、それぞれの志向性に応じた系統的な履修を可能とするために、学修上の履修区分として、「情報メディア専攻」、「知能情報システム専攻」及び「実践データサイエンス専攻」という 3 専攻を設置する。

専攻は、学生が入学試験受験時に、「情報メディア専攻・知能情報システム専攻」、「実践データサイエンス専攻」のいずれかを選択する。情報メディア専攻と知能情報システム専攻の選択は 2 年次進級時に行う。入学後は学部共通の学修を進めつつ、各専攻に設置される専門的な学修を深めていく。なお、専攻は入学試験時においては募集定員を区分することとし、受験生をはじめとする社会のニーズへの対応や他大学の情報系学部の編成も意識して設定している。

各専攻の特色は以下のとおりである。

① 情報メディア専攻

画像や音声、音響などのメディア処理技術や CG、VR、AR などのメディアコンテンツについて体系的に学ぶ。そのために、「画像メディア処理論」、「CG とアニメーション」、「メディア処理演習」、「実世界コンピューティング」、「XR」、「コンピュータビジョン」、「言語メディア処理論」、「音声・音響メディア処理論」を配置する。

② 知能情報システム専攻

データベースやネットワークシステム、ソフトウェア工学など情報システムの基盤技術について体系的に学ぶ。そのために、「システムソフトウェア」、「データベース」、「C プログラミング」、「ネットワークシステム演習」、「オブジェクト指向プログラミング」、「Web 技術」、「人工知能」、「ソフトウェア工学」を配置する。

③ 実践データサイエンス専攻

データの可視化、統計解析、機械学習などの技術を駆使して、課題解決につながる予測モデルの構築や新たな価値・サービスの創出について体系的に学ぶ。そのために、「経営情報学」、「データマイニング」、「バイオデータサイエンス」、「データサイエンス応用基礎・演習」、「情報検索」、「アントレプレナーシップ」、「推薦システム」、「機械学習」を配置する。

２－２　教育内容の特色

情報学部情報学科は、実践力・応用力を備えた情報人材の養成のため、実践型演習として低年次から研究を体験する「未来共創ラボ演習Ⅰ」、「未来共創ラボ演習Ⅱ」、「未来共創ラボ演習Ⅲ」及び「ラボラトリーインターンシップ」を配置し、「情報」に様々なテーマを掛け合わせた社会課題解決型の研究テーマを教員・異なる学年の学生と協働して学ぶ。

例えば、「情報×健康」では、睡眠に関する様々なデータを活用して AI による分析を行うことで、豊かで健康的な生活の実現に向けた提案ができる能力を育成する。さらに、「情報×製造」では、AI やプログラミング、データといったデジタル技術を駆使し、高品質な製品の開発、効率的かつ柔軟な働き方の実現、安全で持続可能な製造プロセスの構築を支援するスキルを養成する。

課題演習や教員の個別指導にとどまらず、専門知識をもつ上級生との対話・メンタリングを通じて、どのような研究課題が存在するのか、研究を実施する上で必要となる知識はどの授業科目に対応するのか、講義や演習で学ぶ理論や技術が現場でどのように役立つか、を体験として理解を深めていく。複数の研究室を体験することで異なる分野を横断的に把握し、学生間及び学生と教員間のつながりを形成し、目標達成に向け解決すべき課題と制約を分析し、長期的な視点に立って必要な学修計画を立て課題解決に取り組む「卒業研究」へと有機的に接続する。

３　学部・学科等の名称及び学位の名称

３－１　学部・学科の名称

情報学部情報学科は、これまで先端理工学部知能情報メディア課程が積み重ねてきた「情報メディア分野」、「情報システム分野」の知見を基盤に、データ思考の基礎となるデータの扱い、データの可視化、データの予測による価値創造を行う「データサイエンス分野」に対応した教育プログラムを拡充し、情報技術の基礎から応用に至るまでを幅広く学ぶことのできるよう教育体制を整備する。

上記を踏まえ、本学部学科を表現するのに最も適している分野・名称は「情報学」であることから、学部・学科名称は次のとおりとする。

学部名称：情報学部

学科名称：情報学科

なお、英訳名称については「Faculty of Informatics・Department of Informatics」とする。

３－２　学位の名称

設置の趣旨や育成する人材像等を反映し、学位は「学士（情報学）」とする。英訳名称については、「Bachelor of Informatics」とする。

４　教育課程の編成の考え方及び特色

４－１　カリキュラム・ポリシーと各授業科目の整合性について

カリキュラム・ポリシーにあわせて授業科目を開設している。また、方針の各項目に定める内容を達成できるよう、主要授業科目を設定している。主要授業科目設定の考え方としては、学位授与の方針を達成するために必要な科目として、必修・選択必修科目を主要授業科目として位置付けている。必修・選択必修科目は卒業において必要となる科目であり、学位授与の方針を達成するための中核となる科目として、カリキュラム・ポリシー上で重要な科目として位置付けるという考えによるものである。また、必修・選択必修科目でなくとも、カリキュラム・ポリシーとの関連性が強い科目についても、主要授業科目として位置付けている。

（注）◆：主要授業科目　※主要授業科目はすべて記載

教育課程編成・実施の方針 （カリキュラム・ポリシー）		対応する科目
建学の精神の具現化	建学の精神について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。	◆仏教の思想A ◆仏教の思想B 歎異抄の思想Ⅰ 歎異抄の思想Ⅱ
	建学の精神に基づき、情報倫理に関する高度な理解と意識を醸成するために、「情報セキュリティ」を必修科目として、「情報社会と情報倫理」を選択科目として開講する。	◆情報セキュリティ 情報社会と情報倫理
知識・技能の修得	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。	◆英語総合1（A） ◆英語総合1（B） ◆英語総合2（A） ◆英語総合2（B）

	諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等）を開講する。	人文科学系 ◆哲学入門 ◆倫理学入門 ◆倫理学Ａ ◆クリティカル・シンキング ◆宗教学のすすめ ◆宗教の世界 ◆日本の文学 ◆アジアの文学Ａ・Ｂ ◆西洋の文学Ａ・Ｂ ◆言語学入門 ◆歴史学のすすめ ◆日本の歴史 ◆日本の文化 ◆アジアの歴史 ◆西洋の歴史 ◆心理学入門 ◆教育原論Ａ・Ｂ 社会科学系 ◆日本国憲法 ◆法学のすすめ ◆政治学のすすめ ◆社会学のすすめ ◆地理学のすすめ ◆経済学のすすめ ◆経営学のすすめ ◆国際学のすすめ ◆文化人類学のすすめ ◆社会調査のすすめ ◆社会統計学のすすめ ◆人権論Ａ・Ｂ 情報社会とメディア データサイエンス・AI入門 自然科学系 ◆生活の中の数学 ◆生活の中の統計技術

		◆生活の中の化学 ◆生活の中の物理 ◆生活の中の生物学 ◆生活の中の地学 ◆生命と科学 スポーツ科学系 ◆スポーツ技術学Ａ・Ｂ
	情報学の基盤となる自然科学の基礎的な知識を身につけるために「物理学概論」等の自然科学系科目を設置するとともに、「微積分学」/「データサイエンス入門数学・演習Ⅰ」、「線形代数学」/「データサイエンス入門数学・演習Ⅱ」、「数理統計学」/「データサイエンス数理統計学」などの数学系科目を選択必修科目として設置する。	◆微積分学 ◆データサイエンス入門数学・演習Ⅰ・Ⅱ ◆線形代数学 ◆数理統計学 ◆データサイエンス数理統計学 情報理論 離散数学 物理学概論
	情報学分野の幅広い基礎知識を身につけるために、「情報基礎」、「情報システム基礎」、「情報ネットワーク基礎」、「電気・電子工学概論」、などの専門基礎科目を設置し、専攻ごとの高度な専門知識と問題解決力を身につけるために、各専攻別の講義科目及び演習科目を専門応用科目として設置する。	◆情報基礎 ◆データサイエンス入門 ◆情報基礎セミナー ◆画像メディア処理論 ◆CGとアニメーション ◆メディア処理演習 ◆実世界コンピューティング ◆XR ◆コンピュータビジョン ◆言語メディア処理論 ◆音声・音響メディア処理論 ◆システムソフトウェア ◆データベース ◆Cプログラミング ◆ネットワークシステム演習 ◆オブジェクト指向プログラミング ◆Web技術

		◆人工知能 ◆ソフトウェア工学 ◆経営情報学 ◆データマイニング ◆バイオデータサイエンス ◆データサイエンス応用基礎・演習 ◆情報検索 ◆アントレプレナーシップ ◆推薦システム ◆機械学習 メディア処理基礎 ソフトウェア基礎 情報システム基礎 情報ネットワーク基礎 ハードウェア基礎 電気・電子工学概論
「思考力・判断力・表現力」の発展・向上	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。	◆英語総合3 ◆英語総合4
	幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等）を開講する。	人文科学系 9 科目 社会科学系 21 科目 自然科学系 4 科目 スポーツ科学系 2 科目

	論理的思考力と問題解決能力を備え、情報技術を駆使して複雑な課題を分析し効果的な解決策を導き出す力を身につけるために、「プログラミング基礎演習」、「データサイエンス入門演習」、「データ構造とアルゴリズム・演習」などのプログラミングを含む演習科目を開講する。	◆情報基礎演習 ◆プログラミング基礎演習 ◆データサイエンス入門演習 ◆データ構造とアルゴリズム・演習
	既存の枠にとらわれない創造性と革新性を発揮し、独創的な情報システムやビジネスモデルを創造する能力を身につけるために、PBL科目として「総合演習」を開講する。	総合演習
	目標達成に向け解決すべき課題と制約を分析し、長期的な視点に立って必要な学修計画を立て課題解決に取り組むことができる力を身につけるために、「卒業研究」を行う。	◆卒業研究
「主体性・多様性・協働性」の発展・向上	自らの知識・技術を評価し、最新の技術動向を積極的に習得するために、英語で書かれた文献の購読や執筆などを行う「科学技術英語」を設置する。	◆科学技術英語
	柔軟性と高いコミュニケーション能力を持ち、異なる価値観や専門性を持つ人々と協働する力を身につけるために、「未来共創ラボ演習Ⅰ」、「未来共創ラボ演習Ⅱ」、「未来共創ラボ演習Ⅲ」、「プロジェクトリサーチ」、「インターンシップ」を設置する。	◆未来共創ラボ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ◆ラボラトリーインターンシップ プロジェクトリサーチ インターンシップ

４－２　１年間の授業期間や各授業科目の授業期間の設定の考え方について

本学における授業期間 35 週の内訳は次のとおりである。

期間名称	週数
・第 1 学期授業期間	15 週
・第 1 学期定期試験期間	1 週

・集中講義期間	3 週
・第 2 学期授業期間	15 週
・第 2 学期定期試験期間	1 週

授業の実施は通常の第 1 学期及び第 2 学期の授業期間での実施を基本とするものの、柔軟な時間割設定ができるよう、集中講義期間を 3 週間設定しており、十分な教育効果を確保している。なお、学部横断科目の中には他学部における授業期間の考え方により、一部、クォーターで開講する科目があるが 2 学期制に則した単位設定としている。

４－３　１単位時間設定の考え方

授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより、またはこれらの併用により行うものとするとされていることから（大学設置基準第 25 条第 1 項)、各授業科目を講義、演習、実験、実習もしくは実技に分け、講義・演習と実験・実習・実技で単位数の計算の方法を分けることとした。

単位計算上、1 つの授業 90 分を 2 時間として計算し、1 単位 45 時間の内訳は次のとおりである。

講義・演習科目については、授業時間以外の予復習の時間が多分に必要であるとの認識から、講義・演習科目と実験・実習・実技科目とで計算方法を変えている。

	授業時間	授業外学習時間
・講義・演習	15 時間	30 時間
・実験・実習・実技	30 時間	15 時間

４－４　履修順序（配当年次）の考え方

情報学部で実施する教育課程は、教養教育科目、学部横断科目、専門基礎科目、専門応用科目に区分される（資料 2「カリキュラム全体イメージ図」参照）。

情報学部の開講科目は、入学時からの学修の積み重ね（順次性）を考慮し、第 1 セメスターから第 4 セメスターを中心に配置する教養教育科目、専門基礎科目、特定の学問分野に限らず広範な普遍性を育む学部横断科目、第 3 セメスター以降に開講される学びの志向性に基づく専門応用科目に、学びの進展に応じて各科目を配置する。

４－５　科目区分の設定及び科目構成とその理由

教育課程は、①教養教育科目、②学部横断科目、③専門基礎科目、④専門応用科目に区分される。各々の構成と考え方、特色は次の通りである。

①教養教育科目

教養教育については、必修（10 単位)、選択必修（4 単位)、選択（8 単位）に区分される。開講科目は、主に 1 年次科目を「基礎教養」、2 年次科目を「発展教養」として区分し、科目の位置づけを示している。

必修科目は、本学の建学の精神の基盤となる釈尊及び親鸞の思想を学ぶ「仏教の思想 A・B」（計 4 単位）を第 1・2 セメスターに配置し、初年次に建学の精神を涵養するとともに、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的に開講する。また、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得するため、グローバル社会の必須スキルとなる英語にかかる科目として「英語総合 1（A）・1（B）・2（A）・2（B）・3・4」（計 6 単位）を第 1 セメスターから第 4 セメスターまで連続して配置し開講する。

選択必修科目は、「人文科学系科目」「社会科学系科目」の各分野に渡って開講する教養科目から、各 2 単位（計 4 単位）を選択必修とし、各分野から偏りなく履修し、幅広い教養を身に付けるカリキュラムとして設計する。

選択科目は、幅広い教養を身に付けるために配置する科目から、多様な学生の興味・関心に見合った科目を選択して履修する。選択科目には、人文・社会・自然科学系以外にも、初修外国語科目やスポーツ科学系科目を配置する。

②学部横断科目

情報人材の育成においては、プログラミングやデータサイエンスに関する専門的な知識や技能に加え、思考法や倫理学、哲学など、物事を深く洞察するための基盤となる素養が必要である。また、他分野との関連性を踏まえて専門分野を理解することも不可欠といえる。

こうした素養は特定の学問分野に限らず、広範な普遍性を持つため、「学部横断科目」として、学部横断的に他学部（環境サステナビリティ学部）と協力して開講する。

③専門基礎科目

1 年次～2 年次は、体験的な演習科目の配置による主体的学びを促進する。これらを通して、プログラミングに関する理論・知識を主とし、学生自身が主体的に学ぶための基礎力を定着させる。

数学系科目の選択必修科目を設置し、専門科目の学修に必要な数学の基礎を修得する。また、技術の修得にとどまらず、高い倫理観を身につけることが必須であるため、必修の講義科目を設置し、情報セキュリティの技術を修得すると共に、情報倫理について修得する。これらの科目を通して、情報学分野の基礎を幅広く修得する。

3 年次は、PBL 形式及びアジャイルラーニングの実践的な科目である「プロジェクトリサーチ」を配置し、対話的学びを促進する。さらに、「インターンシップ」及び「総合演習」による実践体験を重視することで、実践的学びや深い学びを促進する。

④専門応用科目

情報学部情報学科での学びに応じて区分した３つの専攻（「情報メディア専攻」、「知能情報システム専攻」及び「実践データサイエンス専攻」）における特色ある科目を配置する。学生は選択した専攻に応じて、所定の単位数を履修することにより、特定の分野における専門性を身につける。選択科目については、専攻区分を問わずに履修することができ、自専攻の学びを軸にしながら、多様な領域の技術や課題解決方法を身につけることで、専門領域における常識にとらわれない柔軟な発想力を修得する。

「卒業研究関係」として、研究室での研究体験を通して、学術研究の取組方法や面白さを知る「未来共創ラボ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」や卒業研究に必要な基礎技術等を修得する「ラボラトリーインターンシップ」を配置し、4 年次に学修の集大成として取り組む「卒業研究」と有機的に接続する。また、英語論文の読解や執筆など、研究に必要な英語力を修得する「科学技術英語」を配置する。

なお、情報学部情報学科における必修科目・選択必修科目・選択科目の構成として、必修科目は、情報学部情報学科の全ての学生が共通して学修する意義及び必要性を有する科目を配置する。

選択必修科目は、各専攻の学修を深めていく上で重要となる科目を配置する。

選択科目は、学生自身の関心や卒業後のキャリアデザインに即して専門的な学修を進めていくために、情報学の幅広い領域に対応した科目を配置し、専攻区分を問わずに修得することができる（資料３「情報学部開講専攻科目分類一覧」参照）。

５　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

５－１　教育方法

教育課程については、「教養教育科目」及び「専攻科目」から構成している。

各科目については、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに基づき、それぞれの内容・特性に応じて、講義・演習・実技・実験実習の形式により実施する。

また、「４－５　科目区分の設定及び科目構成とその理由」で詳述した科目区分の特性も勘案し、科目ごとに、それぞれの学びに適した授業内容、配当年次及びクラス規模（学生数）を設定する。なお、情報学部情報学科の入学定員 130 名に対し、基幹教員 18 名を配置する。学修の集大成となる 4 年次の「卒業研究」においては、基幹教員 1 名あたり 7～8 名の学生を割り当てる計画であり、個別指導を通じたきめ細かな教育を展開する。

また、授業担当者全員が履修指導や学修指導の時間を確保しており、全学的に運用されている教学情報のポータルサイト（Ryukoku University System Integration Service）等で明示している。

５－２　履修指導方法

情報学部においては、基幹教員と事務職員が相互に連携しつつ、学生の興味・関心や希望、能力に応じて丁寧に履修指導を行う。その目的は、学生が自身の進路を見定め、そのために必要な各種の科目を円滑に履修し、卒業後の進路に向けた準備を効果的に行うことを支援することにある。具体的な内容は、以下のとおりである。

①主な履修指導体制（「履修説明会」による指導（セメスター毎に実施）含む）

履修説明会は、毎年 4 月と 9 月に実施し、基幹教員と事務職員が履修登録、成績、単位の取得等に関する全般的な履修指導を実施する。特に入学直後に実施する説明会においては、1 年次からの履修計画の重要性などについて、詳細に説明する。また、その後の履修説明会においても、学年進行に応じ、必要な情報を周知していく。

履修モデルについては、各年次及びセメスターで履修するべき科目の具体例を新入生に提示することで 4 年間の学修の全体像や、専門分野への道筋を分かりやすく示す。併せて、カリキュラムマップは他学部同様、履修要項に掲載し、学修の目標やそのための履修のあり方を明確にする。

シラバスには、各授業の授業概要、到達目標、各回の授業計画や予習復習内容、教科書、参考書、成績評価基準等が明確に記されていることを周知し、科目選択についてはそれらを熟読して自らの学修目標の実現を助ける科目を適切に選択するように指導する。

履修登録や教務に関連した情報の提供は、全学的に運用されている教学情報のポータルサイト（Ryukoku University System Integration Service）により行う。履修指導や教務に関連した学生の疑問点に関しては、教務課窓口において、基幹教員、事務職員が指導や助言を行う。また、学生が自由に相談できるよう、全教員によるオフィスアワーを実施する。

②クラス担任制による指導（第 1・2 セメスター（1 年次）に実施）

入学時に 8 名程度でクラスを構成し、大学生活上の様々なフォローアップを行う体制を構築する。各クラスには主に基幹教員をクラス担任として配置し、学生一人ひとりの希望を聞き取りながら学修指導を行う。また、クラス担当者は学年が進行しても、随時コミュニケーションを取れる体制を構築し、必要に応じてアドバイスを行う。取得単位数が指定基準を下回る学生（単位僅少者）に対しては、半期に 1 回程度の個別指導により状況を把握したうえで、履修計画の再考を促す等、個々の事情に応じた指導を行うこととする。

③「未来共創ラボ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」担当教員による指導（第 3・4・5 セメスターに実施）

各担当教員は学生の履修状況や希望、将来的な展望を勘案しながら、細やかな指導及びアドバイスを適切に行い、それぞれの学生が専門応用科目、3 年次後期からの研究室の本配属を適切に選択できるよう担当教員を中心とした効果的な指導を実施する。

５－３　卒業要件

情報学部情報学科の卒業要件は、4 年以上在学し合計 124 単位以上を修得することとし、「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力の獲得要件として、カリキュラム・ポリシーで掲げる体系的かつ系統的な教育課程に応じ、次の通り設定する。

なお、卒業研究の科目については、大学設置基準第 21 条第 3 項の規定に基づき、研究活動に必要な学修等を考慮して、単位数を設定する。

■情報メディア専攻、知能情報システム専攻、実践データサイエンス専攻

科目区分	種別	科目群	単位数	卒業要件単位数
教養教育科目	必修	「仏教の思想」科目	4	22
		言語科目	6	
	選択必修	人文科学系科目	2	
		社会科学系科目	2	
	選択	―	8	
専攻科目	必修	専門基礎科目	12	32
		専門応用科目	20	
	選択必修	専門基礎科目	10	20
		専門応用科目	10	
	選択	学部横断科目	6	38
		専門基礎科目	22	
		専門応用科目	10	
フリーゾーン ※1				12
合　　計				124

※1　フリーゾーンとは、教養教育科目、専攻科目の区分を問わずに修得可能な領域である。ただし、自由科目は除く。

５－４　履修モデル

情報学部における履修モデルを、次のとおり提示する。

（1）履修モデル①（資料 4「情報メディア専攻履修モデル」参照）

画像や音声、音響などのメディア処理技術や CG、VR、AR などのメディアコンテンツに

ついて体系的に学ぶ専攻である。音響、画像、ゲーム関係企業、情報セキュリティ関連企業、大学院進学、公務員、高等学校教員、その他一般企業などを進路として想定している。

（２）履修モデル②（資料 5「知能情報システム専攻履修モデル」参照）

データベースやネットワークシステム、ソフトウェア工学など情報システムの基盤技術について体系的に学ぶ専攻である。システムインテグレーター、情報セキュリティ関連企業、大学院進学、公務員、高等学校教員、その他一般企業などを進路として想定している。

（３）履修モデル③（資料 6「実践データサイエンス専攻履修モデル」参照）

データの可視化、統計解析、機械学習などの技術を駆使して、課題解決につながる予測モデルの構築や新たな価値・サービスの創出について体系的に学ぶ専攻である。スポーツ関連企業、情報セキュリティ関連企業、公務員、大学院進学、その他一般企業などを進路として想定している。

５－５　履修科目の登録上限

情報学部では、各セメスターにおける履修登録制限単位数は予習・復習を含む学修時間の確保を考慮のうえ各年次で以下のとおり定め、学生が 4 年間にわたって計画的に授業科目を履修するよう指導する。

＜履修登録制限単位数＞

年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8
単位	22	22	22	22	24	24	48	

５－６　他大学等における授業科目の履修

本学が加盟している「大学コンソーシアム京都」においては、京都地域を中心とした 46 の大学・短期大学が単位互換包括協定を締結している。また本学は、本学学生が放送大学の科目を受講することが可能となる「放送大学科目履修制度」に関わる協定を締結している。

これら各々に用意されている科目のうち、その教育内容が本学情報学部の開設科目に相当するものについては、これを同学部の開設科目として読み替えることとする。なお、履修要件等の詳細については、別途履修要項に定めることとする。

５－７　留学生の在籍管理の方法や入学後の履修指導、生活指導等

正規学生として留学生を受け入れる。在籍管理の方法としては、入学時において国外からの入学者に対しては、在留資格認定証明書を代理申請し、然るべき在留資格の取得を支援す

る。国内からの入学者に対しては、入学時に在留カードコピーの提出を求め、在留資格及び在留期間を把握する。その上で、在学期間中は各留学生の在留期間を定期的に確認し、更新が必要な留学生に対しては、更新手続きの案内を行う。

また、入学後の履修指導、生活指導に関しては、留学生担当として事務職員を配置し、入学時オリエンテーションにおける履修・生活指導のみならず、年に複数回生活相談の場を設けることで、組織的な支援を行う。

全学的な支援体制として、本学の国際化事業を担当する「グローバル教育推進センター」と協力し、学修面や生活面の支援体制を構築している。また、留学生寮にはチューターを配置し、日常生活をサポートする体制を構築している。

なお、本学では、留学生が万一、退学や除籍となった場合は、文部科学省の指導に基づき帰国手続きをサポートするなど、留学生の適切な受入及び在籍管理を徹底している。

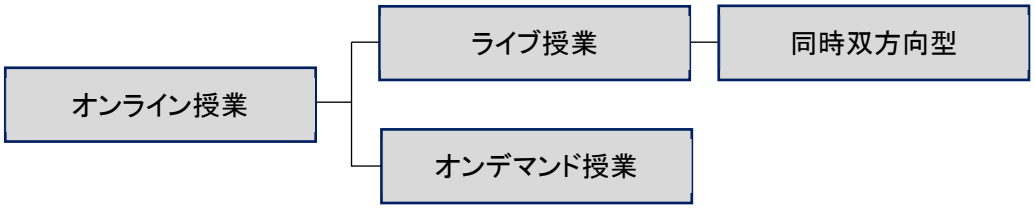
６　多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、対面にて授業を行う科目のほか、平成 13 年文部科学省告示第 51 号等を踏まえ、一部においてインターネット環境を利用してオンライン上で授業を行う科目を開設している。

（１）オンライン授業の形態

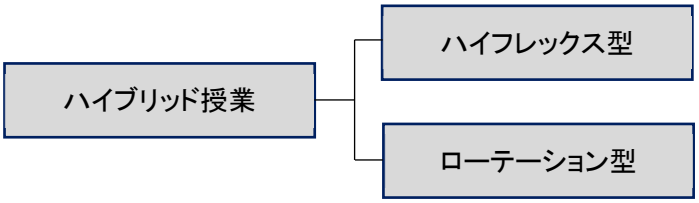
①オンライン授業の実施形態

本学では、次のようにオンライン授業の実施形態を区分している。



②オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態

オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態として、ハイブリッド授業がある。



（２）オンライン授業の定義

①オンライン授業

本学におけるオンライン授業とは、インターネットを介して、文字・音声・静止画・動画等の多様な情報を、当該授業を行う教室等以外の場所にいる学生に対して配信し、設問解答や意見交換などを実施することにより、学修を進めていくもので、標準的な 1 コマ（1 回分）のすべてを上記のような方法を用いて行う授業を指す。

＜ライブ授業＞

上記オンライン授業の一形態としてライブ授業がある。ライブ授業とは、オンライン授業のうち、同時かつ双方向（教員と学生）で授業を行うものを指す。ライブ授業を詳細に分類すると「同時双方向型」と「同時一方向」に分かれるが、本学においては、双方向性が確保できる「同時双方向型」を指す。

＜オンデマンド授業＞

上記オンライン授業の一形態としてオンデマンド授業がある。オンデマンド授業とは、オンライン授業のうち、予め収録した授業（動画・音声）や音声付 PowerPoint 動画等を配信し、あわせて課題指示等を行うものを指す。

②ハイブリッド授業

オンライン授業と対面授業を組み合わせた授業形態としてハイブリッド授業がある。ハイブリッド授業には、2 つの形態（ハイフレックス型、ローテーション型）がある。

＜ハイフレックス型＞

対面授業をライブ配信することにより、オンラインとしても行う授業のことを指す。

（例）対面希望の学生とオンライン希望の学生を 2 グループに分けて実施する授業。

＜ローテーション型＞

全開講回数のうち、各回によって対面とオンラインを使い分ける授業のことを指す。

（例）全 15 回のうち、4 回目～11 回目をオンラインで実施し、その他は対面で実施する授業。

（３）オンライン授業科目

①オンライン授業科目とは

オンライン授業として実施する科目のうち、オンラインでの授業回数など一定の要件を満たした科目は開講学部等において「オンライン授業科目」として位置づける。

なお、選定にあたっては資料 7「龍谷大学オンライン授業実施要件」にもとづき行っ

ている。

②オンライン授業科目の履修要件

オンライン授業科目は、60 単位を上限に卒業要件単位数として単位認定される。60 単位を超えて修得したオンライン授業科目は随意科目（自由科目）として取り扱う。

＜龍谷大学学則＞（抜粋） 第 25 条の２ 授業は，講義，演習，実験，実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。 ２ 前項の授業は，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。 ３ 第 34 条の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、前項の授業の方法により修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。

７　編入学定員を設定する場合の具体的計画

令和 11（2029）年度より編入学生を受け入れる。編入学定員は 3 名とする。

編入学生の既修得単位は、入学時に他大学・短期大学・高等専門学校において修得した単位のうち、本学の開設授業科目と単位数が同等以上で名称や内容に類似性があり、本学の開設授業科目として読替えが可能である科目について単位認定を行う。

教務委員が編入学生一人ひとりの単位修得状況を精査したうえで単位認定の可否を判断し、その妥当性について教務委員会で審議し、教授会で単位認定を承認する。

また、養成する人材像を実現するため、編入学生の学修歴や取得単位の多様性を踏まえた、個別性の高い履修指導を実施する。そのために、教育上の配慮として、入学時にはオリエンテーションを実施し、本学の教育全般について理解促進を図る。あわせて、編入後の限られた修学期間で学位取得に必要な学修成果を確実に達成できるよう、履修モデルを提示することで、個々の学生が自身の編入前の学修を起点に、学修の流れを可視化する。これにより、編入学生が限られた期間の中でも体系的な学修を遂行し、養成する人材像に求められる資質・能力を着実に獲得できるよう支援する（資料 8「編入学生履修モデル」参照）。

８　企業実習や海外語学研修等の学外実習の具体的計画

８－１　RYUKOKU キャリア・スタート・プログラム「キャリア実習・実習指導」

学生のキャリア形成を段階的かつ体系的に支援する全学的な低年次キャリア形成プログラム「RYUKOKU キャリア・スタート・プログラム」を展開している（資料 9「RYUKOKU キャリア・スタート・プログラム」参照）。

本プログラムは３つの正課科目で構成しており、応用編として位置付けている「キャリア実習・実習指導」では、本学と協定を締結する企業・自治体等において５日間以上の実習を行う。この科目では、事前学修・実習・事後学修を通じて学生の自立と主体性を促し、ビジネスマナーやコミュニケーション力、興味のある業界や企業の情報収集・分析力等のビジネススキルを高め、将来のキャリア形成の根幹となる職業意識を醸成する。

（１）実習先の確保の状況

実習先については、過年度実績に基づき、受入れが見込める企業・自治体等に要項を送付し、依頼をしている。また、学内合同企業説明会の参加企業や卒業生が在籍する企業等を中心に新規依頼をする等して、新たな実習先の確保に努めている（資料 10「RYUKOKU キャリア・スタート・プログラム（キャリア実習・実習指導）受入先一覧」参照）。

（２）実習先との連携体制

担当教員が新たな実習先を中心に訪問し、情報収集や学生の実習状況に応じた連携を行い、円滑な実習運営に努めている。また、不測の事態に備えて緊急対応体制を整えるとともに、学生全員が実習中の事故等を補償する保険に加入している。

（３）成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、事前・事後学修及び実習の学修状況に基づき、担当教員が成績評価を行い、キャリア実習・実習指導運営委員会の議を経て、各学部教授会で単位認定を承認する。

８－２　RISE プログラム（Ryukoku Intercultural Study Experience Program）

学外（海外）実習として、本学海外拠点を利用した独自の留学プログラム RISE プログラム（Ryukoku Intercultural Study Experience Program）を実施する。

（１）実習先の確保の状況

実習先は、主にハワイ大学マノア校で、本学海外拠点 RUHO（米国ハワイ州ホノルル）と連携して実施している。

（２）実習先との連携体制

RUHO はハワイ州ホノルルの仏教研究所（BSC）内にあり、BSC との連携のもと、学生及び教職員の国際交流を拡充する拠点として活動を行っている。

（３）成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、RISE プログラム担当者が提出する成績表に基づき行う。「English language（RISE）」「Cultural Adaptation（RISE）」「Global PBL（RISE）」「Social Civic Engagement（RISE）」「Applied Cultural Adaptation（RISE）」「Advanced Global PBL（RISE）」があ

り、RISE 教務会議及び教務委員会での成績承認手続を経て、教授会で単位認定を承認する。

（４）その他特記事項

留学期間は在学期間に算入される。

９　取得可能な資格

情報学部では、卒業要件単位に含まれる科目に加えて、教職関連科目を履修することで、高等学校教諭一種免許状（情報）の取得を可能とする。同様に、卒業要件単位に含まれる科目に加えて、浄土真宗本願寺派教師資格科目を履修することで、民間資格である浄土真宗本願寺派教師資格の受験資格の取得を可能とする。なお、取得にあたっては、随意科目（自由科目）の履修が一部必要となっている。

資格の名称	国家資格	民間資格	備　考
高等学校教諭一種免許状（情報）	○		資格取得が可能
浄土真宗本願寺派教師資格		○	受験資格取得が可能

１０　入学者選抜の概要

１０－１　選抜方法

１―３に記載した情報学部のアドミッション・ポリシーに基づき、学力試験をはじめ、大学入学共通テストなどを入試ごとに組み合わせて入学者選抜を実施する。また、入学者選抜の多様化を図るため、以下で説明する複数の選抜方法を取り入れる。なお、実践データサイエンス専攻では、「理系型入試」と「文系型入試」の双方を実施する。

選抜方法	選抜方式別 アドミッション・ポリシー	募集人員
■一般選抜入学試験 前期日程・中期日程・後期日程において実施する。	各学部での教育に必要とされる総合的な基礎学力を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、本学独自の筆記試験において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。	前期日程 34 名 中期日程 14 名 後期日程 3 名
■共通テスト利用入学試験 大学入学共通テストを受験した者を対象に、前期日程・中期日程・後期日程の３期に分	各学部の方針に基づいた教科・科目や配点を設定することにより、各学部での教育に必要とされる総合的な基礎学力を有した受験生を選抜することを目的としています。	前期日程 10 名 中期日程 7 名

けて実施する。	このような受験生を適正に選抜するために、大学入学共通テストの成績を活用して「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。	後期日程 3名
■公募推薦入学試験 公募推薦入試〔総合評価型〕を実施する。	本学へ明確な志向と熱意を有し、各学部での教育に必要とされる総合的な基礎学力および適性を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、本学独自の筆記試験や提出書類において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。	総合評価型公募推薦入試：22名
専門高校対象入試を実施する。	高等学校の専門教育を主とする学科や総合学科の出身者を対象として、各学部での実践的な学びにおいてリーダーシップを発揮することのできる受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および本学独自の筆記試験や小論文において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を総合的に評価します。	専門高校対象入試:若干名
■龍谷大学付属平安高等学校推薦入学試験 龍谷大学付属平安高等学校との信頼関係にもとづき、学生募集枠を設定し、実施する。	浄土真宗本願寺派の宗門校である本学付属校での学びを通し、本学の建学の精神を理解しようとする意欲や、入学後の学修および学生生活に関する明確な志向を持ち、それにふさわしい能力を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および筆記試験または小論文において「知識・技能」を、面接において「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	6名
■教育連携校推薦入学試験、関係校推薦入学試験 教育連携校、関係校との信頼関係にもとづき、それぞれ学生募集枠を設定し、実施する。	浄土真宗本願寺派の宗門校での学びを通し、本学の建学の精神を理解しようとする意欲や、入学後の学修および学生生活に関する明確な志向を持ち、それにふさわしい能力を有した受験生を選抜することを目的としています。	教育連携校推薦入学試験：4名 関係校推

	このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および本学独自の筆記試験または小論文において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	薦入学試験：2名
■指定校推薦入学試験 各高等学校との信頼関係にもとづき、それぞれ学生募集枠を設定し、実施する。	本学の建学の精神を理解しようとする意欲や、入学後の学修および学生生活に関する明確な志向を持ち、それにふさわしい能力を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および小論文または筆記試験（一部の高校のみ）において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	18名
■総合型選抜入学試験〔学部独自方式〕 情報学を学ぶ意欲が高く、課題に対して積極的に取り組むことができ、第一志望として入学を志す者を選抜する入試を実施する。	本学での学びの意義を認識し、本学での学びへの明確な志向と熱意を有し、入学後の教育に必要とされる総合的な基礎学力および適性を有した受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類において「知識・技能」を、プレゼンテーション・個人面接（口述試験）において「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	3名
■総合型選抜入学試験〔スポーツ活動選抜、文化・芸術・社会活動選抜〕 スポーツの振興や国際的なスポーツ交流を目的として、スポーツの分野において優れた能力と実績を有するとともに、情報学部の教育理念に共感できる者を選抜する入試を実施する。また、文化活動・芸能活動・ボランティア等の社会活動、各種検定等の面において顕著な実績を有すると	一定の学力を有するとともに、スポーツや文化・芸術・社会活動等の分野において優れた能力と実績を有し、自主的に行動でき、リーダーシップを発揮することのできる受験生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および小論文において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	2名

ともに、情報学部の教育理念に共感できる者を選抜する入試を実施する。		
■帰国生徒特別入学試験 保護者の海外勤務その他の事情により、外国の教育を受けて帰国した者を受け入れるための入試を実施する。	海外での貴重な経験と知識を有した帰国生徒を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類および本学独自の筆記試験において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接において「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	若干名
■外国人留学生入学試験 多様な文化を背景にした者で、情報学部の教育理念に共感できる者を受け入れるため、外国人留学生のための入試を実施する。	本学で学び得た能力を活かして国際的に活躍することを志す外国人学生を選抜することを目的としています。 このような受験生を適正に選抜するために、提出書類(日本留学試験の成績を含む)において「知識・技能」を、面接において「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を中心として、総合的に評価します。	2名

１０－２　留学生の受入れ方策等具体的な計画（履修指導方法，教育上の配慮等を含む）、日本語能力等の資格要件や経費支弁能力の確認方法，在籍管理方法

日本語能力の資格要件については出願書類として「日本留学試験」（日本学生支援機構）の成績通知書の写しもしくは、成績確認書を求めており、それにより確認している。経費支弁能力については入学願書に記載を求めており、面接時に確認している。入学後の具体的な計画については 5－7 に記載している。

１０－３　選抜体制

情報学部の入学定員は 130 名である。なお、募集人員の比率は、一般選抜（一般選抜入学試験、共通テスト利用入学試験）54.6%、学校推薦型選抜（公募推薦入学試験、龍谷大学付属平安高等学校推薦入学試験、教育連携校推薦入学試験、関係校推薦入学試験、指定校推薦入学試験）40.0%、総合型選抜（総合型選抜入学試験、スポーツ活動選抜入学試験、文化・芸術・社会活動選抜入学試験）3.8%、その他（帰国生徒特別入学試験、外国人留学生入学試験）1.6%である。

一般選抜入学試験、共通テスト利用入学試験及び公募推薦入学試験は、入試部を中心とした全学体制で実施し、情報学部設置委員会（情報学部教授会）で合否判定を行う。

また、公募推薦入学試験以外の学校推薦型選抜及び総合型選抜については、情報学部が実

施し、情報学部設置委員会（情報学部教授会）が合否判定を行う。

１０－４　編入学制度

情報学部では､3 年次に編入学制度を設ける｡3 年次編入学定員は 3 名とし､令和 11(2029)年度入試から実施する｡情報学部の専門課程の履修に必要な素養について試験を課し､同学部教授会が合否判定を行う。

１１　教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

１１－１　教員配置の基本的考え方

本学では、「龍谷大学の教育研究組織の編制原理」（資料 11「教育研究組織の編制原理」参照）を定め、建学の精神を具現化し、教育理念・目的を実現するために「本学の求める教員像と教員組織の編成方針」（資料 12「求める教員像と教員組織の編成方針」参照）を以下のとおり定めている。

> 本学は、「建学の精神を尊重するとともに、教育活動を始めとする業務に意欲的に取り組む意志を有する者」を求める教員像とする。
>
> また、「龍谷大学の教育理念・目的」を実現するために、「学部・研究科の「教育理念・目的」と 3 つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」及び「学生支援の方針」（「学生支援の方針」（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」「留学生支援の方針」「障がい学生支援の方針」））に基づき、「教育職員選考基準」と各学部等が定める教員人事に関する規程に則り、教員組織を編成する。

この方針のもと、情報学部の「教育理念・目的」を達成するために、基幹教員は、本学の「教育職員選考基準」（資料 13「教育職員選考基準（抜粋）」参照）に照らして任用する。情報学部の教員編成にあたっては、18 名をもって編成する。

１１－２　中核となる科目や必修科目における教員配置

１１－２－１　教養教育科目

教養教育科目のうち、必修科目は「仏教の思想 A・B」と「英語総合 1（A）・1（B）・2（A）・2（B）・3・4」である。「仏教の思想 A・B」（本学の建学の精神を学ぶための必修科目）に関しては、基幹教員以外の教員が担当する。また、グローバル社会において欠くことのできない英語教育「英語総合 1（A）・1（B）・2（A）・2（B）・3・4」については、少人数教育（1 クラス 30 名～40 名程度）を実現可能とする数の基幹教員以外の教員を配置する。

１１－２－２　専攻科目

専攻科目のうち、必修科目及び選択必修科目については、基幹教員を配置している。専攻科目では、各基幹教員を中心に科目を担当することで、基礎から発展までを一貫した指導体制を構築することが可能となり、体系的な教育の展開と学修の質を担保する。

また、一部科目では基幹教員以外の教員が担当することになるが、基幹教員が中心となって担当者をコーディネートすることによって、有機的な連携体制の構築が可能となる。

１１－３　実務経験のある教員の配置

実務経験のある基幹教員を配置することは、情報学部において掲げた教育理念・目的、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を履行する上で不可欠であるとともに、その実務経験を十分に授業に活かした授業展開をするなど実務と理論をつなぐ観点からも重要である。そのため、民間企業等において実務経験を積んだ基幹教員を配置する。

１１－４　教育研究実施組織の研究分野と研究体制

情報学部を編成する基幹教員の多くは情報学を専門としているが、さらにスポーツバイオメカニクス等を専門とする新規教員を配置し、研究分野の充実を図る。

教員個々の研究活動はIEEE（米国電気電子学会）、ACM（米国計算機協会）、情報処理学会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、医用画像情報学会、日本バーチャルリアリティ学会、日本生体医工学会、日本医用画像工学会、日本バイオメカニクス学会、日本心理学会、日本ロボット学会、日本法科学技術学会等、それぞれの所属学会を中心に行われている。また、「龍谷大学理工学会」（本学研究・社会実装推進部所管）にも基幹教員の多くが所属し、研究活動に取り組んでいる。

１１－５　教育研究実施組織の年齢構成

本学の定年年齢は「職員定年規程」において、教授は満68歳、准教授・講師・助教・助手は満65歳に達した年度末である旨が定められている。

基幹教員を集計した場合、学部完成年度末（令和13（2031）年3月31日）時点における年齢構成は、下表のとおりとなる。70歳代：0名、60歳代：5名、50歳代：8名、40歳代：3名、30歳代：2名となっている。

今後の基幹教員補充に関しては、専門領域等も勘案しながら、年齢層に著しい偏りが生じないように、積極的に若い世代の教員も採用し、経験豊富な教員と相乗効果によって、より活発な教学組織となることを目指す（資料14「職員定年規程」参照）。

年　齢	70歳以上	65-69歳	60-64歳	50-59歳	40-49歳	30-39歳	合計
人　数	0名	4名	1名	8名	3名	2名	18名

また、基幹教員の職階構成は下表のとおりである。職階構成のバランスは良く、後継の育成という観点からも望ましい構成だと判断している。

職階	教授	准教授	講師	助教
人数	8名	4名	5名	1名

１１－６　教員及び事務職員等相互の適切な役割分担の下での協働や組織的な連携体制

情報学部の教員組織については、学則第 64 条に規定されている、教育研究に関する重要な事項で教授会の審議決定が必要な事項を、基幹教員により構成される情報学部教授会において審議する。

情報学部教授会の審議決定にあたっての事務は、事務組織規程第 24 条の 4 に定める学部教務課が担当することを規定している。このように教員と事務職員の役割を規程で明確にし、教職協働による運営体制を構築している。

また、大学全体の教学運営に係る主要な会議（全学教学政策会議、教学会議）も教員と事務職員で構成しており、教職協働による運営体制を構築している。

１２　研究の実施についての考え方、体制、取組

本学は、単に歴史や伝統だけにとらわれることなく、「高度化」「多様化」をキーワードに 21 世紀の科学技術と文化を創造しうる独創的な世界水準の研究を目指している。

本学の建学の精神の礎となっている「仏教」を中心とする伝統的・歴史的な研究資源を活かした研究、最先端の研究環境のもとで次代の科学技術を創造する研究、地域社会やグローバル社会とのつながりのもとでの研究など、未来を見据えて、社会から求められる学術文化の振興に取り組んでいる。また、先端的な研究だけでなく、基盤的な研究も積極的にサポートしていくことにより、人材育成や社会連携等のすそ野の広い研究が行われる大学を目指している。

研究組織としては、資料 15「龍谷大学研究活動に関する指針」、「人間・科学・宗教総合研究センターの編成原理」及び「付置研究所の編成原理」に基づき、人間・科学・宗教総合研究センター、世界仏教文化研究センター及び 4 つの付置研究所（社会科学研究所、科学技術共同研究センター、国際社会文化研究所、食と農の総合研究所）を編制している。また、学問水準の向上及び教育の充実発展を図るため、資料 16「研究員規程」に基づき、一定期間研究に専念できる「研究員制度」を設けている。

これら研究活動を支援するため、資料 17「研究支援の方針」に基づき、事務組織として研究・社会実装推進部を設置し、京都深草・京都大宮・びわ湖大津の 3 キャンパス（2027 年度キャンパス名称を変更。2026 年度までは、それぞれ深草キャンパス・大宮キャンパス・瀬田キャンパス）それぞれに事務室・研究サポート室等の拠点を設け、研究活動の促進に資する環境の整備を進めている。

また、リサーチ・アドミニストレーター（URA）を任用し、学外研究資金の獲得及び研究計画の進捗管理、若手研究者の育成、研究 FD の企画・実施、研究 IR による研究戦略の策定など、本学研究者の研究活動に寄り添った支援を実施している。現在、URA は主に自然科学系学部の研究活動の支援に注力している。

１３　施設、設備等の整備計画

１３－１　校地、運動場の整備計画

情報学部は主にびわ湖大津キャンパス（大津市）で教育研究を行う。びわ湖大津キャンパスは、現在 200,288.87 ㎡の校地面積を有し、2 学部（理工学部、農学部）、2 研究科（先端理工学研究科、農学研究科）を設置している。

多数の教室や演習室、図書館、情報処理実習室に加え、保健管理センター、こころの相談室、学生食堂等の施設のほか、福利厚生施設を含む各種施設を整備しており、情報学部設置後も、既設学部等とは十分に共用可能である。

びわ湖大津キャンパスにおける学生の休息・談話スペースについては、主に青志館 1,2 階、青雲館 1,2 階に食堂を設けるとともに、Green Deck 及び Sky Deck（共創を促す屋外ウッドデッキ）を整備している。

また、教室棟のホールなどに適宜机・椅子を設置する等、オープンな空間の確保に留意している。

運動場については、多目的グラウンドや SETA DOME、テニスコートを有するほか、体育館（メインフロア、トレーニング室）を設けている。また、京都深草キャンパス近隣に南大日グラウンド（京都深草キャンパスからスクールバスで約 15 分程度）を有するほか、京都深草キャンパス内に体育館（メインフロア、トレーニング室 9 室）、専精館（第 2 体育館、メインフロア、トレーニング室 4 室）及びテニスコートを設けている。

１３－２　校舎等施設の整備計画

校舎等の施設は、既存施設を活用するとともに、情報学部の設置に伴いびわ湖大津キャンパスの 2 号館及び 6 号館を施設改修し、令和 9（2027）年 4 月から供用を開始する。施設改修後は、講義室 8 室、研究室 20 室、演習室 12 室、実験・実習室 24 室等を整備する。

既存施設は、科目の配置状況やその授業形態を踏まえたうえで必要な教室を確保する。現在、びわ湖大津キャンパス（施設改修を行う 2,6,7 号館除く）では、講義室 50 室、演習室 22 室、実験・実習室 50 室、情報処理室 9 室及びセルフラーニング室 1 室（パソコン 779 台設置）が整備されている。

これらの施設を既設学部等と共同で利用する予定であり、校地・校舎面積も大学設置基準上の面積を充足している。

研究室については個室であり、オフィスアワーなど学生の教育上の情報管理等の機密性

の観点から、プライバシーが確保される環境が十分に整備されている。

１３－３　図書等の資料及び図書館の整備計画

3つのキャンパス（京都市：京都深草・京都大宮、滋賀県大津市：びわ湖大津）を有する本学は、キャンパス毎に図書館を設置し、それぞれ、キャンパスの学部・研究科等に即した分野の蔵書構成をとっている。3館の蔵書数は、令和7（2025）年度末で約2,357,000冊であり、情報学部の学生は、びわ湖大津キャンパスの図書館を主として利用することとなる。

びわ湖大津キャンパスの図書館は、理工学部・農学部の資料があり、所蔵資料の構成は、自然科学系を中心に、自然科学系、社会科学系、人文科学系の資料がバランス良く組み合わさったものとなっている。

びわ湖大津キャンパスの図書館の所蔵資料（令和7（2025）年度末時点の所蔵数：図書約505,000冊、学術雑誌約3,200種類、視聴覚資料約13,000点、電子ジャーナルは全学共通で約9,000種類）は、現時点でも既に量としては十分に蓄積されているが、本学の学生・教職員は、蔵書検索システムを用いて全学の蔵書を検索し、それを自身が所属するキャンパスの図書館へ取り寄せることにより、大学全体の蔵書を利用することができる。

情報学部にかかわる図書、資料図書等については、理工学部や先端理工学研究科で蓄積してきた本学図書館保有の蔵書、雑誌、電子ジャーナル・データベースの活用を基本とし、さらに充実させていく予定である（資料18「学術雑誌等一覧」参照）。

びわ湖大津キャンパスの図書館の閲覧座席数は880席、情報検索設備（検索端末台数）は64台を設置している。開館時間については、学生の自習時間を確保するために、通常授業期間中の平日は9時から21時、土曜日も10時から17時まで開館している。さらに、定期試験前、試験期間中については、日曜日にも10時から17時まで開館することとしている。

また、図書館内にナレッジコモンズとして、図書館の多様な所蔵資料を積極的に活用しながら主体的かつ協調的に学び合うオープンスペースである「ナレッジスクエア」と複数人での発表やグループ学修等に最適な「グループワークルーム」を設置している。

さらに相互協力の面では、学内3図書館間の相互貸借、文献複写サービスをはじめとして、他大学図書館との相互貸借・文献複写サービス、大学コンソーシアム京都共通閲覧システム、私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会共通閲覧証協定に参加等、他大学図書館等関係機関との協力も積極的に行っている。

１４　２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

本学は、大学本部がある京都深草キャンパス（京都市伏見区）に加え、京都大宮キャンパス（京都市下京区）、びわ湖大津キャンパス（滋賀県大津市）を有しており、情報学部

の学生に対してはびわ湖大津キャンパスで教育を行う。

ただし、教養教育科目については、京都深草キャンパスで開講する教養教育科目（125科目）の履修も可能とし、「キャリア入門」や「キャリア・ディスカバリー」等では多様なメディアを利用した授業を行う。また、その他の教養教育科目については、主に専門的素養を習得した4年次生の履修を想定したものであり、学生の習熟度と関心に応じた教養教育科目を幅広く開講することで、教育課程の充実を図っている。びわ湖大津キャンパスから京都深草キャンパスへはスクールバス利用により約40分で移動可能であり、4年次生は専攻科目の「科学技術英語」、「卒業研究」が主な履修科目となることから、時間割編成上の支障も生じない。

加えて、本願寺派教師資格課程科目2科目を京都大宮キャンパスで開講している。これについては、当該科目は随意科目（自由科目）であり、夏期集中講義で実施するため、時間割編成上の支障は生じない。びわ湖大津キャンパスから京都大宮キャンパスへはスクールバス利用により約65分で移動可能である。

また、情報学部の基幹教員のうち1名が「キャリア入門」、「データサイエンス・AI入門」を担当するが、オムニバス方式または夏期集中講義で実施するため、当該教員の教育・研究に支障が生じないように設定している。

１５　管理運営

龍谷大学学則第63条にもとづき教授会を設置する。本教授会は、情報学部教授会規程にもとづき教授、准教授、講師を構成員とする。また、教授会における審議・決定事項として、（1）教育職員の人事に関する事項、（2）学部長及び評議員の選考に関する事項、（3）研究及び教授に関する事項、（4）教育課程の編成、履修の方法及び試験に関する事項、（5）学業評価に関する事項、（6）学生の退学、休学、復学及び留学に関する事項、（7）学生の補導厚生に関する事項、（8）学部内諸規程の制定改廃に関する事項、（9）学位称号に関する事項、（10）その他学部における重要な事項を定めている。

本教授会は学部長が招集し議長となり、構成員の3分の2以上の出席により成立することとし、月2回程度の開催を予定している。

教授会の円滑かつ的確な運営を補完するため、情報学部情報学科会議を設置し、基幹教員等をもって構成する。同会議は、教育課程の編成をはじめ、その他円滑な学科運営を図るため、専門的事項について、審議を行う機関として位置付けている。

１６　自己点検・評価

本学では、建学の精神にもとづく特色ある教育研究活動等を展開し、私立大学としての自主性、自律性を重んじつつ、有為の人材を育成するとともに、学術文化の向上や社会の発展

に貢献することを目指している。その実現のため、教育・研究の向上を図り、自らの活動を点検・評価し、独自の方法で教育研究の質を自ら保証すること（内部質保証）が重要であると認識している。

こうした認識のもと、龍谷大学学則第 1 条の 2 に、「本学は教育研究の向上をはかり、前条の目的を達成するため、自らの点検・評価を行う」と定めるとともに、「内部質保証に関する方針」を定めている。本方針は、「1 基本的な考え方」「2 内部質保証の推進に責任を負う組織」「3 組織としての自己点検・評価」及び「4 教員個人の諸活動に対する自己点検」の 4 項目で構成し、本学の内部質保証システムを明示している。具体的には、「組織としての自己点検・評価（以下、「組織の自己点検・評価」）」及び「教員個人の諸活動に対する自己点検（以下、「教員活動自己点検」）」の 2 つの制度で内部質保証を推進している。

組織の自己点検・評価では、「大学評価に関する規程」に基づき、全学的な自己点検・評価の体制を整備している。具体的には、大学評価に関する重要事項を審議・決定するため、大学執行部である部局長会の下に全学大学評価会議を設置し、その下に、大学評価に関する具体的な事項を審議・決定する大学評価委員会を設置している。さらに、すべての学部等に自己点検・評価委員会を設置し、日常的な評価・改善活動を行う体制を整えている。点検・評価項目については、基本的には公益財団法人大学基準協会の点検・評価項目に準拠しつつ、本学独自の点検・評価項目も加えている。毎年度、すべての学内組織が自らの判断と責任においてその諸活動について点検・評価を行い、その結果を「自己点検・評価シート」にまとめ、大学評価委員会による点検・評価を経て、全学大学評価会議が評価結果を決定し、学内各組織にフィードバックし、改善及び向上を図るものである。

教員活動自己点検では、各教員が、教育、研究、社会貢献、大学管理運営の 4 領域において、年度始めに基本方針を定めた後、年度末までに諸活動について自己点検を行い、自ら改善及び向上に取り組み、教育研究活動等を活性化させることを目指している。

自己点検・評価の結果公表については、「内部質保証に関する方針」、「大学評価に係る公表の方針」、自己点検・評価の実施体制、関連規程、制度概要とともに、大学全体に係る自己点検・評価シートと自己点検・評価によって顕在化した全学的課題の一覧をホームページに掲載している。また、認証評価の評価結果、点検・評価報告書についてもホームページで公表している。

本学は、令和 3（2021）年 3 月に、公益財団法人大学基準協会から大学基準に適合しているとの認定を受けた。評価結果においては、適合認定のほか、大学の諸活動に対して、「長所」7 件、「改善課題」8 件の提言を受けた。「長所」については、さらなる伸長方策を、「改善課題」については、改善計画を策定し、本学の内部質保証システムの中で、さらに改善・向上を重ねるスパイラルアップ（好循環）を生み出せるよう取り組んできた。なお、「改善課題」として提言された課題については、令和 6（2024）年 7 月に、公益財団法人大学基準協会へ「改善報告書」を提出し、令和 7（2025）年 3 月に、同協会から「改善報告書検討結果」を受理した。同結果は、「大学評価に係る公表の方針」に基づき、ホームページで公

表している。また、全学大学評価会議で対応を審議・決定し、引き続きさらなる改善・向上を図っている。

情報学部も自己点検・評価委員会を設置し、本学の内部質保証システムに基づき、「組織としての自己点検・評価」と「教員活動自己点検」を実施し、学部理念や目標に照らし、教育研究活動等の課題改善や質の向上を図っていく。

１７　情報の公表

本学では、在学生・保護者・卒業生・受験生等に向けて、大学の情報（大学の使命、目的、大学の運営状況、教育・研究活動等）を積極的に発信している。特に大学の基本情報については、平成 23（2011）年 4 月 1 日施行の学校教育法施行規則等の一部改正（教育情報の公表の義務化）を踏まえ、情報の公表に関する規程を整備し、また、これにもとづき「情報公表（基礎データ）」のページを本学ホームページ内に新たに設置し、法人並びに教育情報の積極的な公表に努めている。具体的な内容は以下のとおりである。

（１）大学の教育研究上の目的に関すること

本学の「寄附行為」、「建学の精神、使命及び理念」、「教育理念・目的」と「３つの方針」に関する情報をホームページ内に掲載し、本学の教育研究上の目的に関する情報を公表している。

①「学校法人龍谷大学寄附行為」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学則・諸規程等に関する情報 ＞ 1．学校法人龍谷大学寄附行為
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/rules202507/reiki_honbun/i600RG00000001.html

②「建学の精神、使命及び理念」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 建学の精神
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/spirit.html

③「「教育理念・目的」と「３つの方針」」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 「教育理念・目的」と「３つの方針」
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html

（２）教育研究上の基本組織に関すること

法人運営を行う役員・評議員のほか、本学の役職者、教育研究組織、研究関連組織、事務

組織等に関する情報をホームページ内に掲載している。

①「役員・役職者一覧」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 役員・役職一覧 ＞ 龍谷大学役職者
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office_list_02.html

②「教育研究組織」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 教育研究組織図
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/education.html

③「研究関連組織」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 研究関連組織図
https://www.kenkyubu.ryukoku.ac.jp/branches/

④「事務組織」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 事務組織図
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office.html

（３）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員データベース内に、教員組織や各教員が有する学位・業績等の情報を掲載している。また、教員数については、職階・男女・年齢別の情報をホームページ内に掲載している。

①「教員データベース」
HOME ＞ 教員データベース
https://rdb.ryukoku.ac.jp/

②「教員数（職階別・男女別数）」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）＞ 教員数（職階別・男女別数）
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_1.html

③「教員数（年齢別数）」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）＞ 教員数（年齢別数）

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_2.html

（４）入学者に関する受入れ方針及び入学者の選抜に関すること、入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

学部ごとに定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）をホームページ内の「教育活動に関する情報」に、入学者数・収容定員・在学生数等をホームページ内の「学部・学科・専攻、大学院研究科等の入学者数・編入学者数」にそれぞれ掲載している。また、卒業生数・修了生数をホームページ内の「学位授与数」に、就職者や進学者数等、就職に関する情報をホームページ内の「就職・進路決定率」にそれぞれ掲載している。

①「教育活動に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 教育活動に関する情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

②「入試情報」
HOME ＞入試・オープンキャンパス ＞ 入試情報
https://www.ryukoku.ac.jp/admission/nyushi/

③「学部・学科・専攻、大学院研究科等の入学者数・編入学者数」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学生数・入学定員・入学者数・収容定員等
https://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook.html

④「学位授与数」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）＞学位授与数
https://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook_09.html

⑤「就職・進路決定率」
HOME ＞ 進路・就職支援 ＞ パンフレット・就職関連統計資料 ＞ 就職・進路決定率
https://career.ryukoku.ac.jp/statistical/index.html#gyoshu

（５）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

授業科目ごとに、その授業方法、内容、年間（半期）の授業計画等に関する情報をホームページ内の「シラバス」に掲載している。

①「シラバス」
本学ウェブサイト（https://www.ryukoku.ac.jp/）下部「Web シラバス」
https://syllabus.ws.ryukoku.ac.jp/acrsw/Syld110/SYLD110Init.do?id=98221191395355801480850872 41

（６）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

成績評価の方法・基準等に関する情報をホームページ内の「学修の成果に係る評価」に掲載している。

①「学修の成果に係る評価」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学修の成果に係る評価
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/record.html

②「各学部の卒業要件単位数」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 教育活動に関する情報 ＞ 6.卒業要件単位数の内訳と授与する学位 ・各学部の卒業要件単位数
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

③「各研究科の修了要件単位数」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 教育活動に関する情報 ＞ 6.卒業要件単位数の内訳と授与する学位 ・各研究科の修了要件単位数
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

（７）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

ホームページ内の「校地・校舎等の施設・設備に関する情報」に、関連する情報を掲載している。

①「校地・校舎等の施設・設備に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ） ＞ 校地・校舎等の施設・設備に関する情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_08.html

（８）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料・施設費・入学金等の学費、並びにその他諸会費に関する情報をホームページ内に掲載している。さらに、次年度の学費について保護者向けに通知すること等により、学

生から徴収する費用についての情報を公表している。

①「学費」
HOME ＞ 学生生活 ＞ 学費・奨学金 ＞ 学費
https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/expense/school.html

（９）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

本学が実施している学生生活全般に関する情報をホームページ内の「学生生活・課外活動に関する情報」に、就職支援や進路選択に関する情報をホームページ内の「進路・就職に関する情報」にそれぞれ掲載している。

①「学生生活・課外活動に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学生生活・課外活動に関する情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_05.html

②「進路・就職に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 進路・就職支援に関する情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_07.html

（１０）その他

①「認証評価結果」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 認証評価
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/appraisal.html

②「自己点検・評価」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 自己点検・評価（内部質保証）
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/evaluation/evaluation.html

③「学則・諸規程等」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学則・諸規程等に関する情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_11.html

④「財務及び経営に関する情報」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 財務情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/finance.html

⑤「設置認可申請書，設置届出書」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 財務及び経営に関する情報 ＞ 設置認可申請書等について
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/application.html

⑥「設置計画履行状況等報告書」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 財務及び経営に関する情報 ＞ 履行状況報告書について
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/execution.html

対外的な情報発信については、大学の広報機能の強化・充実を目的として策定した「広報基本戦略」にもとづき、マスメディア等に対して積極的な情報発信を行っている。

また、受験生向けの大学案内誌、本学学生・教職員の活躍や特色ある取り組みを紹介する広報誌『龍谷』等により、幅広いステークホルダーに対する情報発信を展開している。

１８　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

１８－１　授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修の計画

（１）大学全体におけるＦＤ活動への取り組み

本学では、学修支援・教育開発センターを設置し、教学マネジメントを支える FD ならびに教学 IR を推進する機関として位置づけている。

学修支援･教育開発センターは､教育改善活動と学修支援からなる全学的な活動を推進し、大学全体の教育の質及び教育力のさらなる向上を図るため、高等教育の動向変化に対応しながら、以下の事業に取り組んでいる。

（２）教育活動における交流・研修事業

文教政策の動向等を踏まえ、社会性・話題性のあるテーマを設定して「FD フォーラム」（年 1 回程度）を企画・開催し、学外にも公開している。また、学内教職員の FD 活動に関する啓発と交流を図るため「FD 研修会」（年数回程度）の実施や、大学全体の FD 以外にも各学部・研究科の FD 活動の取組状況や成果を全学で共有するために「FD 報告会」を開催している。

また、龍谷大学に初めて着任した教員を対象に、本学の教育理念をはじめ、本学の教育研究活動支援に関する各種サービスの利用方法等についての研修を実施している。

さらに、TA（指導補助者）に対し、本学の教育理念・教育目的や３つの方針（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針）をはじめ、大学教育を担う立場としての業務を遂行するうえで必要となる事項についての理解を促す。具体的には、研修マニュアルの配付及び研修動画の提供、ならびに出張研修の実施を予定している。

（３）教育開発・研究事業

①オンライン教育に関する情報収集・共有

「龍谷大学オンライン授業実施要件」に基づき、各教学主体が展開するオンライン授業科目を選定し、教育の質の維持、さらなる向上を目的とした検証を実施するとともに、検証結果を全学で共有している。

②ICT 活用教育の推進

授業における「LMS（manaba course）」の利用促進のため、LMS の概要のほか、LMS の実演を含めた授業を行うにあたり必要な事項について説明を行っている。

③指定研究プロジェクト及び自己応募研究プロジェクト

新たな教育手法の開発研究のための事業として、学修支援・教育開発センターが指定するテーマに基づく「指定研究プロジェクト」と、学内公募による「自己応募研究プロジェクト」を実施し、教育改善や教材開発等を図る取組に対して経費の支援を行っている。これらのプロジェクトの研究成果について、FD 報告会やポスター展示を実施し、全学に公開・共有している。

（４）教育改善活動支援事業

①アセスメントテスト

学生の学修成果の可視化指標の一つとしてアセスメントテスト（GPS-Academic）を実施している。

受検結果については、各学部の要望を踏まえてデータを可視化し、学生の成長度合いの測定や学修状況の確認を行っている。これらのデータは教育改善をはじめ、退学予防や入試戦略の検討に活用している。

また、学生個人の回答結果をもとに、学生の学修指導等への活用を進めている。

②学生による学期末の授業アンケート

授業を担当する教員個人及び各教学主体の教育改善活動を支援するため「学生による学期末の授業アンケート」を実施している。なお、本アンケートは原則として、講義科目は実施することとし、演習・実習等の科目や研究科科目についても各教学主体の判断に基づき実施している。

また、アンケート結果の集計・分析結果を全学で共有し、現状の把握及び経年比較を行っている。

③教学 IR（Institutional Research）の推進

「龍谷大学における教学 IR の定義」（平成 29（2017）年度策定）に基づき、上述のアセスメントテスト、授業アンケートや、各種調査、大学 IR コンソーシアム学生調査、文部科学省全国学生調査等のデータの可視化を実施している。

これらのデータについては、「教育の質向上」「3 ポリシーの実質化」を主な目的として令和 3（2021）年度に策定された「龍谷大学アセスメントプラン」の指標データとして提供し、大学全体レベルでの AP、CP 及び DP の検証を進めている。

④学生による授業観察

学生の視点を取り入れた授業改善を目的として、「学生による授業観察」を実施している。授業観察を希望する教員に対して、事前に研修を受けた学生が授業を「観察」し、改善点の提案を含む「フィードバック（報告書）」を教員に提出する取組を実施している。

（５）学内外との連携、情報収集・発信

①各学部・研究科との連携

各学部・研究科の取り組みに関する情報交換・共有を図るため、「学部 FD 協議会」及び「大学院 FD 協議会」を開催している。

②他大学等との連携

全国私立大学 FD 連携フォーラム、（社）私立大学連盟、（財）大学コンソーシアム京都、（社）大学 IR コンソーシアム等が主催する各種フォーラムや研修会、講演会等に参加するとともに、企画検討するための委員としても参画している。

③情報収集・調査

学修支援・教育開発センターが中心となり、文教政策等、高等教育をめぐる動向についての情報収集を行い、各教学責任主体等に提供し、教育改革・改善を支援している。

１８－２　大学職員に必要な知識・技能の習得及び向上の取組み

本学では、令和 2（2020）年に制定した「学校法人龍谷大学スタッフ・ディベロップメント（SD） 実施基本方針（以下「基本方針」という。）」において、SD の目的を「建学の精神の具現化、教育理念・目的の実現に向け、教職員が、教育研究活動及び管理運営における職責を適切かつ効果的に遂行するために求められる能力を向上させること」と定めている。

法人及び大学・短期大学部、付属校の運営を担う全ての教職員をSDの対象とし、教育職員、事務職員それぞれの職務や職責に応じて、教育研究活動及び管理運営の適切かつ効果的な遂行のために必要な能力を開発するためにSDを実施している。

具体的には、ボード・デベロップメント（BD）研修、大学の長期計画に関するワークショップ、建学の精神に関する研修、人権研修、ハラスメント研修、情報セキュリティに関する研修等があり、参加対象を教育職員、事務職員に区分せず、全学的かつ組織的に実施している。

上記に加えて、事務職員については、キャリア形成に向けて、事務職員に求められる必要な知識と技能を計画的・継続的に修得するために各種の研修制度を用意している。

研修の目的としては、学校法人龍谷大学就業規則及び事務職員研修規程において、「職員は、その職責遂行のため自発的に研修に励み、かつ、法人の行う研修をうけなければならない」、「研修は、教育と訓練によって、必要な知識と技能を修得させ、事務職員の資質向上と自己啓発を促し、業務の推進を計る人材を養成することを目的とする」、「研修は、長期的な人材養成の一環として、継続的・計画的に行うものとし、事務職員の自主的な研修についても、これを奨励するものとする」と規定されている。事務職員は、本学の目標である「教育」「研究」「社会連携」を深く理解し、大学目標の実現を積極的に遂行するスタッフであることを認識し、その業務の遂行にあたっては、自ら担当する業務が諸政策遂行の一環業務であることを常に意識し、他の業務担当者との連携をはかり教学と経営の両視点からの政策を提案し得るよう、一業務分野の第一人者として専門知識向上に努めるとともに、マネジメント能力を育成するよう支援するための各種研修を実施している。

なお、具体的には、各事務職員の資格に応じた「資格別研修」、特定のテーマを持って選抜された事務職員による海外の大学調査をおこなう「海外高等教育研修」、本学が加盟する私立大学連盟等が主催する研修会に参加する「選抜研修」、部署内の業務改善や知識の修得を目指す「部署別研修」等のプログラムを用意している。

１９　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

１９－１　教育課程内の取組

学生のキャリア形成を段階的かつ体系的に支援する全学的な低年次キャリア形成プログラム「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」を展開している（資料９「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」参照）。

本プログラムは３つの正課科目で構成しており、基礎編として位置付けている「キャリア入門」は、各学部の教員がチェーンレクチャーで“働く”や“キャリア”に関する様々な講義を行っている。この科目では、キャリア形成に関連する現代社会における諸課題等を多様な視点から学び、社会及び自己への理解を深め、自らのキャリアプランニングを実践できる力を醸成する。

また、基礎編、応用編に続く発展編として位置付けている「キャリア・ディスカバリー」は2年次生以上を対象に2026年度から開講予定である。この科目では、「自分にとって幸せなキャリア（将来設計／職業人生）とは何か？」を共通の問いとし、受講生同士やゲスト講師との対話を通じて、各自が設定した仮説の検証を繰り返し、磨き上げた仮設を論説する。仮説・検証・論説の思考サイクル実践することで、自身のキャリアを主体的に検討する力を育成するとともに、ワークやプレゼンテーションを通じてキャリア観を言語化・可視化する力を醸成する。

１９－２　教育課程外の取組

キャリアセンターでは、学生のキャリア形成に資する様々な取組を実施している。具体的には、1年次には自分らしいキャリアを考えるためのキャリアガイダンス、2年次ではキャリア形成の土台となる大学生活での学びや経験を充実させるためのガイダンス等を実施し、低年次のキャリア形成を支援している。3年次以降は、進路・就職活動に合わせたガイダンスや採用選考にかかる各種対策セミナーを開催する等し、学生が希望する進路の実現ができるよう支援している。また、公務員を目指す学生を対象に外部の専門予備校と提携した公務員採用試験対策講座の開講や、公務員採用試験受験時の経済的負担を軽減する補助制度を運用している。卒業年次生については、適宜、進路・就職先決定にかかる活動状況の調査を行い、その結果をもとに、進路・就職活動が滞っている学生を把握し、活動状況に応じて適切な支援を行っている。特に、低年次の正課プログラムとして展開する「RYUKOKU キャリア・スタート・プログラム」では、講義・実習・振り返りを通じて職業意識の醸成や主体性を育成する点に特色がある。また、情報系学生に特化した支援として、技術職に精通したキャリア・アドバイザーを配置し、就職や大学院進学に関する助言や、専門性に応じた選考対策等を実施している。

この他にも関係部署と連携･協力し、グローバルキャリアを志す学生、大学院生、留学生、障がいのある学生、及び課外活動に取り組む学生を対象に、学生の個々の資質に応じて、それぞれの特性を踏まえた多様なキャリア支援を展開している。

本学では学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、face to face の面談を重視し、それぞれの学生の状況を踏まえたきめ細やかで丁寧な支援を行っており、面談にはキャリアコンサルタント資格を有する職員が対応している。

１９－３　適切な体制の整備について

本学では、キャリア支援にかかる関連機関として「全学キャリア政策会議」、「キャリア支援会議」、「学部キャリア委員会」を設置している。

全学キャリア政策会議では、学長が指名する副学長と学部長を構成員とし、全学的なキャリア支援政策の策定に関する事項等を審議・決定している。

全学キャリア政策会議のもとに設置するキャリア支援会議では、キャリア支援の問題に

ついて全学的に協議・調整を行っている。本会議に学部のキャリア支援を担うキャリア主任が委員として参加することで、各学部とキャリアセンターが支援上の諸課題を共有しながら、キャリア支援の円滑な推進を図っている。

さらに、学部のキャリア支援を推進するため、各学部にキャリア委員会を設置し、学部におけるキャリア支援について審議するとともに、キャリアセンターと連携してキャリア支援の推進を図っている。なお、キャリアセンターでは全ての学部に担当職員を配置し、学部の特徴に応じたキャリア支援を展開している。

このような体制を情報学部でも確立することにより、学生のキャリア形成を促進し、主体的な進路選択・希望する進路の実現を支援する。

以上

龍谷大学 情報学部
設置の趣旨等を記載した書類

【資料目次】

資料 1　教育理念・目的、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針との相関

資料 2　カリキュラム全体イメージ

資料 3　情報学部開講専攻科目分類一覧

資料 4　情報メディア専攻 履修モデル

資料 5　知能情報システム専攻 履修モデル

資料 6　実践データサイエンス専攻 履修モデル

資料 7　龍谷大学 オンライン授業実施要件

資料 8　編入学生履修モデル

資料 9　RYUKOKU キャリア・スタート・プログラム

資料 10　RYUKOKU キャリア・スタート・プログラム（キャリア実習・実習指導）受入先一覧

資料 11　龍谷大学の教育研究組織の編制原理

資料 12　本学の求める教員像と教員組織の編成方針

資料 13　教育職員選考基準（抜粋）

資料 14　職員定年規程

資料 15　龍谷大学研究活動に関する指針

資料 16　研究員規程

資料 17　研究支援の方針

資料 18　学術雑誌等一覧

教育理念・目的、入学者受入れの方針、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針との相関

資料１

情報学部の教育理念・目的＜情報学部において養成する人材像＞

建学の精神に基づいて、情報技術と人、社会、自然との調和を重視し、幅広い教養と情報学の基礎知識・技能を修得することで、実践的な専門家として情報社会の発展に寄与し、新しい社会の創造にも積極的に携わる情報技術者を育成することを目的とする。

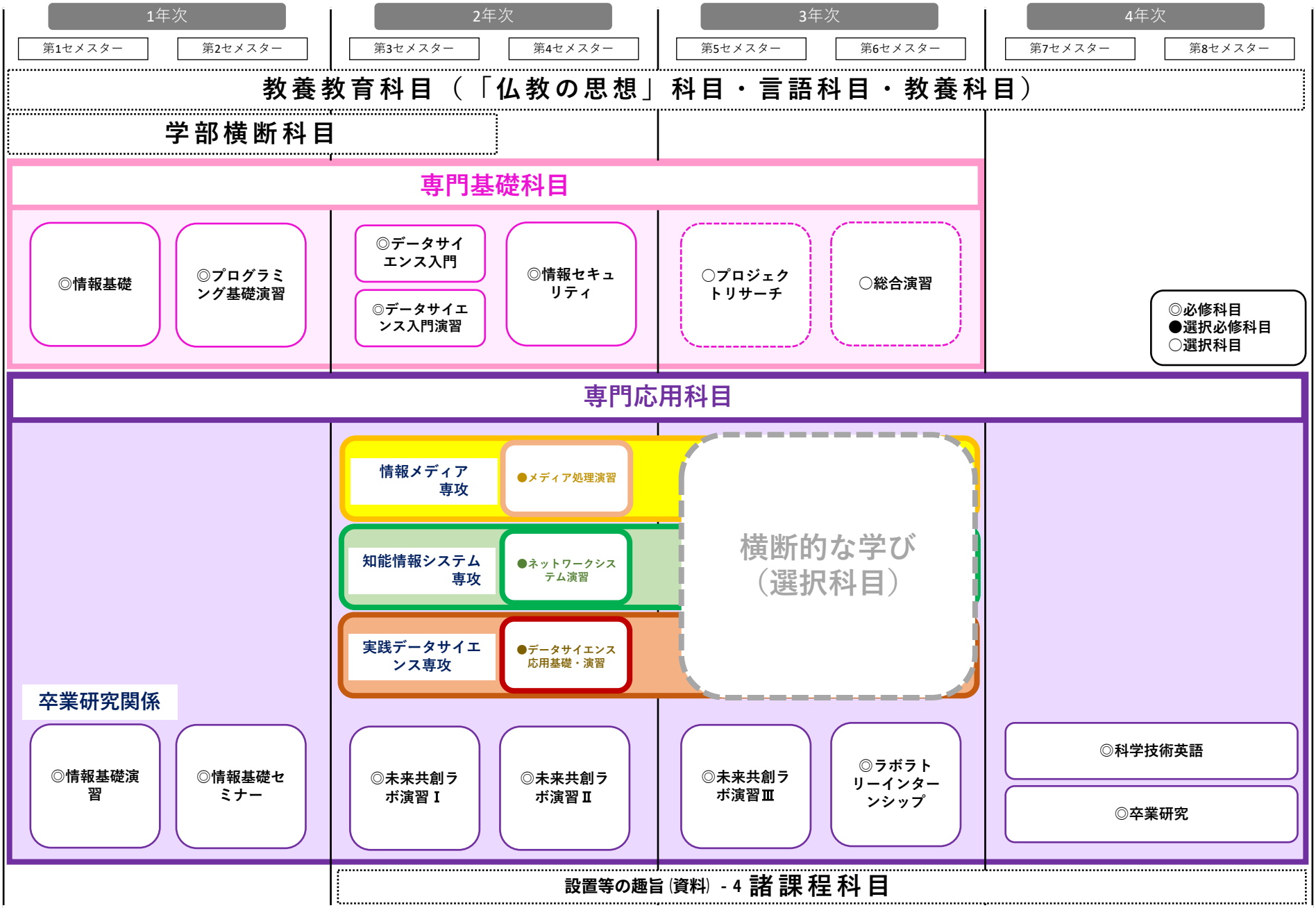
	入学者受入れの方針（AP）	**卒業認定・学位授与の方針（DP）**	**教育課程編成・実施の方針（CP）**
要素	①入学者受入れの方針文 情報学部では、建学の精神に基づいて、情報技術と人、社会、自然との調和を重視し、幅広い教養と情報学の基礎知識・技能を修得することで、実践的な専門家として情報社会の発展に寄与し、新しい社会の創造にも積極的に携わる情報技術者を育成することを目的としている。 そのために、情報学部で教育を受けるうえで基本となる高校での教科を幅広く勉学しており、次のような知識・思考力・態度を有する学生を求める。	①卒業認定・学位授与の方針文 情報学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生に保証する基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方針を次に掲げる。	①教育課程編成・実施の方針文 情報学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学修環境の向上・学修支援体制を整備する。
	②入学者に求める資質・能力	**②学生に保証する基本的な資質・能力** ○ 教養教育科目により保証する資質・能力　● 専攻科目により保証する資質・能力	**②教育内容**
建学の精神の具現化		○建学の精神の意義について理解している。	○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。
		●情報倫理に関する高度な理解と意識を持ち、情報技術を安全かつ責任ある方法で活用できる。	●建学の精神に基づき、情報倫理に関する高度な理解と意識を醸成するために、「情報セキュリティ」を必修科目として、「情報社会と情報倫理」を選択科目として開講する。
「知識・技能」の修得	・専門分野を学ぶのに必要な知識・能力を備え、大学生活を通して成長しようとする意欲を有する人	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
		○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。	○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等）を開講する。
		●情報学の基盤となる自然科学の基礎的な知識を身につけている。	●情報学の基盤となる自然科学の基礎的な知識を身につけるために「物理学概論」等の自然科学系科目を設置するとともに、「微積分学」/「データサイエンス入門数学・演習Ⅰ」、「線形代数学」/「データサイエンス入門数学・演習Ⅱ」、「数理統計学」/「データサイエンス数理統計学」などの数学系科目を選択必修科目として設置する。
		●情報学分野における十分な専門知識を持ち、それらを活用して問題解決ができる。	●情報学分野の幅広い基礎知識を身につけるために、「情報基礎」、「情報システム基礎」、「情報ネットワーク基礎」、「電気・電子工学概論」、などの専門基礎科目を設置し、専攻ごとの高度な専門知識と問題解決力を身につけるために、各専攻別の講義科目及び演習科目を専門応用科目として設置する。
「思考力・判断力・表現力」の発展・向上	・既成概念にとらわれず、課題を発見・解決に挑戦し、情報社会の変化に意欲的に取り組むことができる人	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解できる。	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
		○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現できる。	○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等）を開講する。
		●論理的思考力と問題解決能力を備え、情報技術を駆使して複雑な課題を分析し効果的な解決策を導き出すことができる。	●論理的思考力と問題解決能力を備え、情報技術を駆使して複雑な課題を分析し効果的な解決策を導き出す力を身につけるために、「プログラミング基礎演習」、「データサイエンス入門演習」、「データ構造とアルゴリズム・演習」などのプログラミングを含む演習科目を開講する。
		●既存の枠にとらわれない創造性と革新性を発揮し、独創的な情報システムやビジネスモデルを創造することができる。	●既存の枠にとらわれない創造性と革新性を発揮し、独創的な情報システムやビジネスモデルを創造する能力を身につけるために、PBL科目として「総合演習」を開講する。
		●目標達成に向け解決すべき課題と制約を分析し、長期的な視点に立って必要な学修計画を立て課題解決に取り組むことができる。	●目標達成に向け解決すべき課題と制約を分析し、長期的な視点に立って必要な学修計画を立て課題解決に取り組むことができる力を身につけるために、「卒業研究」を行う。
「主体性・多様性・協働性」の発展・向上	・専門分野に強い関心を持ち、協働を通して学びを深め、多様な考え方を尊重できる人 ・情報学への強い関心と意欲を持ち、粘り強く学び続け、コミュニケーションを大切にできる人 ・主体的に学び、情報収集・分析を行い、論理的に思考し、課題解決に取り組む態度を有する人	●自らの知識・技術を評価し、必要な学びを継続するとともに、最新の技術動向を積極的に習得できる。	●自らの知識・技術を評価し、最新の技術動向を積極的に習得するために、英語で書かれた文献の購読や執筆などを行う「科学技術英語」を設置する。
		●柔軟性と高いコミュニケーション能力を持ち、異なる価値観や専門性を持つ人々と協働し、目標達成に向けて効果的に取り組むことができる。	●柔軟性と高いコミュニケーション能力を持ち、異なる価値観や専門性を持つ人々と協働する力を身につけるために、「未来共創ラボ演習Ⅰ」、「未来共創ラボ演習Ⅱ」、「未来共創ラボ演習Ⅲ」、「プロジェクトリサーチ」、「インターンシップ」を設置する。

③学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

・学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得したものに対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
・卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位を必要とする。

情報学部情報学科カリキュラム全体イメージ図

資料２



情報学部開講専攻科目分類一覧

資料３

◎：必修科目、●：選択必修科目、○：選択科目

区分		卒業要件	授業科目	単位	専攻		
					情報メディア	知能情報システム	実践データサイエンス
専攻科目	学部横断科目	6単位以上修得	思考法を学ぶⅠ	1	○	○	○
			現代の環境課題と政策	1	○	○	○
			地域の環境を知る	1	○	○	○
			思考法を学ぶⅡ	1	○	○	○
			サステナビリティ概論	2	○	○	○
			環境思想入門	2	○	○	○
			仏教とサステナビリティ	1	○	○	○
			AI時代の哲学	1	○	○	○
			ネイチャーポジティブ経営概論	1	○	○	○
			これからの社会と人権	1	○	○	○
			サステナビリティ経営論	1	○	○	○
			コミュニティオーガナイジング入門	1	○	○	○
			コミュニティオーガナイジング実践	1	○	○	○
	専門基礎科目	必修12単位、選択必修10単位を含み44単位以上修得	情報基礎	2	◎	◎	◎
			微積分学	4	●	●	○
			データサイエンス入門数学・演習Ⅰ	4	○	○	●
			情報とスポーツ	2	○	○	○
			情報と法	2	○	○	○
			キャリア実習・実習指導	2	○	○	○
			プログラミング基礎演習	4	◎	◎	◎
			線形代数学	4	●	●	○
			データサイエンス入門数学・演習Ⅱ	4	○	○	●
			メディア処理基礎	2	○	○	○
			ソフトウェア基礎	2	○	○	○
			情報社会と情報倫理	2	○	○	○
			情報と健康	2	○	○	○
			データサイエンス入門	2	◎	◎	◎
			データサイエンス入門演習	2	◎	◎	◎
			数理統計学	2	●	●	○
			データサイエンス数理統計学	2	○	○	●
			情報デザイン	2	○	○	○
			情報システム基礎	2	○	○	○
			情報ネットワーク基礎	2	○	○	○
			ハードウェア基礎	2	○	○	○

区分			卒業要件	授業科目	単位	専攻		
						情報メディア	知能情報システム	実践データサイエンス
専攻科目	専門基礎科目			情報と職業	2	○	○	○
				データ構造とアルゴリズム・演習	4	○	○	○
				情報セキュリティ	2	◎	◎	◎
				情報理論	2	○	○	○
				離散数学	2	○	○	○
				物理学概論	2	○	○	○
				電気・電子工学概論	2	○	○	○
				プロジェクトリサーチ	2	○	○	○
				ヒューマンインタフェース	2	○	○	○
				デジタル・フォレンジック	2	○	○	○
				デジタル・フォレンジック演習	2	○	○	○
				スポーツバイオメカニクス	2	○	○	○
				インターンシップ	2	○	○	○
				総合演習	2	○	○	○
	専門応用科目	情報メディア専攻	必修20単位、選択必修10単位を含み40単位以上修得	画像メディア処理論	2	●	○	○
				CGとアニメーション	2	●	○	○
				メディア処理演習	4	●	○	○
				実世界コンピューティング	2	●	○	○
				XR	2	●	○	○
				コンピュータビジョン	2	●	○	○
				言語メディア処理論	2	●	○	○
				音声・音響メディア処理論	2	●	○	○
		知能情報システム専攻		システムソフトウェア	2	○	●	○
				データベース	2	○	●	○
				Cプログラミング	2	○	●	○
				ネットワークシステム演習	4	○	●	○
				オブジェクト指向プログラミング	2	○	●	○
				Web技術	2	○	●	○
				人工知能	2	○	●	○
				ソフトウェア工学	2	○	●	○
		実践データサイエンス専攻		経営情報学	2	○	○	●
				データマイニング	2	○	○	●
				バイオデータサイエンス	2	○	○	●
				データサイエンス応用基礎・演習	4	○	○	●
				情報検索	2	○	○	●
				アントレプレナーシップ	2	○	○	●
				推薦システム	2	○	○	●
				機械学習	2	○	○	●
		卒業研究関係		情報基礎演習	2	◎	◎	◎
				情報基礎セミナー	2	◎	◎	◎
				未来共創ラボ演習Ⅰ	2	◎	◎	◎
				未来共創ラボ演習Ⅱ	2	◎	◎	◎
				未来共創ラボ演習Ⅲ	2	◎	◎	◎
				ラボラトリーインターンシップ	2	◎	◎	◎
				科学技術英語	2	◎	◎	◎
				卒業研究	6	◎	◎	◎

資料４

◆情報学部情報学科　情報メディア専攻履修モデル

〔卒業後の進路〕 音響、画像、ゲーム関係企業、情報セキュリティ関連企業、大学院進学、公務員、高等学校教員、その他一般企業など

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数
		第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A ◎	2	仏教の思想B ◎	2													22
	言語科目	英語総合1（A）◎	1	英語総合2（A）◎	1	英語総合3◎	1	英語総合4◎	1									
		英語総合1（B）◎	1	英語総合2（B）◎	1													
	人文科学系科目			教育原論B●	2													
	社会科学系科目	日本国憲法●	2					人権論B	2	情報社会とメディア	2							
	自然科学系科目									生命と科学	2							
	スポーツ科学系科目	スポーツ技術学A	1	スポーツ技術学B	1													
専攻科目	学部横断科目	サステナビリティ概論	2					AI時代の哲学	1									6
										環境思想入門	2	サステナビリティ経営論	1					
	専門基礎科目	情報基礎◎	2	プログラミング基礎演習◎	4	データサイエンス入門◎	2	情報セキュリティ◎	2	ヒューマンインタフェース	2	総合演習	2					46
		微積分学●	4	線形代数学●	4	データサイエンス入門演習◎	2	情報社会と情報倫理	2	情報と職業	2							
		情報と法	2	メディア処理基礎	2	数理統計学●	2											
				ソフトウェア基礎	2	情報システム基礎	2											
						情報ネットワーク基礎	2											
						ハードウェア基礎	2											
						データ構造とアルゴリズム・演習	4											
	専門応用科目 情報メディア専攻					画像メディア処理論●	2	メディア処理演習●	4	実世界コンピューティング●	2	言語メディア処理●	2					18
								CGとアニメーション●	2	XR●	2	音声・音響メディア処理論●	2					
										コンピュータビジョン●	2							
	専門応用科目 知能情報システム専攻									Web技術	2	ネットワークシステム・演習	4					12
												人工知能	2					
	専門応用科目 実践データサイエンス専攻							データマイニング	2			推薦システム	2					
	専門応用科目 卒業研究関係	情報基礎演習◎	2	情報基礎セミナー◎	2	未来共創ラボ演習Ⅰ◎	2	未来共創ラボ演習Ⅱ◎	2	未来共創ラボ演習Ⅲ◎	2	ラボラトリーインターンシップ◎	2	科学技術英語◎	2			20
														卒業研究◎	6			
修得単位数		19		21		21		18		20		17		0		8		124

◎：必修科目　●：選択必修科目

資料５

◆情報学部情報学科　知能情報システム専攻履修モデル

〔卒業後の進路〕 システムインテグレーター、情報セキュリティ関連企業、大学院進学、公務員、高等学校教員、その他一般企業など

科目区分			1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数
			第1セメスター	第2セメスター		第3セメスター	第4セメスター		第5セメスター	第6セメスター		第7セメスター	第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目		仏教の思想A ◎ 2	仏教の思想B ◎ 2											22
	言語科目		英語総合1(A)◎ 1	英語総合2(A)◎ 1		英語総合3◎ 1	英語総合4◎ 1								
			英語総合1(B)◎ 1	英語総合2(B)◎ 1											
	人文科学系科目			教育原論B● 2											
	社会科学系科目		日本国憲法● 2				人権論B 2		情報社会とメディア 2						
	自然科学系科目								生命と科学 2						
	スポーツ科学系科目		スポーツ技術学A 1	スポーツ技術学B 1											
専攻科目	学部横断科目		サステナビリティ概論 2				AI時代の哲学 1								6
									環境思想入門 2	サステナビリティ経営論 1					
	専門基礎科目		情報基礎◎ 2	プログラミング基礎演習◎ 4		データサイエンス入門◎ 2	情報セキュリティ◎ 2		デジタル・フォレンジック 2	総合演習 2					48
			微積分学● 4	線形代数学● 4		データサイエンス入門演習◎ 2	情報社会と情報倫理 2		デジタル・フォレンジック演習 2						
			情報と法 2	メディア処理基礎 2		数理統計学● 2			情報と職業 2						
				ソフトウェア基礎 2		情報システム基礎 2									
						情報ネットワーク基礎 2									
						ハードウェア基礎 2									
						データ構造とアルゴリズム・演習 4									
	専門応用科目	情報メディア専攻							XR 2	メディア処理演習 4					6
		知能情報システム専攻				システムソフトウェア● 2	Cプログラミング● 2		オブジェクト指向プログラミング● 2	人工知能● 2					18
							ネットワークシステム演習● 4		Web技術● 2	ソフトウェア工学● 2					
									データベース● 2						
		実践データサイエンス専攻							情報検索 2	機械学習 2					4
		卒業研究関係	情報基礎演習◎ 2	情報基礎セミナー◎ 2		未来共創ラボ演習Ⅰ◎ 2	未来共創ラボ演習Ⅱ◎ 2		未来共創ラボ演習Ⅲ◎ 2	ラボラトリーインターンシップ◎ 2		科学技術英語◎ 2			20
												卒業研究◎ 6			
修得単位数			19	21		21	16		24	15		0	8		124

◎:必修科目　●:選択必修科目

資料６

◆情報学部情報学科　実践データサイエンス専攻履修モデル

〔卒業後の進路〕 スポーツ関連企業、情報セキュリティ関連企業、公務員、大学院進学、その他一般企業など

科目区分			1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数
			第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目		仏教の思想A ◎	2	仏教の思想B ◎	2													22
	言語科目		英語総合1（A）◎	1	英語総合2（A）◎	1	英語総合3◎	1	英語総合4◎	1									
			英語総合1（B）◎	1	英語総合2（B）◎	1													
	人文科学系科目				教育原論B●	2													
	社会科学系科目		日本国憲法●	2					人権論B	2	情報社会とメディア	2							
	自然科学系科目										生命と科学	2							
	スポーツ科学系科目		スポーツ技術学A	1	スポーツ技術学B	1													
専攻科目	学部横断科目		サステナビリティ概論	2					AI時代の哲学	1									6
											環境思想入門	2	サステナビリティ経営論	1					
	専門基礎科目		情報基礎◎	2	プログラミング基礎演習◎	4	データサイエンス入門◎	2	情報セキュリティ◎	2	スポーツバイオメカニクス	2	総合演習	2					46
			データサイエンス入門数学・演習Ⅰ	4	データサイエンス入門数学・演習Ⅱ	4	データサイエンス入門演習◎	2	情報と健康	2	情報と職業	2							
			情報とスポーツ	2	メディア処理基礎	2	データサイエンス数理統計学	2											
			情報と法	2	ソフトウェア基礎	2	情報デザイン	2											
							情報システム基礎	2											
							情報ネットワーク基礎	2											
							ハードウェア基礎	2											
	専門応用科目	情報メディア専攻							CGとアニメーション	2	実世界コンピューティング	2							12
											コンピュータビジョン	2							
		知能情報システム専攻					データベース	2			Web技術	2	人工知能	2					
		実践データサイエンス専攻					経営情報学●	2	データマイニング●	2	情報検索●	2	機械学習●	2					18
									バイオデータサイエンス●	2	アントレプレナーシップ●	2	推薦システム●	2					
									データサイエンス応用基礎・演習●	4									
		卒業研究関係	情報基礎演習◎	2	情報基礎セミナー◎	2	未来共創ラボ演習Ⅰ◎	2	未来共創ラボ演習Ⅱ◎	2	未来共創ラボ演習Ⅲ◎	2	ラボラトリーインターンシップ◎	2	科学技術英語◎			2	20
															卒業研究◎			6	
修得単位数			21		21		21		20		22		11		0		8		124

◎：必修科目　●：選択必修科目

資料７

龍谷大学 オンライン授業実施要件（第２版）

2023（令和 5）年 10 月 13 日
教　学　会　議
教　養　教　育　会　議
学修支援・教育開発センター会議

本学におけるオンライン授業は、各教学主体の責任において、対象授業の選定、授業設計、授業運営を行っていただく必要があります。とりわけ、オンライン授業を実施するにあたっては、「多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもの」であり、「大学において、面接（対面）授業に相当する教育効果を有すると認めたものである」という観点が重要となります。

「龍谷大学 オンライン授業実施要件」は、以下の法令や規程等を前提にして、現時点の内容として策定しています。

１．大学設置基準第 25 条第 2 項及び第 3 項／短期大学設置基準第 11 条第 2 項及び第 3 項
「大学は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる」

２．平成 13 年文部科学省告示第 51 号（メディア授業告示）
「多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもので、（中略）大学において、面接授業に相当する教育効果を有すると認めたものであること」「メディア授業告示第 1 号（同時双方向型）」、「メディア授業告示第 2 号（オンデマンド型）」

３．大学設置基準第 32 条第 5 項／短期大学設置基準第 18 条
「卒業の要件として修得すべき 124 単位（短大：62 単位）のうち、（中略）修得する単位数は 60 単位（短大：30 単位）を超えないものとする」

４．龍谷大学学則（第 25 条の 2）／龍谷大学短期大学部学則（第 6 条の 2）
「多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる」
「卒業の要件として修得すべき単位数のうち、（中略）単位数は 60 単位（短大：30 単位）を超えないものとする」

５．大学・高専における遠隔教育の実施に関するガイドライン
（令和 5 年 3 月 28 日周知 文部科学省 高等教育局 専門教育課 大学教育・入試課）
※遠隔教育の利点と課題を踏まえ、遠隔教育の質保証や、面接授業と遠隔授業を効果的に組み合わせたハイブリッド型教育の確立に資することを目的に、大学等における遠隔教育について専門的な知見を有する有識者の協力を得て策定。

今後、法令や規程等が改正された場合や、オンライン授業の実施により、実態と齟齬が判明した場合など、必要に応じて実施要件を改訂する場合があります。

Ⅰ　オンライン授業について

本学では、対面にて授業を行う科目のほか、一部においてインターネット環境を利用してオンライン上で授業を行う科目があります。

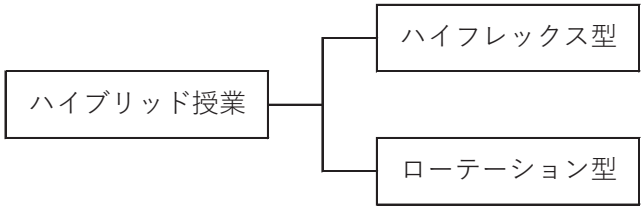
1　オンライン授業形態

(1) オンライン授業の実施形態

本学では、次のようにオンライン授業の実施形態を区分しています。

(2) オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態

オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態として、ハイブリッド授業があります。



2　オンライン授業に関する用語の定義

(1) オンライン授業

本学における「オンライン授業」とは、インターネット環境を利用して、文字・音声・静止画・動画等の多様な情報を、当該授業を行う教室等以外の場所にいる学生に対して配信し、設問解答や意見交換などの機会を確保して学修を進めていくもので、標準的な 1 コマ（1 回分）のすべてを以下の形態で行う授業を指します。

なお、全授業回数のうち、半数以上を、インターネット環境を利用してオンライン上で行う授業は「オンライン授業」となります。

①ライブ授業

ライブ授業とは、オンライン授業のうち、同時かつ双方向（教員と学生）で授業を行うものを指します。ライブ授業を詳細に分類すると「同時双方向型」と「同時一方向型」に分かれますが、本学においては、双方向性が確保できる「同時双方向型」を指します。

②オンデマンド授業

オンライン授業のうち、予め収録した授業（動画・音声）や音声付 PowerPoint 動画等を配信

し、あわせて課題指示等を行うものを指します。

（2）ハイブリッド授業

オンライン授業と対面授業を組み合わせた授業形態を指します。ハイブリッド授業には、ハイフレックス型とローテーション型の 2 つの型があります。

①ハイフレックス型

対面授業をライブ配信することにより、オンライン授業としても実施する授業のことを指します。学生は対面授業またはオンライン授業として受講します。

（例）対面希望の学生とオンライン希望の学生を 2 グループに分けて実施する授業。

②ローテーション型

全授業回数のうち、各回によって対面とオンラインを使い分ける授業のことを指します。また、「ブレンド型（ブレンデッド型）授業」と呼ばれることもあります。

（例）全 15 回のうち、4 回目～11 回目をオンラインで実施し、その他は対面で実施する授業。

（3）オンライン授業科目

本実施要件にもとづき、各教学主体が選定したオンライン授業を「オンライン授業科目」と称しています。当該科目は、各教学主体におけるカリキュラム上の必要性から配置されるという基本的な考え方にもとづき、授業単位ではなく科目単位で各教学主体があらかじめ設定することになります。複数クラス開講される科目の場合は、原則として、すべてのクラスがオンライン授業科目となります。

すべての授業回をオンライン授業（ライブ授業・オンデマンド授業）で実施する科目のほか、対面授業と組み合わせて実施する授業科目（ハイブリッド授業）も選定の対象となります。

全授業回数のうち、半数以上をオンラインで行う授業は「オンライン授業科目」として選定する必要があります。

なお、「オンライン授業科目」については、学則（龍谷大学学則第 25 条の 2／龍谷大学短期大学部学則第 6 条の 2）に準じ、卒業要件単位として 60 単位（短大：30 単位）を超えない範囲で認定することになるため、実施科目ならびに履修者を把握しておく必要があります。

（4）授業コンテンツ

授業にて学生に提供する、教材や動画等の資料全般を、授業コンテンツと称します。

Ⅱ　オンライン授業実施要件

オンライン授業の実施に関する要件をつぎのとおり定めます。オンライン授業の質を保証するために必要な事項です。

授業担当者においては、これらにもとづき授業の設計や運営を行っていただくとともに、対面授業に相当する教育効果が担保されるよう適宜チェックをおこない、授業の質の保証に努めることが求められます。

1．オンライン授業共通（ライブ・オンデマンド・ハイブリッド授業）の実施要件と留意事項

(1) オンライン授業共通の実施要件

① 文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱っていること（文字のみ、音声のみの授業は不適です）。

② 対面授業に相当する教育効果を有すること。

③ 授業時間割にそって、定められた曜講時に実施すること。オンデマンド授業については、同曜講時に受講（視聴）を開始させること。

④ オンライン授業科目の成績評価は、学生のキャンパス間移動及び教室配当等の関係から、原則として、対面による定期試験以外の方法で行うよう配慮すること。

⑤ シラバスにおいて、当該科目がオンライン授業科目であることを示し、受講にあたっての諸注意・連絡事項等を記載すること。

＜シラバスへの主な記載事項（例）＞

授業形態（ライブ授業、オンデマンド授業、ハイブリッド授業）、オンライン授業として実施するねらい、受講のための準備事項、受講方法（manaba 等）、受講中のルール、質問の受付・回答の方法、成績評価の方法　など

※これらの事項については、対面授業と異なる点に鑑み、第 1 回目の授業までに学生に周知されるよう、配慮してください。

⑥ LMS （Learning Management System）の manaba やオンライン会議システムを活用して、授業担当者と学生の質疑応答の機会（manaba「個別指導コレクション」のコレクション作成・編集許可設定を「教員・学生」にすることを推奨）や学生同士の意見交換の機会を確保すること。

⑦ LMS の manaba を活用して、受講生が授業コンテンツにアクセスでき、かつ課題提出ができること。

⑧ 授業中に respon を活用したり、授業後にアンケートを取ったりするなど、学生の受講状況（出席状況）や理解度の把握に努めること。

⑨ 板書の映像配信や PowerPoint 等の画面共有を行う場合は、画角の調整や文字の大きさに留意し、授業コンテンツは事前に配付するなど、受講者の理解促進に努めること（ダウンロードを要する授業コンテンツは、できるだけ前日までに公開すること）。

⑩ 授業期間中に適宜アンケート等を実施し、授業コンテンツを見直したり、小テスト等をこまめに実施し理解度を把握したり、適宜改善を図るなど、学修者の視点に立った授業運営を行い、授業の質の向上に努めること。

⑪ 授業における質疑応答、アンケートや小テスト等の結果を踏まえ、受講生に対してフィードバックを行うこと。

⑫ 受講学生へ本学所定の授業アンケートを必ず実施し、その結果を踏まえて授業内容に関する自己点検を行い、点検結果を各教学主体で共有すること。

⑬ 各教学主体は、オンライン授業の質向上を目的として各オンライン授業科目の実施状況を適宜視聴するなどして把握し、グッドプラクティスを各教学主体及び全学で共有するよう努めること。

(2) オンライン授業共通の留意事項

① 障がいのある学生は、授業に参加するための情報の取得や利活用ならびに円滑に意思疎通を図ることに障壁を抱えていることがあります。オンライン授業科目の受講方法等について、可能な限りシラバスに記載することで、授業選択のミスマッチを防ぐとともに、適切な合理的配慮につながります。詳細は「シラバス作成の手引き」をご確認ください。

② 授業コンテンツの作成にあたり他人の著作物を利用する場合は、著作権法に基づき適切に対応してください。本学は、管理協会（SARTLAS）に補償金を支払っており、個別に著作者の許諾を得る手続きを取らずとも授業目的に限りインターネット環境を利用して送信することが可能ですが、必要と認められる限度内の利用であっても、著作権者や著作隣接権者の利益を不当に害することは制度の対象外となります（例えば、著作物の作者の氏名を改変・削除したり、著作物を作者の意に反して改変・歪曲したり、損なったりする行為等）。

③ 各教員にとって、授業等において学生の反応を確認し、学生との交流機会を持つことは重要です。各教学主体は所属教員（専任教員および特別任用教員）が担当する科目の対面授業とオンライン授業のバランスも考慮し、担当授業コマ数のすべてがオンライン授業とならないようにオンライン授業科目を選定してください。

2．ライブ授業の実施要件と留意事項

(1) ライブ授業の実施要件

① ライブ授業は録画し、後日一定期間（1 週間を目途）オンデマンド配信するなど、学生の通信環境や繰り返し学習ができるよう配慮すること。

② 録画したライブ授業のオンデマンド配信について、配信する（しない）ことや、オンデマンドによる出席を認める（認めない）ことは、授業担当者がそれぞれに判断し、受講生に周知すること。

(2) ライブ授業の留意事項

① 授業運営上、学生を画面に登場させる場合、顔出し自体を忌避する学生がいることを想定することや、背景等の映り込みからプライバシーが守られるよう学生に注意することなど、配慮が必要です。また、肖像権やプライバシー保護の関係から、画面のスクリーンショットや録画を禁止するなど、受講上の注意を学生に指示してください。

② ライブ授業を録画する際は、受講生の映り込みなど、プライバシーに配慮いただき、ダウンロードできないよう設定してください。

3．オンデマンド授業の実施要件と留意事項

(1) オンデマンド授業の実施要件

① 1 週間ごとに配信し、かつ、1 週間（もしくは一定期間を設定）ごとに受講状況及び課題対応（学生からの提出）を確認すること（受講状況の把握の例：respon を活用したり、授業後にアンケートを取ったりするなど）。

② 全授業回数のすべてをオンデマンド授業とするのではなく、同時双方向性を確保するため、ライブ授業とオンデマンド授業を組み合わせることや、対面授業とオンデマンド授業とを組み合わせたハイブリッド授業の実施に努めること。

(2) オンデマンド授業の留意事項

① オンデマンド授業は、授業時間割どおりの 90 分をひとまとまりとして実施する必要はなく、小分けにして授業コンテンツを提供することができます。ただし、小分けにした場合でも、ひとまとまりが、対面における 1 回あたりの授業に相当するよう、授業コンテンツを用意してください。また、その 1 回分相当の学修内容をシラバスの「講義計画」において明示してください。

② 設問に対する解答や添削指導、質疑応答の機会を設けるなど、双方向性を確保したうえで学生への指導が十分となるよう留意してください。例えば、教科書を読んでレポートを課すだけの授業は要件を満たしません。

③ これまでのオンライン授業の自己点検において、「オンデマンド授業は学生と教員による同時双方向のやりとりが難しい」旨の指摘があります。オンデマンド授業では、授業を開講する曜講時を活用して学生からの質問を受け付ける機会を確保したり、学生への個別指導の機会に充てたりするなど、学生と教員との同時双方向性が確保できるように工夫してください。
その観点から、すべての授業回数をオンデマンド授業として実施するのではなく、ライブ授業とオンデマンド授業とを組み合わせることや、対面授業とオンデマンド授業とを組み合わせたハイブリッド授業とすることなどを推奨します。

4．ハイブリッド授業（ハイフレックス型・ローテーション型）の実施要件と留意事項

(1) ハイブリッド授業の実施要件

① ハイフレックス型の場合には、板書や質疑応答等、対面で参加している学生とオンラインで参加している学生の両方に目配りし、学生が置き去りにならないよう配慮すること。

② ローテーション型の場合には、例えば、知識伝達型の授業回はオンデマンド授業により実施し、グループワーク等を中心とする授業回は対面授業により実施するなど、オンデマンド授業と対面授業とを効果的に組み合わせて実施すること。

(2) ハイブリッド授業の留意事項

① 対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド授業を実施する場合、オンライン授業の実施形態にあわせて、「Ⅱ　オンライン授業実施要件」に記載している各授業の要件を満たしてください。
また、ローテーション型においては、各回で授業の実施形態が異なることになるため、学生に混乱が生じないようシラバスや manaba で丁寧に連絡するようにしてください。

Ⅲ オンライン授業科目の実施フローおよび質の向上に向けた取り組み

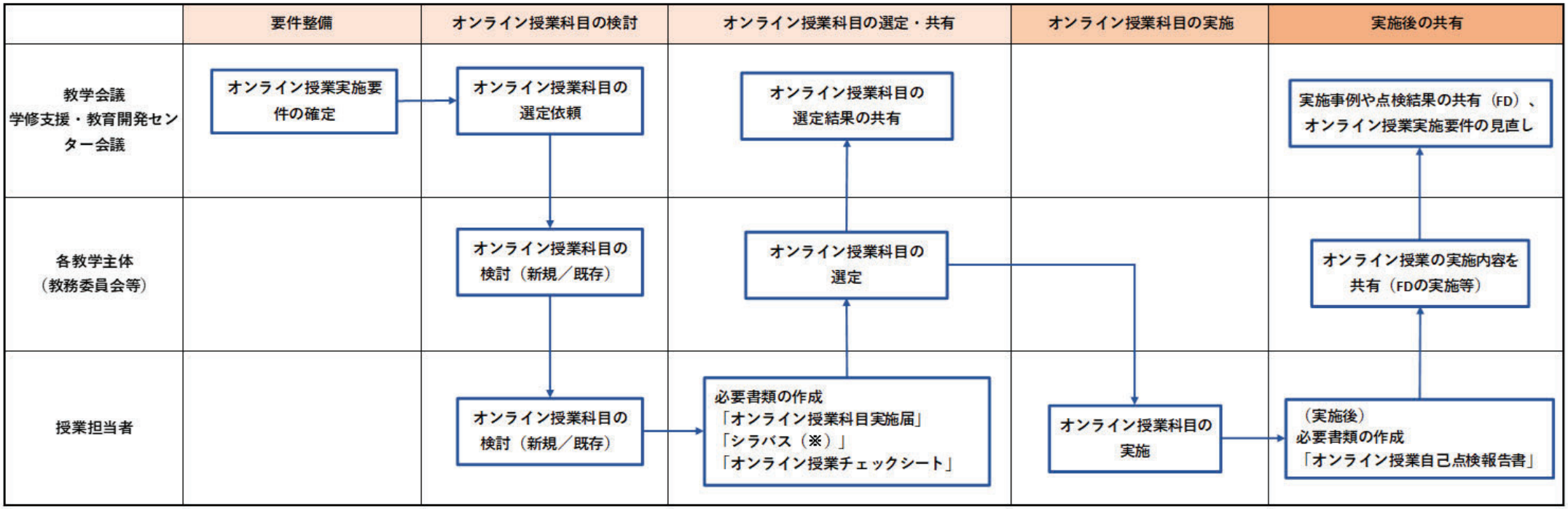
オンライン授業改善とあわせて実施事例の共有という FD 活動につなげることが重要です。

したがって、オンライン授業科目の担当者が自己の活動を点検して学内で共有するとともに、各教学主体においても実施状況を把握し、授業の質向上に努めることが重要です。

これらのことから、オンライン授業科目の実施にあたっては、以下のフローにそって、運用することとします。

※図：「オンライン授業科目の選定および実施フロー」を参照。

＜オンライン授業科目の選定および実施フロー＞



（※）シラバスが未作成の場合は、「シラバス作成の手引き」を参照の上、必須項目（到達目標、講義方法、成績評価方法　等）を記載した別紙を添付（様式自由）。

（参考）

１．　オンライン授業形態別のメリットとデメリット

2022 年度に実施した自己点検結果をもとに作成

※2023 年度 合同会議（教学会議・教養教育会議・学修支援・教育開発センター会議）資料（2023 年 5 月 12 日開催）

	メリット	デメリット
ライブ授業	・Meet のブレークアウトセッション機能により、多数の受講生がいる授業でも小グループのディスカッションができ、対面よりも１人１人の参加度が向上する ・チャット機能を用いて、受講者間でも意見を共有することができる	・画質等により、学生の表情等が読みづらい ・録画していない場合、配信状況に問題が生じると、視聴し直すことができない
オンデマンド授業	・講義動画を何度も視聴することができるため、受講生自身のペースで学習を深めることができる ・海外など地理的に離れた場所にいて、時差もある研究者の最新の研究を踏まえた講義が提供できる ・教員から manaba 等を通じて連絡があり、指示や課題等に関する内容が理解しやすい	・学生の集中力が持続しない／学習姿勢に課題があると思われる ・学習状況／理解度が把握しきれない ・意見交換する場／受講生同士の交流の機会がもちにくい ・学習習慣や自律性の欠ける学生には講義計画に沿った授業の受講が難しい場合がある
ハイブリッド授業	・Meet のチャット機能や respon のコメント機能等を活用することで多くの質問を受けることができる ・対面授業及びオンライン授業の両方のメリットを受けることができる	・各回で授業実施形態が異なるため、混乱が生じないよう、シラバスや manaba で丁寧に連絡する必要がある ・対面授業及びオンライン授業の両方のデメリットがあてはまる

以上

資料８－１

◆情報学部情報学科　情報メディア専攻編入学生履修モデル

〔卒業後の進路〕 音響、画像、ゲーム関係企業、情報セキュリティ関連企業、大学院進学、公務員、高等学校教員、その他一般企業など

科目区分			1年次		2年次		3年次		4年次		修得単位数
			第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
教養教育科目	「仏教の思想」科目						仏教の思想A ◎ 2	仏教の思想B ◎ 2			4
	言語科目										
	人文科学系科目										
	社会科学系科目										
	自然科学系科目										
	スポーツ科学系科目										
専攻科目	学部横断科目						サステナビリティ概論 2	AI時代の哲学 1			6
	専門基礎科目						環境思想入門 2	サステナビリティ経営論 1			
							ヒューマンインタフェース 2	総合演習 2			8
							デジタル・フォレンジック 2				
							デジタル・フォレンジック演習 2				
	専門応用科目	情報メディア専攻					画像メディア処理論● 2	メディア処理演習● 4	実世界コンピューティング● 2	言語メディア処理● 2	18
								CGとアニメーション● 2	XR● 2	音声・音響メディア処理論● 2	
									コンピュータビジョン● 2		
		知能情報システム専攻					Web技術 2	ネットワークシステム・演習 4	オブジェクト指向プログラミング 2		14
								人工知能 2			
		実践データサイエンス専攻						推薦システム 2			
								データマイニング 2			
		卒業研究関係					未来共創ラボ演習Ⅲ◎ 2	ラボラトリーインターンシップ◎ 2	科学技術英語◎ 2		12
									卒業研究◎ 6		
修得単位数			62				18	24	8	12	124

出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、62単位を超えない範囲で認定する。

◎：必修科目　●：選択必修科目

資料８－２

◆情報学部情報学科　知能情報システム専攻編入学生履修モデル

〔卒業後の進路〕 システムインテグレーター、情報セキュリティ関連企業、大学院進学、公務員、高等学校教員、その他一般企業など

科目区分		1年次		2年次		3年次				4年次				修得単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目					仏教の思想A ◎	2	仏教の思想B ◎	2					4
	言語科目													
	人文科学系科目													
	社会科学系科目													
	自然科学系科目													
	スポーツ科学系科目													
専攻科目	学部横断科目					サステナビリティ概論	2	AI時代の哲学	1					6
						環境思想入門	2	サステナビリティ経営論	1					
	専門基礎科目					デジタル・フォレンジック	2	総合演習	2	ヒューマンインタフェース	2			8
						デジタル・フォレンジック演習	2							
	専門応用科目 情報メディア専攻					XR	2	メディア処理演習	4					8
								CGとアニメーション	2					
	専門応用科目 知能情報システム専攻					システムソフトウェア●	2	Cプログラミング●	2	オブジェクト指向プログラミング●	2	人工知能●	2	18
						データベース●	2	ネットワークシステム演習●	4	Web技術●	2	ソフトウェア工学●	2	
	専門応用科目 実践データサイエンス専攻					情報検索	2	機械学習	2					6
								推薦システム	2					
	専門応用科目 卒業研究関係					未来共創ラボ演習Ⅲ◎	2	ラボラトリーインターンシップ◎	2	科学技術英語◎	2			12
										卒業研究◎	6			
修得単位数		62				20		24		6		12		124

出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、62単位を超えない範囲で認定する。

◎：必修科目　●：選択必修科目

資料８－３

◆情報学部情報学科　実践データサイエンス専攻編入学生履修モデル

〔卒業後の進路〕 スポーツ関連企業、情報セキュリティ関連企業、公務員、大学院進学、その他一般企業など

科目区分			1年次		2年次		3年次		4年次		修得単位数
			第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
教養教育科目	「仏教の思想」科目						仏教の思想A ◎ 2	仏教の思想B ◎ 2			4
	言語科目										
	人文科学系科目										
	社会科学系科目										
	自然科学系科目										
	スポーツ科学系科目										
専攻科目	学部横断科目						サステナビリティ概論 2	AI時代の哲学 1			6
							環境思想入門 2	サステナビリティ経営論 1			
	専門基礎科目						スポーツバイオメカニクス 2	総合演習 2	デジタル・フォレンジック 2		10
							ヒューマンインタフェース 2		デジタル・フォレンジック演習 2		
	専門応用科目	情報メディア専攻					実世界コンピューティング 2	CGとアニメーション 2			12
							コンピュータビジョン 2				
		知能情報システム専攻					Web技術 2	人工知能 2	データベース 2		
		実践データサイエンス専攻					経営情報学● 2	データマイニング● 2	情報検索● 2	機械学習● 2	18
								バイオデータサイエンス● 2	アントレプレナーシップ● 2	推薦システム● 2	
								データサイエンス応用基礎・演習● 4			
		卒業研究関係					未来共創ラボ演習Ⅲ◎ 2	ラボラトリーインターンシップ◎ 2	科学技術英語◎ 2		12
									卒業研究◎ 6		
修得単位数			62				20	20	10	12	124

出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、62単位を超えない範囲で認定する。

◎:必修科目　●:選択必修科目

資料９

Career Support & Job Hunting

進路・就職支援

キャリア形成支援プログラム（インターンシップ等）

職業現場を体験して、自分の将来をはっきり見極める

社会人としての基礎力を養う

ビジネスの現場を体験できる活動は、「社会人基礎力」に代表されるような、企業で求められる様々な能力が身につくプログラムです。参加することで、自身の仕事への興味や働き方を認識することができ、卒業後の進路選択の可能性が大きく広がります。
また、近年各企業もインターンシップを重要視しており、インターンシップへの参加がスムーズな就職活動にもつながっています。

１．キャリア形成支援にかかる取組例

出願先	龍谷大学（キャリアセンター）			大学コンソーシアム京都	各企業・団体等
プログラム名称	RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム「キャリア実習・実習指導」			産学連携教育プログラム	オープンカンパニー・インターンシップ等（自由応募型、公募型）
	ベーシック	グローバル	経済同友会		
概要	◆龍谷大学が協定を締結する企業・団体等において国内で実施する5日間以上のプログラム 実習前後の学修及び夏期休暇中の実習を実施するプログラム ◆事前学修・実習に必要な基本的な知識と心構えを習得するとともに自覚を持って実習に参加できるよう準備する。 ◆事後学修実習を振り返り、成果報告をおこなう。	◆2027年度に向けプログラム内容構想中	◆龍谷大学が協定を締結する経済同友会インターンシップ推進協会会員企業(主に首都圏）において実施する5日間以上のプログラム 実習前後の学修及び夏期休暇中の実習を実施するプログラム ◆事前学修 実習に必要な基本的な知識と心構えを習得するとともに自覚を持って実習に参加できるよう準備する。経済同友会インターンシップ推進協会のプレミーティングに参加する。 ◆事後学修 実習を振り返り、成果報告をおこなう。経済同友会インターンシップ推進協会の事後合同研修（3回程度）に参加する。	【エクスターンシップ（就業体験）コース】 ◆企業・行政機関・非営利組織において実施する、2週間以上のプログラム 【プロジェクト企画実践コース】 ◆企業・団体が提示するプロジェクトを実行する約5ヶ月間の成果重視のプログラム 注）大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラムと「キャリア実習・実習指導」の併願はできません。	学生が応募先を探し、エントリー、参加をする。 説明会、グループワーク業界研究、職場見学（工場見学）などプログラムごとに内容が異なります
対象学生	全学部1・2年次生		全学部1・2年次生	全学生	各プログラムによって異りますので、実施企業・団体等の情報をご確認ください。多くの企業・団体はホームページや大手就職情報サイトに情報を掲載しています。
実習時期	夏期休暇中 8月17日（月）～9月7日（月）		夏期休暇中 8月12日（水）～9月11日（金）	【エクスターンシップ（就業体験）コース】 8月～9月中旬 【プロジェクト企画実践コース】 6月中旬～11月下旬 ※受入先によって異なる	
形態	対面・オンライン・ハイブリッド		対面・オンライン・ハイブリッド		

事前・直前学修／事後学修	事前学修	6月27日（土）7月25日（土）		6月27日（土） 7月25日（土） 7月中旬（予定） 8月中旬（予定）	詳細は大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラムパンフレットまたは大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラムポータルサイト をご覧ください。	×
	事後学修	9月8日（火） 9月15日（火）		講義およびゼミ形式にて実施 9月15日（火） 9月下旬 10月下旬、 2月上旬（予定）		
	実施場所	事前・事後学修 本学キャンパスまたはオンライン		事前・事後学修 本学キャンパスまたはオンライン		各プログラムによって異りますので、実施企業・団体等の情報をご確認ください。
単位認定		○※		○※	○※	×

※すべての学部・学年で単位認定がなされるものではありません。
単位認定の有無や要件については、履修要項WEBサイトまたは各学部教務課にて確認してください

◆経済同友会インターンシップ推進協会ホームページ

２．龍谷大学RYUKOKUキャリア・スタート・プログラムについて

龍谷大学独自の教育プログラムである「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」は、約100社の企業・団体等と協定を締結して実施しています。
普段は関わることが少ない他学部・学科の学生との交流により、多様な価値観にふれることができます。また、プログラムに積極的に取り組むことで課題発見力や主体性、発信力や傾聴力といった社会で求められる様々な能力を身に付けることができます。

また、建学の精神にもとづくきめ細かな実習前後の学修を展開し、グループワークを中心に以下のような内容で実施します。

- 実習前：実習に参加する目標の明確化、実習先の業界・企業研究、卒業生のキャリアから学ぶ　など
- 実習後：実習での経験の振り返り、報告会での発表　など

RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム「キャリア実習・実習指導」2026　学生向けパンフレットはこちら PDF

RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム（経済同友会・ベーシック・グローバル）
① 対象　：学部1・2年次生
② プログラム詳細

※1 経営学部・社会学部・先端理工学部の2年次生は、カリキュラム上、名称が「教養教育科目特別講義（キャリア入門）」となります
※2「キャリア実習・実習指導」は「キャリア入門」を登録・受講または、単位取得済みでないと受講できません。

2025年度受入企業・団体実績（敬称略 50音順）

【ベーシック：35社・団体】

- 株式会社アウルコーポレーション
- 株式会社エコ・プラン
- 大阪信用金庫
- 社会福祉法人京都福祉サービス協会
- 京都三菱自動車販売株式会社
- 剤盛堂薬品株式会社
- 株式会社スタジオアリス
- 株式会社ＺＴＶ
- 株式会社チクマ
- 奈良トヨタ株式会社
- 株式会社日興商会
- 日本オーチス・エレベータ株式会社
- 株式会社ピューズ
- フルタニ産業株式会社
- 松原市役所
- 株式会社遊文舎
- 学校法人龍谷大学　龍谷大学付属平安高等学校・中学校
- 株式会社イシダ
- ＳＭＢＣ日興証券株式会社
- 一般財団法人休暇村協会
- 公益財団法人京都府公園公社
- 湖南広域行政組合
- 株式会社ジェイ・エス・ビー
- 株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド　ザ・プリンス 京都宝ヶ池
- 株式会社セントラル・フルーツ
- 株式会社トロワ
- ニシムラ株式会社
- 日新信用金庫
- 東近江市役所
- 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
- 株式会社平和堂
- 株式会社モリタ製作所
- NPO法人雪浦あんばんね
- 株式会社ロマンライフ
- 社会福祉法人わたぼうしの会

【グローバル：2社】

- 一般財団法人大阪教育文化振興財団
- 株式会社チクマ

【経済同友会：7社】

- 株式会社ADEKA
- サントリーホールディングス株式会社
- 株式会社三井住友銀行
- オイシックス・ラ・大地株式会社
- 第一生命保険株式会社
- 日本マクドナルド株式会社
- 株式会社ユー・エム・アイ

2024年度受入企業・団体実績（敬称略 50音順）

【ベーシック：32社・団体】

- アート引越センター株式会社
- いちよし証券株式会社
- 英和株式会社
- ＳＭＢＣ日興証券株式会社
- エバオン株式会社
- 株式会社OVO
- 株式会社京都製作所
- 湖南広域消防局
- 株式会社ジョーニシ
- 株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド びわ湖大津プリンスホテル
- 枚方市
- 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
- 松原市役所
- ヤナセ製油株式会社
- 株式会社ロマンライフ
- 株式会社アウルコーポレーション
- 株式会社内田洋行
- 株式会社エコ・プラン
- 株式会社エスワイシステム
- 近江八幡市役所
- 京都生活協同組合
- 株式会社熊谷組
- 剤盛堂薬品株式会社
- 株式会社スタジオアリス
- センコー株式会社
- 株式会社セントラルフルーツ
- 日新信用金庫
- 株式会社フジタ
- フルタニ産業株式会社
- 株式会社平和堂
- 森トラスト・ホテルズ＆リゾーツ株式会社 琵琶湖マリオットホテル
- 株式会社 遊文舎

【グローバル：5社】

- エバオン株式会社
- 株式会社JALナビア
- 株式会社ナベル
- 三共生興株式会社
- 株式会社チクマ

【経済同友会：8 社】

- イオン株式会社
- 双日株式会社
- 野村證券株式会社
- みずほ証券株式会社
- コニカミノルタ株式会社
- 第一生命保険株式会社
- 東日本旅客鉄道株式会社
- 株式会社ユー・エム・アイ

Copyright © RYUKOKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.

資料１０

RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム（キャリア実習・実習指導）受入先一覧

No.	企業・団体名	受入予定人数
1	NPO法人雪浦あんばんね	2
2	ＳＭＢＣ日興証券株式会社	3
3	アート引越センター株式会社	2
4	イーデーエム株式会社	5
5	エバオン株式会社	3
6	シミズ薬品株式会社	3
7	センコー株式会社	5
8	トヨタモビリティ滋賀株式会社	5
9	ナビオコンピュータ株式会社	1
10	パナソニックエイジフリー株式会社	4
11	フルタニ産業株式会社	8
12	マルホ発條工業株式会社	1
13	ヤナセ製油株式会社	1
14	ワタキューセイモア株式会社	1
15	安全索道株式会社	2
16	一般財団法人休暇村協会	2
17	一般財団法人大阪教育文化振興財団	1
18	一般財団法人日本老人福祉財団　京都ゆうゆうの里	2
19	影近設備工業株式会社	1
20	英和株式会社	2
21	学校法人龍谷大学　龍谷大学付属平安高等学校・中学校	1
22	株式会社OVO	2
23	株式会社ＺＴＶ	2
24	株式会社アイビ建築	4
25	株式会社アウルコーポレーション	2
26	株式会社イシダ	5
27	株式会社エービーシー商会	1
28	株式会社エコ・プラン	4
29	株式会社エスワイシステム	3
30	株式会社キャットアイ	5
31	株式会社きんでん	1
32	株式会社クラックスシステム	2
33	株式会社サカイ引越センター	3
34	株式会社ジェイ・エス・ビー	1
35	株式会社スーパー・コート	5
36	株式会社スタジオアリス	2
37	株式会社セントラル・フルーツ	1

No.	企業・団体名	受入予定人数
38	株式会社チクマ	4
39	株式会社ディーアクト	5
40	株式会社ジョーニシ	2
41	株式会社パンテック	2
42	株式会社ピューズ	5
43	株式会社ホンダモビリティ近畿	1
44	株式会社マツシマホールディングス	1
45	株式会社モリタ製作所	5
46	株式会社ヤマダヤ	2
47	株式会社レイマック	2
48	株式会社ロマンライフ	2
49	株式会社花浄院	5
50	株式会社関西マツダ	2
51	株式会社京滋マツダ	2
52	株式会社京都製作所	3
53	株式会社滋賀トヨタ	3
54	株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド　ザ・プリンス 京都宝ヶ池	1
55	株式会社塚腰運送	2
56	株式会社日興商会	1
57	株式会社平和堂	5
58	株式会社遊文舎	1
59	京都三菱自動車販売株式会社	2
60	株式会社タカキュー	1
61	湖南広域行政組合	4
62	公益財団法人京都府公園公社	2
63	株式会社トロワ	5
64	協和テクノロジィズ株式会社	5
65	三共精機株式会社	4
66	社会福祉法人みささぎ会	2
67	社会福祉法人わたぼうしの会	3
68	社会福祉法人京都福祉サービス協会	5
69	社会福祉法人京都老人福祉協会	3
70	松原市役所	1
71	象印ファクトリー・ジャパン株式会社	1
72	森合精機株式会社	2
73	神戸トヨペット株式会社	2
74	杉本商事株式会社	1
75	生活協同組合コープしが	2
76	大阪トヨペット株式会社	1
77	大阪信用金庫	4
78	大塚産業マテリアル株式会社	2
79	大和電設工業株式会社	1
80	公成建設株式会社	1
81	長浜キヤノン株式会社	3

No.	企業・団体名	受入予定人数
82	特定非営利活動法人ひらかた環境ネットワーク会議	3
83	奈良トヨタ株式会社	2
84	東近江市役所	1
85	日新信用金庫	1
86	日本オーチス・エレベータ株式会社	2
87	日本メンテナスエンジニヤリング株式会社	1
88	富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社	1
89	高見株式会社（ＴＡＫＡＭＩ　ＢＲＩＤＡＬ）	1
90	日工電子工業株式会社	1
91	矢崎化工株式会社	1
92	由利ロール株式会社	3
93	西尾レントオール株式会社	1
94	福井県民生活協同組合	5
	合計：	234

資料１１

■教育研究組織の編制原理

＜龍谷大学の教育研究組織の編制原理＞

本学は「浄土真宗の精神」を「建学の精神」とし、「龍谷大学学則」第１章第１条において「本学は教育基本法及び学校教育法にしたがい，浄土真宗の精神に基づく大学として，広く知識を授けるとともに，深く専門の諸学科を教授研究し，併せて有為の人材を養成することを目的とする」と定めている。また、「龍谷大学大学院学則」第１章第１条において「本学大学院は，人文，社会及び自然に関する学術の理論及び応用を教授研究しその深奥を究めること，又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことをもって，文化の進展に寄与することを目的とする」と定めている。

本学は、この目的を達成するために、教育研究組織を以下の方針等に基づき編制している。

教育組織は、「龍谷大学の教育理念・目的」を実現するために、「学部・研究科の「教育理念・目的」と３つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」及び「学生支援の方針」（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」「留学生支援の方針」「障がい学生支援の方針」）に基づき、10 学部・11 研究科を編制している。

研究組織は、「龍谷大学研究活動に関する指針」と「研究支援の方針」に基づき、人間・科学・宗教総合研究センターと世界仏教文化研究センター及び 4 つの付置研究所等を編制している。

上記の教育研究組織の環境整備は、「教育研究等に係る施設設備に関する整備方針」に基づき実施している。

資料１２

■求める教員像と教員組織の編成方針

＜龍谷大学の求める教員像と教員組織の編成方針＞

建学の精神を具現化し、教育理念・目的を実現するために、本学の求める教員像と教員組織の編成方針を以下のとおり定める。

本学は、「建学の精神を尊重するとともに、教育活動を始めとする業務に意欲的に取り組む意志を有する者」を求める教員像とする。

また、「龍谷大学の教育理念・目的」を実現するために、「学部・研究科の「教育理念・目的」と３つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」及び「学生支援の方針」（「学生支援の方針」（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」「留学生支援の方針」「障がい学生支援の方針」））に基づき、「教育職員選考基準」と各学部等が定める教員人事に関する規程に則り、教員組織を編成する。

資料１３

○教育職員選考基準（抜粋）

平成６年３月 10 日

第１章　通則
（目的）
第１条　専任教育職員（以下「専任教員」という。）の採用及び昇任の選考は，この基準によって行う。
（運用上の原則）
第２条　本基準は，全学的に定める標準基準であり，運用にあたっては，各学部の事情を考慮しつつすすめることとする。
（選考の原則）
第３条　第１条の選考は，人格，経歴及び教育・研究・社会的業績等を総合的に考慮して行う。
（採用及び昇任の基準）
第４条　教授の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
(1) 博士の学位を有し，研究上の業績を有する者
(2) 大学卒業後14年以上，大学における研究歴又は教育歴を有する者
(3) 前２号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
(4) 専攻分野について，教育上，研究上又は実務上の特に優れた知識，能力及び実績を有する者
２　准教授の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
(1) 大学卒業後５年以上，大学における研究歴又は教育歴を有する者
(2) 前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
(3) 修士の学位を有する者
(4) 専攻分野について，教育上，研究上又は実務上の優れた知識，能力及び実績を有する者
３　講師の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
(1) 修士の学位を有する者又は大学卒業後２年以上の研究歴を有する者
(2) 前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
(3) その他特殊な専攻分野について教育上，研究上又は実務上の知識及び能力を有する者
４　助教の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
(1) 修士の学位を有する者又は大学卒業後２年以上の研究歴を有する者
(2) 前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
(3) 専攻分野について教育上，研究上又は実務上の知識及び能力を有する者
５　助手の選考は，次の各号のいずれかに該当する者を対象として行う。
(1) 学士の学位を有する者
(2) 前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
６　各学部は，第２条の趣旨にのっとり，前５項各号の基準を標準として，選考に関して別に定めることができる。

第5条～第22条　　（省略）

資料１４

○職員定年規程

昭和 54 年 2 月 9 日

第1条　この規程は,「学校法人龍谷大学就業規則」第40条に基づき，本学専任職員の定年について規定する。
第2条　教育職員の定年は，教授については満68歳とし，准教授・講師・助教・助手については満65歳とする。
2　事務職員の定年は，満65歳とする。
第3条　定年による退職期日は，定年に達した当該年度末とする。
第4条　退職手当の支給については，別に定める。

付　則
1　この規程は，昭和54年4月1日から施行する。ただし，将来の情勢の推移を考慮して，施行の年度から10年以内に再検討するものとする。
2　「文学部・短期大学部教育職員停年規程」及び「事務職員停年規程」は廃止する。

付　則(昭和62年5月19日第2条第2項，第3項改正・追加)
この規程は，昭和62年5月19日から施行する。

付　則(昭和63年1月13日第2条改正)
この規程は，昭和63年1月13日から施行する。

付　則(平成4年1月16日題名改正)
この規程は，平成4年1月16日から施行する。
＜参考＞
(評議会議事録に次の事項を記載する)
龍谷大学職員定年規程の一部を改正する規程(制定昭和62年5月19日)に規定する「教育研究上の特別な事情」とは，新学部の設置を意味するものとする。また，第2条第2項は，昭和70年3月31日に廃止するものとする。

付　則(平成16年3月25日第2条改正)
この規程は，平成16年3月25日から施行する。

付　則(平成19年2月22日第2条改正)
この規程は，平成19年4月1日から施行する。

資料１５

○龍谷大学研究活動に関する指針

平成 25 年 6 月 6 日

龍谷大学は，建学の精神の具現化を通して，心豊かな人間を育成するとともに，学術文化の振興や豊かな社会づくり，世界の平和と発展に貢献することを使命としている。

ついては，下記のとおり本学の研究者の研究活動に関する指針を定めることにより，本学の研究活動を適正かつ円滑に遂行し，社会からの信頼を確保・維持する。

記

（定義）
1 研究者とは，本学において研究活動に従事するすべての者をいう。

（責務）
2 研究者は，自らが生み出す専門知識や技術の質を確保するとともに新たな知見を創造し，これらの成果を広く社会に提供することにより，社会の発展に寄与するように努める。

（法令等の遵守）
3 研究者は，関係する法令，本学の諸規程，学会等の指針を遵守して，研究活動を行い，研究費の適正な執行に努める。

（公正性）
4 研究者は，研究の遂行及び成果の発表や特許出願等においては，捏造，改ざん，盗用等，研究者としての倫理に反する行為は行わない。

（個人情報の保護）
5 研究者は，研究活動に関わって収集した個人情報を含む資料等の管理に万全を期すとともに，研究遂行上知り得た個人情報を本人の同意なしに他に漏らさない。

（研究環境の維持）
6 研究者は，人権の尊重と相互信頼に努め，快適に研究活動できる環境を維持するよう努める。

（研究対象等への配慮）
7 研究者は，研究への協力者の人格，人権を尊重し，福利に配慮する。動物等に対しては，建学の精神を踏まえ真摯な態度でこれを扱う。

（安全への配慮）
8 研究者は，研究活動を行う上で，事故等が発生しないよう安全の配慮に努める。

（利益相反）
9 研究者は，本学における研究者としての責務と，個人的な利益，あるいは本学以外の組織に対する責務との衝突・相反に十分に留意し，利益相反による弊害が生じないよう努める。

以　上

資料１６

○研究員規程

平成元年2月23日

（目的）

第１条　この規程は，学問水準の向上及び教育の充実発展を計るため，一定期間研究に専念する教育職員（以下「研究員」という。）について，必要な事項を定めることを目的とする。

（研究員の種類）

第２条　研究員の種類は，次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　国外研究員及び国内研究員　国外・国内の大学等において研究調査に専念する者

(2)　短期国外研究員及び短期国内研究員　国外・国内の大学等において研究調査に専念する者

(3)　特別研究員　研究調査又は研修に専念する者

(4)　交換研究員　外国の大学又は研究機関との協定に基づき，研究者を相互に交換することにより，学術の国際的交流の推進を計る目的で派遣する者

２　交換研究員については，外国の大学又は研究機関との協定書に基づき実施する。

（研究期間）

第３条　研究員として発令を受ける期間（以下「研究期間」という。）は，次の各号に定めるとおりとする。

(1)　国外研究員及び国内研究員　６カ月間以上１年以内

(2)　短期国外研究員及び短期国内研究員　１カ月以上６カ月未満

(3)　特別研究員　６カ月間以上１年以内

２　国外研究員及び短期国外研究員については，原則として，研究期間中の一時帰国は認めない。ただし，学長がやむを得ない事情により一時帰国が必要であると認めた場合は，この限りではない。

（研究員の数）

第４条　各種研究員の数は，別表１に掲げるとおりとし，「基盤枠」「特別枠」「全学枠」に分けて運用する。

２　基盤枠とは，一定の期間ごとに各学部に割り当てられた研究員数のことをいう。

３　特別枠とは，学科，課程増等による学部教員数の大幅な変動による学部間格差を解消

するため，長期又は短期の国内外研究員について，基盤枠に加算し各学部に割り当てられた研究員数のことをいう。

４　全学枠とは，基盤枠及び特別枠とは別に，本学における研究を推進させることを目的とし，全学から募集する研究員数のことをいう。

５　各学部における研究員種類ごとの基盤枠の人数について，別表３の交換比率に基づき，交換することができるものとする。

（各年度の研究員数の決定）

第４条の２　年度毎の基盤枠及び特別枠の研究員数については，教育課程に支障をきたさないことを条件とし，各学部教授会（以下「教授会」という。）で決定するものとする。ただし，別表１の定める期間内の研究員数を超えてはならない。

２　年度毎の全学枠の研究員数については，原則４名とする。

（研究員資格）

第５条　研究員となることができる者は，次の各号に定めるとおりとする。ただし，全学枠を利用し研究員となる者は，この限りではない。

(1)　国外研究員及び国内研究員　本学の専任教育職員として３年以上通常勤務した者又は特別研究員終了後４年を経過した者。

(2)　短期国外研究員及び短期国内研究員　本学の専任教育職員又は特別任用教員（任用期間の定めのない者）として３年以上通常勤務した者。

(3)　特別研究員　本学の専任教育職員として10年以上勤務した者。

２　前項の規定にかかわらず既に研究員の経験がある者で，第12条に規定する研究員の義務を履行していない場合は，原則として研究員に応募することはできない。

３　第１項の規定にかかわらず，龍谷ミュージアムに所属する教育職員Aは，全学枠の短期国外研究員及び短期国内研究員となることができる。

（基盤枠及び特別枠の研究員数の報告）

第５条の２　教授会は，別に定める期日までに，次年度の基盤枠及び特別枠の研究員数を決定し，研究部に報告しなければならない。

（研究員の募集）

第６条　研究員の募集は，前条の報告を受け，全学研究運営会議（以下「運営会議」という。）の審議・決定に基づき，研究部が行う。

（研究員の申請）

第７条　研究員となることを希望する者は，所定の様式により研究計画書を添付して，教

授会の議を経て学長に申請するものとする。

（研究員の決定）

第８条　前条の申請を受けた学長は，運営会議に諮って研究員を決定する。

（旅費及び教育研究費の支給）

第９条　研究員には，旅費（別表２に定める支給基準により支給）及び教育研究費を支給する。ただし，特別研究員の旅費及び第10条の規定によって研究期間の延長を受けた者の当該延長期間にかかる旅費は，支給しない。

（研究期間の延長）

第10条　研究員（短期国外研究員及び短期国内研究員，特別研究員を除く。）は，その目的達成のために特別な必要がある場合は，所属の学部長を通じて学長あてに研究期間の延長を願出ることができる。

２　前項の願出は，申請した研究期間終了時までに，所定の書式によりその理由を証する書類等を付して行うものとする。

（期間延長の決定）

第11条　前条の願い出を受けた学部長は，教授会に諮って研究期間延長の可否についての意見（教学に対する手だて等を含めた）を付して，学長に上申するものとする。

２　前項の上申を受けた学長は，運営会議の議を経て，研究期間延長の可否を決定する。

（研究員の義務）

第12条　研究員は，研究期間の終了後，研究期間の２倍に相当する期間は本学に勤務し，研究成果を教育研究に還元するものとする。

２　研究員は,研究期間終了後６カ月以内に研究経過報告書を学長に提出するものとする。

３　研究員は，研究期間終了後１年以内に研究成果報告会，２年以内に著書又は学術雑誌等により，研究成果を公表するものとする。

４　研究員が前２項に定める期限よりも前に退職する場合は，退職日をその期限とする。

（取消し）

第13条　学長は，研究員が病気その他の事由により，研究員としての目的を達成することができないと認める場合は，運営会議の議により，当該研究員に対して研究員の取消しをすることができる。

（旅費等の返還）

第14条　研究員は，前条の規定により研究員を取消された場合は，研究期間の残余に相当する旅費及び教育研究費を返還しなければならない。

２　学長は第12条に規定する研究員の義務のいずれかに違反した者に対し，すでに支給した旅費及び教育研究費の全部の返還を求めることができる。

３　研究員が研究期間の途中で自己都合により退職する場合は，すでに支給を受けた旅費及び教育研究費の全額を返還するものとする。

（旅費の返還免除等）

第15条　前条の規定により旅費の返還義務を負う研究員の所属する教授会は，特別な事情があると認めるときは，その事情を付して学長に対して返還すべき旅費の一部又は全部の返還免除を願出ることができる。

２　前項の願出を受けた学長は，運営会議に諮って返還免除の可否又は返還を免除する金額を決定する。

（ミュージアム教員に関する事項）

第15条の２　龍谷ミュージアムに所属する教育職員Aにあっては，第７条及び前条中「教授会」とあるのは「龍谷ミュージアム会議」と読み替えるものとする。

（細則）

第16条　この規程の施行に必要な細則は，運営会議の議を経て学長が定める。

（事務処理）

第17条　この規程に伴う事務処理は，研究部が行う。

付　則

１　この規程は，平成元年４月１日から施行する。

２　この規程の施行に伴い，研究員規程（昭和61年５月20日施行）は，廃止する。

３　この規程施行の日において，従前の研究員規程により研究員を命じられている者は，なお従前の規程による。

付　則（平成６年３月17日第２条，第３条，第５条～第７条，第９条～第12条，別表２改正）

１　この規程は，平成６年４月１日から施行する。

２　この規程の施行に伴い，短期国外研究員規程（平成５年４月１日施行）は廃止する。

３　この規程施行の日において，従前の研究員規程により研究員を命じられている者は，なお従前の規程による。

付　則（平成６年５月19日第４条，別表１改正）

この規程は，平成６年４月１日から施行する。

付　則（平成７年７月27日別表１改正）

この規程は，平成７年７月27日から施行する。

付　則（平成８年７月25日別表１改正）

この規程は，平成８年４月１日から施行する。

付　則（平成11年１月21日別表２改正）

この規程は，平成11年４月１日から施行する。

付　則（平成11年11月25日別表１改正）

この規程は，平成12年４月１日から施行する。

付　則（平成12年４月20日第２条改正）

この規程は，平成12年４月１日から施行する。

付　則（抄）（平成13年９月27日第６条，第17条改正）

１　この規程は，平成13年４月１日から施行する。

付　則（平成15年７月24日別表１改正）

この規程は，平成16年４月１日から施行する。

付　則（平成16年３月25日第６条，第８条，第11条，第13条，第15条～第17条改正）

この規程は，平成16年４月１日から施行する。

付　則（平成17年１月13日第４条～第６条，別表１改正，第４条の２，第５条の２新設）

１　この規程は，平成17年４月１日から施行する。

２　前項の規定にかかわらず，平成17・18年度の研究員の募集等については，なお従前の例による。

３　平成19年度以降の研究員数の割当については，３年毎に見直すこととする。

付　則（平成19年５月17日第５条，第５条の２，第12条，第14条改正）

この規程は，平成19年４月１日から施行し，平成20年度研究員に申請する者から適用する。

付　則（平成23年３月24日第３条，別表１改正）

この規程は，平成23年４月１日から施行する。

付　則（平成28年３月10日第４条，別表１改正，別表３新設）

１　この規程は，平成29年４月１日から施行する。

２　別表１の国際文化学部から国際学部への学部名称の改正規定については，平成27年４月１日から適用する。

付　則（平成29年３月22日別表１改正）

この規程は，平成29年４月１日から施行する。

付　則（令和２年２月27日第４条，別表１改正）

この規程は，令和２年４月１日から施行する。

付　則（令和２年３月５日別表２改正）

この規程は，令和２年４月１日から施行する。

付　則（令和３年２月25日第１条，第３条～第５条，第12条，別表１改正）

１　この規程は，令和３年４月１日から施行する。

２　前項の規定にかかわらず，第１条及び第５条を除く改正規定は，令和４年度の研究員から適用し，令和３年度以前の研究員は，なお従前の例による。

付　則（令和５年６月22日別表１改正）

この規程は，制定日（令和５年６月22日）から施行し，令和５年４月１日から適用する。

付　則（令和６年２月22日第５条，第７条改正）

この規程は，令和６年４月１日から施行し，令和９年度研究員から適用する。

付　則（令和７年３月13日第１条，第５条改正，第15条の２新設）

この規程は，令和７年４月１日から施行し，令和９年度研究員から適用する。

別表１　年度別研究員数表（第４条関係）

（単位：人）

学部	研究員種類	令和4年度～令和8年度合計			
		基盤枠	特別枠	小計	全学枠
文学部	国外研究員及び国内研究員	10	0	19	20
	短期国外研究員及び短期国内研究員	9			
	特別研究員	8	—	8	
	小計	27	0	27	
経済学部	国外研究員及び国内研究員	8	0	14	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	6			
	特別研究員	6	—	6	
	小計	20	0	20	
経営学部	国外研究員及び国内研究員	5	0	9	
	短期国外研究員及び短期国内研究	4			

	員				
	特別研究員	4	―	4	
	小計	13	0	13	
法学部	国外研究員及び国内研究員	8	0	15	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	7			
	特別研究員	6	―	6	
	小計	21	0	21	
社会学部	国外研究員及び国内研究員	7	0	13	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	6			
	特別研究員	6	―	6	
	小計	19	0	19	
政策学部	国外研究員及び国内研究員	4	1	9	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	4			
	特別研究員	3	―	3	
	小計	11	1	12	
国際学部	国外研究員及び国内研究員	6	0	11	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	5			
	特別研究員	5	―	5	
	小計	16	0	16	
農学部	国外研究員及び国内研究員	7	2	15	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	6			
	特別研究員	6	―	6	
	小計	19	2	21	
先端理工学部	国外研究員及び国内研究員	14	0	26	
	短期国外研究員及び短期国内研究	12			

	員				
	特別研究員	11	―	11	
	小計	37	0	37	
心理学部	国外研究員及び国内研究員	2	0	4	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	2			
	特別研究員	2	―	2	
	小計	6	0	6	
短期大学部	国外研究員及び国内研究員	2	0	4	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	2			
	特別研究員	2	―	2	
	小計	6	0	6	
全学合計	国外研究員及び国内研究員	73	3	139	20
	短期国外研究員及び短期国内研究員	63			
	特別研究員	59	―	59	
	合計	195	3	198	20
	総計	―	―		218

① 令和４年度～令和８年度の研究員数については本表に従う。

② 基盤枠・特別枠の研究員は５年間で総数管理し，５年間の範囲内では学部の実情に応じて研究員の人数調整が出来る等の柔軟な実施を行うことが出来る。

別表２　研究員の旅費及び教育研究費の支給基準表

研究員の種類	支給基準	支給額
国外研究員	旅費及び教育研究費を海外出張旅費規程等により計算	総額300万円を上限とする
国内研究員	旅費及び教育研究費を国内出張旅費規程等により計算	総額100万円を上限とする
短期国外研究員	旅費，日当及び宿泊費を海外出張旅費規程により計算	総額180万円を上限とする

短期国内研究員	旅費，日当及び宿泊費を国内出張旅費規程により計算	総額20万円を上限とする

別表３　研究員種類を跨いだ数の交換（第４条関係）

交換方法	交換比率
国外研究員及び国内研究員を短期国外研究員及び短期国内研究員に交換	国外研究員及び国内研究員1名　→　短期国外研究員及び短期国内研究員2名
短期国外研究員及び短期国内研究員を国外研究員及び国内研究員に交換	短期国外研究員及び短期国内研究員3名　→　国外研究員及び国内研究員1名
特別研究員を短期国外研究員及び短期国内研究員に交換	特別研究員1名　→　短期国外研究員及び短期国内研究員1名
短期国外研究員及び短期国内研究員を特別研究員に交換	短期国外研究員及び短期国内研究員2名　→　特別研究員1名
国外研究員及び国内研究員を特別研究員に交換	国外研究員及び国内研究員1名　→　特別研究員2名
特別研究員を国外研究員及び国内研究員に交換	特別研究員3名　→　国外研究員及び国内研究員1名
短期国外研究員及び短期国内研究員と特別研究員を合わせて国外研究員及び国内研究員に交換	短期国外研究員及び短期国内研究員と特別研究員合計3名　→　国外研究員及び国内研究員1名

資料１７

○研究支援の方針

平成27年2月26日

総合大学としての多様性と学際性を生かし、伝統と地域を基盤にした特色ある研究や国際水準の強みのある研究などに取り組み、国際的な学術文化の向上と科学技術の振興、地域社会の発展に寄与するために、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

・強みのある研究と特色のある研究の推進 本学の強みや特色のある研究分野について、学内に研究拠点を設け、次世代の研究者の養成や研究環境の整備等を推進・支援する。

・研究者への支援充実 本学研究者が研究をより一層推進できる体制を確保するとともに、個人研究や共同研究など各分野における基盤的研究の強化を図るために、各付置研究所等の研究活動を推進・支援する。

・外部資金獲得支援体制の充実 外部資金の獲得を研究者個人の努力だけに任せるのではなく、組織的に支援する。

・社会への発信力強化 研究成果や研究活動内容の広報活動を活発に行い、本学の研究に対する社会的評価を向上させる

資料１８

学術雑誌等一覧

No	タイトル等	和洋区分
1	GIS : 理論と応用 = Theory and applications of GIS / 地理情報システム学会 [編]. -- Vol. 1 (Mar. 1993)-. -- 地理情報システム学会, 1993.	和
2	コンピュータソフトウェア / 日本ソフトウェア科学会編集. -- 1巻1号 (Apr. 1984)-. -- 岩波書店, 1984.	和
3	ヒューマンインタフェース学会研究報告集 : correspondences on human interface / ヒューマンインタフェース学会 [編]. -- [CD-ROM版]. -- Vol. 12 (2010)-. -- ヒューマンインタフェース学会, 2010. w.	和
4	ヒューマンインタフェース学会誌 = Journal of Human Interface Society : human interface. -- 1巻1号 (1999)-. -- ヒューマンインタフェース学会, 1999.	和
5	ヒューマンインタフェース学会論文誌 / ヒューマンインタフェース学会 [編] = Paper of Human Interface Society / Human Interface Society. -- [CD-ROM版]. -- Vol. 14, no. 1 (2012)-. -- ヒューマンインタフェース学会, 2012. w.	和
6	映像情報メディア学会誌 : 映像情報メディア = The journal of the Institute of Image Information and Television Engineers. -- Vol. 51, no. 1 (1997. 1)- = 通巻581号 (1997.1)-. -- 映像情報メディア学会, 1997.	和
7	音楽知覚認知研究 / 日本音楽知覚認知学会. -- 1巻(1995)-. -- 日本音楽知覚認知学会, 1995.	和
8	画像電子学会誌 = The journal of the Institute of Image Electronics Engineers of Japan. -- [CD-ROM版]. -- 41巻1号 (平24.1)-. -- 画像電子学会, 2012. w.	和
9	自然言語処理 / 言語処理学会 [編集] = Journal of natural language processing / the Association for Natural Language Processing. -- 1巻1号 (1994.10)-27巻4号 (2020.12). -- 言語処理学会, 1994.	和
10	写真測量とリモートセンシング / 日本写真測量学会. -- 14巻1号 (昭50.4)-. -- 日本写真測量学会, 197-.	和
11	社会心理学研究 = Research in social psychology. -- 1巻1号 (1985.10)-. -- 日本社会心理学会, 1985.	和
12	情報考古学 : 日本情報考古学会誌 / 日本情報考古学会 [編集]. -- 1巻1号 (1995.3)-. -- 日本情報考古学会, 1996.	和
13	情報処理 / 情報処理学会 [編] = / Information Processing Society of Japan. -- Vol. 1, no. 1 (1960.7)-. -- オーム社, 1960.	和
14	情報処理学会研究報告 / 情報処理学会. -- [CD-ROM ed.]. -- 平成21年度1 (平21)-. -- 情報処理学会, 2009. w.	和
15	情報処理学会論文誌トランザクション / 情報処理学会 [編]. -- CD-ROM版. -- 平成20年度1 (平20)-. -- 情報処理学会, 2008. w.	和
16	人工知能 : journal of the Japanese Society for Artificial Intelligence / 人工知能学会 [編]. -- 29巻1号 (2014.1)- = 通巻163号 (2014.1)-. -- 人工知能学会, 2014.	和
17	通訳翻訳研究 = Interpreting and translation studies : the journal of the Japan Association for Interpreting and Translation Studies / 日本通訳翻訳学会 [編]. -- 8号 (2008)- = 通巻9号 (2008)-. -- 日本通訳翻訳学会, 2009.	和
18	電子情報通信学会技術研究報告. ET, 教育工学 / 電子情報通信学会 [編集]. -- ET86-12 ([19]87)-ET99-95～122 ([19]99) ; ET2000-1～5 (2000)-. -- 電子情報通信学会, 1987.	和
19	日経ソフトウエア = Nikkei software. -- 日経BP社, 199-.	和
20	日本バーチャルリアリティ学会誌 / 日本バーチャルリアリティ学会 [編] = Journal of the Virtual Reality Society of Japan / Virtual Reality Society of Japan. -- 1巻 (Dec. 1996)-. -- 日本バーチャルリアリティ学会事務局, 1996.	和
21	日本音響学会誌 / 日本音響学会 [編]. -- 1輯1号 (昭14.8)-. -- 日本音響学会, 193-.	和
22	日本音響学会誌 : The journal of the Acoustical Society of Japan. -- CD-ROM. -- 67巻1号 (2011)-. -- 日本音響学会, 2012. w.	和
23	日本色彩学会誌 / 日本色彩学会. -- 1巻1号 (昭47.9)-, 197-.	和

24	Complex systems. -- Vol. 1, no. 1 (Feb. 1987)-. -- Complex Systems Publications, 1987.	洋
25	IIEEJ transactions on image electronics and visual computing. -- [CD-ROM ed.]. -- Vol. 1, no. 1 (2013)-. -- Institute of Image Electronics Engineers of Japan, 2013. w.	洋
26	Psychomusicology : a journal of music cognition / the Psychomusicology Society. -- Vol. 1, no. 1 (spring 1981)-, 1981.	洋

龍谷大学 情報学部

情報学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

令和８（2026）年４月

－ 目 次 －

（１） 新設組織の概要 3

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）
②新設組織の特色

（２）人材需要の社会的な動向等..... 4

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析
②中長期的な１８歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析
③新設組織の主な学生募集地域
④既設組織の定員充足の状況

（３）学生確保の見通し等..... 7

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果
　ア　既設組織における取組とその目標
　イ　新設組織における取組とその目標
　ウ　当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数
②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）
　ア　競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性
　イ　競合校の入学志願動向等
　ウ　新設組織において定員を充足できる根拠等
　エ　学生納付金等の金額設定の理由
③先行事例分析
④学生確保に関するアンケート調査
⑤人材需要に関するアンケート調査

（４）新設組織の定員設定の理由..... 17

（１）新設組織の概要

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

本学は、既設の先端理工学部知能情報メディア課程を基礎に、令和 9（2027）年 4 月に「情報学部情報学科」の設置をめざしている。

新設組織	入学定員	3 年次 編入学定員	収容定員	所在地 （教育研究を行うキャンパス）
龍谷大学 情報学部情報学科	130 名	3 名	526 名	滋賀県大津市 瀬田大江町横谷 1-5

②新設組織の特色

新設組織では、本学の建学の精神に基づいて、情報技術と人、社会、自然との調和を重視し、幅広い教養と情報学の基礎知識・技能を修得することで、実践的な専門家として情報社会の発展に寄与し、新しい社会の創造にも積極的に携わる情報技術者を育成する。

新設組織の教育課程の大きな特色は、情報技術の基礎から応用に至るまでを幅広く学ぶことができることにある。そのために情報学科の 1 学科制とし、学科の中に 3 つの専攻（情報メディア専攻、知能情報システム専攻、実践データサイエンス専攻）を設け、学生が学びをイメージしやすく、それぞれの志向性に応じた系統的な履修を可能としている。学生は選択した専攻に応じた科目を主としつつも、専攻区分を問わずに他の専攻科目も履修することができ、自専攻の学びを軸にしながら、多様な領域の技術や課題解決方法を身につけることで、専門領域における常識にとらわれない柔軟な発想力を修得できる教学体制としている。また、低年次から研究室での研究体験を通して、学術研究の取組方法や面白さを知る実践型演習の「未来共創ラボ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」や卒業研究に必要な基礎技術等を修得する「ラボラトリーインターンシップ」を配置し、4 年次に学修の集大成として取り組む「卒業研究」と有機的に接続することで、実践力・応用力を備えた情報人材を育成する。

新設組織に関連する既設組織は、先端理工学部知能情報メディア課程であり、これらの入学定員等は次のとおりである。

新設組織と関連する 既設組織	入学定員	3 年次 編入学定員	収容定員	所在地 （教育研究を行うキャンパス）
龍谷大学 先端理工学部 知能情報メディア課程	103 名	2 名	416 名	滋賀県大津市 瀬田大江町横谷 1-5

情報学部の設置に伴い、先端理工学部知能情報メディア課程は令和 8（2026）年度入学生を最後として学生募集を停止し、在学生が 0 名となる年度に廃止する（最短で令和 11（2029）年度末を予定）。

（２）人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

新設組織が養成する人材の必要性は、国の政策、社会経済構造の変革、及び地域社会の喫緊の課題という三つの側面から、極めて高いものと考えている。

まず、全国的な動向として、内閣府の「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画」では Society5.0 を掲げ、「サイバー空間とフィジカル空間の融合による新たな価値創出」が目標とされている。この実現には、AI やデータサイエンスを駆使して社会的価値を創出できる人材の育成が不可欠であるが、経済産業省の調査によれば、2030（令和 12）年には IT 人材の不足が最大約 79 万人に達する見込みで、特に高度な情報技術やデータサイエンス分野の人材不足が深刻な課題とされている。情報技術の基礎から応用に至るまでを幅広く学ぶことができる新設組織の設置はこの要請に応えるものと考えている。

次に、社会的な動向を見ると、DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展に伴い、企業は情報技術者やデータサイエンティストを必要としているが、十分な人材が確保できない状況が続いている。この人材不足は日本の産業競争力に影響を与え、デジタル技術を活用した新しい価値の創造や革新を妨げる要因ともなり得える。そのため、教育機関における情報学分野の充実が社会的に強く求められており、企業ニーズに対応できる人材を育成することは、持続可能な経済成長と産業の競争力向上にとって重要な鍵となっている。新設組織においては、低年次から研究活動を体験する実践型演習を通じ、講義や演習で修得した理論・技術が実社会においていかに活用されるかを体験的に理解させることにより、実践力及び応用力を兼ね備えた人材を育成する。この取組は、現下の社会的要請に的確に応えるものであり、我が国の産業競争力の維持・強化に寄与するものと考えている。

地域的な動向においても、本学部が位置する滋賀県では「滋賀県 DX 推進戦略」において、「県民の暮らしを健康でより豊かにし、地域社会の持続的発展につながる新たな価値創造」、「誰一人取り残さない」、「安全・安心で人にやさしい」の三つの基本理念を大切にし、「豊かさ」や「幸せ」を実感できる持続可能な県づくりを目指し、地域全体の DX を推進している。また、基本構想「変わる滋賀 続く幸せ」においても、「人」、「社会」、「経済」及び「環境」の観点から政策の方向性を示し、成長市場・成長分野を意識した人材やデータサイエンティストなど県内産業の高度化を担う人材の育成について言及されている。このため、新設組織が輩出する人材に対する需要は地域的にも大きいと判断する。

これらを踏まえると、新設組織が養成する人材は、国の政策、社会経済構造の変革、及び地域社会の喫緊の課題解決に資する人材として高い需要と社会的な意義を有していると判

断する。

②中長期的な１８歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

学校基本調査を基にリクルート進学総研が分析した「18 歳人口予測」によれば、全国の 18 歳人口は、令和 9（2027）年の 109.6 万人から令和 18（2036）年の 95.2 万人へと約 14.4 万人程度減少する見込みとなっている。新設組織が立地する近畿圏は、同じく令和 9（2027）年の 18.0 万人から令和 18（2036）年の 15.4 万人へと、2.6 万人程度減少する見込みである。これは令和 9（2027）年を 100%とした場合、令和 18（2036）年は 85.7%となり、14.3%程度減少することになる（資料１参照）。

地域的動向について、同調査によると、近畿圏の大学進学率は平成 28（2016）年の 53.4%から令和 7（2025）年の 64.1%へと過去 10 年間で 10.7 ポイント上昇し、全体の大学進学率（全体の大学進学率は 10 年間で 9.9 ポイント上昇）を上回る上昇幅となっている（資料２参照）。同調査における過去 10 年間の地元残留率について、近畿圏は平成 28（2016）年の 45.8%から令和 7（2025）年の 48.7%へと増加傾向にあり、地元志向の高まりが窺える（資料３参照）。

これらの状況を踏まえ、人口減少は緩やかに進むものの、近畿圏は関東圏とともに、18 歳人口の規模が大きいエリアであり、大学進学率や、大学進学者の地元残留率の上昇に鑑みれば、新設組織の定員充足は可能であると考えている。

③新設組織の主な学生募集地域

新設組織の学生募集地域は、主として近畿圏を設定している。新設組織の基礎となる先端理工学部知能情報メディア課程の過去 5 年間の都道府県別入学者数において、最も多いのは滋賀県（全入学者数に占める割合は 44.4%）、次いで京都府（20.2%）、大阪府（11.1%）、兵庫県（4.0%）、奈良県（4.0%）の順となっている。入学者数の上位 5 府県はすべて近畿圏に位置し、この 5 府県で全入学者の約 83.8%を占めている（資料４参照）。

令和 7（2025）年度学校基本調査の「出身高校の所在地県別入学者数」から、新設組織が置かれる滋賀県の大学への入学状況を見ると、高校生が進学する上位 5 府県は、滋賀県、京都府、大阪府、愛知県、兵庫県の順で、近畿圏が主となっている（別紙１参照）。本学既設組織の入学実績と、滋賀県に位置する大学への高校生の入学実績において、上位の府県はほぼ重複していることから、新設組織の学生募集地域の設定は妥当といえる。

また、新設組織を設置するびわ湖大津キャンパス（2027 年度からキャンパス名称を変更。2026 年度までは瀬田キャンパス）は、滋賀県大津市に位置し、JR 東海道本線「石山駅（新快速停車駅）」、「瀬田駅」、京阪石山坂本線「京阪石山駅」からのアクセスが可能である。また、JR 東海道本線「大津駅（新快速停車駅）」や京阪本線「中書島駅」からは、キャンパス直通のバスを運行しており、大阪及び京都方面から通学する学生にとって更なる利便性の

向上を図っている。

滋賀県内には多数の公立・私立高校が存在しており、また、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県をはじめ岐阜県からの通学も可能であるなど、広範囲からの通学者を受入可能である。

また、新設組織が立地する「滋賀県における定員充足状況」及び新設組織の学問分野が含まれる「理・工学系学部の定員充足状況」について、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」を基に分析すると、安定して定員充足していることが確認できる（別紙１参照）。

④既設組織の定員充足の状況

本学は、10 学部（文学部、経済学部、経営学部、法学部、社会学部、政策学部、国際学部、農学部、理工学部（2027 年度に名称変更。2026 年度までは先端理工学部）、心理学部）及び 11 研究科を擁する総合大学である。

各学部等の過去 5 年間の志願者数（延べ人数）は、資料 5 のとおり、年々増加傾向にある。令和 6（2024）年度に 90,694 名であった大学全体の志願者数は、令和 7（2025）年度には 98,721 名と 8,027 名増加し（前年度比 108.9%）と多くの志願者数を確保した。

また、各学部等の過去 5 年間の入学定員充足率（平均）は、別紙２の２のとおり、先端理工学部環境科学課程が 0.86 倍、それ以外の学部等は 0.95 倍以上であることから、安定的な入学者数を維持しているといえる。

なお、令和 9（2027）年度に複数学部の入学定員、編入学定員及び収容定員を変更する計画である。文学部では、令和 9（2027）年度に真宗学科の学生募集を停止し、仏教学科及び歴史学科の収容定員を増員する。経済学部においても、令和 9（2027）年度に国際経済学科の学生募集を停止し、経済学科（2027 年度から学科名称変更）の収容定員を増員する計画である。経営学部では、商学科の収容定員を増やすことを計画している。なお、大学全体の収容定員に変更はない。

文学部、経済学部、経営学部ともに、過去 5 年間の志願者数は資料 5 のとおり安定的に確保できており、過去 5 年間の入学定員充足率（平均）も別紙２の２よりいずれの学部も 0.98 倍を上回る値であることから、上記の改組等により入学定員等を変更しても定員充足は十分に達成できると考えている。

＜変更前＞

学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	880	28	3,576
真宗学科	145	6	592
仏教学科	118	5	482
哲学科	148	4	600
歴史学科	267	9	1,086
日本語日本文学科	101	2	408
英語英米文学科	101	2	408
経済学部	600	12	2,424
現代経済学科	360	7	1,454
国際経済学科	240	5	970
経営学部	540	5	2,170
経営学科	380	3	1,526
商学科	160	2	644
（省略）			
龍谷大学　合計	**5,036**	**147**	**20,438**

＜変更後＞

学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	862	11	3,470
	0	0	0
仏教学科	210	3	846
哲学科	148	2	596
歴史学科	302	4	1,216
日本語日本文学科	101	1	406
英語英米文学科	101	1	406
経済学部	603	6	2,424
経済学科	603	6	2,424
	0	0	0
経営学部	559	5	2,246
経営学科	380	3	1,526
商学科	179	2	720
（省略）			
龍谷大学　合計	**5,069**	**81**	**20,438**

（３）学生確保の見通し等

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア　既設組織における取組とその目標

既設組織で実施している主な PR 活動は、「オープンキャンパスの実施」及び「大学案内誌の配布」が挙げられる。過去 2 年間の実績から、これらの効果を評価すると、オープンキャンパスに参加した受験対象者（約 225 名）の入学率は約 11.2%で平均入学者数は 25 名、大学案内誌を配布した受験対象者（約 628 名）の入学率は約 9.7%で平均入学者数は 61 名となっている（別紙３参照）。

さらに近年は、「公式アプリを活用した高校生への情報発信」を強化している。本アプリは、オープンキャンパス等のスケジュール管理機能や資料請求機能を備え、学部の学びや受験対策用の動画を視聴できるなど、高校生にとって利便性の高いツールとなっており、学生確保における重要性を増している。過去 2 年間の実績では、本アプリ登録者のうち受験対象者（約 265 名）の入学率は約 7.1%で平均入学者数は 17 名となっている（別紙３参照）。

一人の受験生が複数の PR 活動の対象となることがあるため、取組別の入学者数には一定の重複はあるものの、既設組織の入学定員充足状況は、別紙２の２のとおり安定しており、これらの PR 活動は学生確保において有効な取組であると評価できる。

イ　新設組織における取組とその目標

新設組織の学生募集のための PR 活動は、先述のとおり、既存組織における有効性の高い取組を中心に実施する方針である。具体的な PR 活動の実施計画・目標等は、次のとおりである。

〇早期からの PR 活動（志望層拡大に向けた取組）

令和 7（2025）年 3 月に、新設組織の構想内容に関する事業戦略発表会（記者発表）を開催し、これを皮切りに、構想内容等を記載したチラシを大学案内誌に同封し、オープンキャンパス等での配布及び資料請求者（年間約 97,000 件）への郵送をおこなうとともに、高校訪問時（年間約 480 校）に活用してきた。

令和 7（2025）年度に実施したオープンキャンパスでは、年間を通じて約 25,000 名の参加があったが、本学の取組を紹介するプログラム参加者に対し、新設組織の構想内容について情報提供をおこなった。

同年 10 月には新設組織の特設サイト（https://www.ryukoku.ac.jp/newf1/）を開設し、特色等の発信をスタートしている。特設サイトには教学内容に加え、オープンキャンパスの日程等も掲載し、また、大学案内誌請求フォームや公式アプリのダウンロードページへのリンクを掲載する等、情報入手の導線を充実させている。

さらに、令和 7（2025）年度には年間を通じて、近畿を中心に北陸、中国、四国、東海、九州在住の大学進学希望者のうち、情報学、理工学、社会学に関する学びを志望する高校生を対象に、構想内容等を掲載したダイレクトメールを延べ 699,000 通発送した。ダイレクトメールは、令和 8（2026）年度も同規模の送付を予定しており、多様な学問領域に関心の高い高校生に対し、継続的にアプローチする予定である。

また今後、地元滋賀・京都を中心に、主要な公共交通機関への広告出稿も予定しており、より多くの高校生へ新設組織をアピールしていく。

〇大学案内誌の配布について

令和 8（2026）年度は、大学案内誌に新設組織の構想内容について掲載し、過去 2 年間の実績を踏まえ、情報学部受験対象者約 800 名への配布を目標とする（別紙 3 参照）。オープンキャンパス等のイベントで配布するとともに、資料請求者への郵送をおこなう。また、近畿、北陸、中国・四国、東海、九州を対象とした高校訪問時（年間約 480 校）にも活用し、高校教員への情報提供に活用する。

〇オープンキャンパスの実施について

令和 8（2026）年度は、計 6 回（3/22・8/1・ 8/2・ 8/22・ 8/23・9/20）のオープンキャンパスを開催し、新設組織の紹介を行う予定である。年間を通じた情報学部受験対象者の参加は、過去 2 年間の実績（別紙 3）を踏まえ、少なくとも同程度となる約 400 名を目標とする。

すでに開催した 3/22 のオープンキャンパスでは、大学全体で約 3,855 名の参加があり、年 6 回で計 400 名の参加を目標とする中、3 月開催のみで約 130 名が情報学部紹介イベントに参加するなど、新設組織への期待値の高さが窺える結果となった。

〇公式アプリの活用について

公式アプリについては、過去 2 年間の実績を踏まえ、情報学部受験対象者約 400 名の登録を目標とし、新たな動画や受験対策コンテンツの追加（約 10 本）による機能充実を図り、学生確保に結び付けていく（別紙３参照）。オープンキャンパス等で公式アプリの利用案内をおこない、SNS での発信の際にはダウンロードページへのリンクを常設するなど、アプリの登録を促すための取組を強化する。

ウ　当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

中長期的に 18 歳人口の減少は進むものの、新設組織においては、早期からの志望層拡大に向けた PR 活動に加え、従来の理系志願者だけでなく、文系志願者の受験も期待でき、学生募集力の強化を見込むことができるため、取組ごとの受験対象者数は、少なくとも過去 2 年間の実績以上の確保を見込んでいる（別紙３を参照）。

令和 8（2026）年度に実施する主たる取組及び見込まれる入学者数は、次のとおりである。

〇大学案内誌の配布について

約 800 名の情報学部受験対象者への配布を目標とし、入学率約 9.7%から予想される入学者数は約 78 名（新設組織の入学定員 130 名の約 60%）を見込んでいる。

〇オープンキャンパスの実施について

約 400 名の情報学部志望者（受験対象者）の参加を目標とし、入学率約 11.2%から予想される入学者数は約 45 名（新設組織の入学定員 130 名のうち約 35%）を見込んでいる。

〇公式アプリの活用について

約 400 名の情報学部受験対象者の登録を目標とし、入学率約 7.1%から予想される入学者数は約 28 名（新設組織の入学定員 130 名の約 22%）を見込んでいる。

一人の受験生が複数の PR 活動の対象となることがあるため、取組別の入学者の見込み数には一定の重複はあるものの、学生確保の見通しは充分に立つと考える。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア　競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

新設組織の競合校として、京都産業大学情報理工学部情報理工学科及び京都橘大学工学部情報工学科を設定する。設定理由としては、学校種が同じであり、定員も同規模（入学定員は京都産業大学情報理工学部情報理工学科が 160 名、京都橘大学工学部情報工学科が 100 名）、学問分野も新設組織が基礎の一つとしている工学を対象としている点、所在地も同じ

近畿圏に立地し、主たる学生募集地域も重複する点が挙げられる。学力層は、河合塾「2026年度入試難易予想ランキング表（2026/1/21 更新版）」によると、偏差値帯 40.0～47.5 に位置付けられている。以上のことから類似性が高いと考える。

〇教育内容と方法

我が国の高等教育機関では、技術的知識やプログラミング技術の習得に重点が置かれる一方で、それらの知識を現実の問題に適用する力や社会的な文脈を理解する力の涵養については、十分とは言い難い状況にある。また、情報学分野の教育においては、産業界との連携や実務体験の機会が限定的であり、その結果、卒業生が即戦力として期待される水準に達しない要因の一つとなっている。

こうした状況を踏まえ、本学の新設組織では実践力・応用力を備えた技術者を養成することを主眼とし、低年次から研究を体験する「未来共創ラボ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を設置し、学生が早期に課題発見・解決のプロセスを理解する機会を提供する。また、産業界と連携した PBL 形式の科目である「総合演習」を通じ、システム開発やプロダクト制作に取り組むことで、社会への実装力を育む。これらの実践型演習は、単なる知識伝達にとどまらず、社会課題に対する実践的な解決能力を涵養する点において、優位性を有すると考える。さらに、産業界との協働により、最新技術動向や現場ニーズを教育に反映させることで、即戦力として活躍できる人材育成を実現する。

〇入試（競合校の受験時期、入学手続時期との関係）

受験時期に大きな違いはなく、いずれの大学も、一般選抜のほか、総合型選抜、学校推薦型選抜、専門学科・総合学科卒業生選抜等の機会を設定し、多様な入試方法の工夫がなされている。なお、本学は近畿圏の主要私立大学との併願を想定し、試験日の重複を避ける等の配慮により、受験生に多様な受験機会を提供できるよう設定している。入学手続時期に関しては、本学は一般選抜等一部の日程において、主に国公立大学の受験を予定している受験生の経済的負担軽減を目的に、入学手続の延納制度を設定しており、安定的な入学者確保を実現している。

〇学生納付金、奨学制度などの修学支援の内容

学生納付金（初年度納入金）の比較において、本学は 1,642,600 円であるのに対し、競合校の金額は、やや低額（1,584,000 円／1,585,000 円）の設定となっているが、後述の「エ 学生納付金等の金額設定の理由」に記載のとおり合理的な金額設定であると考えており、本学の学生確保においての影響は小さいと考える。

奨学制度について、本学は、障がいがある学生のうち学業成績及び人物が優秀で修学の熱意が顕著な者を対象とした独自の給付奨学金を充実させており、この点において優位性があるといえる。

〇就職支援の内容

本学は、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を一体的に捉え、キャリアセンターがワンストップで取り組む体制を構築し、低年次から卒業年次まで段階的かつ体系的なキャリア支援を実施している。特に、低年次の正課プログラムとして展開する「RYUKOKU キャリア・スタート・プログラム」では、講義・実習・振り返りを通じて職業意識の醸成や主体性を育成する点に特色がある。また、情報系学生に特化した支援として、技術職に精通したキャリア・アドバイザーを配置し、就職や大学院進学に関する助言や、専門性に応じた選考対策等を実施しており、これらの点は優位であるといえる。

〇取得できる資格

本学部で取得できる資格は「高等学校教諭一種免許状（情報）」の教職課程である（教職課程認定申請中）。

イ　競合校の入学志願動向等

旺文社発行の「2025 年度版 蛍雪時代特別編集大学の真の実力」によると、競合校の過去 3 年間の入学志願状況等は次のとおりであり、安定的に学生確保がおこなわれている。このことから、類似性の高い本学の新設組織においても定員充足が見込めると判断する。

京都産業大学情報理工学部情報理工学科

年度	入学定員数	入学志願者数	合格者数	入学者総数	定員充足率
2023	160	4,884	886	156	**97.5%**
2024	160	4,121	911	156	**97.5%**
2025	160	3,850	1,085	186	**116.3%**
				3 か年平均	**103.8%**

京都橘大学工学部※

年度	入学定員数	入学志願者数	合格者数	入学者総数	定員充足率
2023	210	2,573	927	234	**111.4%**
2024	210	2,163	910	193	**91.9%**
2025	210	2,112	946	228	**108.6%**
				3 か年平均	**104.0%**

※情報工学科の入学志願者数及び合格者数が確認できなかったため、工学部全体の状況を記載する。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

上記のとおり、競合校はいずれも 3 か年平均において定員を充足していることから、説明を省略する。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

学生納付金の設定にあたっては、大学の健全な運営と新設組織の教育・研究の充実に鑑み、次のとおり設定した。

（円）

大学・学部・学科・専攻	入学金	授業料	教育充実費等 （諸会費は除く）	初年度合計
龍谷大学 情報学部情報学科	260,000	1,239,000	143,600	**1,642,600**

なお、新設組織が競合すると考えられる近隣大学の学生納付金（初年度納入金）は次のとおりである。新設組織は、ほぼ中間に位置する金額であり、合理的な設定であると考えている。

（円）

大学・学部・学科・専攻	入学金	授業料	教育充実費等 （諸会費は除く）	初年度合計
立命館大学 情報理工学部情報理工学科	200,000	1,771,600	0	1,971,600
近畿大学 情報学部情報学科	250,000	1,462,000	0	1,712,000
大阪工業大学 情報科学部データサイエンス学科	250,000	1,290,000	100,000	1,640,000
京都橘大学 工学部情報工学科	200,000	1,235,000	150,000	1,585,000
京都産業大学 情報理工学部情報理工学科	230,000	1,058,000	296,000	1,584,000

※他大学における上記学費は各大学ホームページ掲載情報に基づく。

③先行事例分析

今般の届出は、短期大学から四年制の大学に改組する場合には該当せず、また、修業年限や学生納付金などの条件変更も生じないため、説明を省略する。

④学生確保に関するアンケート調査

本学部の設置計画を策定するにあたり、定員充足の見込みについて客観的な根拠となるデータから検証することを目的として、本学部の開設初年度に受験対象となる高校 2 年生（2025 年度）を対象とした進学需要等に関するアンケート調査を次のとおり実施した。

ア　高校生アンケートの概要

調査目的	令和 9（2027）年度に龍谷大学が設置構想中の「情報学部情報学科（仮称）」（入学定員 130 名）における志願者・入学者等の学生確保の見通しを測るためのアンケートを実施した。
調査対象	【調査対象】令和 9（2027）年 3 月に高校卒業予定者である高校 2 年生（令和 7 年度） 【調査地域】「情報学部情報学科（仮称）」の主たる学生募集エリアと想定される地域の高等学校または学習塾、計 170 箇所から調査の協力を得た。また、オープンキャンパスおよび入試説明会に来場した学生には個別で調査の協力を得た。
調査内容	○回答者の基本情報（性別、居住地） ○卒業後の志望進路 ○志望する大学等の設置者 ○興味のある学問分野 ○龍谷大学「情報学部情報学科（仮称）」への受験・入学意向
調査期間	令和 7 年（2025）8 月～12 月 オープンキャンパスでの調査は 8月2日、8月3日、8月23日、8月24日、9月21日の 5日間、龍谷大学学瀬田キャンパスにて実施した。
調査方法	高校側の希望に基づき、紙方式・WEB 方式のいずれかでアンケート調査を実施。 ただし、学習塾およびオープンキャンパスでの調査は一律紙方式で実施した。 【紙 方 式】 ① 高校および学習塾での実施依頼分については、アンケート用紙・「情報学部情報学科（仮称）」概要資料を必要部数送付し、回答を依頼した。 ② オープンキャンパス実施分については、来場者に対し、個別にアンケート用紙・「情報学部情報学科（仮称）」概要資料を配布し、その場で回答を依頼した。 ※なお、両調査は、既回答者による再回答を防止するための周知および調査用紙への明記を行い、回答者の重複が生じないよう措置を講じて実施した。 【WEB 方式】 担当職員のメールアドレスにアンケート調査サイト URL およびアクセス用 QR コードを送付。自校対象生徒のタブレット端末等に配信の上、原則その場で回答し送信するよう依頼した。
回収件数	有効回答数 15,535 件 （うち、高等学校または学習塾 170 箇所から 15,244 件、令和 7（2025）年 8 月 2・3 日、8 月 23・24 日、9 月 21 日オープンキャンパスにて 291 件回収）

イ　高校生アンケートの結果

（ア）龍谷大学「情報学部情報学科」への受験・入学意向

本高校生アンケート調査に回答した合計15,535名のうち、1,346名（回答者全体の8.7%）より龍谷大学「情報学部情報学科」への受験意向（第一志望～第三志望以降の合計）が示され、入学定員130名の10.4倍となった。

一方、「第一志望として受験する」とした237名のうち、龍谷大学「情報学部情報学科」に合格した場合「入学する」としたのは168名であった。また、「第二志望として受験する」とした258名のうち、「情報学部情報学科」に合格した場合「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」としたのは176名、「第三志望以降として受験する」とした851名のうち「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」としたのは716名であった。

「情報学部情報学科」を第一志望で受験し合格した場合、他大学の受験結果に関わらず入学意向を示す高校生が168名（入学定員130名の1.3倍）いた。また、第二・第三志望以降で受験し合格した場合、志望順位が上位の志望校合否結果により入学意向を示す高校生が892名（同6.9倍）いた。

（イ）クロス集計（大学進学＞私立大学＞「情報学」に興味＞受験意向＞入学意向）

「高校卒業後の希望進路（問3）」、「進学先の大学設置者種別（問4）」、「興味のある学問分野（問5）」、「受験意向（問7）」、「入学意向（問8）」の五重クロス集計を行ったところ、「大学進学を希望」し、かつ「私立大学を希望」し、かつ「情報学に興味」を持ち、その上で龍谷大学「情報学部情報学科」への受験意向を示したのは495名（第一志望～第三志望以降の合計）、入学定員130名の3.8倍となった。そのうち「第一志望として受験する」とした上で「入学する」とした者は77名であった。同様に「第二志望として受験する」とし「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」とした者は76名、「第三志望以降として受験する」とし「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」とした者は253名いた。

五重クロス集計を経てもなお、龍谷大学「情報学部情報学科」を第一志望で受験し合格した場合、他大学の受験結果に関わらず入学意向を示す高校生が、予定する入学定員130名の半数を超える77名いた。また、第二志望で受験し合格した場合、志望順位が上位の志望校合否結果により入学意向を示す高校生が76名いた。同じく第三志望以降で受験し合格した場合、志望順位が上位の志望校合否結果により入学意向を示す高校生が253名いた。

旺文社の「高校生の大学受験実態調査」に基づく「入学を決めた大学の志望順位」の数値を係数として適用し、定員充足の見込みを試算した。同調査によれば、「第二志望の大学に入学した割合」は21.9%、「第三志望以下の大学に入学した割合」は23.8%である。これらの係数を上記の五重クロス集計における各志望順位別の回答数に適用した結果、以下の試

算が得られた。

・第二志望層からの入学見込　　：16 名（入学意向者 76 名 × 21.9%）

・第三志望以下層からの入学見込：60 名（入学意向者 253 名 × 23.8%）

これに「第一志望かつ入学意向」を示した 77 名を加算すると、入学見込者の総数は「153 名」（77 名＋16 名＋60 名）となる。以上より、開設初年度に受験対象となる一部の高等学校の在校生に限定した調査結果においても、本学の情報学部情報学科への入学希望の高さをうかがうことができる。

資料 6：高校生アンケート調査報告書（令和 8 年 1 月：株式会社高等教育総合研究所）

〇新設組織における志望層拡大の見通し

新設組織では文系型入試を実施するため、理系志願者に加えて、文系志願者も入学対象となる。令和 8（2026）年 3 月 22 日に開催したオープンキャンパスでは、大学全体で約 3,855 名の参加があり（前年度比 126.3%）、うち約 130 名が情報学部の紹介イベントに参加した。同イベントは、新設組織を設置するびわ湖大津キャンパス及び社会科学系学部の拠点である京都深草キャンパスの 2 か所で同日開催したが、参加者の内訳はびわ湖大津キャンパスが約 54%、京都深草キャンパスが約 46%であった。また、オープンキャンパス参加者に対して実施したアンケートでは、情報学部を志望すると回答した 136 名のうち、60 名（約 44.1%）が文系学部との併願を検討していたことから、新設組織に対する文系志願者の関心度は非常に高く、既設組織に比して志望層の拡大を見込めると考えている。

〇大学全体の志願状況と社会的評価

大手の進学支援関連企業が採用する豊島継男事務所の統計では、本学は、令和 7（2025）年度入試における私立大学一般選抜入学試験志願者順位において、全国 11 位となる志願者数を獲得した。過去 5 年間をみても、本学は 12 位以上を維持しており、受験生から志願される大学としてのポジションを確立しているといえる（資料 7 参照）。

また、リクルート進学総研が毎年実施している「進学ブランド力調査」において、令和 7（2025）年度における本学全体の「志願度」は、関西エリアで 9 位であった（資料 8 参照）。過去 5 年間を見ても本学は常に 10 位以内に位置していることから、受験生からの志願度は高い状況にあることがわかる。

以上の状況を踏まえ、18 歳人口が減少していく厳しい環境は続くものの、情報学部情報学科の入学定員 130 名は充足し得ると判断している。

⑤人材需要に関するアンケート調査

新設組織の設置計画を策定するうえで、情報学部の人材の養成に関する目的やその他の教育研究上の目的が、社会的な人材需要の見通しを踏まえた計画であることを客観的根拠となるデータから検証すべく、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある関連企業等を対象として、情報学部で養成する人材の必要性及び卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

ア　人材需要アンケートの概要

調査目的	令和 9（2027）年度に龍谷大学が設置構想中の「情報学部情報学科（仮称）」（入学定員 130 名）における卒業後の採用・就職（人材需要）の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	【調査対象】 龍谷大学卒業生の採用実績がある、または龍谷大学へ求人票を送付した実績を有し、新学部において想定される卒業後の進路に合致する地方公共団体や企業等） 【調査地域】 主に関西および東京近郊を中心とするエリア
調査内容	・回答対象先の基本情報（所在地・業種・従業員／職員規模） ・龍谷大学「情報学部情報学科（仮称）」卒業生の人材ニーズ ・龍谷大学「情報学部情報学科（仮称）」卒業生の採用意向 合計 3,002 件
調査期間	令和 7 年（2025）10 月～12 月
調査方法	調査対象事業所に対し依頼状を郵送し WEB フォームからのアンケート実施を依頼。
回収件数	有効回答数 669 件（回収率 22.3%）

イ　人材需要アンケートの結果

（ア）龍谷大学「情報学部情報学科」が養成する人材の社会的ニーズ

回答事業所の 90.4%にあたる 605 事業所から龍谷大学「情報学部情報学科」で養成する人材のニーズは高いとの回答を得ており、新設組織が養成する人材について、その社会的ニーズを認める結果となっている。

（イ）龍谷大学「情報学部情報学科」が養成する人材の採用意向

回答事業所の 76.1%にあたる 509 事業所から龍谷大学「情報学部情報学科」の卒業予定者の採用意向が示されており、当該 509 事業所における採用可能人数（単年度）の合計は、入学定員の 130 名を大きく上回る 1,330 名（10.2 倍）であった。

このような本学への求人実績や卒業生の採用実績がある一部の関連企業等に限定した調査結果においても、情報学部情報学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については見通しがあると考えられる。

資料 9：人材需要アンケート調査報告書（令和 8 年 1 月：株式会社高等教育総合研究所）

（４）新設組織の定員設定の理由

新設組織では、基礎となる先端理工学部知能情報メディア課程の教育・研究資源を継承しつつ、企業や行政等の多様な分野において、データに基づく意思決定や価値創出を担う「データサイエンス」に関する専門知識を有する人材に対する急速な需要に応えるため、教育内容の拡充を図り、その定員を 130 名と設定するものである。

基礎となる先端理工学部知能情報メディア課程の入学定員は 103 名であり、これまでの教育・研究は主として、文字・画像・音声等の情報メディア処理や、ネットワーク、IoT に関する情報技術を中心とした内容で構成されてきた。これに対し、新設組織では、情報メディア分野及び情報システム分野に加え、Society5.0 におけるデータ思考の基礎となるデータの扱い、データの可視化、データの予測による価値創造を行うデータサイエンス分野の教育・研究を体系的に展開することにより、情報技術の基礎から応用に至るまでを幅広く学ぶことができる体制を整備する。そのため、先端理工学部知能情報メディア課程の定員を上回る 130 名と設定することが、広範な社会的要請に応える上での適切な教育規模であると判断する。

以　上

龍谷大学 情報学部情報学科
学生の確保の見通し等を記載した書類
【資料目次】

資料１　18 歳人口予測

資料２　大学進学率推移

資料３　大学入学者地元残留率

資料４　龍谷大学 先端理工学部知能情報メディア課程 都道府県別入学者数（過去 5 年間）

資料５　龍谷大学志願者数（延べ人数）推移（過去 5 年間）

資料６　龍谷大学「情報学部 情報学科」設置構想についての高校生アンケート調査報告書

資料７　私立大学 一般選抜入学試験志願者 上位 30 大学（過去 5 年間）

資料８　進学ブランド力調査 志願度ランキング 関西エリア＜全体＞（過去 5 年間）

資料９　龍谷大学「情報学部 情報学科」設置構想についての人材需要アンケート調査報告書

別紙１　新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙２の１　既設学科等の収容定員の充足状況

別紙２の２　既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）

別紙３　既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績

資料 1

【 省 略 】

１（書類等の題名）

資料 1　18 歳人口予測

２（出典）

株式会社リクルート　リクルート進学総研　マーケットリポート

３（引用範囲）

18 歳人口の推移

４（その他の説明）

上記のデータを加工し、18 歳人口の推移を表にまとめた。

以　上

資料２

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料２　大学進学率推移

２（出典）

株式会社リクルート　リクルート進学総研　マーケットリポート

３（引用範囲）

大学進学率の推移

４（その他の説明）

上記のデータを加工し、大学進学率の推移を表にまとめた。

以　上

資料３

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料３　大学入学者地元残留率

２（出典）

株式会社リクルート　リクルート進学総研　マーケットリポート

３（引用範囲）

大学入学者地元残留率の推移

４（その他の説明）

上記のデータを加工し、大学入学者地元残留率の推移をグラフにまとめた。

以　上

資料 4

【 省 略 】

１（書類等の題名）

資料4　龍谷大学 先端理工学部 知能情報メディア課程 都道府県別入学者数
（過去5 年間）

２（出典）

本学入試部所持データ

３（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）であり【省略】とする。

以　上

資料5

龍谷大学志願者数（延べ人数）推移（過去5年間）

学部・学科・課程・専攻		令和3年度 入学者	令和4年度 入学者	令和5年度 入学者	令和6年度 入学者	令和7年度 入学者	前年度差	前年度比
文学部	真宗学科	1,178	1,167	1,359	1,303	1,405	102	107.8%
	仏教学科	1,079	1,162	1,378	1,142	1,372	230	120.1%
	哲学科　哲学専攻	1,248	1,368	1,623	1,515	1,523	8	100.5%
	哲学科　教育学専攻	1,349	1,181	1,472	1,069	1,296	227	121.2%
	臨床心理学科※1	2,681	2,606	-	-	-	-	-
	歴史学科　日本史学専攻	2,387	2,505	2,628	2,607	2,189	▲ 418	84.0%
	歴史学科　東洋史学専攻	1,281	1,014	1,355	1,245	1,391	146	111.7%
	歴史学科　仏教史学専攻	649	786	963	893	1,023	130	114.6%
	歴史学科　文化遺産学専攻	807	1,268	1,186	1,266	1,203	▲ 63	95.0%
	日本語日本文学科	2,782	2,758	2,575	2,545	2,680	135	105.3%
	英語英米文学科	1,274	1,533	1,928	1,984	1,823	▲ 161	91.9%
文学部　合計		16,715	17,348	16,467	15,569	15,905	336	102.2%
経済学部※2		9,926	9,798	11,137	10,311	12,018	1,707	116.6%
経営学部	経営学科※3	9,687	8,826	9,781	9,984	8,414	▲ 1,570	84.3%
	商学科※4	-	-	-	-	4,100	4,100	-
経営学部　合計		9,687	8,826	9,781	9,984	12,514	2,530	125.3%
法学部		6,946	8,030	7,803	5,996	7,872	1,876	131.3%
社会学部	社会学科※5	4,181	4,430	4,670	6,673	-	▲ 6,673	-
	ｺﾐｭﾆﾃｨﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科※5	2,295	2,174	2,758	3,563	-	▲ 3,563	-
	現代福祉学科※5	2,027	2,664	2,485	3,628	-	▲ 3,628	-
	総合社会学科※4	-	-	-	-	16,208	16,208	-
社会学部　合計		8,503	9,268	9,913	13,864	16,208	2,344	116.9%
政策学部		5,371	5,436	7,006	7,339	8,006	667	109.1%
国際学部	国際文化学科	4,461	4,537	4,692	4,788	5,406	618	112.9%
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ学科	1,485	2,287	2,246	2,239	2,615	376	116.8%
国際学部　合計		5,946	6,824	6,938	7,027	8,021	994	114.1%
農学部	生命科学科（旧：植物生命科学科）	924	1,185	1,603	1,931	1,722	▲ 209	89.2%
	農学科（旧：資源生物科学科）	1,541	1,581	1,533	1,535	1,570	35	102.3%
	食品栄養学科	1,316	1,371	1,332	1,410	1,231	▲ 179	87.3%
	食料農業ｼｽﾃﾑ学科	1,386	1,333	1,896	2,128	1,702	▲ 426	80.0%
農学部　合計		5,167	5,470	6,364	7,004	6,225	▲ 779	88.9%
先端理工学部	数理・情報科学課程	1,325	1,055	1,258	1,025	829	▲ 196	80.9%
	知能情報メディア課程	1,368	1,481	1,536	1,360	972	▲ 388	71.5%
	電子情報通信課程	1,475	1,545	1,607	1,448	955	▲ 493	66.0%
	機械工学・ﾛﾎﾞﾃｨｸｽ課程	1,795	1,590	1,820	1,509	1,312	▲ 197	86.9%
	応用化学課程	1,185	991	1,262	1,227	1,236	9	100.7%
	環境科学課程（旧：環境生態工学課程）※6	788	617	657	1,073	1,230	157	114.6%
先端理工学部　合計		7,936	7,279	8,140	7,642	6,534	▲ 1,108	85.5%
心理学部※7		-	-	5,654	5,958	5,418	▲ 540	90.9%
大学　合計		76,197	78,279	89,203	90,694	98,721	8,027	108.9%

※1　令和5年度 学生募集停止
※2　経済学部現代経済学科及び国際経済学科は一括募集入試
※3　令和7年度 経営学部経営学科 入学定員変更（519人→380人）
※4　令和7年度 開設
※5　令和7年度 学生募集停止
※6　令和7年度 先端理工学部環境科学課程 入学定員変更（103人→88人）
※7　令和5年度 開設

資料6

龍谷大学

「情報学部 情報学科（仮称）」

「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」

設置構想についての高校生アンケート調査

報告書

令和8年1月
株式会社高等教育総合研究所

1.高校生アンケート調査 概要

調査目的	令和9年（2027年）度に龍谷大学が設置構想中の「情報学部 情報学科（仮称）」（入学定員130人）、「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」（入学定員130人）における志願者・入学者等の学生確保の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	[調査対象] 令和9年3月に高校卒業予定である高校2年生（令和7年度） [調査地域] 「情報学部 情報学科（仮称）」「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」の主たる学生募集エリアと想定される地域の高等学校または学習塾、計170箇所から調査の協力を得た。また、オープンキャンパスおよび入試説明会に来場した学生には個別で調査の協力を得た。
調査内容	・回答者の基本情報（居住地、性別） ・卒業後の志望進路 ・志望する大学等の設置者 ・興味のある学問分野 ・龍谷大学「情報学部 情報学科（仮称）」「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」への受験・入学意向
調査時期	令和7年8月～12月 オープンキャンパスでの調査は8月2日、8月3日、8月23日、8月24日、9月21日の5日間、龍谷大学キャンパスにて実施した。
調査方法	希望に基づき、紙方式・WEB方式のいずれかでアンケート調査を実施。 ただし、学習塾およびオープンキャンパスでの調査は一律紙方式で実施した。 [紙方式] ① 高校および学習塾での実施依頼分については、アンケート用紙・「情報学部 情報学科（仮称）」「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」概要資料を必要部数送付し、回答を依頼した。 ② オープンキャンパス実施分については、来場者に対し、個別にアンケート用紙・「情報学部 情報学科（仮称）」「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」概要資料を配布し、その場で回答を依頼した。 **※なお、両調査は、既回答者による再回答を防止するための周知および調査用紙への明記を行い、回答者の重複が生じないよう措置を講じて実施した。** [WEB方式] 担当職員のメールアドレスにアンケート調査サイトURLおよびアクセス用QRコードを送付。自校対象生徒のタブレット端末等に配信の上、原則その場で回答し送信するよう依頼した。
調査件数	有効回答数15,535件

2.調査実施高等学校等一覧

※有効回答数15,535件の調査実施高等学校等内訳。
※都道府県順に記載。

番号	高校コード	所在地	高校名	有効回答数
1	11515A	埼玉県	本庄東高等学校	58
2	13676A	東京都	文化学園大学杉並高等学校	299
3	16146C	富山県	福岡高等学校	40
4	17503A	石川県	金沢高等学校	156
5	17504J	石川県	金沢龍谷高等学校	105
6	18130H	福井県	武生東高等学校	104
7	18501K	福井県	北陸高等学校	235
8	18503F	福井県	福井工業大学附属福井高等学校	59
9	18504D	福井県	啓新高等学校	95
10	20156B	長野県	伊那弥生ケ丘高等学校	33
11	20157A	長野県	赤穂高等学校	76
12	20160A	長野県	飯田風越高等学校	182
13	20174A	長野県	松本美須々ケ丘高等学校	220
14	21105C	岐阜県	加納高等学校	29
15	21135E	岐阜県	加茂高等学校	257
16	21178J	岐阜県	可児高等学校	36
17	22153J	静岡県	掛川西高等学校	41
18	22154G	静岡県	掛川工業高等学校	25
19	22200D	静岡県	浜松湖南高等学校	76
20	22531C	静岡県	磐田東高等学校	66
21	23243C	愛知県	富田高等学校	73
22	23506H	愛知県	名古屋大谷高等学校	71
23	23511D	愛知県	日本福祉大学付属高等学校	20
24	23513A	愛知県	至学館高等学校	70
25	24104A	三重県	いなべ総合学園高等学校	68
26	24502A	三重県	海星高等学校	344
27	24505E	三重県	高田高等学校	177
28	24515B	三重県	津田学園高等学校	173
29	25103J	滋賀県	堅田高等学校	77
30	25104G	滋賀県	東大津高等学校	324

番号	高校コード	所在地	高校名	有効回答数
31	25111K	滋賀県	彦根東高等学校	251
32	25113F	滋賀県	彦根工業高等学校	27
33	25119E	滋賀県	八幡高等学校	39
34	25120J	滋賀県	八幡工業高等学校	181
35	25126H	滋賀県	栗東高等学校	118
36	25134J	滋賀県	愛知高等学校	80
37	25141A	滋賀県	草津東高等学校	25
38	25146B	滋賀県	甲西高等学校	155
39	25152G	滋賀県	彦根翔西館高等学校	260
40	25501H	滋賀県	滋賀短期大学附属高等学校	239
41	25504B	滋賀県	近江兄弟社高等学校	140
42	25506J	滋賀県	綾羽高等学校	3
43	25507G	滋賀県	滋賀学園高等学校	86
44	25508E	滋賀県	光泉カトリック高等学校	102
45	-	滋賀県	明光義塾米原教室	4
46	-	滋賀県	明光義塾守山教室	5
47	-	滋賀県	明光義塾南彦根教室	3
48	-	滋賀県	明光義塾近江八幡教室	4
49	-	滋賀県	明光義塾八日市教室	5
50	-	滋賀県	明光義塾稲枝教室	4
51	-	滋賀県	明光義塾南草津教室	2
52	-	滋賀県	明光義塾甲西教室	10
53	-	滋賀県	明光義塾貴生川教室	1
54	-	滋賀県	明光義塾長浜教室	14
55	26107G	京都府	桂高等学校	183
56	26111E	京都府	向陽高等学校	164
57	26118B	京都府	京都府立北桑田高等学校	38
58	26120D	京都府	園部高等学校	123
59	26126C	京都府	西舞鶴高等学校	182
60	26141G	京都府	紫野高等学校	61

番号	高校コード	所在地	高校名	有効回答数
61	26142E	京都府	京都市立開建高等学校	178
62	26161A	京都府	京都工学院高等学校	62
63	26506D	京都府	花園高等学校	50
64	26507B	京都府	東山高等学校	23
65	26508A	京都府	龍谷大学付属平安高等学校	418
66	26510B	京都府	洛南高等学校	117
67	26513G	京都府	京都文教高等学校	264
68	26517K	京都府	京都橘高等学校	237
69	26520K	京都府	京都聖母学院高等学校	142
70	26523D	京都府	ノートルダム女学院高等学校	63
71	26525A	京都府	京都明徳高等学校	63
72	26527G	京都府	洛陽総合高等学校	32
73	26530G	京都府	福知山成美高等学校	148
74	26540D	京都府	京都翔英高等学校	201
75	26543J	京都府	京都つくば開成高等学校	48
76	-	京都府	明光義塾大宮教室	6
77	-	京都府	明光義塾西京極教室	2
78	-	京都府	明光義塾洛西教室	4
79	-	京都府	明光義塾久我教室	1
80	-	京都府	明光義塾西院教室	4
81	-	京都府	明光義塾山科教室	4
82	-	京都府	明光義塾西向日教室	11
83	-	京都府	明光義塾墨染教室	3
84	-	京都府	明光義塾淀教室	4
85	-	京都府	明光義塾大久保教室	10
86	-	京都府	明光義塾帷子ノ辻教室	3
87	-	京都府	明光義塾北野教室	2
88	-	京都府	明光義塾長岡天神教室	12
89	-	京都府	明光義塾伏見桃山教室	5
90	-	京都府	明光義塾小倉教室	9

番号	高校コード	所在地	高校名	回収数
91	-	京都府	明光義塾松井山手教室	4
92	-	京都府	明光義塾祝園教室	5
93	27106D	大阪府	桜塚高等学校	34
94	27117K	大阪府	茨木西高等学校	13
95	27142A	大阪府	交野高等学校	54
96	27146C	大阪府	布施高等学校	38
97	27225G	大阪府	いちりつ高等学校	151
98	27234F	大阪府	都島工業高等学校	103
99	27270B	大阪府	芥川高等学校	37
100	27291E	大阪府	大冠高等学校	162
101	27297D	大阪府	八尾翠翔高等学校	112
102	27501J	大阪府	プール学院高等学校	162
103	27506K	大阪府	賢明学院高等学校	81
104	27507H	大阪府	大阪学芸高等学校	449
105	27517E	大阪府	大阪偕星学園高等学校	101
106	27526D	大阪府	浪速高等学校	25
107	27527B	大阪府	大阪高等学校	323
108	27530B	大阪府	昇陽高等学校	190
109	27548E	大阪府	四條畷学園高等学校	214
110	27551E	大阪府	大阪薫英女学院高等学校	76
111	27557D	大阪府	関西福祉科学大学高等学校	68
112	27559A	大阪府	箕面自由学園高等学校	95
113	27561B	大阪府	常翔学園高等学校	82
114	27563J	大阪府	阪南大学高等学校	117
115	27571K	大阪府	大阪学院大学高等学校	61
116	27574D	大阪府	早稲田大阪高等学校	251
117	27578G	大阪府	アサンプション国際高等学校	122
118	27580J	大阪府	清教学園高等学校	50
119	27581G	大阪府	大阪商業大学堺高等学校	40
120	27583C	大阪府	近畿大学泉州高等学校	146

番号	高校コード	所在地	高校名	回収数
121	27584A	大阪府	大阪国際高等学校	23
122	27590F	大阪府	初芝富田林高等学校	146
123	27594J	大阪府	上宮太子高等学校	124
124	27608B	大阪府	四天王寺東高等学校	147
125	28122A	兵庫県	鳴尾高等学校	75
126	28127B	兵庫県	尼崎北高等学校	98
127	28132J	兵庫県	伊丹北高等学校	94
128	28150G	兵庫県	明石高等学校	97
129	28182E	兵庫県	赤穂高等学校	35
130	28198A	兵庫県	豊岡高等学校	36
131	28211B	兵庫県	洲本高等学校	37
132	28238D	兵庫県	西宮東高等学校	1
133	28239B	兵庫県	尼崎（市立）高等学校	218
134	28244J	兵庫県	伊丹（市立）高等学校	73
135	28507C	兵庫県	神戸龍谷高等学校	8
136	28514F	兵庫県	彩星工科高等学校	42
137	28519G	兵庫県	滝川高等学校	34
138	28520A	兵庫県	須磨学園高等学校	117
139	28531F	兵庫県	仁川学院高等学校	101
140	28545F	兵庫県	東洋大学附属姫路高等学校	42
141	28550B	兵庫県	滝川第二高等学校	45
142	29104J	奈良県	生駒高等学校	125
143	29108A	奈良県	郡山高等学校	40
144	29115D	奈良県	桜井高等学校	39
145	29503F	奈良県	天理高等学校	101
146	29508G	奈良県	橿原学院高等学校	74
147	-	奈良県	明光義塾富雄教室	5
148	-	奈良県	明光義塾学園前教室	14
149	-	奈良県	明光義塾高の原教室	1
150	-	奈良県	明光義塾学研奈良登美ヶ丘教室	2

番号	高校コード	所在地	高校名	回収数
151	30107J	和歌山県	那賀高等学校	34
152	30503A	和歌山県	和歌山信愛高等学校	36
153	33187C	岡山県	岡山城東高等学校	74
154	33189K	岡山県	備前緑陽高等学校	14
155	33503H	岡山県	明誠学院高等学校	15
156	34199B	広島県	沼田高等学校	203
157	34502E	広島県	崇徳高等学校	75
158	34519K	広島県	広島工業大学高等学校	55
159	34531J	広島県	尾道高等学校	42
160	36140C	徳島県	徳島北高等学校	147
161	37107G	香川県	高松東高等学校	220
162	37121B	香川県	善通寺第一高等学校	39
163	37503K	香川県	高松中央高等学校	50
164	37510B	香川県	香川誠陵高等学校	77
165	38001G	愛媛県	愛媛大学附属高等学校	109
166	38115C	愛媛県	今治北高等学校	69
167	38143J	愛媛県	野村高等学校	18
168	38155B	愛媛県	松山中央高等学校	264
169	39504J	高知県	高知高等学校	47
170	39509K	高知県	明徳義塾高等学校	72
171	-	-	オープンキャンパス	291

3.高校生アンケート調査 集計結果

※「回答割合」（%）はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問１　あなたの現在の居住地をお答えください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
北海道	14	0.1%
青森県	3	0.0%
岩手県	3	0.0%
宮城県	2	0.0%
秋田県	0	0.0%
山形県	0	0.0%
福島県	1	0.0%
茨城県	1	0.0%
栃木県	1	0.0%
群馬県	19	0.1%
埼玉県	44	0.3%
千葉県	8	0.1%
東京都	284	1.8%
神奈川県	5	0.0%
新潟県	1	0.0%
富山県	42	0.3%
石川県	259	1.7%
福井県	493	3.2%
山梨県	2	0.0%
長野県	506	3.3%
岐阜県	332	2.1%
静岡県	212	1.4%
愛知県	245	1.6%
三重県	751	4.8%

選択肢	回答数	回答割合
滋賀県	2,436	15.7%
京都府	2,493	16.0%
大阪府	3,852	24.8%
兵庫県	1,302	8.4%
奈良県	527	3.4%
和歌山県	89	0.6%
鳥取県	0	0.0%
島根県	0	0.0%
岡山県	104	0.7%
広島県	372	2.4%
山口県	4	0.0%
徳島県	148	1.0%
香川県	385	2.5%
愛媛県	460	3.0%
高知県	117	0.8%
福岡県	3	0.0%
佐賀県	1	0.0%
長崎県	1	0.0%
熊本県	0	0.0%
大分県	0	0.0%
宮崎県	1	0.0%
鹿児島県	2	0.0%
沖縄県	9	0.1%
無回答	1	0.0%
合計	15,535	100.0%

問２　あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
男性	7,466	48.1%
女性	6,945	44.7%
答えたくない	374	2.4%
無回答	750	4.8%
合計	15,535	100.0%

問３　卒業後の進路をどのように考えていますか。（あてはまるものすべて）

選択肢	回答数	回答割合
①大学	13,341	85.9%
②短期大学	645	4.2%
③専門職大学	413	2.7%
④専門職短期大学	113	0.7%
⑤専門学校	2,081	13.4%
⑥就職	946	6.1%
⑦その他	287	1.8%

※複数回答設問のため回答数はのべ数。回答割合＝各回答数÷全回答者数で算出。

問４　問３で①～④を選択した方に質問です。（※問3で①～④を選択しなかった方は問５に進んでください）志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（あてはまるものすべて）

選択肢	回答数	回答割合
国立	4,958	36.2%
公立	4,675	34.2%
私立	9,953	72.7%

※複数回答設問のため回答数はのべ数。回答割合＝各回答数÷全回答者数で算出。
※問４の回答割合は問３で「①大学」「②短期大学」「③専門職大学」「④専門職短期大学」のいずれかまたは複数を選択した13,688人（実人数）を全回答者数として算出。

問５　高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。(あてはまるものすべて）※現時点で進学を希望されていない方も進学する場合を想像してお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
情報学（情報工学、データサイエンス、情報ネットワーク、情報セキュリティなど)	1,981	12.8%
環境学（環境工学、環境生態学、環境政策、環境社会学など)	624	4.0%
経済学・経営学（環境経済、環境経営、マーケティング、会計学など)	3,449	22.2%
文学（日本文学、外国文学、比較文学など)	1,344	8.7%
史学（日本史、世界史、考古学、文化史など)	780	5.0%
哲学（倫理学、美学、形而上学など)	481	3.1%
心理学（認知心理学、社会心理学、発達心理学など)	1,654	10.6%
言語学（日本語学、英語学、言語理論など)	1,114	7.2%
芸術（美術史、音楽学、演劇学など)	1,291	8.3%
法学（憲法、民法、刑法、国際法など)	1,012	6.5%
社会学（現代社会論、社会調査、地域社会学など)	1,021	6.6%
政治学（政治理論、国際政治、比較政治など)	487	3.1%
教育学（教育心理学、教育方法学、学校経営など)	1,961	12.6%
社会福祉学（福祉政策、ソーシャルワーク、介護福祉など)	598	3.8%
理学（数学、物理学、化学、生物学、地学など)	1,591	10.2%
その他工学（機械工学、電気工学、土木建築工学、応用化学など)	1,528	9.8%
農学（農業生産科学、林学、水産学、畜産学など)	858	5.5%
医学（病理学、薬学、臨床医学、公衆衛生学、スポーツ医学など)	2,835	18.2%
商船（商船学)	76	0.5%
家政学（家政学、食物学、被服学、住居学など)	773	5.0%
その他（総合科学、国際学、人間科学など)	1,516	9.8%

※複数回答設問のため回答数はのべ数。回答割合＝各回答数÷全回答者数で算出。

問６　龍谷大学が2027（令和9）年度に設置構想中の以下の学部学科のうち、あなたはどちらの学部に興味がありますか。次より１つ選択してください。

選択肢	回答数	回答割合
情報学部 情報学科（仮称）	8,459	54.5%
環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）	6,626	42.7%
無回答	450	2.9%
合計	15,535	100.0%

問７　問６で興味があるとされた学科の受験を希望しますか。次より１つ選択してください。

選択肢	回答数	回答割合
①第一志望として受験する	324	2.1%
②第二志望として受験する	373	2.4%
③第三志望以降として受験する	1,299	8.4%
④受験しない	13,055	84.0%
無回答	484	3.1%
合計	15,535	100.0%

問８　上記、問７で①～③を選択した方に質問です。問６で興味があるとされた学部学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より１つ選択してください。

選択肢	回答数	回答割合
入学する	423	21.2%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	1,395	69.9%
入学しない	173	8.7%
無回答	5	0.3%
合計	1,996	100.0%

※問８の回答割合は問７で「①第一志望として受験する」「②第二志望として受験する」「③第三志望以降として受験する」のいずれかを選択した1,996人（実人数）を全回答者数として算出。

4.高校生アンケート調査 結果の要点

■情報学部 情報学科（仮称）

（１）受験・入学意向クロス集計結果（「３. 高校生アンケート調査 集計結果」より）

以下の図の通り、龍谷大学が設置構想中の「情報学部 情報学科（仮称）」に対し受験意向を持ち、「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」を選択したのは1,346人で、予定する入学定員130人の10.4倍となった。
「第一志望として受験する」とした上で「入学する」を選択した対象者は168人おり、「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した対象者は合計892人確認された。

受験意向		入学意向	
第一志望として受験する	237	入学する	168
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	57
		入学しない・無回答	12
第二志望として受験する	258	入学する	67
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	176
		入学しない・無回答	15
第三志望以降として受験する	851	入学する	52
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	716
		入学しない・無回答	83
合計	1,346		

（2）受験・入学意向五重クロス集計結果（「3.高校生アンケート調査集計結果」より）

以下の図の通り、卒業後の進路として「大学」、志望する大学の設置者に「私立」を選択し、興味のある学問分野として「情報学」を選択した上で、龍谷大学「情報学部 情報学科（仮称）」に受験・入学意向を示した人数を確認した。
「大学」進学、かつ「私立」を選択し、興味のある学問分野として「情報学」を選択した対象者は1,173人で、その上で同学部学科を「第一志望として受験する」としたのは102人、「第二志望として受験する」としたのは107人、「第三志望以降として受験する」としたのは286人で、合計すると495人であった。
なお「第一志望として受験する」とした上で「入学する」を選択した対象者は77人であった。「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した対象者は合計で329人確認された。

進路		学校種		学問分野		学部		受験意向		入学意向	
大学	13,341	私立	9,707	情報学	1,173	情報学部情報学科（仮称）	1,072	第一志望として受験する	102	入学する	77
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	24
										入学しない・無回答	1
								第二志望として受験する	107	入学する	27
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	76
										入学しない・無回答	4
								第三志望以降として受験する	286	入学する	13
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	253
										入学しない・無回答	20

■環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）
（１）受験・入学意向クロス集計結果（「３. 高校生アンケート調査 集計結果」より）

以下の図の通り、龍谷大学が設置構想中の「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」に対し受験意向を持ち、「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」を選択したのは650人で、予定する入学定員130人の5倍の水準に及ぶことが明らかとなった。
「第一志望として受験する」とした上で「入学する」を選択した対象者は69人おり、「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した対象者は合計436人確認された。

受験意向		入学意向	
第一志望として受験する	87	入学する	69
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	10
		入学しない・無回答	8
第二志望として受験する	115	入学する	36
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	75
		入学しない・無回答	4
第三志望以降として受験する	448	入学する	31
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	361
		入学しない・無回答	56
合計	650		

（2）受験・入学意向五重クロス集計結果（「3.高校生アンケート調査集計結果」より）

以下の図の通り、卒業後の進路として「大学」、志望する大学の設置者に「私立」を選択し、興味のある学問分野として「環境学」「経済学・経営学」のいずれかを選択した上で、龍谷大学「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」に受験・入学意向を示した人数を確認した。
「大学」進学、かつ「私立」を選択し、興味のある学問分野として「環境学」「経済学・経営学」のいずれかを選択した対象者は3,015人で、その上で同学部学科を「第一志望として受験する」としたのは33人、「第二志望として受験する」としたのは47人、「第三志望以降として受験する」としたのは149人で、合計すると229人であった。
なお「第一志望として受験する」とした上で「入学する」を選択した対象者は29人であった。「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した対象者は合計で162人確認された。

進路		学校種		学問分野		学部		受験意向		入学意向	
大学	13,341	私立	9,707	環境学、経済学・経営学	3,015	環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）	1,187	第一志望として受験する	33	入学する	29
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	2
										入学しない・無回答	2
								第二志望として受験する	47	入学する	15
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	31
										入学しない・無回答	1
								第三志望以降として受験する	149	入学する	9
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	131
										入学しない・無回答	9

高校生アンケート調査用紙

複製（コピー）使用禁止

龍谷大学「情報学部情報学科（仮称）」「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」設置構想についての高校生アンケート（対象:高校2年生の皆さん）

龍谷大学では2027（令和9）年4月、「情報学部情報学科（仮称）」「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」を設置構想中です。概要資料をご覧の上、受験・入学意向に関する調査にご協力をお願いします。なお、この調査の結果は、統計資料としてのみ用い、他の用途に使用することはありません。

※本アンケートへの回答は１回のみとなります。同一内容のアンケートに過去に回答した方は回答できません。
※本アンケートは龍谷大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
※本アンケートおよび概要資料に記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

記入要領	1. 回答は**所定の欄を塗りつぶしてください。** 2. 回答用紙を汚したり、折り曲げたりしないでください。 3. 記入は必ず**鉛筆及びシャープペンシル**で濃く書いてください。	記入例	良い例 ● 悪い例 ✓ ⊙ ⬭ ○ ●

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

問１　あなたの現在の居住地をお答えください。（あてはまるもの1つ）

北海道・東北
① 北海道　② 青森県　③ 岩手県　④ 宮城県　⑤ 秋田県　⑥ 山形県　⑦ 福島県

関東
⑧ 茨城県　⑨ 栃木県　⑩ 群馬県　⑪ 埼玉県　⑫ 千葉県　⑬ 東京都　⑭ 神奈川県

中部・北陸
⑮ 新潟県　⑯ 富山県　⑰ 石川県　⑱ 福井県　⑲ 山梨県　⑳ 長野県　㉑ 岐阜県　㉒ 静岡県　㉓ 愛知県　㉔ 三重県

関西
㉕ 滋賀県　㉖ 京都府　㉗ 大阪府　㉘ 兵庫県　㉙ 奈良県　㉚ 和歌山県

中国・四国
㉛ 鳥取県　㉜ 島根県　㉝ 岡山県　㉞ 広島県　㉟ 山口県　㊱ 徳島県　㊲ 香川県　㊳ 愛媛県　㊴ 高知県

九州・沖縄
㊵ 福岡県　㊶ 佐賀県　㊷ 長崎県　㊸ 熊本県　㊹ 大分県　㊺ 宮崎県　㊻ 鹿児島県　㊼ 沖縄県

問２　あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つ）

① 男性　② 女性　③ 回答しない

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

問３　卒業後の進路をどのように考えていますか。（あてはまるものすべて）

① 大学　② 短期大学　③ 専門職大学　④ 専門職短期大学
⑤ 専門学校　⑥ 就職　⑦ その他

▶問４　問３で①～④を選択した方に質問です。（※問3で①～④を選択しなかった方は問５に進んでください）
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（あてはまるものすべて）

① 国立　② 公立　③ 私立

→裏面に続く

問５　高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
（あてはまるものすべて）※現時点で進学を希望されていない方も進学する場合を想像してお答えください。

興味ある分野（複数選択可）

① 情報学（情報工学、データサイエンス、情報ネットワーク、情報セキュリティなど）	
② 環境学（環境工学、環境生態学、環境政策、環境社会学など）	
③ 経済学・経営学（環境経済、環境経営、マーケティング、会計学など）	
④ 文学（日本文学、外国文学、比較文学など）	⑤ 史学（日本史、世界史、考古学、文化史など）
⑥ 哲学（倫理学、美学、形而上学など）	⑦ 心理学（認知心理学、社会心理学、発達心理学など）
⑧ 言語学（日本語学、英語学、言語理論など）	⑨ 芸術（美術史、音楽学、演劇学など）
⑩ 法学（憲法、民法、刑法、国際法など）	⑪ 社会学（現代社会論、社会調査、地域社会学など）
⑫ 政治学（政治理論、国際政治、比較政治など）	⑬ 教育学（教育心理学、教育方法学、学校経営など）
⑭ 社会福祉学（福祉政策、ソーシャルワーク、介護福祉など）	⑮ 理学（数学、物理学、化学、生物学、地学など）
⑯ その他工学（機械工学、電気工学、土木建築工学、応用化学など）	⑰ 農学（農業生産科学、林学、水産学、畜産学など）
⑱ 医学（病理学、薬学、臨床医学、公衆衛生学、スポーツ医学など）	⑲ 商船（商船学）
⑳ 家政学（家政学、食物学、被服学、住居学など）	㉑ その他（総合科学、国際学、人間科学など）

ここからは別紙の龍谷大学が設置構想中の「情報学部情報学科（仮称）」「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」の概要資料を見てからお答えください。

問６　龍谷大学が2027（令和9）年度に設置構想中の以下の学部学科のうち、
あなたはどちらの学部に興味がありますか。次より１つ選択してください。

① 情報学部情報学科（仮称）　② 環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）

問７　問６で興味があるとされた学科の受験を希望しますか。
次より１つ選択してください。

① 第一志望として受験する　② 第二志望として受験する
③ 第三志望以降として受験する　④ 受験しない

▶問８　**上記、問７で①～③を選択した方に質問です。**
問６で興味があるとされた学部学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。
次より１つ選択してください。

① 入学する　② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する　③ 入学しない

◆オープンキャンパスや進学説明会で配布された方のみお答えください。

あなたの学年をお答えください。

① 高校１年生　② 高校２年生　③ 高校３年生　④ その他

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

高校生アンケート調査WEB画面

龍谷大学「情報学部情報学科（仮称）」
「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」
設置構想についての高校生アンケート（対象：高校２年生の皆さん）

龍谷大学では2027（令和9）年4月、「情報学部情報学科（仮称）」「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」を設置構想中です。概要資料をご覧の上、受験・入学意向に関する調査にご協力をお願いします。なお、この調査の結果は、統計資料としてのみ用い、他の用途に使用することはありません。

※**本アンケートへの回答は１回のみとなります。同一内容のアンケートに過去に回答した方は回答できません。**
※本アンケートは龍谷大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
※本アンケートおよび概要資料に記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

問１　あなたの現在の居住地をお答えください。（あてはまるもの1つ）

問２　あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つ）

◯ ①男性
◯ ②女性
◯ ③回答しない

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

問３　卒業後の進路をどのように考えていますか。（あてはまるものすべて）

☐ ①大学
☐ ②短期大学
☐ ③専門職大学
☐ ④専門職短期大学
☐ ⑤専門学校
☐ ⑥就職
☐ ⑦その他

問４　問３で①～④を選択した方に質問です。
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（あてはまるものすべて）

☐ ①国立
☐ ②公立
☐ ③私立

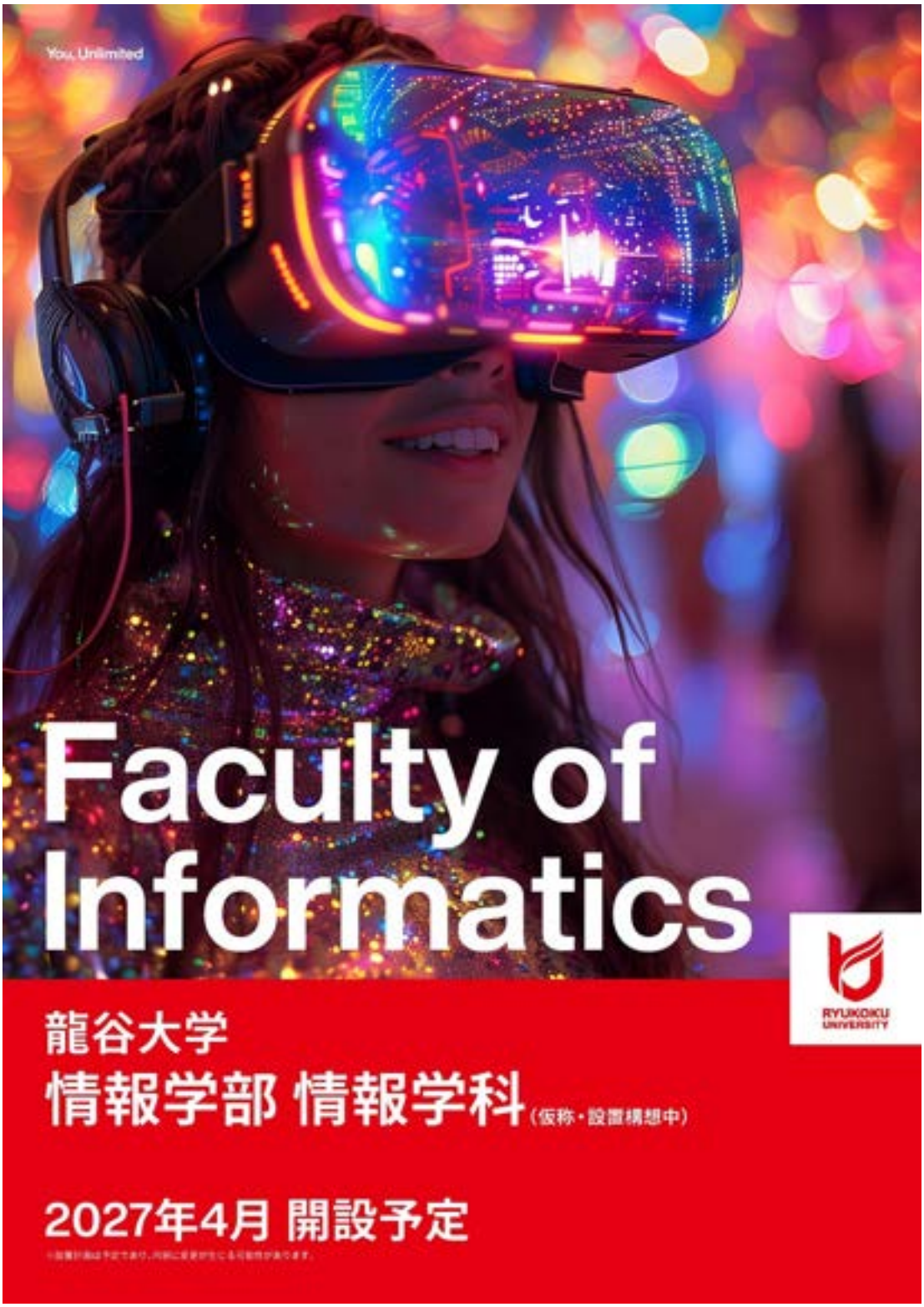
問５　高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（あてはまるものすべて）※現時点で進学を希望されていない方も進学する場合を想像してお答えください。

- [ ] 1.情報学(情報工学、データサイエンス、情報ネットワーク、情報セキュリティなど)
- [ ] 2.環境学(環境工学、環境生態学、環境政策、環境社会学など)
- [ ] 3.経済学・経営学(環境経済、環境経営、マーケティング、会計学など)
- [ ] 4.文学(日本文学、外国文学、比較文学など)
- [ ] 5.史学(日本史、世界史、考古学、文化史など)
- [ ] 6.哲学(倫理学、美学、形而上学など)
- [ ] 7.心理学(認知心理学、社会心理学、発達心理学など)
- [ ] 8.言語学(日本語学、英語学、言語理論など)
- [ ] 9.芸術(美術史、音楽学、演劇学など)
- [ ] 10.法学(憲法、民法、刑法、国際法など)
- [ ] 11.社会学(現代社会論、社会調査、地域社会学など)
- [ ] 12.政治学(政治理論、国際政治、比較政治など)
- [ ] 13.教育学(教育心理学、教育方法学、学校経営など)
- [ ] 14.社会福祉学(福祉政策、ソーシャルワーク、介護福祉など)
- [ ] 15.理学(数学、物理学、化学、生物学、地学など)
- [ ] 16.その他工学(機械工学、電気工学、土木建築工学、応用化学など)
- [ ] 17.農学(農業生産科学、林学、水産学、畜産学など)
- [ ] 18.医学(病理学、薬学、臨床医学、公衆衛生学、スポーツ医学など)
- [ ] 19.商船(商船学)
- [ ] 20.家政学(家政学、食物学、被服学、住居学など)
- [ ] 21.その他(総合科学、国際学、人間科学など)

龍谷大学「情報学部情報学科（仮称）」
「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」
設置構想についての高校生アンケート（対象：高校２年生の皆さん）

ここからは龍谷大学が設置構想中の「情報学部情報学科（仮称）」「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」の概要資料を見てからお答えください。

▼情報学部（仮称）リーフレット
画面上の画像が見づらい場合は、こちらからPDFにて閲覧してください



龍谷大学 情報学部 情報学科（仮称・設置構想中）

龍谷大学が構想している、情報学部(仮称)の概要です。　※本内容は現時点での計画であり、今後、内容に変更が生じる可能性があります。

学部・学科 概要

先端理工学部 知能情報メディア課程における教育・研究実績を踏まえつつ大幅に発展（入学定員を103名から130名に増員）

学部・学科等の名称	入学定員	学位	学位分野
情報学部 情報学科（仮称・設置構想中）	130名	学士（情報学）	工学

設置の理念

情報技術の急速な進展は、日常生活から産業のあり方に至るまで、社会のさまざまな側面に大きな影響を与えています。特に、人工知能（AI）、IoT、ビッグデータ解析、クラウドコンピューティングといった分野は、医療、製造、金融、流通、公共サービスなど、さまざまな産業分野で不可欠な技術基盤として深く浸透しており、今や社会のインフラの一部となりつつあります。その結果、デジタル社会の中で情報学の知識と技術は、一部の専門職に限らず、あらゆる分野において基礎的かつ必須のスキルと認識されるようになってきています。こうした状況を踏まえ、理系・文系を問わず基礎から応用まで幅広く情報学を学ぶことのできる環境を提供し、社会的要請や産業界のニーズに応え得る実践的な情報技術者を育成します。

養成する人材像

建学の精神に基づいて、情報技術と人、社会、自然との調和を重視し、幅広い教養と情報学の基礎知識・技能を修得することで、実践的な専門家として情報社会の発展に寄与し、新しい社会の創造にも積極的に携わる情報技術者を育成します。

アドミッション・ポリシー

情報学部(仮称)では次のような人が入学することを求めています。

■知識・技能の修得
専門分野を学ぶのに必要な知識・能力を備え、大学生活を通して成長しようとする意欲を有する人

■「思考力・判断力・表現力」の発展・向上
既成概念にとらわれず、課題を発見・解決に挑戦し、情報社会の変化に意欲的に取り組むことができる人

■「主体性・多様性・協働性」の発展・向上
- 専門分野に強い関心を持ち、協働を通して学びを深め、多様な考え方を尊重できる人
- 情報学への強い関心と意欲を持ち、粘り強く学び続け、コミュニケーションを大切にできる人
- 主体的に学び、情報収集・分析を行い、論理的に思考し、課題解決に取り組む態度を有する人

「境界線をなくし、循環を生み出す」共創と変革を先導するキャンパスへ

幅広い学びの実現

学びの特徴

情報×「○○」 (例) 情報×医療　情報×健康　情報×スポーツ　情報×衛星データ　など

オープンデータや蓄積された膨大なデータを基に、データ思考をベースとした課題発見力や課題解決力を修得します。また、理系・文系を問わず人工知能(AI)を駆使して、人間の行動に関するデータ等を解析することで、人間の行動や嗜好を予測するモデルを構築し、新たなサービスの創出につなげるための知識や技術を体系的に学びます。

「未来共創ラボ演習」(仮称)

プログラミング、情報セキュリティ、データサイエンスは必修。そのうえで学修者の興味関心に応じて幅広く学ぶことができます。
(選択科目は、すべての専攻の科目を横断的に履修可能)

「異なる立場の人とのつながり」を生むことを目指し、他年次から研究の一部を体験する「未来共創ラボ演習」(仮称)による学生の学年を超えた主体的・対話的な深い学びを提供します。

多様な学びを体現する３専攻分野

※写真はイメージです。

情報メディア専攻

画像や音声などのメディア処理に加え、CGやVR、XR技術、ゲームやインタラクティブコンテンツのデザイン手法について体系的に学びます。モーションキャプチャなど多様なセンシング技術やAIの普及を踏まえた次世代のメディアを設計・開発・分析する力を養います。

知能情報システム専攻

データベースやネットワークシステム、ソフトウェア工学など情報システムの基盤技術に加え、人工知能(AI)や機械学習などの技術を応用した次世代の知能化された情報システムの設計・開発について体系的に学びます。

実践データサイエンス専攻

オープンデータや蓄積された膨大なデータを基に、データ思考の課題発見力や課題解決力を養います。データの可視化、統計解析、機械学習などの技術を駆使して、課題解決につながる予測モデルの構築や新たな価値・サービスの創出について体系的に学びます。

実践的な学び(３つの専攻を横断する学び)

■３つの専攻を横断する学びを、「総合実習」等で実現

■単なる要素技術の学習だけでなく、実践的な学び

- ヘルスデータのデータサイエンスに基づく処理とその結果を表示するアプリ作成
- スマートハウスを想定した人工知能(AI)による顔認証と家族の伝言や帰宅予定時間を表示するアプリ作成
- 企業の技術者を講師に迎えて、人工知能(AI)による工業製品の不良品検出システムの構築

取得できる資格

(資格取得が可能)

高等学校教諭一種免許状(情報)(国家資格)

(受験資格取得が可能)

浄土真宗本願寺派教師資格(民間資格)

卒業後の進路

情報学を通じて修得する専門知識・スキルは、情報産業やメーカーはもちろん、金融、コンサルティング、データに基づく政策立案力を有する公務員やマーケッター、建設、自動車、医療など様々な産業界で必要とされています。

(めざす職業・進路)

- 音響、画像、ゲーム関連企業
- システムエンジニア(SE)
- 情報セキュリティ関連企業
- ソフトウェア開発者
- データサイエンティスト
- スポーツアナリスト
- システムインテグレーター

設置キャンパスの紹介

設置場所

龍谷大学 瀬田キャンパス 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷１番５

- 京阪本線「中書島」駅下車、京阪京都交通バス約30分（直行便）
- JR 琵琶湖線「大津」駅下車、近江鉄道バス約20分（直行便）
- JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車、帝産湖南交通バス約８分（直行便）
- JR 湖西線「大津京」駅下車、近江鉄道バス約30分（直行便（大津駅経由））

瀬田キャンパス
JR京都駅 → 約30分
JR大阪駅 → 約60分
京阪 枚方市駅 → 約60分

初年度学費（他大学含む）

大学・学部・学科	入学金	授業料	教育充実費等（施設費は除く）	初年度学費
龍谷大学 情報学部 情報学科（仮称）※	260,000	1,239,000	143,600	1,642,600
立命館大学 情報理工学部 情報理工学科	200,000	1,771,600	0	1,971,600
京都産業大学 情報理工学部 情報理工学科	230,000	1,058,000	296,000	1,584,000
近畿大学 情報学部 情報学科	250,000	1,462,000	0	1,712,000
大阪工業大学 情報科学部 データサイエンス学科	250,000	1,290,000	100,000	1,640,000
京都橘大学 工学部 情報工学科	200,000	1,235,000	150,000	1,585,000

※龍谷大学 情報学部 情報学科（仮称）の学費は予定です。
※他大学における上記学費は各大学ホームページ掲載情報に基づきます（2025年4月時点）。
※その他、諸会費が必要な場合があります。

情報学部（仮称）特設WEBサイト
龍谷 情報学部
https://www.ryukoku.ac.jp/newf1/

※時期は随時公開。

RYUKOKU UNIVERSITY

（龍谷大学 瀬田キャンパス推進室） 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷１番５ Tel:077-544-7218（平日 9:00～17:00）

◯ 資料を確認しました

龍谷大学「情報学部情報学科（仮称）」
「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」
設置構想についての高校生アンケート（対象：高校２年生の皆さん）

▼環境サステナビリティ学部（仮称）リーフレット
画面上の画像が見づらい場合は、こちらからPDFにて閲覧してください

龍谷大学 環境サステナビリティ学部
環境サステナビリティ学科（仮称・設置構想中）

龍谷大学が構想している、環境サステナビリティ学部(仮称)の概要です。※本内容は現時点での計画であり、今後、内容に変更が生じる可能性があります。

学部・学科 概要

先端理工学部 環境科学課程における教育・研究実績を踏まえつつ大幅に発展。

学部・学科等の名称	入学定員
環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科(仮称・設置構想中)	130名

学位	学位の分野
学士（環境サステナビリティ学）	工学・経済学関係（複合分野）

設置の理念

龍谷大学は、創立400年となる2039年に向けた「龍谷大学基本構想400」の下で社会課題解決・価値創造拠点を標榜し、「ネイチャーポジティブ宣言」、「SDGs宣言」、「カーボンニュートラル宣言」を発出するなど、環境・サステナビリティへの取り組みをより一層推進しています。これらの理念・実績を発展させる形で「サステナブル」「ネイチャーポジティブ」「経営」をキーワードにした学部を設置し、「分野を架橋し文理複眼視点をもとに持続可能な社会の創造に向けて実践的に行動できる人間」を育成することは、本学の理念を具現化し社会の期待に応えるものです。

養成する人材像

分野横断的、超学際的な３つの学問に触れる機会を提供

建学の精神に基づいて、サステナビリティをめぐる幅広い知識を身につけるとともに、環境工学、生物多様性科学及び経済・経営学に係る専門知、並びにそれらを統合した視点を獲得し、持続可能な社会の創造に向けて、実践的に課題解決に向き合える環境人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

環境サステナビリティ学部(仮称)では、次のような人が入学することを求めます。

■**知識・技能の修得**
環境問題に強い関心を持ち、持続可能な社会の実現に貢献したいと考える人

■**「思考力・判断力・表現力」の発展・向上**
理論と実践の両面から環境問題を統合的に理解し、解決策を見出す意欲のある人

■**「主体性・多様性・協働性」の発展・向上**

- 様々な社会変化に対応し、創造的に問題解決に取り組む姿勢を有する人
- 各専門分野における大学での学修の基盤となる、知識、思考力、判断力、情報収集力（文章読解力）、表現力を有している人
- 大学での学修を通じて自己を成長させ、大学で学んだことを活かして自らのキャリアを形成し、社会貢献する意欲をもっている人
- 自分自身で課題を見つけ、その課題を主体的に解決し成果をあげた実績がある、あるいは解決する意志がある人
- 専門分野に関心を持ち、その学修に取り組む意欲がある人
- 専門以外の様々な事柄を学び、また様々な専門や立場を持つ人とのかかわりを通じて、多様な考え方を知り、教養を広げ、深めようとする意欲がある人

取得できる資格

〔資格取得が可能〕	〔受験資格取得が可能〕
中学校教諭一種免許状（理科）（国家資格） 高等学校教諭一種免許状（理科）（国家資格） 博物館学芸員（国家資格）	浄土真宗本願寺派教師資格（任関資格）

「好き」からはじめて、「つながる」「ひろがる」環境の学び

～危機感や使命感だけではサステナビリティは実現できない。
みなさんの多彩な「好き」を伸ばして、「ひろげる」多様な体験プログラムを準備。さぁ、冒険をはじめよう～

学びの特徴

4年間を通した体験・共創型PBL「クエスト科目群」(仮称)

専門実習に加え、主体的な学びやチームで協働する姿勢などを育むとともに、リアルな現場での体験や経験を通して知識・技能の定着を図ることを目的とする体験・共創型のPBL科目「クエスト科目群」を提供します。これらの科目は、学修の進度に合わせて１年次から４年次まで体系的に開講し、座学とクエスト科目群とを行き来することで、実践的に課題解決に向き合うことのできる人材を育成します。

1年次　暮らしと自然が交錯する「琵琶湖」の環境問題に触れ、プロジェクトチームを組んで課題解決に挑む
「沖縄」「釧路湿原」「台湾」「タイ」等の生物多様性のホットスポットを訪ね、"Nature's Contribution to People"(○○がもたらすもの)を実感する

2年次　企業・団体等と連携し、多種多様なフィールドのリアルな課題にチームで挑む

3・4年次　２年間の研究室配属を通じて、専門的なテーマ探求と科学的なアプローチの主役となる

※上記は、現時点での計画であり、今後、内容に変更が生じる可能性があります。

プログラムの特徴

環境工学・生物多様性科学および経済・経営学など、複数の切り口からあなたの得意分野や興味にあわせて学びを選び、
サステナブルな社会を切り開きます。

※写真はイメージです。

地域デザインプログラム

地域コミュニティに着目し、自然資本をベースとした地域の資本や地域経営について学び、地域の資本を適正に認識して持続的に発展していけるように地域をデザインする方策について考えます。

資源循環利用プログラム

社会経済活動に伴って排出される廃棄物に着目し、廃棄物処理の適正化や資源としての循環再利用について学び、循環経済の実現方策について考えます。

ネイチャーポジティブ経営プログラム

企業などの組織に着目し、生物多様性の定量化方法や生物多様性喪失が組織経営に及ぼす影響について学びネイチャーポジティブを組織経営に連携させる方策について考えます。

持続的水資源管理プログラム

すべての生命を支える水資源に着目し、水環境保全や水資源利用に係る技術的、社会経済的システムについて学ぶとともに、持続的な水資源管理のあり方について考えます。

生物多様性回復プログラム

生態系とそれを支える生物多様性、さらには社会経済活動との相互作用について学び、生物多様性の保全・回復と社会経済活動との共存方策について考えます。

卒業後の進路

あなたの「好き」が進路を「ひろげ」、サステナブルな社会に「つながる」

サステナビリティの推進に注力する企業は多く、事業形態や規模を問わず、卒業後の進路となることが想定されます。
加えて、環境プラントエンジニアや建設土木・環境コンサルタント、環境NGO、地方自治体の職員など、環境・サステナビリティを軸とした幅の広いキャリアが考えられます。

（めざす職業・進路）
■ 公務員　■ 環境NGO・NPO職員　■ 企業の企画・経営部門　■ 教諭（理科）　■ 環境プラントエンジニア（水処理・廃棄物処理など）
■ 環境保全技術者・研究者　■ 建設土木・環境コンサルタント　■ 博物館学芸員　■ 環境教育指導員・環境教育インストラクター

設置キャンパスの紹介

設置場所

龍谷大学 瀬田キャンパス 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷１番５

・京阪本線「中書島」駅下車、京阪京都交通バス約30分（直行便）
・JR 琵琶湖線「大津」駅下車、近江鉄道バス約20分（直行便）
・JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車、帝産湖南交通バス約８分（直行便）
・JR 湖西線「大津京」駅下車、近江鉄道バス約30分（直行便（大津駅経由））

JR京都駅	→	瀬田キャンパス	約30分
JR大阪駅	→		約60分
京阪 枚方市駅	→		約60分

初年度学費（他大学含む）

大学・学部・学科	入学金	授業料	教育充実費等（施設費は除く）	初年度学費
龍谷大学 環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）*	260,000	1,239,000	143,600	1,642,600
立命館大学 理工学部　環境都市工学科	200,000	1,771,600	0	1,971,600
同志社大学 理工学部 環境システム学科	200,000	1,320,000	252,000	1,772,000
近畿大学 理工学部 社会環境工学科	250,000	1,462,000	0	1,712,000
武庫川女子大学 環境共生学部 環境共生学科	200,000	1,120,000	308,000	1,628,000
滋賀県立大学 環境科学部 環境生態学科	282,000（滋賀県内者の額）	535,800	0	817,800

*龍谷大学 環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）の学費は予定です。
※他大学における上記学費は各大学ホームページ等掲載情報に基づきます（2025年4月時点）。
※その他、諸会費が必要な場合があります。

環境サステナビリティ学部（仮称）特設WEBサイト

龍谷 環境サステナビリティ学部
https://www.ryukoku.ac.jp/newf2/

※詳細は随時公開。

RYUKOKU UNIVERSITY

（龍谷大学 瀬田キャンパス総務室）〒520-2194　大津市瀬田大江町横谷１番５　Tel 077-544-7218（平日 9:00～17:00）

◯ 資料を確認しました

龍谷大学「情報学部情報学科（仮称）」
「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」
設置構想についての高校生アンケート（対象：高校２年生の皆さん）

問６　龍谷大学が2027（令和9）年度に設置構想中の以下の学部学科のうち、あなたはどちらの学部に興味がありますか。次より1つ選択してください。

◯ ①情報学部情報学科（仮称）

◯ ②環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）

問７　問６で興味があるとされた学科の受験を希望しますか。次より1つ選択してください。

◯ ①第一志望として受験する

◯ ②第二志望として受験する

◯ ③第三志望以降として受験する

◯ ④受験しない

問８　上記、問７で①～③を選択した方に質問です。
問６で興味があるとされた学部学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より1つ選択してください。

◯ ①入学する

◯ ②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する

◯ ③入学しない

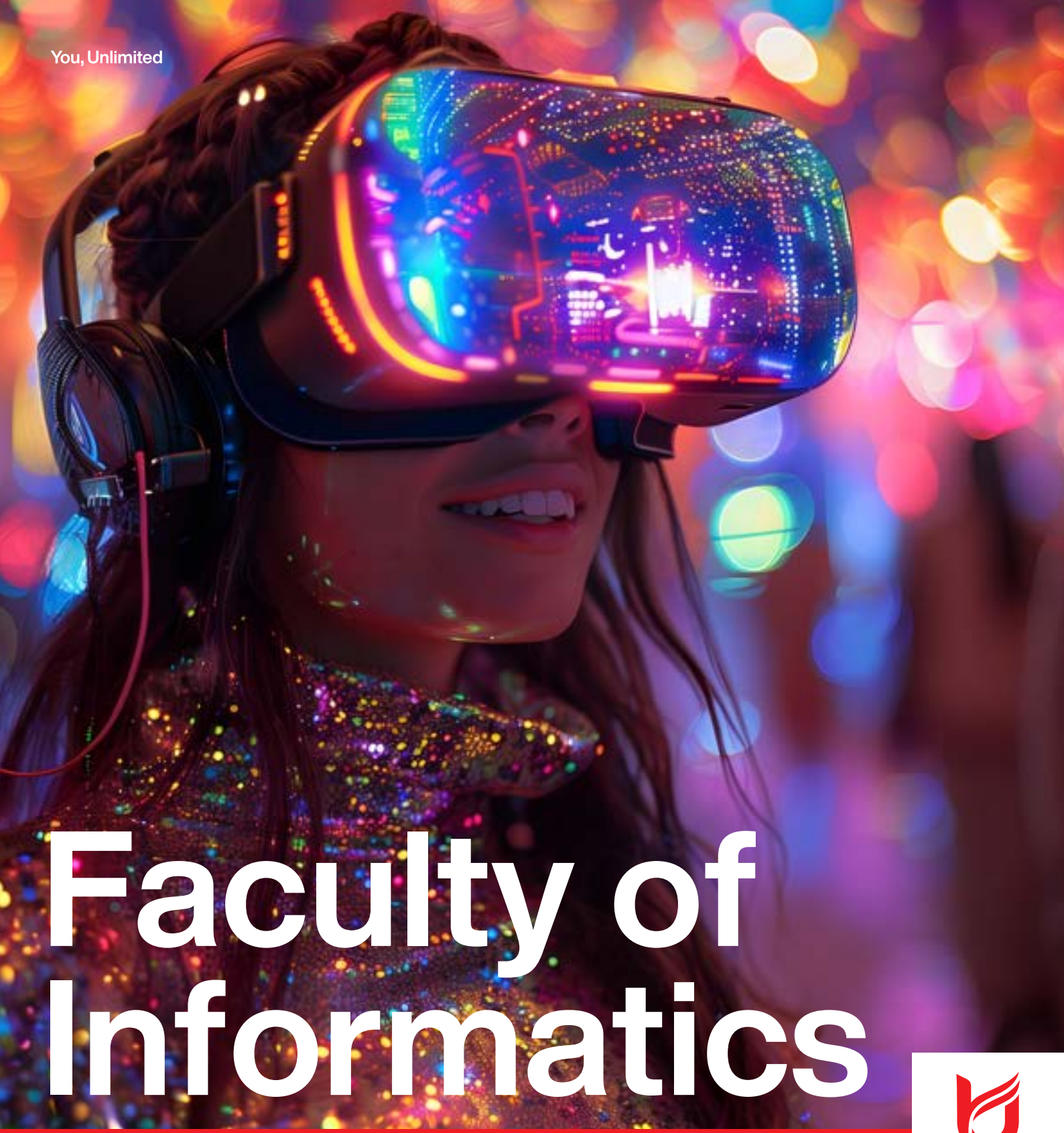
質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

龍谷大学

「情報学部 情報学科（仮称）」

「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」

概要



Faculty of Informatics

RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学
情報学部 情報学科（仮称・設置構想中）

2027年4月 開設予定

※設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

龍谷大学 情報学部 情報学科(仮称・設置構想中)

龍谷大学が構想している、情報学部(仮称)の概要です。　※本内容は現時点での計画であり、今後、内容に変更が生じる可能性があります。

学部・学科 概要

先端理工学部 知能情報メディア課程における教育・研究実績を踏まえつつ大幅に発展(入学定員を103名から130名に増員)

学部・学科等の名称	入学定員	学位	学位分野
情報学部 情報学科(仮称・設置構想中)	130名	学士(情報学)	工学

設置の理念

情報技術の急速な進展は、日常生活から産業のあり方に至るまで、社会のさまざまな側面に大きな影響を与えています。特に、人工知能(AI)、IoT、ビッグデータ解析、クラウドコンピューティングといった分野は、医療、製造、金融、流通、公共サービスなど、さまざまな産業分野で不可欠な技術基盤として深く浸透しており、今や社会のインフラの一部となりつつあります。その結果、デジタル社会の中で情報学の知識と技術は、一部の専門職に限らず、あらゆる分野において基礎的かつ必須のスキルと認識されるようになってきています。こうした状況を踏まえ、理系・文系を問わず基礎から応用まで幅広く情報学を学ぶことのできる環境を提供し、社会的要請や産業界のニーズに応え得る実践的な情報技術者を育成します。

養成する人材像

建学の精神に基づいて、情報技術と人、社会、自然との調和を重視し、幅広い教養と情報学の基礎知識・技能を修得することで、実践的な専門家として情報社会の発展に寄与し、新しい社会の創造にも積極的に携わる情報技術者を育成します。

アドミッション・ポリシー

情報学部(仮称)では次のような人が入学することを求めています。

■知識・技能の修得

専門分野を学ぶのに必要な知識・能力を備え、大学生活を通して成長しようとする意欲を有する人

■「思考力・判断力・表現力」の発展・向上

既成概念にとらわれず、課題を発見・解決に挑戦し、情報社会の変化に意欲的に取り組むことができる人

■「主体性・多様性・協働性」の発展・向上

- 専門分野に強い関心を持ち、協働を通して学びを深め、多様な考え方を尊重できる人
- 情報学への強い関心と意欲を持ち、粘り強く学び続け、コミュニケーションを大切にできる人
- 主体的に学び、情報収集・分析を行い、論理的に思考し、課題解決に取り組む態度を有する人

「境界線をなくし、循環を生み出す」共創と変革を先導するキャンパスへ

幅広い学びの実現

学びの特徴

情報×「○○」（例）情報×医療　情報×健康　情報×スポーツ　情報×衛星データ　など

オープンデータや蓄積された膨大なデータを基に、データ思考をベースとした課題発見力や課題解決力を修得します。また、理系・文系を問わず人工知能（AI）を駆使して、人間の行動に関するデータ等を解析することで、人間の行動や嗜好を予測するモデルを構築し、新たなサービスの創出につなげるための知識や技術を体系的に学びます。

「未来共創ラボ演習」（仮称）

プログラミング、情報セキュリティ、データサイエンスは必修、そのうえで学修者の興味関心に応じて幅広く学ぶことができます。
（選択科目は、すべての専攻の科目を横断的に履修可能）

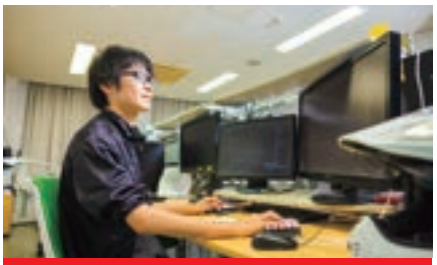
「異なる立場の人とのつながり」を生むことを目指し、低年次から研究の一部を体験する「未来共創ラボ演習」（仮称）による学生の学年を超えた主体的・対話的な深い学びを提供します。

多様な学びを体現する３専攻分野

※写真はイメージです。

情報メディア専攻

画像や音声などのメディア処理に加え、CGやVR、XR技術、ゲームやインタラクティブコンテンツのデザイン手法について体系的に学びます。モーションキャプチャなど多様なセンシング技術やAIの普及を踏まえた次世代のメディアを設計・開発・分析する力を養います。



知能情報システム専攻

データベースやネットワークシステム、ソフトウェア工学など情報システムの基盤技術に加え、人工知能（AI）や機械学習などの技術を応用した次世代の知能化された情報システムの設計・開発について体系的に学びます。

実践データサイエンス専攻

オープンデータや蓄積された膨大なデータを基に、データ思考の課題発見力や課題解決力を養います。データの可視化、統計解析、機械学習などの技術を駆使して、課題解決につながる予測モデルの構築や新たな価値・サービスの創出について体系的に学びます。

実践的な学び（３つの専攻を横断する学び）

■３つの専攻を横断する学びを、「総合実習」等で実現

■単なる要素技術の学習だけでなく、実践的な学び

- ヘルスデータのデータサイエンスに基づく処理とその結果を表示するアプリ作成
- スマートハウスを想定した人工知能（AI）による顔認証と家族の伝言や帰宅予定時間を表示するアプリ作成
- 企業の技術者を講師に迎えて、人工知能（AI）による工業製品の不良品検出システムの構築

取得できる資格

〔資格取得が可能〕

高等学校教諭一種免許状（情報）〔国家資格〕

〔受験資格取得が可能〕

浄土真宗本願寺派教師資格〔民間資格〕

卒業後の進路

情報学を通じて修得する専門知識・スキルは、情報産業やメーカーはもちろん、金融、コンサルティング、データに基づく政策立案力を有する公務員やマーケッター、建設、自動車、医療など様々な産業界で必要とされています。

〈めざす職業・進路〉

- ■音響、画像、ゲーム関連企業
- ■システムエンジニア（SE）
- ■情報セキュリティ関連企業
- ■ソフトウェア開発者
- ■データサイエンティスト
- ■スポーツアナリスト
- ■システムインテグレーター

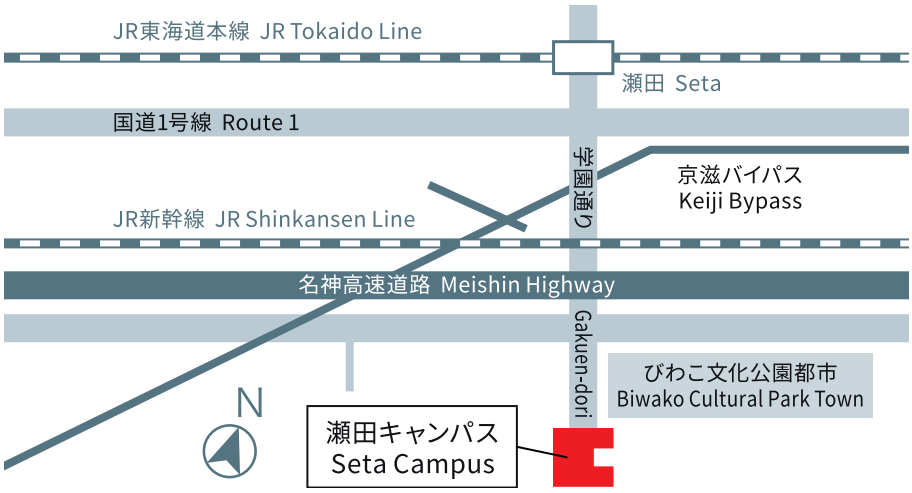
設置キャンパスの紹介

設置場所

龍谷大学 瀬田キャンパス　〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷１番５

- 京阪本線「中書島」駅下車、京阪京都交通バス約30分〈直行便〉
- JR 琵琶湖線「大津」駅下車、近江鉄道バス約20分〈直行便〉
- JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車、帝産湖南交通バス約８分〈直行便〉
- JR 湖西線「大津京」駅下車、近江鉄道バス約30分〈直行便（大津駅経由）〉

瀬田キャンパス
- JR京都駅 → 約30分
- JR大阪駅 → 約60分
- 京阪 枚方市駅 → 約60分



初年度学費（他大学含む）単位(円)

大学・学部・学科	入学金	授業料	教育充実費等（諸会費は除く）	初年度学費
龍谷大学 情報学部 情報学科（仮称）※	**260,000**	**1,239,000**	**143,600**	**1,642,600**
立命館大学 情報理工学部 情報理工学科	200,000	1,771,600	0	1,971,600
京都産業大学 情報理工学部 情報理工学科	230,000	1,058,000	296,000	1,584,000
近畿大学 情報学部 情報学科	250,000	1,462,000	0	1,712,000
大阪工業大学 情報科学部 データサイエンス学科	250,000	1,290,000	100,000	1,640,000
京都橘大学 工学部 情報工学科	200,000	1,235,000	150,000	1,585,000

※龍谷大学 情報学部 情報学科（仮称）の学費は予定です。
※他大学における上記学費は各大学ホームページ掲載情報に基づきます（2025年6月時点）。
※その他、諸会費が必要な場合があります。

情報学部（仮称）特設WEBサイト

龍谷 情報学部

https://www.ryukoku.ac.jp/newf1/

※続報は随時公開。

RYUKOKU UNIVERSITY

〔龍谷大学 瀬田キャンパス推進室〕 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷１番５ Tel 077-544-7218（平日 9:00～17:00）

You, Unlimited

Sustainability for our future

RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学
環境サステナビリティ学部
環境サステナビリティ学科（仮称・設置構想中）

2027年4月 開設予定

※設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

龍谷大学 環境サステナビリティ学部
環境サステナビリティ学科（仮称・設置構想中）

龍谷大学が構想している、環境サステナビリティ学部（仮称）の概要です。※本内容は現時点での計画であり、今後、内容に変更が生じる可能性があります。

学部・学科 概要

先端理工学部 環境科学課程における教育・研究実績を踏まえつつ大幅に発展。

学部・学科等の名称	入学定員
環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称・設置構想中）	130名

学位	学位分野
学士（環境サステナビリティ学）	工学＋経済学関係（複合分野）

設置の理念

龍谷大学は、創立400年となる2039年に向けた「龍谷大学基本構想400」の下で社会課題解決・価値創造拠点を標榜し、「ネイチャーポジティブ宣言」、「SDGs 宣言」、「カーボンニュートラル宣言」を発出するなど、環境・サステナビリティへの取り組みをより一層推進しています。これらの理念・実績を発展させる形で「サステナブル」「ネイチャーポジティブ」「経営」をキーワードにした学部を設置し、「分野を架橋し文理複眼視点をもとに持続可能な社会の創造に向けて実践的に行動できる人間」を育成することは、本学の理念を具現化し社会の期待に応えるものです。

養成する人材像

建学の精神に基づいて、サステナビリティをめぐる幅広い知識を身につけるとともに、環境工学、生物多様性科学及び経済・経営学に係る専門知、並びにそれらを統合した視点を獲得し、持続可能な社会の創造に向けて、実践的に課題解決に向き合える環境人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

環境サステナビリティ学部（仮称）では、次のような人が入学することを求めます。

■知識・技能の修得

環境問題に強い関心を持ち、持続可能な社会の実現に貢献したいと考える人

■「思考力・判断力・表現力」の発展・向上

理論と実践の両面から環境問題を統合的に理解し、解決策を見出す意欲のある人

■「主体性・多様性・協働性」の発展・向上

- 様々な社会変化に対応し、創造的に問題解決に取り組む姿勢を有する人
- 各専門分野における大学での学修の基盤となる、知識、思考力、判断力、情報収集力（文章読解力）、表現力を有している人
- 大学での学修を通じて自己を成長させ、大学で学んだことを活かして自らのキャリアを形成し、社会貢献する意欲をもっている人
- 自分自身で課題を見つけ、その課題を主体的に解決し成果をあげた実績がある、あるいは解決する意志がある人
- 専門分野に関心を持ち、その学修に取り組む意欲がある人
- 専門以外の様々な事柄を学び、また様々な専門や立場を持つ人とのかかわりを通じて、多様な考え方を知り、 教養を広げ、深めようとする意欲がある人

取得できる資格

〔資格取得が可能〕	〔受験資格取得が可能〕
中学校教諭一種免許状（理科）〔国家資格〕 高等学校教諭一種免許状（理科）〔国家資格〕 博物館学芸員〔国家資格〕	浄土真宗本願寺派教師資格〔民間資格〕

「好き」からはじめて、「つながる」「ひろがる」環境の学び

～危機感や使命感だけではサステナビリティは実現できない。
みなさんの多彩な「好き」を伸ばして、「ひろげる」多様な体験プログラムを準備。さぁ、冒険をはじめよう～

学びの特徴

4年間を通した体験・共創型PBL「クエスト科目群」(仮称)

専門実習に加え、主体的な学びやチームで協働する姿勢などを育むとともに、リアルな現場での体験や経験を通して知識・技能の定着を図ることを目的とする体験・共創型のPBL科目「クエスト科目群」を提供します。これらの科目は、学修の進度に合わせて１年次から４年次まで体系的に開講し、座学とクエスト科目群とを行き来することで、実践的に課題解決に向き合うことのできる人材を育成します。

１年次	暮らしと自然が交錯する「琵琶湖」の環境問題に触れ、プロジェクトチームを組んで課題解決に挑む 「沖縄」「釧路湿原」「台湾」「タイ」等の生物多様性のホットスポットを訪ね、"Nature's Contribution to People"(自然がもたらす価値)を実感する
２年次	企業・団体等と連携し、多種多様なフィールドのリアルな課題にチームで挑む
3・4年次	２年間の研究室配属を通じて、専門的なテーマ探求と科学的なアプローチの主役となる

※上記は、現時点での計画であり、今後、内容に変更が生じる可能性があります。

プログラムの特徴

環境工学・生物多様性科学および経済・経営学など、複数の切り口からあなたの得意分野や興味にあわせて学びを選び、
サステナブルな社会を切り開きます。

※写真はイメージです。

地域デザインプログラム

地域コミュニティに着目し、自然資本をベースとした地域の資本や地域経営について学び、地域の資本を適正に認識して持続的に発展していけるように地域をデザインする方策について考えます。

資源循環利用プログラム

社会経済活動に伴って排出される廃棄物に着目し、廃棄物廃棄の適正化や資源としての循環再利用について学び、循環経済の実現方策について考えます。

ネイチャーポジティブ経営プログラム

企業などの組織に着目し、生物多様性の定量化方法や生物多様性喪失が組織経営に及ぼす影響について学びネイチャーポジティブを組織経営に連接させる方策について考えます。

持続的水資源管理プログラム

すべての生命を支える水資源に着目し、水環境保全や水資源利用に係る技術的、社会経済的システムについて学ぶとともに、持続的な水資源管理のあり方について考えます。

生物多様性回復プログラム

生態系とそれを支える生物多様性、さらには社会経済活動との相互作用について学び、生物多様性の保全・回復と社会経済活動との共存方策について考えます。

卒業後の進路

あなたの「好き」が進路を「ひろげ」、サステナブルな社会に「つながる」

サステナビリティの推進に注力する企業は多く、事業形態や規模を問わず、卒業後の進路となることが想定されます。
加えて、環境プラントエンジニアや建設土木・環境コンサルタント、環境NGO、地方自治体の職員など、環境・サステナビリティを軸とした幅の広いキャリアが考えられます。

〈めざす職業・進路〉

■ 公務員　■ 環境NGO／NPO職員　■ 企業の企画・経営部門　■ 教諭(理科)　■ 環境プラントエンジニア(水処理・廃棄物焼却など)
■ 環境保全技術者・研究者　■ 建設土木・環境コンサルタント　■ 博物館学芸員　■ 環境教育指導員・環境教育インストラクター

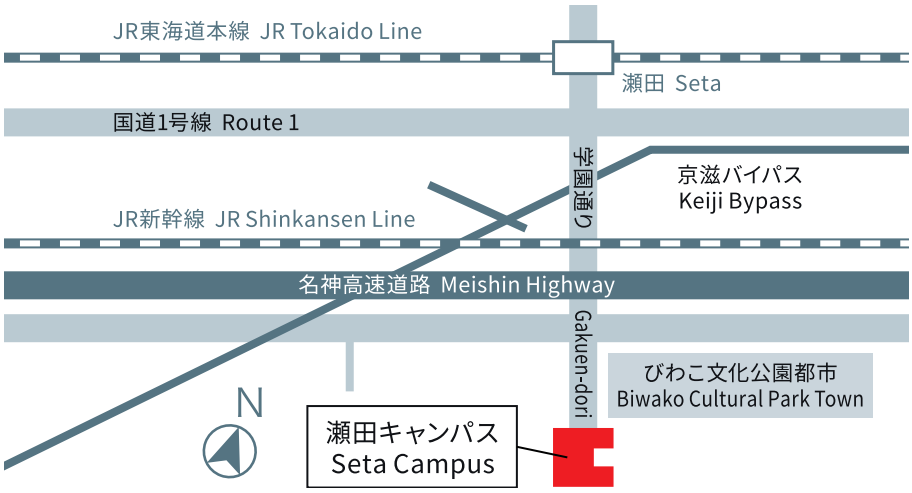
設置キャンパスの紹介

設置場所

龍谷大学 瀬田キャンパス　〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷１番５

- 京阪本線「中書島」駅下車、京阪京都交通バス約30分〈直行便〉
- JR 琵琶湖線「大津」駅下車、近江鉄道バス約20分〈直行便〉
- JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車、帝産湖南交通バス約８分〈直行便〉
- JR 湖西線「大津京」駅下車、近江鉄道バス約30分〈直行便（大津駅経由）〉

瀬田キャンパス
JR京都駅 → 約30分
JR大阪駅 → 約60分
京阪 枚方市駅 → 約60分



初年度学費（他大学含む）単位(円)

大学・学部・学科	入学金	授業料	教育充実費等（諸会費は除く）	初年度学費
龍谷大学 環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科(仮称)※	**260,000**	**1,239,000**	**143,600**	**1,642,600**
立命館大学 理工学部　環境都市工学科	200,000	1,771,600	0	1,971,600
同志社大学 理工学部 環境システム学科	200,000	1,320,000	252,000	1,772,000
近畿大学 理工学部 社会環境工学科	250,000	1,462,000	0	1,712,000
武庫川女子大学 環境共生学部 環境共生学科	200,000	1,120,000	308,000	1,628,000
滋賀県立大学 環境科学部 環境生態学科	282,000（滋賀県内者の額）	535,800	0	817,800

※龍谷大学 環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科(仮称)の学費は予定です。
※他大学における上記学費は各大学ホームページ掲載情報に基づきます(2025年6月時点)。
※その他、諸会費が必要な場合があります。

環境サステナビリティ学部(仮称)特設WEBサイト

龍谷 環境サステナビリティ学部

https://www.ryukoku.ac.jp/newf2/

※続報は随時公開。

RYUKOKU UNIVERSITY
〔龍谷大学 瀬田キャンパス推進室〕 〒520-2194　大津市瀬田大江町横谷１番５　Tel 077-544-7218(平日 9:00～17:00)

資料 7

【 省 略 】

１（書類等の題名）

資料 7　私立大学 一般選抜入学試験志願者 上位 30 大学（過去 5 年間）

２（出典）

豊島継男事務所 一般選抜志願状況レポート

以 上

資料８

【 省 略 】

１（書類等の題名）

資料８　進学ブランド力調査 志願度ランキング 関西エリア＜全体＞（過去５年間）

２（出典）

株式会社リクルート リクルート進学総研　進学ブランド力調査

以　上

資料9

龍谷大学

「情報学部 情報学科（仮称）」

「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」

設置構想についての人材需要アンケート調査

報告書

令和8年1月
株式会社高等教育総合研究所

1.人材需要アンケート調査 概要

調査目的	令和9年（2027年）度に龍谷大学が設置構想中の「情報学部 情報学科（仮称）」（入学定員130人）、「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」（入学定員130人）における卒業後の採用・就職（人材需要）の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	[調査対象] 龍谷大学卒業生の採用実績がある、または龍谷大学へ求人票を送付した実績を有し、新学部において想定される卒業後の進路に合致する地方公共団体や企業等 [業種]　情報通信業、IT関連業、建設業、公務などを主とする幅広い業種 [調査地域]　主に関西および東京近郊を中心とするエリア [依頼件数]　3,002件
調査内容	・回答対象先の基本情報（所在地・業種・従業員／職員規模） ・龍谷大学「情報学部 情報学科（仮称）」「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」卒業生の人材ニーズ ・龍谷大学「情報学部 情報学科（仮称）」「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」卒業生の採用意向
調査時期	令和7年10月～12月
調査方法	調査対象事業所に対し依頼状を郵送しWEBフォームからのアンケート実施を依頼。
回収件数	有効回答数669件（回収率22.3%）

2.人材需要アンケート調査 集計結果

※「回答割合」（%）はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問１　貴社の本社または貴団体の本部所在地について、お答えください。

選択肢	回答数	回答割合
北海道	2	0.3%
青森県	0	0.0%
岩手県	0	0.0%
宮城県	4	0.6%
秋田県	0	0.0%
山形県	0	0.0%
福島県	4	0.6%
茨城県	6	0.9%
栃木県	2	0.3%
群馬県	1	0.1%
埼玉県	12	1.8%
千葉県	4	0.6%
東京都	241	36.0%
神奈川県	31	4.6%
新潟県	7	1.0%
富山県	5	0.7%
石川県	5	0.7%
福井県	6	0.9%
山梨県	1	0.1%
長野県	9	1.3%
岐阜県	7	1.0%
静岡県	11	1.6%
愛知県	48	7.2%
三重県	3	0.4%

選択肢	回答数	回答割合
滋賀県	23	3.4%
京都府	36	5.4%
大阪府	118	17.6%
兵庫県	24	3.6%
奈良県	4	0.6%
和歌山県	2	0.3%
鳥取県	4	0.6%
島根県	1	0.1%
岡山県	8	1.2%
広島県	18	2.7%
山口県	1	0.1%
徳島県	1	0.1%
香川県	3	0.4%
愛媛県	0	0.0%
高知県	1	0.1%
福岡県	9	1.3%
佐賀県	1	0.1%
長崎県	1	0.1%
熊本県	0	0.0%
大分県	2	0.3%
宮崎県	0	0.0%
鹿児島県	3	0.4%
沖縄県	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	669	100.0%

問２　貴社・貴団体の業種（主な事業内容）として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
農業、林業、漁業、鉱業	3	0.4%
建設業	105	15.7%
製造業	96	14.3%
電気・ガス・熱供給・水道業	10	1.5%
情報通信業、IT関連業	273	40.8%
運輸業、郵便業	2	0.3%
卸売業、小売業	85	12.7%
金融業、保険業	6	0.9%
不動産業、物品賃貸業	3	0.4%
学術研究、専門・技術サービス業	13	1.9%
宿泊業、飲食サービス業	1	0.1%
生活関連サービス業、娯楽業	8	1.2%
教育、学習支援業	9	1.3%
医療、福祉	0	0.0%
その他サービス業	20	3.0%
国家公務	0	0.0%
地方公務	19	2.8%
非営利団体	0	0.0%
その他	16	2.4%
無回答	0	0.0%
合計	669	100.0%

問３　貴社・貴団体の従業員・職員規模として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
20名未満	15	2.2%
20名以上50名未満	69	10.3%
50名以上100名未満	92	13.8%
100名以上300名未満	197	29.4%
300名以上1,000名未満	168	25.1%
1,000名以上	128	19.1%
無回答	0	0.0%
合計	669	100.0%

問４　龍谷大学が設置構想中の「情報学部 情報学科（仮称）」が養成する人材についての社会的な人材ニーズについてお答えください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
ニーズは高い	356	53.2%
ニーズはある程度高い	249	37.2%
ニーズはあまりない	25	3.7%
ニーズはない	6	0.9%
わからない	33	4.9%
無回答	0	0.0%
合計	669	100.0%

問５　龍谷大学が設置構想中の「情報学部 情報学科（仮称）」が養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
採用したい	509	76.1%
採用しない	9	1.3%
わからない	151	22.6%
無回答	0	0.0%
合計	669	100.0%

問６　問５で「採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
1人	164	32.2%
2人	138	27.1%
3人	64	12.6%
4人	17	3.3%
5人以上	126	24.8%
無回答	0	0.0%
合計	509	100.0%

※問６の回答割合は問５で「採用したい」を選択した509事業所を全回答者数として算出。

問７　龍谷大学が設置構想中の「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」が養成する人材についての社会的な人材ニーズについてお答えください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
ニーズは高い	175	26.2%
ニーズはある程度高い	275	41.1%
ニーズはあまりない	70	10.5%
ニーズはない	17	2.5%
わからない	132	19.7%
無回答	0	0.0%
合計	669	100.0%

問８　龍谷大学が設置構想中の「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」が養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
採用したい	327	48.9%
採用しない	42	6.3%
わからない	300	44.8%
無回答	0	0.0%
合計	669	100.0%

問９　問８で「採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
1人	139	42.5%
2人	76	23.2%
3人	37	11.3%
4人	6	1.8%
5人以上	69	21.1%
無回答	0	0.0%
合計	327	100.0%

※問９の回答割合は問８で「採用したい」を選択した327事業所を全回答者数として算出。

※龍谷大学の本構想について期待される点、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

番号	回答
1	どちらの学部学科も、これからの社会に必要な知識を学べそうだと感じました。実際に社会に活かせる活動を是非行っていってほしいと思います。
2	情報学部では、プログラミングや情報セキュリティが必須科目ということで、ITに強い人材が育成されることを期待しております。
3	良い人財を採用したいと思いますので学内説明会等がございましたら是非ともお声掛けください。
4	この度は新学部設置のご案内をいただきありがとうございました。 情報学部情報学科のカリキュラム内に情報セキュリティに関するテーマも扱われる予定とのことで、将来的にサイバーセキュリティ業界、さらに当社にもご興味を持ちいただける学生の方がいらっしゃるとありがたいと感じます。 弊社の採用要件としては学部学科学歴不問で何かしらの言語でのプログラミングスキルが必要とさせていただいておりますが、そのほかセキュリティ業界の業務に取り組む際にはコンピュータサイエンスの知識や低レイヤの知識が活かせるかと思いますので講義でも扱っていただけますと幸いです。 また、弊社では低学年の方でもご参加いただけるオープンカンパニー・キャリア教育をオンライン開催しておりますので、将来的にご興味をお持ちいただけそうな学生の方がいらっしゃいましたらお気軽にご連絡ください
5	システムエンジニアは、主体性、チームで協働する力が必要です。是非、学生時代にいろいろな経験をしていただきたいです。
6	当社は、建設業の土木工事をメインにしている会社である。環境サステナビリティ学部から、建設の土木に進んでくれる学生が出れば嬉しいし、ぜひ当社に入社してほしい。
7	学内説明会など開催の予定があるようでしたら是非チャンスを頂けますと幸いです。 今後ともよろしくお願い申し上げます。
8	貴校卒業生の社員が多数おり、若手から非常にご活躍されております。情報学部情報学科につきましては、現代社会全体での市場価値も高く、弊社業務にも直接活かしていただけるスキルが身につくのではと、大変興味深い内容でした。今後ともよろしくお願いいたします。
9	情報学部に期待しています！
10	技術と人をつなぎ、共感と創造で未来を築くために、自律的に学び、挑戦し、仲間と協働しながら価値を生み出せる人の育成を期待しております。
11	いずれの学部・学科も継続的に社会的ニーズの高い分野だと考えます。 グローバル視点のみではなく、育った地域から製品や情報を発信する地元企業でも活躍の場が大いにありますので、身近な地域と広い社会の結びつきにも着目し、社会に貢献する視野を持った学生様にお会いできることを期待しております。
12	これから先端ＩＴ人材を増やす必要があると思いますので、大いに期待したいと思います。
13	【情報学部について】技術を人のために役立てるのだという想いを持った学生を輩出されることを期待しております。
14	26年卒も優秀な学生様に内定を受諾いただき感謝しております。新設の学部を発足されるとの事、大変期待しております。今後ともよろしくお願いいたします。
15	「人工知能」、「SDGS」、「カーボンニュートラル」などについて、これからの未来を迎える中で注力しなければならない先進的なテーマと捉えています。現代社会の一員としての役割を感じつつ、広く活躍される人材創出を期待します。
16	基本的なシステム開発やインターネットの知識、情報リテラシーの向上に期待しています。 環境サステナビリティ学科においては、地域が抱える問題を見える化して地域課題解決の糸口となるような人材を育成してくれることに期待しています。
17	情報学部情報学科について拝見したところ、当社と親和性の高い学問を学ぶことができるようお見受けしました。 弊社は貴学から遠い関東の会社ですが、「東京のSE」でニーズがあった際は、ぜひ思い出していただけますと幸いです。
18	土木の会社です。橋、堤防、道路、地下工事などのインフラを整備することが、地域の安全を守ること、また技術が進歩しICTやAIを使用した施工などを行っていることなど、建設業に興味を持ってくれる学生が増えるといいなと思います。

19	情報学部について、プログラミングを学ぶだけでなく情報学を広く発展させるカリキュラムはとても興味深いと感じました。貴学学生様の応用力や低年次からの未来共創ラボ演習による対話力は現代社会において必要とされている能力だと思います。
20	ITにまつわることで、もしPBL学習や企業連携型の授業などあればぜひ参画してみたいです
21	情報と環境は学生の関心が高い分野で、それをキーワードに就職活動をされている印象があります。 当社はプラントエンジニアリングの会社ですので、特に環境系の学生に応募して頂くことが多いです。また、企業のＤＸへの対応も必須になってきています。それらに親和性の高い学生が増えることを期待しています。
22	DX化していく上でデジタル人材の採用は一定必要と考えております。
23	情報社会の中で情報を使って仕事や生活をする事が必須になっているので、基礎能力を身につける教育を期待したいと思います。 環境面でのニーズは高いので、そこで学んだ知識をどう活かすのかを考える教育を期待します。直接的な仕事は当然だと思いますが、間接的に活かせる仕事もあると思います。 学校の立地を活かした教育（滋賀県や京都府が抱えている環境問題など）も体験してください。
24	知識・技術のみの叩きこみは望みません。日々進化し続けている分野だからこそ、知識・技術より柔軟な考え方や好奇心の育て方をまずは土台にするような教育を望みます。
25	弊社は江戸時代に創業し、建材卸・上下水道資材卸・外壁工事施・杭打工事・携帯電話販売などを手掛ける商社です。営業、施工管理、販売、事務など様々な職種がございますので、貴校で情報や環境を専門的に学んだ学生の皆様がご活躍いただけると考えております。ご興味を持っていただけたら、ぜひ会社見学や企業説明会にご参加いただけますと幸いです。
26	コロナ禍もあり主体的に課題を特定して行動をする経験が学生自身どんどん減ってるなと捉えています。アドミッションポリシーが素敵だなと感じましたし、4年間でそれを体現いただくためのサポートをいただけることを期待したいと感じました。
27	AI産業がフォーカスされる中ではありますが、それをうまく使いこなす、振り回されない人材育成を期待します。 また、IT企業は理系でなくてはならないという先入観を持たず、コミュニケーションをはかりながら業務を遂行できる能力の醸成を期待します。
28	今後更に深刻化されると思われるIT人材不足と環境に配慮した活動に寄与できる人材の育成に大いに期待いたします。
29	ITベンチャー企業で頑張りたい方を採用したいと思います。
30	当生協は、環境サスティナビリティ政策に取り組んでおり、環境のことやSDGsについての活動をしておりますので共感いただける学生が増えることは大変嬉しいです。
31	サスティナビリティについて。当社は、雪という自然冷熱エネルギーを活用しています。そういった研究も一選択肢となり、より幅広い分野での興味と知識を持てる教育をして頂き、社会に送り出して頂きたいと思います。
32	生鮮青果を取り扱うので、貴学の環境サステナビリティ学部・学科と関連性があると思います。
33	将来のＩＴ人材の不足を補うためにも、ニーズの高い人材となる教育を期待いたします。
34	建設の知識も学ぶことができる講義などあれば尚良いです。
35	弊社は土木・建築（建築については愛知県のみ）の施工管理を行う専業者です。貴学学部学科の皆さまにおいては土木建築業界において将来的に必要な人材になると考えております。その際はよろしくお願いいたします。
36	ソフトウェア開発を生業にしているため、プログラミング経験者の応募に期待しております。 また未経験者も受け入れておりますので、継続して学習する力と論理的思考力の教育に期待いたします。
37	3年前にも貴校の優秀な生徒さんを採用させていただき、とても印象が良く当社でも活躍してもらえている貴重な人材となっています。他校と比べると質の違い、考え方の違いに差があり推薦してもらうシステムを構築してほしいです。 例えば、企業が実際の職場環境や社員の日常を動画で紹介し、学生がそれを視聴した上で自分の価値観に合致する企業をキャリアセンターに登録するシステムはいかがでしょうか。 キャリアセンターが学生の適性を考慮して企業に推薦することで、入社後のミスマッチを防ぎ、早期離職率の低減にもつながります。
38	貴学に新設予定の学部・学科におかれましては、実践的な課題解決に取り組む姿勢や、新たな社会の創造に積極的に関わっていく力を育む、非常に意義深い学びの場であると感じております。 そうした環境で培われた力や知見は、弊社が求める人物像と高い親和性を有しております。また、貴学の教育プログラムや専攻を通じて養われた力を、学生の皆様が今後、弊社はもとより、さまざまな企業・組織においても存分に発揮され、ご活躍されることを心より期待申し上げます。

39	環境サスティナビリティ学部環境サスティナビリティ学科の設置構想は、弊社が行っております事業にとてもマッチしており、養成される人材の採用や業務におけるご活躍に期待しております。
40	当社は地域を守り、地域と共生しながらも町の発展を支えたいと考えながら採用を行っている建設業です。この様な理念や思いに賛同までは至らずとも、一定の理解や共感を持ってくれるような学生様が増えると幸甚に存じます。
41	専門的知識の習得、 主体性をもち行動する力
42	新しく設置される２学科とも社会的に求められている学科であると思いますが、その分、他校にない特異性のある教育がますます求められています。
43	卒業後、具体的にどのような職種を希望されるのか聞いてみたい。
44	当社内部では情報処理を行っておらず、他社様にアウトソーシングをしている現状ですので、卒業生を採用するかどうかにつきましては現時点では不明ですが、取引先様等の対応いただける範囲が広がることを期待します
45	航空・宇宙のサプライヤーとして装置の設計・プログラマー、SEとして情報学部情報学科は活躍できると考えております。
46	当社は情報サービスを事業としていますので、情報学部の新設には期待します。静岡県の企業ですが、当県の高校生がどのくらい進学するのか、学校広報にも力を入れていただければと思います。
47	ただの知識ではなく、それをどのように今の社会に、就職した会社に実践で活かしていくのか、常に実践形式でとらえていただきたいと思います。
48	大阪にも拠点がありますので、優秀な学生の皆さんの育成を期待しております。
49	情報学部や環境サステナビリティ学部というのは、まだまだ認知度は低く一般的にどういう学問なのか分からない点が多いと思いますが、貴校がその先駆者となることを期待しています。
50	情報技術を一人称視点で培うだけでなく、顧客視点でどのように活かしていくのか、という観点が社会では求められると思っております。 技術を学んで満足するのではなく、いかにそのスキルを社会に活かしていくのかを考えられる学生を育成いただきたく存じます。
51	環境サステナに関しては直接的なニーズは感じませんが、優秀な学生であれば採用したいです。 情報学部については弊社のニーズが高く、機会があれば是非採用を検討したいと思います。
52	青果流通の学科などの企業研究
53	循環型社会形成に貢献する取り組みをさらに推進することに期待します
54	貴学の環境サステナビリティ学部開設は、まさにこれからの未来を担う学生皆様にとって大切な学びの場になっていくと思います。 弊社の事業内容も、自然環境・生物多様性等、ネイチャーポジティブに直結した事業を展開しております。
55	環境サスティナビリティ学部での目指す職業・進路に、土木施工管理技士を加えて欲しい
56	上記人数については、目安で回答させていただきました。 大学ごとの採用目標人数は設定しておりませんで、ご承知おきいただけますと幸いです。 環境サステナビリティ学部が当社ともマッチ度が高いと思いました。
57	採用を検討しているため、学内企業説明会への機会などいただけますと幸いです。
58	弊社は、限りある資源である「水」に特化し、重要な社会インフラである公共分野の水処理施設の維持管理を中心に事業展開しております。貴学の新学部・学科の理念は、弊社が掲げる『“水”を究め、自然と人間が調和した豊かな環境を創造する』という企業理念と一致しております。環境保全の一翼を担う使命感を胸に、持続可能な社会の構築に寄与する人材の養成を切望します。
59	SE、技術者であったり、コンサルティングコーディネータ（営業職）としてものづくり、製造業の貢献したい学生の皆さんとお会いできることを期待しております。
60	社会や地域の課題解決のため、情報や環境への取り組みが今後益々重要であると存じます。
61	情報学部は当社のIT系ビジネス、環境サステナビリティ学部はサーキュラーエコノミーの実現を目的とした当社のKLESビジネスに高い親和性を感じました。今後ともご高配のほどよろしくお願いいたします。
62	弊社は「IT」と「人材」をキーワードに、 他社とは異なる独自のアプローチから 社会に多様な価値を提供することを目指しています。 挑戦を歓迎する環境をつくり、常に時代の変化を先読みしながら、

	IT人材が主役となる新時代を切り開くことを目指している中で、 貴校の新たな取り組みを大変興味深く感じました。 今後採用においてぜひ情報交換をさせていただければと思いつつ、 貴校の益々のご発展を祈念しております。
63	弊社は、コンクリート構造物を主体とした土木施工管理の会社で、設立以来、鉄道・道路などの社会資本整備に携わって来ました。 貴校の今後を見据えた学校運営が、豊かな学生を育成し、建設業でも活躍されるものと期待します。
64	時代に先立つ構想だと感じてます。 特に貴学の教育は、情報×「○○」、このプラスアルファが強みだと考えています。 弊社の未来を支える人材の応募を強く期待しています。
65	ぜひ、情報技術の専門知識を持った方に受験いただきたいです。
66	IT人財の育成と環境への配慮を捉え、将来を見据えた構想に大いに期待したい
67	弊社はソフトウェア開発の会社ですが、自社製品として環境検査システムを30年以上開発・販売しております。 弊社にとっては情報学部情報学科、環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科は非常に魅力的な学生さんが学ばれると期待いたします。
68	情報の有効活用が求められる時代に、情報を扱える技術者が不足しております。ぜひ、技術者を目指す人材の育成をお願いいたします。
69	いつも優秀な学生様を育成いただきありがとうございます。 より時代にマッチした学部から学生様が当社に興味を持ち選考に参加していただけることを楽しみにしております。 今後ともよろしくお願いいたします。
70	「情報×〇〇（医療・健康・スポーツ・衛星データ等）」という視点を軸にされている点に、大変興味を持っております。 弊社においても、「情報×〇〇」をテーマとした未来インテリジェンスプロジェクトを推進しており、これまでにない新たなサービスの創出に挑戦しておりますが、決して容易ではなく、現在も試行錯誤を重ねている状況です。 そのような中、貴学の学生の皆様が今後、実践的に課題発見力や課題解決力を養っていかれることに、大きな期待を寄せております。
71	BIM/CIMを用いたICT施工が県工事でも導入されているのですが、そのような場面でデータサイエンスの人材が活躍いただけるのか知りたいです。また、広告等の案内がありましたらお知らせいただければ幸いです。
72	ITエンジニアは、文系、未経験問わず採用をしておりますので、必ずしも情報学部でなくて構いません。ただ、AIなどの技術が進むことでより、専門性の高い人材が必須となってくることも確かです。その分野における教育に力を入れていく点は大変良いと思います。
73	独立系の会社でｿﾌﾄｳｪｱの受託開発を行っております。情報学部には非常に興味があり、弊社としては是非、採用させて頂きたいと考えております。 本社は東京ですが、大阪に事業所があります。
74	環境プラントエンジニア（水処理.廃棄物処理）での活躍を期待しております。
75	弊社は情報通信事業（ソフトウェア開発）を行っており、情報学部の開設にはとても期待しております。御校で、システム開発の楽しさや、システムが世の中へ与える大きな影響と可能性を学んだ学生様が、これからの時代を支えてくれることを期待しております。また、そんな学生様と弊社がご縁を結べると大変嬉しく存じます。
76	情報学部情報学科の『低年次から研究の一部を体験する「未来共創ラボ演習」』における学びは、入社後の部門を超えた関わりが必要となるシステム管理職の業務において、大いに活かして頂く事ができるのではないかと期待しております。
77	情報系の学部学科の卒業生を特に採用したく期待致します。
78	専門的に集中して学び切った学生であれば、弊社は学部学科を問わず受け入れる方向で求人活動を続けております。 逆に学生の就活の際には、見聞を深める意識で幅広い業種を検討されるようご指導くださいますと幸いです。
79	弊社は、ソフトウェア開発企業になります。 多様な考えを行える人材は当社でも活躍ができると思います。
80	情報学部・情報学科の新設にあたり、社会とのつながりを意識した学びがより一層促進されることを期待しております。情報分野は社会課題の解決や新たな価値創造に直結する領域であり、学生の皆さんがその意義を実感しながら学びを深めていけるような教育環境が整備されることを願っております。

81	弊社は資源循環ビジネスを行っているため、学生との共同研究や廃棄物処理の適正化、サーキュラーエコノミー実現に向けての知見を互いに取り組めれたらと思いました。
82	生成AIの台頭とともに、学生からもデータサイエンティストの希望者が多くなってきているかと思います。 一方、そうした分野での必要人員は限られており、AIを利用した解析等、人を使わず効率化が図られている点や、まだまだDXの下地が整っていない企業が多く、需要に対する供給過多を懸念しています。 最先端技術としては上記と見込んでおりますが、昔から続くソフトやハードの開発面では需要に対して供給が追いついておらず、今年度に至ってはデータ分析に希望が傾いたためか、更に拍車がかかっている状況です。そうしたことからも、最先端技術を学ぶことを大切にしながらも、基本となる開発技術に対しても同様の知識が得られるよう教育を進めていただけたらと考えます。
83	いつも大変お世話になっております。 物流企画業務やIT企画業務に興味がある学生とのご縁になれば幸甚です。
84	激化する社会の中でAIを駆使できる学生・人材が増えることによって企業もも生き残っていくことができますし、何より学生自身としてもビジネスマンとして市場価値は非常に高いと感じます。 特に当社が求めているスキルを学生のうちに保持できる学部・学科ということで非常に期待が高いです。
85	新しい技術や情報を学んだ学生が、IT業界で活躍させるのをいまから期待しています。
86	情報系に触れる方が増えるとシステム開発に興味を持つ方が増えるので学部が新設されるのを期待しています。
87	情報学部の学生の採用を本年から開始する予定
88	関西圏(兵庫県)活性化のためこの地域に就職する学生が増えて欲しい。 また、製造業に携わって欲しい。
89	弊社は、お土産菓子取り扱う営業職を新卒採用しています。環境サステナビリティ学部の地域デザインプログラムは、地域に根差したお土産の特性と、共通する部分があります。
90	龍谷大学からは、何名か入社いただき活躍もしてくれています。情報学部はまさに当社が必要としている人財ですし、社会的にも必要とされる人だと思いますので、期待しております。今後とも宜しくお願い致します。
91	貴学OB/OGの皆様には大変ご活躍いただいており、現在では社員の10%を占めるほどになりました。厚く御礼申し上げます。さて、この度は新学科のご新設、誠におめでとうございます。 貴学の新たな取り組みに大変期待しております。 新学科の皆様とも、ぜひ良いご縁をいただきたく存じますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。
92	持続可能な社会の創造という側面から水環境やそれを取り巻く施設設計について興味をいだいてくれる学生さんが増えればいいなと思っております。
93	時代の流れの中で、会社内をはじめ社会全体でICT関連の需要は高まっていくものと思います。 また、ゼブラ企業志向が強まっていく中で、サステナビリティに関する知識やノウハウも必須となってくることと思います。
94	新しい学科の開設により、今までよりさらに多様な人財が増えていくと考えております。新たな人財に出会えることは我々にとってもすごく楽しみな部分があります。
95	デジタル技術と環境配慮の両面から、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成を期待しています。弊社では、購買データの分析や情報発信による価値づくり、容器素材の見直しや食品ロス削減など、情報と環境の融合が求められています。情報学とサステナビリティそれぞれで、新たな豊かさを生み出す発想力と実践力を備えた人材の輩出を期待します。
96	弊社の採用において、学部学科は不問で、資格も特に必要としていないため、現時点では、わからない、と回答させていただきましたが、良い出会いがあれば、採用させていただきたいと思います。
97	ネットワークやサーバなどのインフラ教育がされておらず、どのような環境上でシステムが動作しているのかも理解せずAIだのやれなんのと言っている者が多いので、インフラ部分の教育に重点を置いてもらいたい
98	いつもお世話になっています。情報学部につきまして、先端ＩＴ人材と言われるＡＩやＩＯＴについて詳しい人材育成を推し進めていただけるととても良いと思います。いわゆるプログラミング"だけ"できる人材は、今後40年のキャリア形成が難しくなると考えています。
99	情報学科についてはIT技術者とユーザ企業でITを活用できる人材の育成ができれば良いと思います。 サステナビリティ学科についても、社会に対する意識を高められる学科と思いますが、一方でこれだけで就職に結びつけるのは簡単ではないとも感じるので、幅広く知見を身に着けられる環境が重要とも思います。
100	アドミッション・ポリシーに記載されている「思考力」や「主体性」は、社会人になってからもとても大事（必要）な事ですので、能力向上を期待します。

101	ソフトウェアメーカーで開発や研究をしたい学生や、環境などに関心がある学生であれば当社の製品はメーカーも多く、技術Salesで活躍できるかと存じます。修士レベル以上も積極的に採用したく、よろしくお願いいたします。
102	この度はお声がけいただきありがとうございます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
103	社会人即戦力の養成までは難しいとは思いますが、入社前に幅広い基礎知識を修得することは早期戦力の近道になることは間違いありません。自分自身の強み（武器）を身に付け、それをアピールできるような人材育成を期待しております。
104	毎年優秀な学生様の輩出をありがとうございます。 貴学の学生様は当社との相性（社風）もよく、大活躍いただいております。 今回新設される情報学部については、今後のニーズも非常に高く、興味深いです。 今後とも、よろしくお願いいたします。
105	弊社に限らず、日本では、IT情報系の人材が圧倒的に不足しています。国際競争力を持つためにも、再び日本経済再生の観点からも、情報系人材の育成は喫緊の課題であり、是非情報学部を設置いただき、優秀な人材を社会に排出していただくことを願っています。
106	地球規模で、環境問題を捉えて、社会に貢献したいと考えて行動ができる学生を期待しています。
107	「主体性・多様性・協同性」の発展・向上をアドミッションポリシーに掲げられ、弊社としてもテーマと掲げる内容になります。そのような指導体制の下で過ごされた学生様は、学部を問わず是非ご入社いただきたいと考えております。
108	当社でもAiのプロジェクトはすすんでいますが、資本ベースにいまある技術を 最適化することになります。そのため aiとは応用のようなもので、基礎の理解が乏しければ間違ったものを、構築してしまいます。温故知新とはよくいったもので、基礎の学びの意味も重要な位置においていただければと思います
109	ITAI職の採用をしているため、AIについての専門知識がある学生を育成いただきたいと考えます。
110	専門的な知識以外についても、以下の点において社会に出ても 通用する人材の育成に期待しております。 ・物事に対する見方や思考力、イメージ力 ・コミュニケーション能力（話す、聞く、理解する）
111	志が高く、柔軟な発想ができ、新たな挑戦ができる人材の育成に期待しています。
112	このたびの新学部設置のご構想につきまして、心より期待申し上げます。 弊社グループの事業領域が多岐にわたりますため、情報学部 情報学科で学ばれた学生の皆様には、弊社グループの主力事業のひとつであるデジタルソリューション事業において、とくに技術開発などの分野でご活躍いただけると期待しております。 環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科で学ばれた皆様には、近年弊社グループが強化している環境課題の解決に向けた温暖化対策ソリューションなどにおいて、新たな価値創造を担っていただけると期待しております。 ※補足事項 弊社の新卒採用は、グループ企業による合同募集を行っております。そのため、問3につきましては、グループ連結での従業員規模について回答させていただきました。 採用可能人数につきましては、弊社グループ全体の採用規模が毎年5～6名ほどでございまして、選考状況に合わせまして、柔軟に検討をさせていただくかたちになるかと存じます。
113	設置理念に掲げられている「理系・文系を問わず、基礎から応用まで幅広く情報学を学べる環境を提供し、ニーズに応え得る実践的な情報技術者を育成する」という方針に深く共感いたしました。今後の取り組みに大いに期待しております。
114	学問によって視野を広げ、高校までの学習では出会えなかった様々な知識や感覚を学ぶ機会を学生に提供していただきたいと考えます。大学授業や部活・サークル、研究室などで様々な人とかかわることで、社会に出る上で必須なコミュニケーション能力やチームワークを鍛え、４年間を社会に出るための準備期間としていただければと思います。キャリア学習では、普段の生活の中で目にするような事業だけではなく、裏方を含めいろいろな事業を学ぶことで、社会に対する視野を広げる教育をしていただければ幸いです。
115	「仏教の精神」を基盤とし、歴史を持ちながら、「共生」の精神で国際交流を重視されてきた貴学の伝統と照らし合わせてみても、今後特に、世界的にも望まれる分野の学問領域として、需要の高まりとともに、活躍する人材の育成が急務になるであろうと感じました。 文理を超えた「本当に必要とされる人材とはどのような人物像なのか」「それを形作る構成要素は何なのか」といった、普遍的な課題感の解決に向けて、この貴学の新たなチャレンジが第一歩になるものと信じております。

3.人材需要アンケート調査 結果の要点

■情報学部 情報学科（仮称）

採用意向集計結果（「2. 人材需要アンケート調査 集計結果」より）

龍谷大学「情報学部 情報学科（仮称）」で養成する人材のニーズについては「ニーズは高い」356事業所(53.2%)、「ニーズはある程度高い」249事業所(37.2%)で合計すると605事業所(90.4%)がそのニーズの高さを認める結果となった。
また、509事業所(76.1%)が採用意向を示し、その上での採用可能人数(単年度)合計は予定する入学定員130人の10.2倍となる1,330人であった。

問４　養成する人材の社会ニーズ

人材ニーズは高い・ある程度高い	605事業所	90.4%
人材ニーズはない・あまりない	31事業所	4.6%
わからない・無回答	33事業所	4.9%
合計	669事業所	100.0%

問５　卒業生の採用意向

採用したい	509事業所	76.1%
採用しない	9事業所	1.3%
わからない・無回答	151事業所	22.6%
合計	669事業所	100.0%

	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	合計
「採用したい」の回答数	164	138	64	17	126	0	509
採用可能人数計（回答数×採用可能人数）	**164人**	**276人**	**192人**	**68人**	**630人**	**0人**	**1,330人**

※「5人以上」は5人として計算した。

※採用可能人数へ無回答の場合は集計から除外した。

■環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）

採用意向集計結果（「2. 人材需要アンケート調査 集計結果」より）

龍谷大学「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」で養成する人材のニーズについては「ニーズは高い」175事業所(26.2%)、「ニーズはある程度高い」275事業所(41.1%)で合計すると450事業所(67.3%)がそのニーズの高さを認める結果となった。
また、327事業所(48.9%)が採用意向を示し、その上での採用可能人数(単年度)合計は予定する入学定員130人の5.9倍となる771人であった。

問７　養成する人材の社会ニーズ

人材ニーズは高い・ある程度高い	450事業所	67.3%
人材ニーズはない・あまりない	87事業所	13.0%
わからない・無回答	132事業所	19.7%
合計	669事業所	100.0%

問８　卒業生の採用意向

採用したい	327事業所	48.9%
採用しない	42事業所	6.3%
わからない・無回答	300事業所	44.8%
合計	669事業所	100.0%

	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	合計
「採用したい」の回答数	139	76	37	6	69	0	327
採用可能人数計（回答数×採用可能人数）	**139人**	**152人**	**111人**	**24人**	**345人**	**0人**	**771人**

※「5人以上」は5人として計算した。
※採用可能人数へ無回答の場合は集計から除外した。

人材需要アンケート調査WEB画面

龍谷大学「情報学部情報学科（仮称）」「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」設置構想についての人材需要アンケート調査

（対象：人事・採用ご担当者様）

謹啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本学では、令和9(2027)年4月、「情報学部情報学科（仮称）」「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」の設置を構想しております。同学部・学科についての概要資料をご覧の上、採用意向に関する調査にご協力をお願いします。なお、この調査の結果は、統計資料としてのみ用い、他の用途に使用することはありません。また、本構想は予定であり、今後変更となる可能性があります。

※本アンケート調査は龍谷大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※本アンケート調査および概要資料に記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

アンケート調査開始時のお願い 必須

※本アンケート調査への回答は１回のみとなります。本アンケート調査と同一内容の龍谷大学が実施したアンケートに過去に回答した方は回答できません。

☐ 同意して回答する

問１　貴社の本社または貴団体の本部所在地について、お答えください。
必須

選択してください

問２　貴社・貴団体の業種（主な事業内容）として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの１つ） 必須

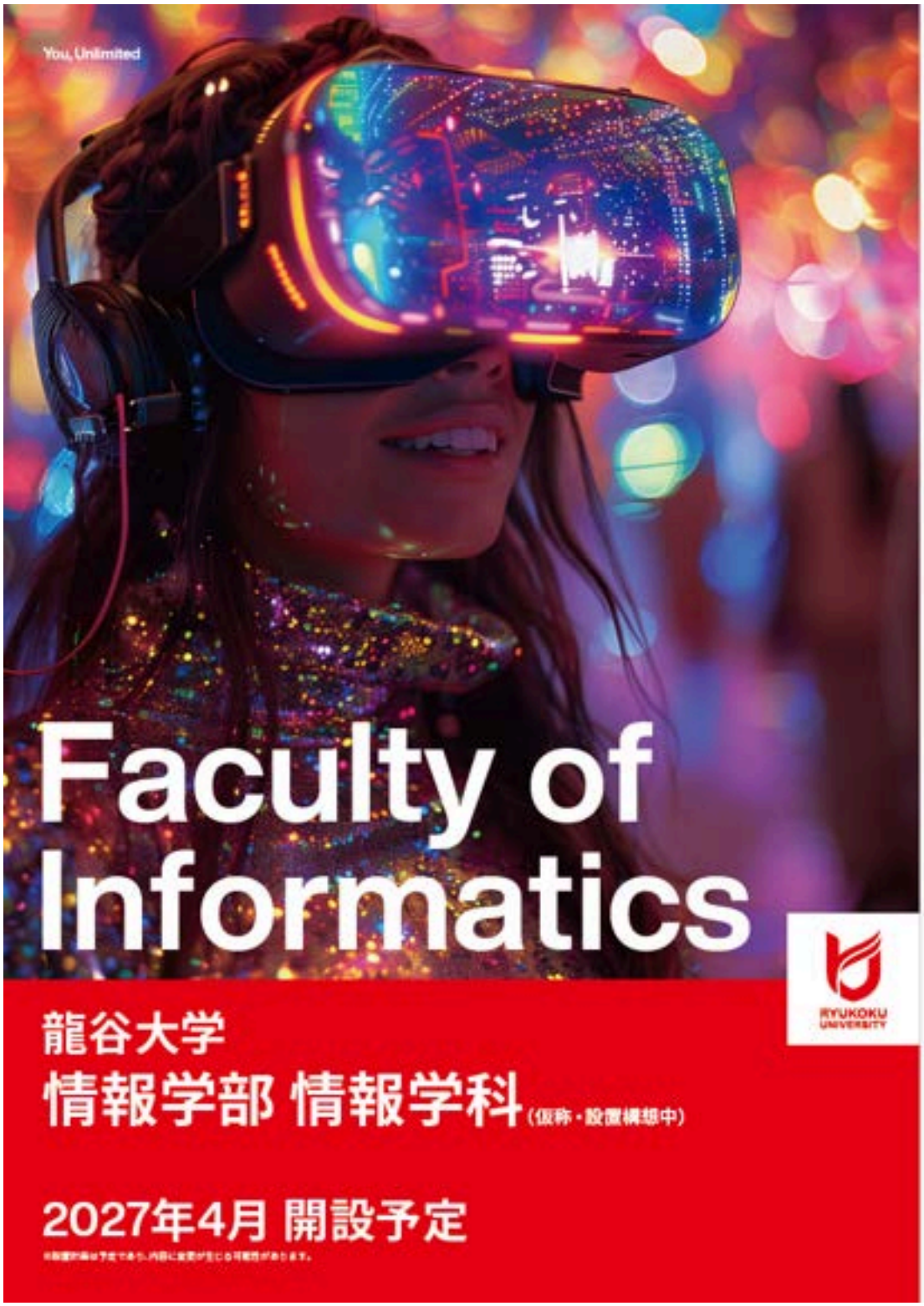
- ○ 農業、林業、漁業、鉱業
- ○ 建設業
- ○ 製造業
- ○ 電気・ガス・熱供給・水道業
- ○ 情報通信業、IT関連業
- ○ 運輸業、郵便業
- ○ 卸売業、小売業
- ○ 金融業、保険業
- ○ 不動産業、物品賃貸業
- ○ 学術研究、専門・技術サービス業
- ○ 宿泊業、飲食サービス業
- ○ 生活関連サービス業、娯楽業
- ○ 教育、学習支援業
- ○ 医療、福祉
- ○ その他サービス業
- ○ 国家公務
- ○ 地方公務

- ◯ 非営利団体
- ◯ その他

問３　貴社・貴団体の従業員・職員規模として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの１つ） 必須

- ◯ 20名未満
- ◯ 20名以上50名未満
- ◯ 50名以上100名未満
- ◯ 100名以上300名未満
- ◯ 300名以上1,000名未満
- ◯ 1,000名以上

ここからは以下・龍谷大学「情報学部情報学科（仮称）」
「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」に関する
概要資料を見てからお答えください


You, Unlimited
Faculty of
Informatics
RYUKOKU
UNIVERSITY
龍谷大学
情報学部 情報学科（仮称・設置構想中）
2027年4月 開設予定

龍谷大学 情報学部 情報学科（仮称・設置構想中）

龍谷大学が構想している、情報学部（仮称）の概要です。　※本内容は現時点での計画であり、今後、内容に変更が生じる可能性があります。

学部・学科 概要

先端理工学部 知能情報メディア課程における教育・研究実績を踏まえつつ大幅に発展（入学定員を 103名 から 130名 に増員）

学部・学科等の名称	入学定員	学位	学位分野
情報学部 情報学科（仮称・設置構想中）	130名	学士（情報学）	工学

設置の理念

情報技術の急速な進展は、日常生活から産業のあり方に至るまで、社会のさまざまな領域に大きな影響を与えています。特に、人工知能（AI）、IoT、ビッグデータ解析、クラウドコンピューティングといった分野は、医療、製造、金融、流通、公共サービスなど、さまざまな産業分野で不可欠な技術基盤として深く浸透しており、今や社会のインフラの一部となりつつあります。その結果、デジタル社会の中で情報学の知識と技術は、一部の専門職に限らず、あらゆる分野において基礎的かつ必須のスキルと認識されるようになってきています。こうした状況を踏まえ、理系・文系を問わず基礎から応用まで幅広く情報学を学ぶことのできる環境を提供し、社会的要請や産業界のニーズに応え得る実践的な情報技術者を育成します。

養成する人材像

建学の精神に基づいて、情報技術と人、社会、自然との調和を重視し、幅広い教養と情報学の基礎知識・技能を修得することで、実践的な専門家として情報社会の発展に寄与し、新しい社会の創造にも積極的に携わる情報技術者を育成します。

アドミッション・ポリシー

情報学部（仮称）では次のような人が入学することを求めています。

■知識・技能の修得
　専門分野を学ぶのに必要な知識・能力を備え、大学生活を通して成長しようとする意欲を有する人

■「思考力・判断力・表現力」の発展・向上
　既成概念にとらわれず、課題を発見・解決に挑戦し、情報社会の変化に意欲的に取り組むことができる人

■「主体性・多様性・協働性」の発展・向上
- 専門分野に強い関心を持ち、協働を通して学びを深め、多様な考え方を尊重できる人
- 情報学への強い関心と意欲を持ち、粘り強く学び続け、コミュニケーションを大切にできる人
- 主体的に学び、情報収集・分析を行い、論理的に思考し、課題解決に取り組む態度を有する人

「境界線をなくし、循環を生み出す」共創と変革を先導するキャンパスへ

幅広い学びの実現

学びの特徴

情報×「○○」（例）情報×医療　情報×健康　情報×スポーツ　情報×気象データ　など

オープンデータや蓄積された膨大なデータを基に、データ思考をベースとした課題発見力や課題解決力を修得します。また、理系・文系を問わず人工知能（AI）を駆使して、人間の行動に関するデータ等を解析することで、人間の行動や嗜好を予測するモデルを構築し、新たなサービスの創出につなげるための知識や技術を体系的に学びます。

「未来共創ラボ演習」（仮称）

プログラミング、情報セキュリティ、データサイエンスは必修、そのうえで学修者の興味関心に応じて幅広く学ぶことができます。
（選択科目は、すべての専攻の科目を横断的に履修可能）

「異なる立場の人とのつながり」を生むことを目指し、低年次から研究の一部を体験する「未来共創ラボ演習」（仮称）による学生の学年を超えた主体的・対話的な深い学びを提供します。

多様な学びを体現する３専攻分野

※写真はイメージです。

情報メディア専攻

画像や音声などのメディア処理に加え、CGやVR、XR技術、ゲームやインタラクティブコンテンツのデザイン手法について体系的に学びます。モーションキャプチャなど多様なセンシング技術やAIの普及を踏まえた次世代のメディアを設計・開発・分析する力を養います。

知能情報システム専攻

データベースやネットワークシステム、ソフトウェア工学など情報システムの基盤技術に加え、人工知能（AI）や機械学習などの技術を応用した次世代の知能化された情報システムの設計・開発について体系的に学びます。

実践データサイエンス専攻

オープンデータや蓄積された膨大なデータを基に、データ思考の課題発見力や課題解決力を養います。データの可視化、統計解析、機械学習などの技術を駆使して、課題解決につながる予測モデルの構築や新たな価値・サービスの創出について体系的に学びます。

実践的な学び（３つの専攻を横断する学び）

■ ３つの専攻を横断する学びを、「総合演習」等で実現

■ 単なる要素技術の学習だけでなく、実践的な学び

- ヘルスデータのデータサイエンスに基づく処理とその結果を表示するアプリ作成
- スマートハウスを想定した人工知能（AI）による顔認証と家族の位置や帰宅予定時間を表示するアプリ作成
- 企業の技術者を講師に迎えて、人工知能（AI）による工業製品の不良品検出システムの構築

取得できる資格

[資格取得が可能]

高等学校教諭一種免許状（情報）（国家資格）

[受験資格取得が可能]

浄土真宗本願寺派教師資格（同胞資格）

卒業後の進路

情報学を通じて修得する専門知識・スキルは、情報産業やメーカーはもちろん、金融、コンサルティング、データに基づく政策立案力を有する公務員やマーケッター、建設、自動車、医療など様々な産業界で必要とされています。

（めざす職業・進路）

■ 音響、画像、ゲーム関連企業　■ システムエンジニア（SE）　■ 情報セキュリティ関連企業
■ ソフトウェア開発者　■ データサイエンティスト　■ スポーツアナリスト
■ システムインテグレーター

設置キャンパスの紹介

設置場所

龍谷大学 瀬田キャンパス　〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1番5

- 京阪本線「中書島」駅下車、京阪京都交通バス約30分（直行便）
- JR琵琶湖線「大津」駅下車、近江鉄道バス約20分（直行便）
- JR琵琶湖線「膳所」駅下車、帝産湖南交通バス約8分（直行便）
- JR湖西線「大津京」駅下車、近江鉄道バス約30分（直行便（大津駅経由））

JR京都駅	→	瀬田キャンパス	約30分
JR大阪駅	→		約60分
京阪 枚方市駅	→		約60分

初年度学費（他大学含む）

大学・学部・学科	入学金	授業料	教育充実費等	初年度学費
龍谷大学 情報学部 情報学科（仮称）*	260,000	1,239,000	143,600	1,642,600
立命館大学 情報理工学部 情報理工学科	200,000	1,771,600	0	1,971,600
京都産業大学 情報理工学部 情報理工学科	230,000	1,058,000	296,000	1,584,000
近畿大学 情報学部 情報学科	250,000	1,462,000	0	1,712,000
大阪工業大学 情報科学部 データサイエンス学科	250,000	1,290,000	100,000	1,640,000
京都橘大学 工学部 情報工学科	200,000	1,235,000	150,000	1,585,000

*龍谷大学 情報学部 情報学科（仮称）の学費は予定です。
※他大学における上記学費は各大学ホームページ掲載情報に基づきます（2025年6月時点）。
※その他、施設費が必要な場合があります。

情報学部（仮称）特設WEBサイト　龍谷 情報学部　https://www.ryukoku.ac.jp/newf1/

※資料は随時公開。

RYUKOKU UNIVERSITY

（龍谷大学 瀬田キャンパス総務室）〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1番5 Tel 077-544-7218（平日 9:00～17:00）

龍谷大学
環境サステナビリティ学部
環境サステナビリティ学科（仮称・設置構想中）

2027年4月 開設予定

※開設計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

龍谷大学 環境サステナビリティ学部
環境サステナビリティ学科（仮称・設置構想中）

龍谷大学が構想している、環境サステナビリティ学部（仮称）の概要です。※本内容は現時点での計画であり、今後、内容に変更が生じる可能性があります。

学部・学科 概要

先端理工学部 環境科学課程における教育・研究実績を踏まえつつ大幅に発展。

学部・学科等の名称	入学定員
環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称・設置構想中）	130名

学位	学位分野
学士（環境サステナビリティ学）	工学＋経済学関係（複合分野）

設置の理念

龍谷大学は、創立400年となる2039年に向けた「龍谷大学基本構想400」の下で社会課題解決・価値創造拠点を標榜し、「ネイチャーポジティブ宣言」、「SDGs宣言」、「カーボンニュートラル宣言」を見出するなど、環境・サステナビリティへの取り組みをより一層推進しています。これらの理念・実績を発展させる形で「サステナブル」「ネイチャーポジティブ」「経営」をキーワードにした学部を設置し、「分野を架橋し文理融眼視点をもとに持続可能な社会の創造に向けて実践的に行動できる人間」を育成することは、本学の理念を具現化し社会の期待に応えるものです。

養成する人材像

分野横断的、超学際的な３つの学問に触れる機会を提供

建学の精神に基づいて、サステナビリティをめぐる幅広い知識を身につけるとともに、環境工学、生物多様性科学及び経済・経営学に係る専門知、並びにそれらを統合した視点を獲得し、持続可能な社会の創造に向けて、実践的に課題解決に向き合える環境人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

環境サステナビリティ学部（仮称）では、次のような人が入学することを求めます。

■知識・技能の修得
環境問題に強い関心を持ち、持続可能な社会の実現に貢献したいと考える人

■「思考力・判断力・表現力」の発展・向上
理論と実践の両面から環境問題を統合的に理解し、解決策を見出す意欲のある人

■「主体性・多様性・協働性」の発展・向上

- 様々な社会変化に対応し、創造的に問題解決に取り組む姿勢を有する人
- 各専門分野における大学での学修の基盤となる、知識、思考力、判断力、情報収集力（文章読解力）、表現力を有している人
- 大学での学修を通じて自己を成長させ、大学で学んだことを活かして自らのキャリアを形成し、社会貢献する意欲をもっている人
- 自分自身で課題を見つけ、その課題を主体的に解決し、成果をあげた実績がある、あるいは解決する意志がある人
- 専門分野に関心を持ち、その学修に取り組む意欲がある人
- 専門以外の様々な領域を学び、また様々な専門や立場を持つ人とのかかわりを通じて、多様な考え方を知り、教養を広げ、深めようとする意欲がある人

取得できる資格

（資格取得が可能）	（受験資格取得が可能）
中学校教諭一種免許状（理科）（国家資格） 高等学校教諭一種免許状（理科）（国家資格） 博物館学芸員（国家資格）	浄土真宗本願寺派教師資格（別院資格）

「好き」からはじめて、「つながる」「ひろがる」環境の学び

～危機感や使命感だけではサステナビリティは実現できない。
みなさんの多彩な「好き」を伸ばして、「ひろげる」多様な体験プログラムを準備。さぁ、冒険をはじめよう～

学びの特徴

4年間を通した体験・共創型PBL「クエスト科目群」(仮称)

専門実習に加え、主体的な学びやチームで協働する姿勢などを育むとともに、リアルな現場での体験や経験を通して知識・技能の定着を図ることを目的とする体験・共創型のPBL科目「クエスト科目群」を提供します。これらの科目は、学修の基礎に合わせて１年次から４年次まで体系的に開講し、座学とクエスト科目群とを行き来することで、実践的に課題解決に向き合うことのできる人材を育成します。

1年次 暮らしと自然が交錯する「琵琶湖」の環境問題に触れ、プロジェクトチームを組んで課題解決に挑む
「沖縄」「釧路湿原」「台湾」「タイ」等の生物多様性のホットスポットを訪ね、"Nature's contribution to People"(自然がもたらす恵み)を実感する

2年次 企業・団体等と連携し、多種多様なフィールドのリアルな課題にチームで挑む

3・4年次 2年間の研究室配属を通じて、専門的なテーマ探求と科学的なアプローチの主役となる

※上記は、現時点での計画であり、今後、内容に変更が生じる可能性があります。

プログラムの特徴

環境工学・生物多様性科学および経済・経営学など、複数の切り口からあなたの得意分野や興味にあわせて学びを選び、
サステナブルな社会を切り開きます。

※写真はイメージです。

地域デザインプログラム

地域コミュニティに着目し、自然資本をベースとした地域の資本や地域経営について学び、地域の資本を適正に管理して持続的に発展していけるように地域をデザインする方策について考えます。

資源循環利用プログラム

社会経済活動に伴って排出される廃棄物に着目し、廃棄物発生の適正化や資源としての循環再利用について学び、循環経済の実現方策について考えます。

ネイチャーポジティブ経営プログラム

企業などの組織に着目し、生物多様性の定量化方法や生物多様性喪失が組織経営に及ぼす影響について学びネイチャーポジティブを組織経営に連携させる方策について考えます。

持続的水資源管理プログラム

すべての生命を支える水資源に着目し、水環境保全や水資源利用に係る技術的、社会経済的システムについて学ぶとともに、持続的な水資源管理のあり方について考えます。

生物多様性回復プログラム

生態系とそれを支える生物多様性、さらには社会経済活動との相互作用について学び、生物多様性の保全・回復と社会経済活動との共存方策について考えます。

卒業後の進路

あなたの「好き」が進路を「ひろげ」、サステナブルな社会に「つながる」

サステナビリティの推進に注力する企業は多く、事業形態や規模を問わず、卒業後の進路となることが想定されます。
加えて、環境プラントエンジニアや建設土木・環境コンサルタント、環境NGO、地方自治体の職員など、環境・サステナビリティを軸とした幅の広いキャリアが考えられます。

（めざす職業・進路）
■公務員 ■環境NGO／NPO職員 ■企業の企画・経営部門 ■教諭（理科） ■環境プラントエンジニア（水処理・廃棄物処理など）
■環境保全技術者・研究者 ■建設土木・環境コンサルタント ■博物館学芸員 ■環境教育指導員・環境教育インストラクター

大学・学部・学科	入学金	授業料	初年度学費
龍谷大学 環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）※	260,000	1,239,000	143,600	1,642,600
立命館大学 理工学部 環境都市工学科	200,000	1,771,600	0	1,971,600
同志社大学 理工学部 環境システム学科	200,000	1,320,000	252,000	1,772,000
近畿大学 理工学部 社会環境工学科	250,000	1,462,000	0	1,712,000
武庫川女子大学 環境共生学部 環境共生学科	200,000	1,120,000	308,000	1,628,000
滋賀県立大学 環境科学部 環境生態学科	282,000	535,800	0	817,800

※龍谷大学 環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）の学費は予定です。
※他大学における上記学費は各大学ホームページ掲載情報に基づきます（2025年6月時点）。
※その他、別途費用が必要な場合があります。

龍谷大学 瀬田キャンパス（総務室） 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1番5 Tel 077-544-7218（平日 9:00～17:00）

◆情報学部情報学科（仮称）についてお聞きします。

問４　龍谷大学が設置構想中の「情報学部情報学科（仮称）」が養成する人材についての社会的な人材ニーズについてお答えください。（あてはまるもの１つ）　必須

- ○ ニーズは高い
- ○ ニーズはある程度高い
- ○ ニーズはあまりない
- ○ ニーズはない
- ○ わからない

問５　龍谷大学が設置構想中の「情報学部情報学科（仮称）」が養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つ） 必須

- ◉ 採用したい
- ○ 採用しない
- ○ わからない

問６　問５で「採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。 必須

- ○ 1人
- ○ 2人
- ○ 3人
- ○ 4人
- ○ 5人以上

◆環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）についてお聞きします。

問７　龍谷大学が設置構想中の「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」が養成する人材についての社会的な人材ニーズについてお答えください。（あてはまるもの１つ） 必須

- ○ ニーズは高い
- ○ ニーズはある程度高い
- ○ ニーズはあまりない
- ○ ニーズはない
- ○ わからない

問８　龍谷大学が設置構想中の「環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科（仮称）」が養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つ） 必須

- ◉ 採用したい
- ○ 採用しない

◯ わからない

問９　問８で「採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。 必須

◯ 1人
◯ 2人
◯ 3人
◯ 4人
◯ 5人以上

※龍谷大学の本構想について期待される点、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。 任意

※宜しければ貴社名をお教えください。こちらは、どの企業にご返送いただいたかを把握するための質問であり、ア ンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・団体が識別できる情報として公表されることはございません。 任意

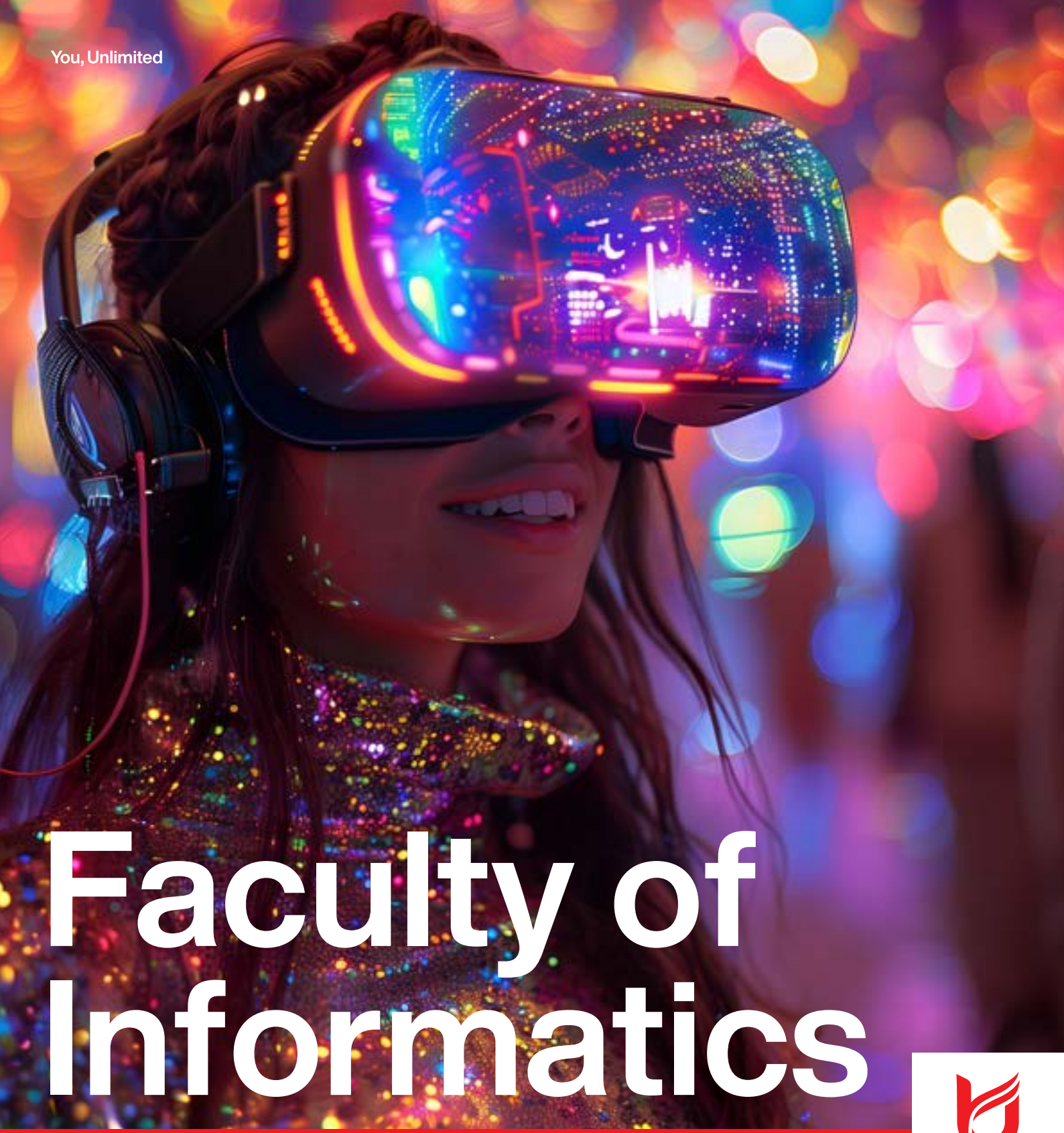
送信

龍谷大学

「情報学部 情報学科（仮称）」

「環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称）」

概要



Faculty of Informatics

RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学
情報学部 情報学科（仮称・設置構想中）

2027年4月 開設予定

※設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

龍谷大学 情報学部 情報学科(仮称・設置構想中)

龍谷大学が構想している、情報学部(仮称)の概要です。　※本内容は現時点での計画であり、今後、内容に変更が生じる可能性があります。

学部・学科 概要

先端理工学部 知能情報メディア課程における教育・研究実績を踏まえつつ大幅に発展(入学定員を103名から130名に増員)

学部・学科等の名称	入学定員	学位	学位分野
情報学部 情報学科(仮称・設置構想中)	130名	学士(情報学)	工学

設置の理念

情報技術の急速な進展は、日常生活から産業のあり方に至るまで、社会のさまざまな側面に大きな影響を与えています。特に、人工知能(AI)、IoT、ビッグデータ解析、クラウドコンピューティングといった分野は、医療、製造、金融、流通、公共サービスなど、さまざまな産業分野で不可欠な技術基盤として深く浸透しており、今や社会のインフラの一部となりつつあります。その結果、デジタル社会の中で情報学の知識と技術は、一部の専門職に限らず、あらゆる分野において基礎的かつ必須のスキルと認識されるようになってきています。こうした状況を踏まえ、理系・文系を問わず基礎から応用まで幅広く情報学を学ぶことのできる環境を提供し、社会的要請や産業界のニーズに応え得る実践的な情報技術者を育成します。

養成する人材像

建学の精神に基づいて、情報技術と人、社会、自然との調和を重視し、幅広い教養と情報学の基礎知識・技能を修得することで、実践的な専門家として情報社会の発展に寄与し、新しい社会の創造にも積極的に携わる情報技術者を育成します。

アドミッション・ポリシー

情報学部(仮称)では次のような人が入学することを求めています。

■知識・技能の修得

専門分野を学ぶのに必要な知識・能力を備え、大学生活を通して成長しようとする意欲を有する人

■「思考力・判断力・表現力」の発展・向上

既成概念にとらわれず、課題を発見・解決に挑戦し、情報社会の変化に意欲的に取り組むことができる人

■「主体性・多様性・協働性」の発展・向上

- 専門分野に強い関心を持ち、協働を通して学びを深め、多様な考え方を尊重できる人
- 情報学への強い関心と意欲を持ち、粘り強く学び続け、コミュニケーションを大切にできる人
- 主体的に学び、情報収集・分析を行い、論理的に思考し、課題解決に取り組む態度を有する人

「境界線をなくし、循環を生み出す」共創と変革を先導するキャンパスへ

幅広い学びの実現

学びの特徴

情報×「○○」（例）情報×医療　情報×健康　情報×スポーツ　情報×衛星データ　など

オープンデータや蓄積された膨大なデータを基に、データ思考をベースとした課題発見力や課題解決力を修得します。また、理系・文系を問わず人工知能（AI）を駆使して、人間の行動に関するデータ等を解析することで、人間の行動や嗜好を予測するモデルを構築し、新たなサービスの創出につなげるための知識や技術を体系的に学びます。

「未来共創ラボ演習」（仮称）

プログラミング、情報セキュリティ、データサイエンスは必修、そのうえで学修者の興味関心に応じて幅広く学ぶことができます。
（選択科目は、すべての専攻の科目を横断的に履修可能）

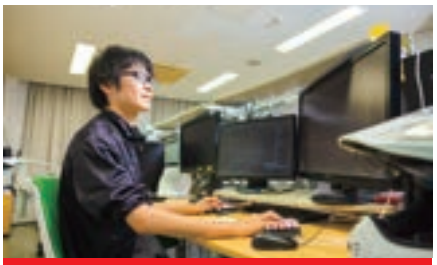
「異なる立場の人とのつながり」を生むことを目指し、低年次から研究の一部を体験する「未来共創ラボ演習」（仮称）による学生の学年を超えた主体的・対話的な深い学びを提供します。

多様な学びを体現する３専攻分野

※写真はイメージです。

情報メディア専攻

画像や音声などのメディア処理に加え、CGやVR、XR技術、ゲームやインタラクティブコンテンツのデザイン手法について体系的に学びます。モーションキャプチャなど多様なセンシング技術やAIの普及を踏まえた次世代のメディアを設計・開発・分析する力を養います。



知能情報システム専攻

データベースやネットワークシステム、ソフトウェア工学など情報システムの基盤技術に加え、人工知能（AI）や機械学習などの技術を応用した次世代の知能化された情報システムの設計・開発について体系的に学びます。

実践データサイエンス専攻

オープンデータや蓄積された膨大なデータを基に、データ思考の課題発見力や課題解決力を養います。データの可視化、統計解析、機械学習などの技術を駆使して、課題解決につながる予測モデルの構築や新たな価値・サービスの創出について体系的に学びます。

実践的な学び（３つの専攻を横断する学び）

■３つの専攻を横断する学びを、「総合実習」等で実現

■単なる要素技術の学習だけでなく、実践的な学び

- ヘルスデータのデータサイエンスに基づく処理とその結果を表示するアプリ作成
- スマートハウスを想定した人工知能（AI）による顔認証と家族の伝言や帰宅予定時間を表示するアプリ作成
- 企業の技術者を講師に迎えて、人工知能（AI）による工業製品の不良品検出システムの構築

取得できる資格

〔資格取得が可能〕

高等学校教諭一種免許状（情報）〔国家資格〕

〔受験資格取得が可能〕

浄土真宗本願寺派教師資格〔民間資格〕

卒業後の進路

情報学を通じて修得する専門知識・スキルは、情報産業やメーカーはもちろん、金融、コンサルティング、データに基づく政策立案力を有する公務員やマーケッター、建設、自動車、医療など様々な産業界で必要とされています。

〈めざす職業・進路〉

- ■音響、画像、ゲーム関連企業
- ■システムエンジニア（SE）
- ■情報セキュリティ関連企業
- ■ソフトウェア開発者
- ■データサイエンティスト
- ■スポーツアナリスト
- ■システムインテグレーター

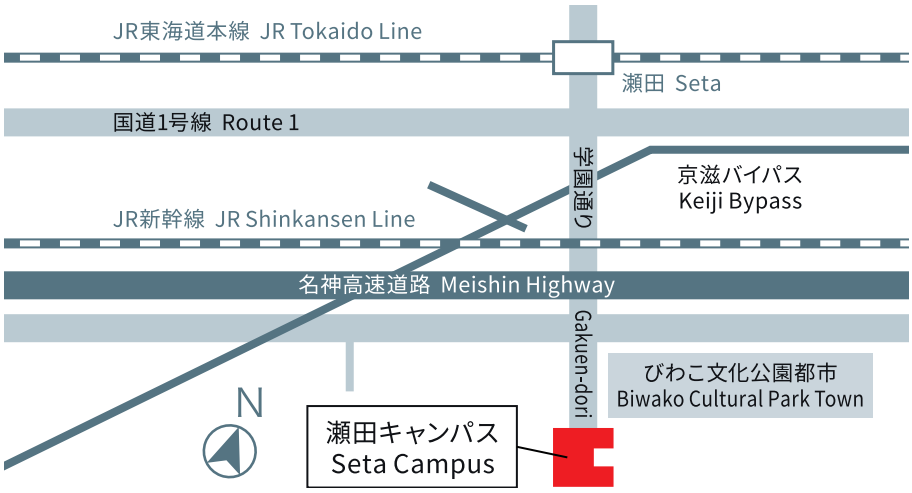
設置キャンパスの紹介

設置場所

龍谷大学 瀬田キャンパス　〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷１番５

- 京阪本線「中書島」駅下車、京阪京都交通バス約30分〈直行便〉
- JR 琵琶湖線「大津」駅下車、近江鉄道バス約20分〈直行便〉
- JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車、帝産湖南交通バス約８分〈直行便〉
- JR 湖西線「大津京」駅下車、近江鉄道バス約30分〈直行便（大津駅経由）〉

瀬田キャンパス
JR京都駅 → 約30分
JR大阪駅 → 約60分
京阪 枚方市駅 → 約60分



初年度学費（他大学含む）単位(円)

大学・学部・学科	入学金	授業料	教育充実費等（諸会費は除く）	初年度学費
龍谷大学 情報学部 情報学科（仮称）※	**260,000**	**1,239,000**	**143,600**	**1,642,600**
立命館大学 情報理工学部 情報理工学科	200,000	1,771,600	0	1,971,600
京都産業大学 情報理工学部 情報理工学科	230,000	1,058,000	296,000	1,584,000
近畿大学 情報学部 情報学科	250,000	1,462,000	0	1,712,000
大阪工業大学 情報科学部 データサイエンス学科	250,000	1,290,000	100,000	1,640,000
京都橘大学 工学部 情報工学科	200,000	1,235,000	150,000	1,585,000

※龍谷大学 情報学部 情報学科（仮称）の学費は予定です。
※他大学における上記学費は各大学ホームページ掲載情報に基づきます（2025年6月時点）。
※その他、諸会費が必要な場合があります。

情報学部（仮称）特設WEBサイト

龍谷 情報学部

https://www.ryukoku.ac.jp/newf1/

※続報は随時公開。

RYUKOKU UNIVERSITY
〔龍谷大学 瀬田キャンパス推進室〕 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷１番５ Tel 077-544-7218（平日 9:00～17:00）

You, Unlimited

Sustainability for our future

RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学
環境サステナビリティ学部
環境サステナビリティ学科（仮称・設置構想中）

2027年4月 開設予定

※設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

龍谷大学 環境サステナビリティ学部
環境サステナビリティ学科（仮称・設置構想中）

龍谷大学が構想している、環境サステナビリティ学部（仮称）の概要です。※本内容は現時点での計画であり、今後、内容に変更が生じる可能性があります。

学部・学科 概要

先端理工学部 環境科学課程における教育・研究実績を踏まえつつ大幅に発展。

学部・学科等の名称	入学定員
環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科（仮称・設置構想中）	130名

学位	学位分野
学士（環境サステナビリティ学）	工学＋経済学関係（複合分野）

設置の理念

龍谷大学は、創立400年となる2039年に向けた「龍谷大学基本構想400」の下で社会課題解決・価値創造拠点を標榜し、「ネイチャーポジティブ宣言」、「SDGs 宣言」、「カーボンニュートラル宣言」を発出するなど、環境・サステナビリティへの取り組みをより一層推進しています。これらの理念・実績を発展させる形で「サステナブル」「ネイチャーポジティブ」「経営」をキーワードにした学部を設置し、「分野を架橋し文理複眼視点をもとに持続可能な社会の創造に向けて実践的に行動できる人間」を育成することは、本学の理念を具現化し社会の期待に応えるものです。

養成する人材像

建学の精神に基づいて、サステナビリティをめぐる幅広い知識を身につけるとともに、環境工学、生物多様性科学及び経済・経営学に係る専門知、並びにそれらを統合した視点を獲得し、持続可能な社会の創造に向けて、実践的に課題解決に向き合える環境人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

環境サステナビリティ学部（仮称）では、次のような人が入学することを求めます。

■知識・技能の修得

環境問題に強い関心を持ち、持続可能な社会の実現に貢献したいと考える人

■「思考力・判断力・表現力」の発展・向上

理論と実践の両面から環境問題を統合的に理解し、解決策を見出す意欲のある人

■「主体性・多様性・協働性」の発展・向上

- 様々な社会変化に対応し、創造的に問題解決に取り組む姿勢を有する人
- 各専門分野における大学での学修の基盤となる、知識、思考力、判断力、情報収集力（文章読解力）、表現力を有している人
- 大学での学修を通じて自己を成長させ、大学で学んだことを活かして自らのキャリアを形成し、社会貢献する意欲をもっている人
- 自分自身で課題を見つけ、その課題を主体的に解決し成果をあげた実績がある、あるいは解決する意志がある人
- 専門分野に関心を持ち、その学修に取り組む意欲がある人
- 専門以外の様々な事柄を学び、また様々な専門や立場を持つ人とのかかわりを通じて、多様な考え方を知り、 教養を広げ、深めようとする意欲がある人

取得できる資格

〔資格取得が可能〕	〔受験資格取得が可能〕
中学校教諭一種免許状（理科）〔国家資格〕 高等学校教諭一種免許状（理科）〔国家資格〕 博物館学芸員〔国家資格〕	浄土真宗本願寺派教師資格〔民間資格〕

「好き」からはじめて、「つながる」「ひろがる」環境の学び

～危機感や使命感だけではサステナビリティは実現できない。
みなさんの多彩な「好き」を伸ばして、「ひろげる」多様な体験プログラムを準備。さぁ、冒険をはじめよう～

学びの特徴

4年間を通した体験・共創型PBL「クエスト科目群」(仮称)

専門実習に加え、主体的な学びやチームで協働する姿勢などを育むとともに、リアルな現場での体験や経験を通して知識・技能の定着を図ることを目的とする体験・共創型のPBL科目「クエスト科目群」を提供します。これらの科目は、学修の進度に合わせて１年次から４年次まで体系的に開講し、座学とクエスト科目群とを行き来することで、実践的に課題解決に向き合うことのできる人材を育成します。

１年次	暮らしと自然が交錯する「琵琶湖」の環境問題に触れ、プロジェクトチームを組んで課題解決に挑む 「沖縄」「釧路湿原」「台湾」「タイ」等の生物多様性のホットスポットを訪ね、"Nature's Contribution to People"(自然がもたらす価値)を実感する
２年次	企業・団体等と連携し、多種多様なフィールドのリアルな課題にチームで挑む
3・4年次	２年間の研究室配属を通じて、専門的なテーマ探求と科学的なアプローチの主役となる

※上記は、現時点での計画であり、今後、内容に変更が生じる可能性があります。

プログラムの特徴

環境工学・生物多様性科学および経済・経営学など、複数の切り口からあなたの得意分野や興味にあわせて学びを選び、
サステナブルな社会を切り開きます。

※写真はイメージです。

地域デザインプログラム

地域コミュニティに着目し、自然資本をベースとした地域の資本や地域経営について学び、地域の資本を適正に認識して持続的に発展していけるように地域をデザインする方策について考えます。

資源循環利用プログラム

社会経済活動に伴って排出される廃棄物に着目し、廃棄物廃棄の適正化や資源としての循環再利用について学び、循環経済の実現方策について考えます。

ネイチャーポジティブ経営プログラム

企業などの組織に着目し、生物多様性の定量化方法や生物多様性喪失が組織経営に及ぼす影響について学びネイチャーポジティブを組織経営に連接させる方策について考えます。

持続的水資源管理プログラム

すべての生命を支える水資源に着目し、水環境保全や水資源利用に係る技術的、社会経済的システムについて学ぶとともに、持続的な水資源管理のあり方について考えます。

生物多様性回復プログラム

生態系とそれを支える生物多様性、さらには社会経済活動との相互作用について学び、生物多様性の保全・回復と社会経済活動との共存方策について考えます。

卒業後の進路

あなたの「好き」が進路を「ひろげ」、サステナブルな社会に「つながる」

サステナビリティの推進に注力する企業は多く、事業形態や規模を問わず、卒業後の進路となることが想定されます。
加えて、環境プラントエンジニアや建設土木・環境コンサルタント、環境NGO、地方自治体の職員など、環境・サステナビリティを軸とした幅の広いキャリアが考えられます。

〈めざす職業・進路〉

■ 公務員　■ 環境NGO／NPO職員　■ 企業の企画・経営部門　■ 教諭(理科)　■ 環境プラントエンジニア(水処理・廃棄物焼却など)
■ 環境保全技術者・研究者　■ 建設土木・環境コンサルタント　■ 博物館学芸員　■環境教育指導員・環境教育インストラクター

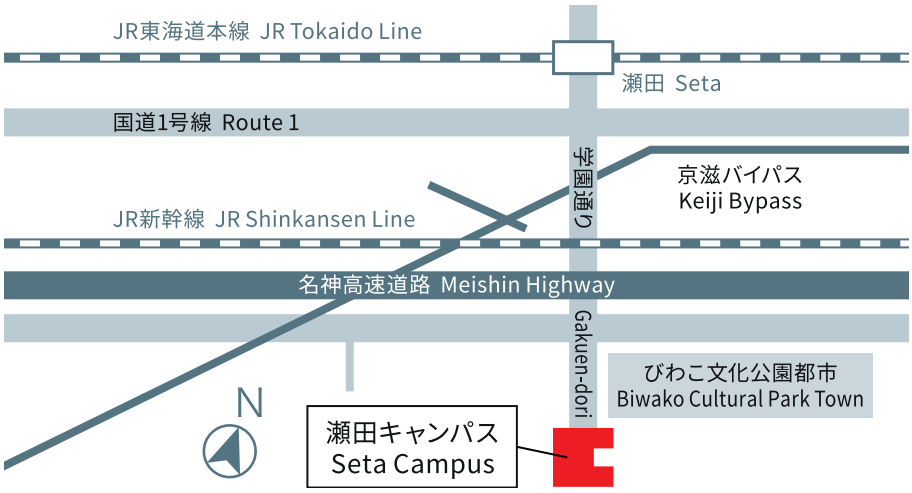
設置キャンパスの紹介

設置場所

龍谷大学 瀬田キャンパス　〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷１番５

- 京阪本線「中書島」駅下車、京阪京都交通バス約30分〈直行便〉
- JR 琵琶湖線「大津」駅下車、近江鉄道バス約20分〈直行便〉
- JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車、帝産湖南交通バス約８分〈直行便〉
- JR 湖西線「大津京」駅下車、近江鉄道バス約30分〈直行便（大津駅経由）〉

瀬田キャンパス
JR京都駅 → 約30分
JR大阪駅 → 約60分
京阪 枚方市駅 → 約60分



初年度学費（他大学含む）単位(円)

大学・学部・学科	入学金	授業料	教育充実費等（諸会費は除く）	初年度学費
龍谷大学 環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科(仮称)※	**260,000**	**1,239,000**	**143,600**	**1,642,600**
立命館大学 理工学部　環境都市工学科	200,000	1,771,600	0	1,971,600
同志社大学 理工学部 環境システム学科	200,000	1,320,000	252,000	1,772,000
近畿大学 理工学部 社会環境工学科	250,000	1,462,000	0	1,712,000
武庫川女子大学 環境共生学部 環境共生学科	200,000	1,120,000	308,000	1,628,000
滋賀県立大学 環境科学部 環境生態学科	282,000（滋賀県内者の額）	535,800	0	817,800

※龍谷大学 環境サステナビリティ学部 環境サステナビリティ学科(仮称)の学費は予定です。
※他大学における上記学費は各大学ホームページ掲載情報に基づきます(2025年6月時点)。
※その他、諸会費が必要な場合があります。

環境サステナビリティ学部(仮称)特設WEBサイト

龍谷 環境サステナビリティ学部

https://www.ryukoku.ac.jp/newf2/

※続報は随時公開。

RYUKOKU UNIVERSITY
〔龍谷大学 瀬田キャンパス推進室〕 〒520-2194　大津市瀬田大江町横谷１番５　Tel 077-544-7218(平日 9:00～17:00)

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙１

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位５都道府県）※直近年度

	都道府県名	人　　数	構成比
1	滋賀県	1,363人	20.43%
2	京都府	1,103人	16.54%
3	大阪府	989人	14.83%
4	愛知県	438人	6.57%
5	兵庫県	354人	5.31%
	全　　体	6,670人	100.00%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地（都道府県等）	充足率		
		令和５年度	令和６年度	令和７年度
1	滋賀県	104.7%	98.9%	101.9%
2	京都府	99.9%	98.2%	102.2%

※２校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和５年度	令和６年度	令和７年度
1	理・工学系学部（大学）	101.88%	99.39%	102.31%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

既設学科等の収容定員の充足状況

別紙２の１

○収容定員充足率

申請者が設置する全ての大学等（大学、短期大学、高等専門学校のみ）の
既設の学部（短期大学又は高等専門学校は学科）について記載してください。

大学等名	学部等名	学科名	収容定員	学生数 （令和7年5月1日現在）	収容定員充足率	備考
龍谷大学	文学部		3,576	3,771	1.05	
		真宗学科	592	601	1.01	
		仏教学科	482	536	1.11	
		哲学科　哲学専攻	300	321	1.07	
		哲学科　教育学専攻	300	321	1.07	
		歴史学科　日本史学専攻	330	335	1.01	
		歴史学科　東洋史学専攻	300	332	1.10	
		歴史学科　仏教史学専攻	264	272	1.03	
		歴史学科　文化遺産学専攻	192	212	1.10	
		日本語日本文学科	408	423	1.03	
		英語英米文学科	408	418	1.02	
	心理学部		775	768	0.99	
		心理学科	775	768	0.99	令和5年4月開設
	経済学部		2,424	2,583	1.06	
		現代経済学科	1,454	1,587	1.09	
		国際経済学科	970	996	1.02	
	経営学部		2,107	2,169	1.02	
		経営学科	1,947	1,994	1.02	令和7年4月定員変更、3年次編入学定員の変更
		商学科	160	175	1.09	令和7年4月開設
	法学部		1,790	1,853	1.03	
		法律学科	1,790	1,853	1.03	
	政策学部		1,242	1,320	1.06	
		政策学科	1,242	1,320	1.06	
	国際学部		2,088	2,156	1.03	
		国際文化学科	1,528	1,560	1.02	
		グローバルスタディーズ学科	560	596	1.06	
	先端理工学部		2,521	2,439	0.96	
		数理・情報科学課程	416	395	0.94	
		知能情報メディア課程	416	423	1.01	
		電子情報通信課程	416	405	0.97	
		機械工学・ロボティクス課程	456	459	1.00	
		応用化学課程	416	410	0.98	
		環境科学課程	401	347	0.86	令和7年4月名称変更･定員変更
	社会学部		450	489	1.08	
		総合社会学科	450	489	1.08	令和7年4月開設
	農学部		1,812	1,838	1.01	
		生命科学科	376	394	1.04	
		農学科	554	519	0.93	
		食品栄養学科	328	326	0.99	
		食料農業システム学科	554	599	1.08	

※上記には、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第２項及び第４項を
　適用した場合の学生数及び収容定員充足率を記入してください。その場合は、備考にその内訳を記入してください。
※大学院、専攻科、別科、募集停止を行った学部等については記載不要です。
※行は適宜追加してください。

別紙２の２

【　省　略　】

１（書類等の題名）

別紙２の２　既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

２（出典）

本学入試部所持データ

３（その他の説明）

志願者数（実人数）は、学内資料（学外秘）であり【省略】とする。

以　上

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙３

①龍谷大学先端理工学部 知能情報メディア課程における大学案内等の資料送付

	R6年度 入学者入試	R7年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	1516人	1632人	①取組概要 既設組織を志望する受験生に対して、大学及び学部・課程のカリキュラムや特色、入試情報を掲載した資料を送付し、オープンキャンパス等のイベント参加や出願を促している（集計対象期間は当該年度の4月～3月迄）。
うち受験対象者数(b)	636人	619人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 既設組織における資料送付対象者の受験率は37.6%（過去2年平均）、入学率は9.7%（過去2年平均）である。 新設組織では、文系型入試を実施し、理系志願者に加えて文系志願者も入学対象となることから、約800名の受験対象者への資料送付を目標とする。入学率9.7%から予想される入学者数は約78名であり、新設組織の入学定員130名の約60%を確保できると見込んでいる。
うち受験者数(c)	275人	198人	
うち入学者数(d)	62人	60人	
（受験率 c/b）	43.2%	32.0%	③（a）のうち、当該入試年度の受験対象者（b）に該当すると判断した基準 資料送付希望者が申込時に回答したアンケート結果から、受験対象となる高校3年生および既卒生を抽出した。
（入学率 d/b）	9.7%	9.7%	

②龍谷大学先端理工学部 知能情報メディア課程におけるオープンキャンパスへの参加状況

	R6年度 入学者入試	R7年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	767人	515人	①取組概要 オープンキャンパスを開催し、受験希望者に志望学部・課程の学びの紹介や模擬授業等を行うイベントを実施している。 ・主なイベント内容 学部・課程の学びの紹介、模擬講義、施設紹介、在学生との交流、個別相談など ・開催時期 R6年度入学者対象（R5開催）：計6回開催（3/26、8/5、8/6、8/26、8/27、9/24） R7年度入学者対象（R6開催）：計6回開催（3/24、8/3、8/4、8/24、8/25、9/22）
うち受験対象者数(b)	236人	213人	
うち受験者数(c)	72人	57人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 既設組織におけるオープンキャンパス参加者の受験率は28.7%（過去2年平均）、入学率は11.2%（過去2年平均）である。 新設組織では、文系型入試を実施し、理系志願者に加えて文系志願者も入学対象となることから、約400名の受験対象者の参加を目標とする。入学率11.2%から予想される入学者数は約45名であり、新設組織の入学定員130名の約35%を確保できると見込んでいる。
うち入学者数(d)	24人	26人	
（受験率 c/b）	30.5%	26.8%	
（入学率 d/b）	10.2%	12.2%	③（a）のうち、当該入試年度の受験対象者（b）に該当すると判断した基準 オープンキャンパス参加者が回答したアンケート結果から、受験対象となる高校3年生および既卒生を抽出した。

③龍谷大学先端理工学部 知能情報メディア課程における学部・課程紹介及び入試対策コンテンツの配信

	R6年度 入学者入試	R7年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	730人	559人	①取組概要 本学独自の受験生向けアプリ登録者に対して、学部・課程紹介や入試対策コンテンツ等を配信し、本学への理解促進や期待感の醸成を図っている。
うち受験対象者数(b)	177人	352人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 既設組織における受験生向けアプリ登録者の受験率は21.5%（過去2年平均）、入学率は7.1%（過去2年平均）である。 新設組織では、文系型入試を実施し、理系志願者に加えて文系志願者も入学対象となることから、約400名の受験対象者の登録を目標とする。入学率7.1%から予想される入学者数は約28名であり、新設組織の入学定員130名の約22%を確保できると見込んでいる
うち受験者数(c)	55人	42人	
うち入学者数(d)	16人	18人	
（受験率 c/b）	31.1%	11.9%	③（a）のうち、当該入試年度の受験対象者（b）に該当すると判断した基準 アプリ登録時にユーザーが回答したアンケート結果から、受験対象となる高校3年生および既卒生を抽出した。
（入学率 d/b）	9.0%	5.1%	

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　　員　　名　　簿

学　長　又　は　校　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ｱﾝﾄﾞｳ　ﾄｵﾙ 安藤　徹 ＜令和7年3月＞		博士 （文学）		龍谷大学 学長 （令和7.3～令和11.3）

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
1	基（主専）	教授	ｲｹﾀﾞ ｾｲ 池田　聖 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		情報社会とメディア※		1前	4	4	龍谷大学 先端理工学部 教授 （令6.4）	○		○	学科会議	5日	
							メディア処理基礎		1後	2	1							
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							実世界コンピューティング	○	3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
2	基（主専）	教授	ｼﾌﾞﾔ ﾕｳ 澁谷　雄 ＜令和10年4月＞		工学博士		データサイエンス入門演習	○	2前	2	1	京都工芸繊維大学 工芸科学部 教授 （平2.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報デザイン		2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							電気・電子工学概論		2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							ヒューマンインタフェース		3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
3	基（主専）	教授	ｽｶﾞﾔ ﾖｼﾋﾛ 菅谷　至寛 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （令4.4）	○		○	学科会議	5日	
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							情報ネットワーク基礎		2前	2	1							
							データ構造とアルゴリズム・演習	○	2前	4	1							
							Cプログラミング	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
4	基（主専）	教授	ﾉﾑﾗ ﾀﾂﾔ 野村　竜也 ＜令和9年4月＞		工学博士		情報社会とメディア※		1前	4	4	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平16.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報社会と情報倫理		1後	2	1							
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							数理統計学	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							情報倫理※		2前	1.5	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							人工知能	○	3後	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
5	基（主専）	教授	ﾊﾀﾅｶ ﾕｳｼﾞ 畑中　裕司 ＜令和10年4月＞		博士（工学）		画像メディア処理論	○	2前	2	1	大分大学 理工学部 教授 （令2.10）	○		○	学科会議	5日	
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							メディア処理演習	○	2後	4	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							音声・音響メディア処理論	○	3後	2	1							
							機械学習	○	3後	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
6	基（主専）	教授 （学部長）	ﾌｼﾞﾀ ｶｽﾞﾋﾛ 藤田　和弘 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平16.4）	○		○	学科会議	5日	
							データサイエンス・ＡＩ入門		1前	2	1							
							データサイエンス入門数学・演習Ⅰ	○	1前	4	1							
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							データサイエンス入門演習	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							データサイエンス応用基礎・演習	○	2後	4	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							インターンシップ		3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							総合演習		3後	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
7	基（主専）	准教授	ｿｶﾞ ｱｻｺ 曽我 麻佐子 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平16.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報システム基礎		2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							ＣＧとアニメーション	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							オブジェクト指向プログラミング	○	3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
8	基（主専）	准教授	ﾌｼﾞﾓﾄ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤本　雄一郎 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		線形代数学	○	1後	4	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （令6.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							ＸＲ	○	3前	2	1							
							Ｗｅｂ技術	○	3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
9	基（主専）	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾃﾂｵ 山本　哲男 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		情報基礎	○	1前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平30.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							データサイエンス数理統計学	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							ネットワークシステム演習	○	2後	4	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							プロジェクトリサーチ		3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ソフトウェア工学	○	3後	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
10	基（主専）	准教授	ﾖｼﾐ ﾀｹﾋｺ 吉見　毅彦 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平15.4）	○		○	学科会議	5日	
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							データマイニング	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
11	基（主専）	講師	ｳｴﾀﾞ ﾖｼｱｷ 植田　祥明 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		情報基礎	○	1前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 （令5.4）	○		○	学科会議	5日	
							プログラミング基礎演習	○	1後	4	1							
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							コンピュータビジョン	○	3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
12	基（主専）	講師	ｵｸ ｹﾝﾀ 奥　健太 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		情報基礎演習	○	1前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 （平28.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							データベース	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							推薦システム	○	3後	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
13	基（主専）	講師	ｶｹﾞﾕｷ ﾀｶﾌﾐ 景行　崇文 ＜令和9年4月＞		博士（コーチング学）		微積分学	○	1前	4	1	元　独立行政法人日本スポーツ振興センター 契約研究員 （令8.3まで）	○		○	学科会議	5日	
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.4	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							物理学概論		2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							スポーツバイオメカニクス		3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
14	基（主専）	講師	ﾀｶﾊﾗ ﾏﾄﾞｶ 高原　まどか ＜令和9年4月＞		博士（工学）		データサイエンス入門数学・演習Ⅱ	○	1後	4	1	龍谷大学 農学部 講師 （令8.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報と健康		1後	2	1							
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							データサイエンス入門	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
15	基（主専）	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾔｽﾋｺ 渡邉　靖彦 ＜令和9年4月＞		博士（情報学）		プログラミング基礎演習	○	1後	4	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 （平7.10）	○		○	学科会議	5日	
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							ハードウェア基礎		2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							情報検索	○	3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							言語メディア処理論	○	3後	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
16	基（主専）	助教	ｼﾊﾞ ﾏｻﾋﾄ 芝　公仁 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		ソフトウェア基礎		1後	2	1	龍谷大学 先端理工学部 助教 （平14.4）			○	学科会議	5日	
							システムソフトウェア	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
17	基（他）	教授	ｶｼﾞｻ ﾀｲﾗ 加治佐　平 ＜令和9年4月＞		博士（農学）		情報とスポーツ		1前	2	1	株式会社 SympaFit 代表取締役 （令5.9）			○	学科会議	2日	
							経営情報学	○	2前	2	1							
							バイオデータサイエンス	○	2後	2	1	株式会社 SympaFit 代表取締役 （令5.9）					3日	
							アントレプレナーシップ	○	3前	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
18	基（他）	教授	ﾀﾞｲﾄｸ ﾀﾂﾔ 大徳　達也 ＜令和9年4月＞		学士（マネジメント）		情報と法 情報セキュリティ デジタル・フォレンジック デジタル・フォレンジック演習	○	1前 2後 3前 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	東京海上ホールディングス株式会社マネージャー（令4.6） 東京海上ホールディングス株式会社マネージャー（令4.6）			○	学科会議	2日 3日	
19	その他	教授	ｱｶﾂ ﾂﾈﾕｷ 吾勝　常行 ＜令和10年10月＞		修士※（文学）		仏教と心理学※		2後	1.1	1	龍谷大学 心理学部教授 （平21.4）						
20	その他	教授	ｱﾝ ｼﾞｭﾖﾝ 安　周永 ＜令和10年10月＞		博士（法学）		比較社会政策		2後	2	1	龍谷大学 政策学部教授 （平30.4）						
21	その他	教授	ｲｽﾞﾐ ﾌﾐｱｷ 泉　文明 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		日本の文化	○	1前	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （平8.4）						
22	その他	教授	ｲﾃﾞ ｹﾝｼﾞ 井手　健二 ＜令和10年4月＞		修士（経営情報学）		企業と会計		2前	2	1	龍谷大学 経営学部教授 （平28.4）						
23	その他	教授	ｲﾉｾ ﾕﾘ 猪瀬　優理 ＜令和10年10月＞		博士（行動科学）		宗教社会学		2後	2	1	龍谷大学 社会学部教授 （平23.4）						
24	その他	教授	ｲﾏｲ ｱﾂｼ 今井　敦 ＜令和9年10月＞		Doctor der Philosophie（ｵｰｽﾄﾘｱ）		西洋の文学Ｂ 現代社会の諸問題※	○	1後 2前	2 0.1	1 1	龍谷大学 経済学部教授 （平23.4）						
25	その他	教授	ｳｴﾔﾏ(ﾅﾍﾞｼﾏ) ﾐｶ 上山（鍋島）　美香 ＜令和9年4月＞		博士（経済学）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 経済学部教授 （平24.4）						
26	その他	教授	ｳﾁﾓﾄ ｺｳﾕｳ 打本　弘祐 ＜令和9年4月＞		博士（社会学）		ボランティア・ＮＰＯ入門※ 歎異抄の思想Ⅰ 歎異抄の思想Ⅱ		1前 2前 2後	0.1 2 2	1 1 1	龍谷大学 農学部教授 （平27.4）						
27	その他	教授	ｵｵｲｼ ﾅｵｺ 大石　尚子 ＜令和9年4月＞		博士（ソーシャル・イノベーション）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 政策学部教授 （平27.4）						
28	その他	教授	ｵｰｶﾞｽﾃｨﾝ ｼﾞｮﾅｻﾝ オーガスティン　ジョナサン ＜令和9年4月＞		Ph.D.（米国）		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ） 英語セミナーＦ 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2前 2後	1 1 4 1 1	1 1 2 1 1	龍谷大学 先端理工学部教授 （平27.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
29	その他	教授	ｵｶﾀﾞ ﾉﾘﾕｷ 岡田　典之 ＜令和10年4月＞		修士※（文学）		英語セミナーD		2前	4	2	龍谷大学 文学部教授 （平21.4）						
30	その他	教授	ｵｶﾞﾜ ｹｲｼﾞ 小川　圭二 ＜令和9年10月＞		博士（工学）		現代の技術※		1後	1.1	1	龍谷大学 先端理工学部教授 （平26.4）						
31	その他	教授	ｵｸﾉ ﾂﾈﾋｻ 奥野　恒久 ＜令和10年4月＞		修士（法学）		現代社会の諸問題※		2前	2	1	龍谷大学 政策学部教授 （平23.4）						
32	その他	教授	ｶﾅﾓﾘ　ｴﾘ 金森　絵里 ＜令和9年4月＞		博士（経済学） PhD（英国）		環境思想入門 サステナビリティ概論※ ネイチャーポジティブ経営概論※		1前 1前 1③	2 0.3 0.3	1 1 1	立命館大学 経営学部教授 （平12.4）						
33	その他	教授	ｶﾜｼﾏ ﾉﾌﾞﾋﾛ 川島　伸博 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		西洋の文学A 西洋の文学B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 法学部教授 （平24.4）						
34	その他	教授	ｷﾀﾑﾗ　ﾉﾌﾞﾔｽ 北村　暢康 ＜令和9年10月＞		学士（経済学）		ネイチャーポジティブ経営概論※ サステナビリティ経営論		1③ 1④	0.3 1	1 1	サントリー株式会社 シニアアドバイザー （令7.1）						
35	その他	教授	ｷﾉｼﾀ ﾉﾘｱｷ 木下　謙朗 ＜令和9年4月＞		博士（日本語教育学）		日本語		1前	2	2	龍谷大学 経済学部教授 （平27.4）						
36	その他	教授	ｸﾜﾂｶ ｹﾝﾀﾛｳ 鍬塚　賢太郎 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		地理学のすすめ 教養教育ゼミナール（社会科学）	○	1前 2前	2 2	1 1	龍谷大学 経営学部教授 （平23.4）						
37	その他	教授	ｺﾏｻ ﾋﾛﾉﾘ 小正　浩徳 ＜令和9年4月＞		修士（教育学）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 心理学部教授 （平24.4）						
38	その他	教授	ｻｲﾄｳ ｷﾖﾂｸﾞ 齋藤　清嗣 ＜令和11年4月＞		修士（教育学）		総合的な学習の時間・特別活動論		3前	2	1	龍谷大学 文学部教授 （令6.4）						
39	その他	教授	ｻｲﾄｳ ﾌﾐﾋｺ 斎藤　文彦 ＜令和10年4月＞		博士（経済学）		グローバリゼーションとアフリカ 国際開発協力論		2前 2前	2 2	1 1	龍谷大学 国際学部教授 （平8.4）						
40	その他	教授	ｻｸﾗｲ ｼﾞﾛｳ 櫻井　次郎 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		現代社会の諸問題※		2前	0.1	1	龍谷大学 政策学部教授 （令4.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
41	その他	教授	ｻｺﾝ ﾀｸｵ 左近　拓男 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		生活の中の物理	○	1前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平24.4）						
42	その他	教授	ｻｻｷ ﾀﾞｲｺﾞ 佐々木　大悟 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		歎異抄の思想Ⅰ 歎異抄の思想Ⅱ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 文学部教授 （平26.4）						
43	その他	教授	ｻﾄｲ ﾋｻｷ 里井　久輝 ＜令和10年4月＞		言語文化学博士		英語セミナーＥ 英語総合３ 英語総合４	 ○ ○	2前 2前 2後	4 1 1	2 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平15.4）						
44	その他	教授	ｼﾏｻﾞｷ ﾖｳｲﾁ 嶋崎　陽一 ＜令和9年4月＞		文学修士 D.E.A （仏国）		西洋の文学Ａ	○	1前	2	1	龍谷大学 社会学部教授 （平13.4）						
45	その他	教授	ｼﾐｽﾞ ｺｳｽｹ 清水　耕介 ＜令和10年4月＞		Ph.D. （国際関係学） （NZ）		政治思想概論		2前	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （平17.4）						
46	その他	教授	ｼﾐｽﾞ ﾏﾕｺ 清水　万由子 ＜令和10年4月＞		博士（地球環境学）		地域課題発見演習		2前	4	1	龍谷大学 政策学部教授 （平24.4）						
47	その他	教授	ｽｻｷ ｶｽﾐ 壽崎　かすみ ＜令和10年4月＞		博士（工学）		都市計画入門		2前	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （平14.4）						
48	その他	教授	ｽｽﾞｷ ｼｹﾞﾙ 鈴木　滋 ＜令和10年4月＞		博士（理学）		自然人類学入門		2前	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （平16.4）						
49	その他	教授	ｾｲｹ ﾘｭｳｽｹ 清家　竜介 ＜令和11年4月＞		博士（学術）		アートと社会 市民社会の歴史と現在 社会学の歴史と理論		3前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 社会学部教授 （平26.4）						
50	その他	教授	ﾀｶﾊﾀ ｼｹﾞｶﾂ 高畑　重勝 ＜令和10年10月＞		修士（法学）		公務員論		2後	2	1	龍谷大学 政策学部教授 （令5.4）						
51	その他	教授	ﾀｷｸﾞﾁ ｼﾞｭﾝﾔ 瀧口　順也 ＜令和10年10月＞		Ph.D. （History） （英国）		グローバリゼーションとヨーロッパ グローバル・ヒストリー		2後 2後	2 2	1 1	龍谷大学 国際学部教授 （平24.4）						
52	その他	教授	ﾀｷﾓﾄ ﾏｻﾄ 瀧本　眞人 ＜令和10年4月＞		Ph.D. （通訳・翻訳研究） （豪州）		異文化間コミュニケーション論		2前	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （平25.4）						
53	その他	教授	ﾀｹｲ ﾋﾛｼ 武井　寛 ＜令和9年4月＞		修士（法学）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 法学部教授 （令元.9）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
54	その他	教授	ﾀｹｳﾁ ﾏｻﾋｺ 竹内　真彦 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		アジアの文化		2前	2	1	龍谷大学 経済学部教授 （平13.4）						
55	その他	教授	ﾀﾀﾞﾄﾓ ｹｲｼ 只友　景士 ＜令和9年4月＞		修士（経済学）		社会課題発見演習 財政学 グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）		1前 2前 2後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 政策学部教授 （平23.4）						
56	その他	教授	ﾀﾏｷ ｺｳｼﾞ 玉木　興慈 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		（本山教師）宗教概説		1前	1	1	龍谷大学 文学部教授 （平14.4）						
57	その他	教授	ﾁｬﾌﾞﾙ ｼﾞｭﾘｱﾝ チャブル　ジュリアン ＜令和10年4月＞		Ph.D.（国際関係学）（NZ）		Introduction to Sociolinguistics		2前	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （平17.4）						
58	その他	教授	ﾃｼﾏ ﾋﾃﾞｷ 手嶋　英貴 ＜令和9年4月＞		Doktor Der Philosophie（ﾄﾞｲﾂ）		アジアの文学Ａ アジアの文学Ｂ	○ ○	1前 1前	6 6	3 3	龍谷大学 法学部教授 （令3.4）						
59	その他	教授	ﾄｷﾓﾄ ﾖｼｱｷ 時本　義昭 ＜令和9年4月＞		法学博士		日本国憲法 法学のすすめ 現代社会と法	○ ○	1前 1前 2前	8 4 2	4 2 1	龍谷大学 社会学部教授 （平11.4）						
60	その他	教授	ﾅｶｵｷ ﾀｶﾋｺ 中沖　隆彦 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		生活の中の化学	○	1前	2	1	龍谷大学 先端理工学部教授 （平4.10）						
61	その他	教授	ﾅｶﾀﾆ ﾉﾎﾞﾙ 中谷　昇 ＜令和10年4月＞		修士（教育学）		教職論 介護等体験 道徳教育指導法 教職実践演習（中・高）		2前 3通 3後 4後	4 2 2 2	2 1 1 1	龍谷大学 社会学部教授 （令5.4）						
62	その他	教授	ﾅｶﾞﾐﾈ ﾄｼﾉﾌﾞ 長嶺　寿宣 ＜令和11年4月＞		博士（英語学）		介護等体験 教育実習指導ⅡＡ 教育実習指導ⅡＢ 教職実践演習（中・高）		3通 4通 4通 4後	2 4 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 国際学部教授 （令6.4）						
63	その他	教授	ﾅｶﾓﾄ ｶｽﾞﾋｺ 中本　和彦 ＜令和10年10月＞		博士（学校教育学）		教育課程論 介護等体験 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導ⅡＡ 教育実習指導ⅡＢ 教職実践演習（中・高）		2後 3通 4前 4通 4通 4後	2 2 1 4 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 法学部教授 （令5.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
64	その他	教授	ﾅｼﾞﾏ ｶｽﾞﾋｻ 南島　和久 ＜令和10年10月＞		博士（政治学）		グローバル・シチズンシップＢ（民主主義）		2後	2	1	龍谷大学 政策学部教授 （令3.9）						
65	その他	教授	ﾆｼｵｶ ﾋｻﾐﾂ 西岡　久充 ＜令和11年4月＞		博士（工学）		経営科学		3前	2	1	龍谷大学 経営学部教授 （平25.4）						
66	その他	教授	ﾉｳﾐ ｼﾞﾕﾝｼ 能美　潤史 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		歎異抄の思想Ⅰ 歎異抄の思想Ⅱ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 法学部教授 （平26.4）						
67	その他	教授	ﾉﾛ ｾｲ 野呂　靖 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		（本山教師）仏教史※ キャリア入門※ ボランティア・ＮＰＯ入門※ 仏教と心理学※		1前 1前 1前 2後	0.4 0.3 0.7 0.9	1 2 1 1	龍谷大学 心理学部教授 （平23.4）						
68	その他	教授	ﾊｾｶﾞﾜ ﾀｹｼ 長谷川　岳史 ＜令和10年4月＞		修士※（文学）		アジアの文化		2前	2	1	龍谷大学 経営学部教授 （平13.4）						
69	その他	教授	ﾋﾗﾂｶ ﾀｶｱｷ 平塚　貴晶 ＜令和10年10月＞		Ph.D.（応用言語学）（NZ）		言語習得論		2後	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （令2.4）						
70	その他	教授	ﾌｶｵ ﾏｻﾀｶ 深尾　昌峰 ＜令和9年4月＞		修士（教育学）		現代の環境課題と政策 ボランティア・ＮＰＯ入門※ 仏教とサステナビリティ 仏教ＳＤＧｓ概論 テクノロジーと事業創出		1① 1前 1前 1後 2後	1 0.1 1 2 2	1 1 1 1 1	龍谷大学 政策学部教授 （平22.4）						
71	その他	教授	ﾌｸﾔﾏ(ｽｽﾞｷ) ﾔｽｺ 福山（鈴木）　泰子 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		宗教文化学入門 南アジアの言語 文化遺産学		2前 2前 2後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 国際学部教授 （平24.4）						
72	その他	教授	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾅｵﾋﾄ 藤原　直仁 ＜令和10年10月＞		博士（医学）		脳と心		2後	2	1	龍谷大学 心理学部教授 （平10.4）						
73	その他	教授	ﾌﾅﾀﾞ ｻﾄｼ 船田　智史 ＜令和10年4月＞		博士（理学）		情報と職業		2前	2	1	龍谷大学 政策学部教授 （令4.4）						
74	その他	教授	ﾎｿｶﾜ ﾀｶｼ 細川　孝 ＜令和10年4月＞		修士（経営学）		現代社会の諸問題※ ワークルール入門		2前 2後	0.1 2	1 1	龍谷大学 経営学部教授 （平12.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
75	その他	教授	ﾎﾜｲﾄ ｼｮｰﾝ･ｱﾗﾝ ホワイト　ショーン・アラン ＜令和11年4月＞		Ph.D. in Education（米国）		Ｆｏｒｕｍ Global Understanding in English		3前 3前	2 4	1 1	龍谷大学 経営学部教授 （平22.4）						
76	その他	教授	ﾏﾂｼﾏ ﾔｽｶﾂ 松島　泰勝 ＜令和10年4月＞		博士（経済学）		現代社会の諸問題※ 経済英語Ⅲ		2前 2後	0.4 2	1 1	龍谷大学 経済学部教授 （平20.4）						
77	その他	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ｹｲｺ 松永　敬子 ＜令和9年4月＞		修士（体育学）		ボランティア・ＮＰＯ入門※		1前	0.1	1	龍谷大学 経営学部教授 （平20.4）						
78	その他	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼｮｳｲﾁ 松村　省一 ＜令和10年4月＞		Ph.D.（言語教育学）（カナダ）		会話分析入門Ａ 会話分析入門Ｂ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 国際学部教授 （平15.9）						
79	その他	教授	ﾏﾙﾔﾏ　ｱﾂｼ 丸山　敦 ＜令和10年4月＞		博士（理学）		自然観察法※		2前	0.1	1	龍谷大学 先端理工学部教授 （平15.4）						
80	その他	教授	ﾐｳﾗ ﾚｲｲﾁ 三浦　励一 ＜令和9年10月＞		博士（農学）		植物の自然誌		1後	2	1	龍谷大学 農学部教授 （平27.4）						
81	その他	教授	ﾐｷ　ﾀｹｼ 三木　健 ＜令和10年4月＞		博士（理学）		自然観察法※		2前	0.3	1	龍谷大学 先端理工学部教授 （平30.8）						
82	その他	教授	ﾐｼﾊﾞ ｹｲｲﾁﾛｳ 三柴　啓一郎 ＜令和10年4月＞		博士（農学）		農業を支える植物細胞の力		2前	2	1	龍谷大学 農学部教授 （令3.4）						
83	その他	教授	ﾔﾏｸﾞﾁ　ﾐﾁｺ 山口　美知子 ＜令和9年4月＞		修士（農学） 会計修士（専門職）		サステナビリティ概論※ ネイチャーポジティブ経営概論※		1前 1③	0.3 0.1	1 1	公益財団法人東近江三方よし基金 常務理事 兼 事務局長 （平29.6）						
84	その他	教授	ﾔﾏﾅｶ　ﾋﾛｷ 山中　裕樹 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		地域の環境を知る※ サステナビリティ概論※ 自然観察法※		1① 1前 2前	0.8 0.3 0.1	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部教授 （平21.10）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
85	その他	教授	ﾔﾜﾀ ｺｳｲﾁ 八幡　耕一 ＜令和9年4月＞		博士（国際広報メディア）		Advanced Global PBL （RISE） Applied Cultural Adaptation （RISE） Cultural Adaptation （RISE） English language （RISE） Global PBL （RISE） Inclusive Communication Social Civic Engagement （RISE） ボランティア・ＮＰＯ入門※ みんなで学ぶ国際ビジネス事情 みんなのコミュニケーションＡ みんなのコミュニケーションＢ 海外英語研修 現代社会とメディア 現代社会の諸問題※		1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1後 2前 2前	4 2 2 12 2 2 2 0.1 2 2 2 2 2 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 国際学部教授 （平23.4）						
86	その他	教授	ﾖｼﾓﾄ ｹｲｽｹ 吉本　圭佑 ＜令和9年4月＞		Ph.D.（英国）		英語セミナーＧ		1前	4	2	龍谷大学 政策学部教授 （平28.4）						
87	その他	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｴｲｼﾞ 渡辺　英児 ＜令和9年4月＞		博士（体育学）		スポーツ科学のすすめ スポーツ技術学Ａ スポーツ技術学Ｂ	 ○ ○	1前 1前 1後	2 1 1	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部教授 （平15.4）						
88	その他	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾒｸﾞﾐ 渡辺　めぐみ ＜令和9年4月＞		博士（社会科学）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 社会学部教授 （平22.4）						
89	その他	准教授	ｱｷﾊﾞ ﾌﾄｼ 秋庭　太 ＜令和9年4月＞		博士（経営学）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 経営学部 准教授 （平22.4）						
90	その他	准教授	ｲｼﾊﾗ ﾘｮｳｶﾞ 石原　凌河 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		ボランティア・ＮＰＯ入門※ 地域レジリエンス論		1前 2前	0.1 2	1 1	龍谷大学 政策学部 准教授 （平28.4）						
91	その他	准教授	ｲﾉｳｴ(ｳﾗﾍﾞ) ﾖｼｴ 井上（卜部）　芳恵 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		ボランティア・ＮＰＯ入門※ グローバル・シチズンシップＡ（公共性・コミュニティ）		1前 2後	0.1 2	1 1	龍谷大学 政策学部 准教授 （平23.4）						
92	その他	准教授	ｲﾜﾐ ｱｻｺ 岩見　麻子 ＜令和9年10月＞		博士（環境科学）		ネイチャーポジティブ経営概論※		1③	0.1	1	熊本県立大学 総合管理学部 准教授 （令2.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
93	その他	准教授	ｳｴﾑﾗ ﾜﾀﾙ 植村　渉 ＜令和9年10月＞		博士（工学）		情報と人間		1後	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平17.11）						
94	その他	准教授	ｳﾁﾀﾞ ｼﾞｭﾝｼﾝ 内田　准心 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		（本山教師）仏教史※ 仏教の世界		1前 2前	0.6 2	1 1	龍谷大学 文学部 准教授 （平30.4）						
95	その他	准教授	ｵｶｻﾞｷ ﾌﾐｺ 岡崎　史子 ＜令和9年4月＞		博士（家政学）		現代社会と栄養		1前	2	1	龍谷大学 農学部 准教授 （平27.4）						
96	その他	准教授	ｶｽﾉ ﾒｸﾞﾐ 糟野 潤 ＜令和9年10月＞		博士（工学）		現代の技術※		1後	0.9	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平18.4）						
97	その他	准教授	ｶｽﾞﾐ ｺｳｽｹ 数実　浩佑 ＜令和10年4月＞		博士（人間科学）		子ども社会学		2前	2	1	龍谷大学 社会学部 准教授 （令7.4）						
98	その他	准教授	ｶﾜｲ ｻｵﾘ 河合　沙織 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		キャリア入門※ グローバリゼーションとラテンアメリカ		1前 2前	0.3 2	2 1	龍谷大学 国際学部 准教授 （平27.4）						
99	その他	准教授	ｷｼﾓﾄ ｹｲｺ 岸本　圭子 ＜令和9年4月＞		博士（人間・環境学）		地域の環境を知る※ 自然観察法※		1① 2前	0.3 0.8	1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （令4.4）						
100	その他	准教授	ｺｼｶﾜ ﾋﾛﾓﾄ 越川　博元 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		サステナビリティ概論※		1前	0.7	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平17.4）						
101	その他	准教授	ｺﾁﾞ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 古地　順一郎 ＜令和9年4月＞		Ph.D.（政治学・カナダ研究）（カナダ）		国際学のすすめ	○	1前	2	1	龍谷大学 国際学部 准教授 （令8.4）						
102	その他	准教授	ｻｲ ｼｭﾝｾｲ 崔　舜星 ＜令和9年4月＞		博士（情報科学）		データサイエンス・ＡＩ入門 データサイエンス基礎 ＡＩ基礎		1前 2前 2後	12 2 2	6 1 1	龍谷大学 心理学部 准教授 （令5.4）						
103	その他	准教授	ｻｶｲ ﾒｸﾞﾐ 堺　恵 ＜令和10年4月＞		博士（社会福祉学）		現代社会と福祉		2前	2	1	龍谷大学 文学部 准教授 （平29.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
104	その他	准教授	ｻﾜﾆｼ ﾕｳｽｹ 澤西　祐典 ＜令和10年4月＞		博士（人間・環境学）		世界文学入門		2前	2	1	龍谷大学 国際学部 准教授 （平31.4）						
105	その他	准教授	ｼﾗｲｼ　ﾁﾋﾛ 白石　智宙 ＜令和9年10月＞		博士（経済学）		ネイチャーポジティブ経営概論※		1③	0.1	1	龍谷大学 農学部 准教授 （令8.4）						
106	その他	准教授	ｽｽﾞｷ ﾐｵ 鈴木　美央 ＜令和10年4月＞		博士（工学）		消費者問題論		2前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （令7.4）						
107	その他	准教授	ﾀｶｵｶ(ﾊｺﾀﾞ) ﾄﾓｺ 高岡（箱田）　智子 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		ドイツ語ＩＡ ドイツ語ⅡＡ ドイツ語セミナーＩＡ 音楽社会学 カルチュラルスタディーズ ドイツ語セミナーＩＢ		1前 1後 2前 2前 2後 2後	2 2 2 2 2 2	2 2 1 1 1 1	龍谷大学 社会学部 准教授 （平19.4）						
108	その他	准教授	ﾀﾆ(ｱｻｵｶ) ｱﾔｺ 谷（朝岡）　綾子 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		英語セミナーG 英語セミナーD 英語総合３ 英語総合４	 ○ ○	1前 2前 2前 2後	4 4 1 1	2 2 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平26.4）						
109	その他	准教授	ﾀﾆｶﾞｷ ﾀｹﾄ 谷垣　岳人 ＜令和9年4月＞		工学修士		ボランティア・ＮＰＯ入門※ 自然保護論		1前 3後	0.1 2	1 1	龍谷大学 政策学部 准教授 （平18.4）						
110	その他	准教授	ﾀﾝﾉ ｹﾝｲﾁ 丹野　研一 ＜令和9年4月＞		博士（農学）		里山学		1前	2	1	龍谷大学 文学部 准教授 （平30.4）						
111	その他	准教授	ﾂﾏｷ ｼﾝｺﾞ 妻木　進吾 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		現代社会の諸問題※ 社会課題解決演習 社会データ分析		2前 2前 2後	0.3 2 2	1 1 1	龍谷大学 経営学部 准教授 （平25.4）						
112	その他	准教授	ﾅｶｶﾞﾜ(ﾜﾀﾅﾍﾞ) ﾁｸﾞｻ 中川（渡邉）　千草 ＜令和9年4月＞		博士（社会学）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 農学部 准教授 （平27.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
113	その他	准教授	ﾅｶﾀ ﾕｳｺ 中田　裕子 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		アジアの歴史 歴史学のすすめ 現代社会の諸問題※ 社会課題解決演習 中国語セミナーＩＡ 中国語セミナーＩＢ	○ ○	1前 1前 2前 2前 2前 2後	2 8 0.9 2 2 2	1 4 1 1 1 1	龍谷大学 農学部 准教授 （平27.4）						
114	その他	准教授	ﾅｶﾈ ｻﾄｺ 中根　智子 ＜令和9年4月＞		博士（国際関係学）		ボランティア・ＮＰＯ入門※ グローバリゼーションと南アジア Introduction to Cultural Anthropology		1前 2前 2後	0.1 2 2	1 1 1	龍谷大学 国際学部 准教授 （平23.9）						
115	その他	准教授	ﾊﾔｼ ﾉﾘﾋﾄ 林　則仁 ＜令和10年10月＞		博士（国際文化学）		文化交流論		2後	2	1	龍谷大学 国際学部 准教授 （平26.4）						
116	その他	准教授	ﾌｼﾞｶﾜ ﾀｹｼ 藤川　健 ＜令和10年4月＞		博士（商学）		地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行） 地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）		2前 2後	4 2	1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 （令7.4）						
117	その他	准教授	ﾌﾅﾊｼ ｹﾝﾀ 舟橋　健太 ＜令和9年4月＞		博士（地域研究）		文化人類学のすすめ 差別と排除の社会学	○	1前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 社会学部 准教授 （平30.4）						
118	その他	准教授	ﾏﾅﾍﾞ ｸﾆﾋﾛ 眞鍋　邦大 ＜令和9年4月＞		博士（農学）		キャリア入門※ ボランティア・ＮＰＯ入門※ キャリア実習・実習指導 キャリア・ディスカバリー		1前 1前 1前 2後	1.3 0.1 2 2	2 1 1 1	龍谷大学 経営学部 准教授 （令4.4）						
119	その他	准教授	ﾖｺﾀ ﾀｹﾄ 横田　岳人 ＜令和9年4月＞		博士（農学）		サステナビリティ概論※ 自然観察法※		1前 2前	0.4 0.5	1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平15.4）						
120	その他	准教授	ﾖｼﾑﾗ ﾏｻﾋﾛ 吉村　征洋 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ） 海外英語研修 英語セミナーＢ	○ ○	1前 1後 1後 2前	1 1 2 4	1 1 1 2	龍谷大学 農学部 准教授 （令4.4）						
121	その他	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛﾕｷ 渡邊　洋之 ＜令和9年4月＞		博士（農学）		経済学のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学 農学部 准教授 （平27.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
122	その他	講師	ｱｵﾔﾆ ﾐﾁﾖ 青谷　実知代 ＜令和9年4月＞		修士（経営学）		経営学のすすめ	○	1前	2	1	神戸松蔭大学人間科学部准教授（平21.4）						
123	その他	講師	ｱｻｶ ﾄﾓｷ 朝香　知己 ＜令和10年4月＞		博士（神学）		ジェンダー論		2前	2	1	龍谷大学非常勤講師（平29.4）						
124	その他	講師	ｱﾘｲ ﾔｽﾋﾄ 有井　安仁 ＜令和10年10月＞		専門学校卒		協創イノベーションラボ（ＰＢＬ型企業連携）		2後	2	1	ソラトチ株式会社代表取締役（令元.9）						
125	その他	講師	ｱﾘﾏ ﾖｼﾀｶ 有馬　義貴 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		古典文学講読（Ａ）Ａ 古典文学講読（Ａ）Ｂ		2前 2後	2 2	1 1	奈良教育大学国語教育講座准教授（平26.4）						
126	その他	講師	ｲｸﾀ ｱﾂｼ 生田　敦司 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		日本の歴史	○	1前	2	1	龍谷大学非常勤講師（平15.4）						
127	その他	講師	ｲｹｵ ﾔｽｼ 池尾　靖志 ＜令和10年4月＞		修士（国際関係学）		国際社会論		2前	4	2	龍谷大学非常勤講師（平18.4）						
128	その他	講師	ｲｹﾀﾞ ﾏﾘｱ イケダ　マリア ＜令和9年4月＞		博士（経済学）		英語で学ぶ日本の社会Ｂ		1前	2	1	京都産業大学経済学部教授（平28.4）						
129	その他	講師	ｲｼｶﾜ ﾕｶ 石川　有香 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		英語総合３ 英語総合４	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	名古屋工業大学基礎類教授（平17.4）						
130	その他	講師	ｲﾅｲ ﾏｺﾄ 稲井　誠 ＜令和9年10月＞		博士（経済学）		経済英語Ⅰ		1後	2	1	龍谷大学非常勤講師（平15.4）						
131	その他	講師	ｲﾈﾅｶﾞ ﾕｳｽｹ 稲永　祐介 ＜令和10年4月＞		博士（政治学）（仏国）		社会思想史		2前	2	1	龍谷大学非常勤講師（令5.4）						
132	その他	講師	ｲﾉｳｴ ﾋﾛﾌﾐ 井上　博文 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		仏教の思想Ａ 仏教の思想Ｂ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学非常勤講師（平15.4）						
133	その他	講師	ｲﾊﾞﾗｷﾞ ｼﾉ 伊原木　詩乃 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		宗教の世界 宗教学のすすめ	○ ○	1前 1前	4 4	2 2	龍谷大学非常勤講師（令3.9）						
134	その他	講師	ｲﾏｴﾀﾞ ｷｮｳｺ 今枝　杏子 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		情報出版学講読（Ｂ）Ａ		2前	2	1	龍谷大学非常勤講師（令6.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
135	その他	講師	ｲﾜｻ ﾀｸﾐ 岩佐　匠 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		英語セミナーＡ		1前	8	4	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
136	その他	講師	ｲﾜｻｷ ﾀｹﾄ 岩崎　豪人 ＜令和9年4月＞		修士（文学）		クリティカル・シンキング	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
137	その他	講師	ｲﾜｾ ﾏｻﾉﾘ 岩瀬　雅紀 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		健康とスポーツ		2前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平20.4）						
138	その他	講師	ｳｴﾊﾗ ｹﾝﾀﾛｳ 上原　健太郎 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		人権論Ａ 人権論Ｂ	○ ○	1前 1後	4 4	2 2	大阪国際大学 人間科学部 准教授 （平30.4）						
139	その他	講師	ｳﾁﾓﾄ ｶｽﾞﾈ 打本　和音 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		仏教の思想Ａ 仏教の思想Ｂ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	京都大学人文科学研究所日本学術振興会特別研究員PD （令5.4）						
140	その他	講師	ｳﾁﾔﾏ ﾄﾓﾐ 内山　知美 ＜令和9年4月＞		修士（英語学）		英語セミナーＡ		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （令4.4）						
141	その他	講師	ｳﾒﾀﾞ ﾀｸﾔ 梅田　拓也 ＜令和10年10月＞		博士（情報社会学）		情報社会論		2後	2	1	龍谷大学 社会学部 講師 （令8.4）						
142	その他	講師	ｳﾘｳ(ｴｶﾞﾜ) ｱﾔﾖ 瓜生（江川）　濃世 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		フランス語ＩＡ フランス語ＩＢ		1前 1前	2 2	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
143	その他	講師	ｴﾅﾐ(ﾖｼｶﾜ) ﾕｶﾘ 榎並（吉川）　ゆかり ＜令和9年4月＞		修士（経済学）		社会課題発見演習		1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令6.4）						
144	その他	講師	ｴﾉﾓﾄ ﾏｻﾕｷ 榎本　雅之 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		スポーツ技術学Ａ スポーツ技術学Ｂ	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	滋賀大学 経済学部教授 （平24.4）						
145	その他	講師	ｵｳ(ﾜﾉﾀﾞ) ｱﾝｼﾝ 王（角田）　亜新 ＜令和9年4月＞		修士※（経済学）		中国語ＩＡ 中国語ⅡＡ		1前 1後	2 2	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平21.4）						
146	その他	講師	ｵｵﾂｶ(ｺﾝﾄﾞｳ) ﾎﾅﾐ 大塚（近藤）　穂波 ＜令和9年4月＞		博士（教育学）		心理学入門 学習・発達論Ａ 学習・発達論Ｂ	○	1前 2前 2後	4 2 2	2 1 1	大阪国際大学 短期大学部 講師 （令3.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
147	その他	講師	ｵｵﾉ ｱｷｴ 大野　暁恵 ＜令和9年4月＞		修士（文学）		英語セミナーＡ 英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	 ○ ○	1前 1前 1後	8 1 1	4 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令3.9）						
148	その他	講師	ｵｵﾏｴ ﾀｸ 大前　拓 ＜令和9年4月＞		修士（体育学）		スポーツ技術学Ａ スポーツ技術学Ｂ	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平26.4）						
149	その他	講師	ｵｷﾞﾜﾗ ﾋﾛｼ 荻原　廣 ＜令和10年10月＞		修士（文学）		日本語教育入門		2後	2	1	佛教大学 文学部教授 （平30.4）						
150	その他	講師	ｵｸﾞﾗ ｹｲ 小倉　圭 ＜令和9年10月＞		博士（コーチング学）		現代社会とスポーツ		1後	4	2	滋賀大学 経済学部 准教授 （平29.4）						
151	その他	講師	ｵｻﾞﾜ ﾘｶ 小澤　理香 ＜令和10年4月＞		農学博士		生命と科学	○	2前	2	1	京都大学生態学研究センター 研究員 （平13.4）						
152	その他	講師	ｶ ｷｮｳｾｷ 華　京碩 ＜令和9年4月＞		修士※（社会学）		中国語ＩＡ 中国語ＩＢ 中国語ⅡＡ 中国語ⅡＢ 中国語セミナーＩＡ 中国語セミナーＩＢ	 	1前 1前 1後 1後 2前 2後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平30.4）						
153	その他	講師	ｶｷﾓﾄ ﾖｼﾐ 柿本　佳美 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		西洋の文学Ａ 倫理学Ａ 西洋の文学Ｂ 倫理学Ｂ	○ ○ ○ 	1前 1前 1後 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平17.4）						
154	その他	講師	ｶﾄｳ ｼﾝｺﾞ 加藤　真悟 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		教化法※【隔年】		1通	0.7	1	龍谷大学 非常勤講師 （令3.4）						
155	その他	講師	ｶﾈｺ ﾕｳｲﾁﾛｳ 金子　裕一郎 ＜令和9年10月＞		修士（経済学）		経済社会論入門		1後	2	1	龍谷大学 経済学部 講師 （平19.4）						
156	その他	講師	ｶﾏｸﾗ　ﾏｲ 鎌倉　真依 ＜令和10年4月＞		博士（理学）		自然観察法※		2前	0.1	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 （令5.4）						
157	その他	講師	ｶﾒﾀﾞ ｴｲｲﾁﾛｳ 亀田　英一郎 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		言語学入門	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令6.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
158	その他	講師	ｶﾜﾀﾞ ﾉﾌﾞﾐﾁ 川田　伸道 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
159	その他	講師	ｶﾝ ｼｮｳｱｲ(ｶﾜﾊﾗ ﾕｳﾘ) 韓　正愛（川原 悠里） ＜令和9年4月＞		博士（歴史学）（中国）		中国語ＩＢ 中国語ⅡＢ		1前 1後	2 2	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平19.4）						
160	その他	講師	ｷｸｶﾜ(ﾀﾅｶ) ﾏｻｺ 菊川（田中）　雅子 ＜令和9年4月＞		修士（アメリカ研究）		英語セミナーＡ		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平31.4）						
161	その他	講師	ｷﾑ ｳﾞｨｸﾄﾘﾔ キム　ヴィクトリヤ ＜令和9年4月＞		博士（人間科学）		英語で学ぶ日本の社会Ａ		1前	2	1	立命館大学 国際関係学部 准教授 （令4.4）						
162	その他	講師	ｷﾑ ﾋｮﾝｼﾞｭ キム　ヒョンジュ ＜令和9年4月＞		修士（政治学）		コリア語ＩＡ コリア語ＩＢ		1前 1前	2 2	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （令5.4）						
163	その他	講師	ｸﾛﾀﾞ ｲｯﾍﾟｲ 黒田　一平 ＜令和9年4月＞		博士（人間・環境学）		英語セミナーＡ		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平29.4）						
164	その他	講師	ｸﾛﾀﾞ(ﾏﾂｵｶ) ﾏﾕﾐ 黒田（松岡）　真由美 ＜令和10年4月＞		修士（教育学）		心理学Ａ 心理学Ｂ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令5.4）						
165	その他	講師	ｺｳ ｲｴﾝ 高　岩 ＜令和10年4月＞		修士※（文学）		英語総合３ 英語総合４	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平21.4）						
166	その他	講師	ｺｳﾉﾞｷ ﾉﾘｽｹ 神月　紀輔 ＜令和11年4月＞		修士（教育学）		教育の方法と技術（ＩＣＴ活用含む） 情報科教育法Ⅰ 情報科教育法Ⅱ		3前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	神戸親和大学 教育学部 特任教授 （令8.4）						
167	その他	講師	ｺﾞｰﾏﾝ ｼﾞｮﾝ ゴーマン　ジョン ＜令和10年4月＞		MA Film Studies (アイルランド)		留学英語Ⅱ 留学英語Ⅳ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平16.4）						
168	その他	講師	ｺﾓﾘ ﾔｽｶ 小森　康加 ＜令和9年4月＞		博士（スポーツ医学）		教養教育科目特別講義		1前	2	1	京都光華女子大学健康科学部教授 （平30.4）						
169	その他	講師	ｺﾝﾄﾞｳ(ﾉｶﾞﾜ) ﾐﾅ 近藤（能川）　未奈 ＜令和9年4月＞		修士（言語文化学）		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平26.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
170	その他	講師	ｻﾞｰﾙ ﾌﾗﾝｸ ザール　フランク ＜令和10年10月＞		Master of Education（米国）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ		2後 3前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令5.9）						
171	その他	講師	ｻｲﾄｳ ﾄﾓｺ 齊藤　倫子 ＜令和9年4月＞		修士（言語科学）		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令3.9）						
172	その他	講師	ｻｶｲ ｶｽﾞｼｹﾞ 阪井　一繁 ＜令和9年4月＞		博士（情報学）		生活の中の統計技術	○	1前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 （平8.4）						
173	その他	講師	ｻｶﾀ(ﾔｽﾀﾞ) ｺﾉﾐ 坂田（安田）　彩 ＜令和9年4月＞		修士※（言語文化）		スペイン語ＩＡ スペイン語ＩＢ スペイン語ⅡＡ スペイン語ⅡＢ スペイン語セミナーＩＡ スペイン語セミナーＩＢ		1前 1前 1後 1後 2前 2後	2 1 1 1 2 2	2 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平23.4）						
174	その他	講師	ｻｻｷ ｶｵﾘ 佐々木　香理 ＜令和9年4月＞		博士（言語学）		フランス語ＩＡ フランス語ＩＢ フランス語ⅡＡ フランス語ⅡＢ フランス語セミナーＩＡ フランス語セミナーＩＢ		1前 1前 1後 1後 2前 2後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平24.4）						
175	その他	講師	ｼﾉﾊﾗ ﾖｼｴ 篠原　美江 ＜令和11年4月＞		博士（国際関係学）		国際ビジネス論		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令4.9）						
176	その他	講師	ｼﾊﾞﾀ ﾋﾛｼ 柴田　広志 ＜令和9年4月＞		博士（歴史学）		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令2.4）						
177	その他	講師	ｼﾊﾞﾊﾗ ﾂﾄﾑ 芝原　努 ＜令和10年4月＞		修士（工学）		情報倫理※		2前	0.5	1	一般財団法人関西情報センター社会ビジネス創出グループ部長 （平7.4）						
178	その他	講師	ｼﾏﾑﾗ ｹﾝｼﾞ 島村　健司 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		アカデミック・ライティング入門 日本の文学 近代文学講読（Ｃ）Ａ 近代文学講読（Ｃ）Ｂ	 ○ 	1前 1前 2前 2後	4 2 2 2	2 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
179	その他	講師	シモツマ カズヨリ 下間　一頼 ＜令和9年4月＞		修士（文学）		真宗史		1通	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
180	その他	講師	シャキャ スダン シャキャ　スダン ＜令和10年4月＞		博士（文学）		チベット語仏典入門Ａ１ チベット語仏典入門Ａ２		2前 2後	2 2	1 1	種智院大学 人文学部教授 （平23.4）						
181	その他	講師	スギヤマ ヨシアキ 杉山　善明 ＜令和10年4月＞		修士※（工学）		デジタルメディア論		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平16.4）						
182	その他	講師	スミトモ　ツヨシ 住友　剛 ＜令和10年10月＞		修士（文学）		生徒・進路指導論		2後	2	1	京都精華大学 人文学部教授 （平13.9）						
183	その他	講師	セキノ(オオタニ) アヤコ 関野（大谷）　文子 ＜令和10年4月＞		博士（地域研究）		人類の科学		2前	2	1	立命館大学 衣笠総合研究機構 専門研究員 （令7.4）						
184	その他	講師	セナ モレノ レイサ クリスティナ セナ　モレノ　レイサ　クリスティナ ＜令和10年4月＞		博士（経済学）		経済英語Ⅱ		2前	2	1	龍谷大学 経済学部 講師 （令6.4）						
185	その他	講師	セノオ トモノリ 妹尾　知則 ＜令和10年4月＞		修士（法学）		現代社会と労働		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平29.4）						
186	その他	講師	ソン ゼヒ 孫　才喜 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		コリア語ＩＡ コリア語ＩＢ コリア語ⅡＡ コリア語ⅡＢ コリア語セミナーＩＡ コリア語セミナーＩＢ		1前 1前 1後 1後 2前 2後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平15.10）						
187	その他	講師	タカイ リュウ 髙井　龍 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		アジアの文化		2前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （令6.4）						
188	その他	講師	タカタ ミメイ 高田　未明 ＜令和10年4月＞		修士（文学）		真宗学概論		2通	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （平14.4）						
189	その他	講師	タキカワ クニヨシ 滝川　国芳 ＜令和10年4月＞		博士（医療福祉学）		特別支援教育概論		2前	2	1	京都女子大学 発達教育学部 教授 （平31.4）						
190	その他	講師	タケウチ トモアキ 竹内　友章 ＜令和10年10月＞		修士（人間福祉学）		社会参画技法		2後	2	1	龍谷大学 社会学部 講師 （令8.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
191	その他	講師	ﾀｹｼﾀ ｼｭｳ 竹下　柊 ＜令和11年10月＞		修士（臨床心理学）		教育相談		3後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令3.9）						
192	その他	講師	ﾀｹﾑﾗ(ｶｲﾎｳ) ﾘﾖ 竹村（海寶）　理世 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		英語総合１（A） 英語総合１（B） 英語総合２（A） 英語総合２（B） 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 1前 1後 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平20.4）						
193	その他	講師	ﾀﾂﾀﾆ ｼﾞｮｳｼﾞｭﾝ 龍谷　乗淳 ＜令和9年4月＞		学士（文学）		宗門法規【隔年】		1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令6.4）						
194	その他	講師	ﾀﾅｶ ﾅｵ 田中　直 ＜令和9年4月＞		博士（国際関係学）		ドイツ語ＩA ドイツ語ＩB ドイツ語ⅡB		1前 1前 1後	1 2 1	1 2 1	龍谷大学 非常勤講師 （平31.4）						
195	その他	講師	ﾀﾆ ﾋﾃﾞﾄｼ 溪　英俊 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		仏教の思想A 仏教の思想B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平21.4）						
196	その他	講師	ﾀﾞﾆｴﾙ ｵﾛｽﾞｺ ダニエル　オロズコ ＜令和9年4月＞		修士（英語教育）（米国）		英語総合１（A） 英語総合２（A） 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令4.4）						
197	その他	講師	ﾁｪ ｿﾖﾝ 崔　瑞瑩 ＜令和10年4月＞		Ph.D. (Political Science) (韓国)		国際関係入門 グローバリゼーションと東アジア		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 国際学部講師 （令8.4）						
198	その他	講師	ﾁｮｳ ﾏﾝｾｲ 張　曼青 ＜令和10年4月＞		博士（人間科学）		環境と社会		2前	2	1	京都大学 フィールド科学教育研究センター 特定助教 （令5.4）						
199	その他	講師	ﾃﾗﾓﾄ ｾｲｼ 寺本　聖史 ＜令和9年4月＞		短期大学士		勤式※【隔年】		1通	1.2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平30.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
200	その他	講師	ﾄﾞﾗｸﾞﾅ ﾗﾙｶ ﾏﾘｱ ドラグナ　ラルカ　マリア ＜令和10年4月＞		修士※（人間科学）		留学英語Ⅰ 留学英語Ⅲ		2前 2後	4 4	1 1	龍谷大学非常勤講師（平25.4）						
201	その他	講師	ﾅｶｶﾞﾜ ｵｵｷ 中川　大城 ＜令和9年4月＞		修士（文学）		教化法※【隔年】		1通	0.9	1	龍谷大学非常勤講師（令3.4）						
202	その他	講師	ﾅｶﾞｻﾜ ｱﾂｼ 長澤　敦士 ＜令和10年10月＞		修士（人間・環境学）		学校教育社会学		2後	2	1	龍谷大学非常勤講師（令6.9）						
203	その他	講師	ﾅｶｼﾞﾏ ﾂﾖｼ 中島　剛 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		英語総合１（A） 英語総合２（A）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学非常勤講師（平16.4）						
204	その他	講師	ﾅｶﾞﾏﾂ ﾏｻｷ 永松　昌樹 ＜令和10年4月＞		体育学修士※		スポーツ文化論		2前	4	2	龍谷大学非常勤講師（令3.4）						
205	その他	講師	ﾅｶﾐﾁ ﾏｺﾄ 中道　眞 ＜令和9年4月＞		博士（経済学）		経済学のすすめ 社会統計学のすすめ	○ ○	1前 1前	2 2	1 1	新潟薬科大学応用生命科学部教授（平31.4）						
206	その他	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾁｻｺ 中村　秩祥子 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		英語総合１（A） 英語総合１（B） 英語総合２（A） 英語総合２（B） 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 1前 1後 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	龍谷大学非常勤講師（平15.4）						
207	その他	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾖｼｵ 中村　善雄 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		西洋の文学C 西洋の文学D		2前 2後	2 2	1 1	京都女子大学文学部教授（平31.4）						
208	その他	講師	ﾅﾐｷ　ｼｭｳﾀﾛｳ 並木　州太朗 ＜令和9年4月＞		博士（政策学）		サステナビリティ概論※ ネイチャーポジティブ経営概論※ アントレプレナーシップ入門		1前 1③ 1後	0.1 0.1 2	1 1 1	龍谷大学政策学部講師（令7.9）						
209	その他	講師	ﾅﾗﾓﾄ ﾏｻﾋﾛ 楢本　昌広 ＜令和9年4月＞		学士（工学）		勤式※【隔年】		1通	1.2	1	浄土真宗本願寺派式務部課長（平12.4）						
210	その他	講師	ﾆｼｶﾜ ﾀｶｼ 西川　隆 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		英語総合１（A） 英語総合２（A）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学非常勤講師（平15.4）						
211	その他	講師	ﾆｼﾀﾆ ｲｻｵ 西谷　功 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		仏教美術（イコノロジー）入門A 仏教美術（イコノロジー）入門B		2前 2後	2 2	1 1	国際日本文化研究センター（令8.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
212	その他	講師	ﾆｼﾑﾗ ﾏｻﾋﾛ 西村　昌洋 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		西洋の歴史	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平22.4）						
213	その他	講師	ﾆｼﾔﾏ ﾘｮｳｹｲ 西山　良慶 ＜令和9年10月＞		博士（文学）		AI時代の哲学 これからの社会と人権		1③ 1④	1 1	1 1	龍谷大学 先端理工学部 講師 （令5.4）						
214	その他	講師	ﾉﾑﾗ ﾔｽﾕｷ 野村　康之 ＜令和9年4月＞		博士（農学）		生活の中の生物学	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令2.4）						
215	その他	講師	ﾊｰｽﾞ ｹﾞｰﾘｰ ハーズ　ゲーリー ＜令和9年4月＞		Juris Doctor（米国）		英語総合１（B） 英語総合２（B）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	GOH外国法事務弁護士事務所 代表 （平27.2）						
216	その他	講師	ﾊﾔｼ ｴﾘ 林　英理 ＜令和9年4月＞		M.A. in Linguistics（米国）		英語総合１（B） 英語総合２（B）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令6.4）						
217	その他	講師	ﾌｼﾞｲ ﾀｶｺ 藤井　香子 ＜令和9年4月＞		修士（文学）		英語総合１（A） 英語総合２（A） 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平26.4）						
218	その他	講師	ﾌｼﾞｲ ﾅﾂｺ 藤井　奈津子 ＜令和9年4月＞		修士（社会学） 修士※（教育学）		教育原論Ａ 教育原論Ｂ	○ ○	1前 1後	4 4	2 2	梅花女子大学 心理こども学部 教授 （平20.4）						
219	その他	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄｵﾙ 藤田　透 ＜令和9年4月＞		修士（英語学）		英語セミナーＡ		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （令5.4）						
220	その他	講師	ﾎｿﾉﾒ ｹｲｽｹ 細目　圭佑 ＜令和9年4月＞		学士（理学）		思考法を学ぶⅠ 思考法を学ぶⅡ		1① 1②	1 1	1 1	日本GXグループ株式会社 共同代表 （令5.4）						
221	その他	講師	ﾎﾞﾆﾌｧｼｵ ﾆｰﾆﾔﾏﾘｰ ボニファシオ ニーニヤマリー ＜令和9年4月＞		M.A.TESOL（言語学）		英語総合１（A） 英語総合２（A） 英語セミナーＣ	○ ○	1前 1後 2前	1 1 4	1 1 2	龍谷大学 非常勤講師 （令5.4）						
222	その他	講師	ﾏﾂｵｶ ｹｲｺﾞ 松岡　恵悟 ＜令和10年4月＞		修士※（理学）		地域論		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平27.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
223	その他	講師	ﾏﾂｼﾏ ﾀｸﾐ 松島　拓 ＜令和10年10月＞		学士（理学）		ソーシャルインパクト概論		2後	2	1	特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会マネージング・ディレクター（令3.3）						
224	その他	講師	ﾏﾂﾓﾄ ｹｲｺ 松本　敬子 ＜令和9年4月＞		博士（言語文化学）		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ） 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学非常勤講師（平24.10）						
225	その他	講師	ﾏﾂﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 松本　賢次 ＜令和9年4月＞		修士（スポーツ科学）		スポーツ技術学Ａ スポーツ技術学Ｂ	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	一般社団法人日本車いすテニス協会ナショナルヘッドコーチ（令6.4）						
226	その他	講師	ﾏﾅｺ ｱｷﾏｻ 真名子　晃征 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		真宗教団史		2前	4	1	龍谷大学非常勤講師（平28.4）						
227	その他	講師	ﾐｶﾐ ﾃｲｼﾞ 三上　禎次 ＜令和9年10月＞		博士（理学）		生活の中の地学	○	1後	2	1	龍谷大学非常勤講師（平22.4）						
228	その他	講師	ﾐｽﾞｶﾞｷ ｹﾞﾝﾀﾛｳ 水垣　源太郎 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		政治学のすすめ	○	1前	2	1	奈良女子大学研究院人文科学系教授（平8.10）						
229	その他	講師	ﾐｿﾞｳﾁ ｹｲｽｹ 溝内　啓介 ＜令和10年4月＞		学士（農業）		消費者問題論		2前	2	1	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都・京都消団連（令元.7）						
230	その他	講師	ﾐﾁﾓﾄ ﾀﾞｲｾｲ 道元　大成 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		仏教学概論		2通	4	1	龍谷大学非常勤講師（平31.4）						
231	その他	講師	ﾐﾌﾞ ﾔｽﾉﾘ 壬生　泰紀 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		サンスクリット語仏典入門Ａ１ サンスクリット語仏典入門Ａ２		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学政策学部講師（令7.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
232	その他	講師	ﾐﾔｹ ﾋﾛｷ 三宅　裕樹 ＜令和10年10月＞		博士（経済学）		地方財政論		2後	2	1	京都府立大学公共政策学部准教授（平30.10）						
233	その他	講師	ﾐﾔｻﾞｷ ﾋﾛｼ 宮崎　寛 ＜令和10年4月＞		MScEcon in Postcolonial Politics（英国）		平和学Ａ		2前	4	2	龍谷大学非常勤講師（平24.10）						
234	その他	講師	ﾐﾔﾍﾞ ﾏｻﾌﾐ 宮部　雅文 ＜令和9年4月＞		学士（文学）		教化法※【隔年】		1通	0.4	1	誓覚寺住職（平31.4）						
235	その他	講師	ﾐﾖｼ ﾐﾎｺ 三好　未穂子 ＜令和9年4月＞		修士※（英文学）		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学非常勤講師（平20.4）						
236	その他	講師	ﾑﾗｲ ﾀｸﾔ 村井　琢哉 ＜令和12年4月＞		修士（人間福祉学）		社会起業演習Ａ 社会起業演習Ｂ		4前 4後	2 2	1 1	金城学院大学人間科学部講師（令7.4）						
237	その他	講師	ﾑﾗｲ ﾐﾉﾙ 村井　実 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		生活の中の数学 情報理論 離散数学	○	1前 2後 2後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学非常勤講師（平15.4）						
238	その他	講師	ﾑﾗﾀ ﾄﾓﾐ 村田　智美 ＜令和9年4月＞		修士（社会学）		ボランティア・ＮＰＯ入門※		1前	0.1	1	龍谷大学社会学部講師（平21.4）						
239	その他	講師	ﾒｰﾗﾝ ｼﾞｬﾝｾﾊﾞｽﾁｬﾝ メーラン　ジャン　セバスチャン ＜令和9年4月＞		博士（芸術）		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学非常勤講師（平30.4）						
240	その他	講師	ﾓﾓｿﾞﾉ ﾋﾛﾅﾘ 桃園　裕成 ＜令和9年4月＞		学士（仏教）		勤式※【隔年】		1通	1.6	1	浄土真宗本願寺派宗務所職員（平2.12）						
241	その他	講師	ﾔｽﾑﾗ ｹｲｺ 安村　恵子 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ） 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学非常勤講師（平15.10）						
242	その他	講師	ﾔﾋﾛ ｶﾂﾛｳ 八尋　克郎 ＜令和10年4月＞		博士（農学）		環境の科学		2前	2	1	龍谷大学非常勤講師（令5.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部 情報学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
243	その他	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾀｹｼ 山口　威 ＜令和9年4月＞		修士（文学） 修士※（人間・環境学）		西洋の文学Ａ 西洋の文学Ｂ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学非常勤講師（平18.10）						
244	その他	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾊﾙｵ 山口　治男 ＜令和10年10月＞		修士※（国際学）		グローバル・ガバナンス論		2後	2	1	龍谷大学非常勤講師（平22.10）						
245	その他	講師	ﾔﾏﾓﾄ ｹｲﾀ 山元　圭太 ＜令和10年4月＞		学士（商学）		コミュニティオーガナイジング入門 コミュニティオーガナイジング実践		2② 2前	1 1	1 1	合同会社喜代七代表（平30.3）						
246	その他	講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾃﾂｼﾞ 山本　哲司 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		社会学のすすめ 社会調査のすすめ 現代社会の諸問題	○ ○	1前 1前 2前	2 2 2	1 1 1	龍谷大学非常勤講師（平4.4）						
247	その他	講師	ﾔﾝ ﾔﾝｲﾙ 梁　陽日（醸一） ＜令和9年4月＞		博士（学術）		人権論Ａ 人権論Ｂ	○ ○	1前 1後	4 4	2 2	龍谷大学非常勤講師（平28.4）						
248	その他	講師	ﾕｷｼｹﾞ ﾀﾀﾞﾀｶ 幸重　忠孝 ＜令和10年4月＞		修士（社会福祉学）		現代社会と福祉		2前	2	1	NPO法人こどもソーシャルワークセンター理事長（平30.3）						
249	その他	講師	ﾖｳ ﾄｳ 楊　涛 ＜令和9年4月＞		英語教育学修士※		英語セミナーＡ		1前	4	2	龍谷大学非常勤講師（平14.4）						
250	その他	講師	ﾖｼｼﾞﾏ ｼｮｳｲﾁ 芳島　昭一 ＜令和10年10月＞		修士（国際学）		グローバル・シチズンシップＣ（平和構築）		2後	2	1	特定非営利活動法人国連UNHCR協会職員（平29.2）						
251	その他	講師	ﾘｭｳ ﾊﾞｲﾚｲ 劉　梅玲 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		中国語ＩＡ 中国語ⅡＡ		1前 1後	2 2	2 2	龍谷大学非常勤講師（平23.4）						
252	その他	講師	ﾜｹ ｼｭｳｺﾞｳ 和氣　秀剛 ＜令和9年4月＞		修士（文学）		教化法※【隔年】		1通	2	1	龍谷大学非常勤講師（令2.4）						
253	その他	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｶﾂｷ 渡邉　華月 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		哲学入門 倫理学入門	○ ○	1前 1前	4 4	2 2	龍谷大学非常勤講師（平15.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
1	基（主専）	教授	ｲｹﾀﾞ ｾｲ 池田　聖 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		情報社会とメディア※		1前	4	4	龍谷大学 先端理工学部 教授 （令6.4）	○		○	学科会議	5日	
							メディア処理基礎		1後	2	1							
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							実世界コンピューティング	○	3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
2	基（主専）	教授	ｼﾌﾞﾔ ﾕｳ 澁谷　雄 ＜令和10年4月＞		工学博士		データサイエンス入門演習	○	2前	2	1	京都工芸繊維大学 工芸科学部 教授 （平2.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報デザイン		2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							電気・電子工学概論		2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							ヒューマンインタフェース		3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
3	基（主専）	教授	ｽｶﾞﾔ ﾖｼﾋﾛ 菅谷　至寛 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （令4.4）	○		○	学科会議	5日	
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							情報ネットワーク基礎		2前	2	1							
							データ構造とアルゴリズム・演習	○	2前	4	1							
							Cプログラミング	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
4	基（主専）	教授	ﾉﾑﾗ ﾀﾂﾔ 野村　竜也 ＜令和9年4月＞		工学博士		情報社会とメディア※		1前	4	4	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平16.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報社会と情報倫理		1後	2	1							
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							数理統計学	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							情報倫理※		2前	1.5	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							人工知能	○	3後	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
5	基（主専）	教授	ﾊﾀﾅｶ ﾕｳｼﾞ 畑中　裕司 ＜令和10年4月＞		博士（工学）		画像メディア処理論	○	2前	2	1	大分大学 理工学部 教授 （令2.10）	○		○	学科会議	5日	
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							メディア処理演習	○	2後	4	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							音声・音響メディア処理論	○	3後	2	1							
							機械学習	○	3後	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
6	基（主専）	教授（学部長）	ﾌｼﾞﾀ ｶｽﾞﾋﾛ 藤田　和弘 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		データサイエンス入門数学・演習Ⅰ	○	1前	4	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平16.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							データサイエンス入門演習	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							データサイエンス応用基礎・演習	○	2後	4	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							インターンシップ		3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							総合演習		3後	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
7	基（主専）	准教授	ｿｶﾞ ｱｻｺ 曽我 麻佐子 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平16.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報システム基礎		2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							ＣＧとアニメーション	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							オブジェクト指向プログラミング	○	3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
8	基（主専）	准教授	ﾌｼﾞﾓﾄ ﾕｳｲﾁﾛｳ 藤本　雄一郎 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		線形代数学	○	1後	4	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （令6.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							ＸＲ	○	3前	2	1							
							Ｗｅｂ技術	○	3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
9	基（主専）	准教授	ヤマモト テツオ 山本　哲男 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		情報基礎	○	1前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平30.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							データサイエンス数理統計学	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							ネットワークシステム演習	○	2後	4	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							プロジェクトリサーチ		3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ソフトウェア工学	○	3後	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
10	基（主専）	准教授	ヨシミ タケヒコ 吉見　毅彦 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平15.4）	○		○	学科会議	5日	
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							データマイニング	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
11	基（主専）	講師	ウエダ ヨシアキ 植田　祥明 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		情報基礎	○	1前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 （令5.4）	○		○	学科会議	5日	
							プログラミング基礎演習	○	1後	4	1							
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							コンピュータビジョン	○	3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
12	基（主専）	講師	ｵｸ ｹﾝﾀ 奥　健太 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		情報基礎演習	○	1前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 （平28.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							データベース	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							推薦システム	○	3後	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
13	基（主専）	講師	ｶｹﾞﾕｷ ﾀｶﾌﾐ 景行　崇文 ＜令和9年4月＞		博士（コーチング学）		微積分学	○	1前	4	1	元　独立行政法人日本スポーツ振興センター 契約研究員 （令8.3まで）	○		○	学科会議	5日	
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.4	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							物理学概論		2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							スポーツバイオメカニクス		3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
14	基（主専）	講師	ﾀｶﾊﾗ ﾏﾄﾞｶ 高原　まどか ＜令和9年4月＞		博士（工学）		データサイエンス入門数学・演習Ⅱ	○	1後	4	1	龍谷大学 農学部 講師 （令8.4）	○		○	学科会議	5日	
							情報と健康		1後	2	1							
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							データサイエンス入門	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況 教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
15	基（主専）	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾔｽﾋｺ 渡邉　靖彦 ＜令和9年4月＞		博士（情報学）		プログラミング基礎演習	○	1後	4	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 （平7.10）	○		○	学科会議	5日	
							情報基礎セミナー※	○	1後	0.1	1							
							ハードウェア基礎		2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							情報検索	○	3前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
							言語メディア処理論	○	3後	2	1							
							ラボラトリーインターンシップ	○	3後	2	1							
							科学技術英語	○	4通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
16	基（主専）	助教	ｼﾊﾞ ﾏｻﾋﾄ 芝　公仁 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		ソフトウェア基礎		1後	2	1	龍谷大学 先端理工学部 助教 （平14.4）			○	学科会議	5日	
							システムソフトウェア	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅰ	○	2前	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅱ	○	2後	2	1							
							未来共創ラボ演習Ⅲ	○	3前	2	1							
17	基（他）	教授	ｶｼﾞｻ ﾀｲﾗ 加治佐　平 ＜令和9年4月＞		博士（農学）		情報とスポーツ		1前	2	1	株式会社 SympaFit 代表取締役 （令5.9）			○	学科会議	2日	
							経営情報学	○	2前	2	1							
							バイオデータサイエンス	○	2後	2	1	株式会社 SympaFit 代表取締役 （令5.9）					3日	
							アントレプレナーシップ	○	3前	2	1							
18	基（他）	教授	ﾀﾞｲﾄｸ ﾀﾂﾔ 大徳　達也 ＜令和9年4月＞		学士（マネジメント）		情報と法		1前	2	1	東京海上ホールディングス株式会社 マネージャー （令4.6）			○	学科会議	2日	
							情報セキュリティ	○	2後	2	1							
							デジタル・フォレンジック		3前	2	1	東京海上ホールディングス株式会社 マネージャー （令4.6）					3日	
							デジタル・フォレンジック演習		3前	2	1							
21	その他	教授	ｲｽﾞﾐ ﾌﾐｱｷ 泉　文明 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		日本の文化	○	1前	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （平8.4）						
22	その他	教授	ｲﾃﾞ ｹﾝｼﾞ 井手　健二 ＜令和10年4月＞		修士（経営情報学）		企業と会計		2前	2	1	龍谷大学 経営学部教授 （平28.4）						
26	その他	教授	ｳﾁﾓﾄ ｺｳﾕｳ 打本　弘祐 ＜令和10年4月＞		博士（社会学）		歎異抄の思想Ⅰ		2前	2	1	龍谷大学 農学部教授 （平27.4）						
							歎異抄の思想Ⅱ		2後	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
28	その他	教授	ｵｰｶﾞｽﾃｨﾝ ｼﾞｮﾅｻﾝ オーガスティン ジョナサン ＜令和9年4月＞		Ph.D.（米国）		英語総合１（A） 英語総合２（A） 英語セミナーF 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2前 2後	1 1 4 1 1	1 1 2 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平27.4）						
30	その他	教授	ｵｶﾞﾜ ｹｲｼﾞ 小川　圭二 ＜令和9年10月＞		博士（工学）		現代の技術※		1後	1.1	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平26.4）						
32	その他	教授	ｶﾅﾓﾘ　ｴﾘ 金森　絵里 ＜令和9年4月＞		博士（経済学） PhD（英国）		環境思想入門 サステナビリティ概論※ ネイチャーポジティブ経営概論※		1前 1前 1③	2 0.3 0.3	1 1 1	立命館大学 経営学部教授 （平12.4）						
34	その他	教授	ｷﾀﾑﾗ　ﾉﾌﾞﾔｽ 北村　暢康 ＜令和9年10月＞		学士（経済学）		ネイチャーポジティブ経営概論※ サステナビリティ経営論		1③ 1④	0.3 1	1 1	サントリー株式会社 シニアアドバイザー （令7.1）						
35	その他	教授	ｷﾉｼﾀ ﾉﾘｱｷ 木下　謙朗 ＜令和9年4月＞		博士（日本語教育学）		日本語		1前	2	2	龍谷大学 経済学部教授 （平27.4）						
36	その他	教授	ｸﾜﾂｶ ｹﾝﾀﾛｳ 鍬塚　賢太郎 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		地理学のすすめ	○	1前	2	1	龍谷大学 経営学部教授 （平23.4）						
38	その他	教授	ｻｲﾄｳ ｷﾖﾂｸﾞ 齋藤　清嗣 ＜令和11年4月＞		修士（教育学）		総合的な学習の時間・特別活動論		3前	2	1	龍谷大学 文学部教授 （令6.4）						
41	その他	教授	ｻｺﾝ ﾀｸｵ 左近　拓男 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		生活の中の物理	○	1前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平24.4）						
43	その他	教授	ｻﾄｲ ﾋｻｷ 里井　久輝 ＜令和10年4月＞		言語文化学博士		英語セミナーE 英語総合３ 英語総合４	 ○ ○	2前 2前 2後	4 1 1	2 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平15.4）						
58	その他	教授	ﾃｼﾏ ﾋﾃﾞｷ 手嶋　英貴 ＜令和9年4月＞		Doktor Der Philosophie（ﾄﾞｲﾂ）		アジアの文学A アジアの文学B	○ ○	1前 1前	2 2	1 1	龍谷大学 法学部教授 （令3.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
59	その他	教授	ﾄｷﾓﾄ ﾖｼｱｷ 時本　義昭 ＜令和9年4月＞		法学博士		日本国憲法 法学のすすめ 現代社会と法	○ ○	1前 1前 2前	8 4 2	4 2 1	龍谷大学 社会学部教授 （平11.4）						
60	その他	教授	ﾅｶｵｷ ﾀｶﾋｺ 中沖　隆彦 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		生活の中の化学	○	1前	2	1	龍谷大学 先端理工学部教授 （平4.10）						
61	その他	教授	ﾅｶﾀﾆ ﾉﾎﾞﾙ 中谷　昇 ＜令和10年4月＞		修士（教育学）		教職論 介護等体験 道徳教育指導法 教職実践演習（中・高）		2前 3通 3後 4後	4 2 2 2	2 1 1 1	龍谷大学 社会学部教授 （令5.4）						
62	その他	教授	ﾅｶﾞﾐﾈ ﾄｼﾉﾌﾞ 長嶺　寿宣 ＜令和11年4月＞		博士（英語学）		介護等体験 教育実習指導ⅡA 教育実習指導ⅡB 教職実践演習（中・高）		3通 4通 4通 4後	2 4 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 国際学部教授 （令6.4）						
63	その他	教授	ﾅｶﾓﾄ ｶｽﾞﾋｺ 中本　和彦 ＜令和10年10月＞		博士（学校教育学）		教育課程論 介護等体験 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導ⅡA 教育実習指導ⅡB 教職実践演習（中・高）		2後 3通 4前 4通 4通 4後	2 2 1 4 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 法学部教授 （令5.4）						
70	その他	教授	ﾌｶｵ ﾏｻﾀｶ 深尾　昌峰 ＜令和9年4月＞		修士（教育学）		現代の環境課題と政策 仏教とサステナビリティ		1① 1前	1 1	1 1	龍谷大学 政策学部教授 （平22.4）						
73	その他	教授	ﾌﾅﾀﾞ ｻﾄｼ 船田　智史 ＜令和10年4月＞		博士（理学）		情報と職業		2前	2	1	龍谷大学 政策学部教授 （令4.4）						
79	その他	教授	ﾏﾙﾔﾏ ｱﾂｼ 丸山　敦 ＜令和10年4月＞		博士（理学）		自然観察法※		2前	0.1	1	龍谷大学 先端理工学部教授 （平15.4）						
80	その他	教授	ﾐｳﾗ ﾚｲｲﾁ 三浦　励一 ＜令和9年10月＞		博士（農学）		植物の自然誌		1後	2	1	龍谷大学 農学部教授 （平27.4）						
81	その他	教授	ﾐｷ ﾀｹｼ 三木　健 ＜令和10年4月＞		博士（理学）		自然観察法※		2前	0.3	1	龍谷大学 先端理工学部教授 （平30.8）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
82	その他	教授	ﾐｼﾊﾞ ｹｲｲﾁﾛｳ 三柴　啓一郎 ＜令和10年4月＞		博士（農学）		農業を支える植物細胞の力		2前	2	1	龍谷大学 農学部教授 （令3.4）						
83	その他	教授	ﾔﾏｸﾞﾁ　ﾐﾁｺ 山口　美知子 ＜令和9年4月＞		修士（農学） 会計修士（専門職）		サステナビリティ概論※ ネイチャーポジティブ経営概論※		1前 1③	0.3 0.1	1 1	公益財団法人東近江三方よし基金 常務理事 兼 事務局長 （平29.6）						
84	その他	教授	ﾔﾏﾅｶ　ﾋﾛｷ 山中　裕樹 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		地域の環境を知る※ サステナビリティ概論※ 自然観察法※		1① 1前 2前	0.8 0.3 0.1	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平21.10）						
85	その他	教授	ﾔﾜﾀ ｺｳｲﾁ 八幡　耕一 ＜令和10年4月＞		博士（国際広報メディア）		現代社会とメディア		2前	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （平23.4）						
87	その他	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｴｲｼﾞ 渡辺　英児 ＜令和9年4月＞		博士（体育学）		スポーツ科学のすすめ スポーツ技術学Ａ スポーツ技術学Ｂ	 ○ ○	1前 1前 1後	2 1 1	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 （平15.4）						
92	その他	准教授	ｲﾜﾐ　ｱｻｺ 岩見　麻子 ＜令和9年10月＞		博士（環境科学）		ネイチャーポジティブ経営概論※		1③	0.1	1	熊本県立大学 総合管理学部 准教授 （令2.4）						
93	その他	准教授	ｳｴﾑﾗ ﾜﾀﾙ 植村　渉 ＜令和9年10月＞		博士（工学）		情報と人間		1後	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平17.11）						
95	その他	准教授	ｵｶｻﾞｷ ﾌﾐｺ 岡崎　史子 ＜令和9年4月＞		博士（家政学）		現代社会と栄養		1前	2	1	龍谷大学 農学部准教授 （平27.4）						
96	その他	准教授	ｶｽﾉ ﾒｸﾞﾐ 糟野 潤 ＜令和9年10月＞		博士（工学）		現代の技術※		1後	0.9	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平18.4）						
99	その他	准教授	ｷｼﾓﾄ　ｹｲｺ 岸本　圭子 ＜令和9年4月＞		博士（人間・環境学）		地域の環境を知る※ 自然観察法※		1① 2前	0.3 0.8	1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （令4.4）						
100	その他	准教授	ｺｼｶﾜ　ﾋﾛﾓﾄ 越川　博元 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		サステナビリティ概論※		1前	0.7	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平17.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
101	その他	准教授	ｺｺﾁﾞ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 古地　順一郎 ＜令和9年4月＞		Ph.D.（政治学・カナダ研究）（カナダ）		国際学のすすめ	○	1前	2	1	龍谷大学 国際学部 准教授 （令8.4）						
102	その他	准教授	ｻｲ ｼｭﾝｾｲ 崔　舜星 ＜令和9年4月＞		博士（情報科学）		データサイエンス・ＡＩ入門		1前	4	2	龍谷大学 心理学部 准教授 （令5.4）						
103	その他	准教授	ｻｶｲ ﾒｸﾞﾐ 堺　恵 ＜令和10年4月＞		博士（社会福祉学）		現代社会と福祉		2前	2	1	龍谷大学 文学部 准教授 （平29.4）						
105	その他	准教授	ｼﾗｲｼ　ﾁﾋﾛ 白石　智宙 ＜令和9年10月＞		博士（経済学）		ネイチャーポジティブ経営概論※		1③	0.1	1	龍谷大学 農学部 准教授 （令8.4）						
107	その他	准教授	ﾀｶｵｶ(ﾊｺﾀﾞ) ﾄﾓｺ 高岡（箱田）　智子 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		ドイツ語ＩＡ ドイツ語ⅡＡ ドイツ語セミナーＩＡ ドイツ語セミナーＩＢ		1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	龍谷大学 社会学部 准教授 （平19.4）						
108	その他	准教授	ﾀﾆ(ｱｻｵｶ) ｱﾔｺ 谷（朝岡）　綾子 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		英語セミナーG 英語セミナーD 英語総合３ 英語総合４	 ○ ○	1前 2前 2前 2後	4 4 1 1	2 2 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平26.4）						
113	その他	准教授	ﾅｶﾀ ﾕｳｺ 中田　裕子 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		アジアの歴史 歴史学のすすめ 中国語セミナーＩＡ 中国語セミナーＩＢ	○ ○	1前 1前 2前 2後	2 4 2 2	1 2 1 1	龍谷大学 農学部准教授 （平27.4）						
117	その他	准教授	ﾌﾅﾊｼ ｹﾝﾀ 舟橋　健太 ＜令和9年4月＞		博士（地域研究）		文化人類学のすすめ	○	1前	2	1	龍谷大学 社会学部 准教授 （平30.4）						
118	その他	准教授	ﾏﾅﾍﾞ ｸﾆﾋﾛ 眞鍋　邦大 ＜令和9年4月＞		博士（農学）		キャリア実習・実習指導		1前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （令4.4）						
119	その他	准教授	ﾖｺﾀ　ﾀｹﾄ 横田　岳人 ＜令和9年4月＞		博士（農学）		サステナビリティ概論※ 自然観察法※		1前 2前	0.4 0.5	1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 （平15.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
120	その他	准教授	ﾖｼﾑﾗ ﾏｻﾋﾛ 吉村　征洋 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ） 英語セミナーＢ	○ ○	1前 1後 2前	1 1 4	1 1 2	龍谷大学 農学部 准教授 （令4.4）						
121	その他	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛﾕｷ 渡邊　洋之 ＜令和9年4月＞		博士（農学）		経済学のすすめ	○	1前	4	2	龍谷大学 農学部 准教授 （平27.4）						
122	その他	講師	ｱｵﾔﾆ ﾐﾁﾖ 青谷　実知代 ＜令和9年4月＞		修士（経営学）		経営学のすすめ	○	1前	2	1	神戸松蔭大学 人間科学部 准教授 （平21.4）						
123	その他	講師	ｱｻｶ ﾄﾓｷ 朝香　知己 ＜令和10年4月＞		博士（神学）		ジェンダー論		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平29.4）						
126	その他	講師	ｲｸﾀ ｱﾂｼ 生田　敦司 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		日本の歴史	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
127	その他	講師	ｲｹｵ ﾔｽｼ 池尾　靖志 ＜令和10年4月＞		修士（国際関係学）		国際社会論		2前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平18.4）						
129	その他	講師	ｲｼｶﾜ ﾕｶ 石川　有香 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		英語総合３ 英語総合４	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	名古屋工業大学基礎類教授 （平17.4）						
131	その他	講師	ｲﾈﾅｶﾞ ﾕｳｽｹ 稲永　祐介 ＜令和10年4月＞		博士（政治学）（仏国）		社会思想史		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令5.4）						
132	その他	講師	ｲﾉｳｴ ﾋﾛﾌﾐ 井上　博文 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		仏教の思想Ａ 仏教の思想Ｂ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
133	その他	講師	ｲﾊﾞﾗｷﾞ ｼﾉ 伊原木　詩乃 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		宗教の世界 宗教学のすすめ	○ ○	1前 1前	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （令3.9）						
135	その他	講師	ｲﾜｻ ﾀｸﾐ 岩佐　匠 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		英語セミナーＡ		1前	8	4	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
136	その他	講師	ｲﾜｻｷ ﾀｸﾄ 岩崎　豪人 ＜令和9年4月＞		修士（文学）		クリティカル・シンキング	○	1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
137	その他	講師	ｲﾜｾ ﾏｻﾉﾘ 岩瀬　雅紀 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		健康とスポーツ		2前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平20.4）						
138	その他	講師	ｳｴﾊﾗ ｹﾝﾀﾛｳ 上原　健太郎 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		人権論Ａ 人権論Ｂ	○ ○	1前 1後	4 4	2 2	大阪国際大学 人間科学部 准教授 （平30.4）						
139	その他	講師	ｳﾁﾓﾄ ｶｽﾞﾈ 打本　和音 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		仏教の思想Ａ 仏教の思想Ｂ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	京都大学人文科学研究所日本学術振興会特別研究員PD （令5.4）						
142	その他	講師	ｳﾘｳ(ｴｶﾞﾜ) ｱﾂﾖ 瓜生（江川）　濃世 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		フランス語ＩＡ フランス語ＩＢ		1前 1前	2 2	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
144	その他	講師	ｴﾉﾓﾄ ﾏｻﾕｷ 榎本　雅之 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		スポーツ技術学Ａ スポーツ技術学Ｂ	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	滋賀大学 経済学部教授 （平24.4）						
145	その他	講師	ｵｳ(ﾜﾝﾀﾞ) ｱﾝｼﾝ 王（角田）　亜新 ＜令和9年4月＞		修士※（経済学）		中国語ＩＡ 中国語ⅡＡ		1前 1後	2 2	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平21.4）						
146	その他	講師	ｵｵﾂｶ(ｺﾝﾄﾞｳ) ﾎﾅﾐ 大塚（近藤）　穂波 ＜令和9年4月＞		博士（教育学）		心理学入門 学習・発達論Ａ 学習・発達論Ｂ	○	1前 2前 2後	4 2 2	2 1 1	大阪国際大学 短期大学部 講師 （令3.4）						
147	その他	講師	ｵｵﾉ ｱｷｴ 大野　暁惠 ＜令和9年4月＞		修士（文学）		英語セミナーＡ 英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	 ○ ○	1前 1前 1後	8 1 1	4 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令3.9）						
148	その他	講師	ｵｵﾏｴ ﾀｸ 大前　拓 ＜令和9年4月＞		修士（体育学）		スポーツ技術学Ａ スポーツ技術学Ｂ	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平26.4）						
150	その他	講師	ｵｸﾞﾗ ｹｲ 小倉　圭 ＜令和9年10月＞		博士（コーチング学）		現代社会とスポーツ		1後	4	2	滋賀大学 経済学部 准教授 （平29.4）						
151	その他	講師	ｵｻﾞﾜ ﾘｶ 小澤　理香 ＜令和10年4月＞		農学博士		生命と科学	○	2前	2	1	京都大学生態学研究センター 研究員 （平13.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
152	その他	講師	カキョウセキ 華　京碩 ＜令和9年4月＞		修士※（社会学）		中国語ＩＡ 中国語ＩＢ 中国語ⅡＡ 中国語ⅡＢ 中国語セミナーＩＡ 中国語セミナーＩＢ		1前 1前 1後 1後 2前 2後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平30.4）						
153	その他	講師	カキモト ヨシミ 柿本　佳美 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		西洋の文学Ａ 倫理学Ａ 西洋の文学Ｂ 倫理学Ｂ	○ ○ ○	1前 1前 1後 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平17.4）						
154	その他	講師	カトウ シンゴ 加藤　真悟 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		教化法※【隔年】		1通	0.7	1	龍谷大学 非常勤講師 （令3.4）						
156	その他	講師	カマクラ　マイ 鎌倉　真依 ＜令和10年4月＞		博士（理学）		自然観察法※		2前	0.1	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 （令5.4）						
157	その他	講師	カメダ エイイチロウ 亀田　英一郎 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		言語学入門	○	1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令6.4）						
158	その他	講師	カワダ ノブミチ 川田　伸道 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
159	その他	講師	カン シヨウアイ(カワハラ ユウリ) 韓　正愛（川原 悠里） ＜令和9年4月＞		博士（歴史学）（中国）		中国語ＩＢ 中国語ⅡＢ		1前 1後	2 2	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平19.4）						
162	その他	講師	キム ヒョンジュ キム　ヒョンジュ ＜令和9年4月＞		修士（政治学）		コリア語ＩＡ コリア語ＩＢ		1前 1前	2 2	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （令5.4）						
164	その他	講師	クロダ（マツオカ）マユミ 黒田（松岡）　真由美 ＜令和10年4月＞		修士（教育学）		心理学Ａ 心理学Ｂ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令5.4）						
165	その他	講師	コウ イエン 高　岩 ＜令和10年4月＞		修士※（文学）		英語総合３ 英語総合４	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平21.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
166	その他	講師	ｺｳﾂﾞｷ ﾉﾘｽｹ 神月　紀輔 ＜令和11年4月＞		修士（教育学）		教育の方法と技術（ＩＣＴ活用含む） 情報科教育法Ⅰ 情報科教育法Ⅱ		3前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	神戸親和大学教育学部特任教授（令8.4）						
168	その他	講師	ｺﾓﾘ ﾔｽｶ 小森　康加 ＜令和9年4月＞		博士（スポーツ医学）		教養教育科目特別講義		1前	2	1	京都光華女子大学健康科学部教授（平30.4）						
169	その他	講師	ｺﾝﾄﾞｳ(ﾉｶﾞﾜ) ﾐﾅ 近藤（能川）　未奈 ＜令和9年4月＞		修士（言語文化学）		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学非常勤講師（平26.4）						
171	その他	講師	ｻｲﾄｳ ﾄﾓｺ 齋藤　倫子 ＜令和9年4月＞		修士（言語科学）		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学非常勤講師（令3.9）						
172	その他	講師	ｻｶｲ ｶｽﾞｼｹﾞ 阪井　一繁 ＜令和9年4月＞		博士（情報学）		生活の中の統計技術	○	1前	2	1	龍谷大学先端理工学部講師（平8.4）						
173	その他	講師	ｻｶﾀ(ﾔｽﾀﾞ) ｺﾉﾐ 坂田（安田）　彩 ＜令和9年4月＞		修士※（言語文化）		スペイン語ＩＡ スペイン語ＩＢ スペイン語ⅡＡ スペイン語ⅡＢ スペイン語セミナーＩＡ スペイン語セミナーＩＢ		1前 1前 1後 1後 2前 2後	2 1 1 1 2 2	2 1 1 1 1 1	龍谷大学非常勤講師（平23.4）						
174	その他	講師	ｻｻｷ ｶｵﾘ 佐々木　香理 ＜令和9年4月＞		博士（言語学）		フランス語ＩＡ フランス語ＩＢ フランス語ⅡＡ フランス語ⅡＢ フランス語セミナーＩＡ フランス語セミナーＩＢ		1前 1前 1後 1後 2前 2後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学非常勤講師（平24.4）						
176	その他	講師	ｼﾊﾞﾀ ﾋﾛｼ 柴田　広志 ＜令和9年4月＞		博士（歴史学）		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学非常勤講師（令2.4）						
177	その他	講師	ｼﾊﾞﾊﾗ ﾂﾄﾑ 芝原　努 ＜令和10年4月＞		修士（工学）		情報倫理※		2前	0.5	1	一般財団法人関西情報センター社会ビジネス創出グループ部長（平7.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
178	その他	講師	シマムラ ケンジ 島村　健司 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		アカデミック・ライティング入門 日本の文学	 ○	1前 1前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
179	その他	講師	シモツマ カズヨリ 下間　一頼 ＜令和9年4月＞		修士（文学）		真宗史		1通	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
182	その他	講師	スミトモ　ツヨシ 住友　剛 ＜令和10年10月＞		修士（文学）		生徒・進路指導論		2後	2	1	京都精華大学 人文学部教授 （平13.9）						
183	その他	講師	セキノ(オオタニ) アヤコ 関野（大谷）　文子 ＜令和10年4月＞		博士（地域研究）		人類の科学		2前	2	1	立命館大学 衣笠総合研究機構 専門研究員 （令7.4）						
185	その他	講師	セノオ トモノリ 妹尾　知則 ＜令和10年4月＞		修士（法学）		現代社会と労働		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平29.4）						
186	その他	講師	ソン ゼヒ 孫　才喜 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		コリア語ＩＡ コリア語ＩＢ コリア語ⅡＡ コリア語ⅡＢ コリア語セミナーＩＡ コリア語セミナーＩＢ		1前 1前 1後 1後 2前 2後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平15.10）						
187	その他	講師	タカイ リュウ 高井　龍 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		アジアの文化		2前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （令6.4）						
188	その他	講師	タカタ ミメイ 高田　未明 ＜令和10年4月＞		修士（文学）		真宗学概論		2通	4	1	龍谷大学 非常勤講師 （平14.4）						
189	その他	講師	タキガワ クニヨシ 滝川　国芳 ＜令和10年4月＞		博士（医療福祉学）		特別支援教育概論		2前	2	1	京都女子大学 発達教育学部 教授 （平31.4）						
191	その他	講師	タケシタ シュウ 竹下　柊 ＜令和11年10月＞		修士（臨床心理学）		教育相談		3後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令3.9）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
192	その他	講師	ﾀｹﾑﾗ(ｶｲﾎｳ) ﾘﾖ 竹村（海寶）　理世 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		英語総合１（A） 英語総合１（B） 英語総合２（A） 英語総合２（B） 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 1前 1後 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平20.4）						
193	その他	講師	ﾀﾂﾀﾆ ｼﾞｮｳｼﾞｭﾝ 龍谷　乗淳 ＜令和9年4月＞		学士（文学）		宗門法規【隔年】		1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令6.4）						
194	その他	講師	ﾀﾅｶ ﾅｵ 田中　直 ＜令和9年4月＞		博士（国際関係学）		ドイツ語ＩA ドイツ語ＩB ドイツ語ⅡB		1前 1前 1後	1 2 1	1 2 1	龍谷大学 非常勤講師 （平31.4）						
195	その他	講師	ﾀﾆ ﾋﾃﾞﾄｼ 溪　英俊 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		仏教の思想A 仏教の思想B	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平21.4）						
196	その他	講師	ﾀﾞﾆｴﾙ ｵﾛｽﾞｺ ダニエル　オロズコ ＜令和9年4月＞		修士（英語教育）（米国）		英語総合１（A） 英語総合２（A） 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令4.4）						
198	その他	講師	ﾁｮｳ ﾏﾝｾｲ 張　曼青 ＜令和10年4月＞		博士（人間科学）		環境と社会		2前	2	1	京都大学 フィールド科学教育研究センター 特定助教 （令5.4）						
199	その他	講師	ﾃﾗﾓﾄ ｾｲｼ 寺本　聖史 ＜令和9年4月＞		短期大学士		勤式※【隔年】		1通	1.2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平30.4）						
201	その他	講師	ﾅｶｶﾞﾜ ｵｵｷ 中川　大城 ＜令和9年4月＞		修士（文学）		教化法※【隔年】		1通	0.9	1	龍谷大学 非常勤講師 （令3.4）						
202	その他	講師	ﾅｶﾞｻﾜ ｱﾂｼ 長澤　敦士 ＜令和10年10月＞		修士（人間・環境学）		学校教育社会学		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令6.9）						
203	その他	講師	ﾅｶｼﾞﾏ ﾂﾖｼ 中島　剛 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		英語総合１（A） 英語総合２（A）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平16.4）						
204	その他	講師	ﾅｶﾞﾏﾂ ﾏｻｷ 永松　昌樹 ＜令和10年4月＞		体育学修士※		スポーツ文化論		2前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （令3.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
205	その他	講師	ナカミチ マコト 中道　眞 ＜令和9年4月＞		博士（経済学）		経済学のすすめ 社会統計学のすすめ	○ ○	1前 1前	2 2	1 1	新潟薬科大学応用生命科学部教授（平31.4）						
206	その他	講師	ナカムラ チサコ 中村　秩祥子 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		英語総合１（A） 英語総合１（B） 英語総合２（A） 英語総合２（B） 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 1前 1後 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	龍谷大学非常勤講師（平15.4）						
208	その他	講師	ナミキ　シュウタロウ 並木　州太朗 ＜令和9年4月＞		博士（政策学）		サステナビリティ概論※ ネイチャーポジティブ経営概論※		1前 1③	0.1 0.1	1 1	龍谷大学政策学部講師（令7.9）						
209	その他	講師	ナラモト マサヒロ 楢本　昌広 ＜令和9年4月＞		学士（工学）		勤式※【隔年】		1通	1.2	1	浄土真宗本願寺派式務部課長（平12.4）						
210	その他	講師	ニシカワ タカシ 西川　隆 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		英語総合１（A） 英語総合２（A）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学非常勤講師（平15.4）						
212	その他	講師	ニシムラ マサヒロ 西村　昌洋 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		西洋の歴史	○	1前	2	1	龍谷大学非常勤講師（平22.4）						
213	その他	講師	ニシヤマ リョウケイ 西山　良慶 ＜令和9年10月＞		博士（文学）		AI時代の哲学 これからの社会と人権		1③ 1④	1 1	1 1	龍谷大学先端理工学部講師（令5.4）						
214	その他	講師	ノムラ ヤスユキ 野村　康之 ＜令和9年4月＞		博士（農学）		生活の中の生物学	○	1前	2	1	龍谷大学非常勤講師（令2.4）						
215	その他	講師	ハーズ゛ ゲーリー ハーズ　ゲーリー ＜令和9年4月＞		Juris Doctor（米国）		英語総合１（B） 英語総合２（B）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	GOH外国法事務弁護士事務所代表（平27.2）						
216	その他	講師	ハヤシ エリ 林　英理 ＜令和9年4月＞		M.A. in Linguistics（米国）		英語総合１（B） 英語総合２（B）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学非常勤講師（令6.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
217	その他	講師	ﾌｼﾞｲ ﾀｶｺ 藤井　香子 ＜令和9年4月＞		修士（文学）		英語総合１（A） 英語総合２（A） 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平26.4）						
218	その他	講師	ﾌｼﾞｲ ﾅﾂｺ 藤井　奈津子 ＜令和9年4月＞		修士（社会学） 修士※（教育学）		教育原論Ａ 教育原論Ｂ	○ ○	1前 1後	4 4	2 2	梅花女子大学 心理こども学部 教授 （平20.4）						
220	その他	講師	ﾎｿﾉﾒ ｹｲｽｹ 細目　圭佑 ＜令和9年4月＞		学士（理学）		思考法を学ぶⅠ 思考法を学ぶⅡ		1① 1②	1 1	1 1	日本GXグループ株式会社 共同代表 （令5.4）						
221	その他	講師	ﾎﾞﾆﾌｧｼｵ ﾆｰﾆｬﾏﾘｰ ボニファシオ ニーニャマリー ＜令和9年4月＞		M.A.TESOL（言語学）		英語総合１（A） 英語総合２（A） 英語セミナーＣ	○ ○	1前 1後 2前	1 1 4	1 1 2	龍谷大学 非常勤講師 （令5.4）						
222	その他	講師	ﾏﾂｵｶ ｹｲｺﾞ 松岡　恵悟 ＜令和10年4月＞		修士※（理学）		地域論		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平27.4）						
224	その他	講師	ﾏﾂﾓﾄ ｹｲｺ 松本　敬子 ＜令和9年4月＞		博士（言語文化学）		英語総合１（A） 英語総合２（A） 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平24.10）						
225	その他	講師	ﾏﾂﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 松本　賢次 ＜令和9年4月＞		修士（スポーツ科学）		スポーツ技術学Ａ スポーツ技術学Ｂ	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	一般社団法人 日本車いすテニス協会ナショナルヘッドコーチ（令6.4）						
227	その他	講師	ﾐｶﾐ ﾃｲｼﾞ 三上　禎次 ＜令和9年10月＞		博士（理学）		生活の中の地学	○	1後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平22.4）						
228	その他	講師	ﾐｽﾞｶﾞｷ ｹﾞﾝﾀﾛｳ 水垣　源太郎 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		政治学のすすめ	○	1前	2	1	奈良女子大学 研究院人文科学系 教授 （平8.10）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
230	その他	講師	ﾐﾁﾓﾄ ﾀﾞｲｾｲ 道元　大成 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		仏教学概論		2通	4	1	龍谷大学非常勤講師（平31.4）						
233	その他	講師	ﾐﾔｻﾞｷ ﾋﾛｼ 宮崎　寛 ＜令和10年4月＞		MScEcon in Postcolonial Politics（英国）		平和学Ａ		2前	4	2	龍谷大学非常勤講師（平24.10）						
234	その他	講師	ﾐﾔﾍﾞ ﾏｻﾌﾐ 宮部　雅文 ＜令和9年4月＞		学士（文学）		教化法※【隔年】		1通	0.4	1	誓覚寺住職（平31.4）						
235	その他	講師	ﾐﾖｼ ﾐﾎｺ 三好　未穂子 ＜令和9年4月＞		修士※（英文学）		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学非常勤講師（平20.4）						
237	その他	講師	ﾑﾗｲ ﾐﾉﾙ 村井　実 ＜令和9年4月＞		博士（理学）		生活の中の数学 情報理論 離散数学	○	1前 2後 2後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学非常勤講師（平15.4）						
239	その他	講師	ﾒｰﾗﾝ ｼﾞｬﾝｾﾊﾞｽﾁｬﾝ メーラン　ジャン　セバスチャン ＜令和9年4月＞		博士（芸術）		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	龍谷大学非常勤講師（平30.4）						
240	その他	講師	ﾓﾓｿﾞﾉ **ﾋﾛﾅﾘ** 桃園　裕成 ＜令和9年4月＞		学士（仏教）		勤式※【隔年】		1通	1.6	1	浄土真宗本願寺派宗務所職員（平2.12）						
241	その他	講師	ﾔｽﾑﾗ ｹｲｺ 安村　恵子 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ） 英語総合３ 英語総合４	○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学非常勤講師（平15.10）						
242	その他	講師	ﾔﾋﾛ ｶﾂﾛｳ 八尋　克郎 ＜令和10年4月＞		博士（農学）		環境の科学		2前	2	1	龍谷大学非常勤講師（令5.4）						
245	その他	講師	ﾔﾏﾓﾄ ｹｲﾀ 山元　圭太 ＜令和10年4月＞		学士（商学）		コミュニティオーガナイジング入門 コミュニティオーガナイジング実践		2② 2前	1 1	1 1	合同会社喜代七 代表（平30.3）						
246	その他	講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾃﾂｼﾞ 山本　哲司 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		社会学のすすめ 社会調査のすすめ 現代社会の諸問題	○ ○	1前 1前 2前	2 2 2	1 1 1	龍谷大学非常勤講師（平4.4）						
247	その他	講師	ﾔﾝ ﾔﾝｲﾙ 梁　陽日（醸一） ＜令和9年4月＞		博士（学術）		人権論Ａ 人権論Ｂ	○ ○	1前 1後	4 4	2 2	龍谷大学非常勤講師（平28.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

びわ湖大津キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは瀬田キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
248	その他	講師	ﾕｷｼｹﾞ ﾀﾀﾞﾀｶ 幸重　忠孝 ＜令和10年4月＞		修士（社会福祉学）		現代社会と福祉		2前	2	1	NPO法人こどもソーシャルワークセンター 理事長 （平30.3）						
251	その他	講師	ﾘｭｳ ﾊﾞｲﾚｲ 劉　梅玲 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		中国語ＩＡ 中国語ⅡＡ		1前 1後	2 2	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平23.4）						
252	その他	講師	ﾜｹ ｼｭｳｺﾞｳ 和氣　秀剛 ＜令和9年4月＞		修士（文学）		教化法※【隔年】		1通	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令2.4）						
253	その他	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｶﾂｷ 渡邉　華月 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		哲学入門 倫理学入門	○ ○	1前 1前	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

京都深草キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
6	基（主専）	教授（学部長）	ﾌｼﾞﾀ ｶｽﾞﾋﾛ 藤田　和弘 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		キャリア入門※ データサイエンス・ＡＩ入門		1前 1前	0.3 2	2 1	龍谷大学 先端理工学部教授 （平16.4）	○		○	学科会議	5日	
19	その他	教授	ｱｶﾂ ﾂﾈﾕｷ 吾勝　常行 ＜令和10年10月＞		修士※（文学）		仏教と心理学※		2後	1.1	1	龍谷大学 心理学部教授 （平21.4）						
20	その他	教授	ｱﾝ ｼﾞｭﾖﾝ 安　周永 ＜令和10年10月＞		博士（法学）		比較社会政策		2後	2	1	龍谷大学 政策学部教授 （平30.4）						
23	その他	教授	ｲﾉｾ ﾕﾘ 猪瀬　優理 ＜令和10年10月＞		博士（行動科学）		宗教社会学		2後	2	1	龍谷大学 社会学部教授 （平23.4）						
24	その他	教授	ｲﾏｲ ｱﾂｼ 今井　敦 ＜令和9年10月＞		Doctor der Philosophie（ｵｰｽﾄﾘｱ）		西洋の文学Ｂ 現代社会の諸問題※	○	1後 2前	2 0.1	1 1	龍谷大学 経済学部教授 （平23.4）						
25	その他	教授	ｳｴﾔﾏ(ﾅﾍﾞｼﾏ) ﾐｶ 上山（鍋島）　美香 ＜令和9年4月＞		博士（経済学）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 経済学部教授 （平24.4）						
26	その他	教授	ｳﾁﾓﾄ ｺｳﾕｳ 打本　弘祐 ＜令和9年4月＞		博士（社会学）		ボランティア・ＮＰＯ入門※		1前	0.1	1	龍谷大学 農学部教授 （平27.4）						
27	その他	教授	ｵｵｲｼ ﾅｵｺ 大石　尚子 ＜令和9年4月＞		博士（ソーシャル・イノベーション）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 政策学部教授 （平27.4）						
29	その他	教授	ｵｶﾀﾞ ﾉﾘﾕｷ 岡田　典之 ＜令和10年4月＞		修士※（文学）		英語セミナーＤ		2前	4	2	龍谷大学 文学部教授 （平21.4）						
31	その他	教授	ｵｸﾉ ﾂﾈﾋｻ 奥野　恒久 ＜令和10年4月＞		修士（法学）		現代社会の諸問題※		2前	2	1	龍谷大学 政策学部教授 （平23.4）						
33	その他	教授	ｶﾜｼﾏ ﾉﾌﾞﾋﾛ 川島　伸博 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		西洋の文学Ａ 西洋の文学Ｂ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 法学部教授 （平24.4）						
36	その他	教授	ｸﾛﾂｶ ｹﾝﾀﾛｳ 鍬塚　賢太郎 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		教養教育ゼミナール（社会科学）		2前	2	1	龍谷大学 経営学部教授 （平23.4）						
37	その他	教授	ｺﾏｻ ﾋﾛﾉﾘ 小正　浩徳 ＜令和9年4月＞		修士（教育学）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 心理学部教授 （平24.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

京都深草キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
39	その他	教授	ｻｲﾄｳ ﾌﾐﾋｺ 斎藤 文彦 ＜令和10年4月＞		博士（経済学）		グローバリゼーションとアフリカ 国際開発協力論		2前 2前	2 2	1 1	龍谷大学 国際学部教授 （平8.4）						
40	その他	教授	ｻｸﾗｲ ｼﾞﾛｳ 櫻井 次郎 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		現代社会の諸問題※		2前	0.1	1	龍谷大学 政策学部教授 （令4.4）						
42	その他	教授	ｻｻｷ ﾀﾞｲｺﾞ 佐々木 大悟 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		歎異抄の思想Ⅰ 歎異抄の思想Ⅱ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 文学部教授 （平26.4）						
44	その他	教授	ｼﾏｻﾞｷ ﾖｳｲﾁ 嶋崎 陽一 ＜令和9年4月＞		文学修士 D.E.A （仏国）		西洋の文学Ａ	○	1前	2	1	龍谷大学 社会学部教授 （平13.4）						
45	その他	教授	ｼﾐｽﾞ ｺｳｽｹ 清水 耕介 ＜令和10年4月＞		Ph.D. （国際関係学） （NZ）		政治思想概論		2前	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （平17.4）						
46	その他	教授	ｼﾐｽﾞ ﾏﾕｺ 清水 万由子 ＜令和10年4月＞		博士（地球環境学）		地域課題発見演習		2前	4	1	龍谷大学 政策学部教授 （平24.4）						
47	その他	教授	ｽｻｷ ｶｽﾐ 壽崎 かすみ ＜令和10年4月＞		博士（工学）		都市計画入門		2前	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （平14.4）						
48	その他	教授	ｽｽﾞｷ ｼｹﾞﾙ 鈴木 滋 ＜令和10年4月＞		博士（理学）		自然人類学入門		2前	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （平16.4）						
49	その他	教授	ｾｲｹ ﾘｭｳｽｹ 清家 竜介 ＜令和11年4月＞		博士（学術）		アートと社会 市民社会の歴史と現在 社会学の歴史と理論		3前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 社会学部教授 （平26.4）						
50	その他	教授	ﾀｶﾊﾀ ｼｹﾞｶﾂ 高畑 重勝 ＜令和10年10月＞		修士（法学）		公務員論		2後	2	1	龍谷大学 政策学部教授 （令5.4）						
51	その他	教授	ﾀｷｸﾞﾁ ｼﾞｭﾝﾔ 瀧口 順也 ＜令和10年10月＞		Ph.D. （History） （英国）		グローバリゼーションとヨーロッパ グローバル・ヒストリー		2後 2後	2 2	1 1	龍谷大学 国際学部教授 （平24.4）						
52	その他	教授	ﾀｷﾓﾄ ﾏｻﾄ 瀧本 眞人 ＜令和10年4月＞		Ph.D. （通訳・翻訳研究） （豪州）		異文化間コミュニケーション論		2前	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （平25.4）						
53	その他	教授	ﾀｹｲ ﾋﾛｼ 武井 寛 ＜令和9年4月＞		修士（法学）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 法学部教授 （令元.9）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

京都深草キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
54	その他	教授	ﾀｹｳﾁ ﾏｻﾋｺ 竹内　真彦 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		アジアの文化		2前	2	1	龍谷大学 経済学部教授 （平13.4）						
55	その他	教授	ﾀﾀﾞ ﾄﾓ ｹｲｼ 只友　景士 ＜令和9年4月＞		修士（経済学）		社会課題発見演習 財政学 グローバル・シチズンシップD（人間の安全保障）		1前 2前 2後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 政策学部教授 （平23.4）						
57	その他	教授	ﾁｬﾌﾞﾙ ｼﾞｭﾘｱﾝ ﾁｬﾌﾞﾙ　ｼﾞｭﾘｱﾝ ＜令和10年4月＞		Ph.D.（国際関係学）（NZ）		Introduction to Sociolinguistics		2前	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （平17.4）						
58	その他	教授	ﾃｼﾏ ﾋﾃﾞｷ 手嶋　英貴 ＜令和9年4月＞		Doktor Der Philosophie（ﾄﾞｲﾂ）		アジアの文学Ａ アジアの文学Ｂ	○ ○	1前 1前	4 4	2 2	龍谷大学 法学部教授 （令3.4）						
64	その他	教授	ﾅｼﾞﾏ ｶｽﾞﾋｻ 南島　和久 ＜令和10年10月＞		博士（政治学）		グローバル・シチズンシップＢ（民主主義）		2後	2	1	龍谷大学 政策学部教授 （令3.9）						
65	その他	教授	ﾆｼｵｶ ﾋｻﾐﾂ 西岡　久充 ＜令和11年4月＞		博士（工学）		経営科学		3前	2	1	龍谷大学 経営学部教授 （平25.4）						
66	その他	教授	ﾉｳﾐ ｼﾞｭﾝｼ 能美　潤史 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		歎異抄の思想Ⅰ 歎異抄の思想Ⅱ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 法学部教授 （平26.4）						
67	その他	教授	ﾉﾛ ｾｲ 野呂　靖 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		キャリア入門※ ボランティア・ＮＰＯ入門※ 仏教と心理学※		1前 1前 2後	0.3 0.7 0.9	2 1 1	龍谷大学 心理学部教授 （平23.4）						
68	その他	教授	ﾊｾｶﾞﾜ ﾀｹｼ 長谷川　岳史 ＜令和10年4月＞		修士※（文学）		アジアの文化		2前	2	1	龍谷大学 経営学部教授 （平13.4）						
69	その他	教授	ﾋﾗﾂｶ ﾀｶｱｷ 平塚　貴晶 ＜令和10年10月＞		Ph.D.（応用言語学）（NZ）		言語習得論		2後	2	1	龍谷大学 国際学部教授 （令2.4）						
70	その他	教授	ﾌｶｵ ﾏｻﾀｶ 深尾　昌峰 ＜令和9年4月＞		修士（教育学）		ボランティア・ＮＰＯ入門※ 仏教ＳＤＧｓ概論 テクノロジーと事業創出		1前 1後 2後	0.1 2 2	1 1 1	龍谷大学 政策学部教授 （平22.4）						
71	その他	教授	ﾌｸﾔﾏ(ｽｽﾞｷ) ﾔｽｺ 福山（鈴木）　泰子 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		宗教文化学入門 南アジアの言語 文化遺産学		2前 2前 2後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 国際学部教授 （平24.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

京都深草キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
72	その他	教授	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾅｵﾋﾄ 藤原　直仁 ＜令和10年10月＞		博士（医学）		脳と心		2後	2	1	龍谷大学 心理学部教授 （平10.4）						
74	その他	教授	ﾎｿｶﾜ ﾀｶｼ 細川　孝 ＜令和10年4月＞		修士（経営学）		現代社会の諸問題※ ワークルール入門		2前 2後	0.1 2	1 1	龍谷大学 経営学部教授 （平12.4）						
75	その他	教授	ﾎﾜｲﾄ ｼｮｰﾝ･ｱﾗﾝ ホワイト　ショーン・アラン ＜令和11年4月＞		Ph.D. in Education（米国）		Ｆｏｒｕｍ Global Understanding in English		3前 3前	2 4	1 1	龍谷大学 経営学部教授 （平22.4）						
76	その他	教授	ﾏﾂｼﾏ ﾔｽｶﾂ 松島　泰勝 ＜令和10年4月＞		博士（経済学）		現代社会の諸問題※ 経済英語Ⅲ		2前 2後	0.4 2	1 1	龍谷大学 経済学部教授 （平20.4）						
77	その他	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ ｹｲｺ 松永　敬子 ＜令和9年4月＞		修士（体育学）		ボランティア・ＮＰＯ入門※		1前	0.1	1	龍谷大学 経営学部教授 （平20.4）						
78	その他	教授	ﾏﾂﾑﾗ ｼｮｳｲﾁ 松村　省一 ＜令和10年4月＞		Ph.D.（言語教育学）（カナダ）		会話分析入門Ａ 会話分析入門Ｂ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 国際学部教授 （平15.9）						
85	その他	教授	ﾔﾜﾀ ｺｳｲﾁ 八幡　耕一 ＜令和9年4月＞		博士（国際広報メディア）		Advanced Global PBL （RISE） Applied Cultural Adaptation （RISE） Cultural Adaptation （RISE） English language （RISE） Global PBL （RISE） Inclusive Communication Social Civic Engagement （RISE） ボランティア・ＮＰＯ入門※ みんなで学ぶ国際ビジネス事情 みんなのコミュニケーションＡ みんなのコミュニケーションＢ 海外英語研修 現代社会の諸問題※		1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1後 2前	4 2 2 12 2 2 2 0.1 2 2 2 2 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 国際学部教授 （平23.4）						
86	その他	教授	ﾖｼﾓﾄ ｹｲｽｹ 吉本　圭佑 ＜令和9年4月＞		Ph.D.（英国）		英語セミナーＧ		1前	4	2	龍谷大学 政策学部教授 （平28.4）						
88	その他	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾒｸﾞﾐ 渡辺　めぐみ ＜令和9年4月＞		博士（社会科学）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 社会学部教授 （平22.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

京都深草キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
89	その他	准教授	ｱｷﾊﾞ ﾌﾄｼ 秋庭　太 ＜令和9年4月＞		博士（経営学）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 経営学部 准教授 （平22.4）						
90	その他	准教授	ｲｼﾊﾗ ﾘｮｳｶﾞ 石原　凌河 ＜令和9年4月＞		博士（工学）		ボランティア・ＮＰＯ入門※ 地域レジリエンス論		1前 2前	0.1 2	1 1	龍谷大学 政策学部 准教授 （平28.4）						
91	その他	准教授	ｲﾉｳｴ(ｳﾗﾍﾞ) ﾖｼｴ 井上（卜部）　芳恵 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		ボランティア・ＮＰＯ入門※ グローバル・シチズンシップＡ（公共性・コミュニティ）		1前 2後	0.1 2	1 1	龍谷大学 政策学部 准教授 （平23.4）						
94	その他	准教授	ｳﾁﾀﾞ ｼﾞｭﾝｼﾝ 内田　准心 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		仏教の世界		2前	2	1	龍谷大学 文学部 准教授 （令4.4）						
97	その他	准教授	ｶｽﾞﾐ ｺｳｽｹ 数実　浩佑 ＜令和10年4月＞		博士（人間科学）		子ども社会学		2前	2	1	龍谷大学 社会学部 准教授 （令7.4）						
98	その他	准教授	ｶﾜｲ ｻｵﾘ 河合　沙織 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		キャリア入門※ グローバリゼーションとラテンアメリカ		1前 2前	0.3 2	2 1	龍谷大学 国際学部 准教授 （平27.4）						
102	その他	准教授	ｻｲ ｼｭﾝｾｲ 崔　舜星 ＜令和9年4月＞		博士（情報科学）		データサイエンス・ＡＩ入門 データサイエンス基礎 ＡＩ基礎		1前 2前 2後	8 2 2	4 1 1	龍谷大学 心理学部 准教授 （令5.4）						
104	その他	准教授	ｻﾜﾆｼ ﾕｳｽｹ 澤西　祐典 ＜令和10年4月＞		博士（人間・環境学）		世界文学入門		2前	2	1	龍谷大学 国際学部 准教授 （平31.4）						
106	その他	准教授	ｽｽﾞｷ ﾐｵ 鈴木　美央 ＜令和10年4月＞		博士（工学）		消費者問題論		2前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 （令7.4）						
107	その他	准教授	ﾀｶｵｶ(ﾊｺﾀﾞ) ﾄﾓｺ 高岡（箱田）　智子 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		音楽社会学 カルチュラルスタディーズ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 社会学部 准教授 （平19.4）						
109	その他	准教授	ﾀﾆｶﾞｷ ﾀｹﾄ 谷垣　岳人 ＜令和9年4月＞		工学修士		ボランティア・ＮＰＯ入門※ 自然保護論		1前 3後	0.1 2	1 1	龍谷大学 政策学部 准教授 （平18.4）						
110	その他	准教授	ﾀﾝﾉ ｹﾝｲﾁ 丹野　研一 ＜令和9年4月＞		博士（農学）		里山学		1前	2	1	龍谷大学 文学部 准教授 （平30.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

京都深草キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
111	その他	准教授	ﾂﾏｷ ｼﾝｺﾞ 妻木　進吾 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		現代社会の諸問題※ 社会課題解決演習 社会データ分析		2前 2前 2後	0.3 2 2	1 1 1	龍谷大学 経営学部 准教授 （平25.4）						
112	その他	准教授	ﾅｶｶﾞﾜ（ﾜﾀﾅﾍﾞ） ﾁｸﾞｻ 中川（渡邉）　千草 ＜令和9年4月＞		博士（社会学）		キャリア入門※		1前	0.3	2	龍谷大学 農学部 准教授 （平27.4）						
113	その他	准教授	ﾅｶﾀ ﾕｳｺ 中田　裕子 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		歴史学のすすめ 現代社会の諸問題※ 社会課題解決演習	○	1前 2前 2前	4 0.9 2	2 1 1	龍谷大学 農学部 准教授 （平27.4）						
114	その他	准教授	ﾅｶﾈ ｻﾄｺ 中根　智子 ＜令和9年4月＞		博士（国際関係学）		ボランティア・ＮＰＯ入門※ グローバリゼーションと南アジア Introduction to Cultural Anthropology		1前 2前 2後	0.1 2 2	1 1 1	龍谷大学 国際学部 准教授 （平23.9）						
115	その他	准教授	ﾊﾔｼ ﾉﾘﾋﾄ 林　則仁 ＜令和10年10月＞		博士（国際文化学）		文化交流論		2後	2	1	龍谷大学 国際学部 准教授 （平26.4）						
116	その他	准教授	ﾌｼﾞｶﾜ ﾀｹｼ 藤川　健 ＜令和10年4月＞		博士（商学）		地域産業活性化プロジェクトⅠ（京の老舗と不易流行） 地域産業活性化プロジェクトⅡ（京の老舗と不易流行）		2前 2後	4 2	1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 （令7.4）						
117	その他	准教授	ﾌﾅﾊｼ ｹﾝﾀ 舟橋　健太 ＜令和10年10月＞		博士（地域研究）		差別と排除の社会学		2後	2	1	龍谷大学 社会学部 准教授 （平30.4）						
118	その他	准教授	ﾏﾅﾍﾞ ｸﾆﾋﾛ 眞鍋　邦大 ＜令和9年4月＞		博士（農学）		キャリア入門※ ボランティア・ＮＰＯ入門※ キャリア・ディスカバリー		1前 1前 2後	1.3 0.1 2	2 1 1	龍谷大学 経営学部 准教授 （令4.4）						
120	その他	准教授	ﾖｼﾑﾗ ﾏｻﾋﾛ 吉村　征洋 ＜令和9年10月＞		博士（文学）		海外英語研修		1後	2	1	龍谷大学 農学部 准教授 （令4.4）						
124	その他	講師	ｱﾘｲ ﾔｽﾋﾄ 有井　安仁 ＜令和10年10月＞		専門学校卒		協創イノベーションラボ（ＰＢＬ型企業連携）		2後	2	1	ソラトチ株式会社代表取締役 （令元.9）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

京都深草キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
125	その他	講師	ｱﾘﾏ ﾖｼﾀｶ 有馬　義貴 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		古典文学講読（Ａ）Ａ 古典文学講読（Ａ）Ｂ		2前 2後	2 2	1 1	奈良教育大学 国語教育講座 准教授 （平26.4）						
128	その他	講師	ｲｹﾀﾞ ﾏﾘｱ イケダ　マリア ＜令和9年4月＞		博士（経済学）		英語で学ぶ日本の社会Ｂ		1前	2	1	京都産業大学 経済学部 教授 （平28.4）						
130	その他	講師	ｲﾅｲ ﾏｺﾄ 稲井　誠 ＜令和9年10月＞		博士（経済学）		経済英語Ⅰ		1後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
134	その他	講師	ｲﾏｴﾀﾞ ｷｮｳｺ 今枝　杏子 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		情報出版学講読（Ｂ）Ａ		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令6.4）						
140	その他	講師	ｳﾁﾔﾏ ﾄﾓﾐ 内山　知美 ＜令和9年4月＞		修士（英語学）		英語セミナーＡ		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （令4.4）						
141	その他	講師	ｳﾒﾀﾞ ﾀｸﾔ 梅田　拓也 ＜令和10年10月＞		博士（情報社会学）		情報社会論		2後	2	1	龍谷大学 社会学部 講師 （令8.4）						
143	その他	講師	ｴﾅﾐ(ﾖｼｶﾜ) ﾕｶﾘ 榎並（吉川）　ゆかり ＜令和9年4月＞		修士（経済学）		社会課題発見演習		1前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令6.4）						
149	その他	講師	ｵｷﾞﾜﾗ ﾋﾛｼ 荻原　廣 ＜令和10年10月＞		修士（文学）		日本語教育入門		2後	2	1	佛教大学 文学部教授 （平30.4）						
155	その他	講師	ｶﾈｺ ﾕｳｲﾁﾛｳ 金子　裕一郎 ＜令和9年10月＞		修士（経済学）		経済社会論入門		1後	2	1	龍谷大学 経済学部 講師 （平19.4）						
160	その他	講師	ｷｸｶﾜ(ﾀﾅｶ) ﾏｻｺ 菊川（田中）　雅子 ＜令和9年4月＞		修士（アメリカ研究）		英語セミナーＡ		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平31.4）						
161	その他	講師	ｷﾑ ｳﾞｨｸﾄﾘﾔ キム　ヴィクトリヤ ＜令和9年4月＞		博士（人間科学）		英語で学ぶ日本の社会Ａ		1前	2	1	立命館大学 国際関係学部 准教授 （令4.4）						
163	その他	講師	ｸﾛﾀﾞ ｲｯﾍﾟｲ 黒田　一平 ＜令和9年4月＞		博士（人間・環境学）		英語セミナーＡ		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平29.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

京都深草キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
167	その他	講師	ｺﾞｰﾏﾝ ｼﾞｮﾝ ゴーマン　ジョン ＜令和10年4月＞		MA Film Studies (アイルランド)		留学英語Ⅱ 留学英語Ⅳ		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平16.4）						
170	その他	講師	ｻﾞｰﾙ ﾌﾗﾝｸ ザール　フランク ＜令和10年10月＞		Master of Education（米国）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ		2後 3前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （令5.9）						
175	その他	講師	ｼﾉﾊﾗ ﾖｼｴ 篠原　美江 ＜令和11年4月＞		博士（国際関係学）		国際ビジネス論		3前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （令4.9）						
178	その他	講師	ｼﾏﾑﾗ ｹﾝｼﾞ 島村　健司 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		アカデミック・ライティング入門 近代文学講読（Ｃ）Ａ 近代文学講読（Ｃ）Ｂ		1前 2前 2後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平15.4）						
180	その他	講師	ｼｬｷｬ ｽﾀﾞﾝ シャキャ　スダン ＜令和10年4月＞		博士（文学）		チベット語仏典入門Ａ１ チベット語仏典入門Ａ２		2前 2後	2 2	1 1	種智院大学 人文学部教授 （平23.4）						
181	その他	講師	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｱｷ 杉山　善明 ＜令和10年4月＞		修士※（工学）		デジタルメディア論		2前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平16.4）						
184	その他	講師	ｾﾅ ﾓﾚﾉ ﾚｲｻ ｸﾘｽﾃｨﾅ セナ　モレノ　レイサ　クリスティナ ＜令和10年4月＞		博士（経済学）		経済英語Ⅱ		2前	2	1	龍谷大学 経済学部 講師 （令6.4）						
190	その他	講師	ﾀｹｳﾁ ﾄﾓｱｷ 竹内　友章 ＜令和10年10月＞		修士（人間福祉学）		社会参画技法		2後	2	1	龍谷大学 社会学部 講師 （令8.4）						
197	その他	講師	ﾁｪ ｿﾖﾝ 崔　瑞瑩 ＜令和10年4月＞		Ph.D. (Political Science) (韓国)		国際関係入門 グローバリゼーションと東アジア		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学 国際学部 講師 （令8.4）						
200	その他	講師	ﾄﾞﾗｸﾞﾅ ﾗﾙｶ ﾏﾘｱ ドラグナ　ラルカ　マリア ＜令和10年4月＞		修士※（人間科学）		留学英語Ⅰ 留学英語Ⅲ		2前 2後	4 4	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平25.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

京都深草キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
207	その他	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾖｼｵ 中村　善雄 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		西洋の文学C 西洋の文学D		2前 2後	2 2	1 1	京都女子大学文学部教授（平31.4）						
208	その他	講師	ﾅﾐｷ　ｼｭｳﾀﾛｳ 並木　州太朗 ＜令和9年10月＞		博士（政策学）		アントレプレナーシップ入門		1後	2	1	龍谷大学政策学部講師（令7.9）						
211	その他	講師	ﾆｼﾀﾆ ｲｻｵ 西谷　功 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		仏教美術（イコノロジー）入門A 仏教美術（イコノロジー）入門B		2前 2後	2 2	1 1	国際日本文化研究センター（令8.4）						
219	その他	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾄｵﾙ 藤田　透 ＜令和9年4月＞		修士（英語学）		英語セミナーA		1前	4	2	龍谷大学非常勤講師（令5.4）						
223	その他	講師	ﾏﾂｼﾏ ﾀｸﾐ 松島　拓 ＜令和10年10月＞		学士（理学）		ソーシャルインパクト概論		2後	2	1	特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会マネージング・ディレクター（令3.3）						
226	その他	講師	ﾏﾅｺ ｱｷﾏｻ 真名子　晃征 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		真宗教団史		2前	4	1	龍谷大学非常勤講師（平28.4）						
229	その他	講師	ﾐｿﾞｳﾁ ｹｲｽｹ 溝内　啓介 ＜令和10年4月＞		学士（農業）		消費者問題論		2前	2	1	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都・京都消団連（令元.7）						
231	その他	講師	ﾐﾌﾞ ﾔｽﾉﾘ 壬生　泰紀 ＜令和10年4月＞		博士（文学）		サンスクリット語仏典入門A１ サンスクリット語仏典入門A２		2前 2後	2 2	1 1	龍谷大学政策学部講師（令7.4）						
232	その他	講師	ﾐﾔｹ ﾋﾛｷ 三宅　裕樹 ＜令和10年10月＞		博士（経済学）		地方財政論		2後	2	1	京都府立大学公共政策学部准教授（平30.10）						
236	その他	講師	ﾑﾗｲ ﾀｸﾔ 村井　琢哉 ＜令和12年4月＞		修士（人間福祉学）		社会起業演習A 社会起業演習B		4前 4後	2 2	1 1	金城学院大学人間科学部講師（令7.4）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

京都深草キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは深草キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
238	その他	講師	ﾑﾗﾀ ﾄﾓﾐ 村田　智美 ＜令和9年4月＞		修士（社会学）		ボランティア・ＮＰＯ入門※		1前	0.1	1	龍谷大学 社会学部 講師 （平21.4）						
243	その他	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾀｹｼ 山口　威 ＜令和9年4月＞		修士（文学） 修士※（人間・環境学）		西洋の文学Ａ 西洋の文学Ｂ	○ ○	1前 1後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 （平18.10）						
244	その他	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾊﾙｵ 山口　治男 ＜令和10年10月＞		修士※（国際学）		グローバル・ガバナンス論		2後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 （平22.10）						
249	その他	講師	ﾖｳ ﾄｳ 楊　涛 ＜令和9年4月＞		英語教育学修士※		英語セミナーＡ		1前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 （平14.4）						
250	その他	講師	ﾖｼｼﾞﾏ ｼｮｳｲﾁ 芳島　昭一 ＜令和10年10月＞		修士（国際学）		グローバル・シチズンシップＣ（平和構築）		2後	2	1	特定非営利活動法人国連UNHCR協会職員 （平29.2）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

京都大宮キャンパス

（情報学部 情報学科）

※2027年度からキャンパス名称を変更。2026年度までは大宮キャンパス

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間講義数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
56	その他	教授	ﾀﾏｷ ｺｳｼﾞ 玉木　興慈 ＜令和9年4月＞		修士※（文学）		（本山教師）宗教概説		1前	1	1	龍谷大学 文学部教授 （平14.4）						
67	その他	教授	ﾉﾛ ｾｲ 野呂　靖 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		（本山教師）仏教史※		1前	0.4	1	龍谷大学 心理学部教授 （平23.4）						
94	その他	准教授	ｳﾁﾀﾞ ｼﾞｭﾝｼﾝ 内田　准心 ＜令和9年4月＞		博士（文学）		（本山教師）仏教史※		1前	0.6	1	龍谷大学 文学部 准教授 （平30.4）						

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士				4人		3人		7人	
	修　士									
	学　士				1人				1人	
	短 期 大 学 士									
	そ の 他									
准 教 授	博　士			1人	2人		1人		4人	
	修　士									
	学　士									
	短 期 大 学 士									
	そ の 他									
講　師	博　士		2人	2人		1人			5人	
	修　士									
	学　士									
	短 期 大 学 士									
	そ の 他									
助　教	博　士				1人				1人	
	修　士									
	学　士									
	短 期 大 学 士									
	そ の 他									
合　計	博　士		2人	3人	7人	1人	4人		17人	
	修　士									
	学　士				1人				1人	
	短 期 大 学 士									
	そ の 他									

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，基幹教員についてのみ作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　「基幹教員の年齢構成・学位保有状況」欄の「基幹教員」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合，「専任教員」と読み替えること。
5　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。